主筆　室伏高信
編・解題　飯田泰三

復刻版　批評

第2巻

龍溪書舎

本巻収録史料

批評

第一一号（大正九年一月一日）
第一二号（〃　二月一日）
第一三号（〃　三月一日）
第一四号（〃　四月一日）
第一五号（〃　五月一日）
第一六号（〃　六月一日）
第一七号（〃　七月一日）
第一八号（〃　八月一日）
第一九号（〃　九月一日）
第二〇号（〃　十月一日）
第二一号（〃　十一月一日）
第二二号（〃　十二月一日）

批評

大正八年三月二十八日第三種郵便物認可
大正九年一月一日印刷納本　大正九年一月一日發行

（本號金廿錢）

一月號（第十一號）

ナショナル・ギルツ

非軍國主義論

ウエッヴよりコールへ

普通選擧史論

批評社

賀川豊彦著

精神運動と社會運動

■第四版■

菊判七百十九頁
定價金參圓
送料十八錢

貧民心理の研究

■第四版■

菊判七百頁
定價貳圓五拾錢
送料十二錢

基督傳論爭史

■再版■

菊判三百五十頁
定價壹圓五拾錢
送料十二錢

東京京橋尾張町
振替東京五五參

警醒社書店

賀川豊彦新著

三六判赤羽二重表紙天金箱入
著者筆挿繪三葉著者寫眞壹葉

□定價壹圓六拾錢□
□送料——金八錢□

與謝野晶子序

涙がどうして二等分出來るか、世の終がどうなるか、自ら火葬場に葬つた時の感じを貧民窟で歌つたものであります。

晶子女史曰く「私は賀川さんが貧民詩人、勞働詩人であると共に戀愛詩人であり、それが悉く作者自身の體驗に基いて居ることを有難く思ひます。若し我國にも人生派または人道主義の詩があるかと言ふなら、私は第一にこの「涙の二等分」を擧げやうと思ひます」…と。

東京京橋尾張町二丁目
振替東京四〇四六六番

福永書店

批評 一月號

目次

ナショナル・キルヅへ

(Towards National Guilds)

社會主義運動の全部は知的誤謬のうへに置かれてきた。即ちそれが生産(プロダクション)を社會化し且つ統制すべき社會の職務であると想像することの誤謬である。社會の職務は生産物(プロダクト)を社會化し且つ統制することである。

□

何人でも、理論家の間にあつて、何ものかを最初に成さうと企てた人は、他の人々によつて異端者であると思はれてゐる。實行は理論に對する異端であり、あまりに屢々、實行には馬鹿げてゐる。

□

ユートピアにおいては、一人の男が、一組の電氣ボタンを押すと、附近に住む十萬人の人々に用足るほどの紡績荷物を製造することができるように、紡績工場が完全に設計されてゐる。嗚呼、彼等はその生産物を買ひとることのできる消費力をもたないのだ。さうして技師自身も、紡績で生活するにしても彼れの産業の果實を吸收することはできない。ユートピアは遠い國ではない、量りえられる時に、現在の發明の程度で、われ等の産業の多くは極く少數の人人によつて運用することができるであらう。若しこの少數がそれの生産物の價を生産費で定めるとすれば、他の人々は何ものをもうることができないであらう。何となればわれ等の勞働に對して分配された額や給料や配當は僅少な代價の荷物を買ふことの力においてのみ平等であるに過ぎないから。若し消費が平等の生産でなければならないとすれば、費用以下で賣ることが必要である。他の言葉をもつていへば、生産的天才ができえられるだけのあらゆる發明の援助のもとに生産を進行せしめよ、しかしわれ等をして生産物の價を公平なる公配についての社會的目的のために定めしめよ。

□

何故に生産者はまた分配者であるだらうか？、生産においての熟練は必然的に分配においての熟練を含むでゐるのではない。さうして生産のために完全に組織されたシステムは分配のために完全に組織されたるシステムと必然的に同じではない。レバアハルム卿は偉大な組織的な生産者、天與の生産者である。しかし公平に分配することについての彼れの才能はバンツー族の酋長のそれよりも低い。

□

礦夫はいふ『俺は石炭をもつてゐる。俺はそれに生産に非常な勞働を費した。俺は俺の勞力の價と。それに石炭を掘らうする誘引としての少量を加へて、俺に提供するものには誰にでも讓渡する考へでゐる。若し俺の勞力の分だけしかとれないなら今夜炭坑へ下りてゆく氣になれんじあないかナァお爺！　俺は金で拂へといふのぢあない。金は、俺れが欲しいもの、さうだ欲しいものが凡て買へるでなくちや俺れには役に立たない。俺れに金をくれ、しかし金の價値をくれ、さうして金に何かの價をつけさせてやれ。俺は俺に俺の消費勞力を償ふに足りる金とそのうへの附加的のものとをくれる人には誰れにでも石炭を讓るよ。實際だよ。しかしお前が若し金をもつてゐなかつたらそれよりいゝことをしてやる。俺は小額の内金とさうしてお前が俺の石炭で造る荷物を俺れと分けるといふとの證文をとらう。若し君が望むならもつとよくしてやらう。俺は、若しお前の證文がそれで俺が金を才覺することができるやうなものであつたら、收入金を分配することの證文を書からう。それは何か？お前はやはりいゝ考をもつてゐる。お前は正しい！若しお前がお前の荷物を費用の半分で俺に分けてくれるなら俺も消費勞力の半分で石炭を分けてやらう。みないゝ。俺達はお互に費用を償ひまたお互に俺達の貨物を費用以下で獲得するのである』

□

生産者銀行の眞の信用と財産所有者銀行の信用とを比較せよ。生産者銀行の信用は生産によつて裏書されてゐる。財産所有者銀行の信用は財産權によつて裏書されてゐる。一方は眞實の信用であり、他方は法律上の信用である。

□

われ等は新らしい種類の信用——勞働信用を實現せしめることを目的とする。勞働信用は、貨物を生産し且つ配布する力に裏書されて速に財産のうへにのみ立つてゐる信用を屈服されるであらう。

□

生産者銀行は、礦山業でいふと次のやうな結果をもちき

たすであらう。即ち石炭の價を終局の消費者に對して非常に低くする。坑夫をその産業に投資した凡ての現存資本にその時の配當を支拂ふことの地位に置く。生産者がやがて彼等の勞働信用のうへに置かれたる新資本をもちきたす權利を獲得することによつて生産者の統制を保障する。經濟卽ち勞働節約の發見の後に賃銀を引上げ（或は物價を一般に引下げ）ることによつて生産の能率上にプレミアムをつける。産業を國家の援助または國家の統制の必要なきに至らしめる。數ヶ月內に物價及び條件の革命を齎らす。資本主義から國民ギルドへの轉移を容易にし、急速にする。生産者銀行は、若し公衆の反對があるとすれば、ストライキをしても宜しい。しかし反對とは何からできるのか 公衆は家庭用の石炭の價を急に低下することの要求に同情するであらう。今日の所有主は彼等の配當を保障し彼等の所有權を尊重することを維持する提議に反對することはできない。坑夫は、彼等の購賣力を增進し、彼等の條件を改善し、彼等をその産業において將來社長（セニョル・パートナア）にし且つ彼等を國民の救濟者として公衆の好意をうけるに至らしめるように考案された計劃に對して反對することはできない。然らば誰れが反對するのか? たゞ資本を供給する商人、所有主の信用の取扱者、さうして社會のためにする最後の價格決定者が殘されるのみである。しかし彼等でさへも反對すべき正當の資格がない。何となればわれ等は彼等の今日の獨占を沒收し、國有にし 或は如何なる方法においても侵害しようと提議するものではないから。われ等の企てゝゐる凡てのことは、生産への勞働能力のうへに立つ新らしい信用 New form of Credit を創造することである。さうしてその信用を生産に使用することである。

□

『何人も嘗て健全な社會に生活してこない。』健全な社會は貨物の分配が貨物の生産と公平に足並みを揃へる社會である。一世紀每に生産能力は四倍に增加した。しかし現在の世紀において一日の勞働の購買力は百年前のそれよりも低い。健全にして進歩した社會の規範は諸君が一日または一時間の勞働でうることのできる貨物（凡ての種類）の量である。われ等の今日の社會のように一日の勞働が一日の食物をもつて酬ゐられるような進歩した社會は、腐敗に向つて進歩してゐるのである。機械的の資源と近世文明の組織とは數年間の勞働で一生涯人生を樂しませるであらう！

□

ベーコンのいつたように、『ベルを鳴らせ、さうして智慧を一緒に喚び起せ』。われ等に炭礦夫同盟の指導者と、坑口所有者の首領と、及び政府の首惱者とを與へよ。さうして吾等の結合した智慧はより以上の騷ぎなくして永遠に勞働對資本家の問題を解決する計劃を完成する事ができる。

附記、以上はニュー・エーヂの十月九日（一九一九年）號を譯したものである。今後も引續いてニュー・エーヂの論文を紹介する考へである。（室伏生）

普通選擧史論(二)

室伏高信

(六)

『…………………………』

『その國はよく、その土壌は肥え、その溫度は衞生的である。それは商業の材料を備へ、數多のさうして便利な港を控え、內部的交通の便は各國に勝る。

『二十三年間われ等は深き平和を樂んだ。

『しかしこうした國民的繁榮の要素をもつてして、さうしてこれ等を利用すべきあらゆる素質と能力とをもつてして、われ等は公的及私的の困窮に壓せられてゐるのを見た。

『われ等は租稅の重みのもとに身をかゞめた。それにもかゝわらずわれ等の支配者の要求は甚だしく不足である。商人は破產の境に慄えつゝある。わが勞働者は飢えつゝある。資本は利潤をもたらすことなく、勞働は報酬をもたらすことがない。工匠の家庭は寂莫であり、質屋の庫は滿ちてゐる。養育院は群がり工場は寂しい。

『われ等は各方面を見て、一生懸命にこうした甚だしいまた永續した苦るしみの原因を見出そうと探し求めた。

『われ等は自然のうちに、また神のうちに何ものをも見出すことはできない。

『神は人民を惠み深くする。しかし愚鈍なるわれ等の支配者は神の慈悲を效果あらしめるに至らない。

『力强い王國の精力は利己的にして無知なる人々の權力を樹立するために費されてきた。さうしてそれの資源は彼等の增大のために徒費された。

『黨派の幸福は國民の幸福の犧牲にまで進められた。さうして少數者が少數者の利益のために支配した。その間、多數者の利益は閑

却され、または横柄に且つ專制的に踏みつけられた。
『彼等の苦痛の大部分——縱令全部でないにしても、——に對する救劑が一八三二年の改革條令のうちに發見されるであらうとは人民の輕々しい期待であつた。
『彼等はこの條令を價値ある目的への賢明な手段であると思ふように敎へられた。
『彼等は痛ましく且つ卑劣に欺かれてきた。
『目に美しと見えた果實は收穫した時には塵と灰とであつた。
『改革條令は權力をある壓制徒黨から他の壓制徒黨へと移した。さうして人民を以前と同じ憐れな狀態に殘した。
『われ等の奴隷制度は自由への丁稚奉公と代つた。それがわれ等の社會的墮落の傷ましい思ひを一層激しくした。望みが遠ざかつたといふ苦しい思ひも加はつて。
『われ等は恭々しく貴院にかゝる狀態の繼續すべからざることを○○の安全と國內の平和とを危機に陷らしむることなくして永く持續することのできないことを告げにきた。
『われ等は貴院に告ぐ、主人の資本は最早やその正當の報酬を奪はれてはならない。食物を高價にし、金を缺乏せしめて勞働を安價にする法律は廢止せねばならぬ。課稅は產業にではなしに財產にかゝるようにしなくてはならぬ。多數の幸福のみ唯一の正當な目的であるがゆゑにそれが政府の唯一の研究でなくてはならないと。
『……………………
『われ等は一般的に法律を支持し且つ法律に服從することを要求されてゐるゆゑに、自然と理性とはわれ等に法律の制定において一般的の聲がだまつて聽かれなくてはならないといふことの權利を與へる。
『われ等は自由人の義務を行ふ。われ等は自由人の特權をもたなくてはならぬ。
『われ等は普通選擧を要求する。
『……………………
『公衆の安全と公衆の信用とのために屢々選擧を行ふことが肝要である。
『われ等は年回議會を要求する。
『……………………
『人民の自治は縱令へ彼等の苦慘を除きさることができないにしても、それは少くとも彼等の不平を除くであらう。

『普通選擧は、またそれのみ、國民に眞實にして永續的平和を齎らすであらう。われ等はまたそれが繁榮を齎らすことを確信する。
『それゆえに、希くば貴院がこの請願を貴下の最も重要な考量のうちに置き、さうして立憲的手段によつて、凡ての法定年齡の、健全な精神の、有罪の宣告なうけざる男子に國會議員の選擧權を與へる法律を通過せしめ、凡ての將來の國會議員の選擧を祕密投票によつて行ひ、國會の任期を一年を超えざるように定め、議員の財産の凡ての資格を廢止し、さうして議員が議會の職務に出席してゐる間は正當の報酬を與へること。』に極力盡粹されんことを。

以上は有名な『國民請願』(1) National Petition である。『國民請願』は一八三八年八月六日バーミンガムに於けるチャーチスト示威運動のうちから生れ出でたものである。それは英國勞働運動の歷史のうちにおいて『人民特許狀』とともに最も重要なる文書の一つでなくてはならない。それは『人民の特許狀を法律』とするために議會へ提出した請願である。この請願と『人民特許狀』との成立のために全國的勞働者會議として組織されたものが『產業階級總會議 General Convention of the Industrious Classes である。これもまたバーミンガム示威運動から生れ出でたものである一八三九年二月四日になつてこの會議の第一回がいよ〱ロンドンのコックスパア街『ブリチッシ・コーフヰー・ハウス』で開かれた。次の會議はフリート街のジョンソン・タアバアン博士の會堂で開かれた。集まつたものは五十三人の代表員である。(2) この會議の結果、『國民請願』は五月六日(一八三九年)に議會に提出することに決した。さうして二月から五月までの間に全國に亙つてこの『國民請願』への署名者を糾合するためのアヂテーションが行はれた。この運動は時の政府の神經を惱ましめること益々甚だしくなつた。政府は切りに探偵を使用した 政府とチャーチスト運動――『產業階級總會議』との關係は益々切迫してゆくばかりであつた。政府の壓迫政策は先づフロスト(3)のうへに加へられた。即ち國務大臣としてのロード・ヂョン・ラッセルはフロストをその治安判事の職から免ぜんとした。さうしてフロストに書簡を送つて彼れが『產業階級總會議』の代表員であるか否か、またポンティプールにおける公會の席上に出席したかどうか、さうして以上の點が事實であるとすれば、治安判事の職を免ぜらるべきことを述べた。フロストは昂奮せる心をもつてラッセルへの返書を認めた。フロストの返書はその時代の精神を反影するものとして非常な注意をもつて迎えられた。彼れの返書には次のように認められてあつた。

『……閣下は如何なる職權によつて私の公職と無關係な行爲に對して權力を振はうとするのであるか？ ……私は公けの問題につ

いて私自身の意見をもつてはならないのであろか？ 私はロード・ヂョン・ラッセルに不快な意見の發表を禁じられなくてはならないのであろか？……卑しい地位をもつてゐながら、私は閣下にも閣下の如何なる命令にも屈しないであらう』

フロストの返書がチャーチスト派の喝采を博したことは勿論である。ラッセルの政策は斷乎たることはできなかつた、しかし所有階級の新聞紙に激勵されて動搖常なかりしロード●ヂョン●ラッセルの態度はいよ／＼チャーチストに對して强壓を加へることゝなつた。政府とチャーチストとの間は全く敵對の關係となつた。ステフエンスは訴へられた。『產業階級總會議』は不法のものであると宣告せられた。五月にはヴヰンセントもまた政府の手によつて捕えられた。しかし政府の如何なる干渉をもつてしても勞働階級の最初の政治的大運動としてのチャーチスト運動の押えがたき勢を押えることは出來なかつた。

一八三九年五月六日には、『國民請願』に署名した人の數は百二十八萬三千人に達したのである

(1)『國民請願』はドグラスの起草にかゝる。ドグラス(R.K.Douglas)は『バーミンガム。ヂャーナル』の主筆であつた。
(2)五十三人の代表員のうち三人は判事、六人は新聞主筆、二人は僧正、二人は醫師、その他は商人や勞働者であつた。
(3)フロスト(John Frost)はニユーポートの治安判事であり、產業階級總會議へのウエールスの代表員であり、一八三九年三月十一日の會議には會長であつた。

(七)

百二十八萬三千の署名が最初に持ち運ばれたのはトーマス●アトウッドの邸宅へであつた。しかしこの時、アトウッドの態度には非常な變化が見えてゐた。そのうへにチャーチスト派と政府との反目は益々甚だしくなつた。そこで『產業階級總會議』はその會場をオコンノーアの動議に從つてバーミンガムに移轉すべきことを決した。彼等はバーミンガムにおいて異常なる歡迎をうけた。五月十三日に會議を開いたのである。さうして次の日には有名なる『產業階級總會議宣言』Manifesto of the General Convention of the Industrious Classes を通過した。この宣言はチャーチスト運動が勞働階級の運動であることについて最も重要なる宣言である。この宣言においてチャーチスト運動は最早や一切ブルジョアとの關係から離れたことを明らかにした。卽ち勞働者の特種なる利益が第一義的の問題として掲げられた。

『英國の政府は專制主義であり、また英國の數百萬の產業階級は奴隷である』とは彼れの宣言したところであつた。彼れはホイッグ黨をもトーリー黨をもともに敵であると宣言した。さうして英國の『正義』をもつて『階級的支配』Class domination に過ぎないものであり、『人民の權利とは奴隷の特權なき奴隷制度』Slavery without the Slave's Priviledge であると罵しつた。

『英國の男女よ、諸君は柔順にこの屈辱に服從するか？ 諸君は諸君の每日十二時間の勞働のうちから九時間の收入を怠慢にして橫柄な壓迫者に課稅並に掠奪によつて與へるために生れるから死するまで不斷不休の勞苦に服するか？

『產業階級總會議宣言』はかくのごとくに論じてゐる。この宣言の後に所謂 Simaltaneous assemblies が行はれることとなつた。政府とチャーチスト一派との反目はいよ〳〵激しくなつた。バーミンガム市民の熱烈なるチャーチスト的同情に恐れ、政府は地方官憲の要求に應じてロンドンの警官隊をその地へと送つた。このことはチャーチストの集會を憤激せしめた。『人民の議會』(People's Parliament) が纔に警官の干涉かれ免れることのできたのはブロンテーアとオコンノーアの時宜を得たる警告の結果であつた。

五月十七日『產業階級總會議』はブロンテーアの決議案を通過した後に七月一日にその會議を延期することを決した。同時刻會合 Simultaneous meetings は到るところの都市、町、村落において非常な成功のうちに開かれた。カアソール・ムーアにおける示威運動は三十萬人の行列であつたといはれてゐる。ウエスト・ライディングでは二十萬、グラスゴウでは二十三萬、ニユウカッスル・オン・タインでは十萬人の人々が集まつた。オコンノーアや、ブロンテーアやハアネイやフロスト等の雄辯の士がそれ〴〵得意の快辯を振つたのである。數ケの場所では官憲とチャーチストとの間に激しい爭ひが起された。ウエストライデンングの示威運動においてオコンノーアは叫んでいふた『若し暴壓者(タイラント)が强力によつて集會を抑壓しようと企てるなら人民は攻擊また攻擊によつて拒絕しなくてはならぬ』と。

七月一日バーミンガムに開かれた『產業階級總會議』は長時間の討論の後にその會議をロンドンに移すべきことを決議した。その月の十日に會議はロンドンに移された。

人民と官憲との間における最初の重要な衝突は一八三九年七月四日バーミンガムに起された。一八三二年の改革條令のアヂテーション以來人民は常に鬪牛場(ブルリング)に集合して新聞紙の朗讀を聽きまたは時事を論ずることの習慣を養つてゐた。同時刻會議は中等階級の心を傷めた。バーミンガム市長は人民の公會特に鬪牛場に會合することを抑制しようと企てた。この企ては勞働階級を憤激せしめなくては止まなかつた。しかし戰は官憲の側から仕向けられた。市長と判事の指揮のもとに、さうして數隊の騎兵(ドラゴーン)に支持されたロンドンの警官隊は鬪牛場へと押しよせた。そこにはバーミンガムの人民が丁度新聞の朗讀を聽取しつゝあつた。警官隊の亂入のために人民の集會は混亂に陷り、數人の負傷者さへも出した。この恐慌の後に、敗れたる人民は再び力を糾合して警官を敗走するの餘儀なきに至らしめた。敗走した警官隊もまたその力を倍加して、再び人民を攻擊した。騎兵隊は縱橫に活躍した。さうして鬪牛場への通路にはみな衛戍兵が配置された。鬪ひは九時から十時半まで續いた。夜半、四散した群民は再び集合してチャーチストの歌を歌つた。——

『仆せ、〇〇〇を、仆せ』

チャーチストの歌を歌ひながら群衆はホローウエ●ヘッドに集つて攻擊者に復讐をなすべきことを誓つた。群衆はそこから更にトーマスの教會へと殺倒し、七十本の柵を破壞して武器を造つた。

『恐怖と復讐の精神が全市に漲つた』

ロウゼンブラットはこの時の光景についてかくのごとくに述べてゐる。(1)

翌朝の六時に、テーラァ博士は他のチャーチスト派の人々とともにウォアウックの監獄にと送られた。人民の憤激は益々甚だしさを加へた。さうして官憲攻擊の張札が町の辻々に張り出された。その張札とともに印刷者がまた〳〵捕縛された。ロヴエットとコリンス(2)との二人も捕えられた。

戒嚴令がバーミンガムの町に施かれた。人民の憤激は極度に達した。腕力論者等の激勵のもとに巨大なる群衆が日日ホロウウエ●ヘッドまたは其他の場所に集まつた。人民と警官または軍隊との衝突を繰返さなくては止まなかつた。亂雜な鬪ひが一週間續いた。さうしてその爭ひは七月十五日の鬪牛場の暴動において極度に達した。衆怨の府となつ

てゐた多數の人々の家は火にかゝつた。怒れる人民は商店に闖入して貨物を鬪牛場へと運んだ。さうして炎々たる火焰と化するに至つた。警官も軍隊も怒れる群衆の前にはたゞ無力な一隊であつた。しかしこの暴動者は決してその最初の目的を忘れはしなかつた。ギャムメーヂの記るしてゐるところによればこれ等の人々は決して一品たりとも貪慾の心をもつて盗みとるなうなことはなかつた。貴重品は、たゞ足に蹈まれ、或は火に投ぜられるといふ有樣であつた。(3)

この爭ひの間にトーマス・アトウッドは『國民請願』を議會に紹介した。紹介したのは六月十四日であつた。アトウッドはそれを七月十二日になつて議會がこの請願を委員會に附すべきことの動議を提出した。

アトウッドの說明演說は決してチャーチストの眞實な立場を明らかにしたものであるといふことはできなかつた。彼れは勞働階級の立場からチャーチスト運動を說明することはできなかつた。彼れは商人の立場から、製造業者の立場から、農夫の立場から『國民請願』の採擇すべきものであることを主張した。アトウッドの演說の不得要領であつたことは、チャーチスト運動の正面の敵としてのロード・ヂョン・ラッセルの反對演說を說伏的なものとなすに至つた。ラッセルはこの『國民請願』の署名者が百二十萬人に過ぎないことを指摘して、それが『國民』の請願であることを拒絕した。彼れは普通選擧の主義に反對した。普通選擧は既に米國に行はれてゐる。しかし米國においても時に繁榮があり、時に不景氣のあることは免れない。ラッセルはこう述べてゐる。ラッセルの演說は單なる討論としては遙にアトウッドのそれに優つてゐたものである。しかしヂスレリーが指摘したとほり、ラッセルは『バーミンガ選出の代議士に答へた。しかしチャーチストに答へはしなかつた』(4) ヂスレリーはチャーチスト運動が中等階級に對する敵意を基礎とするの事實に着目した。さうしてこの立場からして彼れはチャーチストに同情を寄せたのである。ヂスレリーの後に數人の討論があつてから投票に移つた。四十八票に對する二百三十七票の大多數をもつてアトウッドの提案は否決せられた。

(1) Rosenblatt, The Chartist Movement, P.176
(2) コリンス(John Collins)はバーミンガムの說敎師であり、また『產業階級總會議』の議員であつた。
(3) Gammage, History of the Chartist Movement. P.135
(4) ヂスレリー(Dsiraeli)はこの時の演說を a capitalspeach であつたといつてゐる。

（九）

アトウッドの提案の敗亡は、チャーチストの議會に對する失望と化した。彼等は議會によつては何ごとも期待することができないと感じてきた。人民は、自由は自ら取るまではえられるものでないことを信んじてきた。さうして總同盟罷工とSacred month の問題とが再び論んぜられることゝなつた、七月十六日には長い討論の後に『人民は彼等の勞働を保護するために議員に對する選擧の權が彼等に保障されるにあらざれば八月十二日以後は勞働しない』といふ決議が通過した位ひであつた。この決議はその後に提出されたブロンテーアの決議案のために覆された。それが八月六日になつてブロンテーアの動議に基き、さうしてオコンノアの贊成のもとに『同時に二、三日間勞働を休止』することの決議案がチャーチストの總會議を通過した。しかしこのチャーチスト運動の危機に當つて組織と指導との缺乏は彼れの致命傷とならざるをえなかつた。『國民休日』は全然失敗に終つた。『人民の議會』People's Parliament はその在在の意義を失ふに至つた、九月六日ブロンテーアは『人民の議會』の解散を動議した。これには激烈な反對があつた。十一人對十一人の對抗となつた　さうして遂に解散するの止むなきに至つた。

この解散とともにチャーチスト運動に對する政府の壓迫がいよ〳〵露骨となつた。ロヴエットは彼れの堂々たる雄辯と正々の條理とが法廷を壓したにもかゝわらず二十ケ月の禁獄に處せられた。ステフエンスも十八ケ月の刑罰を宣告された。四人のチャーチストは死刑の宣告をさへうけた。ウエールス炭坑夫の偶像としてのヘンリー・ヴキンセントもまた十二ケ月の禁獄の宣告をうけた。政府の壓迫は勞働階級の復讐心に訴へないではゐなかつた。就中ウエールスのチャーチストは暴力によつて彼等の偶像ヘンリー・ヴキンセントを釋放せしめなければ止むまいと決心した、かくして一八三九年十一月四日、ニューポートの暴動が起されたのである。ニューポートの暴動に先つて十月二十二日チョン・フロストの有名な公開狀が發せられた。

『かくのごとくにこの國の勞働階級の不滿を起した原因如何。……彼等の勞働は法律の手段によつて彼等から奪はれた。それは怠慢、にして放埒な男女に與へられてゐる　生產せざる人々は紫色や美しいリンネルをまとひ、勞働者は富者の卓子より落ち來るパン屑

を喰つてゐる。勞働階級は正義をうるために請願した。彼等の請願は輕蔑をもつて遇せられた。さうして彼等の指導者は牢獄に投ぜられ重罪犯人よりも慘酷に取扱はれた。彼等は減税を乞ふた。さうして答へは地方警官であつた。……暴政は止むことがない。……われ等は急速にフランス第一革命前の狀態に近づきつゝある』(1)

ニユーポート暴動の計劃は熟しつゝあつた。第一隊はフロストによつて率ゐられることに決した。第二隊はゼファニツシ・ウヰリアムスが率ゐ、第三隊はウヰリアム・ヂョンス(3)が率ゐることゝなつた。この三隊は十一月三日、日曜の夜半、ニユーポートから數哩の地點に會することゝなつてゐた。そこからニユーポートを襲撃する手筈であつたのである。さうして橋を破壞し、郵便馬車と交通とを止め町を占領する計劃であつた。また郵便馬車の遲延をもつてバアミンガム及び全北部への合圖としようとしたのであつた。

襲撃に先つて、日曜日に、ニユーポート地方の凡ての村は動員の狀態にあつた。大雨にもかゝわらず、あらゆる年輩の人々、親父も息子も、指定の場所に集まり、各種の武器を裝うた、總指揮官としてのフロストはブラックウッドにあつて全隊に號令した。チャーチスト軍の先頭部隊がフロストの指揮のもとにウエストゲート・ホテルに達したのは朝の九時であつた。民衆軍は堅い決心をもつてゐた。

『親愛なる父よ……私は今夜自由のための戰ひに服するであらう。神が私の生命を助けてくれるなら私は直ぐに父上にお目にかゝるであらう。しかしもしさうでないにしても私のために悲しみ給ふな。私は貴き目的のために仆れるであらう……』ヂョーヂ・シエル

これはチャーチスト軍に加はつた十九歳の少年がその父に書き送つた手紙であつた。しかし訓練されざる民衆軍は政府軍の敵ではなかつた。戰はチャーチストの失敗に終つた。フロストはその夜捕へられ、ヂョンスは一週間の後にさうしてウヰリアムスは十日の後、捕えられた。凡ての指導者はみな國事犯として訴へられた。さうして嚴しい刑罰をうけた。フロストもウヰリアムスもヂョンスもみな死刑の宣告をうけた。

……each of you be there hanged by the neck until you be dead; and that afterwards the head of each of you shall be severed from his body, and the body of each divided into four quarters……

これが宣告文の一節であつた。二月二日、日曜の夜、フロストとウヰリアムスとヂョンスとはチエプストウから汽船に乘せられた。さうしてこの三人のウエールス人は二百十人の囚人とともに『ヴァン・ディメンの地』へと運命づけ

られた。一八四〇年四月十二日、日曜日に、彼等の墓は花と月桂樹をもつて蔽はれた。墓は次のような文字をもつて彩られた。

May the rose of England never flow,
The Clyde of Scotland cease to flow,
The harp of Irland never play,
Until the chartists gain the day.

(1) The English Chartist circular, No. 27

（十）

フロストやヴィンセント等だけではなかつた。オコンノーアもブロンテーアも、チャーチスト運動の指導者は相率ゐて所有階級の政府のために重い刑罰に伏した。刑罰をうけたものは、一八三九年一月一日から一八四〇年六月一日に至るまでの間にイングランドで四百八十人、ウェールスで六十三人、併せて五百四十三人の多きに達した。集會も少くなつた。チャーチスト派の新聞紙もだん〴〵に減じた。さしもの大運動も早く崩壊したかのように見えた。しかしトーマス・カアライルはその『チャーチズム』のうちで次のように述べた。

「打ち鎮められたものは現實ではなくしてチャーチズムの幻であつた」と。(1)

(1) T. Carlyle, Chartism, 1840, P.2 （つゞく）

非軍國主義論

賀川豊彦

國際的無道德主義

我等の堪え切れ無いことが一つある。それは國際的無道德主義又は國際的道德無視主義である。個性の間では道德も頗る進歩した。勿論今日の個性道德を建設する爲めには多くの犠牲と努力が入つたことで有つたが、それでも幸にして　どうにかかうにか曲りなりにも、孔子や、釋迦や、キリストの道德が尊重されて居るから、全く暗黑でも無いのである。

然し國民が一種の社會心理を持つて興奮すると、道德も理性も何にもかも凡てが破棄されて、たゞ興奮狀態から起る錯覺的判斷と感情と意志が働くのである。國民の墮落するのは多くこの感情からである。

それで、『群衆と道德』を書いた丁抹のクリテンセンは、群衆の道德は今や進化の途中にあるのであつて個人道德から比較すれば、餘程遲れて居ると云ふて居るが、それは今度の大戰で最もよく證明された。大戰開始の最後の一瞬間まで民衆は萬國社會主義者だけはせめて世界的に有つてくれるであらうと思ふたが、あの通り目茶苦茶になつてしまつた。教會は勿論のこと、今日のキリスト教の教會など云ふものは國際道德には全く失敗者である。私はあれで『神の國』を繰返すのがおかしくて仕方が無い。今日の教會が世界主義になれない最大の理由は、それが資本主義の上に礎かれて居るからで　る。深く研究すれば研究する程教會の今日取つて居る方向は眞違つて居るのである　それも今日の教會は個性道德を中心にして說くもので有つて、國際道德を決して說か無いからである　所が社會主義は唯物的の立場から出發したものの、生の本源により近い道德を高調する爲めであるか、人間即世界人を說くものだから、今日の

教會より遙かに進歩した國際道德的實行が出來るのである。處がその社會主義の國際道德と云ふものも、大戰爭に出會すと國民の興奮狀態によつて全く消滅してしまふのである。私はそれが齒痒くて仕方が無いが、どうも仕方が無い。たゞ我等は努力してその道德を理解する樣になるまで努めるより外に道は無い。

喜劇として見たる軍國主義

サアヴンテスが『ドン・キホーテ』を書いたのは封建時代の最後の幕に當つて居たが、それは田舍の百姓の息子までが騎士の眞似をして、武者修行に出かける心理を書いたので有つた。そして、文藝批評家は『ドン・キホーテ』の爲めに封建的騎士の夢が早く醒めたと云ふて居るが、今日の軍國主義は、第二の國際的封建であるから之を眞正面から擲りつけると軍閥がその營業的立場から反對するから、我等はどうしても之を喜劇扱にするより外に道が無い。喜劇の殺人力は悲劇のそれよりか遙かに大である。羅馬の最も有力な偶像破壞者は喜劇作家ルシアンで有つた。彼の筆の前に羅馬の諸の偶像が倒れた。希臘の第一の偶像破壞者はソクラテスで有つたが、彼を助けたものは喜劇作者アリスト・フアネスで有つた。私はそれで、思ふ、今日の軍國主義と云ふものも喜劇的に取扱はれて來なければ、國際道德の誕生はまだ實に遠いものであると。

今日の軍國主義は全く喜劇である。人間は最も平和を愛する動物として作られ乍ら、平生用事もなにも無い、〇〇〇〇〇を引づり廻らさ無くてはならないと云ふのは想像も出來ない喜劇である。我等は大名行列を見て笑ふが、今日の列國の〇〇――米國も濠洲も英國も戰爭がすんで猶擴張しつゝあるその〇〇は全く神經中樞に故障の起つた發狂者で無ければばし無いことである。國家的だと云ふから、皆默つて見て居るものの、國内には無數の貧民が食ふものも食はずに困つて居るに、國外では人間同志が〇〇〇〇をしなくてはならぬと云ふことは私には全く合點の行かぬことである。一人一人であれば愛があるに、一人一人の衆合には愛が消滅すると云ふのはどう云ふことであらうか？　私はそこに笑を禁ぜざるを得ないのである。

軍國主義としての經濟組織

それで私は今日の軍國主義の根本的誤謬は　その根底に横はる群衆の意識の誤謬だと考へる。そして、群衆の意識の誤謬は、群ることを可能ならしめる各種の政治的設備にあると思ふ。殊に今日の國家組織は經濟組織の上に立つて居るから、今日の軍國主義は經濟的軍國主義である。そして經濟的軍國主義と云ふことは人間の墮落した最後の階梯である。金と市場の爲めに――それも資本家のおつき合ひをして〇〇〇〇〇〇〇〇無くてはならぬと云ふのは實に馬鹿氣た話である。然し私に言論の自由が無い。私が人間の根本的誤謬に指す時に、金と〇の權力が私を壓迫するのである。

心理衝動としての戰爭

人間の戰爭はたゞ、經濟的國家組織から起つたものでは無く、全く心理的盲目衝動から起るのだと云ふものがある。衝動說で解か無ければ少しも說け無いと云ふ。紀元前一四九六年から、紀元後一八六一年迄、合計三千三百五十七年間に、西洋だけで三千百三十年間と云ふ永い間戰爭がつゞけて有つた。そして平和は十三年目に一度しか無かつた。最近三世紀間に、歐洲のみでも二百八十六の大戰が有つた。また紀元前千五百年より紀元後一八六〇年迄に、平和條約は八千度取結ばれた。然し之等は凡て無用で有つた。然し之等を凡て虛妄なことだとは知つて居ても、人間は猶戰爭をする。それで人間は心理的に戰鬪が好きなのだと解する人がある。そして、戰爭のみが、文明を產む樣なことを云ふものがある。トライチケや、ベルンハルヂが之を說くのに何の不思議も無いが、文化批評家の第一人者であるジョン・ラスキンが之を說くのだから吃驚してしまふのである。（A "Crown of wild Olive" 參照）

それに就て、前獨逸皇后陛下の侍醫で有つて有名な心臟學者ニコライ敎授 Prof G. F. Nicolai が非軍國主義の爲めに戰時中投獄せられ、獄中で書いた彼の名著『戰爭の生物學』"The Biology of the War" の中に云ふて居る。『動物が衰滅に近づく時にその動物は必ず破壞的になり、戰爭を好むものである』とつまり戰爭を讃美する本能も全くこの衰滅期に於ける一種の錯覺と考へることが出來るのである。それであるから私は戰爭を本能的本質あるものとして讃美する人人にも贊成出來ないのである。

いやたとひ、それが心理的衝動であるとしても、私等はそれが誤れる衝動であることを知つた以上、修正するのが當然であらうと考へるものである。

陶汰としての戰爭

殊に陶汰として戰爭を叫び、生存競爭を以つて、理想的の人類陶汰の方法であると考へるヘッケル一流の學者に私は反對するのである。米國に於て有名な魚類學者ジョルダン博士が十數年叫んで居る點はこの點である。同氏の War and Waste"『戰爭と浪費』は全くこの點を力說して居るものであるが、希臘が亡び、羅馬が亡び、バビロン、アッシリアの亡びたのは全く好戰國民が當然受け無ければならぬ退縮現象(デチリオレーション)であると云ふのがジョルダン博士の生物學的決論である。私は今更クロポトキンの相互扶助論を引張り出して、生存競爭の否定などしたくは無い。それはあまりに明白な問題である。たとひ、他の動物の凡てに生存競爭が事實であつたにしても、人間の道德が之を許さ無いならばそれは矢張り惡いのである。私等は生存競爭說の爲めに――それも假說の假定――人間を犧牲にしたくは無い。私は人間の爲めに生存競爭說を破棄する。殊に今日の經濟戰爭が少數なる資本家に、國家が奉公して居るのだと思へば猶更のことである。それで私は、資本主義の道具に使はれる軍國主義を陶汰說として全々信用したく無い。

軍備撤廢の運命

ブロッホ Bloch は機械力の發達の結果、未來の戰爭は不可能だと豫言した。ノルマン●エンセルは經濟的重荷の爲めに戰爭は不可能だとした。然し戰爭したい墮落した人間は人道を口にして殺し合ひをした。それで私は機械の發達と、經濟組織の上から戰爭不可能論を唱へることはもうせぬ。然しその外に人間の社會組織の進化の上から戰爭減少論を說くものがある。之は信じても善いと思ふ。昔は種族の中で　又封建時代の殿樣の中で互に戰ふて居たものが、今日では國家の戰爭となり同盟國對同盟國の戰爭となり今度の國際聯盟によつて、國際聯盟對一國の戰爭と云ふことになつた。この戰爭の進化は否定することが出來ない。之は一面に於ては進化によつて、小さき戰爭がやまると共に

少しの大きな戰爭が之から起ると云ふことになるのである。然し私は遂に戰爭が無くなる時代が來ると云ふことを信じて居る。

軍備撤廢の實行方法

私は軍備の撤廢は矢張り經濟上に基礎を持つ知識的道德的でなければならぬと思ふて居る。それで軍備撤廢の根本問題は、世界に於ける經濟道德の向上に待つ外は無い。卽ち物品より人間が大事であると云ふ思想が徹底し無ければ戰爭が熄るものでは無い。卽ち戰爭を中止する權利を持つて居るものは、全く人格者である生產者そのものである。

ベルトランド・ラセッルは "Justtce atthe War time" の中に軍備を全部撤廢しても、今日の文明の程度に於ては、どんなことが有つても、英國や獨逸の樣な一等國が滅亡することは無いと詳しく說いて居る。それはたとひ獨逸が英國の軍備撤廢に乘じて侵入した處で、その目的は今日に於ては全く經濟的利益にあるのだが、その經濟的利益は人を奴隷にして得られるものでは無く、英國人を捕へて凡てを軍隊式に勞働軍隊の管轄の下においた所で、全く能率は上ら無いし、ストライキとサボターヂュが打續いて、決して全部の支配は出來ないのみならず、今日の勞働者が產業自治を要求して居ると同じ樣に、この生產者から與へられる嫌忌は產業自治の外に全く救濟の望みが無い。それで、之れから先の軍國的征服は全く不可能であると云ふことを論じて居る。

私もこれ以上多く云ふ必要はあるまいと思ふ。軍國主義は日本人の頭にはあまりに深く這入り過ぎて居る。それは風俗に、習慣に、教育に、宗教に這入つて居る。それでこの風習から救はれる爲めには餘程の犧牲を拂はねばならぬ。我等はこの迷妄を解く爲めに、今日から根本的にこの方面の硏究をつまねばならぬと思ふ。

▲勞働組合指針（中目尙義譯）これはコールの勞働組合概論の譯書、勞働問題の硏究者が必讀すべきもの、批評社から出す筈であつたもの、曩に批評社に註文された方は勿論その他の方もこの書に就て頂きたい。

I・W・W・主義の研究(一)

室伏高信

(序論の一)

I・W・W・の思想及び運動はまだ日本に多く紹介されるに至つてゐない。私の承知してゐる範圍では京都大學の米田庄太郎君が經濟論叢(第八卷第四號――)で發表したものと早稻田大學の北澤新次郎君が『勞働者問題』の附錄として發表したものとの二つである。そのうち米田君の研究は北澤君のに比べて多少精細であるが私は米田君の研究に對してもあまり信用を拂ふことのできないことを遺憾とする。一例を擧げていへば、米田君はロシアの過激派思想が直接にはI・W・W・に淵源を發してゐるといふことを信んじてゐるらしい。無論米田君は信ずるとはいつてゐないが、その說を否定しないとなして消極的に信じてゐることは明白である。(1) さうしてその理由として米田君は『今日露國過激派政府の牛耳を執りつゝあるトロツキーを初め其一派の人人の中には露國革命の成功した時まで米國に遁げて居つた人人は少なくなく而して其頃には米國においてI・W・W・は盛んに活動して居つたとから考へて或はありうべきこととも思ふ』と述べてゐる。(2) 卽ちトロツキー等が米國に滯在して居つたことからI・W・W・がロシアに輸入されて過激主義となつたといふことが『ありうべきこと』だとなしてゐるのである。この點は米田君の論文の卷頭に述べてゐるところである。私はこの序言を讀んで最初に失望せざるをえなかつた。私の知つてゐる範圍ではロシア・ボルシエヴヰキの思想は夙に社會民主黨のうちに存在し既に一九〇三年の瑞西の會議において明瞭となつてゐる。(3) また一九〇五年には既にボルシエヴヰキ革命が行れてゐるのである。これに對しI・W・W・は一九〇三―四年コロラドのストライキのうちから生れたとされており、それの組織が協議に上つたのは一九〇五年のことである。それゆゑにボルシエ

ヴヰキは寧ろI・W・W・に先つてゐるのであつてこの點においてI・W・W・の思想からボルシエヴヰキの生れる理由がありえない。二、次にトロツキーが米國に滞在したといふのは一九一六―一七年であつて(4)オーストリアを追はれ、フランスを追はれスペインを追はれた後のことである。だからトロツキーが米國に滞在したことがボルシエヴヰキ思想の源泉と何の關係もあるべき筈がない。三、トロツキーは最初からのボルシヴヰストではない。一九〇三年の著書はこの事實を明らかにしてゐる。(5)彼れは寧ろボルシエヴヰキとメンシエヴヰキの調停者であつたのである。それゆえにトロツキーを云々してボルシエヴヰキの源泉を説明しようとすることが第一に誤謬である。四、それのみならずボルシエヴヰキ主義とI・W・W・の主義とは非常な相違があり、その間には共通點よりも差別點が著しい。從つてI・W・W・がボルシエヴヰキの淵源となりうる理由がないのである。こういふわけであるから米田君の折角の研究も實は大分に見當が外れてゐる。北澤君の論文はまたあまりに簡單なものであるからそれを通じてI・W・W・の思想と運動とを知ることは六かしい。そこで私は今後十數回に亙つてI・W・W・の研究を發表したいと思つてゐる次第である。

(1) 經濟論叢第八卷第四號第一―二頁參照
(2) 同上第一頁
(3) 拙著『社會主義批判』二七八頁參照
(4) Leon Trotzky, Our Revolution, P,20
(5) Trotzky, The Second Convention of the Russian Social-Democratic Labour Party.

(序言の二)

I・W・W・が生れてから十數年になるが、それが著るしい發達を遂げたのは近年のことである。さうして最近數年に於けるI・W・W・の發達は實に顯著である。北澤君の計算に從へばI・W・W・の會員は七萬である。(1)北澤君はこの計算の根據を示してゐないしまた何年に七萬人であつたかを明らかにしてゐない。I・W・W・の會員はこれを計算する人によつて一樣でない。そこでこゝにはバアネット教授及びセント・ヂョンの計算を擧げることとする。

	ヂョンの計算	バアネットの計算
一九〇五年	二三、二一九	一四、三〇〇
一九〇六年	……	一〇、四〇〇
一九〇七年	五、九三一	六、七〇〇
一九〇八年	五、三九七	一三、二〇〇
一九〇九年	三、七一九	一〇、七〇〇
一九一〇年	四、六一七	九、一〇〇

一九一一年	四、三三〇	一三、八〇〇
一九一二年	一八、三八七	一八、三〇〇
一九一三年	一四、八五一	一四、三〇〇
一九一四年	一一、三六五	一二、〇〇〇
一九一五年	一五、〇〇〇	……

以上の數字によつて明らかであるごとくI・W・W・の會員數はこれを計算するに頗る困難である。その困難であり、これを計算する人によつて非常な相違のあることはフランス勞働總同盟の場合と同一である。しかし何れにしても一九一五年まではI・W・W・の勢力の微弱であつたことは明らかである。それが急激なる發達の機運に向つたのは一九一六年からである。この年にはヘイウッドの計算に從へばI・W・W・の會員は六萬に激增し、更に翌一九一七年にはウルマンの計算に從へば二十萬人になつてゐる。さうしてこれ等の會員は織物業、鋼鐵業、礦業、製材業、農業等の產業に分配されてゐる。I・W・W・の勢力の增大とともに政府のこれに對する取締もまた嚴重となり、一九一八年には、I・W・W・の首領等は多く刑罰を加へられた。しかし政府の壓迫は決してI・W・W・の勃興する勢を如何ともすることはできない。一九一九年末における炭礦、鋼鐵等の大同盟罷業は主としてI・W・W・の指導と宣傳のものに行はれたものとされてゐる。共和黨上院議員ポインデクスターが十月十五日米國上院においてI・W・W・について述べたところはこの點を明白にしてゐるのである。

(1) レバインはI・W・W・の會員が一九一三年八月に七萬人であるとなしてゐるがブリッセンデン教授はこれを誇張に失してゐるとなしてゐる。

◆批評より

▲本社の『社會主義批判』も發行後廿日にて四千部を賣り盡し印刷に間に合はぬ盛況です。從つて讀者諸君にも手廻り兼ねてゐる點は幾重にもお詫びします。

▲『批評』は更に新らしい計劃を進めてゐます。一月中頃には實現すると思ひます。

ウエッブよりコールへ

甲野哲二

(一)

一八八〇年代は英國に於ける社會主義復興の時代である。リカアディアン●ソーシャリストやロバアト●オウエンを生んだ英國も一八四八年チャーチスト運動の崩壊と共に社會主義運動は其終末を告げたのである。(1) 時代の勢力と思想とは個人主義全盛の時代であつた。然しすべてのものの崩壞が其全盛時代に其萠芽を生ずる如く、斯のジョン●スチュアート●ミルが其遺著『自叙傳』に於て社會主義への改宗(コンバアション)を語つて居るのは正に此の萠芽でなくてはならぬ。(2)

(1) リカアディアン・ソーシャリスト Ricardian Socialists とは第十九世紀の初めに英國に起つた社會主義者であつてデビット・リカルドの經濟學を基礎として其社會主義學說を樹立した一派である。
Eather Lowenthall-The Ricardian Socialistsの中にはウキリアム・トムソン、ジョン・グレー、トマス・ホヂスキン、ジョンフランシス・ブレーの四名を掲げて居る。ウキリアム・トムソンはカアル・マルクスの先驅者として有名で其著「富の分配」(一八二四年)はマルクスに依つて大成された社會主義經濟學說を說いたものとして有名である。

(2) ゼー・エス・ミルが社會主義者(勿論マルクス以前の意義に於ける)であつた事は嘗て河上博士が「社會主義者としてのゼー・エス・ミル」と題して京都の「經濟論叢」本年四月號に書いて居られる。Julius West:-John Stuart will (Fabian Trac (No.168) もこの事を記して居る。

(二)

そは個人主義から集産主義(コレクチビスム)への推移である。すべての社會現象に對して個人を基礎とする自由放任の思想から社會を本位とし個人を從とする思想への變遷である。單に思想上の變化のみではない、實際上の現象を見ても個人本位から社會本位への推移は明かに觀取することが出來る。シドニー●ウエッブは一八四〇年時代から一九一四年までの英

國社會史を硏究して、其一般的傾向に就いて次の樣に語つて居る。『過去四分の三世紀の變遷のみを見れば、そは經濟的並に政治的個人主義から社會の集產主義的組織への發達である。其運動は加速度を以て世界の端から端へと傳はるであらう』(S.Webb: Towards Social Democracy? P,3)

斯くてこの傾向が明かに社會主義運動となつて表はれたのは一八八〇年代に入つてからである。ヘンリー・ジョーヂの名著『進步と貧困』が其運動の動火線であつたことはジョーヂも意外の思ひをしたであらう。其書の樂觀的調子や其リカルドの地代の法則の適用などに依つて其時代の靑年はヘンリー・ジョーヂを敬慕したのであるが、彼等は遂にジョーヂの學說の宣傳の爲に會合を起し、其多くは社會主義へ進化したのである。當時の英國は社會問題の急を告げて居つた時代であつて、グラッドストンが社會問題に就いて何等の施設を行はなかつた事は、社會主義を政治的方面に先づ赴かしめた所以であつた『民主主義同盟』(デモクラチック・フエレデーション)は此結果生れたものでハインドマン、ハアバアト・ブロウス、ヘレン・テイラー等の盡力に依つて一八八一年四月設立せられたのである。この團體は初めから社會主義を奉ずるものであつたが一八八三年九月更に其名稱を『社會民主主義同盟』(ソーシャル・デモクラチック・フェデレーション)と改め、其社會主義の宣傳に努めたのである。『英國で社會主義の廣く知らるるに至つたのはこの團體の初期の指導者の勇敢なそして絕えざる努力に負ふこと多きは疑ひのない事である』とウエッブは評して居る。(Webb: Socialism in England PP.23—24) この『社會民主主義同盟』は有識中產階級の人々から成立して居る團體であつて、賃銀勞働者階級の社會主義を主張するものである。政治界ではジョン・バアアンスを始め諸所に其候補者を出し、機關紙としては週刊の『正義』(ジャスティス)を發行して居る。其主義は經濟學に於てはカアル・マルクスに依り、政治方面は最左端の民主主義に贊すると共に集產主義的政策を主張し、勞働組合領袖の保守主義を攻擊し資本家と貴族主義の利益の爲にする主戰的政策を攻擊するのである 其主力會員はハインドマン其人であるが、アンニー・ベサント夫人ハアバアト・ビウロウスも亦有力である。

社會主義者同盟(ソーシャリスト・リーグ)は一八八三年ウヰリアム・モリスに依つて設立された社會主義團體である。モリスは元社會民主主義同盟の一員であつたが主として個人的理由から同同盟を脫退し、新らたに社會主義者同盟を組織したのであるが、其教義に於ては兩者は同一であると言ふことは出來ない。社會主義者同盟は生產手段の管理に關する集產主義の原則を認めるが、其管理は自由な自治體に依つて施行さるべき

であること主張する。この點に於て彼等は無政府主義への傾向を有するものである。斯の樣な集權的な行政に反對するとに依つて彼等は全く非實際的の傾向を有するに至り、單に教化を目的とするに至つたので其社會主義は空想的(ユートピアン)性質を帶びたのである。其機關紙週刊『一般幸福(コンモン・ウイール)』は『正義』よりも行はれることが少ないが、其文學的色彩は其特徴とするに足るものがある。ウヰリアム・モリスは人も知る如く詩人で藝術家であるが、ベルフオート・バツクスモも有力な會員である。

この外、基督教社會主義者の團體を數へることが出來るが英國社會主義に對して最も有力な刺戟を與へたものは、斯のフエビアン協會である。

(三)

フエビアン協會の思想的背景はヘンリー・ジョージとオーギユスト・コムトである。けれども其直接原因はジョーヂにもコムトにもあるのではない。フエビアン協會の創立者の一人であるエトワード・ピースが其著『フエビアン協會史』に記する所に依ると協會の起りは一八八三年の秋トマス・デビツドソンがロンドン訪問の折其抱懷する精神主義に就いての小集を催したことがある。この小集にエトワード・ピースを招いたものはフランク・ポドマアで彼等は其精神上の研究からヘンリー・ジョーヂの說に入つたのである。當時デビツドソンの信者でパアンヴアル・チユブと云ふ青年があつたが彼等は合議の上色々な問題を研究する目的の爲に一八八三年十月廿四日から隔週の會合をピースの宅に開くことになつた。フエビアン協會の始めは實にこれである。其趣旨とする所は一の精神主義であつて、物質主義に反對したものである。其社會問題に對する態度は同年十一月廿三日の決議に就いて之を知ることが出來る。

『協會の會員は競爭制度は多數者の苦痛を以つて少數者の幸福と享樂とを確保するものなるを知るが故に、社會は一般の安寧と幸福を確保すべき樣改造せらるべきを確信するものである。』

然しフエビアン協會がフエビアン協會として生れたのはエトワード・ピースに依れば一八八四年一月四日である。フエビアン協會の目的が競爭制度を基礎とする社會を改造するにあつたけれども『社會主義』なる語が同年三月廿一日のカロリン・ハツドンの『二種の社會主義』と題して、フエビアン社會主義と社會民主主義同盟の社會主義とを比較した講演に至るまで一度も用ひられなかつた事は注意すべきである。」

シドニー・ウエツブは一八八五年三月廿日協會で一場の

講演を行ひ、同五月一日其同僚シドニー●オリバアと共に其會員に選ばれたのである。是より先き一月二日にはバアナアド●ショウも會員に選ばれた。斯くてフエビアン協會は其活動に一層の活氣を加へた。シドニー●ウエッブの學識は遙かに他を凌ぐものであつた。彼は其實際的見地から色色の研究を發表し、フエビアン協會の思想は彼に依つて代表せられた許りでなく、英國勞働黨の議會主義の漸く失敗せんとした一九一〇年頃までの英國社會主義は實に彼に依つて代表されて居たのである。英國はカアル●マルクスが其資本論執筆の當時から其臨終時に至るまで滯在した所であるが其影響は極めて少數の英國人と外國の亡命者間に限られた有樣であつた。マルクス主義を奉じたハインドマン一派の社會民主主義も其勢力を增大することが出來ず、復古的色彩を帶びたウヰリアム●モリスの社會主義者同盟は其大なる影響を他に及ぼすことが出來なかつた。これ實に英國人の實利主義に依るものであらう。フエビアン協會の主張する所は漸進的社會主義である。ハンニバルと戰つたフエビアスの樣に隱忍自重時の到るのを待つ主義である。私は斯の樣な思想が實利的の英國人を動かし、フエビアン協會が勞働黨の知識的源泉であつた事を當然であると思ふ。

（四）

『私は將來の歷史家がカアル・マルクスの後繼者として社會主義思想の指導者たるべきものはシドニー・ウエッブであることを認めるのであらう――現に彼等は認めんとして居る――と信ずる。マルクスは產業は國家の事業でなければならぬのを見た、けれども彼は其實現方法を予見することが出來なかつたのである。これは實に英國社會主義の事業であつて、英國には最早久しく行はれベルンシユタインに依つて獨逸に輸入せられた修正派の名稱の下に大勢力たらんとし、それは米國に社會黨を創設し何れの所にも其根據を築きつゝあるのである。而してこの派の社會主義は其大部分唯一人の創造せし所である。其唯一人とはシドニー・ウエッブ其人である。』

エトワード●ピースはカアカップの著社會主義史の增訂版序文にこの樣にシドニー●ウエッブを推稱して居る。私はカアル●マルクスの後繼者として、ウエッブが認められるか否かを知らない。私は社會主義思想に於ける發展が科學的社會主義の破產であると稱したシムコウヰチの言を其まゝ認容するに躊躇するものであるが兎に角英國社會主義思想が其一八八〇年代の復興期から最近のギルド社會主義の勃興に至るまではウエッブの思想が一大勢力であつたことは否認し得ないと信ずる。

ウエッヴは一八五九年ロンドンに生れ軈て長ずるに及ん

で彼は瑞西及び獨逸に學んだ。そして七八年英國に歸來し陸軍省から大藏省、殖民省と轉々として八一年又官界を退くことになつた。其後ロンドン大學に學び八五年辯護士となり、次いでロンドン大學經濟學教授となつた。其頃からウエッブは其スペンサー流の個人主義を捨てて社會主義に接近するに至り遂にフエビアン協會へ加盟することとなつたのである。一九〇〇年以降、改造後のロンドン大學經理學の一員となり、又同大學經濟學及び政治學研究科の科長となつた。一九〇二年ロンドン府會議員に選ばれ、同府廳に於ける專門教育局長となり現に其職を維持して居る。私は以上、ウエッブに至るまでの思想の背景と時代とを簡略ながら說き終へた。さらば彼の抱懷する思想は如何、私は節を改めて、論じて見たいと思ふ。

(五)

ウエッブと言へばフエビアン協會を聯想する。この兩者は全く不可分と言つてもいいと思ふ。私はウエッブの思想の要領記とも見るべきフエビアン協會の宣言の一節を譯出するのは讀者の爲に大變便利であると信ずる。

『フエビアン協會は社會主義者に依つて成立する。故に協會は土地並に產業資本を個人的並に階級的所有より解放し、之を一般の利益の爲に社會の所有とすることに依つて社會を改造することを目的とする。斯くの如くにして初めて、一國の自然的並に獲得したる利益を全人民に均しく分與することが出來るのである

『故に協會は土地私有制度并に之に依つて起る地代の形態に依る土地使用又は優良の地味又は地位に對する代價の個人的收用を廢止せんことに努力する。

『協會は更に社會的に便宜に處理せらるべき產業資本の管理を社會に移さんことに努力する。何となれば過去の生產手段、產業的發明の獨占、並に餘剩所得の資本化に依り主として所有階級は富み、勞働者は今も其生計を得る爲に其の階級に隷屬するが如き有樣であるからである。

『此等の計畫にして無償に行はるとすれば、地代と利子とは勞働の報酬の中に加へられ、他人の勞働に依つて生活する遊食階級は必然的に消滅し、實際的機會の均等は現社會制度の下に於けるよりも個人的自由に干涉すること少なくして經濟的勢力の自然的行動に依つて維持せらるべし。………』

(ウエッヴ著「英國に於ける社會主義」一二―一三頁)

更にウエッブの言葉を借りて社會主義とは何ぞやの問題に答へて見よう。社會主義とはユートピアでも又は革命の特殊な暴行的方法でもない。社會主義に依つて表はされる思想は經濟學、倫理學並に政治學に於ける思想の徐々に變化を表はすものである。社會主義者と個人主義者との根本的差異は社會組織の基本原理に關するものである。過去一世紀に於ける社會學の貢獻は社會研究の出發點として個人よりも社會を重視するに至つたことである。

社會主義はこの發展と當時に於ける產業進化との產物に外ならない。社會主義は經濟的方面に於ては地代と利子とを集產的に管理し、肉體又は精神的勞働に對する賃銀のみ個人的管理に任ずることを主張し、政治的方面に於ては富の生產の主要手段を集產的行政に任し、倫理的方面に於ては、同胞主義個人の勞働に對す一般的義務、一般の善に對する個人の目的の從屬の眞の認識である。(Webb Socialism in England PP.9-10) 之を他の言葉で言へば、社會主義の中心思想は產業的事項に於ても亦政治的事項に於ても土地と產業資本との私有が齎らす他人の生活に對する個人的支配に代ふるに、民主的基礎の上に組織せられた全體としての社會の集合的自治を以つて之に代へんとするにある。社會主義運動は今や文明諸國に於て知識的並に政治的勢力であるが、第十九世紀史の實證的結果として、斯の主張をなし、過去百年間の變遷の潮流は經濟思想及び政治學に於ける思想の變化と同じく土地並に資本を有する個人的勢力を全體としての國民の團體的決定に換ふるにある。社會主義者は過去の經驗に徵して勞働者の生活のすべての產業的條件に代表的民主主義を適用することを要求して居るのである。(Webb Towards Social Democracy? P36 倘ほ Webb:; Problems of modern Imdustry に收められたる Socialism, true and False なる論文を參照)

ウエッブの主張する所は集產主義を基礎とする所の民主的國家である。其經濟的方面に關してウエッブは其集產主義の作用を其大著『產業民主主義（インダストリアル・デモクラシー）』の中に論して之を三つに分つて居る。其一は、何が生產さるべきかに關する決定の問題である。卽ち消費者に供給せらるべき財又は勤勞の種類に關する問題である。其第二は生產の方法、材料の採用、方法の選擇、勞働者の選擇卽ち是である。其第三は人間が勞働すべき條件卽ち勞働場所の溫度、空氣、衞生設備並に其勞働の强度と繼續時間及び其報酬として與へられる賃銀の問題卽ち是である。

第一の問題に關して決定權をを有するものは消費者である。何となれば社會に對して最大の滿足を獲る爲めには消費者の必要と欲望とが生產物決定の主要原因でなければならぬからである。これ等の消費者の欲望が資本主義制度か消費者の任意的團結に依る消費組合か、又は人民の結合卽ち都市又は國家の企業との何れに依つて最もよく充足せらるるかは大問題であるが、兎に角欲望の最高充足を目的とする場合に於ては勞働者は集產主義に於ても資本主義制の下に於ても共に生產物決定權を有して居ないことの一事は確實である。勞働者は消費者の欲求に對して何等の知識も

なく、また、進歩的社會の特色である需要の變化に對しても偏見を有するからである。

第二の問題卽ち生産材料、生産方法に關しては勞働者は又偏見を有して居る。勞働者は自己の習得した生産の方法が最良のものと信じ其他のものに對しては反對するのである。洵に新しい生産機械の發見は常に勞働者の地位を脅かすのである。勞働組合は常に新機械の採用に對して反對し來つた、勞働者は常に新しい機械と生産方法に對して敵意を示して來た。故に勞働者に生産方法の選擇權を與ふることは生産技術の不進歩を語るものでなければならぬ。故に何等偏見にとらわれることのない消費者をして生産方法の決定に預からしめなければならぬ。

然るに第三の問題卽ち勞働條件の問題に至つては自ら前の二問題と異る所がある。勞働條件――卽ち勞働時間、工場の衛生設備等に關して最も深い知識と經驗とを有するものは勞働者自身である。この點に至つては從來の資本主義制度の下に於ける企業家も集産主義制度の下に於ける役員も共に勞働者を眞に理解することは出來ないからである。彼等は經費の節減と能率の增進と考へる。また消費者側から言つても生産物の低廉なことは最も歡迎する所である。彼等はよく從業勞働者の勞働條件に關して考察する所がないのである。けれども民主的集産主義國家にあつては國民の生活標準の向上は最大の問題である。殊に全人民の五分の四を占める勞働者階級の生活狀態に關して無關心ではおり能はぬ筈である。であるから勞働條件の決定は從業勞働者の掌中に置かねばならず、この方面に方て集産主義國家の實現後に於ても勞働組合は其存在の理由を有するものである。而して其任務とする所は生産者團結の力を利用して輿論を其要求に聽從せしめ、官僚主義的抑壓に對して各種の手段に依つて其利益を防禦するのである。故に勞働組合は資本主義制度の下に於てのみ必要な機關ではなくて永久に其任務を有するものである。(Industrial Democracy PP 818—825) 要するに民主的集産主義國家にあつては各人は常に他人の爲に其勤勞を奉仕するのである。其肉體的であると精神的であるとを問はず彼は其勞働に依つて常に他人に奉仕するのである。けれども彼はまた選擧人として其同胞と同じく其個人的利益を主張して居るみのである。(Ibid PP 846—847)

然らば斯くの如き集産主義は個人的自由と一致するものであるか。ウエッブは先づ自由とは何ぞやと問ふてこの問ひに答へて居る。自由が各人は各々其主であり且つ其本能の命ずるまゝに行動すると云ふことであるならばデモクラシーとも他の如何なる政治とも分業とも文明それ自體とも兩立し樣がないのである。また特殊の個人又は階級が契約の自由、結社の自由、又は企業の自由と稱するものは其有するに至つた權力を使用する機會の自由である。卽ち他の權力なき階級をして其條件を承認することを强制する自由である。斯の種の個人的自由は不平等の單位から成立して

居る社會に存するもので強制と何等異る所がないのである斯の様な自由は眞の自由ではない。眞の自由とは自然的又は本元的の權利ではなくて、實際に個人に於ける能力を最大に發展せしめる如き社會生存の條件である。斯くの如き意義に於ける自由はデモクラシーと兩立するのみならず、デモクラシーこそ最大量の自由を確保する唯一の道である生產手段の所有と產業の支配とが、全然資本家階級に從屬する所にあつては、斯くの如き企業の自由は企業家の能力の最大發揚を見ることが出來る。自由な權力の行使は之を有する者の性格を影響することは多いが、自由を愛する者の見地よりすれば專制主義、貴族主義並に金權主義は一の致命的缺點を有する。之れ等は多數の人々の內に於ける能力の發展に對する機會に一の制限を包含するものであるからである。これ等の諸主義の行はる所は多數者は貧困である。而して人生が個人的利益に對する鬪爭である間は、換言すれば人生が貧困に對する永い鬪爭である間は友愛的、知的、藝術的又は宗教的の能力を充分に發展せしむる時間も力もないのである。勞働の條件が充分な食物と教育と閑暇とを與ふるときにのみ大多數の人々は初めて友情や家族に對する愛を感じ、知識又は美々對する本能を充足することが出來るのである。而して、其個人的利害と關係とより離れて其同胞の必要と欲求とを充たす樣に其閑暇と思想とを與へられるのは民主主義の特徵である、洵に文明と進步との世界にあつては何人も自分の主たることは出來ない。斯くの如く個人が其生涯の管理を失ふ所に他方に個人的には不可能となこつたことを團體的に充足せんとするのである。(Ibid P. P. 847—850)

斯くの如くウェッブは其集產主義的國家を主張して居るが、そは近代社會史の立證する所であり、且つ思想の變遷の結果であると見る。彼は社會を生產者の立場より見ずして消費者の立場より見る。英國社會史は斯の樣に彼に敎へたのである。ギルド制度の如き生產者の團結から都市社會主義と消費組合運動と一の推移は明かに社會が生產本位の社會制度より消費者本位の社會制度への變遷を語るものである。この社會的傾向は卽ちウェッブの社會主義である。故にウェッブの社會主義は消費者の社會主義であると言ふことが出來る。

この消費者本位の集產主義の影響はケア・ハアディの『獨立勞働黨』(I・L・P)の一八九三年に於ける組織となり、一八八九年に於けるドックストライキ後の勞働組合の社會主義化となり、遂に一八九九年に於ける勞働組合會議に於ける決議となり翌一九〇〇年英國勞働黨の組織となつた。一九一〇年頃の勞働不安の時代までの集產主義の勢力は日々に盛であつた。けれども勞働黨の議會主義的集產主義は遂に勞働者階級に滿足を齎らす樣な結果を得なかつたのは讀者の知れる通りである。勞働者は新しい指導的精神を求めて止まなかつた、この要求に應じたものはギルド社會主義の思想である。(つづく)

勞働運動と勞働運動者

▲間諜ほど不合理な存在はあるまい、其『不合理な存在』が神聖なる勞働運動に盛に活動してゐると聞いては驚かざるを得ない、足尾の委員が山から出て來たが中幹部以下の連中だから右を見ても左りを見ても詳らない、賣文社の或一人が一ハダ脱ぐ積りで委員と會見し打合せをして歸つたが明る日訪れてもテンデ相手にしなかつた、如何うしたのであらうとヨク聞いたら、元刑事をして居た『勞働何とか』云ふ新聞とか雑誌とかの某が來て『彼れの如きものと提議して運動などすれば社會の同情を失つてしまう、彼は勞働運動を喰ひものにしてる』とか吹込むだ爲めださうである。

▲間諜の網は到る處にはられてる、交通勞働組合などでは理事の祕密會の内容が三十分間内に警視廳に知れて居るさうである、其の迅速にして巧妙なるは驚くに値する。先日自由協會が主催となつて足尾の上京委員と東京全市の勞働團體幹部とを會合さした時の事である、其の事が決したのは午後の二時頃、六時の約束の時間になつても足尾の委員は一人も顔を見せない。皆な古川本邸に連れて行かれてしまつたのである、幹事が漸ゝさがし宛てゝ談判の結界二人丈け出席する事になつた、其の報告に曰く『若し足尾の上京委員が東京の勞働團體と提携するならば古川は到るゝ迄戰ふが、諸君が今夜の會合に出席しないなら要求の九分迄で容るゝ』と

▲純勞働者で斯うした間諜をやつて居る者はまあ許すとしても、許す可からざるは何何勞働組合の理事とか幹事とか云つて勞働運動の指導的地位に立つて居るものである

▲彼等はクリストをサタンに賣る者である彼等の葬らるべき日は近づきつゝある彼等を葬り、勞働運動の吸血鬼を葬ると同時に探偵とか間諜とか云ふ不合理なる階級の存在をも社會的に否定しなくてはならない、そは資本主義の生む特產物なればである。

▲大杉榮君は現社會運動者の中で最も實際運動に觸れて居る、信友會のみならず各方面に相當な勞働運動者を出して居るやうだ此等の人々の中に於てさへ知識階級の人と勞働者とは分離してある融合できないあるものがあるやうであるとは大杉君の話。

▲白き手の勞働者はやはり白き手の勞働者である、露國革命運動に於ても吾國の勞働運動に於ても變りはない、露國に於けるインテリゲンチャの悲哀はまた吾國の白き手の勞働者の悲哀でなければならない、お互はお互の道を歩めば宜いのだ。

▲關西の勞働者は實際的だ、關東の勞働者は精神的だ、之等の相違は勞働運動にもあらはれて來る、關西の勞働者は賃銀値上であるとか時間短縮であるとか勞働條件の改善でなければストライキなどしない、が關東の勞働者は單に勞働條件の改善のみならず賃銀制度の廢止や產業自治の爲めにもストライキをし得る、關西は吾國に於て最も完全なる職業別組合の存在し關東に產業別組合の發達する傾向ある所以ではあるまいか(Z生)

英國勞働黨の主義

シドニー・エンド・ビアトリス・ウエッブ

勞働黨は勞働黨の基礎的諸主義を再考するの必要に會した。と云ふのはこゝに勞働黨の綱領を意味するのでもないし、また次回の總選擧に於て鬪ふ特殊の綱領を云ふのでもない。如何なる黨派の綱領の背後にも知的の主義と道德的目的がなければならぬ。そして其團體の眞義はこれ等の主義の存在である。而して、勞働黨の知的根據とは何であるか。

一

現在人口の十分の一が富の十分の九を所有する事實に現はれた富の不平等に對して我々は反對する。即ち筋肉勞働者階級が一年の勞働の生產物の三分の一しか享受しないと云ふ事實に反對する。この不平等は多數の無產者に對しては其能力を傷け其欲望を抑制することであり、更に不必要な疾病と早死とを惹起し、獸性と身心の不道德化である。

またこの不平等は少數の富者に對しては傲慢と無情とであり、そのことが自ら悟らざるに於て一層甚だしい、そして其最も惡化した時には極度の放慢となるのを吾々は知つて居る。吾々は斯樣な貧民と富者との二階級に分離さした原因を富者の橫暴に求むるものでもなければ貧者の才能なきにも歸するものでもない。そしてその原因を資本並に土地の私有に基く地代の法則に歸するのである。土地と資本を單に社會の代表者――生產者又は消費者の選擧に依る――に引渡す丈けでは社會的の平等は齎らし得るものでない國民は尙ほ每年の生產物の總額の分配を決定しなければならぬ。社會は斯くして細心に平等を決定しなければならぬ而して斯の樣な平等の自發的選擇こそ勞働黨の根本的主義の一である。そして其生活の爲にすべての健康者は社會の勤務の爲に手又は頭腦に依つて勞働する義務を一般的に認めなければならぬ。

二

我々の反對者は主張する。斯くの如き平等化は生存競爭を廢滅する。而して競爭的組織に於ける國民中の生存競爭は諸國民間に於ける戰爭に於けるが如く生物的要求である。この生存競爭なくしては最適の個人も亦民族も生存することが出來ぬであらうと。社會主義者は資本主義の行はるゝ所に於て個人間の生存競爭の存するを見る。けれども最適者と云ふ者が最も優秀な個人と社會組織と言ふ意味ならば其生存競爭に依つて何等の適者をも殘さなかつたのを知るのである。之に反して吾々は生存競爭は民族の性格及び知識に事實惡影響を及ぼしたを知る。而してこの影響を免れ得るものはたゞこの生存競爭に對して自由の地位にある富者並に其子弟に外ならないのである。社會の進化に及ぼす鬪爭の影響に就いて考へるには一方に立派な邸宅と他方に貧民窟とを見ればよい。それは科學藝術宗教の荒廢であり、文明よりの退化である

勞働黨の政策は物質的鬪爭を轉換して更に高尚な目的に向はしめるにある『國民最低限（ナシヨナル・ミニマム）』の政策に依つて吾々は今日各勞働者に健全な生活資料を保證する。國民最低限以上の餘剩の財を公共的に使用し全人民の知的、藝術的・精神的能力と肉體的健康を不斷の改良し、個人的性格を發展さすのみでなく、富者に依つては未だ夢想だもされなかつた國民的文明を開拓するのである。

三

勞働黨の斯くの如き生存競爭を廢するの主義は全人民の同意と積極的行動となくしては遂行されないものである。然し眞實のデモクラシーは一の中央集權政府の行政を意味するものではない。吾々はすべて多數の物の消費者であり特定のものゝ生產者であり、またはあらなければならぬ。そして吾々は物質的生產よりも價値ある藝術的、知的並に精神的靈感を有する。吾々は甲又は乙の一團と共同の趣味と利益とを有するのである。勞働黨の目的とする國家は所謂總意に依つて少數者を壓迫する畫一的の官僚的デモクラシーではなく、一部は中央的な一部は地方的な組織であり、或る部分に於ては任意的にして、或る部分では強制的で、或部分は生產者他の部分は消費者の組織である。それは地理的團體及び知的、藝術的又は精神的目的を有する團體に依るのであつて、すべてはデモクラシーの精神に依る組織である。斯くの如き社會的進化に依つてのみ個人は其個性に對する最大自由を享受し、權力と同意とに對する一般的

參與に依る自治を見出し得るのである。

四

正しい欲求と靈感とは吾々の欲する社會的組織を建設するに必要なものではあるが、之れのみを以つて社會組織を創造することは出來ない。勞働黨は社會生活の觀察と經濟學並に政治學の進歩に基く組織的社會科學の必要を主張する。科學に對する信仰は競爭に代ふるに協同を以つてすることである。

吾々の祖先は個々の人々が何の科學もなく、たゞ金の爲に、本能的に活動するのであるが勞働黨は進歩せる組織ある社會的企業を目的とするものである。各種の協動は其從業者間の考慮ある計畫を要し、一定時、一定所に於て實行し得るものでなければならぬ。而してこの科學は常に擴張し社會組織は時と共に進化しなければならぬ。社會主義の最大の弊害は其不變な理想國（ユートピア）を建設せんとする欲求である。

五

勞働黨は國家內の國民各員の間に於ける原理はまた國家間に於ても行はれ得るとする。戰爭は生物的必要で人類を益するものなりとの說に對して勞働黨は之を非科學的であり、不道德的でありとする。そして彼等は國家間に於てよりよき目的に努力せしめんとする。勞働黨は一國民の他國民に對する掠奪を否認し、後屬民族に對して參政權と發言權とを與へる。勞働黨は各人生活を送るべき權利を有するとする。然しこのことは人類平等の主義か國際聯盟又は他の權力に依つて認めらるゝときに於てのみ實現し得らるゝからである。何となれば國家または國民間に於ても法律は自由の母であるからである。（森恪譯）

編輯室と校正室

◆福田博士が河上博士に立會演說を申込んだといふ話は野次馬連から異常のうれしさをもつて迎へられた。しかし河上博士は斷然拒絕したといふことである。

◆なんでも福田博士はいよ／＼論壇からも演壇からも引退したらしい。學界のためには却つていゝことかも知れない。兎も角、福田博士が論壇に立つたのは短い間であつたが却々に華々しいものであつた。しかしあまりに華々しいものは遂に長いことはできない。

◆福田博士に對する反感は意外の方面にまで行はれてゐる。アンチ福田の宣傳がききすぎたのか、それとも博士の曖昧な態度が、時代の急潮と合はないためであらうか。

◆時代は急ぐ、人は目ざめる。もうアントンメンカアやブレンタノなぞの時代でもあるまい。吉野博士なぞも急速に歩かなくてはなるまい。

◆新人會といへば吉野博士の門下であるが、藍より出でゝ藍より青しで『民本主義』では無論滿足されない。『デモクラシー』でも滿足されない。今度は『先驅』といふ雜誌を發行するさうだ。

◆かくして若き人は時代の響きを刻々に刻む。青年と老年との距離はだん／＼と遠くなつてゆく。吉野博士と新人會との關係も、思想の上からは、もう越えることのできないほどの距りがつくられたのであらう

◆それにもかゝはらず吉野博士は依然として新人會の人格的中心である。思想的中心といふよりは人格的中心である。こゝに師弟の美しい情誼が見られるとともに、吉野博士の人格美が見られる。人としての吉野博士は實に立派なものだといふのである

◆社會主義が流行するので親分株の堺利彥君なぞも實入りがいゝだらうといふ人もあるが、その實、もらいに行く人が比例的に殖えたのでやつぱりもと／＼だといふことだ。

◆高畠素之君が『改造』十二月號に書いたものの原文は非常に面白いものだといふことで（高畠君自身もさういつてゐた）あつたが　檢閱でめちや／＼にされてしまつてゐる。檢閱なぞといふ野蠻制度は早くやめなくてはならぬ。それがやめない間は『日本は特殊國』だ。

◆われ／＼のような貧乏人はどうせ金持ちになる機會はないし、役人になつても判任官よりなれない。粗衣粗食、出づるに自動車なく、入るに待合なく、それでゐて人生は金持と同樣僅に五十年だ。金持ちの二年か三年分だ。せめては言論だけでも自由にしてもらひたいものだ。所有階級の政治家及び役人諸君もつて如何となすか。

◆政治家といへば無學に相場がきまつたもうどこの雜誌でも氣のきいた雜誌は政治家の言論なぞは眞平御免である。政治家の名前はこゝ一、二年來あらゆる雜誌のうへから消えてしまつた。

◆そこで雜誌よりは時代後れの新聞にでも投書するほかはなくなつた。黑須龍太郞君が國民新聞へ、齋藤隆夫君が大阪朝日へ投書したのが目についた。齋藤君が『朝日新聞』を罵つて『見るかげもない新聞』になつたといつたのは今年の二月（議會）であつた。その『見るかげもない新聞』へ投書する齋藤君も『見るかげもない齋藤君』ではないか。

◆川島清治郞君の軍國主義論面白く讀んだ。

蘇峰 德富猪一郎著＝滿天下の歡迎を感謝す
近世日本國民史
織田氏時代完成
織田氏時代愈々完成す 全三冊 後篇 新刊 前篇 中篇 既刊
上製各册 菊版クロース 函入七百餘頁 定價三圓五拾錢 郵稅各十八錢
並製各册 四六版七百頁 定價一圓六拾錢 郵稅各十二錢
江湖の歡迎愈々熾盛也
江湖の歡迎熾盛なる著者の『近世日本國民史』は今や『織田氏時代』後篇の刊行なりて、玆に其の第一期中の初期たる、織田氏時代の完璧を告げぬ。之を龍を畫く者に譬へんか、『前篇』は即ち手脚を描き、『中篇』は即ち腹背を描き、『後篇』は則ち頭を描き、睛を點じたるなり。前、中、後の三篇を貫通して、信長の全體、玆に始めて頭現し、其の時代の眞相、玆に始めて發露したりと謂ふべし。其の發賣部數前、中二篇を合して十三萬餘部、後篇又既に四萬餘部を發賣し、織田氏時代完成と共に、本書の需要愈々旺盛なるは、本社の感謝に堪へざる所也。
改造的現代と信長時代
織田時代は、實に日本改造の一大時期なりき。此の時期こそ現代世界改造の一大縮圖と謂ふべけれ。乃ち織田氏時代は、現今の世界改造に向つて、一大暗示を與ふるものに非ずして何ぞ。將た現時の日本は、實能實材を進め、舊慣故例を破り、社會の風氣を淸新快活ならしむるに於て、宜く織田氏時代に鑑むべきなり。本書は實に改造の活ける教科書と云ふべし。
■附註、年表、索引、肖像、地圖、戰圖■
前、中、後三篇を通じて附したる、古文書引用の附註、時代年表、人物年表、索引、並に精巧なる地圖、戰圖、肖像等は、興味と有益とを兼備ふる者にして、以て本書の光彩を添ふるに足る。
近世日本國民史 豐臣氏時代 甲篇 近刊
發行所 東京市京橋區日吉町 振替口座一三一〇〇 民友社

新著批評

生田長江『資本論』

この前に松浦といふ人の資本論飜譯を賞めたといふことで河上肇君からひどく皮肉られたから今度は容易に提灯はもたないことゝする生田君のこの飜本もまだ貰つただけで讀んでゐられない。しかし譯者が譯者だけに經濟學者なぞには氣に食はないところもあらうが先づ見ないでいゝものゝように思はれる。今は取りあえずこれだけを書いて置く、尚ほ堺利彦君の跋文に曰く生田君は『既に明白なる一個の社會主義者』であると。（麻布綠葉社定價一圓九十錢）

山川均『社會主義者の社會觀』

山川君のこの著述は山川君のこれまでの凡ての著述のうちで私には一番面白く讀まれる。第一章から最後まで、私にもし一日のゆつくりした心持が與へられたなら一氣呵成に讀み了るであらう。私はまだ最初の一章と最後の一章を讀んだゝけであるが今まやりかけの仕事をはうつても讀んでしまいたいような氣がしてならない（定價一圓六十錢牛込神樂町二ノ十一叢文閣）

堀江歸一『勞動問題の現在及將來』

この書物は堀江博士の勞働問題批評に一新紀元を開くものである。無論通俗講演ではあるがこれによつて博士が今日如何に急進主義者であるかゞ分る學者としては實に思ひきつた立派なものである。（定價二圓五十錢京橋樋町大鐙閣）（K生）

定價

毎月一回一日發行	郵税
一部　廿八錢	五厘
半年分　一圓五十錢	税共
一年分　三圓	税共

但臨時特別號の代價は別に申受く

▲誌代は總て前金　▲郵券代用一割増
▲送金は可成振替　▲外國行郵税十錢

大正九年一月一日印刷納本
大正九年一月一日發行

東京市京橋區銀座三丁目二十七番地
編輯兼發行印刷人　尾崎士郎

東京市小石川區久堅町百八番地
印刷所　株式會社博文館印刷所

東京市京橋區元スキヤ町三ノ一成勢館
發行所　批評社
振替東京四五三四六
電話京一五四八

廣告

半頁	十圓
一頁	二十圓
二等一頁	三十圓
一等一頁	五十圓

大賣捌

▲神田　東京堂　上田屋
▲京橋　東海堂　北隆館
▲日本橋　至誠堂　▲本郷　盛春堂

大正八年三月二十八日第三種郵便物認可

大正八年三月廿八日第三種郵便物認可
大正九年二月一日印刷發行

（定價　本號廿五錢）

二月號(第十二號)

ギルド社會主義研究

（オレーヂ、ホブソン、エウエア、ペンティ、室伏高信、甲野哲二）

クロポトキン研究

批評社

批評 二月

目次

ギルド・マンの立場

室伏高信

□

われ等は、われ等の計畫するような偉大なる改革について、人民が懐疑的であることをよく知ることができる。しかし懐疑は心理的であつて精神の論理的狀態ではない。また善きことが決して眞實となることがないと同じく、眞實となるべくあまりに惡るいその惡るいことが、それにもかゝわらず眞實となることの多くの實例を擧げることができる。例へば一日に六片を稼ぎながらその一週間の生活費が六片以上でなかつた十四世紀の英國勞働者に對して、その後五百年、生產の熟練と手段とが少くとも五百倍となつた時に、この時代の勞働者がその生活費を稼ぐために全週の勞働を費さなくてはならないといふことを告げたと想像せよ、彼れは懐疑的でなかつたであらうか? われ等は不幸にしてそれが眞實すぎることを知つてゐる。生產力は兎のように殖えた。ヨハネの福音がそのうへにあつた。しかし一日の勞働の購賣價値は着々衰頽し、今日に至るまでそれは五百年前における一日の勞働の價値の六倍以下に價ひする。若しも五百年における正しき豫見によつて起された懐疑が實際に根據をもつてゐなかつたとすれば、今日われ等の造りつゝある幸福の正しき豫見について諸君の感じつゝある懐疑もまた等しく事實において根據をもたないであらう。事物はわれ等の信仰、われ等の希望、またはわれ等の恐怖に從つて動くものではない。概言すれば事物はわれ等の感情によつて影響されない。事物は活動によつて、とられた段楷によつて、動因になつて、なされた事實によつて

動くのである。

□

權力の所有とその行使とが必然的に腐敗的のものであるといふことは全然誤謬である。若しこれが眞實であるとすればわれ等は人間のあらゆる歴史を通じて腐敗することなくして大權力を行使した人の一例をも發見するとはできないであらう。それにもかゝわらず、かゝる實例は澤山にある。また一つだけが普遍的命題を非認するに充分である。このことの眞理は次のようである。卽ち權力はそれを行使するに不適當な人を腐敗させるといふことである。權力の行使は人のこれを行使する能力の試驗である。彼れに彼れの仕事に對する充分の能力を與へよ、さうしてそれの遂行に對する充分の權力（大權力であつても）を與へよ彼れは腐敗しないで依據することができる。しかし彼れに彼れの能力に對して過大な權力と、彼れの能力または權力に對して過大な仕事とを與へよ、然らば彼れの腐敗はたゞ不適當（アンフヰツト）の表明であるに過ぎない。

□

社會は未だ甞つて生產のために組織されてゐない。生產は、科學のごとくに、社會の反對に逆行して進められた。われ等は生產力を數百倍にした。それは眞實である。さうして奇石的である位ひである。しかしわれ等は同時に生產力を數千倍にすることができたかもしれない。それだのに、われ等の精力の半ば以上は自然を征服することに費されずして人によつて人を征服することに費されてきた。さうして主として生產ではなくして生產物の分配を統制することの見解をもつて。それにもかゝわらず、また同時にこの分配は、それに捧げられた精力にもかゝわらず、無慘にも不平等で不公平のまゝに殘された。生產はある協同の方法を要求した。しかし分配は原始的競爭のまゝ殘されてきた。

生産は進歩したのに分配は原始的アナーキーの狀態にあるといふ自己撞着の結果をもつて。だが、この分配のアナーキーが秩序に歸らせなくてはならないことは明白である。生産はそれ自らを管理することができる。分配は社會として働く社會の管理に歸せなくてはならぬ。われ等は生産を生産者の自由に委することを提議する。しかし生産物は平等且つ公平に、社會的に定められた價格の方法によつて分配すべきものであることを提議する。

□

われ等は技術者の戰爭をもつた。——何故に技術者の平和をもたなかつたか?

□

文明の本來の目的は一日の勞働の購買力を增進することである。

□

人は彼れが彼れの發議權のうへに働いてゐる時に最もよく働くといふ命題は受入れることができよう。實に勞働の緊張は多くの人々にとつては勞働者が志願者である時に最も高い。さうして私的または官僚的資本主義におけるがごとくに、それ等の動機が凡て缺如してゐる時に勞働緊張は最も少ないと想像される。

□

何故に、念入りに組織されてゐる近世の勞働組合は仕事をストライキするか、即ち生産を中止するか? 何故にそれは自發的に『鎖め出し』に同意すると同樣に工場を自發的に棄てなくてはならないのであるか? かゝるストライキは純粹に消極的同盟罷業であり、さうしてたゞ抵抗の德をもつてゐるだけである。それは何ごともなさないことによつて何ごとかのなされることを目的とする。しかし何ごとかのなされたことの適當な方法はそれをなすことであ

る。さうして積極的のストライキは生產者の意思に從つて工場內において仕事をなすことから成立するであらう。チヤーレスフエルグソンのいつてゐるように、若し競爭者の勞働者の組織が、『われ等は汝のガバアントを更へなくては働かない』といひ得るならば、彼等はまた『われ等は働きまた同時に支配するであらう』といふことができるであらう。われ等の計劃は勞働者の側におけるこの精神狀態を推定する。それは積極的ストライキにとつては單に手段的である。

□

コムモンウエルスとは何か、社會の構成一員たる地位、民族の一員たる地位は何を含むでゐるか?『永久的冒險の利益においての共同の分配』(フエルグソン)

□

社會主義者の論爭においては資本と勞働との間に一大戰鬪が必要でなくてはならないと常に臆斷されてゐる。毆り合ひの舞臺は明らかに尙は通過中である。しかしフロシア主義の敗退の後に戰ひが必要であるか? フロシア主義の敗退は毆り合ひ時代 fisticuff era の終焉の表徵であつた。それはある時代の終焉を劃した。その時から『戰ひ』についてのあらゆる話しは嚴格に歷史前のもの、大洪水前のものである。『戰ひは、何れの側が强いかについての誤解の發端において起る。』それは實に相互の誤解である。われ等は何れに權力が存在するかを疑はない。さうして戰は單なる性慾狂的 sadistic or masochistic) である——それは戰ひではなくして精神錯亂の發作である。しかし今日は權力は群衆とともに存する。さうして社會主義者は、たゞ社會主義が戰ひなしに得られる群衆のための幸福であると信んぜしめるのほかはない。如何にして信服せしめるか? 議論によつてゞはなく、貨物を交付することによつてのみである。

("New Age" からの抄譯)

米國の產業會議

森 恪

一、はし書き

米國の產業會議 National Industrial Conference は獨り米國だけの注意を惹いたばかりではなく汎く世界の注意を集めた。其成立並に經過については新聞紙によつて一應の報導されたにしても未だ秩序的にその成立と經過とを紹介したものはないから、こゝに米國から近着の諸新聞及諸雜誌の材料に基いてこれが紹介と批評とを試みようと思ふ。

二、性　質

この產業會議は大統領ウヰルソンによつて召集され、十月六日（一九一九年）ワシントンで開かれた。大統領ウヰルソンは折柄の病氣の爲めに出席することが出來なかつたが、勞働卿ウヰルソンと內務卿のレーンとが出席した。さうして委員として召集されたものはウヰルソン大統領の考案に從つて資本家側と勞働者側と公衆側の三方面の代表者が列席した。資本家側には農業者も加はつてゐた。先づ委員の顏觸れを見るに。

▲公衆側、バルウチ、ブルツキングス、ロツクフエラア、ギアリー、エリオツト、スパルゴウ、ブラツトフユート、ブルゲスギヤロウウエー、チヤドボーン、エンヂコツトフエース、デニソン、ヂエームス、ヂヨネス、ランドン、メレデス、マクナアブ、スウエツト、タイタス、ラツセル、ヂウエル、ウヲルド、バアナム、タアベル（以上二十五人）

▲商業會議所側、ホヰーラア、トリツグ、パアキンス、ラスコツヴ、フエルグソン、（以上五人）

▲地主側、チテツトモーア、アトケツトソン、バレツト（以上三人）

▲銀行家側、マアルトン、フエントン（以上二人）

▲勞働團體側、ゴムパアス、モリソン、トービン、バレンタイン、マホン、リツケルト、フツシヤー、ウオール、コムボーイ、ヂヨンスメーン、シヤレンベルヒ、ダンリン、タイエ（以上米國勞働聯合）シエ.パアド、リー、ミー、ウヰルス（以上鐵道從業員組合）フヰツシ、オレアリー、ハツチンソン、グリーン、ローリー（以上國民產業會議）（勞働側委員合計（二十二人）

以上の出席者によつて知られるとほりI•W•W•の會員

は全然除外されてゐるが公衆側のうちにはヂョン・スパルゴウのような社會主義者も入つてゐる。凡てゞ五十七人の委員である。彼等はワシントンの米國會館に集つた。委員の兩側には百人ばかりの新聞記者や數人の閣員やその他の人々が居列んだ。

三、勞働卿の演説

この會の開會に當つて勞働卿ウヰルソンの試みた演説は堂々たるものであつた。勞働者側のゴムパアスも彼れの演説を稱讃せずにはゐられ無かつた。彼れは次のように述べた。

『……この理由によつて、吾人は悉く産業平和の維持を以て利益なりとする。併しながら産業的正義の基礎の上に立たずば永久的産業平和は存在することは出來ない。慥に人間の聰明は雇主と被雇人との間の關係に適用する受認し得られる方法を計劃することが出來るに相違無い。

諸君の肩上に光輝ある責任が繫つて居る。諸君の面前に機會の門戸が開かれてゐる。諸君にして若し諸君の結合したる豐かなる智力と經驗とをもつてこの種の受認し得られる文書を産出することが出來るとすれば、諸君の仕事の結果は人々の心のうちに、マグナ・カルタや、權利章典や、獨立宣言や、米國憲法や、解放宣言と同樣の地位を發見するであらう。』

四、會議の規約

第一日は勞働卿の演説があつただけで終り、第二日十月七日）になつて議事の規約が討議に上つた。其決議に依ると（一）三團體（公衆、資本、勞働）に屬する人々は何人もその自己の屬する團體の承諾無くしては議案を提出することが出來ない（二）三團體の意見が一致しない時は結果は無效である（三）各團體に屬する人々はそれの三分の一に達する時は少數報告をすることが出來る。（四）凡てサゼッションは先づ十五人の委員會を通過することが必要とされる。

この規約が決定されてから內務卿レーンが議長に選擧された。次に十五人委員會の委員が次のように定められた。

▲公衆側　チヤッドボーン、ランドン、エンヂコット、ラッセル、ウワルド、

▲資本側　ハッチンソン、オーレアリー、ラスコッブ、バアキンス、チテモーア、

▲勞働側　ゴムパアス、モリソン、ウオール、マホン、シエパアド、

五、諸提案

九日の會議には多くの提案がもち出された。公衆側のランドン（A.A.Landon）は三ヶ月間の産業休戰を提議した。勞働側のゴムパアス（Samuel Gompers）からは鋼鐵ストライキについて行はれてゐた仲裁を中止することの案がもち出された。ロックフエラア（John D. Rockfeller）もマックナッブ（Gavin Mcnab）からも夫々の提案があつた。この

外に勞働側からは更に重要な提案があつた。それは十一ケ條から成つて居る。

一、賃銀勞働者のトレード・ユニオン及びレーヴォア・ユニオンを組織する權利の承認。

二、賃銀勞働者のコレクチヴ・バアゲニングの權利の承認。

三、賃銀勞働者が資本家との各種の交渉において自ら選擧したる代表者に依つて代表されることの權利の承認。

四、言論、集會、出版の自由。

五、資本家が勞働者に對して共同協約をなすべき協同團體を組織する權利。

六、勞働時間は一日八時間を超えず、日曜日を休業とし、土曜半日制を奬勵すること。オヴバア・タイムの止むなき時は一倍半を下らざる賃銀を與へること。

七、賃銀勞働者に生活標準を維持するに足る賃銀權を與へること。

八、婦人は同一の仕事量に就ては同一額の賃銀をうくる事。

九、十六歳以下の少年の勞働禁止。

十、勞働者はその從事する產業において關係ある凡ての事件に就き發言協力の大なる分前を獲得する事。
此目的のために各產業に於ては資本家と勞働者の同數の委員より成立する國民會議を設ける事。

十一、移民問題。(つゞく)

ギルド社會主義研究

『批評』は昨年の五月號においてベルトランド・ラツセルの『社會主義の陷穽』を載せました。また九月號には『ギルド社會主義の批判』を發表しました。さうしてギルド派の立場からラツセルやコールの紹介を始めとしてこの方面の紹介と批評のためには多少の貢献をしたと信じてゐます。この意味において『批評』は微力ながら存在の意義のあつたことと信じます。今年に入つてからは一層ギルド社會主義の研究に專念する考へで既に一月號には『ナショナル・ギルドへ』を表しました。さうして本號からはこの方面にもつと力を盡す考でこゝに『ギルド社會主義研究』の欄を特設しました。以後引續きてこの研究を行つてゆきます(室伏生)

ギルド社會主義原理

(ホブソンの解説の紹介と批評)

室伏高信

こゝに書き續けようとするはホブソン二つの書物(Guild Principlesin War and Peace,, National Guilds)からの引用またはその解説を通じての彼れのギルド社會主義體系の説明である。先づ『ナショナル・ギルドの創生』から着手することとした。ホブソンとはいふまでもなくエス・デイ・ホブソン(S.G, Hobson)のことである。

第一章　國家ギルドの創生

世界大戰は各國の勞働運動に一轉機を劃するであらう。しかしこの世界大戰前に既に偉大なる將來の產業不安の前兆が現れてゐた。一九一三年及び一九一四年のストライキは――坑夫、鐵道及び運輸業勞働者の――既に新らしいさうして複雜な局面を現出してゐたのである。それはたゞに政治的メソッドからのレバアションを特徵したばかりではなしに、大きな結合力と統一組織の最後の目的についての

廣大な見解とを示してゐた。またこれ等のストライキから三角同盟が續いて生れたことは無意義なことではない。戰爭のためにもちきたされた國家的感情のために産業上の事件は蔽はれてゐるのほかはなかつた。しかしそれは矢張り消えてしまつたのではなかつた。この事實を閑却しての改造計畫は幻滅の運命をもつてゐたのであつた。

一九一四年における地位を評論するためにはその以前に遡つて考へる必要がある。

一八八〇年代及び一八九〇年代においては、勞働組合會議は殆んど絶對的に熟練勞働者から成立した非常に保守的な團體であつた。それはそれ自身と雇主との間に現狀維持を保つことに滿足しておつた。代議士のブロードハアストやピッカードが最も有力でもあり、また代表的な指導者であつた。その指導者達は彼等の小さい王國のうちで景氣もよく、滿足もし、また他からの煩をうけまいとして心を勞してゐた。しかし三つの出來事が彼等の靜寂を破つた。ドック・ストライキ、それは不熟練勞働大軍を政治的及び産業的に覺醒せしめた。タッフ・ヴェール判決は勞働組合組織の基礎を轉覆せしめた。獨立勞働黨の侵入、それはヨークシャイアとランカシャイヤとを通じて急速に蔓延し、さうしてまた急速に熟練勞働組合主義者の思想と目的とを變更した。ドック・ストライキは勞働組合會議をしてその翼のもとにこのストライキの産物として生れた不熟練勞働者の組合をもつことを餘儀なくした。

これは自治的機關の經濟的發達の頂點にほかならなかつた。それは不熟練勞働者の群れに、彼等が産業上に容易く熟練勞働者と區別されない足場を與へた。慥に機械職工等はボーリオン鐵工場爭議の、慘憺たる、さうしてエキゾウスティングな教訓を知つてゐたのである。しかし實際の混亂はタッフ・ベール判決と社會主義宣傳との結合的の效果から生れた。社會主義者、就中獨立勞働黨は、幾度となくストライキが無用な武器であることを熱論した。即ち組織的勞働者はその目的を達するために政治的權力を使用すべきことを熱論したのである。『ストライキでなくして投票である!』かくして勞働者は政治へと侵入してゐつた。ストライキは決して無くなつたのではなかつたにしても、勞働者の興奮せる精力は政治のうへに費された。議會は賃銀勞働者に、彼等が組合の交渉またはストライキによつて得られなかつたものを與へるであらうといふことは眞面目に信じられてゐたのである。

一九〇六年に、四十人の勞働議員の一團(トランクス)が『オルソドックス』の政黨院內總務の形においてゞはないにしても、獨

立の形において現れたことは、多くの古るき議員等に不安の思を起させずにはゐなかつた。第一回及び第二回の會期には、この新政黨は非常に多くその要求を通過させた。イングランド及びスコットランドのあらゆる工業地の選擧區においては、その議席の安全を第一に考へる政治家によつて輕々に觀過することのできない前兆的な騷擾があつた。それは宛かも新らしい時代がわれ等の政治史のうちに到達したように見えた。しかしこの新政黨の指導が宜しきを得ないで、天才の政治的指導者または普通の能力の政治家でさへも存在しなかつたことの事實と離れて、產業的發展はたゞ經濟的權力が不可避的に政治的權力を形づくつてゆくことを急速に證據立てるばかりであつた。

勞働黨は政治的聰明を缺いてゐた。政治の最大の要件としての勇氣を缺いてゐた。彼れが議席を占めてゐる間に、利潤は益々高まり、さうして賃銀の購買力は益々低くなつた。一九一三年に發行された賃銀についての商務院の報告は政治的勞働黨の衰亡を表徵するものといふことができよう。この報告は一九〇六―一〇年の繁榮時代の正確な降下の方向を示した。これ等の時代において賃銀は名義上六パアセントだけ上つた。しかし實際の賃銀は十パアセントだけ下がつた。勞働黨の選擧區においては地代と小賣物價とを合せてバラウや、ダンディやグラスゴウにおいての、十パアセントからブラッパアンや、ボルトンや、ストックポートの十六パアセントにまで騰貴した。かくして賃銀勞働者の立場からしては、政治的行動の失敗であることは明らかとあつた。

（本章つゞく）

河上博士曰く

言ふ迄もなく、學問とは眞理を討究することである。故に學者は絕對に正直なるべきことを理想とする、眞理といふことゝ不正直といふことゝは、絕對に相容れぬ概念である如何なる眞理も、不正直の顏を見れば、直に其姿を隱すそれが眞理の本質であつて、不正直なる眞理と云ふことは、燃ゆる水、濕れる火と云ふが如きものである。

既に學者は絕對に正直でなければならぬ。故に學者は絕對に研究の自由を有することを理想とする。自ら眞なりと認みたることは、如何なることなりとも飽までも之を眞なりとして遊むの自由を有たなければ、眞理に到達するの道がないのである。此種の自由を學者より奪ふことは、眞理の扉を開くに是非とも必要なる鍵の一を。彼等より奪ふことである。それは學者を學者として殺すことである。

國家の職分（ギルトマンの解説）

アーサー・ヂイ・ペンチイ

人々の悪徳はそれの恐怖によつて抑へられるべきものであり、善い人々は悪い人々の間に安全に生活し得、また悪い人々は法律によつて罰せらるべく、更に刑罰の恐怖によつて害悪をなすことを止むべきである——これが法律が作られたところの理由である。

（西暦六百四十年、スペイン、ゴードの王チンダスヴィントウによつて作られた、ゴード及びローマ系の法律集、フユウロ、ヂエツゾより、マドリツト、スペイン國民圖書館において。）

協同主義思索の時代が、今日人々が將來の社會における國家の特質を考へる時に、それの第一の職分は組織のそれであるといふ假説から始めるところの社會論をそれの中に含んだのは、混亂の典型的のものである。サンヂカリストは、現實の彼のより確乎たる把持力を以て、國家は極端に悪いさうして無能な組織者だと思つて、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○よい辯護を見出し得ないならばそれは邪魔物であるといふ斷案に到達する——それは組織を國家の第一の職分だと考へることに對して私がそれからなにらの逃け道をも見出し得ないところの斷案である。

ナショナル、ギルドマンは、國家をよく整へられた社會にとつて本質的のものとして承認はするが、必ずしもこの矛盾から逃れ得なかつた。ホブソン氏は組織の思想が國家の第一の職分であることを斥けるが、それを精神的のものだと考へる、教育、即ち、對外政策や、公衆衞生や、地方自治等の例外を以て、彼の論點を辯護するために、彼が與へてゐる例は、私には精神的よりも、より世俗的に見えるのだが、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○それはキルド會議が取り扱ふに適しない活動の存在を暗示する、しかしそれは我々に指導たるべきなにらの明確な原理をも提供しない。ホブソン氏の「精神的」の理解は私のと異なつ

てゐる。さうして若し國家が組織者としてそれ自らを論證し得ないならば、それは確に精神的影響の如きことをなし得ないと私はいふであらう。それが今日ある精神的影響を行はないのみならず、國家が過去においてそれをなしたかどうか疑はしい。かへつて國家は、それがそれの保護の下に企てたいかなる精神的活動にも有害な影響を行つたやうに思はれる。大抵の國民は、英國々敎々會（アングリカン・チアチ）に對する國家の影響が最も壓制的のものであつたことに同意するであらうしかし今日存在してゐるところのこの敎會――高敎會（ハイ・チアチ）――のある派において國立制度廢止の主張者が見出さるべきであるのは意味あることではあるが。我々の國民敎育制度を辯護すべき、或は敎育事業における國家の參與は兎に角それの助長者の期待を充たしたことを主張すべき何人もが見出されないであらう。また、更に、國家によれる藝術の保護が洞察と理解とのなんらかの程度を示すことを何人か主張し得ようか？　これがさうでなければならないのは物事の性質においてであると私は信ずる、なぜなら國家は現世の現世的なものであるから。それの注意を誘ふところの現世の力の問題は精神的の物事の成長と發展とに有利な雰圍氣を創造すべき傾向がない。

若し、然らば、國家が組織者として論證さるべきでなくまたそれは精神的作用を行ひ得ないならば、いかなる立脚地においてそれは論證さるべきであらうか？　歴史の經驗は答を與へる。國家の作用は社會に對して保護を――第一に軍國的保護を、次に公民的保護を、最後に經濟的保護を――與へることである。私をして先づ經濟的保護を論證せしめよ。なぜなら若し私が全く理解さるべきであるならば私が現代の政策と甚だ異なつたあるものに說き及ぼすことを明かにすることが必要であるから。保護は二枚の刄の劍である、さうして丁度祝福の如く容易に呪咀であるかも知れない。海を越えた經濟的の敵に對する保護はある安定な經濟組織の必要な必至的締結である。しかし國內における經濟的の敵に對する保護は第一義的必然である、なぜならそれは利已的使用に對する勞働者の保護を意味するから。それはギルドの復興を含む。これらを免許することによつて國家は社會に對して經濟的保護を與へる。

この種類の經濟的保護と軍國及び公民的保護との間の關係は一見して明瞭でないかも知れない。しかし僅かばかりの思想が多分彼は相互に頼つてゐることを示すであらう。總てのこれらの保護の形式はこの共通した一つのことを持つてゐる――卽ち彼等は掠奪者の劫奪に對して社會を守護することを求める。經濟的保護、卽ち、特權は、掠奪者をし

て詐欺の手段によつて彼の目的を確保させないやうにするために、ギルドに對して要求せられる。公民的保護は、同様の型の人をして個人的暴行によつて彼の目的を確保させないやうにするために、要求せられる。軍國的保護は、この型の人々になれる隣接した國民の支配の止むを得ない結果であるところの外國からの攻撃に對して社會を安全にするために、要求せられる。この見地から諸國民の一致しない心理が說明されなければならない。國際法學者は、群集と考へられて、人々は全世界を通じて甚だ類似してゐることを斷言することにおいて正しいかも知れない。けれども實際的の事柄において相違をなすところのことは文明を支配するところの人の型である、なぜなら支配的の型は社會に對して調子を與へ、またそれは政治上に算入しなければならないところのものであるから。

國家の作用についてこの見解の明瞭な眞理は二つの事柄によつて妨害せられた。卽ち、第一に、今日において國家は甚だ多く掠奪者の自由になつてゐる、また第二に、ルソウの「人類の自然的完成」の敎義を改革者達が承認したことによつてである。第一は現存の國家に無條件の擁護を與へることに對する理由であるかも知れず、またでないかも知れない、なぜなら法律は最早「善い人々をして悪い人々の間に生活し得せしむべく」制定されないで、「富んだ人々をして貧しい人々の間に生活し得せしむべく」制定されるから。第二はより切實な事柄である、なぜならそれは、最後に彼を逐ひ出すを得るところの唯一つのこと――眞實の社會哲學――の邪魔をなすことによつて、掠奪者は國家の所有の中に確立する傾向を持つてゐるから、なぜルソウの敎義が社會主義達の間に承認を見出したかは常に私にとつて不思議であつた。若し資本家によれる近代世界の支配が國家はギルドを壓迫することによつてそれの市民から保護を撤去する時に、資本家は、自然陶汰の過程によつて、社會のより遠慮深い人々の生活を支配するやうになるといふ假說から說明されるべきでないならば、それはいかにして說明さるべきであらうか？「制度」を非難することによつて資本家に個人的責任を免除することは純粹に無意味である、なぜならそれは個人の意志から、殊にそれの支配的の型であるところの資本家から離れた社會組織を豫想せしめるから、より以上に資本主義を資本家制度といふことはそれ自ら讃稱である、なぜならそれはなにら意味において制度でないから。それに反して資本主義は渾沌たるさうして秩序のない生長である、またそれへ秩序をもたらすべきであらゆる努力は行き渡つてゐる混亂を增すべく反動する。

彼等は之の嫌惡——原罪——に對する唯一つの合理的論證を否定することにおいて誤まつてゐる。私はこの事實の正直な承認を主張する、なぜなら私はそれを離れてギルドはいかにして復興さるべきかを見出されないから。恰も近代議會制度が人類の自然的完成の教義の政治的表現であると同樣に、中世紀におけるギルド制度は原罪の教義の政治的表現であつた。このことに關してなんらの二つの見解も可能でない。中世主義者に、惡漢は作られると同樣に生れるまた近代世界を壓迫する如き惡漢崇拜の生長を防止すべき唯一つの方法は人々における惡傾向の存在を正直に承認し且つ從つて法律を制定することであるのを悟つた。彼等がそれの先占めや、買占めや、僞造の、種々な形式において利益を得ることを壓制すべく求めたのはこの理由からであつた。なぜなら彼等は、惡漢等は危險な人々であり、また彼等を支配すべき唯一つの方法は、仕事を初めると二つの總ての人々は彼等の仕事の處理や日常生活において嚴格な道德法に從はなければならないことを主張することによつて、首途に彼等を壓制することであるのを悟つたから。人類の自然的完成における信仰を持つた自由主義者は反對の假説——卽ち、若し人々が彼等自らの欲望に從つて行ふべく自由に置かれるならば、最上のものは頂上に來るであらうといふ假説——に基かれた。彼等は勞働者にとつての經濟的保護を拒むことになつて產業的ミレニユウムの開始式を行ふことを求めた。また同時に彼等は軍國的保護が最早必要でないであらうところの時代を夢想した。これらの幻想は兩方共戰爭によつて閉ぢられた。しかしそれの上に彼等が建てられたところの教義——卽ち、人類の自然的完成——は我々の混亂を永存さすべく殘つてゐる。それも、亦閉ぢられる時に、我々は國家の理論を取り返すであらう。

（木蘇生譯）

河上博士曰く（二）

勿論總ての人々が種々の社會的理由により樣々の束縛に甘んじつゝある現他の社會に於て、獨り學者のみが有らゆる方面に於て絕對の自由を要求する權利はない。それは當然すぎた當然のことである。只學者は學者なるが故に、學者としての本質と絕對に離るべからざる研究上の絕對自由を要求する權利と義務とを有する。國家が大學を設けたる目的の一に學問の研究といふことが無いのならば、固より問題はない。併し苟くも學問の研究を其目的の一となすならば、眞理を離れて學問なく、研究の自由なくして眞の闡明は在り得ざるが故に、大學は學問研究の上に絕對の自由を有すべきであり。假令斯かる自由は法令に規定しあらずとも、否な最初より特別なる法令の規定を俟たずしては大學そのものゝ本書であり要素である。然るに其大學に職を奉ずる敎授の一人が、研究の結果偶然他人の見て以て『安寧秩序』に危險ありとする決論に到達したりとて、其故を以て、——私は其故を以てであると解釋して居る——大學により大學より追放せらるゝと云ふことは、死刑執行人が官命によりて人を死に致したる時、彼自身が殺人犯を以て死刑に處せらるゝが如きものである。（大阪毎日より）

コールの社會主義

――ウエッブよりコールへ（二）――

甲野哲二

（六）

「過去二三年の間吾々は二重の勞働不安の中にあつた。其第一にして最も著しいものは勞働者團體の平勞働者間に闘爭的精神を鼓吹した新しい新組合主義である、然し之れと同時に其原因として又結果として勞働運動の哲學の要求とも稱すべき智識的不安があつたのである。」(World of Labour p c)こうコールは其名著の内で一九一〇年代の勞働不安時代からの勞働運動の狀態を叙述して居る。其所謂勞働運動の哲學の要求とは卽ち勞働黨の議會政策、卽ち「ストライキより投票へ」の政策の失敗を物語るものである。再びコールの言葉を借りて言へば「近時の智識的不安の歴史は其大部分「勞働」が初期のフエビアン主義者のインスピレーションを消盡してパンチがシドニー・ウエッブ主義 "Sidneywefficalism" と稱したものから漠然とサンディカリズムと云はるものに其光明を求めたことである。」(Cole.op.cit. p. 3) 當時における物價騰貴に依る勞働不安とこの際におけるトム・マンやベン・チレ・ットのサンディカリズムの宣傳は勞働者をして勞働黨から分離の傾向を表はさしめたのである。フェビアン社會主義の子として生れた英國勞働黨の失敗はまたその親であるフェビアン社會主義の失敗でなく其はならい。そしてフェビアン社會主義はシドニー・ウエッブの人に依つて指導せられたものである。だから當時に於ける勞働者の勞働黨に對する失望はまたシドニー・ウエッブに對する失望である。

この勞働不安とサンディカリズムとから生れたものはギルド社會主義であつて、オレーヂの提唱した所である。オレーヂを中心として雜誌「ニユー・エーヂ」を圍繞する論客

は英國で「サンデイカリズムの波」が引き去つた後勞働黨の卽ちウエツブの集產主義とサンディカリズムとに對して批判的態度を以つて之に臨んだのである。そして勞働運動に對して理論的根據を提供せんとしたのである。だから其方向は先づウエツブの集產主義に對しての批評から始まるのである。其中樞問題は實に產業管理權の問題であつた。

ウエツブの國家社會主義が產業管理の內容を一、何を生產すべきか、二如何にして生產すべきか、三雇傭條件を如何にすべきかの三つに分析して、この三つとも國家の手によつて決定せらるべきであるとして居るのは前號旣に詳論した所である。サンディカリズムは勞働者——生產者專制を主張してこの三個の產業管理なるものは共に生產者の手によりて卽ちサンディカの手によりて決定すべきものであると主張する。故にサンデイカリズムはコレクチビズムと共にマルクスを其祖師とするものであるがこの點は正反對の立場に立つものである。そして、コール——ギルド社會主義の理論家としてのコールはサンデイカリズムに對して「サンデイカリズムは他の生々した學說と同じく、其主張する所に正しく其否定する所において誤つて居る、」(前掲書三七六頁)との批評をして、其產業管理權の問題についてサンデイカリズムの立場を認容して居る。

集產主義の產業管理卽ち國家の產業管理の缺點は何であるか。其はラツセルの言葉を借りて言へば次の通りである「建設の本能によつて靈感せられた仕事は之れが面倒であり、困難であつても滿足である、何となれば其努力は恰度野兎を追ふ犬の努力の樣に自然だからである。現在の資本主義制度の重要な缺點は賃銀の爲にする仕事は創造的衝動に付け口を提供することが少ない點にある。賃銀の爲に働く人は其作るべきものに關して、撰擇をなし得ないで全過程の創造は、其爲さるべき仕事を命令する雇主にのみ集中するのである。……然しこれは國家社會主義によつても避けることは出來ぬであらう。社會主義の社會にあつては、國家は雇主であつて、各個の勞働者は其仕事に對して現在における樣に管理することが少ないのである。彼のなし得る管理は政治機關を通じての間接なものであり、相應の滿足を與へるにはあまりに輕少であり、遠廻りである。或は恐る其時には自治の代りに相互の干涉を增加しないだらうかと。」(室伏高信譯社會改造の原理　一三九—一四〇頁)
このラツセルの攻擊はまたコールの攻擊である。そしてこの批判的態度を分析して見るとその一つは國家社會主義を以て官僚主義であり、其二つは國家社會主義を以て國家資本主義であり、其三つは國家社會主義が消費者本位である

と言の三點である。

(七)

「ギルド社會主義者の任務は國有に反對し、または之を主張することにあるのではない。ギルド社會主義者は勞働者の心に其根據を得つゝある産業統制の思想を單なる思想として止めて置いてはならないことである。」(Cole:-Self-Government in Industry. p. 224) とコールが言つて居る如くギルド社會主義は國家社會主義に對する批評を以つて能事とするものではない。けれどもウエッブよりコールへの道はどうしてもギルド社會主義の國家社會主義に對する批評を通過しなければならない。そしてそれは主として前にも言ふ通り産業管理の問題である。

第一の問題は何が、何時、何處で、何れ丈け生産せらるるかの問題である。何か生産せらるべきかの問題は實際生産する生産者にもまた社會に對しても一の問題であつて、それは生産の問題は生立生者が生産者としてのみ決定すべき問題ではない。サンデイカリズムは生産者專制を主張してこの問題も亦生産者自身の勞働組合會議と勞働取引所の決定すべきものであるとなしておるが、それは徹底した意見ではない。何となれば勞働組合會議も勞働取引所も單に變裝した國家であり、都市であり、彼等は不完全な消費者の組織であつて、眞の生産者の團體たることを得ないからである。斯くの如くギルド社會主義者はこの部分の生産管理については之を生産者に其全權を渡すことを欲しないのである。彼等は明かに貨物か其用に應じて生産せらるる人、卽ち消費者によつて何か生産せられ、何時、何れ丈け生産せらるべきかが決定せられるので、貨物の依つて生産せらるる人々によつて決定せらるべきものではないと主張する。

然しこれは生産者が個人的消費者と國家とに對して無責任であることを前提とする。現時の資本家は現論上恰度こんな地位を占めるものである。たゞ公衆は其購買力によつてのみ其を統制することが出來るが、將來の勞働組合がかかる地位に置かれたならば消費者はこれを統制することが出來るであらうか。勞働組合がトラストの樣に利潤を目的として生産するときに、消費者の勢力はたゞ其ポッケットにするのみである。然しかゝる地位に置かれたにしろ、勞働組合はトラストと同樣に市場の需要を考察した上で其生産を遂行するに至るであらう。然るに勞働組合が利潤を目的とする團體でなくして其組合員は其生産物の販賣價格の如何に拘らず支拂を受くるときは、消費者には他の統制方法がある。かゝる場合に勞働組合は消費者の團體と商議を行

はなければならない。彼等は國家と商議を行ひ組織的消費者の意志としての國家に依つて導かれなければならない。また次の樣な場合も考へ得る。卽ち國家か勞働組合に命令を下し、其生產物を全體として支拂ふことである。この方法に依つても國家は產業を統制することが出來るが、ギルド社會主義者は第二の場合卽ちギルドと國家との商議する制度を取るのである。この點において彼等はサンディカリズムの生產者專制より逃れ、國家社會主義の官僚主義的傾向から免れんとするものである。

（八）

第二の問題は生產過程の問題卽ち如何に生產せらるべきかの問題である。そして最も問題となるのはこの第三の問題である。この生產過程の問題に關して勞働組合が保守的態度を採つたことに就いてはウェッブの說いてをる通りである。彼等は機械の使用に反對し、時代遲れの生產方法を固執することもあつた。斯樣な態度は勿論賃銀の低落と失業の豫想とからである。然し、資本家階級の無慈悲の前に立つて勞働者階級が外の態度を採り得たであらうか。勞働者は機械の使用に依つて其終局において生產物の增加によつて利益を見たも知れない、然し乍ら、機械使用の當初においてはそれは賃銀の低落と熟練工の失業とを意味したものである。だから彼等の機械に反對したことは特殊の狀態からである。機械の使用が資本家を利益するのみで、何等勞働者を助けない場合において彼等は之を歡迎しなかつたのである。けれども勞働者が其勞働を輕減し得るときには之を歡迎したのである。故にもしも掠奪（エクスプロイテイシヨン）の危險の除かれた時においても勞働組合が新機械の使用に反對するとするのは單に臆斷に過ぎない所論である。けれども、將來の勞働組合がかゝる產業の過程た干與することを得るにしても、現在の團體取引と相互保險とを主とする戰鬪的なまたは共濟的な勞働組合の組織が將來そのまゝに之に當り得るとか如何はまた別問題である。

この過程の勞働者による決定についてこゝに論じなければならないことは產業民主主義の意義である。政治上において民主主義の絕叫せらるるの久しいのに反して、產業上における民主主義の發達は比較的僅少なるかの感がある。この民主主義の精神を產業上に摘要するならば勞働者は其產業過程に關しての——生產の時期、所及び其分量に關してではない——行政者を選擧し且つ之を統制しなければならない。然しこの場合、消費者がこの過程に干與する理由はないのである。消費者は其欲する所を得なければならない、けれども消費者は其のものを獲ればそれが如何にして

作られたかは問題ではない。然るに生産者はこの過程において多大な關係を有してをる。生産における安全快樂其變化は主として生産者の關する所であり、勞働における苦痛も悦樂も彼のみの關する所である、だから彼は最大可能の程度においての統制を與へられなければならない。

然し乍ら、消費者も亦生産過程について間接の利害を持つておることは事實である。其採用せらるる過程の如何に從つて消費者の支拂ふべき價格は影響を受けるのである。だから消費者は其全過程を生産者のみの統制に任してしまう譯には行かない。何となれば生産者は其費用の如何に拘らず常により愉快な、より安全な方法を採るからである。であるからこの場合勞働組合またはギルドが消費者の商業的關係でなく、組合員が常に一定の支給を受けてゐるときには、ギルドは其生産過程について國家と商議をしなければならないのである。卽ち組合工はギルドが生産の主體となり、その生産過程において國家の干與を許すときにのみ生産者と消費者の利益とを調和することが出來るのである何となれば國家の干與によつてのみ社會を團體としての生産者の掠奪から防ぐことか出來るからである。

（九）

第三の問題は勞働條件の問題である。其中には勞働時間並に賃銀の規定を含んで居る。將來の勞働組合を現在の資本家との交渉の如く國有産業における國家との商議をする純獨立の團體と見る者はこの範圍を以て生産者による産業管理の主要範圍とする。彼等は生産者の管理權を團體取引に見限らんとするものである。彼等は商務院(トレード・ボード)の擴張を以つてこの要求に當らんとするものである。けれども斯の樣な方法を以つて賃銀並に勞働時間を決定し樣とするのは著しく虛妄でなければならない。何となれば、商務院の勞働條件決定法は消費者の道德的標準によつて消費者をして賃銀と勞働時間とを決定することであるからである。斯樣な方法は口に生産者の管理權を主張して、其實を與へないもので官僚的惡弊を著しく表明せるものに過ぎない。勞働委員會制度の擴張を亦同じ種類の虛妄たるに過ぎない。勞働委員會は優秀な價値を有するもので將來の産業は大いに之を利用することがあるであらう。けれども單にこの委員會のみを以つて生産者の權利を確保せしめるものと考へるのは、あまりに産業界におけるサンディカリズムの傾向を無視するものでなければならない。國家社會主義の下にあつては、他に之と競爭する産業がなければ、賃銀は其法規への反影としての消費者の好意に依つてのみ決定せられるの

である特殊問題に關しては、政府當局に對して、ストライキを行ふことが出來る、然しながら賃銀と勞働時間とに對するストライキは社會の道德的標準に對するストライキに外ならない。そして社會の見地から見れば其の道德的標準の低きことに對する非難は決して之を容赦しないのである。

而して現在の勞働組合は其賃銀と勞働時間とを管理することが必要である。何となれば其組合員はあまりに過勞にして、賃銀が少ないからである。けれども產業管理權の要求は高き賃銀と短き勞働時間とに對する要求と其本質を異にするものである。それは其本質において產業狀態と過程との管理に對する要求である。而して其要求はこの範圍においてのみ充足されなければならない。集產主義の下における勞働委員會制度と獨立なる勞働組合に依つてこの目的を達し樣とするのは無意義のことである。(World of Labour. pp352.-362)

斯くコールはウェッブの集產主義の產業管理問題を批評し來つて、其集產主義に對して次の樣な斷案を與へておる。

「集產主義は其途を開拓して、其地步を占めた。そして社會主義は今や不幸にも其大多數の反對者の心においてもまたその主張者の心においても純然たる集產主義と同一視せられておる。そして、集產主義は益々事務的となり、其感激すべき理想をも失ふに至つて、社會主義は煩悶しておる社會主義は之がサンディカリズムにある長所を採取して集產主義の長所と之を調和せしめることにおいてのみ、生氣ある敎義となることが出來る。」と。(World of Labour. 368-369)

斯くては彼は其主張たるナショナル●ギルヅ若しくはギルド社會主義を提出したのである。

(十)

然らば斯樣な集產主義の產業管理權問題の批評から出發したギルド社會主義の根本精神は何であるが。彼等は「自由の要求」がこれであると答へる。國家社會主義者の要求した所は物質的の安寧であつた。彼等は物質の安寧のみ、言葉を換へて言へば貧困を根絕することにおいてのみ人間の幸福を增進し得ると考へたのである。であるから彼等の目的は「貧困の豫防であり社會の各員に對して文明生活の最少限度を確保することである。故に人々は住居と食物と衣服とを與へられなければならない。」斯くて彼等は單なる物質主義者と化し、社會改良主義に墮して行つたのである何となれば社會改良主義は實に物質主義の子であるからで

ある。

「勞働者の物質的束縛は其精神的束縛の結果である。彼等は貧困である。何となれば彼等は奴隷であり、そして貧困ではなく、奴隷が資本主義の據る基礎だからである。」故に國家社會主義者の樣に其根本に遡らずして、其末葉にのみ着眼するのは根本的誤謬である。然らば其勞働者の奴隷的狀態とは何であるか。現代資本主義制度の下における——そしてまた國家社會主義制度の下においても存在すべき——賃銀制度がこれである。」(Cole Mell or l-Meaning of Industrial Freedom.)

賃銀制度は實に資本主義經濟組織の前提である。其勞働者に對する剩餘價値のエクスプイテイションもこの制度なくしては成立せず、賃銀制度其ものの撤廢は未だ資本主義經濟組織の撤廢を意味するものである。其賃銀制度の特徴としてコールは次の四つを掲げてゐる。

一、賃銀制度は勞働者から勞働を抽象し、從つて何人も勞働者を考量に入れずして勞働を賣買することが出來る。

二、其結果賃銀は資本家が勞働者を雇傭して利益あるときにおいてのみ賃銀勞働者に支拂はれる。

三、賃銀勞働者は其賃銀の爲に、生産の組織に關するすべての管理權を放棄する。

四、賃銀勞働者は其賃銀の爲に、其勞働の生産に對する要求權を放棄する。

而して、斯くの如き勞働者に惡影響を與ふる樣な作用は賃銀制度の撤廢と共に除去せられるが、ギルド社會主義制度の下においては次の四項を勞働者に確保するのである。

一、人間と認められ、且つ支給を受くること。

二、故に、其支給は就職時と失職時と、健康時と不健康時とを問はず行はれること。

三、其同僚勞働者との協同に行はるる生産組織の管理權。

四、其同僚勞働者との協同に行はるる勞働の生産物に對する要求權。

この四個の要求は生産者としての人々の自由を確保する爲に必ず遂行せられなければならない。(Self-Government in Industry. pp153-155) 何となれば「賃銀奴隷は人の主たる人または制度の存在する限り存在し、そは勞働者が享樂の以前に自由を得ることを學ぶことにより消滅するからである。」(Industri al Freedom. p 4)

「すべての〇〇〇の希望は專制の困難にして、闘爭の機會少なく、事實の決定がすべてのもの利益となる樣な社會の建設にある。」(Industrial Freedom. p. 32) だからギルド社

會主義者は生產者側のみを重視するサンディカリズムと異つて、之は消費者の利益をも考量に入れるのである。消費者の代表としての國家の認容は卽ちこれである。ギルド社會主義の制度の制度の下においてはコレクチビズムの制度の下におけるが如く國家は萬能ではない。國家は單に消費者の代表として、直接生產過程には干與することがない。國家は生產以外の事項卽ち生產物價格の決定、需要の綜合、敎育、對外關係を司り、地理的區域の消費者を代表するのである。だからギルド制度にあつては消費者と生產者との調和、全體としての人間を其目標とするのである。コールとメロアーの言葉を借りて言へばギルド社會主義の精神は下の如くである。

「生產または消費の孰れかの一に立脚した學說は甚だ一方的であつて、不充分である。吾人の要求する所は、兩者を考量に入れて、各相反した要求を調和すべき見解である斯くの如き學說が卽ちギルド社會主義であつて、產業管理において、生產者と國家との協同の觀念に其基礎を置くものである。ギルド社會主義は國家は必要なるものと認め且つ、純化せられたる議會を必要とする。ギルド社會主義は社會主義の諸目的中の一として餘剩價値の社會化を認め、この目的の爲に消費者は產業的事項に干與する權利を有することを認める。同時にギルド社會主義は社會主義第一の要求が勞働者の手中に產業的權力を置くことであり、斯くの如き產業的自由の存するにあらずんば社會組織のすべての變革も要するに官僚的虛妄に過ぎずとする。……而して其の實現の手段としては勞働組合によるものとし、其手段は實に勞働組合主義に對する革命的手段である。この革命的手段は卽ち生產者の產業管理權の要求である。」(Industrial Freedom. pp. 7-8)

英國勞働運動の推移を見るものは、何人もこのギルド社會主義的傾向を見ぬものはないであらう。勞働組合における大勞働組合への運動、產業管理權の要求においての國有の要求、これ等は英國勞働運動におけるギルド社會主義化の傾向を表はすものでなくてはならない。世はシドニー・ウエッブから新人デー・デー・エッチ・コールへと進む。ウエッブよりコールへの一篇は最早時期尚早と言ふを得ないであらう。(一九一九・一二・二七)

ギルド經濟學

エ・アール・オレーヂ

(1) 消費に對して生産の餘剩が常に存在するに相違ない何となれば賃銀、俸給、配當金の購買力によつて代表される消費は價格に計量される生産よりも常に少ないから。

(2) その餘剩は增大しつゝある餘剩である。それは『勞働の經濟(エコノミックス、オブ・レーボア)』とともに增大する。何となれば勞働の經濟は賃銀及び俸給の支拂額を減少するとともに生産物を增大することから成立するから。かくして賃銀、俸給及び配當金はその産業が益々經濟的に組織されるに正比例してその産業の生産物を購買する力が益々減少するのである。

(3) この賃銀、俸給及び配當金で吸收することのできない餘剩は、それにもかゝわらず、如何にかして、また何處かで、處分されるに相違ない。それは內で消費することができない以上は――生産について分配された購買力はそれを買ふのに不充分であるがゆゑに――それは輸出されるかまたは浪費卽ち破壞されるに相違ない。若し輸出されたとすればそれはそれの持主をして外國を債務者とすることを得せしめる。――卽ちそれは外國に貸付けられ、利子が輸出資本家に歸するのである。それに反してそれの破壞は浪費の方法及びその他の贅澤またはサボタージュの形式によつてゞある。

(4) しかしわれ等自身の『餘剩』と他の製造國の『餘剩』との『外國市場』における競爭は遲かれ早かれ戰爭へと導く。實は戰爭は不斷に減少しつゝある市場に對する不斷に增大しつゝある『餘剩』の競爭から生れる。

(5) 賃銀、俸給及び配當金に分配された額と生産物に課せられた價格との間における『相違』が『餘剩』の眞實の起原である以上は、如何にしてその價格が決定されてゐるか、何故にそれがかように價格付けられてゐる貨物の生産に分配されてゐる賃銀其の他の購買力に勝るか、またこの相違を救濟するために何ごとがなさるべきかを考へることが必要である。

(6) 如何にして及び何故には一つであり且つ同じもので

ある。價格は生産費プラス利潤によつて決定される。

(7) しかし生産費のうちには實際に賃銀、俸給または配當金に分配されない費用——卽ち a cost of overhead charges がある。overhead charges は如何なる形においても購買力として分配されてゐない費用を代表する。それは價格のうちに含まれてゐる。しかしそれは生産において分配された額のうちに含まれてはゐない。それは生産の數字のうちに代表されてゐる帳簿上の債務であるが現實には何ものにも支拂はれてはゐない。

(8) それゆゑにこの項目を含んでゐる消費體系は現實に支拂のために支出する額の能力を超えた價格を來さざるをえない。

(9) それゆゑに賃銀、俸給及び配當金をして餘剩を殘すことなくして彼等の勞働の生産物を買ふことを得せしめるためにはこゝに決定してゐるごとき費用からこの項目を除外しなくてはならない。他の言葉をもつていへば價格は今ま計算されてゐるごとき費用より以下に決定しなくてはならない。

(10) 正當な價格は生産者をして彼等の生産物の全體またはそれに等しきものを買ふことを得せしめる價格でなくてはならない——全社會を生産者と看做して。

(11) これは(a)今日計算されてゐるごとき費用以下で賣ることによつてまたは(b)簿記の要素を除外するように消費體系を變更することによつて到達することができる。

(12) これ等は二つともに終局には同じことを仕遂げる。卽ち overhead charges を消費及び生産の當坐勘定から區別された貸方計算に變更することである。

(13) この overhead charges が貸方計算のうへにあると假定せよ。蓋しそれ等は生産能力の評價に關係するものでなくてはならないがゆゑに。それゆゑにそれ等は貸方商行爲を代表する。さうしてそれ等は別々に清算することのできる性質のものである。一産業を一營業として觀察して、それの overhead charges は次の形式でそれの貸方勘定に對せしめることができる。

To credit-all the economy invold in the services rendered;
to Debt-all the charges entailed by the same.

この形式がそれである。産業の單なる貸方の貸借對照表は取引の當坐勘定から區別される。これ等の手段によつて『オバァヘッド・チャーヂ』の費用は最後の生産費から除外され、價格は純粋の費用まで引下げることができる。卽ち賃銀、俸給、及び配當によつて代表される費用にまで引下げることができる。

(14) これ等の事情のもとに、かく產業的に組織された國家においては二組の帳簿が必要である。一つはその貸方(卽ちそれの生產能力)を代表し、他はそれの現實の消費と生產とを代表するものである。

(15) 生產の目的は消費のために生產するにある。しかし消費の目的のために分配された額が生產を吸收するのに不充分であるとすれば生產の目的は失敗してゐる。われ等をしてわれ等が生產するものを消費することを得せしめる方法は生產の過程において現實に消された額に應じて價格を決定することである。それゆゑに價格はわれ等の生產能力に對するわれ等の消費の比例によつて決定されなくてはならない。正しき價格は消費をして生產に等しからしめる價格である。

(16) 消費が生產に對してゐるがゆゑに價格は費用に對しなくてはならない若し消費と生產とが等しいとすれば價格と費用とは等しくなるのであらう。若し消費が生產よりも少ないとすれば價格は費用より少ないであらう。價格はかくして消費の生產に對する比例の增大に從つて增大するであらう。しかしそれは消費が關係的に生產に對して減少するに從つて低くなるであらう。

(17) それ等の事情のもとに生產の增加は直に價格の低下に反影し、それが消費を增大するの結果をもたらすのである。同樣に、消費の減退は直ちに價格の低下に反影するであらう。

(18) 價格の目的がわれ等をしてわれ等の全生產物を消費するにある以上(他の言葉をもつていへば消費と生產と均衡を保つことにある以上)價格は、消費が生產に追ひ付つべく脅かすに從つて騰貴し、さうして生產が消費に優越すべく脅かすに從つて低下する。

(19) 費用體系が一つの體系であり、價格體系が他の一つである、われ等はこの二つを別々にして置かなくてはならない。費用體系は生產に關係し、價格體系は分配または消費に關係する。

(20) 適當な生產的社會の目的は(a)エネルギーの消耗と(b)原料及機械の消耗においての生產費を全社會のうへに公平に分配することである。生產の計算はこれ等の二要素だけに關係する。

(21) 適當な消費社會の目的は全社會のうへに生產した商品の額を公平に分配するにある。さうしてこれは價格によつて動かされることができる。

(この一文はオレーヂがドグラスの論文に從いて『ニュー・エーデ』で分析したものゝ抄譯である。)

ギルド社會主義と産業管理

ダヴルユー・エヌ・エウエア

では ない。資本家は戰爭に依つて幾多の事を修得した。資本家は社會の必要の爲に强制によつて其利潤に多くの變化の起つた事を知つた。其最も重要なことは資本家が集中の利益を實現したことである。企業合同は過去四年間に政府の管理の影響の下に異常の進歩をなした。産業は管理の目的の爲に多く一單位として取扱はれた。資本家團體または代表委員會は其行政的事務を取扱つた、そうして一工場と一工場との障壁は取り去られ、産業のトラスト化に對して其道を開いたのである。

そうしてこの運動は政府によつて注意深く涵養せられ、奬勵せられた。改造委員はすべての鐵道會社に對して合併を奬すめ、一大電氣會社を成立せしめたのである。新しい石油工業は官許の獨占主義の原理の上に組織せられ、法律的獨占主義の一種であるアーネスト・ベン氏の産業的信條は大いに歡迎せられたのである。そうしてホイットトレー委員會の計劃は産業の民主化よりは寧ろ産業のトラスト化

政治家の意圖を確實に豫見することは容易のことではない。政治家は一定せずまた變化し易いからである。選擧に際しては彼等は疑ひもなくそうである。何となれば熟練な選擧運動者は曖昧と空漠とを立派な戰術として用ふるからである。

然し乍ら本論を草する際には、聯盟派も亦自由黨も政府の産業管理の撤廢に關してある誓言を與へておる。そして彼等の計劃は眞に强固なものであらう。選擧時における急務はこれに多少の變更を加へるかも知れない。けれども選擧の政綱は一片の紙片の如きものではなく、そうして舊い諸政黨の政策を統制し、決定する最後の勞力は製造業者と商人の充分なる自由の復活を主張すべきは疑問の餘地のないことである。彼等の「改造」の觀念は實に資本主義の復活である。そうしてこの資本主義の復活の爲にすべての國家的管理の撤廢は明かに必要缺く可からざるものである。

資本主義の復活は戰前の狀態に歸ることを意味すること

を助長する爲に案出されたものである。ホットレーの提案は大産業の團結の形成を勞働者の同意と協動とを得る爲に案出されたものである。

すべてこれ等のことは國家管理の繼續または不繼續の問題に關係あるものである。何となれば繼續の反對者は官僚主義の呪咀に其基礎を置くものであるからである。それは當時非常に人氣ある議論であつた、何となれば戰時中街頭の人は社會的また經濟的作用のすべての官僚的干渉に對して憤激の情を示したからである。ドラは不人氣の女であるそうして彼女に對する偏見は容易にすべての形態の政府の干渉に對して擴張せられるのである。政府當局と管理者の失錯と愚鈍とは一般の物笑ひの種であつた。然るに彼等の失敗した仕事は統制なき資本主義が既に全然失敗に終れるものである。私達はともすればこの事を忘れ勝ちである。利潤を作る爲めの其機關は既に社會的必要を充足するに不適當なることを示した。其動機は個人的利益であり、他の動機を以つてしては全然行はれないものである。

私達は官僚主義者に對しても公平でなければならない、そうして私達をして資本主義の失敗と罪惡とを忘れしめないのは、官僚主義者の失錯である。私がこゝに論じ樣とする點は私達の採るべき道は官僚主義と個人主義との間の選擇ではないことである。個人の好むかまゝに其業を行ふと云ふことは吾々の時代には行はれない。個人的資本家は善にも惡くにも其賣買において自由なる人格ではない。彼は何等かの形式においてこれらのことが規定せられる產業組織の一員である。彼の價格は決定せられ、彼の供給は限定せられ、彼の市場は一定されてをる。資本家はある種の官僚主義の管理の下にあるものである。たゞ問題は各產業における官僚主義の管理者が國家または資本家に責任を負ふかどうかである。

こゝでギルド社會主義に關係ある微妙な問題に觸れる。正しい計劃、民主的の計劃、常識的の計劃は慥かに產業自治の計劃である。これは確かに國家管理の集產主義制度者に反對したギルドの方法である。けれども私達は產業その者に責任のある、各產業に對する集中的支配團體と役員を持たなければならない。その組織は民主的ではないであらう。然しそこにギルドの萠芽を發見し得るのである。ホットレー委員會の提案によれば、勞働者は產業管理についてある種の發言權を持つてをる。けれどもこの制度では勞働者は發言權を持たないのである。然し管理に對する發達はもつと後期に屬する者である。私達は先づ外部からの役員を除き、產業それ自體の爲に自治を確立しなければならない。

そうして自治の確實な形態は後に之を決定する事が出來るのである。それは內部的の問題である。私達は先づ獨立を得て、それから私達の組織を決定すればよいのである。

然しそれは二つの重要な事實を考察してゐないのである其第一は非常に重要なものでギルド社會主義は社會主義であるから、ギルド社會主義の資本主義との闘爭は集產主義との闘爭よりも深刻なものであると云ふこと、其第二は私達が考へ、之が爲に活動するギルド組織は一定の國家產業管理を包含するものであると言ふことである。現今の國家は多くのギルド主義が其心から憎惡する所である。然し私達のそれを憎惡するのは國家が資本主義の武器でさうして手段であるからである。そして私達は萬能ではないが、まだ資本家の勢力のある國家によつて支配せらる官吏よりも直接資本家によつて支配せらるゝ役員を無批判に好むの愚を伎すものではない。

「自律的產業」の資本家官僚主義と「統制的產業」の國家官僚主義との間には根本的の差別がある。卽ち前者の目的は利潤を得ることである後者の目的は社會的必要を充足することである。然し私は集產主義の作用を滿足のものであると想像することは出來ない。平時における國家の產業管理は戰時におけるか如く資本家に對してあまりに寬大に過ぎる傾向があるであらう然し多少は善惡にまた有効に適當なる供給と一定の利潤の制限を爲し遂げることが出來るであらう。然るに自律的產業の役員は產業において利潤の獲得を主要目的とする人によつて任命せられ、またこの人に對して責任を有するから其產業における利潤を最大ならしめんと努力するのである卽ち前者は國家の使用人として、消費者の利益を擁護するに反し、他は資本家の利益を擁護し樣とする。これらの二つに對するギルド社會主義の選擇はそんなに困難なことではない。

ギルド社會主義者は其窮極においてギルドの內部經濟に自治を求めるものであるが、彼は產業に對する國家の管理の擴張を恐れて其意氣を沮喪する必要はない。何となれば現時の國家管理の重要範圍はギルト組織の社會における政府制度の干與すべき方面だからである。それは主として生產過程においてではなく、賣買に關しての管理である。國家が生產の價格を決定しなければならぬとするのは立派なギルドの原理である。資本家の獨占主義的團體に價格の決定を一任すべしとはギルド主義でもなければ常識に合するものでもない。市場に對する國家管理の維持は利潤の獲得に對して大打擊を與ふるものである。何となければ現今財產の獲得は實際上の生產者の利潤においてよりも寧ろ市場の賣買における掛引きにおいてであかるらである。この作用を廢して、利潤を費用に對する正當な報酬とすれば、公共收用に必要な仕事を容易にするであらう。もしも國家の管理を廢して新しい資本家合同をして自由に活動せしめれば、未だ嘗て聞かざる暴利の獲得を容易にするであらう。

クロポトキン研究

（一）

私はこゝで森戸君の論文の學問的價値を判斷せんとするものではない。それは森戸君の論文といふよりはクロポトキンの論文である。クロポトキンの論文を綜合して發表したものであるに過ぎない。○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。特に今日の日本のごとく言論の不自由、著作出版の不自由なる官僚國においては價値ある著作は日本人の手によつて發表されることができないともに外國からもこれを受取ることができない。共産黨宣言のごときでさへ、カウツキーの『社會革命』のごときでさへ、甚だしきに至つてはカウツキーの階級鬪爭――エルフルト綱領』でさへ輸入を禁止されてゐるほどの痛ましい劣等の文化政治においては、無政府主義に關する著述のごときは殆んどこれを手にすることはできない森戸君にしてもその材料を某君（名前を祕する必要があるかないかは知らないが）に借りたといふことであるから、恐らく日本の最高學府にもクロポトキンの著述が殆んど存在してゐないであらう。存在してゐないとすれば日本の最高學府もまた怪しいものである。クロポトキンの著述すらなくて、民間の有志家にその材料を得なくてはならないといふことは、わが帝國大學の最高學府といふとが如何に空威張りであり、またこの大學の教授等が如何に學問に不熱心であつたかを立證するものである。かくのごとくに日本においては最高學府と稱する帝國大學においてさへクロポトキンの著述を收めてゐない位ひであるから、一般の人々がこれを手にするとの困難は勿論である。從つて日本の讀書界がクロポトキンについての知識に唱してゐることは見易きい道理である。○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○。これより先き既に十年或はそれ以上も前に幾多の先覺の士がクロポトキン紹介を試み、大杉榮君のごときはこの方面の○○○○○である大杉君の飜譯になるクロポトキンの「相互夫助論」のごときはクロポトキンの思想の最も根底的のものである。この書物は日本の讀書界によつてもつと大に讀まるべきものであると思ふ。また中澤臨川君のごときも最近には率先してクロポトキン研究の必要を提唱してゐるものである。また私自身も既に昨年五月の『批評』においてスチルネルやバクーニンの無政府主義とともにクロポトキンの無政府共產主義の大體を紹介した。(拙著「社會主義批判」第七章に輯錄)森戸君の論文の數頁に互る部分が私の紹介した部分であり、クロポトキンの無政府共產主義の精髓である。こういふわけでクロポトキン紹介は決して森戸君に始まつたのではない。特に中澤臨川君のクロポトキン紹介は是も多く咀嚼され且つ批判されたものとして私の敬服を禁んぜざるものである○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。

(二)

クロポトキンの思想にわれ等の傾聽すべき重要なものの存することはいふまでもない。マルクスの與へ得ざりしものをクロポトキンが與へてゐることは明らかである。マルクスの學說は、將來の社會の建設については多くの具體的のものを與へてゐないことが明らかである。『勞働階級は實現すべき理想をもたない』といつたマルクスに比して、クロポトキンは勞働階級が實現すべき理想を敎へてゐる。この意味からいへばクロポトキンの無政府共產主義はより多く建設的であるといふことができる。無政府共產主義はベルトランド・ラッセルが明快に分晰してゐるとほり、一、凡ての共同商品が凡ての請求者に對して平等に分配されること二、仕事の義務を課せざることまたは仕事に對する經濟的報酬を與へないこと、この二つが無政府共產主義の建設的方面の根本をなすものである。しかし仕事の義務が課せられることなくして仕事が行はれるといふことはある程度まではいひ得られるであらう。クロポトキンのいつてゐるとほり、仕事は人々の性理的必要であるであらう。しかしその仕事が果して社會に有用な仕事となりうるかどうか

藝術家となり評論家となり。演說家となり、政治家となるような仕事は、義務を課せられることなくして行れることであらう。しかし近代機械工業の組織のもとにおいて、多くの苦痛な勞働、多くの不快な仕事の存在することは何人も認めるところであらう。それ等の仕事が、報酬の誘因なくまたは社會的義務の課せられることなくして行はれるかどうかは大なる疑問であり、無政府共產主義はこの點において怠惰者のエクスプロイテーションの行はれることとはならないであらうか。また平等の分配を目的とするにしても何人がこの平等の分配を保障するか。一切の權力が否認されて何ものがこの平等の分配を保障するか。私は無政府主義に多くのよきものを認める。就中、クロポトキンの思想に多くのよきものを認める。しかし私は無政府主義の信奉者となることはできない。私は無政府主義の合理性を否認するものである。私はこゝにはたゞこれだけのことを申述べるに止める。クロポトキンの思想の詳らかな批評はこれを他の機會に讓ることとする。この理由からして私はクロポトキンの社會思想を無批評に受入れようとする態度を稱讃することはできない。〇〇〇。

(三)

專制政治の行はれてゐる國家にはセンチメンタルな思想が深く人心を動かすものである。私はロシアにおいてと同じく、日本のごとき久しく專制政治の行はれてゐる國家においてはセンチメンタルな思想が多くの進步的な人々の心を捕へてゐるのを見る。無政府共產主義は恐らく日本における學問あり、且つ進步的な思想をもつてゐる若き人々の間に可成りに多くの信奉者をもつてゐるように思はれる。これは專制政治のもち來した結果であると思はれる。しかしセンチメンタルな思想の弊害はそれが無批評に受入れられる點である。吉野博士に從へばクロポトキンの思想は今後大に研究さるべきであるとのことである。私もさう信ずる。既にマルクス全集が出るとすればクロポトキン全集も出版されていゝかのようにも思ふ。しかしわれ等の要求するところは無批評にクロポトキンの社會思想を受入れることではない。批評的にクロポトキンの思想を研究することである。その批評的研究の結果は恐らく將來の新社會建設のうへに量るべからざるほどのよき效果をもたらすであらうと思はれる。吉野博士に從へばベルトランド•ラッセルの

社會思想もクロポトキンから生れてゐるとのことである。ラッセルの社會思想はクロポトキンから生れてゐるとはいへないにしても、クロポトキンから多くの影響をうけてゐることは彼れの『自由への道』が明らかに證明してゐると思ふ（私はこの書物を飜譯して某書肆から出版する筈であつたがこの書物はあまり價値ある書物ではないと信じて中止した）しかしラッセルはクロポトキンの思想を無批評に受入れるほどに單純な思想の持主ではない。彼れは無政府共產主義のある部分を攝取してゐるに止まつてゐる。彼れは無政府共產主義からトルストイに行こうとするものではなくして無政府共產主義とマルクス派社會主義との攝取において、ギルド社會主義へ行かんとするものである。

（四）

○○。

（五）

○○○。

（六）

學問の獨立はあくまでこれを獲得しなくてはならぬ。學問の獨立なくしては眞實の意味においての大學なるものは存在するものではないのである。しかし學問の獨立が單に大學にのみ許されるものであるとすることは大なる誤りである。學問の獨立は一切のものに許されなくてはならない今日においては最高學問の府は決して獨り大學に限られて

ゐるものではない。今日のごとくに著述の自由に行はれる世界においては（法律上不自由を別にして）學問の研究は必ずしも大學を煩はすの必要のないことが澤山にある。例へば今日の思想界について見ても、それに生命と肉とを與へたものは決して大學教育の結果でもなく、また大學教授によつて導かれのたではない。これ等のものは却つてより多く民間の人々の自由なる研究と發表と論議とによつて得られたものである。それゆゑに學問の獨立の必要であることは獨り大學だけに限られてゐるのではない。學問の獨立を大學にのみ專擅せんとすることが既に學問の自由を阻害するものである。學問の獨立と自由とは一切の人々に與へられなくてはならぬ。

（七）

大學教授のみが研究の自由を享有すべき理由は少しも存在しない。われ等はプロシア的傳統に誤られる必要は少しもない。學問の獨立と自由とは一切の人々に與へられなくてはならぬ。われ等は今日世間の一部の人々が主張するごとくに若し學問の獨立なるものが單に大學にのみ限られるものであるとするならば、かゝる大學の特權に反對するものである。われ等は特權としてゞはなしに一切の人々に與へられる自由として學問の獨立を主張するものである。學問の獨立を許容しない國家は眞理に反對する國家であるといはなくてはならない。私はこの意味において、クロポトキン問題を機會として一切のものに學問の獨立と自由とが保障せらるべきものであることを主張する。國家が若し學問の獨立を保障しないとすれば、その國家こそ却つて無政府主義に口實を與へる國家である。私は信ずる、國家の任務は學問の獨立、研究の自由、更に發表の自由を壓迫するための機關ではなくしてそれの自由を保障する任務をもつてゐるものである。この意味において私は國家の存在を否認する學說の賛成者となることはできない。（大正九年一月十八日病床にて）

▽附記、クロポトキン研究は遺憾ながら校正の際六頁削除したため變なものになりました。

普通選擧史論

室伏高信

(十一)

チャーチスト運動が高潮に達したのは、一八三九年のフロストの暴動を最初とする。次ぎは一八四二年であり、最後は一八四八年である。一八三九年の運動が多くの犧牲者を生じて失敗に終つてから後の二年間は民衆的に沈滯した二年間であつた。政治的權利の要求によつて民衆を興奮せしむることは殆んどなかつたのである。しかし一八四一年の冬が近づくや集會は全英國に行はれ、『人民憲章』の六ヶ條と愛蘭との立法的結合を廢止することを要求する新らしい『國民請願』への署名を求むるの運動が猛烈な勢で起された。一八四二年のチャーチスト運動はチャーチスト運動の全歷史を通じての最高潮の記錄であつた。

一八四二年の國民請願に署名したものは三百三十一萬五千七百五十二人に達した。それが一八四二年五月二日、トーマス・ダンカンブによつて英國下院に提出せられたのである。

この請願の分布の研究は普通選擧の研究者にとつては看過することのできない點である。それの特質は、請願の署名者が主として都會に集中されてゐたことである。ロンドンではこの署名者が二十一萬に達した。マンチエスターでは九萬九千六百八十人、ニユカッスルではその郊外と合せて九萬二千人に達した。グラスゴウとランカシヤイアでは七萬八千〇六十二人に達した。この事實はチャーチスト運動が從つてまた世界の普通選擧の歷史のうちにおいて最も

偉大なる運動が、主として都會人によつて行はれてゐたことを立證した。就中工業地において行はれたものであることを立證した。即ちそれが賃銀勞働者の多い地方、從つてそれが主として賃銀勞働者によつて行はれたものであることを明らかにした。他の言葉をもつていふとチャーチスト運動に現はれた普通選擧運動はたゞ知識階級の空想家の運動であつたのではなしに立派な勞働運動であつた。勞働者によつての政治運動であつた。勞働者によつての政治運動がチャーチスト運動として現はれたのであつた。普通選擧運動は天賦人權論の空想のうちから考へ出されたにしても、それが組織的の運動として歴史上の記錄となつたのは社會民主主義の發生に伴つてゐた。ソーシャル・テモクラシーなる言葉の發見者がチャーチスト運動のチャムピオンの一人としてのブロンテーアであつたごとく、世界における最初のソーシャル・デモクラシーの運動はチャーチスト運動のうちにこれを見ることができる。それは決して完全な形式においてのソーシャル・デモクラシーであることはできないにしても、そのうちにソーシャル・デモクラシーの創生を見ることのできることは私の特に指摘する必要を感じてゐるところである。

（十二）

チャーチスト運動は最初選擧法改正に對する勞働階級の不滿として現はれた。しかしそれに勞働階級を結合したことの主要な原因の一つとして『新貧困法』を切り離して考へることのできないことは既に述べてきた。それは富者對貧者の問題として最初から最後迄一貫された。一八四二年のチャーチスト運動の最高潮はこの事實に對して一層の裏書を與へたのである。

一八四二年のチャーチスト運動が最高潮に達した時は未だ英國において貧民が著しく增加した時であつた。貧困法委員が工場規則によつて救貧者を出來るだけ少くすることに盡力したにかゝわらず、救貧を受くる人々は年一年と增

加するのほかはなかつた。一八三六―七年には一人當り五志五片であつたものが一八四一―二年には六志一片四分ノ三となり、一八四二―三年には六志五片四分ノ一とあつた。イングランド及びウエールスで貧民法による救助をうけたものゝ割合は一八四二―三年には全人口の九、五パアセントにまでに達した。(1)一八四一年十二月ボルトン・レ・ムーアスにおける一〇〇三の家族についての調査によると食物と衣類と並に家賃を除いての凡ての費用に當てられる費一週間に一志二片半にしか達しなかつた。この一事をもつてしても彼等の貧困狀態が如何に甚だしかつたかを知るこ用はとができよう。ペーズレーでは一萬五人の人々が救貧法による救濟をうけたほどであつた。またウヰルトシャイアでは獨立勞働者にして工場貧民と同樣の最低救貧をうけたものは三分の二に達したほどであつた。(2)

スロッソン教授の記るしてゐるところによれば移民と結婚についての統計もまたこの時代における貧困の狀態を明かにしてゐるものであつた。卽ち英國からの移民者は一八三八年に三萬三千二百二十二人であつたものが一八四一年には十一萬八千五百九十二人に、一八四二年には十二萬八千三百四十四人に增加した。結婚の數はこれに反して一八三九年において人口十萬人につき一、五八九人であつたものが一八四二年には一、四七三人に減少した。

英國勞働階級の貧困は益々加はつてゆくばかりであつた。

(1) Nicholls, History of the English Poor Law, Vol.II, P. 390

(2) Slosson, The Decline of the Chartist Movement, p. 64

(十三)

一八四二年の夏は、英國に於ける貧民の不滿を暴動の形において現はした。七月十五日、ブラックバアンに近いエンフヰールド・ムーアで開かれた集會には多くの人々がその手にピストルをもつてゐた。八月の同盟罷業は最初は賃

銀引下げ問題から起された。即ちウルバアハムプトン附近の鍛釘工は賃銀を十パアセントだけ引下げられた。炭坑においても同じやうな事件が起つた。タインの附近では船大工がその一週間の賃銀二十一志に引下げられた。その結果はみなストライキへと行かざるをえなかつた。八月の四、五の兩日に、紡績及び織物工の間に大罷工がアシトンで起された。その次の週間には武装した暴徒がマンチエスターその他の大工場町に侵入した。彼等は到る所においてストライキを强制し、蒸汽の機關の火を打消し、官權を脅かした。ストックポートとおいて、プレストンにおいて、並にスタフオードシャイアにおいて重大な暴動が起された。しかしストライキはその範圍の大きかつた割合に秩序の整然たるものであつた。

このストライキは單なる經濟運動であることはできなかつた。それは直に政治的の大示威運動と化した。八月の七日、モツトラム・ムーアにおける群衆の集會においては、彼等はチャーチスト運動が勝利を占めるに至るまではストライキを終熄しないことを決議したのであつた。ランカシャイアやヨークシャイア・ウエトライディングなその工場地からの百五十八人の勞働代表者は、二十日にマンチエスタアにおいて集會し、そのうち三百二十人の大多數によつてチャーチスト運動が勝利を得るまでは同盟罷工を繼續すべきことを決議した。さうして更に全國を通じて同盟罷業を行ふべきことさへも決議されるに至つた。『ナショナル・チャーチスト協會』はこの機會において一大飛躍を試みることを忘れはしなかつた。しかし暴動に訴へることは彼等の堅く戒しめたところであつた。フヒアガス・オコンノーアはこの點においてチャーチストの立場を明らかにした。彼れは公開狀のうちにおいて次のやうに述べた。——

『われ等をして血を流さしむること勿れ。……われ等をして神の御名において道德の力が如何に效果あるかについて世界に範を垂れしめよ』(1)

この政治的同罷盟業を普通選擧史上の史實をして興味あることであるのみでなく、また英國における勞働組合と政

治との關係の問題としても興味多い事實であつた。しかしそれは極めて短い間に覆滅するに至つた。九月の終りには『ストックポート●クロニクル』の報じたところによると全ストライキが既に仕事に歸つたとのことである。チャーチスト幹部の四人は捕縛された。マクドウル(2)はフランスに逃れた。オコンノーアもまた捕縛された領袖の一人であつた。スタフォードシャイアにおける特別委員會審問の結果、五十四人の人々は流刑に處せられた。百五十四人の人々は牢獄に投ぜられた。政府は各所の工業地に軍と大砲とを送つたのである。たゞ罷工者が生命を財産とを破壞しないかぎり、軍隊と地方官權も、ストライキを傍觀するに止めてゐた。

(1) Times, aug. 22, 1842 (Slosson, op. cit., p. 69)

(2) マクドウル (McDouall) はストライキ勞働者へのチャーチスト・マニフエストウの起草者であつた。

(十四)

一八四二年には、チャーチスト運動にとつて他の注目すべき一事件が起つた。それはチャーチスト派と中等階級急進論者との提携であつた。卽ちその年の四月にチャーチストと『コムプリート●サフレーヂ●アヅソシエーション』との間に會合が催された。チャーチストの側からはロヴエット、コリンス、ヴキンセント、オブライエンなぞが出席した。その日は丁度一八四二年四月五日であつた。最初の一日は、チャーチストの側において疑惑をさることはできなかつた。彼等は中等階級の誠意を疑はざるをえなかつた。しかし『コムプリート●サフレーヂ●アヅソシエーション』の側において披瀝した至誠のために、チャーチストの側もその疑惑を解かずにはゐられなかつた。オブライエンは次のやうに述べた。――

『私は如何なる團體においても、純粹に勞働者からのみ成立してゐる團體であつても、かくのごとくに完全に發展した民主主義的精神を見たことがない。』(1)

これはオブライエンが『コムプリート●サフレーヂ協會』を批評した言葉であつた。それはヨセフ●スチユルグ(2)の率ゐた一團であつた。このスチエルグの一派とチャーチストの一派との交渉は、たゞ名稱についての意見の相違の外は、(3)完全なる一致にまで到達することができた。スチユルグはチャーチストの六ケ條を承認した。目的においても政策においてもこの二つの團體の間に意見の一致を見るに至つたのである。

編輯室と校正室

◆言論の壓迫は資本主義の政治の最も古ろい手だ。それは差向き新聞雜誌の保證金を高くするに限る。

◆內務省の案では新聞の保證金は一萬圓雜誌の保證金は五千圓にすることになつてゐるさうだ。カウなると新聞雜誌は資本家の專有物、從つて言論もさうなる。資本家のためには萬々歲といふべしだ。

◆しかしかうして貧乏人が一切の言論を奪れた時にその貧乏人は如何にして彼れの意思を表示すべきか。かういふ風に考へて見ると政府の新聞紙法改正案は資本家の擁護案であるとともにまた階級戰爭促進案となることはないか。

◆老朽の政治家の智慧はどうせ『俠客利用』位ひのところだからしかたがないにしても若い役人達迄がこんなことを考へてゐるやうでは情けないではないか。如何に金持內閣だからといつてあまりにやり方が露骨ではないか。

◆言論の抑壓ほど憎むべきものはない。またそれほど卑怯であり、野蠻であるものはない。彼等は官權の力での壓迫に慊らずして金權によつて壓迫せんとするのである。しかし『新貧困法』に對してチヤーチスト運動のあつたがごとくに保證金引上げ案に對して日本の民衆もまた言論自由のための大運動を起さなくては止まないであらう。

◆帝大の新人として知られてゐた森戶辰男君の『クロポトキンの社會思想』に危險なところがあるにしても大學の中から森戶君排斥の運動が起るとは流石に帝大は『化物屋敷』ほどあるとつくづく感心される。

◆何んでもこの『化物屋敷』の中に巢をくつてゐる興國同志會とかいつてヒンデンブルグ崇拜、フロシア主義宣傳、獨逸的世界帝國建設を目的どする人達の團體があるさうだ。何れ頭のよくない學生等の會合であらうが何にしろ馬鹿々々しいことだ。

◆例の上杉愼吉君が會長ださうだ。上杉君といへば先頃土浦の料理店で斬り合ひまでやつたとか。こゝらが『國體精華の發揚』をしたのでもあるのか、それともこれが『暴風來』なのか。

◆上杉君も大學で若い純良な人達を瞞着するなぞはやめて『大日本國粹會』へでも入つてはどうか。それには乘馬のお稽古なぞよりも先づ刺靑を刻み、長脇差を帶び、擊劍、柔道、賭博のお稽古でもなされてはどうか。

◆田中純君が五來素川君の論文を『人間』一月號で批評してゐるので初めて五來君の論文なるものを見た。實は五來君の論文を批評するなぞは少し暇が多すぎるようにも思ふが兎に角頭の惡るい人は幾度フランスへ行つても駄目だと見える。

◆『赤』といふ雜誌の『新刊批評』は素敵に面白いものだ。一月號を見ると田中王堂夫妻共著『晚婚早產の哲理』だとか、奧野他見男著『金が欲しけりや駄文をお書き』なぞは傑作であつた。

◆尤もあの外に鎌田榮吉著『特種國の眞髓』が慶應義塾出版部から、武藤山治著『鎌田榮吉が塾長たる間は慶應義塾に寄附をなさゞることの理論的根據』が『勞資協調會』から桝本某著『專務取締役卽勞働者論』が鈴木商店から出版されることとなつたら面白いであらう。西園寺侯の『雪月花旅行記』なぞも洛陽の紙價を高くするかも知れぬ。

◆吉野博士曰く『クロポトキンは尊皇愛國の志士也』(東京朝日揭載)と。『バクーニンはザアの臣僕、マルクスはカイゼルの忠臣也』と附加へたいものだ。

定價

毎月一回一日發行	郵税
一部　廿八錢	五厘
半年分　一圓五十錢	税共
一年分　三圓	税共

但臨時特別號の代價は別に申受く

▲誌代は總て前金　▲郵券代用一割增
▲送金は可成振替　▲外國行郵税十錢

大正九年二月一日印刷納本
大正九年二月一日發行

東京市京橋區元スキヤ町三ノ一番地
編輯兼發行兼印刷人　尾崎士郎

東京市小石川區久堅町百八番地
印刷所　株式會社博文館印刷所

東京市京橋區元スキヤ町三ノ一成勢館
發行所　批評社
振替東京四五三四六

廣告

半頁	十圓
一頁	二十圓
二等一頁	三十圓
一等一頁	五十圓

大賣捌

▲神田　東京堂　上田屋
▲京橋　東海堂　北隆館
▲日本橋　至誠堂　▲本郷　盛春堂

室伏高信著

（四六版四百頁）

社會主義批判

定價貳圓四拾錢

送料八錢

注文順に發送

本書は室伏高信氏社會主義研究の第一卷である。マルクス派社會主義は勿論、非マルクス派社會主義を詳述し社會主義各派の理論的體系を明らかにし、さうして新社會主義を提唱した吾國唯一の社會主義評論であり、研究であり、講話である、

目次

第十版發賣

發行所

東京市京橋區元スキヤ町三ノ一成勢館

振替東京四五三四六番

批評社

大正八年三月二十八日第三種郵便物認可
大正九年二月一日印刷納本同年二月一日發行

批評

二月號

（定價廿五錢）

大正八年三月廿八日第三種郵便物認可
大正九年三月一日印刷發行

（定價　本號卅錢）

三月號（第十三號）

ギルド・マンの社會
（モオリス　レキット）

中世紀主義への復歸
（アーサー・ペンテイ）

中世都市のギルド
（クロポトキン）

批評社

目次

ギルドマンの社會

――モオリス・レキットの解說――

ギルド社會主義に就いての研究が本誌を始め、二三種見える様であるが、それ等は皆主として、ギルト社會主義學說の梗概であつて社會改造の根本問題の一つである社會組織について精細な研究のないのを遺憾とする。其遺憾を取り去る爲に紹介されたのがこゝに掲る「ギルヅ・メンの社會」である。これは Mawrice B. Reckitt and C. E Bechhofer の共著 The meaning of nalional Guil ds の中の第八章 National Guilds in Being の解說である。

（一）

私はナショナル・ギルヅの組織を叙述する以前に、ナショナル・ギルヅの根本精神について、數言を費したいと思ふ。

その第一はナショナル・ギルヅなる言葉が中世のギルドと混合される虞れかあると云ふことに對する辯明である。勿論、論者の云ふ通り、中世のギルドは獨占的なものであつた。けれどもこの獨占的なることは何も吾々の主張し様とするギルドの精神と異ることはないのである。中世の都市におけるギルドは其産業について獨占的であつた。然しこれと共に、其中世の産業なるものも亦都市に限定せられて居たと云ふ事實を忘却してはならない。交易の發達の爲に産業は最早都市の城壁の中に閉ぢ込められて居ないのである。これは最早國民的基礎の上に經營せられてをる。だから將來のギルドも都市のみに限定されないで國民的範圍に擴張されなければならない。然し、この基礎の上にあつても最も多くのさうして最も重要な點においてナショナル・ギルドはギルドの精神を繼承してをるのである。さうしてギルドは、其必然の結果として、色々な職權を有してをる。それは公衆がその團體を認めることであり、特殊の職業の獨占がその中に任意されることであり、ギルドの會員はそれに關聯する平等にして、自由な權利を持つことであり、仕事におけるギルド的精神の復活することである。さうしてこれ等の特權の第一步は相互主義である。卽ち國家はギルドの機能を認める、何となれば、ギルドが國家の機能を

認めるからである。この場合において國家も亦ギルドも共に社會的事項について絕對的主權を有するものではない。兩者の獨立は相互依屬の必要あるときにおいてのみ限定せらるるのである。

第二のギルドの特徵はその獨占である。この獨占なる言葉は極めて私達の耳には惡い感じを與へるが、然しそれは、利潤を目的とする、卽ち自己以外の社會の犧牲において獨占を行ふ場合である。ナショナル・ギルドが其産業の統制訓練並に他よりの干涉を斥ける爲に一特殊職業の完全なる獨占を主張するのは當然でなくてはならない。然しこの獨占は何等その個人組合員の活動を阻害するものではない。組合員は彼等の間において規定したギルドの規約に從ふからである。だからこの意味におけるギルドの獨占は寧ろ自治である。さうして其の最も重要な內容はナショナル・ギルドの自治權である。

第三の點はあまりに周知の事柄である。それはすべてのギルドの會員は同一な權利を持つと云ふことである。ギルド組織の社會にあつても、其個人の地位と特權とは其人の才能に應じて與へらるるであらう。けれども資本主義制度における賃銀勞働者の如き奴隷的階級は存在しない。換言すれば勞働は商品にあらずとする原則卽ち勞働人格主義が樹立されるのである。彼等は最早他人の利潤の爲に勞働をするのでなく、社會全般の利益の爲に勞働に從事するのである。こゝに彼等が資本主義制度においては發見することを得ない勞働の喜悅を見出すことが出來るのである。

(二)

ナショナル・ギルドは一定の產業に從事するすべての勞働者から成立する民主的な、自治團體であつて、國家と協同して其の產業を經營するものである。各々のギルドは國民的基礎の上に組織せられ、其最高の權力はすべてのギルドを代表するギルド會議である。然しギルドの作業の多くはその國民的組織の上において行はれるのではなく。ギルドは其工場から出發してギルド會議に終ると云ふ如く、其出發點は中央集權的のものではなく寧ろ地方分權的のものである。だから工場に出發するギルドは其最終の機關であるギルド會議に至るまでに、ローカル・ギルド會議とディストリクト・ギルド會議とがある。これ等の會議において數多のギルドの代表者の會見を見、その地方的產業の密接な關係から之れはギルドの生活と自治との中心となるものである。

(三)

私は既に一通りナシヨナル・ギルドを其の外部から觀察した。次に私はその内部から之を見たいと思ふ。其第一の問題はその組合員の加入と除名の問題とである。數年前ギルド社會主義者の一團がその宣傳の爲にギルド組織の「梗概」を書いたことがある。この「梗概」は出版されたものではないがギルドの組織、其相互關係並に其の社會との關係を取扱つた極めて便利なものであるから之を引用することとしよう。

「産業ギルドへの加入には何等の試驗をも課すことはない。各人は自由に其加入すべきギルドを選擇することが出來る。さうして其の實際的加入の問題は勞働の需要によるのである。……　……」

「技術的智識を必要とする職業にはその加入に二つの制度がある。その一は、その職業を修得する專門學校へ入學して、其試驗に通過する制度である。その二は資格試驗である。…………」

組合員除名の問題に關する權利は勿論ギルドの有すべきものである。けれども其運用については深甚の注意を必要とする。その第一は除名權がギルドの役員にあつてはならないことである。かゝる官僚主義はギルドの精神に反するからである。其組合員が適任であるか否かを決定するのに最もよい地位に居るものは彼と共に作業する人々である、さうしてこれ等の人々のみ其除名を正當とすることが出來る。またギルド・マンとしてではない理由の下にかゝる要求の起つた時には他の地方の同職ギルドに彼を移す機關によつて處分しなければならない。

(四)

次にギルド・マンの報酬のことを考へて見よう。ギルド・マンの報酬は其成し遂げた仕事の分量によるのか、其必要とする所にするのか、または其ギルドにおける地位によるのであるか。「結果による支拂」は現在の資本主義制度の下において見る所である。賃銀制度の下においてはすべての仕事は其結果によつて支拂はれる。其の結果仕事は粗惡になり、勞働者は其良心の痲痺を意としない。この樣な狀態を改革すべくギルドの思想は生れたのである。だから私達はこの第一の命題は極力を之を斥けなければならない。その第二の命題は最も合理である樣に思はれる。けれども、其必要とする所が何であるかの決定には幾多の困難の伴ふことは免れ得ない。人は各々其欲望を異にする、或る人は

簡易の生活を欲し、或る人は複雜な文明的生活を望むのである。世の官僚主義者がなす如く勞働者の生活、快樂、苦痛を標準化することは疑ひもなく奴隷國を建設することである。この點に就いは深い注意を必要とする。

ギルドの全員が均等の報酬を受くべきか、または其他位に從つて受くべきであるかは一の問題たるを失はない。資本家的精神の所用者の考へから見れば、人は皆利己的のものであるから、仕事に順應した報酬がなければ、人は働かないと云ふだらう。けれどもそれはあまりに偏した考へである。勞働の喜悅、藝術の喜びを知らざる者の言葉である。ギルドにおけるよき勞働者は其報酬の如何にかゝはらず、仕事の優秀なるを努めるであらう。然しながらもし特殊の責任があると假定するならば、其特殊の責任に對して特殊の報酬または少くとも特殊の權利を與ふることは許さるべきである。

現在において個々の組合に對する支給について獨斷的にある規定を定めるのは殆んど不可能である。けれども、私はこのことに關するギルド主義の主要な點を掲げて置きたいと思ふ。其第一は、組合員の報酬の爲に各個のギルドに配分せらるべき額は其組合員の數と嚴密に一致しなければならぬことである。乙ギルドよりも二倍の組合を有する甲ギルドに對する配分額は乙の二倍でなければならぬことである。而して其の二は、組合員の間に分配する方法については民主的にして自治的な團體としての各ナショナル・ギルドの決定によらなければならぬ。であるから其配分方法は各組合員平等でもまたは組合員の別に從つて其支給に差別を付けても差支はないのである。

要するに其根本原理はナショナル・ギルヅの會員が其勞働の結果でも、または、其必要なるべしと想像されるからでも、または、國家に對する其勤勞の價値からでもなく、ただ彼がギルドの一員であると云ふ事實によつてのみ、其配分を受けることである。

(五)

會員の問題に次いで起る問題はギルドの行政の問題である。ギルドの會員は其ギルドの行政に對して二樣の發言權を有してをる。其第一の發言權は彼の事實勞働に從事してをる工場においてと、「其一部分を構成する仕事とにおいてである。」其第二のものは、彼の職業組織を通じてである。

行政に關するギルドの基本原理はギルドの樞要なる地位における役員は一般選擧によつてのみではなく、其地位に對して必要である能力を最もよく判定し得る人々によつて

選擧されなければならない。さうしてその選擧は之によつて影響を受くべき勞働者によつて是認されなければならない。ナショナル・ギルドにおける組織の第二の形態は職業代表である。ナショナル・ギルドにおける役員制度に加ふるに職業による代表制でなくてはならない。ナショナル・ギルドにおける同一職業に從事するものは役員の直接選擧權の外に職業代表を選擧すべき權利を有するものである。この職業代表の形態はギルドを横斷するものであつて個々のギルド・マンが其勞働生活を指導すべき他の方法である。職業代表者は、ギルド・マンが産業的勞働者として選擧した代表者と共にギルドの行政に携はるからである。

(六)

前項においては個人の立場からナショナル・ギルドの行政について概略の觀念を論じたから、本項では、ギルツの構成について論じよう。乍然私達はこの問題について個々の末葉に關して居ないで其大體を語れば濟むことである。何となればナショナル・ギルドは産業を固化することを目的として居ないからである。産業の固化を避ける爲にはナショナル・ギルドの制度は仕事の、また地方の、または國民的の個性を沒却してはならないのである。自由は充分の範圍において許容されなければならぬのである。このことについても前に掲げた「梗概」を引用するのが甚だ便利である。

「ナショナル・ギルドの制度は中央集權的な一般に涉る權力の存在を包含しないものである。さうして、このことは生産方法の停滯と極度の生産物の標準化を避けるについて必要缺くべからざるものである。故に各々のギルドの地方支部は任意に新發明を採用し、一定の生産物を特殊化し、その意思と地方的の要求に其生産を適應させることが出來るのである。然し、この自由はナショナル・ギルドの權利を以つて制定した規約並に勞働時間工場衞生等の一般的條件の國民的規定を遵奉する範圍内に限られるのである。

ギルドにおける地方的自治の限界は産業の種によつて異るのである　例へば鐵道並に運輸における制度は其地方の需要の爲に生産する建築業の如きものよりも一層中央集權的である。………」

この點についてコールは次の様に云つてをる。

「國民的管理の下に置かれなければならないのは産業であつて、生産ではない。……各々の勞働は其生産に關係する限りにおいて第一に自治的でなければならない。然し乍ら交換の組織は地方當局との協同による國民的權威

によつて行はれなければならない。……勞働者の高い標準を維持することは國民的並に地方的當局の事業でなければならない。けれども其の勞働は自治的でなければならない。さうして外國よりの干渉は時々の批評として齎らされ、またはその時の不平に對する解答としては齎らされるのである。」(産業自治論、一七二—三頁)

ナショナル●ギルヅは國民的産業の基礎の上に建設されるのである。だからナショナル●ギルドの數は、ギルド組織を形成し得る主要の産業の數丈けある筈である。さうしてその形態はその作用の如何によつて異るのである。ナショナル●ギルヅの數は現今の所確定的にこれを定めることは出來ない。それはギルドの形成される方法によることが多いからである。

(七)

本項ではナショナル●ギルドの相互關係、全體としての社會に對するその關係、並にギルド内部における個人に對するギルドの關係を說述することとする。現在における産業は非常に複雜であるので二種の産業の限界を明確に決定し難いことも度々あることである。例へば或る種の人々は鐵道ギルドにもまた機械工ギルドにも屬する樣になるのである。この限界は甚だ困難なものであるから、この二種のギルドがある一定の條件の下にこの種の人々を二つのギルドに屬するとするのが最も適當である樣に思はれる。この種の關係はギルドの内部關係であるか、其外部關係は卽ちギルド相互の主たる産業關係は、其の各々の生産物の供給と消費との關係において起るのである。

ギルドの相互作用は其産業の相互依屬の範圍によつて決定せられるのである。だから其當該事項の性質に從つて、地方的並に國民的の機關がなければならないのである。ギルドの個性を發揚せしめ、其地方的利益を增進する爲には、ギルドの相互關係は地方(ローカル)並に一行政區(ディストリクト)のギルド會議を中心として行はれなければならない。國民的會議の相當する事項は國民的重要の事項のみに限らなければならない。卽ちすべてのギルドに關することは地方分權的のものでなければならないのである。

物質の交換については注意を要する事項が一つ存在する。それは、一つのギルドから他のギルドに供給する物資が其ギルドの産業の爲に用ひられるのか、また其所屬勞働者が其生活において消費するかである。例へば鑛山ギルドから鐵道ギルドに對して供給する石炭が汽車の運轉の爲に消費されるか、其所屬組合員の私人的消費であるかである。

言葉を換へて言へば、その供給は生産的消費の爲であるか、または享樂的消費の爲であるかの點である。今はその問題は産業の爲の消費であると限定して置くのが便利である。鐵道ギルドが其運轉用の石炭を鑛山ギルドから供給されると始めてこの二つのギルドは關係を結ぶことになる。この關係によつて起る幾多の問題を處理する爲に其仕事の性質に應じて、一時的の若しくは永久的の聯合委員會が設立されるのである。この委員會には各々のギルドの代表者が關與し、さうして多くの場合には職業的代表者もその中に加入することになるのである。その範圍が擴大して行くと、多少すべてのギルドの關係する事項が起つて來るのである。もしその事項が地方的のものであるならば、其事項は地方ギルドまた、地方ギルドによつて任命された委員會によつて決定されるのである。もし、そのことが全行政區劃に關することならば行政區(ディストリクト)ギルド會議がその決定に與(あづか)るのである。さうしてもつと重要な産業上の事項は各々のギルドからその代表者を送つておる國民(ナショナル)ギルド會議の決定を俟つのである。私は次にこのギルド會議の性質を研究して見よう。

(八)

ギルド會議の取扱ふべき特殊の事項は數多くある。その多くの事項を處理する爲に永久的の委員を設置しなければならない。眞にすべてのナショナル・ギルヅ全體としての問題は明かにギルド會議によつて裁決さるべき事項である。けれども其決定後における其作用については多く個々のギルドの關する所である。多くの工場法及び同樣な産業に關する規定の設定はギルド會議の範圍である。またギルド間における紛爭も最後にはギルド會議の裁決を受ける必要があるであらう。ギルド會議の主要の義務はギルド關係に對する裁決に關する最高權威である外に、ギルドの收入と租稅とを司ることである。

　こゝにおいて、私達はギルド組織以外の社會のある方面に接觸するに至つた。ギルド會議と國家との關係はギルド社會主義者の間においても議論のある所である。甲派のものは國家は其終局においてギルドの上に其權威を有するものであると主張する。けれども乙派はこの主張を以つて國家に其權威を強制すべき勢力がないのであるからそれは空論に過ぎないと批評するのである。さうして國家とギルドとの主權は平等にして對立的のものでなければならないと主張するのである。この問題を哲學的に論議するならば多くの興味を見出すことが出來るであらう。けれども私達の

立場から言へば、本質的に重要なことは生產における創意がギルドを通じて生產者にあるべしと云ふことである。さうしてすべてのギルド社會主義者はこの點について論爭するものはないのである。だから現在の所私達はこの樣な一般的規約を設けて充分滿足しなければならぬのである。ギルドはそのギルド會議を通じて、純產業的事項においては其最後の權威でなければならない，さうして，國家はその議會を通じて純政治的事項に對してはその最後の權威でなければならぬのである。政治的並に產業的に共に重要な事項についてはギルド會議と議會との聯合委員會の快定に俟たなければならない。

この規則は外國貿易並に對外關係に適用することが出來るのである。この兩事項の關係は頗ぶる密接なるものがあるので議會もギルド會議も共に其の協同なくしては所理し得ないのである。この規則はまた新事業に對して資本を供給するが如き政治的並に經濟的利害の密接なる場合に適用し得るのである。卽ちギルド社會における收入と租稅との關係において之を見ることが出來るのである。ギルド會議はすべてのギルドの生產物の賣上金の保管者で各ギルドの代表者との協議によつて其年々資本塡補並に其發達に要する金額を決定し置くのである。國家はまたその社會的需要の爲に一定のギルドより受取るべき豫算を算定するのである。このギルドの豫算と國家の豫算とはギルド會議と議會との聯合委員會によつて審査され是認されるのである。さうしてその差引金額かギルド會議によつて各ギルドに配分されるのである。斯くして，ギルドの營利を防止することが出來るし、其生產物の價格は其生產費を基礎として，ギルド消費者との合同によつて、定められるのである。

(九)

ギルド社會組織の中で尙ほ重要な問題は分配の問題である。分配問題は多くのギルド社會主義者によつて論議されたが其要を得てをるのはやつぱり「梗概」である。次にこれを引用しよう。

「小賣商業は一部生產ギルドの手で行はれ、一部は分配ギルドの手で行はれることになるであらう。そのものの生產者が生產物の性質から衣服の場合の樣に自然に其小賣を司る場合もある。この場合は生產ギルドか自ら分配を組織するのである。けれども小賣が自然的に其生產者の分離される樣な所では各地方に其支部を有する分配ギルドによつて行はれるのである。

「分配ギルドは其生產物を之が生產者ギルドまたは外國

の生産者から購入した價格において販賣するのである。……だからこの社會にあつては小賣値段と販賣値段との二つの値段はないのである。さうしてこの分配ギルドは他の非生産的ギルドと同じく、その從業員數に應じて一定の金額を受けるのである。……

「個々の消費者は其需要を有効ならしめる爲に分配ギルドの地方支部に關連して消費者組合を起すことが出來るのである。」

(十)

生産者にして生産者ギルドに加入しないものに對してはどんな方法を以つて之を遇するか。またギルドを組織し得ない人々に對しては何うか。それは相應に重大な問題であり、實際に起り得る問題である。後者に對してはギルドは何等の干渉もしないのである。それは彼等がギルドに干渉しないと云ふ前提のもとにおいてである。けれどもナショナル・ギルドに依つて行はるる産業に從事して、然もギルドに加入しない者に對して、ギルドがある權力を持ち得るのは當然である。けれども、未來の社會にあつて、ギルドの保護を受けるのを欲しない人々は少なからうと思はれるが、然し、もし、そんな人のあつた場合にはギルドはギルドに加入しない免許制度を或る期間を限つて設定するであらう。さうしてこの期間の終了と共に全産業はギルドの制度に入るであらう。

私達は大體ナショナル・ギルドの社會を觀察した。この社會にはこれ等のもの以外に尙ほ多くの事柄について考へなければならぬことがあるだらう。けれどもその主要な産業的部門においてはナショナル・ギルドの制度が如何なものか、また如何にしてそれが運用されるかは一通り說き得た積りである。（おはり、一九二〇・二・八）

中世紀主義への復歸

アーサー・ジイ・ペンチイ

產業制度を社會的、經濟的不正の基礎の上に建設して、資本家は經濟的安定を得べき空しい努力の中に、一つの絕望的方策から今一つのものへと逐はれてゐる。けれどもこれらの努力はなにものを利せないであらう、なぜなら前に橫はる危機は、その第一の利害が資本家制度を維持することにあるところの人々にとつて、滿たされ得ないから。故に彼等の板挾みがある。

それは、產業主義が結局需要と供給との間の平均が覆へされたところの社會的不正に基礎を持つてゐるからである。なぜならこの現象は、宗教改革の時に、ギルドの破壞に伴つたところの國家における均勢破壞の經濟における反射作用に過ぎないから。さうしてその時に國民は直接に彼等の生活に影響する物事の支配を失つたのである。ギルドによつて支配されないで、產業は最早人間的必要に關聯され得ない。それは、團體的にしろ、個人的にしろ、全然人間の動作力によつて支配することの不可能な群集運動にとつての題目となつた、さうしてそれ以來常に間違つて進んで來た、また同時に國家においての總ての力を强奪するやうになつた政府はつゞいてこれらの見えない世界潮流の圈內へと追ひ遣られた。

或る意味において、現在の事情は文明が流れた狀態を示し、またなんらの政策も、なんらの用意も、なんらの計畫をもたない結果であるといふとは眞實である。しかも今一つの意味においてこれは眞實でない。近代國家は、それが最近四百年間支配階級の人々が宗教改革によつて固められた不正を永存さすことを求めたからであるところのものとなつた。それは、支配階級の人々が、彼等が過古においてカトリックを汚し、高利を許し、ギルドを誤表し、また僞はりの政治經濟の理論に加勢すべく導かれたところの寺院とギルドとの掠奪によつて生活したからであつた。彼等はこれをなしたのである。彼等は國民にギルド――それはそれを通じて國民が支配を行つてゐたところの唯一つの制度で

ある——の働きを通じて彼等自らの事務を管理すべき權利を拒んだので、彼等は自ら經濟的事情を支配し得ないことを見出した。彼等が、彼等の干渉は唯事柄をより惡くするに過ぎないことを見出した時に、彼等は押し流されるやうになつた、卽ち、事情の力が終りまで持ち來したところの、しかし彼等を哀れな板挾みに過ぎ去りにしたところの無干渉の政策を採用するやうになつた。それは、事情が何事かがなされなければならない如き經過に到達したにも拘らず、彼等は、彼等が改造の事業において彼等を導くべきなんらの合理的な社會理論をも持たないのみならず、僞りをいつてゐる歷史家によつて過古において創造せられたところの中世紀に對する僻見が彼等を邪魔してゐることを見出すからである、なぜならそれは彼等をして總ての正則の社會整頓に疑念を以て眺めさせたから、ギルドを排斥することにおいて、政治哲學者はある正氣な政治理論の主要な基礎を否定し、また從つて彼等の曲解された先見を持つた心にとつて解くを得ないところの問題に對する解決を見出すべく、空しい努力の中に、誤謬から誤謬へ、妥協から妥協へと驅られた。

　中世紀的の社會整頓へ我々は歸らう、といふのは我々は決して再興されたギルドの働きによることを除いて、社會における經濟力の完全な支配を得ることが出來ないばかりでなく、より單純な社會狀態へ歸ることは必然であるから。現在の方向に沿うてのより以上の發展は〇〇〇〇〇〇導くばかりである、なぜなら〇〇〇〇は錯綜の產物であるから。それはかくの如くにして起る。錯綜の發達は混亂へ導く、なぜなら社會が或る點を越えて發展する時に、人心はそれの適當な整理にとつて必要な總ての細目の把持力を得ることが出來ないから。混亂は誤解と疑念へと導く。さうしてこれらのことが〇〇〇〇〇を產む。何人もかくの如き精神が今日盛であることを否定しないであらう。さうしてそれは近代の〇〇〇〇しつゝあるところの徵候であるといふ結論を避けることは困難である。我々は確かに曲角を廻り初めつゝある、さうして一度それが回轉されるならば、我々が中世紀的基礎へ歸るまで、なんらの塡充物もないであらう。我々は勿論階梯によつて旅びをするであらう。けれども我々は結局其處に達するであらう、なぜなら我々は、我々が我々の目的に到達するまで、なんらの休息をも、なんらの安定をも見出さないであらうから。ある途中の家にはなんらの塡充物もないであらう。それだけは確かである。

　改めて玆にいかに中世紀の經濟原理が、事情の力の結果

として、近代の實行に彼等自らを暗示しつゝあるかを誌すのは、興味あることである。我々は未だ「正當な價格」の中世紀的の觀念にまで達しなかつた。しかし收益者の沈滯にとつての境界を設けることの必要は、それの中世紀的の必然的歸結――定められた價格――を復興した。我々の崇拜物として機械を持つてゐる實際的の國民の故を以て、我我は機械が支配されようことは社會のためであるといふ思想を憤然として否認する。尙それでも機械は今日ランカシエアとヨウクシエアとにおいて支配されつゝある――それは綿と毛織との不足によつて生ずる戰時的緊急の手段であるといふのは眞實ではあるが、そのために意味のより少ないのにものともならない、なぜなら若し戰爭が巨大な偶然の事件であると思はれないで、それに對して全體の近代的制度が必然的に傾いたところのあるものであると思はれるとするならば、今日支配をして必然的なものたらしめるところの、動きつゝある力が將來においてそれをして必要的たらしめるであらうことを、我々は確信し得ようから。綿の不足は終結を告げるかも知れない。しかしランカシエアは、實際それが競爭の發達によつて他の市場を失ひつゝある如く、逆の稅金によつてそれの印度市場を失ひつゝある――さうして事情それは國內において、我々に、産業主義はそれの擴張の極限に到達したところの事實を告げる。思慮は數年前に綿の調節の有望を暗示し得たであらうに。なぜなら紡錘の常に增加しつゝある數の使用が餘儀なくしたところの需要と供給との間の平均を整理するために、質の標準を永久により低くしつゝあることよりも、かくの如き調節を導くべきであつたことが、確かによりよくあつたであらうからである。全世界の廣さを持つたところの戰爭に及ばないのにものもがその狀態に面すべく、ランカシエアを導き得なかつたことは奇妙でなからうか？　私は戰爭が將來において不可能となるであらうことを信じない。けれども彼等を別として單純な事實に面すべき人類の不本意や無能力は多くの希望を與へない。私が中世紀的の方向に從ふべき近代の經濟的行爲の傾向について與へたところの例は興味深いものである。しかし中世紀主義への復歸は社會の保存にとつて缺くべからざるものであるといふ假定を擁護する總てのものの最も強い證據はトレイド、ユニオン(職工組合)をギルドに變形することを提議するところのナショナル、ギルド(國民同業組合)運動において見出されなければならない。なぜなら彼等が彼等自らを干與さすところの發現がギルドの廢止の結果として起つたためのみならず、彼等が彼等の組織の中に相應ずる生長の原理の生長を

承認するために、トレイド、ユニオンが中世紀的ギルドの正當の後繼者である限りにおいて、その思想の中に歴史的繼續があるからである。彼等の緻密な組織を持つた今日のユニオンは以前ギルドによつて行はれたところの多くの機能——それは病人や不幸な者に時機に適つた救助を與へるところのより社會的な義務及び其の他賃銀や勞働時間の調節の如きものである——を活用する。ギルドの如く、また、彼等は政治的創造でなく、自發的により力强い人々の壓迫に對して、社會のより力弱い人々を保護すべく起つたところの自意的組織である。唯産業と相應ずる時權とを持たないから、彼等はなされた仕事に對して責任を受け、また價格を調節し得ないといふ範圍にまで、彼等はギルドと異つてゐる。從つて彼等に産業の獨占權を與へることによつて、トレイド、ユニオンをギルドに變形することを提案するナショナル、ギルドは、これまで全く本能的であつたところの運動に對して意識的の方向を與ふべき努力である如く見られる——それはチエスタアトン氏の言葉を用ゐるならば、「彼の意識を失つた或る人の稍意識的な行動の如く過去を知らない人々によつての過去への復歸である。さうしてそのプロパガンタは明白な好い結果を受けた——私にはいふべき或る道理のあるところの好い結果は、それに含められた仕事の量に對しては、或はそれの主張者の注意となる財源に對しては、全然釣り合はないものであつた、さうしてまた從つて結局、それは意識された必要を物語り、更に社會における均勢は、人々がギルドの思想を、平衡を回復する手段として本能的に擁護するほどにも、覆へされて來てゐるといふ假設においてのみ説明され得るものである。

ギルドのプロパガンダは、或る外的の偶然の機會なくしては、それが持つた好い結果を以て伴はれなかつたであらうといふのが安全である。第一に議會と〇〇〇〇〇〇とに對する增して來つゝある不信がある。第二に個人的不安と大きい組織の發達に伴なつたところの個人的獨立の損害との大きくなりつゝある意識がある。それから、國内に實際生命的な問題に應ずるためのかくの如き方法の全く不適當であつたことを多くの國民に告げたところの、また集產主義と官僚政治の巨大な發達との經驗を勞働者に與へたところの戰爭と軍需品令とがある。故に殆んどあらゆる人々は或る〇〇〇〇〇がなされなければならない、さうして前方への道は通り得ないで、後戻りをする以外に採るべき道がないといふことを感ずるやうになつて來た。私は、勿論、ナショナル●ギルドマンはかくの如き程にならないであ

らうことを知つてゐる。彼等の目的とするところは、彼等が前進するものと立證し得るところのユニオンをギルドに變形する問題についてである。けれどもそれは甚だ根本的な秩序にとつての後戻りの歩みである、なぜなら最近四百年間の實行と判斷とを裏返すべき提案に過ぎないから。私は〇〇と判斷とを選ぶ、しかし私は〇〇を最初に置く、なぜなら私は、現狀は、少しなりとも、それの存在を論議された判斷に負ふものと切實に考へないからである。それは第一に〇〇によつて建てられ、さうして試みられた立證は後からなされた。それが總ての近代思想の歴史である。

我々は、第一歩は勞働者にとつて産業の支配迄を讓り受けることであり、またかくするために、彼等は差し當り産業を現在の儘で受けなければならないことをナショナル・ギルドマンに同意してもよい。けれども若し彼等が近代世界を威嚇するところの破滅の中に陷るべきでないならば、彼等はいかなる方向に我々が進みつゝあるかを知るべく、彼等自らに對して充分に正直でなければならない。といふのは、讓渡しが實際に生ずる時に、含まれたところの發現を適當に論議すべきなんらの時間もないであらうからである。一つの根本的發現――甚だしく中央集權化された組織に對する民主主義的支配の矛盾――は實現されつゝある、故にその方向に恐るべきなにものもない。なんらの困難も地方自治の發達の前途に横はつてゐないやうである。困難は確かに、補はなければならない不足にも拘らず、軍隊を復員し、また軍需品の工場を閉鎖したことに伴ふであらうとこゝの無職業問題を襲ふらしい。ナショナル・ギルドマンは、その中に彼等がいかなる方向を社會が進みつゝあるかにおいて決心するにあらざる限り、この問題に面すべく資本家の如く無力であるであろふ。社會主義者も資本家的の思考方法から全く彼等自らを解放しなかつた、殆んど例外なしに、彼等は商業的關係における財政について考へる、ギルドマンは必ずしも第一に物事の關係において考へることを學んだのでないが。更にギルドの財政は、ギルドの組織か商業的組織と異なつてゐる如くに、根本は商業的財政と異なつてゐる。かい摘んでいへば、ギルドの財政は我々がそれを理解する如き財政の廢止を意味する。なぜなら今日の財政は、增加の目的のために通貨を使用する方法と手段とを見出すより以上のなにものでもなく、また明かにギルドは全くかくの如き動機に關係し得ないから、それに次いで定價の原理から適用され得るに從つて、交換の操縱によつて富を作る機會は無くなるやうに傾き、また一方では勞働者が産業を所有するやうになるに從つて、投資に對す

る機會は同樣に終らうこととなるであらう。簿記はあるであらう。しかし簿記は我々が財政によつて理解するところのものでない。この見解から、ギルドの第一の目的は、交換の媒介物としてのそれの正當な使用に對する制限的通貨によつて、整頓されない通貨の害惡に對して社會を保護することである。

産業の管理にそのやうに根本的な變化を手引きすることは、討議することが必要であらうところの多くの問題を生むであらう。なぜなら變化と共に多くの職業は自働的に終はり、また若し社會が速かに再び〇〇〇〇へ陷るべきでないならば、その事情が堅く豫想されなければならないことが必要であるから。彼等自らを無職業であると思ふところの總ての人々は、彼等は新らしい社會組織の中に吸ひ込まれて來ることの出來る如き時が到來するまで、自由な關係に置かれなければならない。〇〇を防ぐ他のなんらの方法もない。當分過剩の勞働者は土地に置かれなければならない、なぜならこの方策はその事情を直に救ふ功德があるであらうばかりでなく、農業の復興は社會をそれの基礎において强固にするところの永久の利益を與へ、また一方ではそれは産業における正則の狀態を回復すべく反動するであらうからである。勿論ある差引は示さるべき必要があるであらう、彼等自らを新らしい狀態に適應することの出來ない、また恩給を與へて免職されなければならないところの舊國民の場合における如くに。

農業の復興は無職業問題を救ふにも拘らず、それは決してそれを解決しないであらう。これは大きい問題である、さうしてたゞに我々の生産方法に〇〇を豫想させるのみならず、我々の思考方法や、生活習慣や個人消費に革命を豫想せしめる。私は私の「新世界に對する舊世界」において稍精しくこの問題とそれの混亂とを論議したから、私がそこで用ゐたところの議論を繰り返へすことは私にとつて必要でないであらう。玆では唯、具體的關係におけるかくの如き變化は、機械の使用の一定の限定と共に手藝の復興を意味することをいへば足りる。手藝の復興は無職業問題に打ち勝つべき我々の努力において我々を助けるであらうことは、手藝の復興を以て、我々が、最早、整頓されない機械生産に直ぐ引き續いて伴つたところの過剩物資の問題によつて惱まされないであらうことを語る時に明かとなる。兎に角、若し人々が無職業であるならば、彼等は支給されるか、さもなければ餓死しなければならないことは明白である。彼等をして、或る無用なさうして不必要な仕事は使はれつゝある間施しによつて生活すべく强ひらるよりも、

手工者として彼等は使用することがより賢くはないであらうか？　この發現は面せられなければならない。それは最早避けられ得ない、なぜなら利用すべく殘して置かれたなんらの新らしい市場もないところの現今において、我々の過剩の生産物を外國市場に抛り出すことによつて惡い日を脫することは不可能であらうから。

普通の正氣の人々にとつて、かくの如き議論は確定的のものである。不幸にして、しかし、かくの如き事柄における決定は今日彼等にならないで、我社會の「政治的に教育された」人々により――卽ちそれの自然的本能が資本家の假想利害と現狀とにおいての虛僞の發現における彼等の心の訓練によつて惡化されたところの人々による。社會主義者と勞働者とが一般に支配階級の人々の如き我々の虛僞の大義的傳統の多くの犧牲者の如く正しいといふことは、危險を減少せしめないで增大する、なぜならば勞働階級から彼等の自然的指揮者を奪ふことによつて、それは確かに烏合の衆の法則を生ぜしめるから。それは悲劇である。しかし更にそれにも拘らず、一般に、人が今日より高く敎育さるればされるほど、より惡く彼はなるらしいといふのは眞實である。これが我々の支配階級の無能の祕密である如く、ノウスクリス新聞のまたビリング評睟の勢力の祕密である。指揮者に反抗する感情は、若し正しく解釋されるならば、實際にそれの本能の健全であるところの指揮者を得ようとする要求である。善い人々は惡いことを信ずる。それが今日の我々の根本の困難である。（ＫＫ）

「正誤」

「前號」十二頁上段（十行より）、「協同主義思索の時代が……混亂の典型的のものである」を「今日人々が將來の社會における國家の屬性を考へる時に、それの第一の職分は組織のそれであるといふ假設に始めるのは、協同主義思索の時代が社會理論を混亂の中に含んだところの混亂の典型的のものである」と訂正する。

同頁、下段、（九行）「卽ち、對外政策や、公衆衞生や、地方自治等、」を（次行）「彼の論點」の次へ入るべき誤に付き、訂正する。

ギルト經濟學(再び)

——生産と消費との關係——

エ・アール・オレーヂ

(一)

今讀者と共に消費力(クレヂイト)に就いて研究するならば、直ちに費用と價格との本來の關係についての問題を考察しなければならない。讀者も旣に知る如く私達の主張する所は公正な價格は費用の一部分より成立することである。——私達の全消費の全生産に對する比例を以つて表はされる所の部分である。之を數式に表はせば全消費/全生産であり、これによつて表はされる少數が卽ち公正なる價格である。私達は旣に私達の消費を滿足した後に殘存する生産の性質を研究したことがある。然し消費以上に超過する生産の剩餘が常に消費財であると考へるのは誤謬である。

(二)

洵に年消費に超過する年生産の剩餘の一部は消費財の一部であるのは事實である。私達はこの消費財の額でないと主張するのではない。何となれば、其額は少くとも一年の消費財の輸出額に等しいからである。けれどもそは單なる一部である、年消費に對する年生産の剩餘のより多量は消費財の形態ではなしに、機械器具並に原料の形態を採るのである。國民の生産能力が常に增加しつゝありとの假定の下に立ては、機械に用ひられた勞働は二通に使用されるのは明かである。卽ち其一は直接の使用並に直接の消費の爲めの貨物を生産するものである、其の二は生産を增進する爲の手段を改良しまたは生産する爲めに用ひられるものである。これ等の二つとも生産の形態の內に屬し、二つとも國民的生産の年額の中に加算することが出來るのである。この二つの內の第一のものは直接使用換言すれば消費の爲

の貨物から成立ち、その第二のものは斯樣な貨物ではなく、生產を增進すべき手段、簡單に云へば資本から成立するものである。

扨て私達が年生產は年消費に超過すると云ふのは、每年生產される消費財のみではなく、また、資本に加へられた改良――それには原料も含んでおる――をも加へて云ふのである。單に消費財のみに就いて見ても生產は消費に超過することが多いのである。この消費財の超過に加ふるに、同じ期間內に生產された資本改良を加へたならば年生產の年消費に對する超過は巨大なるものがあるだらう。

(三)

もう一度前論に立ち歸らう。さうして消費力は何から成立つてをるかを研究しよう。消費力は生產能力の評値の上に立脚しておる。だからある一年において、生產能力が增加したとすれば、之に附隨する消費力はその割合に應じて增加することになるのである。消費財の實際的生產が起つたかどうかは、今の所、比較的重要なことではないのである。斯樣な生產は機械の改良と共に自然に起ることもあるし、また起らないこともあるのである。然しながらある一年において機械の改良の爲に、其機械の所有者が其年の終りにおいて、其改良の分量によつて、彼の消費力を增加したとするならば彼は成績のよい年を送つたことになるのである。

(四)

こゝに次の例を示すことが出來る。

果樹園の所有者が一定量の勞働を雇つたとする。彼はこの勞働の一部分を果實の成熟、收穫、荷造、發送云ひ換れば直接の生產過程卽ち直接消費の爲の生產に使用し、他の一部を新樹の栽培、注意深い手入れ、橫木配置の改良、一言で云へば果樹栽培法の改良に用ひたのである。その年の終りになると彼は貸方の二つの項目を發見するのである。その一は果實の販賣によつて得た現金、その二はその果樹園の生產力の增加を齎らすべき資本改良の內に包含された「消費力」である。故に彼は其の生產した果實の販賣によつて利益を得た許りでなく――その利潤は販賣に際して現金となつて現はれたものである――彼はまたその消費力の增加――卽ち未だ現金として實現されないが實現の可能である消費力において利益を受けたのである。事實は彼は一年の勞働の結果として二つの方面で利益を受けた。其の生產した果實の販賣によつて得た現金と、其生產力の增加の爲

に得べき將來の貨幣とにおいて。

(五)

私達の觀察した果樹園の主人が一年の全勞働の費用――始めての資本出資の後においては通常見る所である――を其年の收穫の果實に賦してしまうと假定せよ。彼はこの費用と價格との一致を以つて「收支相償はせる」と云ふのである。さうして彼の目的は其年に支出した現金に對して、其所得たる現金を以つて相殺せんとするのである。この場合に彼が彼の林檎の消費者に賦した價格はその生産費のみではなく、生産機關としての果樹園に加へられた改良の費用をも包含してをるのである。實際には彼の生産は二つの項目から成立つのである。其一は林檎の收獲であり、その二は果樹園の財産における資本の改良である。然し實際においては彼は林檎の價格の內にこの生産の二つの項目に對する費用を含めてしまうのである。このことは、その結果から見て、彼の林檎の消費者が林檎の生産費のみではなく、その果樹園改良の費用をも負擔してをることを意味するのである。消費者はその果實に對してのみではなく、その資本に對しても支拂をしてをるのである。かくて、消費者は自分の金で果樹園の資本的價値を增進して行くのである。

(六)

このことを繰り返して云ふならば次の通りである。

生産は二つの形態を採る。それは消費財と資本の改良となつて現はれる。その前者は販賣による現金となつて現はれ、後者はたゞ消費力の增加となつて表はれるのみである。然しながらこの「クレディト」は將來において受取るべき現金に外ならないから、消費力の增加の基礎を形成する資本の改良は機械所有者の富に對する增加である。さうして、この生産能力の增加から成立するその富に對する增加こそ資本主義の全目的であり、その全意義である。

(七)

黄金の卵を生む鵞鳥は經濟生活の說明に時々使ひられる。私達は今その神祕的の鵞鳥をして、同じ役目を勤めさせよう。諸君は、その鵞鳥がまたは其卵が何れを採らうとするのであるか。諸君は答をする前に考へなければならない。もし鵞鳥と諸君が答ふるならば諸君は正しいのである。何となれば卵は實際の消費財であり、鵞鳥は生産能力のある生産者であるから。鵞鳥を所有すれば諸君は常に卵を得ることが出來る。もし卵を取るならば、それは消費財であ

るから、やがてはその富は消費されることになるのである。扨て、私達はこの想像の動物がその生産力において増加することが出來るとして見よう。私達はこの鳥が一年間、百の代りに十二の卵を生む樣に操縱し、さうして特殊の食物によつて飼養することによつて、その將來における卵の生産力を右の最高限から二百の最高限まで增加することが出來ると假定する。さうすると私達は、その當時において、百と十二との差額に相當する丈けの金額を損失することになるのである。然し、この犧牲に對する報償として鵞鳥はその年の終りには以前の價値の二倍を生産し得る能力を供へることになるであらう。だから私達の現金取引は百から十二に低落しても、鵞鳥との取引においては多くの利益を得たのである。何となれば、私達は現金で十二の卵分を得、それに加へて、私達の消費力を二倍とすることが出來たからである。さうして、私達が十二の卵の價格の中に鵞鳥の特殊の食物等の費用を加へたならば、吾々は消費者をして鵞鳥の價値增加に對しても支拂をなさしめたことになるのである。(ニユー・エーヂから)

▲マルクスの逸話(村上正雄)

この書物主としてリープクネヒトの著書からとつたものである。マルクスの人物を知るためには是非一讀の要がある。(價一圓半　芝區三田書房發行)

□次號豫告

ギルト社會主義の創生

室伏高信

室伏氏病氣のため本號には書けなかつたが次號にはこの豫告のごとき一大長篇を草する筈、中澤臨川氏も多分次號あたりには何か書いて下さることと思ひます。

小泉信三論

十二月の社會政策學會大會は勞働組合を其討議問題とした。報告者は早稻田の北澤新次郎氏と、慶應の小泉信三氏とであつた兩氏は早稻田、慶應における新進有爲の敎授中の代表的の人々である丈けに、其報告振りは興味の中心であつた。北澤氏は其著「勞働者問題」上卷があまりに內容にとぼしいので少々失望した人もあつた樣だが早稻田の人として人氣はやつぱり充分にあつた

當日北澤氏は事故の爲に原稿まとまらずとあつて缺席したと傳へられる。從つて古い時代の勞働組合に關する報告はなかつた小泉氏も亦出席しなかつた。同氏は年來の宿痾未だ意を安んずることが出來なかつた爲である。然し同氏は原稿を送つて高野博士が之を代讀したのである。氏の原稿は最新の勞働運動卽ち英國勞働運動殊にギルド社會主義に關したものであつた相である。

北澤氏は多少實際運動にたづさはつて居る點は强味であるが、其學問はどんなものだか今の所判らない。そこで北澤氏と小泉氏とを並べて見れば、そこに慶應の理財科と早稻田の政治經濟科との學術的內容がほぼ判る譯である。

小泉氏が「解放」や「中央公論」へ書いた所を見ると、氏はギルド社會主義に赴いて居る樣である。「解放」にあつた「二種のユートピア」ではモアのユートピア、モリスとのユートピアを比較して、モアのユートピアが畫一的事務的であるのに對してモリスのユートピアが創作の喜悅を其出發點とし、從つて、其生活に活氣があるのを指摘してゐる。「中央公論」にあつた「勞働の苦痛」では勞働の喜悅を以つて社會改造の第一義としてゐる樣である。

十二月の「新公論」が諸名家に「貴下は社會主義に贊成せらるるや」との問を發してゐるが、小泉氏の答は要するに次の樣なことを言つてゐる。社會主義の問題は重大な問題であつて容易に決定し得ない。けれども現代無産者階級が社會主義的傾向を著しく有してゐるが故に、必然的に社會主義に向ふものと考へなければならない。だからその際重要なことは其摩擦を最少ならしめなければならぬことであると。これで見ると氏は社會主義の必然を信ずるが如くである。然し此答は少しぼんやりしてゐる所がある、堺利彥氏の樣に人を社會主義（マルキシズム）と非社會主義と言ふ樣に分てば文句の言ひ所もあらうが、私達はそんな分類は出來ない。だから、小泉氏の言ふ程度において私達は氏の傾向を知ることが出來るのである。私は氏がギルド社會主義であらうと言つた樣に、マルクスに對しては批判的態度を採つてゐる。今度「解放」へ書いた「マルクスの價値論と價格論」はカアル・デイルの紹介であるが、氏もマルクスに對するボエーム・バウエルクの批評の一部分を承認されてゐる樣である。マルクスに對する批判的態度この點は多くの進步的學者の一致する所で、日本で純然たるマルキストは河上博士と堺利彥氏位のものであらう。だから氏をマルキストと言はず、ギルト社會主義者と言つた方がより近いであらう。改造一月號に慶應の加田君が書いてゐる所によると氏は「生産者としての人間を重視して社會組織の改造を企てなければならぬと主張する樣に思ばれる」と。

兎に角氏は慶應における花形である。塾內でも塾外でも氏は何となく評判がいい。學生も尊敬してゐるし、學界においても、一方の陣頭に立つてゐる。年正に三十二三新進のプロフエサーとして其前途に多大の期待を持たれてゐるのは氏である。（哲二）

スコット・ニアリングに就て

賀川豊彦

スコット●ニアリング Scott Nearing といふ男を是非私は日本に紹介したいと思ふ。此頃、森戸君が大學から追ひ出され、河上肇先生も、どうやら怪しいと聞くと、すぐ思ひ出すのは、スコット●ニアリングである。彼は勇敢なソシアリストである、經濟學者である。一九一五年であつたと思ふ米國ペンシルヴエニア州立大學教授で有つた彼は、あまりに富豪攻撃の手をゆるめ無いと云ふ理由によつて、あの自由の空氣の充ちて居る、フキラデルフヒア大學から追はれたので有つた。その時に私は、米國にも學問の自由と云ふものは無いと思ふたが、今度彼は、米國の過激思想取締の方針の犠牲となつて、裁判を受けて居る。

彼はその後、トレドー大學の總長をして居たと思つたが、紐育などへ出て來てよく講演をして居た。米國では餘程の評判男であるけれども、日本では、スパルゴォなどの方がよく聞こえて居るが、實際の經濟的智識ではスコット●ニアリングの方が、遙かに上であらうと私は思ふ。彼の著作には "Social Adjustment", "Solution of the child labour problem", "Wages in the United States", "Income" "Poverty and Piches" と云ふ様なものがある。皆實際的の問題を根氣よく、研究して居るので、その中でも、私は「收入論」Income には特別に感心した。よく統計的に北米合衆國の賃銀生活者の收入と、資産者階級の收入を盡してゐる。

北米合衆國賃銀分布表（男子）

一週間收入	マサチユセット 1908	ニユー・ジヤシー 1909	カンサス 1909
5弗以下	1	4	2
5弗―6弗	1	3	1
6弗―7弗	3	5	2
6弗―8弗	7	6	3
8弗―9弗	9	8	4
9弗―10弗	14	15	14
10弗―12弗	17	16	20
12弗―15弗	20	17	24
15弗―20弗	20	17	21
20布以上	8	9	9
	100	100	100
實數	350.118	204.782	20.720

北米合衆國賃銀分布表(女子)

一週間收入	マサチユセツト 1908	ニユー・シヤシー 1909	カンサス 1909	ウイスコンシン 1906-7
5弗以下	8	22	25	38
5—6	10	19	17	13
6—7	16	19	19	28
6—8	17	13	12	1[illegible]
8—9	15	9	9	3
9—10	13	7	6	6
10—12	13	6	8	3
12—15	6	4	2	3
15—20	2	1	2	×
20弗以上	×	×	×	×
	100	100	100	100
實收	144.935	68.368	3.599	21.937

一週間收入	ウイスコンシン 1906-7
5弗以下	3
5—6	1
6—7	3
6—8	5
8—9	4
9—10	20
10—12	23
12—15	30
15—20	9
20弗以上	2
	100
實收	128.334

之によつてもよくわかる通りに、今から十年前には米國の日給取りは一ヶ月八十弗を取るものは比較的善き方であつて、黄金の國と云はれる米國に於ても、勞働者は矢張り貧苦に難んで居たのである。それで彼は以上の統計からこんな結論に達して居る。北米合衆國の賃銀生活者の收入は

一年千弗以上の收入あるもの……　全數の一割(熟練工)
一年六百弗乃至千弗の收入ある者全數の四割(半熟練工)
一年六百弗以上の收入あるもの…全數の五割(不熟練工)

そして米國の勞働者は當時千五百萬以上も有つたであらうが、この大多數の勞働者が僅かに一年に千弗たらずの收入を受けて居るにかゝわらず、三百か四百の富豪が、この多數の勞働者の收入の二倍の收益をあげて居ると云ふことを知つて、彼は奮起せざるを得なかつたのである。

即ち彼は、筆に口に資本主義を罵つたのである。そして彼の有名なランド・スクール事件なるものが起つて、社會主義大學と考へられて居る、紐育のランド・スクールの校長初め議員が過激思想流布の主謀者として拘引せられたが、スコット・ニアリングも、同類の巨頭としてその網を脱るゝことは出來なかつた。

米國は進んで居ると云ふ。然し資本主義の米國には資本主義本位の傳統と壓制とがある。そして、我等が米國も救ひ難しと考へられる程、色々な困難な問題があるのである。資本主義文化はそんなに深く人間の頭に喰ひ込んで居る。そして、米國の樣に金だけで固めるとまた一寸と、新しき文化に移ることは困難である。あの自由な米國でニアリングが困るのも尤もである。私はたゞこの文章では彼を新しき文化の先驅者として紹介するに止めて置かう。彼の專門が、たゞ經濟問題を基礎とする社會上の實際問題だけに止るので、理想主義的立場から紹介するに餘程困難ではあるが、アメリカ人の中のアメリカ人であるニアリングが、社會主義的理想の下に孤軍奮鬪をして居るのは、大きな劇曲中の劇曲だと云はねばなるまい。私は彼の男らしい態度に少なからず感心して居る一人である。(二月九日)

米國の產業會議（二）

森　恪

六、エリヲット博士の警告

既に此時から該會議の圓滿なる終了は豫期出來なかつた、前ハーバート大學總長エリヲット博士は次の如き警告的演說を試みた。

「私しは吾々が既に次のやうな事を了解して居ると思ふ、卽此の會議の方策が大小團體に依り遂行され且つ其の意見が記錄されない限り此の會議は美はしき結末を齎すものでないと云ふ事を。ゴムパース氏の演說は勞働者側は其の權利と稱するものに就て爭ふ爲め此處に出席せる事を示して居る。また此處に出席して居る資本側は勞働側より今朝提起されたりと聞く提案を否決せむとして居るが如き衝突の徵候は非公式の會合に於てゞあるが既に存在して居る。……………………若しも此の產業會議が資本家と勞働者の間に一生面を開き何等かの實際的效果を齎らすものにあるとするならば、吾々は新らしき立脚點に立たなければならぬ。私しはグループ、メソッドを信じない。何故ならば夫れは明かに新舊狀態に對し尠くとも事端を滋くするものであるから。例へば勞働側に依る提案の一つは現在進展しつゝある產業爭議に關係して居る。斯くの如き問題を論ずる事を此の會議に充分望む事が出來やうが。吾等は資本家と勞働者との間に新らしく且つより善き關係の生ぜむ事を明かに希望し且つ責任を負はなければならない、吾等は此の席上に新舊の同盟罷業の一つを論議すべきものであらうか。」

此の演說に對し資本側のホイラー氏勞働側のシツパード氏の駁論があつた。

七、資本側提案

資本側と勞働側との軋轢の端は十月十日の會議に發した。資本側は一片の陳述書と共に「操業開始」と「外界の人と關係なく雇人と交涉する權利」とを主張せる提案をした。此等の採案は資本側委員會に提出したものであり且つ次の十二ケ條から成立つ基礎的原則の一部分であつた。

一、產業の開發は資本家と勞働者との連帶責任なる事。

二、全體としての產業よりは寧ろ一生產單位としてのエスタブリツシユメントなる事。

三、勢働條件の安全と確保。

四、需要供給、勢働功程、會社存在地方に於て得る標準賃銀、健康と福利とに相一致せる最大娯樂、最高生活費、仕事の價格と時間の長さ等に依る賃銀の調整。賞與制度、利益分配制度、株式所有制度は研究せられ且つ出來得る限り實行する事。等しき勞働條件の下に働く男女の同一仕事量に對する差引の撤廢。

五、健康と餘暇の爲め一週間を標準勞働期間と定むる事、オーバータイム勞働は何處にても出來得る限り回避すべく休息の一日は七日より除外する事。

六、各會社に於ける爭議の決定は裁斷と指示の支配的勢力なき論議に依り決定する事。

七、集合的行動に對する自由結社の權利但し斯くの如き結社外に屬する者の强制に依らざる事。

八、雇主と被雇人とを問はず斯くの如き組合の責任は公の秩序と法令とに準據する事。

九、雇主又は被雇人としての自由契約の權利。

十、操業開始は自由たる事、此の點に關する强制は許されざる事、雇主は彼れの使用人又は使用人に依り選出されたる者に非ざる人々又は團體の交渉に應ずる能はざる事。

十一、産業を區分しA、私的産業B、公共的實益團體産業C、政府自治體直屬の産業の三とし後二者の同盟罷業權又は工場閉鎖權も認めざる事。

私的産業に付きては同盟罷業又は工場閉鎖權はあらゆる調停方法の盡きたる後の最後の方法として遺憾乍ら認むる事、同盟罷工、工場閉鎖、黑表ボイコットは非難さるべきものとす公共的實益團體、政府直屬の産業は他の組合より獨立して常に繼續せられざる可からず、不平の芟除に關しては州又は政府の施設に俟つべきものとす。

十二、職工の訓練、職業的教育、年期奉公等の爲めの産業及其の關係事業に實施すべき實際的計畫。

八、産業會議行詰

産業會議の形勢はゴムパース氏提案の鋼鐵ストライキ仲裁の爲め行詰まつた。

資本側は産業會議は鋼鐵ストライキの如き實際問題を取扱ふべきものでなく勞働問題を解決すべき原則を研究するものであつて其の性質は相談會に過ぎない。若しゴムパース案の如く鋼鐵ストライキに容喙するに於ては現今頻發しつつあるあらゆる罷業に關係せざるべからざるに至るであらうと云ふにあつた。

之れに對し勞働側は産業會議は平和會議である。鋼鐵ストライキは産業平和を破壞する事大なれば之れを解決するに非ざれば産業平和は到底望み得べきものでない。資本側にしてゴムパースの主張せし如く勞働代表との協議も拒み又は仲裁に應ぜざるに於ては假令原則を定むるとしても何等實益なきものではないか。鋼鐵ストライキが解決せらるれば自然總てのストライキは解決せらるゝであらうと云ふのである。

九、鋼鐵罷業仲裁論戰

ゴムパース提案の鋼鐵罷業仲裁案は十月十四日の會議に附せられた、會議は非常に緊張した、マックワップ（Gavin McWah）の統帥したる一派は數日間の延期を主張した、然し乍ら勞働側のシエッパード（W. E. Sheppard）は反對した、そして米國勞働組合同盟のゴムパースとジョンソン（William H. Johnson）が決議案の説明演説をした、資本側は連帶して反對の投票をした。

公衆側のエリチット博士は鋼鐵問題も該會議に附議すべきものに非ずと再論した、そして大統領が該會議に要求したるものは現資本勞働問題を取扱うべきものには非ずして新關係を取扱ふべきものなりと要求したる點より考ふるも此問題を該會議に附するは適切なるものに非ずと主張した。

公衆側はゴムパース決議案の否決さるべき事の明かなるを見越して何等推擧する事なく該決議案を推薦した。

公衆側のチャドボルン（Chadbourne）は修正案を提出した、該修正案は鋼鐵ストライキのみならず現在進行中の埠頭人足、印刷職工其他のストライキも含まるゝ事になる、該修正案は投票に附せらるゝに及むで他の三派より否決せられた。

十、ゴムパース氏演説

其の會議に於てゴムパースは鋼鐵罷業の仲裁を力説した、其の一節に曰く

「諸君は諸君の意志の儘に勿論投票する事が出來るが然し勞働側の提出せる決議案を否決する事を躊躇するであらうと私しは信ずる。吾等が資本家と勞働者との間に最善の關係を維持せむが爲めに盡す事業責任及び勞力の性質を了解して居ないかも知れない。

然し諸君は次の如き事を信じて貰ひ度い。

今や世界は異常の狀態にある。吾等を衿持さしたる戰爭の結果米國の男女は再び戰前の狀態に復舊せざらむ事及び吾等の國家及產業生活に個々の關係に於て新了解を作らればならむと云ふ事を決心して居る。

吾等は吾等の勞働事件を決定するに際し吾等は吾等の生活を優美ならしめ生き甲斐あらさしむるか否かの條件を決定するに際し吾等勞働者は單に恩惠としてゞはなく當然の權利として發言權を要求するのである、吾等は且て財產權竝びに管理權を攻擊した事もなければ攻擊するなとゞは尠くも考へて居ない。

吾等が非常に寛大に提出したる如くに鋼鐵同盟罷業調停を諸君が承認するならば諸君は同盟罷業に勝利を得る事が出來る然し若し諸君が否決するが如き事とならば同盟罷業は繼續せられ數ヶ月にして勝利を得べきも彼等の經驗せる暴虐及び耐へ得べからざる條件、不公平の事實を諸處に宣傳すべく然る時は何事が起るとも其の結果は當然負はなくてはならないものである。」

ゴムパース決議案は投票に附するに際し再度延期された一の理由はゴムパースの病氣に依ものであつたけれども、他の理由は該會議に列したる三派を滿足さすべき修正案が提出さるゝならむと云ふ希望があつたからである。（つゞく）

編輯室と校正室

◆山田わか子さんといふ婦人評論家はただ頭の古るいだけだと思つてゐたら書くことも隨分粗末だ。二月の雄辯に出たものなぞはギルド社會主義とナショナル・ギルドとを別々にするほどに滑稽以上だ。イクラ女だからといつて、も少し注意した方がよくはないか。

◆二月號の諸雜誌の論文のうちで一番に興味を感じたのは高橋誠一郎君(慶大敎授)が三田學會雜誌で書いてゐることである。氏は慶大新進の敎授として知られてゐるがその先進敎授で世間からも學校内でも嫌はれてゐる田中萃一郎君を手厳しくやつつけてゐる。それが同じ三田の學會雜誌だから一層面白い。

◆高橋君の述べてゐるところはかうだ。『吾人はマルクス全盛の社會において、此忌憚なき罵倒を彼の社會主義に加へたる博士(田中萃)の意氣を壯とするとゝもに、此種の言を以て獨斷にして放縱なる感情的毒語として之を排斥するに躊躇せざるものなり』と。氣持のいゝほど手厳しい。田中君果して辯解の辭があるか。後輩からかう手ひどく叱りつけられて默つてゐるわけにもゆくまいし、さりとて辯解の言葉もあるまいぢあないか。

◆幸ひに『興國同志會』が動搖してゐるさうだから此虚に乘じてこれを乘取るか、それとも『三田興國同志會』でも組織して高橋敎授を休職にでもする運動をしてはどうか。『特殊國』の勞働大使鐮田榮吉君の外にも一人か二人位の贊成者はあるだらうよ。そして三三大學は『三田特種大學』にでも改稱したら武藤山治君あたりからウント寄附があることだらう。

◆支那の『星期評論』といふ新思想派の雜誌は中々面白い雜誌だ。支那字ではサボターヂは『薩波達拳』と書くがそのサボターヂュについて二三ヶ月前の『經濟論叢』に出た河上、河田、神戸三博士の說を批評してゐる。それに曰く、河上博士は左黨、神戸博士は右黨、河田博士は曖昧中間黨。吾れ河上博士の說に贊成すると。

◆この左黨の河上博士をやつゝけるとの評判があつたが、どうなつたのだらう。然し河上博士をやつゝけたら大抵の人はやつつけられなければならぬだらう。さうなれば喜ぶ人は唯だ二人。上杉愼吉君と田中萃一郎君だらう。

◆この二人はまあ學者の部類に屬するのださうだが、近頃この二人の學界における地位を俗界で代表するものはドラツク商會の有田音松サンと大靈道の田中某と云ふ人だ。蓋し近來の二幅對だ。

◆クロポトキンに關する筆禍で有名になつた森戸助敎授の譯ブレンターノの『勞働者問題』が賣れるさうだ。クロポトキンの爲にブレンターノが賣れるなんかは頗ぶる日本式だ。

◆クロポトキンとブレンターノとは月とスツポンだ。福田博士とソーシヤリズム以上の差だ。福田博士にあきたたぬものは其恩師のブレンターノにもあきたらぬ筈だ。ある筋もクロポトキンの爲にブレンターノが讀まれりや本望だらうテ。

◆議會解散には大分驚かされた。政友會は仲々商賣上手だ。一層立憲政友會を株式會社にでもしたら脫稅ができようよ。

普通選擧史論（四）

室伏高信

（十五）

その夏、チャーチスト派はスチュルグの一派を援けて選擧場裡に立つた。スチュルグはノッチンガム市部選擧區から候補者として名乘りを揚げた。オコンノーアもヴヰンセントも彼れのために應援演說を試みた。しかしスチュルグは少數の差をもつて落選した。各所においてチャーチスト派の勢力は選擧權をもつてゐない人々の間に存在してゐるものであることの事實を明らかにした。

九月になつてスチュルグは再びチャーチスト派との會商を提議した。この二つの團體の間には目的においても戰術においても一致の不可能な理由がなかつたやうに見えた。しかし「チャーチスト」といふ言葉がこの二つの團體の結合を妨げる暗礁として現はれた。それは勿論現れである。眞實の暗礁は單なる名稱の問題ではなかつた。ヘーウォースはこの點について次のやうに述べてゐる。「事實は何人が指導者となるかについての爭ひであつた」と。スロツソン教授もまたチャーチスト研究のうちで次のやうに述べてゐる。「スチュルグ派が、オコンノーア並にオコンノーアの門下によつて率ゐられる團體に加はることができなかつたことが、分裂の眞の原因であつた」と。スチュルグ派はチャーチストの名を嫌つた。チャーチストの暴動の傳統をさうしてそれの階級的反感の傳統とを排斥した。彼れは立憲的の方法によつて、穀物法反對者等とともに友誼的關係を保ちつゝ進んでゆくことを求めてをつた。しかしチャーチスト派は勞働階級の手に指導權を掌握することを求めた。彼れは勞働階級によつて指導せられる政黨の組織を欲した。さうして政治的權利の獲得を通して、最後の社會的及び經濟的目的に到達することが彼等の窮極の欲望であつた。(4)彼等は一時その運動の中道において中等階級と提携するこ

とを辭しなかつたにしても、彼等は如何なる讓步をなすことを欲しなかつた。かくして中等階級急進論者とチャーチスト派との提携は一切斷絕された。この斷絕は、チャーチスト運動の現實の效果に如何ようの影響があつたにしても、それはチャーチスト運動が純然たる勞働階級の運動であつたことの歴史的意義を明確にするに充分であつた。チャーチスト運動はどこまでもソーシャル・デモクラシーの創生史を彩るべき運命を離れることはできなかつたのである。

この分裂の結果、ヘンリー・ヴキンセントはチャーチスト派から去つた。スチユルグは引續いて成年選擧論を主張し續けたが、勞働階級との提携を失つてから彼れの運動は單なるプロパガシダに過ぎなかつた。

(1) Slosson. op. cit., P. 72
(2) ヨセフ・スチユルグ (Joseph Sturge) はノッチンガムの選擧において八十四票の差で落選した。
(3) スチユルグはオコンノーアの暴動論にも強く反對した。
(4) Slosson, op. cit., P.

（つゞく）

◇賣れた書物

大正八年七月一日から同十二月末日までに出版された新刊書一千部のうちで最も多く賣れた書物中の重もなるものの順位左の如し（東京堂發表）

(1) 平和條約並に議定書
(6) 資本經濟講話（福田德三著）
(7) 三部曲（有島武郎著）
(9) 社會主義批判（室伏高信著）
(11) 勞働者問題（森戶辰男譯）
(12) 現代生活と婦人（山川菊榮著）
(15) 唯物史觀の立場から（堺利彥著）
(16) 資本論（松浦要著）
(23) 黎明錄（福田德三著）
(28) 社會改造の原理（高橋五郎譯）
(33) 社會問題十二講（生田、本間共著）
(34) 資本論（生田長江譯）
(36) 織田氏時代（德富蘇峰著）
(40) 戰後の經濟問題（平沼淑郎著）
(46) 資本論大綱（山川均著）
(51) 女の立場から（山川菊榮著）
(66) 晶子歌話（與謝野晶子著）
(67) 社會主義者の社會觀（山川均著）
(70) 日本の勞働問題（鈴木文治著）
(75) 民約論（藤田浪人著）
(79) 呪はれた戲曲（谷崎潤一郎著）
(80) 我鬼（菊池寬著）
(81) 激動の中を行く（與謝野晶子著）
(84) 成金とデモクラシー（米田庄太郎著）
(86) 新生（島崎藤村著）
(87) 遺傳論（近淺次郎著）
(100) ヘンリー四世（坪內逍遙譯）
(102) 一人の女（新渡戶稻造著）

中世都市のギルド

ピイタア・クロポトキン

(一)

野蠻人の自由の最後の痕跡が將に消滅しようとする時、さうして歐洲が幾千の小權力者の支配の下に置かれ、前期の文明の野蠻時代に行はれた樣な神權政治と專制國家、もしくは今日猶ほアフリカに見るが如き野蠻な王政を建設せんとしつつあつた時、歐洲の民衆生活はそれと異なる新たな方向を取つたのである。それは嘗て古代ギリシアの都市が取つたのと同一方向に進んだのであつた。都市の集團が最小の市邑に至る迄不思議な程に一致して現世的並に宗教的な支配者の軛を振ひ落さうとした。保壘によつて固められた村落は領主の城に反抗して起つた。最初は領主の城を輕侮し、やがてはそれを攻擊し、最後にそれを破壞してしまつた。此の運動は此處から彼處へと擴がつてヨオロッパ全體のあらゆる都市に移つて行つた。さうして百年ならずして、全ヨオロッパに所謂自由都市が現はれたのである。到る處に、性質を同じくし、經過を同じくし、さうして結果を同じくした同じ反逆が起つた。彼等は其の都市の墻壁の背後に何等かの保護を見出し、または見出し得る樣な所では、一の共同觀念の下に結合された「同盟會」「友愛會」「交友會」を組織した。さうして相互支持と自由との新生活に向つて進んだのである。かくして彼等は三百年もしくは四百年にして、全歐洲を一變するまでに成功したのでなる。彼等は嘗て其比を見ない自由人の組織なる自由結合の精神を表示する壯麗華美の建築物を以つて全歐を覆ふたのである。もし吾々が此の偉大な結果を生ぜしめた諸勢力の何であるかを求めれば、吾々はそれを個人的英雄の天才や巨大な國家の組織や、其支配者の政治的才能に發見しないで、村落共產體の裡に働いてゐたのと全く同一な相互扶助と相互支持との潮流の中にそれを發見するのである。その潮流は村落共產體時代と同一精神のものであるがたゞギルドと云ふ新しい型の上に形成せられて中世に復活されたの

である。

歴史上の如何なる時期も、第十世紀及び第十一世紀以上に、民衆の建設力をより善く例證し得たものはない。此の兩世紀に至つて「封建の森の中のオアシス」の如き多くの要塞村落と市場とが、其の領主の軛から自らを解放し始めさうして徐々として其將來の都市組織を築き上げたのであつた。都市の民會は其の墻壁の保護の下に、全く獨立に、若しくは主なる貴族又は商人の家族に導かれて、軍事上の擁護者と其の都市の最上裁判人とを選擧する權利、或は少くとも此の地位を要望する人々の間から選擇する權利を獲得し、その權利を維持したのである。西部及び南方ヨーロッパでは都市の選擧した僧正を擁護者とすることが一般の傾向となつて多數の僧正等か都市の特權を擁護し、其の自由を防禦したのであつた。かくして都市は俗人または僧侶の新たなる擁護者の下に、その民會の獨立裁判權と、自治行政權とを完全に略取したのである。

斯くして解放の全行程は民衆の中から出て歴史には其の名の保存されてゐない、幾多の無名英雄の共同の大義に對する目に見えない獻身的行動の連續によつて進行したのである。實際十二世紀の文藝復興及び十二世紀の合理主義は多くの都市がまだ墻壁に圍まれた小村落共產體の單純な集團に過ぎなかつた此の時期に始まつたものである。しかし此等の自由と敎化との發育生長してゆく幾多の中心に、やがて第十二世紀及び第十三世紀における其の力となつた思想と行爲との一致と發意力とを與へる爲には、村落共產の原則の外に、なほ他の一要素か必要であつた。職業と手工と技術との益々分化して行くにつれ、遠隔な地方との商業が益々發達し行くにつれ、何らかの結合の新樣式か必要になつた。この必要を充たしたものがギルドである。

漁夫、獵師、行商人、建築者もしくは定住した工匠等とにかく共通の目的を以つて集まつてゐる處には、必ずギルドが生れた。其の共同の目的の成功の爲には、富者も貧者も皆な助け合はなければならない。其の相互の關係において平等であること、お互にたゞの人間であること、さうしてもし其の間に何等かの爭が起れば皆なで選擧した裁判官の前でこれを決定することに同意したのである。彼等は皆な政治組織を備へた一都市に屬し、且つ其の各々の職業の組合に屬してあるものである。

(二)

中世都市のギルドの社會的性質についてはどのギルドの規定を見ても直ぐに分かるのである。例へば古代デンマル

クのギルドの規則を見ると第一にはギルドの内部を支配すべき一般の同胞的感情についての言載があり、次ぎには二人の組合員もしくは一組合員と組合外の他の人との間に起る紛爭の場合における獨立裁判に關する規定があり、最後組合員間の社交的義務か列擧されてゐる。もし一組合員がその家屋を燒失し、もしくはその船舶を失ひ、又はその廻國旅行の間に災難に遭へば總ての組合員はそれを助けなければならない。もし一組合員が病氣危篤に陷れば、二人の組合員はその危險のすぎるまで、枕頭に看護しなければならない。

此の二つの主なる特質は、どんな目的の爲に組織された組合にも現はれてをるのである。如何なる場合にでも其の組合員はお互に兄弟または姉妹として取扱ひ又お互に兄弟姉妹とよび、さうして、ギルドの前には總て平等であつた。彼等はまたある有限不動產を共同に所有してゐた。組合員は皆な一切の舊い確執を棄てる誓ひをした。さうしてお互に如何なる紛爭にも、いつまでも確執しないことや、または組合員自身の裁判所以外の法廷に持ち出すやうな訴訟事件に墮落させないと云ふことに同意した。もし、一人の組合員が其の組合外の人と紛爭するときには、其組合員はことの善惡に拘らず、その組合員を擁護することに同意したのである。

以上は中世生活の全體を漸次に覆ふたギルドの主なる思想であつた。實際すべての職業の間には農奴のギルド、自由人のギルド農奴と自由人とのギルドと云ふ樣に必ずギルドがあつた。さうして一定の工業または商業には數世紀の間、繼續するギルドがあつた。生活が益々複雜な目的や職業をとるにつれてギルドの種類も段々增加して行つたのである。

商人や工匠や獵師や農夫などのギルドばかりではなく、僧侶、畫家、小學校の敎師、大學の敎師のギルド、或る技術または手工上の秘傳を發達させる爲めのギルド、特殊の娛樂休養の爲めのギルド、乞食のギルド、死刑執行者のギルド、淫賣婦のギルドもあつた。さうして、其の何れも皆な獨立裁判權と相互支持との同一原則の上に組織されてゐたのである。

(三)

ある研究家は古代サクソンの晩餐ギルドと所謂社會的もしくは宗敎的ギルドとの間にある區別を設けてをる。しかし一切のギルドはまた悉く晩餐であつたのである。また特殊の聖徒の保護の下にある村落共產體もしくは都市が社會

的であり、宗教的であると云ふ點から云へばあらゆるギルドは悉く宗教的であつたのである。さうして、此のギルド制度がアジア、アフリカ、ヨオロッパとに亘つて擴まり、幾千年の間その存在が必要とする事情が起つた時には幾度も幾度も出現したのは、それが單なる晩餐の會や一定の日に敎會へ行く會や、葬式クラブなどよりも、遙かに重要のものであつたからである。ギルドは實に人生の胸底に深く根ざした要求に應じたものであつたのである。後世の國家がその官僚政治と警察との爲に有した、一切の職分を具體化したものであつたのである。あらゆる事情の下におけるあらゆる生活上の出來事についての實行と忠言とによる相互支持の團體であり、正義と維持する爲めの團體であり、これと國家との差は、國家の干渉の根本的特質として何時も形式的要素を持ち込むのに反して、ギルドには一切の機會に人道的並に友愛的要素のあつたことである。

かくの如く個人の發意的行動を妨げないで然も團結の要求を充分に滿たす制度が發達し、傳播し、强大となるの外なかつたことは勿論である。只だ一つの困難は村落共產體の結合を妨げずに、ギルドの聯合を作成し、同時にそれ等の村落共產體の總てを聯合して一個の調和した全體とすることの出來るやうな樣式を發見することであつた。しかし一度此の結合の樣式が發見せられ、幾多の有利な事情が都市の獨立を確定させると共に、吾々の感嘆措く能はない、その思想の一致によつて此の新團結が實現されたのである。かくして小村落共產體とギルドとの聯合として都市が組織されたのである。

（四）

封建的權力からの都市の自由解放を記した幾百の特權狀は今尙ほ殘つてをる。さうして此等の特權狀を一貫して同一の根本的思想が流れておる。

一一八八年フランダアの伯爵フィリップがエイル市民に與へた特權狀には次の樣な記載がある。

「總て本市の講社に屬するものは、信仰と宣誓とによつて左の條々を約束し、且つ確認する。有益なさうして正直な一切の事には互に兄弟として相助けること。もし他人に對し言語または行爲によりて損害を加へたもののある時には、其の被害者たる本人もしくは其の家族は復讐をしないで訴へ出ること、さうして加害者は裁定者たる十二名の選擧された裁判官の宣告に從つて、損害を償ふこと。さうして加害者または被害者が三度び警告を受けて猶裁定者の決定に從はない時は無賴漢または僞誓者と

して該社を除名すること。」

尙ほソアソン、コムピエンヌ、センリイ、その他多くの特權狀の中にも、それと同一の規約がある。

かくて同じ解放が第十二世紀には富裕な都市にも貧乏な都市にも起つて、それは實に全ヨオロッパに及んだのである。さうして、概して伊太利の都市が先づ其解放を得たと云ふことが出來るのであるが、其運動の中心地が何處であつたかを指示することは困難である。然し屢々中央ヨオロッパの小都市が其地方の主動者となり、大都市が反つて小都市の特權狀を學んだ所もあるのである。例へばロオリイと云ふ小都市の特權狀は西南フランスの八十三の町によつて採用され、ボオモンの特權狀はベルギイとフランスとの五百以上の町によつて採用されたのである。當時各都市は其近隣の都市に特使を派遣して、その特權狀を寫し得、此の手本に基いて其の組織を作つたのである。しかし各都市は互に摸倣し合つたのではなく、各々其の領主から得た讓步に準じて、その特權狀を作つたのである。さうしてその結果はある歷史家の言つた樣に、中世自治體の特權狀はその敎會堂と大寺院とのゴシック建築に現はれてゐる差違と同じ差異をしたのである。

（五）

獨立裁判權はその主要な點である。さうして此の獨立裁判權は同時に獨立行政權を意味してゐたのである。コムミユンは國家の自治的な一部分ではなかつた。コムミユンそれ自身が一の國家であつたのである。コムミユンは和戰の權利と近隣のコムミユンとの聯合同盟の權利を持つてをつた。それ自らの事件については主權者であつて、何等外部的權力の侵入を許さなかつたのである。政治上の大權は全然民主的議會に授けられる事になつてゐたのである。例へばプシコフの民會は大使を交換し、條約を締結し、公主を迎へ、またはこれを放棄し、十數年の間公主なしに過ごしこともある。またイタリイと中央ヨオロッパとの幾百の都市におけるが如く、商人もしくは貴族の寡頭團體に大權が授けられ、または僭奪された事もあつたのである。しかし、その原則は同一で、都市は一の國家であつた。さうして、都市の權力が商人もしくは貴族の寡頭政治によつて行はれたときでも、その都市の內部における[illegible]的生命と日常生活とにおける民主主義とは失はれなかつたのである。

斯くの如き變則の行はれたるは實に中世都市か中央集權的國家でなかつたからである。都市が始めて出現した一世

紀間は其の內部組織から云へば國家と名づけることが出來なかつたのである。何となれば中世には今日の如き領土の集中なく、また今日の如き機能の集中もなく、各團體は主權を分割してゐたのである。當時の都市は普通中心から放射形をなした四區、もしくは五區から七區までに分かれてゐて、各區は各々その中に主として行はれてゐる商工業と略ぼ一致してゐた。さうして此の各區は全く獨立の一集團を形成してゐた。例へばヴエニスでは、各々の島は一個の獨立した政治上の自治體であつた。各々の島はそれ自身の組織された工業と鹽の商業と、その裁判權と行政權と民會とを持つてゐた。さうして都市の大統領が任命される時にも、其の各單位の內部の獨立に何等の變化をも與へなかつたのである。コロンではその住民が同業組合（ゲブルシヤフテン）と隣人組合（ハイムシヤフテン）との二つに分かれてゐた。何れも其の裁判官と選擧による十二名の陪審員と、奉行と地方的民軍の指揮者とを持つてゐたのである。

斯くの如く中世の都市は二重の聯合體として現はれた。卽ち街とか、敎區、市區とか云ふ領土的團結を組織したすべての戶主の聯合であると同時にまた各々のその職業によつてギルドを結んだ各個人の聯合である。さうして前者は都市の村落共產體的起源の產物であり、後者は新たなる境遇によつて生れたその後の發達である。

（六）

自由と獨立裁判權とを平和とを保持することは中世都市の主たる目的であつた。さうして其主要な基礎は實に勞働にあつたのである。しかし、中世の經濟學者の全注意を惹いたものは單に生氣のみではなかつた。彼等は生產を成功させる爲には消費もまた重要であるのを、知つてゐたのである。されば貧者にも富者にも等しく必須の食物と住居とを供給することは各都市の根本的原則であつた。從つて食料品や石炭焚木等の第一必要品の市場に到着する以前に買入れること、及び其等の物品を獨占的な特に有利な條件で買入れることは全く禁止されてゐたのである。一切の物品は市場に運ばれて、振鈴によつて市場の閉鎖されるまでに、各人の購買に附せられなければならなかつた。然る後に小賣商人はその殘餘を買ふことが出來たのであるか、それについてもその利潤は、單に正直な利潤でなければならなかつたのである。しかし小賣人は正直な利潤を得ることは出來たのであるが不正直な利潤は嚴禁されてゐた。これはロンドンでもその他の所でも同じことであつたのである。市場閉鎖後にパン燒商が穀物を卸買ひにした場合には、それ

が最後の取引が終る前であれば、市民は自家用として各々若干の穀物をその中から卸賣値段で買ふ權利があつたのである。之に反して、市民が轉賣の目的で穀物を買つた場合にはパン燒商はまた自分の方から同一の要求をすることが出來たのである。市民が自家用として買入れた穀物はその町の製粉所へ運ばれて一定の價格で順番に製粉され、さうして、そのパンは共同燒竈で燒くことが出來たのである。

要するにその都市に穀物が拂底すれば皆なは多少其の不便を忍ばなければならなかつた。しかし不時の災難の場合を除けば、自由都市の存在する限は何人も今日では不幸にも屢く起る樣に、都市の眞中で餓死する樣なことはなかつたのである。

(七)

しかし、斯樣な規則は皆な、都市の歷史の後代に屬するもので、その初期には都市自ら市民の使用する食料品を買ひ入れるのを常としたのである。近頃グロッスによつて公刊された文書は此點を證明し、且つ次ぎの如き結論を十分に證據立てるものである。卽ち食料品の積荷は其の町の名義で、町の一定の吏員によつて購買されて、更に商人たる市民間に分配された。港に陸上げされた貨物は町の當局者からの購買を拒んだ場合の外は何人もそれを買ふことが出來なかつたのである。第十六世紀においてすらロンドンの市長が一五六五年に書いてゐる如く穀物の共同購入はロンドン市とロンドン市會及び其の一切の市民と住民とのあらゆる事物の便宜と利益の爲めに行はれた。ヴェニスでは穀物の商業は全部都市の手にあつて、さうして區は輸入事務取扱ひ委員局から穀物を受取つて、それを各市民の家に其の分配額に應じて配達したのである。

市民の使用の爲にする共同購買や、その方法についての一切の問題は、此時代の歷史の硏究者から多くの注意を受けない樣である。しかしこの問題に新しい光明を投すべき興味ある事實はあちこちに散らばつてゐる。例へばグロッスの記錄中に一三六七年のキルケンニィの布告を發見することが出來るが、それによつて各々は當時如何にして貨物の市價が定められたかを知ることが出來る。グロッスは云つてゐる。商人と水夫とは、その貨物の買入値段と輸送費とを宣誓して陳述する。かくて、その都市の市長と二人の聰明な人とが其の販賣市價を指定する。」さうして此の價格指定の方法は中世に一般に行はれてゐた商業の觀念と最も善く副ふもので、必ず一般的に行はれてゐたに違ひないのである。かく第三者によつて價格を定めることは極く古く

から行はれてゐた習慣であつた。さうして都市の內部では一切の交易には價格の決定を聰明な人々卽ち第三者に一任して、賣手もしくは買手自ら價格を決定しないと云ふことは確かに廣く行はれてゐた習慣であつたのである。

(八)

吾々はまた中央及び西部ヨォロッパにおけるすべての中世都市では手工者のギルドが常に一團體として一切の必要な材料を買入れ、又その役員を經て、彼等の手工になる生產品を賣却したことを知つてをる。從つてこれと同樣の事實か對外貿易に行はれてゐなかつたと云ふことは殆んど考へ得られないことである。殊に第十三世紀に至るまで、或る一都市のすべての商人はその中の何人の契約した債務にも連帶責任を負ふべき一團體として外部から見られてゐた許りでなく全都市もまた、その商人各自の債務に對して責任を帶びてゐたのである。だから貿易が共同的に經營されてゐなかつたと云ふことは益々考へられなくなるのである。第十二世紀、第十三世紀となつて初めてライン河畔の都市が此の共同責任を廢止する特別の規約を締結した。かくて商人のギルドは普通の私人のギルドとしてよりも寧ろ市の受託者の一團體として現はれ來るのである。

要するに中世都市を明かにするに從つて、吾々は益々それが單なるある種の政治的自由の保護を目的とする一政治組織に止まらなかつたことを知るのである。それは村落共產體におけるよりも更に大なる規模の上に、相互扶助と相互支持との爲めの、消費と生產との爲めの、さうしてまた全社會生活の爲めの緊密な團結を組織し、同時に、人々の上に國家の桎梏を課することなしに、藝術、手工、科學、商業などにおける個人の各團體と政治團體との創造的天稟に十分な表現の自由を與へようとする企てであつたのを知るのである。さうして此の企てが果してどの程度まで成功したかは以下中世都市における勞働の組織と、都市と近隣農村民との關係とを分析するときに明白になるであらう。

(ミューチュアル・エイドから)

定價	
毎月一回一日發行	郵税
一部 廿八錢	五厘
半年分 一圓五十錢	税共
一年分 三圓	税共

但臨時特別號の價は別に申受く

▲誌代は總て前金 ▲郵券代用一割増
▲送金は可成振替 ▲外國行郵税十

大正九年三月[illegible]日印刷納本
大正九年三月一日發行

編輯兼發行兼印刷人 東京市京橋區元スキヤ町三ノ一番地 尾崎士郎

印刷所 東京市小石川區久堅町百八番地 株式會社博文館印刷所

發行所 東京市京橋區元スキヤ町三ノ一番地 批評社
振替東京四五三四六
電話銀座一三七四番

大正八年三月二十八日第三種郵便物認可
大正九年三月一日印刷納本 同年三月一日發行

批評 三月號 （定價三十錢）

大正八年三月廿八日第三種郵便物認可
大正九年四月一日印刷發行

（定價　本號卅錢）

………（第十四號）號　月　四………

ギルド社會主義の創生（室伏高信）

勞働階級の獨裁政治（カール・カウツキー）

批　評　社

批

四月號

目次

ギルド社會主義の創生

The need is everywhere for the recapture of the Spirit that moved
Trade Unionism in the days of Owen.-N. G. L.

室伏高信

（一）

ギルド社會主義が最初に提唱されたのは一九〇六年のことである。この年にアーサー・ヂエ・ペンティは The Restoration of the Guild System, 1906 を著して中世紀主義への復歸を說いた。しかしペンティの立場はたゞ中世紀主義への復歸を說くに止まつてゐた。彼れの立場は地方的手工業組織の復興を主張するにあつた。ナショナル・ギルドの思想が資本主義の救濟として提唱されたのはエ・アール・オレーヂによつてゞある。オレーヂは一九〇六年卽ちペンティと同じ年に雜誌 Contemporary Review においてギルド組織を提唱したのである。(1) そして一九〇六年から一九一二年に至る間にその主宰する週間雜誌 The New Age (2) においてナショナル・ギルド思想の建設と宣傳とに努めた。しかしこの時代においてはギルド社會主義は、多くの新思想の提唱の場合と同じく、汎く一般の注意を惹くことなくしてたゞ一雜誌のうへに先驅者としての艱難な道を步んでゆくの外はなかつたのである。一九一四年になつて、オレーヂの名によつて一卷の著書 Guild Socialism が出版された。この書物は一九一二年から一九一三年の間に雜誌 New Age において發表されたものゝ編纂であつたがそれの出版前後からギルド社會主義は漸次に一般の注意を喚起

するようになつた。ヂ・デ・エッチ・コールは一九一三年にその名著 'The World of Labour' を著して大組合主義 'Greater Unionism' を主張し、そしてこの大組合主義の論理的結果が『ニュー・エーヂ』一派のギルド社會主義に一致することを述べてゐる。(3) そしてコールがこの時代においてのギルド社會主義の勢力が限局され『不幸にして、主として中等階級に訴へる』運動であるに過ぎなかつたことを指摘しながらも、またニュー・エーヂ一派の提唱の缺點を指摘しながらも、(4) 尙ほこの當時において微力なる社會思想が産業問題を解決しうべき唯一の解決となるべきことに着目することを忘れなかつた。彼れは次のように述べてゐる。

『それ(『ニュー・エーヂ』)の國家と組合との根本的協同の政策——それがナショナル・ギルドと稱する——のうちに、それは唯一の産業問題の解決をもつてゐる。國家と組合との共同經營の提唱は疑ひもなく未來の社會に對する先見である。』(5)

ギルド社會主義はその建設者として且つ宣傳者としての若き才能の人ヂ・デ・エッチ・コールを見出すことができたのである。彼れは初めフエービアン協會にあつた。一九一四年にはその行政委員に擧げられた。そしてフエービアン協會内において新改革運動を開始するに至つた。彼れはフエービアン協會が勞働黨から脫會すべきことを提議したことがあつた。また一九一四年の夏にはクリフォード・アレンとの諒解のもとにフエービアン綱領の改革の運動を起した。

『フエービアン協會は社會主義者によつて組織せられ、そして社會を資本主義組織から解放することの國民的及び國際的運動の一部を形成する』

これが彼れ及び彼れの一派の新綱領案であつた。この綱領から出發して、彼れはこの綱領と兩立することのできない他の團體に屬する人々を、協會から除外すべきことを計劃したのである。しかし彼れのフエービアン協會内における改革運動は悉く失敗に終つた。そこで一九一五年五月、彼れの運動が大多數の反對のために敗れた時に、彼れはフエ

ーピアン協會から去つて自らギルド社會主義宣傳のための協會を組織するに至つたのである。(6) 同じ年にエアネスト・バァカァはその著述のうちにおいて英國の社會主義がフェービアン社會主義の時代から新らしい他のものを要求しつゝあることを指摘した。そしてこの新らしいものゝうちに彼れはギルド社會主義の成立を計へた。(7) かくしてギルド社會主義は一雜誌 New Age の論壇から出でゝ新らしい社會改造理論として汎く世間の注意を惹起するの題材となつた。バァナァド・ショウは一九一六年、ピーズの『フェービアン協會史』のうちでギルド社會主義に對する批評を公けにした。彼れはギルド社會主義をもつて『それ自身毫も社會主義を包含しないものであり、』『それは社會主義でなくしてたゞギルドであるに過ぎないと論じてゐる。(8) 獨立勞働黨のマクドウサルドもその著 Socialism after the War のうちでギルド社會主義に對する批評を試みた。彼れは勿論ギルド社會主義の反對者である。ギルド社會主義の『大なる危險』は政府のうちに政府を組織し、一部分の利己的集中を來して、全體の利益を閑却することにある旨を述べてゐる。(9) しかし彼れもまたギルド社會主義が世界大戰以來英國における社會主義及び勞働組合運動の特質であることを承認しないではゐられなかつた。(10) かくのごとくにギルド社會主義は英國における社會主義及び勞働組合運動の新特質として何人もこれを閑却することはできないまでとなつた。(11) ノルマン・エンゼルは英國勞働黨の新綱領(12) がその背後における勢力としての産業組合主義及びギルド社會主義の寄與に負うてゐるものであることの事實を指摘してゐる。(13) ベルトランド・ラッセルはギルド社會主義をもつて最も實行的なシステムであると論じた。彼れは次のように述べてゐる。

『私の考へでは最良の實行的方法はギルド社會主義のそれである』The best practicable system, to my mind, is that of Guild Socialism. (Bertrand Russell. Proposed Roads to Freedom, p. XI)

英國におけるギルド社會主義の發達は極めて急速のものがある。コールが一九一三年その『勞働の世界』を著した時

には、彼れは既にギルド社會主義の立場をとりながらも、尚ほこの運動が中等階級の一部に訴へるに過ぎないものであることを指摘せずにはゐられなかつた。それのみならず、彼れは『ニユー・エーヂ』のギルド社會主義が『新イエルサレム』を建設することについて殆んど敎えるところのないことを指摘しないではゐられなかつた。(14) しかし一九一五年になつては既にギルド社會主義宣傳の中央機關としての『ナショナル・ギルド・リーグ』National Guilds League がロンドンに建設されて、(15) ナショナル・ギルドの期するところを明らかにした。それには次のように述べられてゐる。ナショナル・ギルド同盟は『賃銀制度の撤廢及び民主的國家と協同して働くナショナル・ギルドの民主的制度を通して産業上の自治を樹立する』ことを主張するために組織されたものであると。(16) この目的のために各種の出版物がこの協會から出版せられ、またヂ・デ・エッチ・コール、マーガレット・コール、ペートン、オレーヂ、メラア、アーノット、レキット、ベッチフォフア、ホブソン、ブレールスフォールド、ラッセル、ラッセルス、ヤング、アンダアソン、ムーア、トムソン等によつてその主義の建設と宣傳とが盛んに行はれるに至つてゐる。(17)

ベルトランド・ラッセルはギルド社會主義を批評して英國特有の妥協的精神の産物であるとなした。(18) しかしギルド社會主義は今や獨り英國内における運動であるのではなくして大陸に入りて獨逸におけるギルド社會主義の運動となり、伊太利におけるナショナル・ギルドの運動となり、更に太西洋を越えて米國におけるプラム・プランの運動となるに至つた。先づ獨逸におけるギルド社會主義について見るにメーリック・ブースはその小册子のうちで次のように述べてゐる。

『特に去る一、二年の間において、獨逸の社會改革者のうちにおける最も著しい傾向の一つは各種のギルド社會主義の發達であつた』(19)

獨逸においてギルド組織を提唱してゐるものとしてはラテノウ、ディデリッヒス、クリック、ヘルショウフエン等の

諸氏である。伊太利においては國家が協同組合運動を援助することによつてギルド社會主義が實現されつゝある。(20) 米國におけるブラム・プラン Plumb Plan は勞働者と管理者と國家との共同經營を主張するものであつてある點においてギルド社會主義の計劃を受入れてゐることは明らかである。(21) ウエッヴはこれをもつて英國に於るギルド社會主義及びストレーカーによつて炭鑛委員會に提案されたものに類似してゐることを指摘してゐるのである。(22) またヂ・デ・エッチ・コールに從へばフランスの勞働經濟會議 Conseil Économique de Travail (23) もまたギルド社會主義運動の一種であるとされてゐるのである。(24)

(1) ピーズはギルド社會主義が最初にニュー・エーヂにおいて主張されたとなしてゐるし、また多くの人々がピーズと同じ說を持してゐるようであるがホブソンの記るしてゐるとほりこの通說は誤りである。

(2) New Age の讀者は一部分の人々に限られてゐるが其讀者は精選された讀者であり、マルクスに對する『新ライン新聞』(ノイエ・ライニシエ・ツァイツング) またはマルクス派社會主義に對する Die Neue Zeit 以上にギルド社會主義に對して深い關係をもつてゐる。何となればそれはギルド社會主義の最も有力なる創說者、建設者且つ宣傳者であるからである。オレーヂ (A. R. Orage) を主筆としホブソン、ペンテイ等を寄稿家とし、既に一九二〇年一月一日に第一千四百二十五號を發行した。

(3) Cole, Worle of Labour, p. 386

(4) ibid., p. 52

(5) ibid., p. 51

(6) Edward R. Pease, The History of the Fabian Society, pp. 230—1

(7) Ernest Barker, Political Thought from Spencer to To-day, p. 223

(8) Pease, op. cit., pp. 266—7

(9) Ramsay Mac Donald, Socialism after the War, p. 22

(10) ibid., 20

(11) アルフレッド・マーシャルもまた一九一九年その著書のうちでギルド社會主義に論及して其缺點を指摘してゐる (alfred Marshall. Industry and Trade, pp. 841—4) しかし私は其批評が何等價値なき批評であるといふて置くに止める。『ニュー・ステーツマン』はマーシャルの此書物を批評してゐる通り資本主義の經濟學であるである (New Statesman, vol. XIII. N

o. 336)
(12) この新綱領とは一九一七年に起草された英國勞働黨の社會改造案 (New Social order) を指す。
(13) Norman Angell, The British Revolution and the American Democracy. p. 71
(14) Cole, op. cit., p. 52
(15) ナシヨナル・ギルド同盟はロンドンに中央機關をもつてゐる。目下十團體から成立し、メラア (W. Mellor) をセクレタリーとし、ヤング (Miss Nannie Young) コレスポンデンス・セクレタリーとし、タウンシエンド夫人 (Mrs. Towshed)を會計係としてゐる。
(16) Labour Year Book, 1916, pp. 187—8
(17) ギルド社會主義についての主要なる著書は左のごとくである。

National Guilds League Pamphlets,

(No. I.) National Guilds.
(No. II.) The Guild Idea
(No. III) Towards a National Railway Guilds.
(No. IV) Observations on the Whitley Report
(No. V) Notes for Trade Unionists on the whitley Report.
(No. VI) A Catechism of National Guilds
(No. VII) A Short Statement of the Principles and Objects of the National Guilds League
(No. VIII) The Industrial Chaos.

G. D. H. Cole, The World of Labour
—Self-Government in Industry
—Labour in the Common-wealth
—National Guilds and Coal commission
—An Introduction to Trade Unionism
—Worker's control in Industry
—The Payment of Wages,

Cole and Arnot, Trade Unionism on the Railways.

7

Cole and Mellor, ·The meaning of Industtial Freedom
A. R. Orage, Alphabet of Economics
S. G. Hobson, National Guilds
—Guild Principls in War and Peace
—National Guilds and the State
A. J. Penty, The Restoration of the Guild System.
—Old World for New.
—Guild and Social Crisis.
M. B. Reckitt and C. E. Bechhofer, The Meaning of National Guilds.
H. N. Brailsford, Parliaments or Soviets.
R. Page Arnot. Trade Unionism.
—Further Facts from the Coal Commission.
G. R. S, Taylor, The Guild State.
Bertand Russell, Proposed Roads to Freedom.
—Political Ideals
キルド社會主義についての主要な論文は大體次のごとくである。
A. R. Orage, Towards National Cuilds (New Age. 1919)
Penty, Guilds man's Interpretation of History (New Age, 1919)
W. N. Ewer, Nationol Guilds control over Industry (The Limits of State Industrial Control)
Penty, Guilds and theState (ibid.)
N. B. Reckitt, The Guild Control over Capitalism (ibid.)
Cole, National Guilds (Labour Year Book, 1916)
Bernard Shaw, On Guild Socialism. (The History of Fabian Society)
A. Marshall, Guild Socialism. (Indstry and Trade)
M. Booth, Guild Socialism. (Social Reconstrouctiin in Germany)

O. Por, Towards National Guilds in Italy (New Age, No. 1415)
ギルド社會主義の機關雑誌は左のごとくである。
The New Age (edited by Orage)
The Guildsman (edited by Cole)
(18) B. Russell, Proposed Roads to Freedom, p. 115
(19) Meyrick Booth, Social Reconstruction in Germany, p. 25
(20) New Age, No. r415, pp. 420
(21) ブラム・ブランについてコールはギルドマンの立場から見て甚だ不滿足なものであることを述べてゐる。
(The Guildsman, No. 38, p. 8)
(22) New Statesman, No. 335, pp. 558—9
(23) 勞働經濟會議はジユウオウによつて計畫されたものであり、大戰中におけるフランス勞働運動の新現象であるといふことができる。
(24) The Guildsman No. 38, p. 9

(二)

かくのごとくにしてギルド社會主義は世界における勞働組合運動及び社會主義運動の新特質となつてきた。特に英國においてその急速の發達を見るのである。(1) 何故にギルド社會主義は生れたか、それは何故にかくのごとき發達を遂げたか、世界はロバアート●オーウエンに歸りつゝあるとはギルド●マンの一人が述べたところであつた。(2) オーウエンへの復歸とは果して何を意味するか。われ等をしてギルド社會主義の創生について詳らかに語るところあらしめよ。

(1) 最近にマンチエスタアーの建築勞働者の間に建築ギルドBuilding Guilds が組織され、一九二〇年二月十六日ギングスウエー・ホールで集會が催され、エス・チイ・ホブソンが演說を試みた。この建築ギルドはナショナル・ギルド同盟の保護のもとに組織されたものであつてギルド社會主義の實現を目的とするもの、先づ差當りマンチエスタア市會のために二千軒の家屋を

建築することになつた。この組合の創立は各方面から非常な注意を喚起したようである。コールはデーリー・ヘラルド紙上でこの建築ギルドの成立がナショナル・ギルドの先驅者であり、勞働者が産業の眞實なる統制をなすことの自覺せる欲求であるのみならず、且つ直接的實業提案として深き意義あることであるとなしてゐる。(Daily Herald, January 28 1920)『ニュー・ステーツマン』もまたこの建設ギルドを一八三〇年代のオーウエン派の運動と比較してゐる。(New Statesman, Jan. 31, 1920)

(2) Cole and Mellor, The meaning of Industrial Freedom, p 11

（三）

ギルド社會主義について語るためには、われ等は先づ英國における社會主義及び勞働組合運動の發達について語らなくてはならない。英國における社會主義及び勞働組合運動の第一期を劃したものはオーウエンの運動であつたといふことができる。ロバアト・オーウエン Robert Owen は十八世紀の後半に英國に生れた。(1) 彼れの生れた時は英國における産業革命の醞釀されつゝある時であつた。ハアグレーヴスが多軸紡績機を發明した翌年、アークライトがオーターフレームを、ヂエームス・ワットが蒸汽機關を發明した翌々年に彼れは北ウエールスなるニユートンの町に生れたのであつた。彼れの同時代の多くの人々が産業革命とその革命の效果とについて無自覺であつた時に、ロバアト・オーウエンは殆んど教育をうけることもなく、また實業上の重き責任を擔ひつゝ、よく困難なる社會問題の解決についての方法を洞見し、そしてこの解決を實現せしめることに異常なる才能を發揮したのである。(2) 彼れはもとより人間の肉體的または精神的能力の平等を創造しようとしたのではない。(3) しかし彼れはベンタムと同じく人間の努力の目的が幸福を求むるにあることを信じてゐたのである。その求むる幸福は極めて稀れに存在するのみであつた。この狀態は人間の意思によつて惹起されることのできないものである。何となれば決意 volition は人間の行動の主要なる動因ではないからである。多くの合理主義者とともにオーウエンは環境が人間生活を支配するものであることを信

じた。一般には、人々は自らその人格を建設するものであると信じられてゐたのに對し、オーウエンはそれとは反對に、人間の人格は、その人の生れ、住み、且つ働くところの状態によつて作られるものであると信じた。即ち劣等なる状態は劣等なる人間を作り、善き状態は善き人格を作るとはオーウエンの確く信じたところであつた。彼れはその『社會新論』(4)のうちで次のように述べてゐる。

『凡ての一般的人格は、最良のものから最惡のものに至るまで、最も無智なるものから最も開化したものに至るまで、適當な手段を用ゐることによつて、如何なる社會にも、否な全世界にも賦與することができる』(5)

この『社會新論』はオーウエンの社會改革論の基礎であつた。然らばオーウエンの眼に映じたる惡しき境遇とは何か。

『一八一七年に至るまて、惡しき境遇についてのオーウエンの定義は Sweating, ignorance and enmity の以上に出てゐなかつた』(6)そこでオーウエンは先づ人々の無智 ignorance を救濟することの必要に着目した。彼れの時代の英國においては、教育は主として有産者のための制度であつた。ウヰリアム・アレンの計算してゐるところによると當時ロンドンにおいて全く教育をうけない兒童が十萬人の多きに達してゐたとのことである。オーウエンは先づこの社會制度の缺陷に顧みて教育の必要を痛感した。そしてランカスタアやベル博士等の低費平民教育 cheap popular education に援助を與へたのみならず、ニユー・ラナルクにおいては學校を建てゝ教育に力を用ゐ、就中、暗誦教育の弊を排して教師の人格に重きを置いた。彼れはまた政府に向つて國民教育の事業を遂行すべきことをも要求した。蓋し教育によつて善良なる人格を構成するための善良なる境遇を創造することに必要なる無智を除去せんとしたからである。オーウエンは更に工場法の必要に着目した。一八一五—一八年の間に彼れは工場立法の宣傳と失業救濟とのために多くの時間と費用とを抛つた。(7)彼れの努力は正當に酬ゐられなかつたにしても、工場立法についての彼れの創見は尚ほ今日の工場立法の基礎をなしてゐるのである。(8)しかしロバアト・オーウエンの社會改革は更に一歩を進めず

にはゐなかつた。

一八一六年の終りに、生活難は英國の勞働階級を襲ふた。その原因は饑饉のためではなくして生産過剩のためであつた。供給は遙に需要のうへに出でた。失業者の數は恐るべき勢をもつて增加した。下院は貧困法委員會を任命しなくてはならなかつた。ロバアト・オーウエンは一八一七年三月議會の貧困法委員會のために報告書を起草した。(9) 一八一八年にはエークス・ラ・シャペルの聯合國會議に社會改革の建議書を提出した。(10) 一八一九年には彼れの友人の一人(多分ヂョーヂ・ムーヂィ)をして同一問題についてリカードに數多の公開狀を發せしめた。これ等の小册子に書かれてゐることの要點は次のごとくである。機械の使用の結果は、世界が富に飽充するほどに生産を助長するに至つた。手工が富の主要な源泉であつた時には需要と供給とは均衡を保つてをつた。生産と人口とは一對一の關係であつた。それが一七九二年から一八一七年の間に著しい變化を來した。生産と人口は十二對一の關係となつた。機械は手工よりも安價に働くために手工の價値は下落せざるをえないことゝなつた。英國における全體の賃銀額は減少した。從つて勞働者の購買能力が減退し、生産物は納屋または倉庫のうちに空しく蓄積されるのほかはなかつた。最初に機械が發明された時にはそれは社會に偉大なる祝福を與へたが、今やこの機械のために英國における多數の人々は貧困に苦しむに至つた。この狀態は、個人的利得が經濟生活を支配して社會的幸福がこれを支配することのできない間は救ふことのできない事實である。今日の事態のごとくなるにおいては生産は益々消費に超過し、輸出貿易は次第に減退し、國際市場は縮小し、そして勞働階級が憤怒と失望のうちに驅られ、われ等の高尙にして利益ある制度を轉覆してそれを破滅に終らしむるに至るまでは、失業と生活の不安とは止むことがないであらう。『われ等は深淵に圍繞される狹い堤道に立つ人に似てゐる。』われ等に不幸を齎らしたものは飽充である！　大多數の生産者はあまりに多く富を生産したために貧困法の救濟をうけなくてはならない！　如何にそれが逆說的に見ゆるであらう！　救濟の道如何。あるも

のは貧困法の改革と答へる。またあるものは移民の必要を說くであらう。しかし眞實の救濟は消費を擴大してそれを生產と平行せしめることでなくてはならない。かゝる設備は結合したる勞働と消費のうへに、卽ち共產主義のうへに約束されるものである。オーウエンはかくのごとくに考へたのである。(11) しかしこの救濟は漸次に行はるべきものであるとなした。オーウエンは先づ第一に失業問題の解決に着目した。彼れに從へば失業は無智と怠慢の惡習を導き、その結果は累を子孫にまで及ぼすものである。そしてこの失業から來る害惡を救濟するの道は、第一に敎育であり、第二には環境の改造である。この目的を達するためには統一した且つ協同的な村落――各村とも五百人乃至一千五百人の村民と一千乃至一千五百エーカーの農業及工業用地を備へたもの――を建設しなくてはならない。かゝる村落の建設には九萬六千磅の資本支出を必要とする。この小額の費用をもつて失業勞働者はその生活を支持し、その小兒を敎育し、資本を拂戾してゆくことができる。オーウエンはこう主張した。(12) 彼れの協同村のスクエアは公共建物によつて平行四邊形に分割されるように設計されてゐたために、オーウエンのこの計劃はオーウエンの『平行四邊形』Parallelograms として嘲笑された。彼れは殆んど時代の凡ての人々から反對された。ロンドンの勞働者でさへも彼れの計劃に反對したのである。この時代の勞働者は議會の急進的改造をもつて萬能藥(パナシーア)であると信じてゐたのである。(13) しかしオーウエンは彼れの失敗をもつて敎會及び經濟學者の陰謀の罪に歸すべきものであるとなした。そして凡ての宗敎を攻擊して人類をして幸福の何ものであるかを知らしめざるものは宗敎家の罪であるとなした。また經濟學者はマルサスもリカードもヒユトムもプレースも、彼等は虛僞の原理についての偉大なる說述者であるとなした。『私は國民敎育及び給職のみ獨り永久的な、合理的な、理智的な、富裕な、優秀な人民を創造することができること、またこれ等の結果は適當に構成された統一的且つ協同的村落に結合された人民の科學的配置によつてのみ到達することのできるものであることを彼等をして納得せしめることを最も熱望する』と。(14) かくのごとくにしてオーウエンは社會主義へ

の道を急いだ。

一八一九年、彼れは『勞働者への陳述』(Address to the Workers) を發表した。彼れは勞働者に對する深い同情の心をもつて彼等を不幸と無智とから救はうとした。しかしオーウエン思へらく、勞働者にして彼等の人格を改善し、富者に對する彼等の階級戰爭を消しさるにあらざれば造富の祕密と共產主義の原理を啓示するとも社會に何の效益もないことであると。この立場から彼れは勞働者に向つて彼れの心理學說を說明し、そして彼等に告げていふた(A)富者と貧者、支配者と被支配者は實に同一の利害をもつた(B)上級階級は最早や勞働者を墮落させまたは從屬關係を維持することを欲しない(C)勞働群は今や彼等自身及びその子孫を經濟的不幸から解放すべき手段をもつてゐる。しかしこれ等の手段の知識は、彼等が貧富が等しく境遇の創造物であり、從つて凡ての個人的憎惡は無意味であることを充分に理解するに至るまでは彼等から差控えられなくてはならない(D)過去の時代は人間不合理の歷史に屬してゐた。そして今や理性の曙が始まりつゝあると。オーウエンは階級鬪爭の主張者ではなかつたのである。

オーウエンがその有名なる Report to the Country of Lanark を書いたのは一八二〇年であつた。この書簡のうちで彼れの共產主義について詳しい說明を發表した。そして彼れの通貨論をも附け加へた。彼れはアトウッド[15]やベラアス[16]等の刺激のもとに通貨問題並に價値論に注意を拂つたのである。ベラアスが『貨幣ではなくして、勞働をして價値標準たらしめるであらう』といつたことはまたオーウエンの所論であつた。彼れは『自然的價値標準は原則として人間の勞働である』とは彼れの信じたところであつた。『一、體力勞働は適當に指導されると凡ての富及び國民的繁榮の源泉であり 二、適當に指導されると勞働は勞働者をして餘程の愉快な生活をなさしめるに必要なる費用よりも社會に對して遙により多くの價値をもつてゐる。』彼れはこう主張した。[17] 彼れはこの立場から價値標準の變更を要求した。卽ち金と銀とは價値標準として使用せられてゐるが、この金銀の使用の結果は凡ての事物の固有の價値 intrinsic

values を變化し、山師的商業と投機とを增進し、社會の一般的改革を物質的に阻害したことを主張してこの價値標準の變化を要求したのである。そこでオーウエンの社會改革論の基礎は次の二點に要約することができる。一、社會的不幸は人格の形成に關する誤謬と、需要に對する生産の過剰と並に不適正な分配から生ずる 二、社會的不幸は人工的通貨、不完全なる流通から生じまたはこれによつて激增する。この二つの原則がこれである。(18) そこでオーウエンは前者の救濟のために共産主義を提唱した。後者の救濟のために流通媒介として勞働券 Labour note の使用を提唱した。

一八二〇年から一八三〇年に至る間は、オーウエンの主義は、リカードの價値說に援けられて、汎く英國における勞働階級の指導的精神となり、そして社會主義の方法と結合した。ヂョーヂ四世の時代は自由主義の勃興を印しづけたとともにまた政治的並に社會的勞働運動の發生の時代であつた。(19) オーウエンは支配階級に訴へて失敗した後は專ら勞働階級への宣傳にその努力を集中した。ムーヂィ (George Mudie) やコムベ (Abram combe) やトムソン (William Tompson) やモルガン (John Minter Morgan) やブレー (John Francis Bray) 等はオーウエン主義の熱心なる使徒であつた。彼等の建設せんとした社會は一言にしていへば協同的社會 Cooperative Community であつたといふことができる。ニユウ・ラナルクやニユウ・ハアモニィの失敗は、オーウエンをして彼れの社會改造運動を勞働組合運動に轉ぜしめたが、彼れ及び彼れの一派の勞働組合運動は單なる勞働條件の改善の問題ではなくして協同的社會の實現を目的とする偉大なる精神によつて一貫されてゐた。彼等は勞働組合を協同的社會主義の社會に導くことに努め、また勞働組合が『無益なるストライキ』にその基金を費すことなくしてそれをもつて社會主義的生産に投ずべきことを要求したのである。こゝにオーウエン主義の精髓が存在するといふことができる。この精神が最もよく代表されたものは一八二四年に設立された『倫敦協同協會』London Cooperative Society であつた。この協會は『社會の構成を相

互的協同に置き勞働の全生産を勞働者に回復する』ことを目的として立つたのである。オーウエンの勞働組合についての考へは一八三三年十月六日、彼れがロンドンのオーウエン協會で試みた演説によつて最もよく明らかにされてゐる。彼れは次のやうに述べた『予は諸君に、夜盗の如く突如として社會に出現すべき、目下計畫中の大變化について簡單な輪廓を與へやうと思ふ。……全國的組織は、すべての勞働階級を一大團體に包含し、そして各部門は、他の部門內に行はれてゐる事柄を熟知し、一切の個人的競爭は廢せられ、一切の製造は、全國的組合に依て、行はれることを目的とするものである。……一切の職業は、先づ、其事業の經營に便利な數より成る支部の聯合を作らなければならぬ。……同一種の職業に從へる個人は、悉くその會員とならなければならぬ。』(20) オーウエンのこの思想の産物は『全國大聯合勞働組合』(Grand National Consolidated Trade Union) である。『全國大聯合勞働組合』は英國の勞働組合運動のうへに偉大なる時期を劃してゐるのみならず、米國にも獨逸に輸入された。この組合の成立は一八三四年一月であつたがその發達は英國勞働組合誌上において類例を見ざるほどの勢ひであり、數週間のうちに、數萬の農場勞働者と及び婦人勞働者とを加へて五十萬人の會員が加入したのである。この組合の成立によつて英國における勞働組合熱は實に頂點に達し、所有階級とその政治的代表者をして狼狽せしめたのである。

私はこゝでオーウエン主義勞働運動の特質を語ることの必要に會した。オーウエン主義勞働運動の特質の第一は前にも述べたとほり協同的社會の出現を期することにある。卽ち資本主義的な競爭の社會ではなくして協同勞働の社會の出現を目的とするものであつて單なる勞働條件の改善を目的とするものではない。その第二の特質は勞働者をもつて生産者であると觀念し、勞働組合を生産者の組合 Producers' Union と觀念することである。卽ちギルドの思想である。彼等が勞働者に訴へたのは、勞働者を賃銀勞働者としてゞはなくして國民の富の生産者 producers of the wealth of the nation としてである。(21) 從つてオーウエン主義においての協同的社會 co-operative union とは消費組合の

意味ではなくして生産的協同 productive co-operation をいふのである。その第三は熟練の如何を問ふことなく凡ての勞働者を組合に結合したことである。卽ち職業別組合のごとくに一部の勞働者の組合、——勞働貴族主義でなくして一般的組合 general union または大組合主義 greater unionism であつたことである。その第四は非政治的であつたことである。卽ちこの時代の勞働運動のうへに著しかつた現象の一つはチャーチストの運動である。チャーチスト運動は政治運動であり、政治運動により、議會政治よつて勞働階級の立場を改善せんとする政治的デモクラシーの運動(同時に社會的デモクラシーの運動)であつたが、オーウエン主義はこれとは反對に經濟をもつて社會力の基礎であるとなし、政治をもつてその上部構造(シユパアストラクチユウ)であるに過ぎないとなした。(22)卽ち經濟の優越權を主張したのである。そして非議會主義を主張した。彼等に從へば勞働組合の目的は生産協同の方法によつて資本主義を社會主義に轉ぜしめることであつたのである。(23)

しかし以上の點だけをもつてオーウエン主義の説明は充分であるといふことはできない。オーウエン主義を完全に說くためには更にそれとサンヂカリズムとの關係を知らなくてはならない。サンヂカリズムは、勞働組合主義や、ストライキや、總同盟罷工や、又社會民主主義が存在してゐたごとくに、既にこの時代に存在をしたのである。サンヂカリズムの使徒はオーウエンの門徒としてのモリソンとスミスであつた。(24)モリソン James Morrison の生涯については多く記るされるところがないが彼れはサンヂカリズムの創造者であるとせられる。(25)彼れの友スミス (James E. Smith, 1801-1857) も最初はオーウエン主義者であり、一八三三年及び四年にはその博大なる哲學上の知識と天來の雄辯とのためオーウエン主義運動の星であつた。しかしモリソンとの交遊とともに彼れもまたサンヂカリストとなつた。スミスは後にサン・シモン及びフーリエーの門徒となつた。モリソンとスミスとは次第に正統派オーウエン主義から左傾してサンヂカリズムを提唱して勞働階級に訴へることゝなつたのである。彼等は總同盟罷工を宣傳し、(26)また階

級鬪爭を高調したのである。(27) そしてスミスは勞働組合內におけるオーウエンの勢力が勞働組合のために有害であると論じ、モリソンもまたオーウエンに對して何等の尊敬をも拂はざるに至つたといふ。(28) かくのごとくにしてサンヂカリズムはオーウエン主義と分裂した。この分裂のうちにサンヂカリズムとオーウエン主義との區別を見ることができる。オーウエンは階級鬪爭の主張者ではなくして凡ての改革を協同と各階級のソリダリティの立場から觀察し、階級鬪爭をもつて有害であるとなした。(29) また從つてオーウエンは總同盟罷工にも反對したのである。(30) われ等はこゝにオーウエンの平和的社會主義とモリソン、スミスの戰鬪的サンヂカリズムとの間に重要な區別を見ることができるとともにオーウエン主義の時代がオーウエンから出でゝ益々革命的左傾をなしたことの事實を見る。ウエッヴはその『勞働組合主義の歷史』においてこの時代を革命主義の時代となした。

(1) オーウエンは一七七一年五月十四日北ウエールスなるニユータウンに生れた。彼れの父ロバアト・オーウエンは馬具屋てあつた。母はウキリアムスといつてニユートンの附近における尊敬すべき家族の家に生れた。彼れの兄は郵便局長を兼れ且つ教區事務の處理に任じてをつた。オーウエンは父オーウエンの第六子であつた。彼れの少年時代は濫讀家であつた。そして彼れの父の友人等の貸すことのできるだけの書物は讀み盡した。"Robinson Crusoe," "Philip Quarle," "The Pilgrims' Progress," "Paradise Lost" やリチヤードソンの小說なぞがこれであつた。彼れは七歲の時に旣にシツクネセス氏の學校における助教師であつたのである。十歲の時にロンドンなる兄の監督のもとに丁稚奉公に出た。兄は主人の娘と結婚してその主人の事業を受け繼いだのである。十五歲の時に他に轉じて助手の位置をえて一年廿五磅の俸給をうけた。それから後マンチエスタアに轉じて一年四十磅の報酬をうける身となつた。十八歲の時に彼れはその兄から百磅を借りてヂヨンスとともに一工場を經營することとなつた。その後彼れはドリンクウオータアの工場支配人となつて一年三百磅の報酬をうけた。彼れはマンチエスタア時代にマンチエスタア大學の教授等に多くの友人をもつこととなつた。そして宗教、道德等の諸問題について意見を交換するの機會をもつた。この時代が彼れの精神上における發達の時代であつたのである。彼れはマンチエスタアの文學哲學協會の會員に擧げられ、やがてこの協會で講演をするの機會迄も與へられた。ドリンクウオータアの工場を去つてからのオーウエンは撚絲會社の支配人となり、次でグラスゴウにおける豪商の娘デール孃と結婚することとなつた。デールはニユー・ラナルク工場の所有者であつた。オーウエンは後にこのニユー・ラナルク工場の持主の一人となつた。ニユー・ラナルクにおい

て彼れの協同村の理想を實現しようと試みた。その後一八二五年に彼れは三萬エーカーのニユー・ハアモニーを買入れてこゝにも彼れの協同村の理想を實現しようとした。アメリカから歸つて後のオーウエンはロンドンに居を構えて社會主義宣傳と計劃々に力を用ゐた。一八三二年に勞働紹介所を設け、一八三五年に社會主義 Socialism なる文字が初めて彼れのプロパガンダのうちに用ゐられた (Bliss. The New Encyclopedia of Social Reform, p. 860) それが社會主義なる文學の世界における最初の使用である。彼れは最後には財產の權利を否認し、そして熱烈なる精神主義者となつた。その逝けるは、一八五八年十一月十九日である。彼れの著書には次の數種がある。

1. Book of the New Moral World.
2. Revolution in the Mind and Practice of the Human Race.

(2) Robert Owen (Fabian Tract No. 166), p. 2

(3) Life of Robert Owen (by Himself), p. 111

(4) オーウエンの『社會新論』(New View of Society) は四つの論文 (Essays on the Formation of Character) から成り、一八一三年から同一五年までの間に發表されたものであり、,,Life of Owen のうちに再錄されてゐる。

(5) Owen, First Essay on the Formation of Character.

(6) M. Beer, A History of British Socialism, vol. I, p. 166

(7) オーウエンは政府に對して一、機械工場における勞働時間を一日十二時間（食事時間一時間乃至三十分を加へて）に制限し、二、十歲以下の小兒の使用を禁じ、三、十二歲以下の小兒は一日六時間以下に制限することを主張した。彼れの主張の結果は一八一九年の工場法となつた。

(8) Robert Owen, p. 2

(9) Life of Owen, pp. 53-63

(10) ibid., pp. 212—22

(11) M. Beer, op. cit., pp. 168—180

(12) ibid., pp. 170—1

(13) Mr. Owen's Proposed arrangements, 1819, p. 4 (Beer, op. cit., p. 171)

(14) Life of Owen, I., p. 129

(15) アトウツド (Attwood) は有名なチヤーチストの一人である。

(16) ベラアス (John Bellers) は College of Industry (1696) の著者である。
(17) Beer. op. cit., p. 175
(18) ibid., p. 178
(19) ibid., p. 182
(20) ウエッヴ『勞働組合主義の歴史』(山川均、荒畑勝三譯) 一五八―九頁
(21) Beer. op. cit., p. 183
(22) ibid., p. 185
(23) ibid., p. 326
(24) Social Democrats, Strike, general Strike, bourgeosie, Proletariat, anti-politics, class-warfare, Solidarity of classes といふような言葉は既にこの時代に存在した (Beer, op. cit., p. 334)
(25) Beer, op. cit., p. 328
(26) 一八三三年十月五日グラスゴウにおいて總同盟罷業が行はれた。
(27) Poor man's Guardian (aug. 30, 1834) には資本と勞働との戰ひが鐵砲と劍とによつて行はれずして『人民の新聞紙』が階級爭鬪の主要なる武器であることを述べてゐる。
(28) Beer, op. cit., p. 335
(29) ibid., p. 343
(30) ibid., p. 335

(四)

ロバアト・オーウエンの協同村の計劃はみな失敗に終つた。オーウエン主義の組合運動も一八四十年代の商工業繁時代に地を拂つた。彼れの計劃と運動と努力とは一場の夢のごとくに蹉躓し、中絶し、土崩瓦解に歸した。彼れの肉體は一八五八年その故國において一片の煙と化した。マルクス・エンゲルスはその共產黨宣言において、オーウエンの社會主義は、サン・シモン、フーリエーのそれとともに『純粹に空想的性質』のものであり、『空中に樓閣を築かん』と

するものであり、『反動的保守的社會主義の種類』に屬する『淺薄なる信仰』であると罵しつた。(1) しかしウエッヴがその『勞働組合の歴史』のうちで述べてゐるとほりオーウエンのなしたことは未だ何ものも彼れの骨とともに葬られてはゐない。世界は『オーウエンの思想に歸りつゝある』(2) ――オーウエン逝いてから六十年、若きギルド社會主義の主張者達は、マルクス主義に嫌らずしてロバート・オーウエンの理想主義に憧憬しつゝある。

われ等をして更に進んでこの若きギルド社會主義の創生について語らしめよ。

（づゞく）

(1) Communist Manifest (Kerr edition), pp. 55—6

(2) Cole and Mellor, The Meaning of Industrial Freedom, p. 14

次號豫告

フエービアン社會主義……室伏高信

労働組合主義の理想

——ギルド・マンの立場から——

甲野哲二

労働組合主義は資本主義の中に賃銀制度を破壊すべく「自由」によつて生まれた卵子である。 ——エー・アール・オレーヂ——

労働組合主義の運動は労働者のみの問題ではない。之れは實に國民的利害の問題である。労働組合を外にしては自由社會を建設する事は出來ない。だから労働組合主義の問題を理解し、其使命を評價するのは最も重要のことである。 ——モオリス・レキツト——

（一）

ロバアト・オーウエンからロバアト・スマイリーまでの英國労働組合運動史を讀む者は例へそのとが運動者自身によつて意識されてゐなかつたにしても、組合運動の目的はその社會の産業の管理において責任ある地位に登ると云ふことであつた。勿論シドニー・ウエッブがその「英國労働組合主義史論」において労働組合とは賃銀労働者がその雇傭條件を維持し、之を改善せんとする目的を有する賃銀労働者の繼續的團體であると定義した様に、それは單なる雇傭條件の維持改善、即ち賃銀の増加と労働時間の短縮を目的とした團體であつたかも知れない。けれどもその主張の根柢に流るゝ思潮はレキットの指摘してゐる様に産業管理に對する責任ある地位の獲得である。

ロバアト・オーウエンの運動からチャーテストの運動の後に労働運動における社會主義的要素が脫し去つた十九世紀の中葉に當つて、労働組合運動に關する一群の理論家が現はれた。彼等は労働組合主義の作用に關して極めて狹い觀念を有してゐた。フレッデリック・ハリスンその他の實證主義者の一團はトーマス・ヒユースや基督教社會主義者は

未だ勞働者の團結が罪惡視されてゐた其の當時の法制から勞働組合主義を解放する爲めに奮闘したのである。これらの人々は千八百六十七年から千八百七十六年までの勞働組合組織の自由の爲めの戰における偉大なる戰士であつた。けれども千八百八十年以後においては彼等の影響は漸次衰退に向つて行つたのである。それは彼等の思想の根柢である個人主義が産業における干渉の勞働からの要求と調和することが出來なかつたからである。洵に勞働者運動がその注意を政治に轉じてからこの要求は一層の速度で其强烈さを加へて行つた。アレキサンダア・マックドナルドによつて指導された石炭坑夫と綿絲繰業勞働者はこの新運動に對する先驅者の地位にあつたものであつた。然しながら彼等の運動の背後には勞働組合界の多くのものがその後援に立つてゐた。實にハリスン並に其僚友がその勢力の絶頂に立つてゐた時でさへ、勞働組合の指導者は臨機應變主義者であつて、何等勞働組合主義の學説を樹立することなく國家的または産業的行動に反對しまたは之を支持し、その勞働組合運動に對する態度は極めて保守的であつた。

（二）

千八百八十九年のドック・ストライキ當時から勞働組合は

社會主義によつて影響され指導される樣になつた。さうして勞働組合會議における諸々の決議は明かにフェビアン社會主義と獨立勞働黨との教義の反映に過ぎないものであつた。さうしてこの獨立勞働黨の社會主義による勞働組合の影響は千九百十一年代に始まる産業不安の時代まで何等の支障なく繼續してゐたのである。

然るに産業不安と共に社會組織に關する新學説と經濟的行動に對する議論とが漸く世の注意を惹くに至つたのである。千九百十一年並に千九百十二年において吾々の耳に達したものはサンディカリズムの聲である。さうしてそれはフランスのサンディカリズムに基いたもので、トム・マンの熱烈な宣傳によつて英國全體に傳播したのであつた。けれどもサンディカリズムの波は間もなく去つて、さうして、英國の土地に生命を與ふべきものは二つの學説となつたのである。その第一のものはマルクス派産業勞働組合主義であり、その第二のものはギルド社會主義またはナショナル・ギルドの主張である。

（三）

マルクス派産業勞働組合主義はまだサンディカリズムの波が英國へ押し寄せなかつた時既にこの國に渡つたもので

あるが、其運動に社會的事情が熟さなかつたのでまだこの勢力を伸ばすことは出來なかつた。然し乍らサンディカリズムの波がこの國から引き去つた時においてもマルクス派產業勞働組合主義が同じくこの國土を去ることがなかつたのである。

　この勞働組合界における新しい情勢は產業勞働組合主義者に對して非常に有利なものであつた。多くのものはこの型にならつて組合を組織し、この新組合形態の宣傳はその多くのものゝ注意を惹く樣になつたのである。この初期における產業勞働組合主義者は舊組合は全然無用のものであり、全然解體すべきものであり、さうして組織は勞働階級全體の下に樹立されなければならないと主張したのである。彼等は一大勞働組合（ワン・ビック・ユーニオン）を要求し、さうして之を地方別にし、また各々の產業の部門に從つて之を區別し、更にそれ等のものを世界的運動の一部とするのである。即ちI・W・Wの運動が之れである。然るにサンディカリズムの敎義は舊組合を解體せずして、之が聯合を作るのである。この聯盟は產業別として更に全勞働階級に對する一大階級的機關を構成するのを以つて最終の目的とするのである。この產業的勞働組合運動はサンディカリズムの運動の終熄した後に殘つて其理想とする產業組織への第一步として現存の勞働組合の併合を策したのである。

　マルクス派產業勞働組合主義の理論の大要は次の如く概括することが出來る。マルクス派產業勞働組合主義者はあらゆる形態の國家を以つて資本主義の表現であり、財產の保護の爲に存在するものであるとするが故に、彼等はその完全なる解體を欲するのである。さうして彼等はその產業組織による勞働者の社會的支配を要求する點において、現在のロシャの過激派がすべての權力は勞兵會に屬すると主張するのと一致してゐる。彼等は純產業線の上に勞働者階級組織のために產業の完全なる統制を要求するが故に、彼等は如何にそれか民主的であつても國家と共にその產業を管理することを欲し[illegible]いものである。彼等の考へてゐる社會狀態への推移に對する手段の問題は彼等の間にあつても異なつてゐるのである。洵に彼等はその產業組織と產業的行動とが主要な問題であると云ふ點において一致してゐる。けれども彼等のあるものは資本主義的國家の覆滅の爲には勞働者階級による政治的行動を必要とするのである。然るにまた彼等のあるものは政治的行動を全然否認し去り、產業的行動を以つて勞働者階級の唯一の戰鬪的手段なりと信ずるものである。これ等の兩派のマルクス派產業勞働組合主義は共に其の理論的基礎をマルクス經濟學と唯物

史觀とに置いてゐる。彼等の數は比較的少さいものであるが、尚ほ彼等の間接の影響は近年において偉大なるものである。特に國民的鐵道從業員同盟內部のショップ•スチュアート運動と、南ウエルス坑夫の間において絶大である。

(四)

サンディカリズムの波が英國の國土から引き去つた後に、マルクス派產業勞働組合主義と共に英國勞働運動の理論の指導的地位に立つたものはギルド社會主義の理論である。ギルド社會主義はマルクス派產業勞働組合主義がその基礎をマルクス經濟學と其の唯物史觀とに置いてゐるのと異つてゐる。卽ちギルド社會主義者はマルクスの唯物史觀を信じないものである。洵に彼等は社會生活もしくは社會現象の經濟的要素の甚だ大なる勢力のあることを承認する。彼等は現代國家の政治組織がブルジョアの經濟的權力の反映であると認める點においてマルクスの唯物史觀とも見るべきものを見る。けれども彼等の根本的史觀はマルクス唯物史觀と全然一致するものではない。卽ち經濟的原因が人間の政治的並に社會的生活を決定するものであると云ふマルクス唯物史觀に賛するものではなくして、彼等は反つてその史觀において一の精神主義を採用するものである。マルクス派社會主義は國家の死滅または廢止を主張するものである、從つてマルクス派產業勞働組合主義もまたその說を認容するものである。然るにギルド社會主義者は決して國家を否定するものではない。かう云ふ意味は現在の國家そのものを認めると云ふ意味ではない、彼等は現在の國家が資本主義の國家であり、從つて勞働階級に對して利害の常に一致せざる資本家階級を代表するものであるのを信ずる。さうして彼等の主張する明日の國家は其干與事項の大半は產業的事項にあらずして、非產業的事項である。コールはこの點において國家至上權說に賛意を表するエス•デー•ホブソンと其の主張を異にするものであるが、更にコールの「產業自治論」の最近版は國家の產業的行動に對して一層範圍を狹く解するに至つたのである。そはこゝに詳論する要はないが、ギルド社會主義がその學說において一特色と認むべきものは確かにこの國家觀である。使用者、享樂者、消費者の代表として國家を認め、且つその國家の產業的行動に多くの制限を設けた所にギルド社會主義學說の存在の一理由を發見することが出來るのである。

この樣な特徵を有するギルド社會主義の主要な目的は何であるか。それは勞働者の、卽ち生產者としての人の自由を尊重することである。集產主義の社會は洵に人の生活を安全

にし、且つ之を保證するであらう。けれども彼等の生活する國はヒレア・ベロックの所謂「奴隷國」である。彼等は國家なる偉大なる資本家の爲めに奉仕する一個の奴隷に過ぎない。斯くの如き物質的な、さうして本質に觸れてゐない生活の安全保證は吾々が人として生活するのに何の役に立つのか。ギルド社會主義はそのサンヂカリズム的の立場からかう集産主義に對して懷疑的の態度に出たのであるが、彼等は之を解して自由尊重の希望を見たのである。彼等は洵にベルトランド・ラッセルと共に「自由は政治の最高善なる」を知つたのである。自由、さうして勞働の喜悦。これが彼等の要求である。彼等は藝術家にして社會主義者であるウヰリアム・モリスを以つてその先驅者の一人であると認める。モリスの要求した所は創作の喜悦である。ギルド社會主義者はこの點においてウヰリアム・モリスと其見解を均しくしたものである。

(五)

この勞働の喜悦と經濟的自由換言すれば生産者としての人の自由を體現せんとする組織は何であるか。

現代資本主義の社會は如何なる意義においても勞働に從事する人の爲めに有利な世界ではない。そこには何等の勞働の自由もなく、さうして勞働の喜悦もない。その日のパンのために資本家階級に對する勞働者の隷屬とさうして之れ等の人々の貧困の集積の外に何等の意義のない經濟制度である。洵に或る者は絶大の自由を有する、けれども彼等の有する自由は遊食の自由である。勞働の喜悦ではなく、創作的生活でもない、たゞ漫然として生存の保證された低級の自由に過ぎない。

この様な世界から勞働者階級を解放し、彼等をして眞の勞働の自由と喜悦とを味はせる爲に彼等は極力資本主義と○○○○○○○○○○。その戰鬪の手段として、さうして生産者の自由の、勞働の喜悦の保證さるべき社會における生産者の機關、その意志と、その意志の組織を體すべきものは勞働組合でなければならないのである。ギルド社會主義者はこゝにおいてこの勞働組合論を提出し來たのである。

その勞働組合論の最も重要なものは勞働組合の構造である。

勞働組合の構造に關しては、從來二個の學説がある。その第一は熟練勞働者と不熟練勞働者とは各々別の組合に組織さるべきことを主張し、勞働組合を主として雇主に對してのみではなく、その階級以下の不熟練勞働者に對しても

またその生活の標準を保護せんとする熟練勞働者の見地から眺めるものである。この見地は卽ち技工組合主義（クラフト・ユーニオニズム）である。不思議の事でもあり、また且つ當然のことでもあるが、この技工組合主義なるものが不熟練勞働者によつても認容されることのあることである。彼等は技工組合を組織することによつて、彼等の不熟練勞働者としての地位を雇主並に熟練勞働者に對して維持することか出來、さうして、熟練勞働者と合同することによつて彼等の利益は熟練勞働者の爲に蹂躙されるとするのである。

然るに第二の學説は熟練勞働者もまた不熟練勞働者と共に同一の組合を組織することを要すとなし、勞働組合を主として階級鬪爭の見地から眺めるものである。この見解に立つて見ると勞働者階級間における差別的組織は勞働者階級の、さうして社會全體の進歩の障害であり、斯くの如き差別は階級的基礎の下における一の共同組織の內部において調和することが出來ると主張するのである。この立場を代表するものが卽ち產業勞働組合主義者である。

これらの二つの學説は勞働組合組織に關する二つの形態である。技工組合は一組織の內に、同一種類の仕事に從事し、もしくは同一過程の仕事に從事するすべての勞働者を包含するのである。然るに產業勞働組合は一の組織に同一種の生產物を生產するに協力するすべての勞働者、卽ち鑛山、鐵道、造船所におけるすべての勞働者を包含するのである。この記述は極めて荒けづりである。けれども勞働組合主義に關する二つの潮流は大體この記述で明かになつたことと信ずる。

（六）

ギルド社會主義は現在の資本主義經濟組織を認容せざるが故に、この勞働組合主義に對する態度は勿論第二の產業勞働組合主義である。技工組合は、ウエッブが勞働組合について下した古典的定義である雇傭條件を維持し、もしくは改善せんとする勞働者の繼續的團體である。從つて之は勞働界における現狀維持主義もしくは、漸進主義であり、著しく貴族的色彩の濃厚なるものである。從つてすべての勞働者の經濟的並びに社會的解放を主張するギルド社會主義者がこの技工組合主義に對して贊意を表さないのは寧ろその所である。

產業勞働組合主義に贊するのは次の如き二個の理由からである。卽ちその第一の理由は產業勞働組合が資本家に對して絕大なる偉力を有することである。產業勞働組合主義の主張者は資本主義の大組織に對して勞働の大組織の必要

を力說する。さうして技工組合は資本の大合同に對して、爭鬪する力を有するものでなく、反つて勞働者階級の分割となり、從つて資本主義の勢力を增大する結果となるのである。さうしてこれ等の議論は階級爭鬪を基礎とした階級的運動として見るときにおいて極めて價値あるものである。もしその議論を資本家と勞働者との階級爭鬪の上に置かないならば、熟練勞働者が不熟練勞働者に對して同盟するのを恐れるのは正當である。もし階級戰爭の事實を否定し去るものとすれば熟練勞働者が不熟練勞働者の地位を彼等と同等のものたらしめざることになり、その勞働の獨占を保持することによつてその地位の安全を確保するのは自然である。けれどもかう云ふ意味はたゞ何等の階級爭鬪ないと云ふ前提のものにおいてであるのは明かである。

それ故に〇〇〇〇〇〇〇なる現代資本主義制の下においては勞働組合組織の基礎は〇〇〇の下に置かなければならない。さうしてこのことは勞働組合の運動が常に產業勞働組合主義の方向に進行しなければならないことを示すものではないか。產業勞働組合を是認する理由はこれである。さうしてその理論の唯一のものは階級爭鬪であり、それのみ民主主義と博愛との原理に適ふものである。

第二の理由はまた均しく根本的である。さうしてこれはまた一の假說の上に立脚してゐるのである。もし勞働組合主義の目的が單に防禦的で、賃銀制度の範圍において勞働者の雇傭條件を維持もしくは改善せんとするにあるならば勞働組合組織の形態はその時の便宜に從つて定めることが出來るのである。けれども勞働組合主義の目的が單なる組合員の物質的利害の擁護にあるものでなく、それ以上の崇高なるもの、大なるものであり、また勞働組合主義者がこの組合によつて獲らるべき積極的目的卽ち產業自治獲得の目的を樹立することをこの理想とするならば勞働組合の構造に關して多くの議論を要する必要がないのである。技工組合はその構造を生產の過程に置き、その生產物に置かざるが故に產業管理權を獲得するに極めて不適當である。たゞその產業における全人員を包含すべき產業勞働組合のみがその產業を管理し得るのである。

勿論過去における勞働組合が現在の制度に代るべき組織を持つてゐなかつたことは事實である。けれども今日の進步せる勞働運動においてはその破壞的方面と共に建設的方面をも有するのである。ある一派の理論家は現在の制度を破壞するに忙はしく、その未來の社會組織に關して何等の定見も持たないものもある。彼等は現在における破壞の重要性の一面のみを見て、その將來における新社會建設の理

想のあることを忘れたのである。然し乍らこの爭鬪的方面のみを見て、破壞方面のみにその努力を集中するのは明かに短見である。ナショナル・ギルヅの主張者は幸にしてこの心理を忘れなかつた。彼等はナショナル・ギルッの中心思想を建設することによつて彼等は人間の理想的方面のあるのを忘れなかつた。彼等は資本主義との爭鬪を勞働者に敎へた許りでなく、また勞働者がその將來において建設すべき新社會の理想をも勞働者の前に提供したのである。

ギルド・マンはサンディカリストと共に勞働組合を以つて新社會において產業を管理すべき團體であるのを認めた。さうしてギルド社會主義者はその努力の成就を將來における勞働組合組織の發達にあるものと認めた。彼等が產業組合主義を力說する所以は、その階級爭鬪における能率的見地からのみではなく、經濟的改造の見地よりからである。かくてギルド・マンとしての立場から勞働組合を觀察するときに彼等は生產者としての人の自由を獲得すべき構造を要求した。さうして彼等の所謂產業勞働組合主義である。その理想は現在の〇〇と將來の建設である。

この外勞働組合の問題としてその內部組織と行政との問題が存するのであるが、こゝには「勞働組合が資本家的組織とは全然異れる方向、卽ち、勞働組合がその將來の社會の產業に對するその民主的國家との協同によつての全管理を勞働者の手中に移さんとする方向に向ひつゝあるのである」とコールが云つたその勞働組合の最近の傾向は何であるか、その理論的基礎は何であるかを示すのか本篇の主要の目的である。だからこゝには他の詳細なる硏究を記述するの必要なく、たゞ最近における英國勞働運動が漸次その將來に建設すべき所の社會についての〇〇機關と、その建設要素とに對する理論的根據を示し得たりとすれば本論はその目的を達したのである。

本論を草するに當り左記の書籍に負ふ所最も多し。
Cole: Introduction to Trade unionism, Ditto: Self-Government in Industry. Reckitt Bechhofer: meaning of National Gilds,

勞働階級の獨裁政治

――カール・カウツキーの著書を讀む――

何年か前、ラムセイ・マルドナルドは、カール・マルクスが空想社會主義者の最後のものであると述べて、マルクスを科學的社會主義者の最初のものであると常に思つてゐた社會主義者の間に大問題を起したことがあつた。

私は讀者諸君が、カール・カウツキーがロシア革命をもつて第一の社會主義者の革命でなくして最後の中等階級の革命であると觀じてゐることを知つた時には、より以上の喧囂が起るであらうと思ふ。

ザーの專制政治に對するわれ等の嫌惡はそれの轉覆を歡迎せしめるほどに强いものであつた。このことが社會主義者によつて成しとげられたことは、われ等をして、ロシアにおいてなされた凡てのことを好意の眼をもつて觀察せしめる。

しかしこのソヴキエツト共和國が一つの試驗であり、そしてその人民の社會的及び經濟的狀態が西歐のそれとは著しく相違した國家における特種にして例外的なる事情のもとに行はれた試驗であることを忘れてはならない。

カウツキーが指摘してゐるごとくロシアにおいては社會黨が權力を掌握してゐる。しかしそれは他の社會黨と戰ふことによつて得たものであり、そしてこの他の社會黨を政府から除外してゐるのである。このことは革命を救ふためには必要であつたであらう。しかしそれはわれ等が盲目的に眞似べきモデルではない。それは一黨派が權力を掌握し且つ行使してゐる以上中等階級または官僚的である。

カウツキーは要求する、社會主義とデモクラシーとはともに同一目的を意味するものであると。われ等は一階級に對すると、一黨派、一つの性、または一つの人種に向けられてゐるとを問はず、凡ての絞取を止めることを欲する。それゆえにこそわれ等は階級鬪爭においての無產階級を支持する。何となればそれは凡ての絞取を廢止することによつてのみそれ自身を自由にすることができるから、そして産業的無產階級はこの鬪爭を遂行する强さにおいて、戰鬪

的能力と傾向とにおいて發達しつゝあるからである。

若しも人類の解放が他の方法で成就せられうるとしたならばわれ等は社會主義生産の思想を放棄するであらう。デモクラシーなくして、自治なくして、人民の諒解なくしての、無産階級の解放の手段としての社會主義は考へることができない。

社會革命はある國においては――マルクスも考へたとほり――平和的手段によつて到達することができる。それは無産階級の思想と智力の熟成にかゝつてゐる。

社會主義に到達するためにはわれ等はそれを樹立する意思をもたなくてはならない。それは益々無産階級を擴大せしめる大産業によつて、並にそれに從ふ社會的生産の擴大に從つて創造せられる。

カウツキーは主張する、これは社會主義の製造にとつては原料品である、更に二つの他のものが必要であると。卽ち社會主義を要求する人々はこれを要求せざる人々よりも強大とならなくてはならない。そしてまた社會主義者は彼等が統制する事物を保持し且つその源泉を利用するの能力をもたなくてはならない。

ユートピアンは新らしい救世主(メサイア)にたよる。實際の出來ごとはこの思想の誤謬であることを證據立てる。無産階級は實行と經驗とによつて自治の能力をえなくてはならない。勞働組合は大なる要素である。

『今日、決定的な要素は最早や物質的ではなくして人物的である。無産階級は社會の規律を掌握するに至るだけに強く且賢明であるか――卽ちそれはデモクラシーを政治から經濟へ移す力と才能とをもつてゐるか?

これはカウツキーの假定した疑問である。ウキンストン・チヤーチルは『否』と答へるであらう。ジエ・エッチ・トーマスは『然り』と答へるであらう。

カウツキー、學者、政治家、行政家、經濟家及び理論家は『これは確實に豫言することはできない』と答へる。デモクラシーは自己教育の長い道を横ぎらなくてはならない。しかしそれの勝利は最後である。

『人民がデモクラシーのもとにおいて働くように目醒めた時に、專制主義のもとにおけるよりは殆んど危險がない。』

若しも勞働階級の獨裁政治なるものが下級階級の獨裁政治を意味するものであるとすれば、それは劍(ソード)の獨裁政治に道を開くものであり、そして革命はクロムエルまたはナポレオンの支配において終結するであらう。デモクラシーに、ついて偏見をもつてゐる社會主義者でなくては受入れるこ

とはできないのである。

カウツキーはロシア革命の事實とそして社會主義者、ソヴヰエツト共和國を導くに至つた社會主義者の間における相違について論じてゐる。

彼れは次にその結果を分析し、そしてロシアにおける工業及び農業の狀態を討究してゐる。彼れはロシア革命に好意をもつてゐるが眞の進歩がソヴヰエツトに組織されたる頭腦及び體力勞働者によつての獨裁政治のもとにおいて實現されると考へてはゐない。彼れはそれがロシアにおいては了解しえられることであることを知つてゐる。しかし次のように結論する。

『獨裁政治は人民の多數に反對して獲得した主權にそれ自身を安全にするための社會黨の源泉としてそれ自身を示現するものではない。たゞその力の及ばざる仕事に努力し、そしてそれの解決はそれの力を消盡し且つ疲廢せしめる。かくすることによつてそれはたゞあまりにたやすく社會主義それ自身の思想を妥協し、それの進歩を、援けるよりは寧ろ阻碍する』

デモクラシーなくしては、社會主義は不可能である。

(以上は Loboar Leader, Thursday. January 29, 1920. においてヂヨン・スカアがカール・カウツキーの新著『勞働階級の獨裁政治』について紹介したものの飜譯である。

◇大正日日講演會

私は近頃演說會や講演會といふものには殆んど出たことがなかつた。大正日日新聞と私と關係も妙なものであつた。入つてゐたのやら居ないのやら分らない程度のものであつた。しかし私はこの若は新聞が若い精神の特主として大阪に不拔の根據を有する二大老新聞を相手として生れ出でた雄々しいそして希望に輝いた誕生に對して好感を感じないわけにはゆかなかつた。同新聞の企てに應じて數ヶ所の講演會に出席した。名古屋一ヶ所を除くと皆な非常な盛會であつた。一般の人々が此若い新聞に對して私と同じ期待をもつてゐたことを知つて私は自分に與へられた祝福のごとくに喜んだ。よき經營者とよき努力とが與へられるならば恐らく關西に「三大新聞」の出現するのは遠くないことであらう。私は此希望に滿ちた將來を祝福しつゝこの新聞との一切の關係を絕ち、そして「批評」の一記者として專心努力する事になつた。(室伏)

藝術と社會主義

――コールの觀たるウヰリアム・モリス――

（一）

前世紀の前半に疑もなく最善の目的を以つて其生命とした一つの團體が活動して居た。其團體の名を「知識普及協會」と云つて、其背後には資本家、政治家及び大學教授の有力な後援があつたのである。さうして其目的とする所は勞働者階級に對して機械の使用と產業制度の發達とから勞働者階級の受ける利益を說明するのであつたのである。その廣く讀まれたパンフレットの中では、機械によつて可能となつた貨物の供給の偉大な增加と、其結果としての全社會の繁榮とを指摘した。さうして其パンフレットはまた產業組織における資本と勞働との一定の機能と、其相互の地位を決定すべき經濟學上の法則を勞働者に說明しておる。この任務をなして協會は滿足し、さうして社會の現狀を神に感謝したのである。

（二）

ウヰリアム・モリスが民主的論客中の第一人者となつたのは、この商業的喜悅の破壞者としてである。詩人並に美術家としてモリスはその自己表現の衝動が商業主義によつて妨げられるのを發見した。彼は眼を開いて、其周圍の商業主義の產物を見た、さうしてそれ等が善でないのを知つたのである。彼はこの商業的の社會にあつて商業的でない美しいものを造らうと若心をした、彼は美しいものを作つて、商業的成功を齎らすことが出來たけれども、彼は滿足しなかつた。彼は民衆の爲に美しいものを造らうと思つた、しかし彼は民衆が彼の生產物を買ふ金も、それを評價するだけの趣味もないのを知つた。彼がこの生產物を少數の富者に賣れば賣る程、彼は益々商業主義の下においては多數者に對して美もなければ、美の翫賞もないことを自覺した

のである。

かくて藝術から社會主義へと移つたのがウヰリアム・モリスである。何となれば彼は資本主義の下においては大多數の人々に對して、藝術も幸福もないのを知つたからである。藝術家としての彼がその社會主義の基礎を藝術の上に置いたのは恰も社會主義者である吾々がその最もよく知り且つ最も尊重する生活の上にそれを置かなければならないのと同じである。何となれば商業主義こそ文化生活の美しい花を殺してしまう害蟲だからである。

（三）

モリスの藝術觀は偉大にして廣汎である。藝術は彼に取つては單なる作られた外的裝飾ではなかつた、それはすべての眞の製作を靈感せしむる生命の原理であつた。彼は藝術を繪畫、彫刻、詩歌、音樂または美術を意味したのではなく、彼は善惡に拘らず、美醜を論ぜずすべてのものの製作を意味したのである。すべての眞實の藝術は民衆の生活から起り、民衆の生活がよい處では藝術も自然に榮え、其生活の惡い所では藝術は決して繁茂しないと考へたのである。彼は人々が産業制度に隷屬してをる間はよい藝術も、よい生活も多數の民衆に取つては存在することが出來ないと考へたのである。

彼は之より脫する道を明確に知つては居なかつた樣である。それは彼の主要な任務ではなかつたのである。彼の爲した所は、産業主義の劣等と其罪惡と、さうして、其物質的富の增加にも拘らずその文明に及ぼす惡影響とを社會の前に明白にすることであつた。さうしてそのことは一人の爲すべきこととしては充分なことであり、モリスはそのことをよく徹底的に仕遂げたのである。

（四）

モリスはその手と頭との勞働に喜悅を持つた美術家であつた。さうして、彼に取つては生活の中の最大のものである勞働の喜悅が少數者に許され、多數者に許されない社會に滿足することが出來なかつた。彼は生れながらにして物の製作者であつた、しかし彼の生活した時代は彼をして、その多くの精力を苦惱を多くすることに費すのを餘儀なくしたのである。多くの人はモリスの中にイーツが「最も幸福な詩人」と呼んだ一面と、さうして戰鬪的社會主義の宣傳者としての一面とを發見して驚くのである。彼等は最初彼の詩の靜かな美、彼の著書のロマンス、その裝飾と何物にも反抗する思想とを調和することを得ないであらう。然

し、これ等のものを生ぜしめた素質がまたモリスをして社會主義者たらしめたのである。彼は人の製作するものが製作に値するものであり、其製作者に對しても、その使用者に對しても喜悦でなければならぬことを熱心に求めたのである。

（五）

多くの人々殊に勞働運動に從事する人々がたゞ News from Nowhere の著者としてのモリスのみを知るのは不幸である。吾々は其講演を著書とした Hopes apd Fears for Art から彼の人生觀の明快な觀念を得ることが出來るのである。彼はこの書において社會組織と藝術の關係に關するその思想を明白に説いてある。吾々はそこに他國を輕蔑しまたは憎惡することなくして自國を愛する愛國者、その民族の地位ではなく、國そのものの爲に國を愛する愛國者を發見することが出來るであらう。吾々は民衆藝術のみではなく、自由的國民の自由生活から直接に起る藝術の信奉者を發見するであらう。また Dream of John Ball の中では自由な英國の使命の明かに語られてあるのを見るであらう。その中では彼等の生活に價値があり、彼等が資本家組織の「手」としてではなしに、友として遇せられるので幸福であることが書かれてある。吾々は次に未完ではあるが近代叙事詩中の最大のものの一である The Pilgrims of Hope を見よう。吾々はそこに舊世界の廢墟の上に民衆の工夫と意思とを以つて建設せらるべき幸福な世界の希望を見るであらう。これ等のことを吾々が知るときは News from Nowhere をよりよく理解することが出來、それが人間の幸福の窮極の價値に對するモリスの堅い信仰の表現であつて、單なる未來の不可能のユートピアの幻でないのを知るであらう。

（六）

私が斯くウヰリアム・モリスの社會主義を論じたのは、他の革命の豫言者にも增して、彼がナショナル・ギルヅ・メンと同じ血を持つてをるからである。自己表現の自由、勞働にも閑暇にも自由、奉仕にも享樂にも自由――これが彼の事業と生涯の指導的原理である。さうしてこれはまたナショナル・ギルヅの指導的原理である。私達は勞働者の手にその生活と勞働との管理を與へることにより、彼の製作に自由を與へることにより、彼等が奴隷または自由民の仕事をなすの選擇を與ふることによつてのみ機械の專制を打破することが――勿論それは機械そのものの破壞とは異るものである――出來るのである。(G. D. H. Cole: Self-Government in Industry Fourth edition. pp. 42—46. 甲野哲二譯)

米國の產業會議（三）

森　恪

十一、團體的交涉權

十七日の會議に十五人委員會より團體交涉權に關する決議案が呈出された、夫れは勞働者の選出したる代表者に依り雇主と雇傭條件を取極むるにあつた、此の結果として產業會議は一つの危機に面した、資本側は他の側よりの熱心なる說明あるに拘はらず反對を固持した、勞働側は該決議案が再び委員附託になるが如き事があれば勞働代表は產業會議より脫退すると宣言した、討論三時間の後に投票に附せず延期された。

とは云へ十八日の會議に資本側は曩の會議に呈出したる案に對し一つの對案を作成して和解の氣運を作つた、兩決議案は十五人委員會に附託せられ會議は十月二十日月曜日迄で延期された、資本側呈出の對案は次の如きものであつた。

「個人的職工の勞働及職工組合、其他之れに類似の組合を組織すべき權利(但し政府雇職工は此の限りに非ず)、團體的交涉の權利、賃銀、勞働時間、就職の關係等に關し雇主と協議打合せをするに際し勞働者より選出せる代表者を出すの權利を承認す、

雇主は自己の工場に屬せざる職工又は其の中より選出されたる代表者との交涉を拒絕する事を得べし、

雇主及其の雇職工は協議の上惰意に此等の代表形式を定むる事を得べし」

斯くの如き案を勞働側が承認する事が出來ないのは勿論である、何故ならば政府の雇職工の組合を禁ぜらるゝならば現存せる一部組合は解散しなければならないし、且つ雇主が他の團體代表者と協商する事を拒絕し得るに於ては米國勞働組合中職工組合や或は勞働聯盟は消滅すべき運命を有する事になるから。

二十日の會議は開かれた、公衆側のゲーリー氏（Judge Gary）はゴムパース氏提案の鋼鐵罷業仲裁決議案に絕對に反對した、簡單ではあるが形式的に彼れは公開工場（註）（Openshop）の支持と組合外勞働者の保護の原則に付き說明した。

ゴムパース氏は甚だしく失望したそして其の頑迷なる保守主義と鋼鐵合同會社代表者の屈げざる態度を攻撃した。

註、公開工場とは工場を總ての勞働者に公開するものにして組合に屬する勞働者のみならず組合に屬せざる勞働者をも對人的交渉に依り雇傭契約を結び得るを云ひ、非公開工場とは團體的交渉に依り組合に屬する勞働者のみに開放されたるを云ふ。

十二、勞働側提案否決

團體的交渉權竝にゴムパース氏の計畫なる鋼鐵罷業仲裁に對する諸提案は十月二十一日の決選投票に依り否決された。投票五回の中團體交渉權の爲めに四回爲された、そして各回とも二對一の割合で否決されたのである。

此の結果は產業會議を無期延期たらしむるものであつた、乍然此の危機を憂慮し居りし大統領ウィルソン氏は病床より產業會議々長なる内務卿レーン氏に六百語よりなる書簡を發した、該書簡は一部代表者脫退の脅威を感じたる際に朗讀さるべきものであつた、大統領書簡の報導は傳へられた、そして妥協點を見出す爲め光榮ある努力が爲された、然し效果は得られなかつた、書簡は十月二十二日の會議で朗讀せられた。

其の一節に曰く

「………卿等にして協定に到達すべく各種の手段、忍耐、努力を盡したることを國民に確認せしめずして散會するが如き事あらむか、最早國民をして安むじて產業の經營を持續せしむるの方法なきことを余は告白せざるべからず、平和的なるべき產業の經營に戰爭的手段を採用するが如きは民主的生命の發展に對し疑惑と且つ厭ふべき勢力を構成するものにして斯くの如きは實に認容し難き所なるべし、余は卿等が現在よりも正確にして眞摯なる產業諸分子の協同に依り生產的能力を更に增進すべき綱領を協定せむことを期待す」

各代表者が大統領に感謝の起立投票をしたる後社會主義者なるジョン・スパルゴー氏（John spargo）は一の決議案を呈出した、夫れは閉會する迄百方盡力して何等かの實行案を得る事を誓言する事にあつた。

ゴムパース氏は起立した、そして「大統領の病氣回復を祈ると共に深甚の同情を表白せる」處のスパルゴー氏の動機に彼れ竝に彼れの同僚の贊成を表白せる後彼は彼れの同僚と協議する事なく動議に含まれたる「保證」に對し投票の責任を受くる事が出來ないと云つた。

議長レーン氏の提議で勞働側は該協議より脫退した。

十三、勞働側脫退

午後に會議が開かれた時ゴムパース氏は更に全勞働側に依り承認されたる決議案を呈出した、其の本旨は

「賃銀勞働者は無差別に組合を組織し團體的に交渉を爲すの權利及び賃銀勞働時間竝に雇傭の關係と狀態とに關し雇主と

協議協定を爲すに付き其の任意の代表者に依りて代表せらるべき權利を有する事を產業會議は承認す」

と云ふにあつた、此の動機の決議案は十五人委員會に附せられず直ちに採決に附せられたのである。

資本側のフイシユ氏は勞働側に依り呈出せられたる決議案は既に資本側にて否決したる團體交涉權の原則に何等異る處無しと反對した。

討論は熱烈を極めた、表決せられたる處バツフアローのランドン。桑港のルイス●タイタス。エドワード●ラツセル。エリチツト博士。ニンチコツトの公衆側の總ては贊成の投票を爲し資本側のパーキンス。ローリー。チーレアリの總ては反對投票をした、此の時ジヨン●スパルゴウ氏はゴムパース氏に質問を發し「該決議案が採用せられたる曉には團體交涉の原則は產業會議に依り理論的に且つ愼重に作成せらるゝも可なりとの意味を勞働側は含めりや否」を問うたゴムパース氏は可なる旨を答へた、公衆側は熟議の後決議案を是認した、バーナードバルウチ氏（Bernard M Baruch）は棄權した、勞働側は贊成した、資本側は反對した。

十四、ゴムパース氏告別演說

ゴムパース氏は起立した、そして演說して曰く

「……資本家團體の行動は此會議より吾等を驅逐せり、吾等は最早提議すべき何物もなし、而して吾等は吾等が永く此會議に止る事能はざるを甚だ遺憾なりとす、吾等は數百萬の勞働者に對し責任を有す、吾等は此等の義務を果たさゞるべからず、吾等の憾む處は苟も勞働者側より提議せる公平なる提案が否決せらるゝが如き事の起る事にあり、然れども萬事休す、骰子は既に投ぜられたり、我等は今病床にある大統領ウイルソン氏の要求に應ぜむが爲め吾等の力の及ぶ限り凡ての手段をつくして努力したり、議長並に紳士諸君……吾等に對する諸君の禮讓は深く感謝する處なりと雖も如何にせむ吾等は此上諸君と此處に席を同じうする能はざるを」

此の告別演說が終るや直ちにゴムパース氏は米國勞働組合聯合のフランク●モリソン（Frank Morrison）ミカエル●エフ●タイエ（Michael F. Tighe）其他の組合代表者と共に退席した、續いて鐵道從業員組合の代表者も退席した。資本側の各員は勞働側脫退に對する責任を否認した、ジヨン●スパルゴウ氏は產業會議繼續に對す決議案を呈出した、そして勞働側歸還の勸說の計畫をした。

次の二十三日公衆並に資本側は產業會議再開の爲め議席に就た、內務卿レーン氏は勞働側が脫退せるを以て今後資本側の出席は不要なるべしと云ふウイルソン大統領の希望を表白した、かくて公衆側のみの會議となつた。次の日公衆側は仕事を繼續する計畫を爲した、然しウイルソン大統領

に新産業會議開催の献策の書を寄せたる後直ちに會議を中止し期日を定めず延期してしまつた。

十五、公衆側よりの大統領報告書

其の公衆側の代表者等が大統領に發したる書中に於て甚だ興味ある事は勞働側の呈出したる團體交渉權の原則を無條件に支持したと云ふ事である、そして猶ほ興味ある事は公衆側に含まれたる資本家の數は資本側よりも多數であり、其の使用する勞働者の數も遙かに多數であると云ふ事實である、公衆側が大統領に呈出したる報告書中團體交渉權に關する一節は次の如きものである。

「勞働者自から選出したる代表者に依り彼等の雇主と團體的交渉の目的を以て組合を組織する勞働者の權利は、否定も攻撃もする事も能はざるものなりと吾等は信ず。公衆代表者として吾等は賃銀勞働者は此の目的の爲め如何なる組合を選ぶも自由であると云ふ意味に於てのみ此の權利を解釋するものである、斯くの如く組織され、彼等自から選出したる代表者により代表せらるべき勞働者の權利を認容する事に依り幾多の困難は時と共に惹起するならむ、然れども吾等は關係團體に對して仲裁々判を以て正義と公平に依り斯くの如き困難を解決し得るものならむと信ず」

十六、結　論

該産業會議が齎らしたる效果に關し資本側は三箇條の綱目を擧げたる陳述書を發した。

一、豫備機關と包括的にして且つ秩序立ちたる豫定案なかりし爲め産業會議の失敗は當然なりし事

二、團體交渉權の問題は此の國により重大なる問題として齎らし而して此れが爲め圓滿なる解決案を得さしむる點に於て無數の製造業者に好刺激を與えたる事

三、團體交渉權の問題は確定せざる可からざるものなる事

等である。

又公衆側のバーナード・エム・バルウチ氏も産業會議の齎らしたる效果を概言したる次の陳述書を發した。

「創設されたるものとしての産業會議は解散するに至る迄でに表面上に顯はれたるより遙かに多くの事を遂行した。

一、産業會議は全國民に熟知せる問題を齎らした

二、産業會議は解決の非常に困難なる事を示した

三、産業會議の論爭は全國民をして考慮せしめた、而して此の考慮より解決策が生ずるであらうと信ずる

四、農業的利益と工業的問題の間に存する密接なる關係を總ての會議參加者に知らしめた

五、此の會議に於て唯だ明瞭とならなかつた事は資本と勞働が社會に負う處多き事であつた、卽ち資本と勞働とを適當に保護し乍ら最抵生產費に於て生産する事の義務を明かにしなかつた事である、更に換言すれば勞働者の文化的生活を保證し乍ら正當なる價格に於て生産するの義務を明かにしなかつた事である。

かくて米國勞働運動史上特筆すべき産業會議は終りを告げたのであつた。（終り）

◆編輯室と校正室

◆賀川豊彦君の上京を機會に「思想家文藝家懇談會」といふやうなものがパウリスタの樓上で開かれた。「改造社」の山本君や横關君の斡旋も與つて非常な盛會であつたことは若き天才的勞働運動者の前途のために喜ばしいことであつた。

◆ロシア帽の大杉榮の顔も見えた。眞柄孃の父としての堺枯川も見えた。ある人がいやにツンとしてゐると評した厨川白村も見えた。その側には溫顔の有島長老が美しい大橋房子孃と肩を並べてゐた。日本のクロポトキン——森戸辰男君も見えた。早稻田の北澤木村の兩教授も見えた。國家社會主義の高畠素之も見えた。江口渙、宮地嘉六等の諸君も見えた。

◆警視廳の危險人物臺帳によると大杉堺の兩君は甲、森戸君も甲に上進したであらう。安部磯雄、高畠素之君等が乙、北澤、木村の諸君等が丙の危險人物ださうだ。そこで『この宴會場に爆彈を投ずると、危險人物は上は甲から下は丙まで一彈のもとにやつつけることができる！』と智慧のあることをいつた人もあつた。

◆原敬君あたりも『國家の基礎』を『憂慮』するならかうした危險人物の會合に一擊を與へたら、さぞ『國家の基礎』は萬々歲であらう。——尤もそれではわれ〳〵人民——『安全人民の基礎』が危うくはなるが。

◆憲政會といふ政黨は英國のアスクイス黨みたやうな地位になつた。普選の看板はかけながらもその實は資本家黨で、そのうへ内部はゴチャ〳〵やつてゐる。こんな曖昧な政黨は早く解散したらどうか。そして一部は勞働黨へ一部は政友會へ走つたらよからう。

◆それまでの英斷ができなかつたらせめては加藤總裁——日本一の富豪の女婿——だけは普選の旗印からいつても除名したらよからう。日本一の大富豪の持物である間は民主々義の方で御免を蒙らうではないか

◆ベルトランド・ラッセルの流行も日本では下火となつたやうだが當のラッセルは中々の大活動、最近には『ギルドと自由』といふ大講演をやつた筈だ。尤も彼れは今度もとのケンブリッヂ、トリニチイ、カレッヂへ歸つたさうだ。

◆ラッセルの復歸と聞いて森戸君を放逐した帝國大學はどうするか見ものだ——といふほどに帝大を買被つてはゐないが。

◆しかし森戸君の放逐に對して、囂々としてわめいた日本の諸新聞社御自身はどうか。その新聞社に第二の森戸君が出たらどうするか。——かう良心に尋ねると大きな口はきけまいではないか。

◆『批評』は主幹者の病氣その他で大分不勉強をして讀者諸君に申わけはなかつた。次の號からは面目を一新する考へである。そして發行日も遲れないやうにする考です

◆頁も少しは增し、内容も紹介ばかりでなしに自由批評もどし〳〵やるつもりです但し立場は自由、——自由といふことより外には何にもない。

◆讀者諸君の方でも是非も少し新讀者を增加するやうに盡力して頂きたいものです

定價

毎月一回一日發行	郵稅
一部 卅錢	五厘
半年分 一圓七十錢	稅共
一年分 三圓卅錢	稅共

但臨時特別號の代價は別に申受く

▲誌代は總て前金　▲郵券代用一割增
▲送金は可成振替　▲外國行郵稅十錢

大正九年四月一日印刷納本
大正九年四月一日發行

東京市京橋區元スキヤ町三ノ一番地
編輯兼發行兼印刷人　尾崎士郎

東京市小石川區久堅町百八番地
印刷所　株式會社博文館印刷所

東京市京橋區元スキヤ町三ノ一番地
發行所　批評社
振替東京四五三四六
電話銀座一三七四番

大正八年三月廿八日第三種郵便物認可
大正九年五月一日印刷納本發行

（定價　本號卅錢）

五月號（第十五號）

モリスの藝術的社會主義

I・W・W・主義の研究

批評社

室伏高信著【第十六版】

東京京橋區元スキヤ町三ノ一
振替東京四五三四六番
批評社

【主要目次】國家社會主義（國家社會主義の起原―社會民主黨と國家社會主義―『共産黨宣言』―日本の國家社會主義―社會主義と資本主義―デモクラシーと社會主義―封建主義、商業主義、社會主義―政治的社會主義と經濟的民主主義―社會民主主義―勞働者と國家―『國家は死滅する』―ブルジョアの國家―エンゲルス國家觀の意義―『共産宣言』と國家―ベーベルの提議ゴーダ會議―カウツキーの主張―マインツの會議―獨立勞働黨の決議―ゲード派の態度―ギルド社會主義―國家社會主義とデモクラシー―ソーシャル・デモクラシー）修正派社會主義（ベルンシュタイン―『マルクス主義の危機』―マルクス主義の原則―唯物觀―唯物主義と唯物史觀―マルクスと非經濟的要素―マルクス主義者の態度―餘剩價値説―マルクス價値論―エンゲルスの解説―勞働價値―マルクス抽象論―マルクス價値説と餘剩勞働―資本集積説―資本主義と富の分配―恐慌説―階級鬪爭説と革命説―『共産黨宣言』の批評と政治的民主主義―デモクラシー―社會主義と自由主義―勞働者と祖國―普通選擧―『共産黨宣言』―修正社會主義と理想主義―『カントに還れ』―『カントに還れ』の意義）サンヂカリズム（サンヂカリズムの起原―サンヂカリズムの特質―『國際勞働黨者協會』―ゲード派―ブルゼー派―フランス勞働運動の狀況―勞働組合の公認―『勞働紹介所聯合』―『勞働總同盟』―C・G・Tの實力―總同盟罷工―サボタージュ及びボイコット―ベルウチエーと勞働組合とサンヂカリズム―政治的社會主義の不信用―サンヂカリズムと無政府主義―實際的指導者―理論的指導者―ソーレル―マルクス―ブルードン―直接行動―サンヂカリズムと國家―バクーニン組織的無政府主義―社會主義の目的―經濟的聯立主義―サンヂカリズムと勞働組合主義―I・W・W・―産業別勞働組合及職業別勞働組合―コレクチヴヰズムとサンヂカリズム―生産者專制）ギルド社會主義（ギルド社會主義の起原―英國勞働組合の歷史―『新組合主義』―勞働黨の成立―勞働黨の不信用―ドム・マン―『サンヂカリズムの波』―中央勞働大學―ギルド社會主義の誕生―ギルド社會主義と國家社會主義―直接經營―國家資本主義―消費者―産業民主主義―サンヂカリズムとギルド社會主義―生産者によつての絞取―ギルド社會主義の目的―賃銀制度撤廢―國家社會主義と賃銀制度―資本主義の精髓―貧乏と奴隷制度―産業自治論―サンヂカリズムの立場―生産者の自由及消費者の自由―産業統制の意味―ギルド社會主義と國家―勞働組合と國家―ギルド社會主義の特質）勞働組合主義（勞働組合の起原―ブレンタノとウエヴソー―ギルドの性質―産業革命と勞働組合―各國の實例―契約の自由―社會主義と勞働組合主義―オーウエン主義―チャーチスト―『ナイツ・オヴ・ヴオア』勞働組合主義と社會主義との分離―一八五二年の職業別組合主義―勞働組合主義の定義―國家社會主義的勞働組合主義―職業別組合主義の性質―一八八九年新組合主義の性質―現代の新組合主義―産業別組合主義の勃興―その性質―その現勢）ボルシユヴヰキ主義（ロシア社會運動史―ボルシヴヰキの起原―プレフアーフとレーニン―三月革命と九月革命―『人民』ロッスの書物―妥協的態度―ボルシエヴヰキの本質―勞兵會憲法―トロツキーのボルシエヴヰキ論―レーニンの所論―勞働階級と執政權―『共産黨宣言』とボルシエヴヰキ―手段と本質―マルクス主義とボルシエヴヰキ―ボルシエヴヰキと無政府主義―ボルシエヴヰキとサンヂカリズム―ボルシエウヰキと國家）無政府主義（無政府主義の起原―議會主義と無政府主義―暴動派と平和派―モストーマルクスとバクーニン―クロポトキンの定義―個人主義的無政府主義―集産的無攻府主義の性質―團體主義と權力―クロポトキンの無政府主義論―相互扶助と共産主義―自由なる共産主義―政府と所有―共産主義と無政府主義―スチネルの無政府主義―個人主義と無政府主義

批評

五月號

目次

モリスの藝術的社會主義

――ギルド社會主義の創生(二)――

室伏高信

(五)

オーウエンとモリスとはギルド社會主義のアダムとイヴとである。彼れはオーウエンへの復歸を說くとともにまた。『彼れ自身のうちにモリスをもちきたす』ことを求める。(1)オーウエンによつて教へられた產業統制の思想と、モリスによつて歌はれた美の世界とは Guildism の創生であり、理想であり、そして若きギルド・マンの感激の二つの泉である。この二人について知ることなくしてはギルド社會主義については何ごとも解することはできないであらう。私は既にオーウエンについて述べた。モリスの藝術的社會主義について、少しく語るところがなくてはならない。

(1) The Guild system will bring Morris into his own. ——G. D. H. Cole, Self-Government in Industry p. 280

(六)

ウキリアム・モオリス William Morris の生れた年はロバアト・オーウエンが『新道德世界』(ニュー・モーラル・ウオールド)の建設のために彼れの『內外產業人道及知識聯合協會』British and Foreign Consolidated Association of Industry. Humanity and Knowledge の旗揚げをした年であり、(1)英國における勞働運動が正に革命的精神の高調に達してゐた時であつた。しかし彼れが社會主義に目ざめたのはその四十餘歲の時であつた。一八七七年に至るまでは彼れは彼れの謂ふところの the

idle singer of an empy day であつたのである。オーウエンの少年時代に比べるとモリスの少年時代は遙に幸福であつた。オーウエンの父が馬具屋であつたに對し、モリスの父は繁昌せる株式仲買店の組合員であつた。そして早くから學校教育をうけ，又オックスフォードの Exeter college に學んだ。オーウエンが九つの時に丁稚奉公に出たのに對し，モリスは二十二歳の時に建築師ストリートのもとに弟子奉公に赴いた。丁稚奉公にその生涯を初めたオーウエンはやがて工場の支配人となり、經營者となり、そして遂に社會主義の思想に到着した。學校教育を了へて建築師の門弟となつたモリスは圖案に，家具の製造に，壁紙（ウォールペーパー）やステーンド・グラスや、其他の裝飾品の製造に身を投じた。オーウエンがニュー・ラナルクにまたはニュー・ハアモニイに彼れの理想村を建設したと同じくモリスはメルトン・アベイの附近に彼れの理想の工場を造つた。そしてオーウエンが最初に彼れの謂ふところの三大害惡としての sweating, ignorance and enmity. の救治のための宣傳に働いたのに對し、モリスは眞實なる藝術のために Kelmscott Press を發行し，また『オックスフォード及びケンブリッヂ雜誌』への寄稿を初めとして藝術のために彼れの生涯中における二十年間の生活を捧げたのである。かくして彼れの前半生は純粹藝術家としての生涯であつた。

Dreamer of dreams, born out of my due time, Why should I strive to set the Crooked straight?

モリスは自ら『ドリーマア』であると考へてゐた。『私の仕事は夢の示現である』とは彼れの自らいつてゐるところである。繰返していへば彼れの前半生は藝術のために捧げられた半生であつた。

前にも述べたとほり彼れは初めストリートの門に修業した。ストリートはゴシック派の建築師であつた。彼れもまたその師に習つて建築師（アーキテクト）となつた。彼れはもとよりゴシックの生れた時代と周圍の諸事情を異にした彼れの時代においてゴシックの摸倣にのみ耽つてゐることに滿足してゐることはできなかつた。そしてその後間もなく彼れはロセッチを知ることゝなつた。ロセッチは『非常に偉大なる人物であり且つ機威をもつて話す』畫家であり詩人であつた。そのロセッチはモリスに畫家となることをすゝめた。そして畫家となるの才能のあることを附け加へた。モリスはロセッチの言葉に從つて繪畫の試みにと入つた。彼れの筆になる Queen Guenevere は凡てのラファエル前派の繪畫のうちで最も美しものであると稱せられた。しかし彼れは建築術においてのごとくに繪畫において深い興味を見出

すことはできなかつた。『私は建築術を捨つることなくして繪畫を試みようとしつゝある』――モリスはその書簡のうちでから書いたことがある。彼れはロセッチの言葉のために建築術に對する憧憬を捨てることはできなかつた。建築術(アーキテクチユーア)は彼れにとつては常に最も偉大なる藝術であつたのである。『ウヰリアム・モリス』の著者はいふ『われ等が裝飾術と呼ぶものは彼れにとつては裝飾以上のものであつた』と(2)彼れはアーキテクチユーアのうちに常に偉大なる藝術を發見してゐたからである。彼れはゴシックを愛した。ゴシックの藝術において建築術に對する『高尚なる服從』を發見したからである。しかしルネサンスの藝術においては彼れはゴシックにおいてのごとき愛着を感ずることはできなかつた。それは建築術と獨立するに至つたからである。(3)彼れにとつては室內における一つの家具と雖も藝術の體現でなければならなかつた。彼れにとつては凡ての家具は詩の表現でなければならなかつた。『彼れは金持ちによつてよりは貧困者の狀態によつて國家の繁榮を斷々したがごとくに偉大なる繪畫によつてよりは小屋やコップや臺皿やによつて時代の藝術を判斷した』(4)粗野の裝飾は粗野な精神の體現であつた。粗野な家具は粗野の振舞と同じく彼れの忍ぶ能はざるところであつた。グリムソープ卿は彼れを指して Poetic Upholsterer であるといつたことがある。グリムソープ卿は家具に對するモリスの態度を嘲笑するためにかく批評したのであつたがモリスは却つてこの言葉を愛してそして正しい批評であると信じた。グリムソウプ卿とモリスとの間にはかくのごとき相違があつたのである。獨りグリムソウプ卿だけではなしに、この時代における商業主義に囚はれた人々は何れも藝術の價値を解することはできなかつた。凡ての藝術品はそれ等の人々にとつてはたゞ『廣告(アドヴァタンズメント)』であるに過ぎなかつたのである。しかしモリスにとつては藝術は最高の寶であつた。Poetic Upholstere は商業主義のもとに製造されつゝあつた凡ての裝飾品に對して人格の粗野 Valgarity を感んぜざるをえなかつた。この心はフキリップ・ウエッヴによつて彼れのために建てられた家屋のうちに第一の實現を見た。その家は赤煉瓦と赤瓦とによつて造られた。林檎の木と櫻とは家を圍繞して植えられた。八月の夜、熟した林檎は窓へと落ちた。薔薇の四ッ目棚は家の兩側に四邊形を作つた。――モリスは自らの手で室內家具の準備にとりかゝつた。しかし彼れの計劃は材料をうることの困難のために進行を妨げられざるをえなかつた。それが原因となつて彼れは遂に眞實に Poetic Upholsterer となるべき機會に遭遇した。

一八六一年における『モリス商會』の創立がこれである。ロセッチとバーン・ヂョーンスとウエッヴと、そして畫家のマドックス・ブラウンと並にブラウンの友ピイタア・ホオル・マーシャルと、モリスの友フォークナアとはこの商會の組合員であつた。この商會の事業は壁の裝飾や、ステードン・グラスや、彫刻や、金屬細工や、家具の製作であつた。そしてこの商會におけるモリスの主要な仕事はこれ等の製作についての設計とその實行の疎隔とを調和することであつた。彼れは、彼れの設計がその思ふまゝに遂行されなければならないと考へた。彼れは材料についての知識なくして抽象的に設計する技術家は決してその趣味を表現することはできないものであると考へた。何となれば設計において眞實の發明を刺激するものは材料についての知識であるからである。普通の裝飾屋の仕事におつて考へられてゐる嗜好は何人の嗜好でもない。それはたゞある裝飾屋が一般人の嗜好であると考へてゐるものであるに過ぎないと。そこで彼れは彼れ自身の嗜好を考察すべきものであるとなした。そしてかくすることによつてのみ藝術家は初めて藝術上の製作を産み出すことができるとなした。ブロックの記るしてゐるところによるとこの商會における設計の大部分はモリスの手によつて行はれ、凡ての生産はまた彼れによつて組織され且つ指導された。(5)しかし『赤い家』におけるモリスの幸福は永續することはできなかつた。彼れはリユマチスにかゝつたからである。そして一八六五年に『赤い家』を賣つてブルームスベリーに家族と事業とを移した。そこでよき支配人（George Warrington Taylor）に援助されたモリスは事業上の多忙から彼れを救ふことができた "Depense of Guenevere" の作者としてのモリスはこゝに再び詩作にと復つた。一八六七年には『ヂョーソンの生と死』を出版した。そは『地上のパラダイス』の一部であつた。『地上のパラダイス』は一八七〇年に完成された。一八七二年には "Love is enough" を書いた。詩人としての生涯が暫らくつゞけられた。モリス商會の解散したのは一八七四年であつた。

（1）モリスは一八三四年、ロンドンに近きウワルサムストウに生れ一八九六年十月三日に死んだ。彼れの著書中主要なるは大體次のごとくである。

1. Nows from Nowhere.
2. Hopes and Fears of Art.
3. A Dream of John Ball.

4 Art and Socialism·
5. Signs of Change·
6. Useful Work versus Useless Toil.
7. Architecture, Industry and Wealth.
8. Socialism,Its Growth and Outcome,
(2.)Clutton Brock, William Morris, p. 49
(3.)ibid, p. 50
(4.)ibid, p. 51
(5.)ibid., pp· 66-7.

(七)

モリスは初めは政治や社會前題に興味をもつことができなかつた。(1)そして彼れの前半生は詩や建築術や繪畫のために捧げられたのである。しかし彼れは決してロセッチのごとくに藝術の孤獨的實在を信んじてゐたのではなかつた。ロセッチにおいては藝術とは藝術家の特種の感情の表現であつた。彼れにおいては繪畫のごとき孤獨な藝術において最も深く且つ最も完全なものが發見せられるものであると信じてゐた。モリスはロセッチから大なる影響をうけた。しかし彼れはロセッチに滿足してゐることはできなかつた。『私はそれを越えた。私はできるだけガブリエルを眞似たいと思つてゐる』――モリスはその友のバーン・ジョーンスにこう告げたことがある。彼れは藝術の社會的孤立性を信じなかつた。彼れは藝術と社會とが深い關係をもつてゐるものであることに注意を拂つた。健全なる社會においてこそ藝術の發達の存在するものであるとは彼れの確信するところであつた。彼れにとつては藝術もまた社會的事業の一つであつたのである。『ウヰリアム・モリス』の著者はこの點について次のように述べてゐる。

『哲學者は各時代の藝術を語つてゐる。しかし彼等はそれを他の活動から孤立せしめた。ラスキンとモリスとは寧ろ藝術と他の活動との關係を期待した。そして藝術を生んだ社會の全精神との關係を期待した』(2)

モリスはラスキンから尊きものを學んだ。ラスキンが、藝術の製作の批評から社會の批評にと轉じたごとくに、モ

リスは藝術の製作から社會の再造にと轉じた。マッケールのいつてゐるとほり彼れはその驚くべき才能を傾けて人類文明生活の再造にと捧げるに至つたのである。――モリスの謂ふところの idle singer はかくして社會主義の生涯へと入つた。

（1） Block, op. cit., p.

（2） ibid, p62

（八）

モリスが初めて公衆の前に立つことゝなつたのは彼れが藝術を愛護するの動機からであつた。一八七六年にリッチフヰールドの伽藍とそしてケルムスコットに近い美しい村バァフォードの敎會との一修復は藝術の愛護者としてのモリスの心を刺激しないではゐなかつた。一八七七年になつてまた、チュウケスベリイ寺院が修復の脅威をうけつゝあることが傳へられた。モリスはこれを聞いて Athenaeum への書簡を書いた。そして凡ての修復(レストレーション)に反對して古るき紀念物(モニユーメント)を支持するために集會が催されなくてはならないことを說いた。彼れにとつて古るき建築は『敎會の玩具』ではなくして『國民の成長と希望との神聖なる紀念塔』であつたからである。この書簡が發表されてから一ヶ月ばかり後に『古代建築物保護協會』が組織された。モリス自らそのセクレタリイとなつた。この事業のためにモリスの後半生は少からぬ割愛を餘儀なくされた。かくしてモリスは idle singer の境から越えた。またこれとともに彼れをして公衆と接觸せしむるに至つた他の一つの動機があつた。土其古のブルガリア人虐殺問題がこれである。英國の保守黨內閣はロシアに反對して土其古の暴虐に組した。自由を愛する人々は、政府のこの態度に憤懣の心を起さないわけにはゆかなかつた。モリスもまたその一人であつた。そして『東方問題協會』が組織された時にモリスはその會計官となつた。一八七七年にロシアがいよ〳〵土其古に宣戰を布告した時にモリスは英國の勞働者に告げていふた。

『われ等を戰爭に導きつゝあるものは何人であるか？　株式取引所における貪慾の賭博者、陸海軍の怠慢な士官（憐

れな奴等!)、倶樂部の疲廢せる嘲弄者、戰爭によつて何ものも失ふことのなく朝食の愉快な卓子のために戰爭の報導を刺激する失望的な御用商人、そして最後に、トーリーの國會』

モリスにとつては、東方問題は單なる外交上の一問題ではなかつた。彼れはもつと深いところに社會の疾患を見た。富者の階級が自由と進歩とに對して痛ましい憎惡者であることはモリスの夙に觀取してゐたところであつた。また從つて彼れにとつては東方問題はこの社會的疾患の症徴であつた。彼れは中等階級に生れた。したし中等階級の希望も恐怖も繁榮の考へも、その價値斷も、モリスの心のうちに殘されてはゐなかつた。彼れは勞働者であつた。勞働者であることは彼れにとつては大學教授であることよりも樂しいことであつた。

一八八一年に至るまではモリスは自由黨員であつた。彼れは『國民自由同盟』の會計官であつた。しかしモリスは、自由主義者とともにゆくことのできない約束のもとに置かれてゐた。自由黨が政權をえた時にこの自由の標榜者は、自由の憎惡者であることを證據立てた。愛蘭强制法の通過がこれである。『國民自由同盟』は消滅した。モリスは最早や彼れ等の政治に耐へることはできなくなつた。『私は寧ろ失望の心持ちだ』――失望のモリスはその失望のうちに、彼れの謂ふところの『憎むべきものと愛するもの』とを知つた。そしてそれが『偶然的の事件』でないことを知つた。この愛と憎惡とこそモリスの將來を貫いた信仰の基礎であつた。モリスはやがて次のように彼れの心の傾向を語つた『私の心は偉大なる變化に滿たされてゐる』と。『偉大なる變化』は遂に彼れを捕えた。社會問題は彼れに面する最大の問題となつた。そして『彼わ自身を喜ばすほか何等の目的にも奉仕することのない仕事』は、詩も藝術も、彼れにとつては『盜める快樂』となつた。

社會問題について考へ初めたモリスは先づ急進主義と社會主義との區別を明確に書いた。彼れは最早や單なる急進主義者として滿足することができなくなつた。彼れ思へらく急進主義とはたゞ政治の機械であると。かくして彼れは急進主義 Radicalism から革命的社會主義 Revolutionary Socialism へと移つた。彼れは經濟的變化の必要に氣付いた。そしてブルジョアによつての經濟的權力を打破するのでなくしては眞の自由は存在しえないものであると考へた。一八八三年に彼れは『民主主義聯合』Democratic Federation の會員となつた。『民主主義聯合』は一八八四年に

『社會民主主義聯合』Social Democratic Federation に變じた。ハインドマンはこの同盟の創立者であり、また最も有力な指導者であつた。ハインドマンは英國における代表的のマルキストである。彼れは一八八三年に彼れの『社會主義の歴史的基礎』を書いた。彼れの期するところは民主主義聯合——そして社會民主主義聯合をマルクス主義の團體とすることであつた。モリスもまたマルクス學の研究に入た。しかしマルクスの經濟學は彼れにとつては『頭腦の混亂』の苦しみを與へたに過ぎなかつた。彼れは決してマルクス主義者ではない。マルキシアン・オルソドックスはモリスの藝術的精神の耐ゆるところではなかつたのである。彼れはかくしてハインドマンの代表的敵對者となつた。彼れは一八八四年八月に次のように書いた。『實際にそれは彼れ（ハンドマン）と私との爭ひとなつた』と。

ハインドマンは社會民主主義聯合をもつてマルクス主義の團體たらしめようとしたとともにまたこれをもつて政治的團體としようとした。モリスは單なるプロパガンダの團體として以上に出づることを欲しなかつた。かくしてこの團體はハインドマン黨とモリス黨との二つに分裂すべき運命のもとに飜弄されてゐたのである。一八八四年十二月四時間半の對論の後にモリス及び彼れの一派——多數派であつた——は遂に社會民主主義聯合を去つて新らたに『社會主義者同盟』Socialist League を組織することとなつた。『コンモンウキール』(2)はその機關であつた。モオリスは『コムモンウキール』の主筆と爲りまた『社會主義者同盟』の會計係であつた。しかし『社會主義者同盟』もまたその内部の不一致において『社會民主主義聯合』と異るところはなかつた。それは各種の異分子の集合體であつた。急進勞働者倶樂部の會員もあり、國際社會黨の會員もあり、オーウエン派やチャーチスト派の殘黨さへも加はつてゐた。ミス・メイ・モリスの記るしてゐるところによれば外國の間牒さへも加はつてゐたのである。

社會主義者同盟のうちにおける爭ひの中心點は議會主義と非議會主義とであつた。そしてそはまたコレクチヴキストとアナーキストとの爭ひであつた。モリスはその何れの黨派にも屬してはゐなかつた。彼れは兩派の調停に力を致した。『そこには實際に無政府主義者でなくして無政府主義者の側に加はる多くの人達があつた。……そして私は一二の獨逸人等を除く時はわれ等のうちに一人の無政府主義者もないかと思ふ。』——こう書いてゐるモリスはまたコレクチヴキストに對しても何等の同感をもつてはゐなかつた。そはモリスにとつては社會主義の原理について深き理解

に缺けた『術學的部分』であるに過ぎなかつたのである。一八八八年モリスがブルウス・グレーシエルに宛て書簡はよく彼れの立場を明らかにしてゐる。

『第一に如何なる事情においても私は積極的の宣傳を捨てないであらう。第二に私はこの同盟を一致せしめることにあらゆる努力を費すであらう。第三にわれ等は議會を敵の代表者として取扱ふであらう。第四にわれ等はある一定の目的のために議會に叛逆者として會員を送ることを餘儀なくされるかも知れない。第五に如何なる事情のもとにおいても彼等の政治の遂行を援助しない。第六にわれ等は議會を通しての姑息の手段を進めないであらう。……

しかし議會派と無政府主義者との爭ひは極點に達した。議會派は遂にこの同盟を脫退した。そしてモリスは一人無政府主義者の間に殘された。『われ等の間における無政府主義者は事物を最極に驅り、そしてわれ等が無政府主義の宣告を存すにあらざればわれ等を分裂させることを決心したように見える』——モリスはこう書いてゐる。

一八九〇年、モリスは『コムモンウヰール』の主幹の地位から逐はれ、そしてまた無政府主義者のために『社會主義者同盟』から除名せられた。しかしモリスの社會主義宣傳は彼れの死の五年前まで續けられた。社會主義者同盟から追はれたモリスはその同志とともに『ハムマアスミス社會主義者協會』 Hammersmith Socialist Society を組織した。そして每日曜にケルムコット家の、嘗つて廐であつた講室で、社會主義の講演をつゞけた。ヂョン・バーンスや、バアナアド・ショウやハルデーン卿や、シドニイ・ウエヴや、ウォータアクレーンなぞはその講演者であつた。

一八九三年、に社會民主主義聯合と、フエーブアン協會と、ハムマアスミス社會主義者同盟との間に宣言（マニフエストウ）を發するための聯合委員が組織された。モリスはその草案の筆者であつた。しかしモリスの社會主義はハインドマン及びショウのそれと一致することはできなかつた。社會主義者としてのモリスの活動はこの聯合の失敗とともに重き病のために終りを告げた。

（1） Brock, op. cit., p. 143

（2） The Commonweal のうちでモオリスは多くの優れた詩を發表した。
Message of the march wind

Pilgrims of Hope なぞはそれである。
またNews from Nowhere 最初『モムモンウキール』に現はれたものである。「つゞく」

次號豫告

フエービアン社會主義　室伏高信
モリスの藝術的社會主義(二)

米國新組合主義の成立　甲野哲二

◇メーデー

リイプクネヒトの思出

□

◆メーデイがきた。若き日本の勞働運動もまたこの日を紀念するであらう。彼等のうへに祝福あれ――われ等はかく祈らざるをえないであらう。

□

◆メーデイこそわれ等勞働者を感激させる一年のうちの唯一の一日である。私はこう考へる度にリーブクネヒトのことを思ひ浮べないわけにはゆかないのである。

□

◆世界大戰は一人の偉大なる社會主義者の血祭によつて初められた。そして二人の勇敢なる社會主義者の横死によつて終りを告げた。國際社會黨はかくして世界大戰によつて三人の社會主義を失つたのである。「ヂヨウレス、リーブクネヒト、ローザ・ルクセンブルヒの横死がこれである。――その後ハーゼも逝いた。

◆一九一六年のメーデイにおいてゞあつた墮落した獨逸の社會主義がカイゼル政府の支持者となつてしまつた中に、そして大戰の慘たる進行のうちに、獨逸の不幸なる勞働者は、一人の勇氣ある社會主義の指導者を見出した。カール・リーブクネヒトがこれであつた。

◆『貧困と不幸、缺乏と飢餓は、獨逸、ポーランド、白耳義、及びセルビアを支配しつゝある。――その國の血を、軍國主義の吸血鬼がすゝりつゝある。そしてその國は廣大な共同墓地に似た國である』――リーブクネヒトはその勞働日の宣言の冒頭でこう述べてゐるのである。

◆『…戰爭の責任者を仆せ！われ等の敵は英國民でも佛蘭西人民でもロシア人民でもない、獨逸の大地主である、獨逸の資本家である、そして彼等の行政委員會である』――マニフエストウは續いてこう書かれてゐる。

◆リーブクネヒトはこの日また群衆の間に立つて有名な『勞働日の演說』を試みた。彼れの演說は大なる喝采をもつて迎えられたことは勿論である。リーブクネヒト萬歲の聲は演說の一句每に聞えてきた。

◆リーブクネヒトの立つてゐた周圍は、男と女と、人波で蔽はれてゐた。演說の終つた時は、海嘯のごとくに、人波が周圍に一大動搖を捲き起した。リーブクネヒトは實に戰爭に疲廢せる獨逸勞働者の救世主として迎えられたのであつた。

◆その夜であつた。リーブクネヒトは捕へられた。そして何度目かの冷たい牢獄の生活にと入つたのである。

◆思へばリーブクネヒトの公生涯は血に始まつて血に終つた。彼れが始めて獨逸青年に與へた軍國主義についての講演は彼れに二年の懲役をもつて酬いた。メーデイの演說もまた彼れに懲役をもつて酬ゐた。そして最後にリーブクネヒトは彼れの古るき友としてのシヤイデマン政府のために横死を遂げた。

◆痛ましい犧牲者である。彼れは逝いたそして、彼れのスパルタキズムが殘つた。しかしスパルタキズムは亡びてもリーブクネヒトは歷史に忘れることのできない一人となるであらう。われ等はスパルタキズムの讃美者ではない。たゞ犧牲的精神こそ凡ての信仰の人が讃美に價ひする。

◆自己犧牲こそ最大の藝術である！

（ギルド・マン）

剽竊博士田中萃一郎

△△△生

□

慶應義塾教授法學博士田中萃一郎といふ大先生は普通選擧尙早論で大分名聲を博したがその田中君が大阪毎日新聞で發表した『民主的產業制』といふ一文に至つては更に大に同君の名聲を高める値打ちのあるものだ。この『民主的產業制』といふ論文は無論田中君の署名でそのうへ法學博士と銘打つてあり、大阪毎日の四月十二日號から連載されたものだ。

□

僕を誤解しちあ困る、僕は田中君のこの論文を攻擊する考へはないよ、なぜつて? 君はマロックといふ人の The Limits of Pure Democracy, by W. H. Mallock といふ本を讀んだことがあるか、いや例のマロックか、あの事なら「批評」の第二號の新著批評欄にあつたように思ふが——君はそれだけしか思ひ浮べないか、いや待つてくれたまへ、そう〳〵北昤吉君の『社會主義檢討』の種本がマロックといふ先生のじあなかつたかね、それ〳〵、詳しいことは河上肇と山川均が知つてゐる筈だ、ナアニあの本なら五十錢で買へるから丸善へ行きたまへ、序に少し値段は高いが『ピューア・リミット』の方も買つて見たまへ、そして Book II. Democracy and Tecihcal Prodnction といふ所を讀んで見たまへ。

あんな下らぬ男の本に金を出すのはいやだよ、あの男はなんでも Killer of Socialism とかいはれて大分馬鹿にされた男、日本だと誰れかなあ、——分つてゐるじあないか、慶應義塾教授田中萃一郎といふ、『普通選擧の殺戮者』がそれだよ、僕が本を貸してやるよ、大阪毎日も貸してやろ、寢ころんで豆でも食べながら讀んで見たまへ、但し大阪毎日の方は珍品だから直ぐ返してくれ——何んでも森戶君の例のクロポトキンの載つてゐる「經濟學硏究」は一冊五圓位ひするそうだ、大阪毎日も田中君の名論で一枚一圓位はするようにならうよ、だからあれは僕には大切な私有財產だよ、ナニ、私有財產がどうだつて、僕か、僕は私有財產には反對しないよ——『國家の基礎』を尊重するから

□

これだけ話してもまだ分らないか——つまり話はこうだよ、あれを讀んで見るとだ第一マロックの說が分るよ、そうだ、本の方は橫文字で面倒だから『毎日』の方を讀みたまへ、これだけ話したら君のような頭の惡いやつにも分つたらう、まだ分らない?、困つたなあ、僕は人の惡口は嫌ひだから、——だつて親友ぢあないか、親友だ

つていかんがねしかたがないから君の勉强になるように筋だけ話そうか、そうするとだね、第二の福音があるよ、ツマリ博士といふものがどんなもんかといふことがだね、君にあとても第三の福音まぢあ分るまい、――博士でさへこの通りだから普通選擧は尙早に違ひないといふことさ、そこでだね、あの論文は『普通選擧尙早』の實物敎育をするためだよ、分つたか？

狐につままれたようだなあ、勿體ぶらならないで早く話してくれよ、君も友達甲斐がないね、さうあせるなよ。

□

いゝか、マロツクは第一章『產業の定義』の冒頭でこう書いてゐるよ、'The idea of extending the application of the Democratic principle beyond the scope of such government as is commonly called political is itself no novelty ――分つたか分つたら、今度は田中君の方を讀めよ『產業的民主制』第一章『產業とは何んぞや』でこう書いてゐるよ――『民主主義を政治の範圍以外に適用しようといふ思想そのものは敢て新奇の事ではない』――君それは誤譯かね、いや違ふよ『法學博士田中萃一郎』と書いてゐるところが見えないかね、ウム成程、よく似てゐるね、その次を見せてくれないか、直ぐその次ぎか、今度は田中君の方から讀んで見よう、いゝか――『既に希臘のアリストフアネスの戯曲の中にも今日の社會主義者の大道演說そのまゝの演說が載せてある』――そこでマロツクの方が、The Speaches which Aristphanes in his play, women in parliament, puts into the mouth of his agitators male and female correspond almost word for word which countless actual speeches which are made on socialist platforms and street corners to-day――マロツクといふやつは、日本語が讀めると見えるねどうして？　田中のにそつくりじあないか君は甘いことをいふね、それじあ今度は、マロツクの方から先きに讀もうか、'This idea, however in the forms with which the world is now familiar is distinctively modern in respect of its theoretical details, and also of the extent to which it has become prevalent――そこで田中君のも讀まなくちならんが、エ、と、『併し目下世上に主張せらるゝ民主主義の擴張はその理論に於て將又たその範圍に於て全然近代的であつて卽ち產業上の民主主義若しくは社會上の民主主義が唱導されてゐるからである』――少し違ふぜ、產業的民主主義とか社會的民主主義とかいふところがマロツクにはないじあないか、あゝさう〳〵、いやあつたよ、直ぐその次ぎにあるよ、Democracy to-day, in the extended sense of the world, is as we have seen already, commonly described as Industrial Democracy, or Social. ――成程ネ、マロツクの方がくどいね、文章が二つに切れてゐるね、田中君はそいつを一つにしたね、ツマリ綜合だ、して見ると田中君の方が學者的といふものだらう、ウム、君はうまいことをいふなあ、その次ぎが 'These two epithets are often used interchangeably がマロツクだ『而して產業的と云ふ形容詞と社會的と云ふ形容詞とは數々混用されてゐる』これが田中君だ――成る程、博士なんてものはえらいもんだね、言ふことがみんな似てゐる、やつばり偉い人は誰れも同じことを考へてゐると見えるね、ツマリ僕も『拜啓のぶれば』

と書く、君も『拝啓のぶれば』と書くようなもんかれ、

□

もう君面倒だから人間の名前だけでも見てゆかうか、マロツクはウエツヴのことをいつてゐるれ、それから直ぐミルといふ名があるれ、またウエツヴある、ミルが二つある、田中君はどうか、ウム、同じだよ、數まで、そいつは面白いれ、みんな讀んで見ようか、やあ〳〵、全文同じだよ、『英雄英雄の心を知る』か

□

今度は第二章に移らう、田中君の方は、『マルクスの主張』マロツクは『純正民主的産業』だ、題は違ふじあないか、しかしマロツクの書き出しは what, according to current conceptions・・・とあるよ、田中君の方は『昨今流行の學説で・・・』――ウム、矢張り同じだな、だが待つてくれよ、マロツクの本は二年前に出たよ、田中の方はこの四月だよ、『昨今』? おかしいれ、二年前の英國で流行したことが今年日本で『流行』するかれ、日本は後れてゐるれ、しかし二年しか後れてゐないとすれば安心だとはいへようじあないか、またウエツヴの事があるれ、どつちにも、そいつあ面白い、みんな讀もうよ、マロツクのは長い長い、田中のはどうだ? 一番終りのところを見たまえ、違ふ? 變だな英雄どうしても違ふところがあるからえ?――分つた分つた田中のは二章になつてゐるよ、博士だから分析もやるんだ、『マルクス是非』といふのが三章になつてゐるよ、そいつの終りがマロツクのと同じだ、そうか、それじあ勇氣を出してみんな讀むかな、よしとエ、ウエツヴが出てきたな、マルクスが出てきたなウム〳〵、みんな同じだ。こいつあ流石の僕も驚いた!。

□

今度は第三章(田中君の方は第四章)の番だ、マロツクは The secret of modern progress といふ題だ、田中君は『近代産業の眞因』で『マルクスは近代産業の偉大な生産力は第一・・・』といふ書き出しだ、堂々たるもんだ、マロツクはどう書き出してゐるか之? Let us summarise once again the explanation which Marx gives of the vast productive powers of industry in themodern world とあるよそれから firstly とある、四行飛んで、secondly とあり、また四行飛んで、thirdly とある、田中か、矢張り第一、第二、第三だれ、ハーバート・スペンサアのことから何から逐一同じだれ。

もう君よそうよ、どつちか一方だけ讀もうよ、どうせみんな同じぢあないか、マロツクの本ば君に返すよ、僕は日本語で讀んだ方が樂だから

□

僕もよそう、米の高いのに、それに陽氣も暖かになつてきたから裏着はやめ〳〵、だが君何か感想はないか、君のような議論家に何か名論が出ない筈はなからう、え? ない、駄目だなあ、僕は西洋崇拜はやめる考へだ。なぜつて? 日本の學者だつて西洋の學者と同じことをいつてゐるからさ、河上肇なんていふ人は馬鹿だれ、西洋人、――マルクス――の説の紹介ばかりして、少し田中君の眞似でもしたらいゝぢあないか、僕はこう思ふよ、そうか、僕は何んにも説はない、嗚呼々々、僕の弟は慶應へ入つてゐるが、もう僕は止めさせるよ『英雄』にでもなられると恐ろしいから。

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰

編輯室と校正室

◆言論の不自由では世界で日本が第一、それで見ても日本の政治家が馬鹿々々しいほど時勢後れであるかゞ分る。

◆彼等は一寸したことをいふと『國家の基礎』がどうのこうのと、いふことは大抵相場がきまつてゐるが言論を自由にして潰れた國は世界のどこにもない――して見ると日本の『國家の基礎』は世界で一番薄弱だといふことになるわけだ、敢て問ふがほんとうに思つてゐなさるか、老朽の政治家諸君達。

◆森戸君の『クロポトキンの社會思想の研究』程度のものが國家の基礎を危うくするんだからたまつたものじあない、支那々々といつて馬鹿にするほど自分の國のツマラナサの分らない、先生達――こうした、chauvinist が所謂愛國者で『國家の基礎』ばかり心配してゐる御連中だが――もちと支那の雜誌でも讀だらよからう。

◆西洋のことをいふと西洋かぶれだとか何といはなくては自分の無智の手前氣のひける祖國愛の先生方はマアその頃の支那の雜誌でもお讀みになつたらどうか。韓退之の泣男だけが支那人でもあるまいじあないか。

◆森戸君の『クロポトキンの社會思想の研究』にしても支那の『建設』には干樹德といふ人に全文が飜譯されてゐるが別に懲役にもやられてはゐないようだ。クロポトキンの『國家論』なぞも『星期評論』には全文が出てゐるが譯者はやはり達者でゐるようだ。

◆もうこうなつて來ると支那の方が餘程先進國だ。日本からどし／＼留學生を出したらよからう。――頭の古るい政治家さん達はどうせ西洋の方は分るまいから支那あたりへ洋行したら如何か、漢文だけは分らうから、尤も時文は分りもしまいが。

◆總選擧なぞはどつちが勝つてもいゝよ岩崎の婿が勝つて古川の番頭が勝つてもわれ／＼と何んにも交渉はないじあないか。

◆『耳學問』といふ言葉をちよい／＼聞くあの男か？あれは『耳學問』だよといふようなことを――誰れのことかと思つたら何んでも相當に名前の知れた雜文家のことだどうしたわけかと聞くと、何んでもこの先生は講演會へ始終出かけていつてノートにとつてもそれを直ぐに原稿にして賣りつけるのだそうだ、名前はツマラナイから預かつて置くよ、その先生は他人のことときたら惡口ばかり書く人だが、そして面と向ふとお世辭ばかりいつてゐるのだが、

◆左へ！左へ！左へ急ぐ人はだん／＼ふえたが、その急ぎ方が堅實でもあり、そして勇氣と確信とに滿ちてゐるものとしては第一に堀江歸一博士を擧ぐべきである。慶應では急進派の總大將、お蔭で若い先生達はみんな喜んでゐるようだ。この人があつて大に正義のために氣を吐くので三田大學もまんざら資本家豫備門だともいへまい、いやこの頃では早稻田が老毛碌して慶應が若やいできた。それがまた古るい博士連の氣に入らないで小泉信三、高橋誠一郎といふような新進の諸君が先日の博士會ではまんまと落第したわけだ、しかし學位なんぞはどうでもいゝじあないか、煮てたべられるわけではなし、いまに氣のきいた雜誌なぞでは『何々博士某』といつたような小供だましは書かなくなるだらうよ、この頃は山高帽をかぶつて歩るく人が六七割へつたそうだ。シルクハツトに至つては政治家がツマラヌ實業家位のものだ。博士だつて山高やシルクハツトの類だ。

ソレルとマルクス

——サンディカリストの見たるマルクス主義——

一

階級鬪爭の存在と其必然性を認めるのは革命的サンディカリズムの根本的特質である。サンディカリストは少くとも其理論の上においては階級鬪爭か回避し得ざるのみならず、そは寧ろ歡迎すべきもの、この世を墮落の淵より救ふ進歩の一要素であるとしてゐる。もしもサンディカリズムの理論的先驅者がありとすれば、そはマルクスとプルドンである。プルドンからサンディカリズムは其國家に對する態度を繼承し、マルクスからは階級爭鬪の必然と其望しきことの觀念を得た。而して彼等にとりては階級爭鬪の學說はマルクスの眞髓である。けれどもサンディカリストがこの偉大なる社會主義者の學徒なりと云ふことは、多くのマルキストにより表現されてゐるマルクスの獨斷を無批判に受け容れることではない。道德的、智的さうして物質的專制主義の反對者にして、サンディカリズムの指導者たるベルーチェやソレルは「資本論」に對して聖書の絶對無誤謬的性質を與ふる人々ではなかつた。また彼等はマルクスの學說に對するエヅェアード・ベルンシュタインの攻擊から始まつたマルクス主義の崩壞の部分を躊躇なく贊成せるものであつた。ベルンシュタインはマルクスの記述と其豫言と經濟學說との多くが嚴密なる研究と統計的批判とに會ふときに必ずや絶大なる損傷を負ふべきことを立證し、從つて社會主義はこの打破されたるマルクスの觀念に膠着することによりて得る所は損害のみなることを立證してマルクス主義者の中に動搖を起させた。サンディカリストはベルンシュタインの修正主義に對しては之と一致することは出來なかつたが、其權威の桎梏より逃れんとする努力には同意することが出來た。ソレルは其「マルクス主義の崩壞」の中において資本主義の崩壞に關するマルクスの豫言が頗る事實と遠ざかり、資本主義は其生産における地位と其管理とを放棄すべき何等の印をも示さずとなせしベルンシュ

タインに同意したのみならず、共産黨宣言の執筆されし一八四八年における程容易に資本主義がその生産力を施行し能はずと想像するものあらば、それは驚嘆に値すとなした。今日においては一八五〇年におけるよりも以前よりもより征服すべき勢力は一層強大に、恐慌はより稀に、其弱點は少くなつた。だからマルクスの經濟學說に對して多大の尊敬を拂ふことは出來ない。ソレルは資本論を以つて歷史的材料によつて經濟學上の學說を說明せるものなるかの如く考ふるを大なる誤謬なりと見た。資本論は實に歷史哲學に關する一の論文であり、もしこの中に剩餘價値說の如く經濟學說の展開されたるものありとせんか、それはマルクスが其歷史的進化の思想を說明せんと欲したからである。さうしてソレルによれば資本論の最も不滿足なる部分たる抽象的經濟學が不可思議なさうして不幸なる誤謬によつて多くのマルキストは其師の學說の神髓と考て、此獨斷を防禦し、更らに其誤れる觀念を更らに誤らしたのである。もしも此獨斷にして打破されないならば社會主義學說の更新もまた社會主義の實際と理論との調和の如きも全然失敗に終るべしとソレルは考へた。資本論を基督敎徒が聖書を見るが如き尊敬を以つて見、其神祕的な辯證法と其粗笨なる經濟學とを受け容れる正統派マルクス主義から其すべての科學的興味を奪ひ去るものである。

二

正統派マルクス主義の外に、眞のマルクス主義が存在する。それはフレルが「マルクスのマルクス主義」と呼んだもので修正主義者が其偶像打破の精神の爲にマルクスより贈られたるこの貴重なるものを保存するのを怠つたものである。さうしてこの社會主義の理論並に人間の知識に對する高貴なる貢献は其階級爭鬪の學說即ち資本と勞働との間における絕對的なる救治し得ざる敵意に關する學說である。例へ彼の價値說に誤謬ありとも、例へ掠奪者の掠奪せらるべき日の豫言に失敗したとも、彼の階級爭鬪の理論は無上の感激である、それは共產黨宣言の眞の要旨であり、資本論は階級爭鬪の存在と其必然とを立證せんとする理由書である。マルクスの讀者は彼の古典的學說に親んでゐるであらう。產業の進化と共に機械は發明せられ、これと共に新らしき產業組織即ち資本主義の發生となつた。さうして其中における最も顯著なる現象は、資本並に勞働の二階級の存在である。この二階級の利害は全く相反し、一方の利は他の害であり、この制度の存續する限り、そこには何等の調和ある世界も現出し得ない。けれどもそは何等の不正義でもない。さうしてこの狀態に關しては何等の倫理的批

判を擒用することは出來ない。それは史的發展の一階段であり、其制度が過ぎ去りて、新しき階段の來るまではすべての產業狀態は其表面上の施設に拘らず、實際には現今の通りである。人は進化の過程を促進することは出來るにしても、進化と爭ふことは出來ない。然し乍ら幸にして資本主義はそれ自ら其崩壞を進めてゐる。ブルジョアジーの勢力と其富とはプロレタリアートの益々貧困に陷るに反して增大して行く。さうしてプロレタリアートは其自己防禦の爲めの團體が必然となるのである。プロレタリアートは資本主義の發達と共に其勞働の組織を發達さして行く。遂に兩階級の利害は根本的に相反するの結果、現在の秩序は其存在が不能となり、其外皮は打破せられ、プロレタリアートは生產過程を其の掌中に收めることが出來るのである。斯くて社會〇〇は完成せられ、新しき產業的時代は階級爭鬪によつて齎らせれるのである。

三

以上の如き學說が其主張者の中に定命論的態度に向はしめる危險のあることは明かである。もしも資本主義がそれ自ら破壞を促進してゐるならば、何故に團體を組織し、煽動をするのであるか。何故の社會主義の宣傳であるか、何故の努力であるか。何物も勞働者の貧困を救ふ術なく、彼等は嚴酷なる法則の下に支配せられ、時の經過と共に其存在を失つてしまう。進化をして其道をたどらしめよ。然し乍らマルクス並にサンディカリスト中の彼の學徒は注意深く斯くの如き定命主義を斥けた。もしも、斯くの如き抵抗すべからざる力が現在の秩序の〇〇に對して作用してゐるならば、活動的の努力は其完成を促進するものでなければならない。「力は進步の產婆である」とマルクスは言つた。さうしてサンディカリストに對してはこれが眞のマルクスの表現であり、共產黨宣言のマルクスであり、一八四八年のマルクスであつた。新社會は生るべきである。さうしてプロレタリアートは其活潑なる〇〇的行動によつて其生みの苦しみを短縮することが出來る。この進化の觀念に加ふるにマルクスは革命の科學的理論、社會進化における一要素としての組織的〇〇の理論を展開した。然しながら〇〇的行動とは漠然たる言葉である。マルクスは一七八九年の如き政治的革命を意味したのであるか。さうではない。マルクス自身明かに政治的革命に反對してゐる。またマルクスは一八七一年のパリ・コンミューンに反對した。一八四八年においても、また千八百七十一年においても產業狀態の幼稚であつた爲めに適當な回答を發見し得なかつたのである。けれども二十世紀にあつては其解決は我等の眼前に擴がつてゐる。サンディカリズムの急激なる發達は何の爲めであるか、また總同盟罷工の學說の急激な進步は何を表はすものであるか。各國の勞働組合の中には新產業制度を生み出すべき〇〇の勢力が潜んでゐるのである。

(J. A. Estey: Revolutionary Syndicalism Pp. 51—55 に據る)

I・W・W・主義の研究（一）

甲野哲二

第一章　I・W・W・の先驅者

（一）

I・W・W・は千九百五年以來米國合衆國に現はれた一の勞働組合主義の運動である。I・W・W・(1)は詳しくは The Industrial Workers of the World と云つて從來の技工勞働組合主義 Craft Unionismに對し產業組合主義 Industrial Unionism を主張し、勞働者階級のソリダリテによつて資本家階級に對抗し、以つて其の理想とする新社會を建設せんとする運動である。而してI・W・W・の運動は普通佛國におけるサンディカリズムの運動の影響によつて米國に發達せしが如く思はれてゐるが、事實の研究はI・W・W・が米國において獨立に發達したことを示してゐるのである。(2)

I・W・W・主義(3)の運動はサンディカリズムと共に現代資本主義制度に對する大なる挑戰である。彼等は賃銀制度にその基礎を置く經濟組織を信任せず、勞働者階級自身の手によつて生產者を中心とした社會組織を構成しようと云ふのである。それはその主張者に從へば新社會組織の提唱であると共に共同の利害を有する勞働者階級を組織するのに技工勞働組合を不可とし、勞働者階級のソリタリテを助長すべき產業勞働組合の組織を主張するのである。

孰れにしてもI・W・W・の運動は勞働者階級が資本家階級との多くの鬪爭においての失敗の經驗に基いて、更に有效な階級鬪爭を遂行し、生產者たる勞働者階級の幸福を增進せんとする新運動である。故に其の主張において、またその敎義について、または其實際的政策について非難を受くべき多くの點を持つてゐるかも知れない。それと同時にこの新しい運動が政治的社會主義に失望し、有產階級の代表者であるところの多くの政治家、政黨に絕望してゐる人

に對して何等かの暗示を與へることは否み難い事實である。であるから、それが例へ革命的性質を有するものであつても、私達は、研究の價値のあるものであると信ずる。
と同時に私達は新運動の狀態を詳く研究することによつて、その新運動が國家の狀態—即ちその政治的並に經濟的狀態の如何によつて構成せらるることを知るのである。さうして米國に起つたI・W・W・の運動も亦米國の社會的並に經濟的狀態の產物であると云ふことを私達は知るのである。この點において私は勞働運動の卓越した研究家ヂィ・ヱ・エッチ・コールの說に贊成するものである。
コールは次の樣に云つてゐる。

「米國の運動が本質的に米國的であるのは、英國の運動が本質的に英國的であるのと同じである。さうして制度は生まるるものであつて作らるゝものでないと云ふことは記憶しなければならない眞理である。アメカリン・サンデイカリズムはアメリカのものであり、フランスのサンデイカリズムは佛國のものである。私達が眞面目に外國の勞働運動を研究することによつて得る最大の利益は少くとも之によつて世界主義者(コスモポリタンス)となることを免れ得ることである。」(4)

斯樣な見地から私は以下數回に涉つてこのI・W・W・主義を研究して見たいと思ふ。私の態度は何處までも第三者の立場である。私はI・W・W・主義について宣傳してゐるのでもなければ、また、その眞理なることを主張するのでもない、たゞ私は眼前に展開された新運動を第三者の立場から眺めるのみである。

(1) I・W・W・は本文に書いた樣に The Industrial Worers of the World であるが、このI・W・W・なる三字は從來その反對者から嘲笑の意味を以つて種々に用ひられた。その主なものは次の通りである、"I Won't Work." "I Want Whiskey." "International Wonder Workers." "Irresponsible wholesale Wreckers." "Imperial Wilhelm's Warriors" (Brissenden. I.W.W. P.57)

I・W・W・の參考書としてはシカゴ並にデトロイトのI・W・W・本部から出した宣傳用の多くの小冊子があるが、私達の手には入り樣がない、さうしてまた獨立の著書も少いが、次の二書は極めて價値があり、殊にブリッセンデンの方は歷史的に詳細な研究を發表してゐる。ブルークスの方は心理的な敍述に富んでゐる。本文はこの二書に負ふ所が極めて多い。その外勞働運動に關する最近の著述は多少I・W・W・についての記述がある。

Paul Frederick Brissenden: The I.W.W. A Study of American Syndicalism 1919 (Columbia University studies in History, Economics etc. Vol. LXXXIII)

John Graham Brooks: American Syndicalism The I.W.W. 1913.

(2) Brissenden: op. cit. p. 53.
Brooks: op. cit. p. 75.

(3) 原文では I.W.W.-ism と書く。

(4) Cole: The orld Wof Labour. 1917. p. 165.

(二)

社會現象において私達は其發生の突發的であるものを見る。然し乍ら其發生原因について詳細な研究を行ふときに私達は其社會現象が社會生活團の內部において多少の時日を醱酵の狀態で過して來たのを見るのである。私はこの點において社會革命の原因が當時の社會狀態の中に存在するとしたカアル・マルクスの社會變動の學說の眞理なるを思ふものである。(1)

社會現象が突發的であるにせよ、其原因を其現象生起以前における社會生活體の中に求め得らるゝ如く、米國におけるI・W・W・も千九百五年に至つて表面に表はれたのであるが、其發達をそれ以前に求めることが出來るのである。

英國における勞働運動は各國における勞働運動の範を示したものである。斯のロバアト・オーウエンが千八百三十四年に設立した「全國大聯合勞働組合」Grand National Consolidated Trades Union によつて構成せるべき新社會はシドニー・ウエッブに依れば次の如きものである。

「オウエンによつて提案された組織の下に於いては、生産機關は全社會に屬するものでなく、たゞ其を使用すべき特殊の勞働者の團體の所有となるべきものであつた。さうして勞働組合はすべての產業を遂行すべき「國民的會社」'national companies' に變化されるのである。農業勞働組合は土地を所有し、坑夫組合は鑛山を、織物勞働組合は工場を所有するのであつた。さうして各職業は一の「本部」Grand Lodge に集中されたる、それぞれの職業組合によつて經營せらるべきものであつた。」(2)

このオーウエンの千八百三十四年における提案は現代におけるサンディカリズムの傾向の最も早い顯はれであるとせられてゐる。(3) 然しながらこのオウエンの大勞働組合主義はサンデイカリズムの傾向が勞働運動に顯著なるべき土臺に過ぎなかつた。

そのサンディカリズム的傾向の最も著しいのは、このオーウエンの土臺の上に築かれたチャーチストの運動 Chartist movement 殊にその千八百四十二年におけるチャーチストの運動であつた。洵にブルークスの指摘してゐる通り、I・W・W・とチャーチスト運動との間には多くの類似點を有してゐる。(4) 政治並に政治家に對して非難し、またすべての條件と種類との勞働者に對して熱烈な階級的意識を求めるI・W・W・の主張はまた當時のチャーチスト運動の信條であつた。さうしてチャーチストはI・W・W・と同じく特に經濟的要素を强調したのである。

チャーチスト運動は普通政治的運動と解されてゐる。(5) その要求は洵に政治的のものであつた。けれどもその政治的要求は當時の政治並に政治家に對しての絶望の聲であつた。彼等の狀態は、斯の Disraeli の小說 Sybilの中に描かれてゐる。事は千八百四十二年におけるチャーチスト運動殊に、鑛山暴動の狀態を寫したものである。Sybil は千八百四十五年に書かれ、當時のサンディカリズム的運動を表現したものである。

「英國の北部全體と中部の大部分とは不平の狀態にあつた。全國は困難をしてゐた。勞働者階級は希望を失ひ、彼等は、現存の制度の將來に關して何等の信賴をも持つてゐなかつた。彼等の組織はチャーチストの政治制を外にしても、完全なものであつた。各職業はその組合を持ち、さうして、各組合はすべての都市に本部を有し、各地方毎に中央委員を有してゐた。……」(6)

斯くてチャーチストは勞働者階級のソリダリテの下に資本家階級に對して其戰鬪を開始したのである。之は洵にサンディカリスティックまたはI・W・W・的であると云ふことは出來る。けれどもこのロバアト・オーウエンの大勞働組合主義とチャーチスト運動のサンディカリズム的傾向とを以つて古き一例であるとするのは當つてゐるけれども、之を以つて直ちにサンディカリズムまたはI・W・W・主義の直接淵源であるとするのはあまりに社會的環境の支配を無視したものと言はなくてはならぬ。(7)

(1) Karl Marx: Contribution to the Critique of Political Economy. Authors Preface

(2) Sidney and Beatrice Webb: History of Trade Unionism. pp 144—5. 邦譯、勞働組合運動史一八二頁

(3) J. H. Harley:Syndicalism. p. 20.

(4) Brooks:op. cit. chap. VI.

(5) チャーチスト運動の政治的方面については「批評」十二月號以下、室伏高信氏「普通選擧史論」參照

(6) Harley:op. cit. p23. に引用する所、Harley の著書の第二章はサンディカリズムとチャーチストと題して兩者の關係を可なりに詳論してゐる。

(7) I・W・W・または、サンディカリズムの顯はれと見るべきものに六十年代における "International" がある。この團體の綱領は勞働者階級の解放はそれ自らの階級の仕事でなければならず、その解放の性質は經濟的のものでなくはならぬと云ふのである。さうして彼等のモットーは「勞働者階級のソリダリテ」であつた。フランス・サンディカリズムの創設者である Pelloutier, Emil Pouget はそのサンディカリズムについて、インターナショナルから敎へらる所があつたことを言明してゐる。(Brooks: op. cit. pp63—64. Brissns den:op. cit. p36.)

(三)

I・W・W・は米國に育つた運動である。私達は其直接の先驅者を他國においてよりも、より多く米國勞働運動史の中に見出すことが出來るのである。(1)

I・W・W・の最も顯著な先驅者は The Knights of Labor である。(2) それは單に勞働運動の研究者が言ふのみならずブルークスに從へはI・W・W・の指導者の一人がI・W・W・の運動の歷史について質問を受けた時、「ナイツ・オブ・レーバアを研究し給へ、I・W・W・の大部分のことはその中に見出すことが出來るのだ」と答へたと云ふことだが之によつても Knights of Labor がI・W・W・の先驅者として如何に重要視すべきであるかを知ることが出來る。(3)

千八百三十年代の初めから米國の勞働組合は其孤立的狀態の無力であるのを悟つた。その結果として勞働組合の一州または全國を通じての聯盟を作らんとするの希望が起つたのである。この希望は資本との鬪爭において敗北の憂目にあつた時において最も著しく感ぜられたのであつた。さうしてこの勞働側の悲慘な敗北は衣服裁縫業におけるより甚しきはなかつた。かくてこの慘膽たる敗戰の失望とさうして甞て米國勞働運動の生んだ最大の頭腦であるユウ・エス・ステフェンス U. S. Stephens の偉大なる思想から Knights of Labor は生れたのである。(4) ステフェンスの組合は衣服裁縫業であつたが、その組合は失敗に終つた悲慘な歷史を持つてゐた。ステフェンスは數年間廣く各地を旅行をした、さうして東部太平洋海岸に永い間の時を費したのである。その鋭敏な觀察はすべての經驗を善用した。彼は勞働者の團體が個々の孤主的狀態に勞働組合が存立するならば、勞資間の鬪爭において、勞働側の勝算なきを見た第一人者であつた。彼のこの點に關する觀察は恰度現在のI・W・W・主義者が現在の勞働組合に對する攻擊を澎湃たらしめるものがあつた。さうして彼は數百萬の勞働者を抱含する一大聯盟を作り、眞の團結の力を勞働者に與へんと夢見たのである。

この偉大な夢はフィラデルフィアの彼の家において實現せられた。時は千八百六十八年晩秋初冬の候であつた。その團體は The noble and Holy Order of the Knights of Labor と云ふ名稱が附せられたが、その後 The Order of the Knights of Labor と改められた。ステフェンスはフーリエやマルクスが企業における大規模の組織の到來を明かに見た如く、奴隷解放戰爭以後における新資本的勢力の急速な勃興を見たのである。さうして、その資本における偉大な勢力を打破するか、または資本の勢力に屈服するかであるのを知つた。

この點が彼の問題であつた。ステフェンスがその會員に與へた訓令は實に次の如きものであつた。

「勞働は高貴であり、神聖である。その墮落を防止し、無智と貪慾とによつて、加へらるべき身心に對する害惡を防ぎ、自利心の支配から勞働者を救助するのは我々勞働者の最も崇高な、最善な價値ある仕事である。……吾等は正當な企業と闘ふのではない。必要な資本に對して反對するのではない。然し乍ら、人は其性急と貪慾、または自利心の爲に盲目になることによつて他の利益を觀過し、他の權利を侵害することがある。吾々は勞働の威嚴を高め、その額に汗してパンを得るすべての人々の崇高なことを確證せんと欲するのである。吾々は唯一の價値の創造者たる勞働についての輿論を健全たらしめんと欲するのである。さうして、その創造した價値または資本の充分にして正當なる分前を受くる正義を確立せんとするのである。」(5)

この記述は現在におけるI•W•W•の教義と相異するものがある。「吾等は正當な企業と闘ふと云ふのではない。必要な資本に對して反對するのではない。」と云ふ本文中の章句は現在のI•W•W•主義者が直ちに挑戰せんとする所である。けれどもステフェンスの考へにおいては社會そのものの所有するもの以外に「必要な資本」はないのである。斯くの如くにして、ステフェンスの表現上のI•W•W•との相違はその根柢においての一致となるのである。

ナイツ•オブ•レーバァの特質的の標語は「一人に對する損害はすべての闘する所である」と云ふのである。(6) さうして其標語はまた今日のI•W•W•の標語である。其第一の主張はすべての產業的部門において個人的並に國民的功業の標準となるものは富そのものではなくて、產業的並に道德的價値であることである。さうしてその第二は勞働者の創造した富の適當な部分を勞働者に分與することであり其第三は同盟罷工に代ふるに仲裁制度を以つてすることであり、其第四は勞働時間を一日八時間までに短縮することである。さうして、彼等は電信、電話、鐵道の國有を主張し、協働の原理を强調し、婦人並に黒奴(ネグロウ)の入會を許し、勞働組合による勞働者階級の政治的行動を信じ、勞働者階級における勞働組合の勢力を認めた。之をナイツ•オブ•レーバァのパウダアリー Powderly の言葉を借りて言へば、「その組織の基礎たる根本原理は協同である。……すべての職業の障壁は除かれなければならない。そうして、勞働者は其勞働の如何にも拘らず、其勞働の正當な果實を享受し、之を享樂すべきである。」と云ふことになるのである。(7)

ナイツ•オブ•レーバァは其初め祕密團體であつた、けれども斯樣な性質は後に到つてなくなつたのである。さうして地方會議 Local assemblies の規約中には次の如き

會員に關する規定がある。卽ち「法律家、銀行家、常習的賭博者、または株式仲買人は入會を禁ず」と。さうして千八百八十一年以前までは醫師の入會も禁じられてゐた。ナイツ●オブ●レーバァは地方會議、一般會議General assembly並に會長 Grand master workman とから成立してゐた。この三者は集中的制度によつて相互に密接に連絡してゐた。其行政的權威の集權化は非常に重要視せられ、熟練並に不熟練勞働を團結せしむるに必要缺くべからざるものであると考へられたのである。然し乍ら彼等と現今のI●W●W●との相違は前者が多少共政治的行動に信賴したことであるこの相違はあるにしてもI●W●W●と同じく彼等は同情的同盟罷工やボイコットを信じ、すべての勞働者の間におけるソリダリテの必要を强調してゐる。

斯くの如きナイツ●オブ●レーバァは一種の保守的要素と急進的要素との結合であつたが、其の組織は社會主義的—寧ろ國家社會主義的であつた。彼等の主義の中には仲裁條項を有してゐたにも拘らず、彼等は雇者と被雇者との利害の一致を信じなかつた。彼等は實に賃銀制度の廢止をも口にしたのである。バウダァリーは「賃銀制度を全然破壞すべき方法を指摘するのは余に取つて愉快である」と云つてゐる。而してナイツ●オブ●レーバァは八十年代の後期においては百萬以上の會員を有してゐた。けれどもそは間もなく凋落の悲運に會せざるを得なかつた。カロル●デイ●ライト Carroll D. Wright の考に從へばナイツ●オブ●レーバァは千八百八十七年において百萬以上の會員を得た時において其最高潮に達した。千八百九十八年には會員數十萬を數へる許りであつた。さうして斯くの如き急激な會員の減少は組合の社會主義的傾向殊にそのすべての勞働者の賃銀を同じ標準にしようとする試みの爲めであつた。斯くてナイツ●オブ●レーバァは哀運に向ひ勝利を得て之に代つたのが米國勞働聯盟 American Federation of Labor である。

---

(1) ブルークスはI・W・W・運動の先驅者として米國勞働運動の方が外國のものよりも重要であることを指摘してゐる。
(Brooks: op. cit. p64)

(2) The Order of Knights of Labor はまたその先驅者を持つてゐる。千八百六十四年において米國合衆國における勞働組合の聯盟を組織する試みが起つたのであるが失敗に終つてゐる。二年後バルチモアにおいて全國勞働會議が開催せられ National Labor Union と稱する保守的な政治團體を組織したがこれがナイツ・オブ・レーバァの先驅者である。イリーの記する所によるとこの團體は約三年の命脈を保つたのみで政治の爲に亡びたと云はれてゐる。然しその主要な原因は一般の同情のなかつたことと財政上の弱點があつた爲めである。

(Brissenden:op. cit. p30)

(3) Brooks:op. cit. p. 64.

(4) Uriah Smith Stephens は千八百二十一年 New Jersey の Cape May 附近に生れた。彼の祖先はクエーカー宗徒であつた。彼は初めバプチスト敎の僧侶たるべく敎育されたが、後職業を習得すべく餘儀なくせられ、裁縫職となつた。彼は學校の敎師となり、また廣く旅行した。彼は本文に記した通りナイツ・オブ・レーバアの創設者であつた。彼は初め Master Workman of Assembly であつたが、千八百七十八年最初の Grand Master Workman に選ばれたのである。千八百八十二年は彼の死んだ年である。(William Blis :The Encyclopedia of social Reforms. p. 1290)

(5) Brooks: op. cit. p. 65 に引く所

(6) 原文は "An injury to one is the concern of all."

(7) Perence Vincent Powderly は千八百四十九年一月二十四日に Carbonlale に生る。ナイツ・オブ・シーバアの指導者とし最も顯はれてゐる。Bliss: Encyclopedia. p. 1079. 參照

(四)

ナイツ・オブ・レーバァの勃興と同時に歐州において千八百六十年代の終りに設立された、國際勞働者協會 the International Workingmen's association は千八百七十一年に至つて合衆國に其支部を設けるに至つた。この合衆國の國際勞働者協會の支部は勞働者階級の解放は、勞働者階級それ自らの力によつて達せらるべきものであることを宣言した。けれどもこの團體は久しくその生命を維持することが出來なかつた。さうして十年の後の千八百八十一年には同名の協會が設立せられた。この團體は「議會政策を斥け、社會革命を齎らすべき最良の手段として敎育とプロパガンダとを用ふべきを主張した勞働者並に農夫から成立してゐた。」(1) 千八百八十七年には約六千の會員を有してゐたが、彼等は社會主義勞働黨 Socialist Labor Party と合併せんとしその交渉の不調に終るやその團體は解體するに至つた。

斯くする間に無政府主義の活動は合衆國において盛んになつて來た。米國勞働聯盟(2) の誕生の年である千八百八十一年には議會政策を主張するものと、無政府主義者との間に確然たる區別が設けらるゝ様になり、無政府主義者は、革命的社會黨を設立した。けれども千八百八十三年に至つて兩者は合同の會議を開催し、其結果 International Working People's association の設立となつたのである。この會議に參加した委員は有名なピッツバァフ宣言を草した。その宣言は現在の制度の破壞を主張し、其後に、生産的團體における等價値の自由交換に基き、商人と利潤との存在なき社會を設立するにあつた。二年の間にこの團體は七千の會員を得たが千八百八十六年におけるヘイマーケットの慘

劇と共に其存在を失つたのである。この無政府主義運動において顯著なる活動をしたものはヨハン・モスト Johann Most であつた。(3)

千八百七十四年には The Sovereigns of Industry が massachusetts の Springfield で設立された。この團體は男女共に入會を許した。この綱領とする所は人種、皮膚の色、國籍または職業の如何を問はざる産業勞働者階級の團結であつた。さうしてそれは他の階級卽ち資本家階級に對して戰鬪する爲めの團結ではなく、たゞ自己改善と自己防衞とに對する相互扶助の爲めの團體である。然し乍ら其窮極の目的は賃銀制度の廢止にあつたのである。

同じ年にアメリカ聯合勞働者協會 The association of United workers of America と稱する社會主義團體が現はれた。この團體は他の多くの團體と共に千八百七十六年における勞働黨 Workingmen's Party の出現となつたものであるが、この團體は其翌年其名稱を社會主義勞働黨 Socialist Labor Party と變更した。 また千八百七十四年は Industrial Brotherhood の誕生した年である。この團體はナイツ・オブ・レーバアと其性質を同じくしたものであるが七十年代中に其存在が失はれてしまつたのである。

(1) Andre Tridon: New Unionism pp93—94.

(2) American Federation of Labor は其創立當時は The Federation of Organized Trades and Labor Unions of the United States and Canada. と呼ばれた。

(3) Johann Joseph Most は千八百四十六年アウグスブルクに生れ、不愉快な幼年時代を過ぎて、六十四年獨乙を離れ、六十八年ウイーンに居を定めた。二年後に彼は革命的宣傳の爲めに五年の禁錮を宣告されたが七十一年に許され、其放免後間もなくオーストリアを追はれ、獨乙に入り、七十一年六月にはヘムニッツで新聞の編輯に從事した。その時マルクス派であるアイゼナッハ黨の最も急進的部分に屬してゐた。七十三年には八ヶ月を獄中に送り、其自由を得るや、帝國議會へ選出された。七十七年並に七十八年にまた逮捕せられたが、七十八年のはウルヘルム第一世の暗殺に關してであつた其許さるゝや獨逸を追放せられ、七十八年十二月ロンドンに着いて週刊機關紙 Freiheit (自由) を發行した。彼の意見は非常に極端なのでリーブリネヒトは社會民主黨の爲に「フライハイト」を攻撃した。モストは同年無政府主義に改宗した。八十一年三月ロシアのアレキサンダー二世は暗殺されたが、その行爲を彼が稱賛した爲めに再び捕へられ、十六ヶ月の處刑を宣告された。八十二年十月許され、同十二月十二日にニユー・ヨークに來た。さうして再び「ラライハイト」を刊行し米國無政府共産主義の指導者となつたのである。(Commons:-History of Labour in the United States. pp 293—4)

十年は經過した。さうして千八百八十四年において合衆國聯合醸造業勞働者同盟The National Union of theUnited Brewery Workmen of the United Statesが組織された。この組合は所謂産業勞働組合であつて、醸造業に關するすべての勞働者を抱含したものであつた。千八百九十六年まではこの團體はナイツ•オブ•レーバアの一部分であつたがその時より米國勞働聯盟と密接な關係を有してゐる。さうして其組織の産業線 Industrial Line に從つてゐることは常に米國勞働聯盟において爭論の中心となる所である。

千八百九十年には聯合坑夫組合 the United mine Workers' Union of America が組織された。この團體は全く産業勞働組合であつた、米國第一の實力を持つてゐる。I•W•W•主義者が何時も其組織に稱賛の聲を絶たない所のものである。

シカゴにおけるヘイマァケットの騷擾によつて、米國における社會主義的運動に一頓挫を來してから五年千八百九十三年に鐵道從業員の産業勞働組合がシカゴにおいて、デッブス Eugene V. Debs によつて組織され、翌年のプルマン•ストライキ Pullman Strike 當時には十五萬の會員を有してゐたのであるが、其ストライキの失敗はその團體を解體せしめてしまつた。千八百九十七年のことである。

千八百九十三年はI•W•W•の主要な先驅者である西部坑夫聯盟 Western Federation of miners の成立した年である。さうして西部坑夫聯盟はその初め米國勞働聯盟と密接な關係を持つてゐたのであるが、九十七年米國勞働聯盟から分離し、暫らく獨立の存在を維持してゐたが、九十八年西部勞働組合 Western Labor Union と結び、更に千九百五年にはI•W•W•に加入し、十一年再び米國勞働聯盟に加入したのである。

I•W•W•の誕生以前十二年間の西部坑夫の聯盟は實に米國勞働運動史上における最も激烈な、劇的な同盟罷業の戰であつた。その同盟罷工は常に暴動と擾亂とに陷り勝ちであつた。さうしてこれ等の激烈な勞資間における爭闘は疑ひもなく、次に起るべき戰闘的なI•W•W•の發生の印であつた。I•W•W•の幹部であるヘイウット Wm. D. Haywood ビンセント•ジョン Vincent St. John とが其指導者であつた。彼等は政治的行動に滿足しなかつたのである。さうして、其決議においては何等の躊躇なく社會主義を採用すべきことが可決され、更に其資本家との爭闘において全力を盡したのみならず、彼等は勞働者による産業の管理を主張したのである。彼等の根本思想は階級爭闘による剩餘價値の掠奪を認め、この剩餘價値の掠奪の停止せらるる

ことによりてのみ勞働者階級はその解放を完成するものとなし、其完成の手段として産業勞働組合を主張するに至つたのである。

西部勞働組合は千八百九十八年に生れたものであるが、其誕生は西部坑夫聯盟の活動によるものである。だから西部勞働組合は西部坑夫聯盟と其性質を同じくしたものである。西部勞働組合は千九百二年其本部をシカゴに移し、其名稱もアメリカ勞働組合と改稱し、更に西部坑夫聯盟を併合し、千九百五年にはI・W・W・に加入した。だからカッツ Katz は「アメリカ勞働組合は實際は西部坑夫聯盟の別名である。さうして、坑夫聯盟に國民的性質を與ふる爲めに生れたものである」と批評してゐる。さうしてこのアメリカ勞働組合の本質は産業勞働組合主義であつて、I・W・W・などよりも政治的の色彩を有してゐて、この團體が政治的社會主義の型における産業勞働組合主義の最高潮を示してゐる様である。

以上は主として合衆國の西部に其勢力を有する I・W・W・の先驅者についての記述であるが、尚ほI・W・W・の先驅者として東部に勢力のあるものについて記述を省略することは出來ない。それは社會黨 Socialist Party とその智識的産物である社會主義勞働同盟 Socialist Trade and Labor Alliance との二團體である。

社會主義勞働黨は千八百七十七年に組織された。それは國民勞働組合國際勞働者協會北米聯盟並に社會民主的勞働黨の聯合であつた。さうして、それは最初の合衆國勞働黨 Workmen's Party of the United States として知られ、獨逸社會主義的勞働組合の分子が優勢であつた。社會主義勞働黨は常に著しくマルクス主義的であり、其指導者はマルクス社會主義の解釋において著しく理論的である、其實際上の政策においては否妥協的であつた。千九百一年における社會黨の組織以來この二つの社會主義を奉ぜる政黨は互に相反對した。それは前者が否妥協的であるのに、後者が臨機應變主義を取つて、他の保守的分子との妥協を斥けなかつたからである。かくて妥協的である社會黨は其勢力を増大し、否妥協的である社會主義勞働黨は衰退し、今日において一黨派と名づくるにはあまりに小規模のものとなつたのである。

社會主義勞働同盟は千八百九十五年において組織されたものである。同年の十二月六日ナイツ・オブ・レーバアの四十九の地方會議の委員はニュー・ヨーク市中央勞働聯盟と共同に會合し社會主義勞働同盟を組織した。この團體の思想は其反對者が「社會主義勞働同盟の法王」と呼んだデレオ

ン Daniel De Leon に始まれるが如くである。彼は米國におけるマルクス社會主義の指導的學徒であつた。彼は其一派のある者が言つた樣に階級的に自覺した勞働者を産業界において革命的團體に組織することなくしては社會主義が一時の熱情に過ぎないことを信じてゐたのである。

社會主義勞働同盟の組織後の第一回社會主義勞働黨の大會はこの社會主義勞働同盟を是認したのである。社會主義勞働同盟は其形態をナイツ・オブ・レーバァと最も均しくしてゐた。だからトラウトマンは之を呼んで「ナイツ・オブ・レーバァの四六版」と呼んだのである。其主義とする所は其主義の宣言によつて明かなる如く勞働者の資本家に對する團結を必要とし、勞働者が資本家階級の束縛を脱れ得るのは唯だ、經濟的並に政治的に一階級として團結した勞働者階級の直接行動にありとし、其悲慘なる階級鬪爭を最も急速に階級の廢止によつて達し、其廢滅の後には協同主義による社會主義的國家の建設を其目的としたのである。彼等はこの目的の爲めに勞働者の革命的團結を主張した。而してデレオンは革命的勞働組合の政治的であることを必要とし、總てにおいて社會民主主義の政治運動によつて勞働組合が征服されてゐる如く、政治運動が勞働組合の中に優勢でなければならないことを信じた。さうして後に至つて彼は革命的勞働組合主義が政治運動の中に優勢でなければならないし、またその革命的勞働組合が社會主義運動において重大な使命を有することを信ずるに至つたのである。

然し乍ら千九百五年におけるI・W・W・の誕生時代における社會主義勞働同盟は見る影もなく衰微して行つたのである。このことは西部坑夫聯盟以外のすべての西部の團體についても云ふことが出來るのである。かゝる形勢の下にI・W・W・は千九百五年において其誕生の聲を上げることとなつたのである。(つゞく)

●近世經濟思想史論 (河上肇著)

本書はアダム・スミスからマルサス及びリカルドの個人主義經濟學の成立發展からカアル・マルクスの社會主義經濟學まで論じたものである。元來六日間の講演であるから其詳細は盡して居ないにしても手頃のレクチユアである。相反するこの二つの學說を明確に眼前に展開して吳れる點は流石にと肯かせる。たゞマルクスの部分に於て――これは著者も止む得ないと云つてゐるが――社會主義が非常に簡單に取扱はれてゐることと、マルク以後の發展とが書かれてゐないことである。(一圓五十錢、神田、岩波)(甲野生)

勞働組合主義の哲學

——ゴムパースの立場——

森　恪

勞働組合を大體二種に分類することが出來る、一は產業別組合主義であり他は職業別組合主義である、前者を新派と稱し得べくむば後者は舊派であり各國勞働組合主義に於て相對立せる二大潮流である。吾等は米國に於て兩者のテイピイカルなものを見る事が出來る。卽ち產業別組合主義のI・W・W之れであり、職業別組合主義の米國勞働組合同盟之れである。現今吾國に於て勞働者間に組合を設けしむる目的を以て立案せられつゝある二個の法案がある。一は內務省の勞働委員會法案であり他は農商務省の職業別組合法案である、前者は內務當局の所謂縱斷式勞働組合であつて一工場を單位とし單に事業主の代表者と勞働者の代表者とを網羅する一種の卓議會である、後者は一行政區域を單位として同一又は類似の職業に從事する勞働者間に勞働組合を組織せしむるを以て目的としてゐる。

之等二個の法案の示すが如く吾國勞働組合主義は甚だ混沌たるものである、既存の勞働團體に就き之れを見るも二三の組合を除きては明確なる組合のイズムを見出すことが出來ない或る組合は職業別組合の形式を有してゐる、然し其の主張する處はサンヂカリズムの夫れである、又反對に產業別組合の形式を有し然かも其の主張する處は勞働條件の改善に過ぎないのもある。吾國に於ける最大の勞働團體である友愛會に於てすら明確なるイズムを見出す事が出來ない。斯くの如きは吾國の勞働組合主義運動が未だ創生期を出でないからである。このときに當て此處に職業別組合主義のテイピイカルな米國勞働組合同盟の「勞働組合主義の哲學」を紹介するのも興味あることである。それはかのモオリス・レキツトの云へる如く勞働組合主義の運動は勞働者のみの問題ではなく、實に國民的利害の問題であるからである。

一、勞働組合の自由

現經濟組織の下に於ては勞働契約は自由に放任せられて居る、勞働が勞働者より抽象され商品としての性質を有さしめられてゐるのは言を俟たない、從つて勞働者が獨立の團體を組織して居ない處では雇主は多大の實力を其の掌中に收め勞働契約の條件を一方的に決定して居る、其の結果

勞働の價格も、勞働者の人格の上に行ふ支配權の程度：資本家の思ふ儘に決定する、勞働の價格の決定が斯樣に不利である結果勞働者は自己の勞働を提供し、其の對價として生活の必要を充たすに足らぬ賃銀で滿足せしめらるゝ場合もある．恐慌商業沈滯の時代には殊に甚だしい、而かも勞働者にとり苦痛の尙ほ甚だしいのは資本家が勞働者の人格の上に行ふ不當な支配權の爲めに勞働者の所得は單に僅少となるに止まらず、其の使用方法が雇主に依り決せらるゝので勞働者は思ひ通り欲望を充たす事が出來ない、夫れのみか健康身體生命は危險に曝され道德的、精神的發展は阻止せられ、その社會的政治的生活は獨立を失うに至るのである、斯くの如き弊害を除去し眞に勞働者竝に彼等の家族の幸福を圖る爲めには、勞働者は團體の力に依り資本家に對抗しなければならない。此處に勞働組合が發生する、米國勞働組合同盟もまたさうである、彼等は賃銀の增加勞働時間の短縮工場設備の改善を主張し彼等を奴隸狀態に陥せしむ暴虐、劣惡な狀態其他より解放させしめむとする、そして失業問題等に際しては其の原因が需要の不足に依るとも同盟罷工に依るとも又工場閉鎖（ロツクアウト）等に依るものであらうとも何れに關係なく組合員に給與を與へ彼等に共通なる職業的利益を保護せむとするものである。

二、ナイツ●オブ●レエヴォアの批評

ナイツ・オブ、レエヴォア（Knights of Labor）は賃銀勞働者の組合であるが法律家と銀行家とを除き他の者の加入を許した、そして其のプラッツホームを認容したる總ての人々の組合であつて如何なる職業に從事するも問はず團體に包容した、夫れは各產業のラインを全滅なさしめ且つ全勞働階級を包含する一の大なる組合を組織するにあつた、斯くの如き理論は守る事が出來ないのみならず、不自然であつて勞働者の利益の爲めに事も爲すに當り非實行的なものである、恰かも軍團に於ける各兵種に適用するならば騎兵砲兵步兵其他の兵種等が總て雜然とするやうなものである、進む爲めに何等かの命令が與へられたならば直ちに混亂と狼狽に支配されてしまうであらう、斯くの如く組織されたる軍團に對し最も安全な事は靜止する事である、進軍の命令は自滅である、

三、トラストと勞働組合

勞働組合はトラストではない、然しトラストと同じ如く不可避な論理の發展的所產である、勞働組合はトラストを生むだ同一の經濟條件の下に大なる發達を遂げた、卽ち機械の應用產業の細別其れが組織の廣大にして錯綜せる事等は勞働者の個性を滅却した、而して此等の事は彼れの同僚

と組合を作らせ、團體的に、賃銀勞働者としての市民としての彼等の權利を保護なさしめ、全勞働階級の利益を擁護さしたのである、然し其れはトラストではない、勞働組合は其の本質よりトラストたり得ざるものである、時にはトラストであると嘲笑的に云ふ人々があるが、夫れは斯くの如き狀態になるに致らした經濟の第一原則をも知らない事を暴露した處の人々である。

勞働組合は全社會の福祉の爲めに多數の者が自由意思に依り結合したものである、トラストは少數の者が自由意思に依り彼等自身の利益の爲めに結合したものである、勞働組合は其の組合員の資格に熟練と品性との點を除きては何等制限を設けてない、あらゆる賃銀勞働者は歡迎せらるゝ事實に於ても其の力と、影響は勞働者をして一般的に採用なさしめ、彼等は彼等の要求する處を表白した永久的な可能的な組織としてる。

トラストは勞働の生產物を支配せむが爲めに組總せられたものである。勞働者は賣るべき生產物を有してない、彼等は彼等の勞働力卽ち物を生產すべき力を有してるのみである何物も生產しない處にトラストはないと云ふ事は確實だ、夫れ故もし此の事に對し他に有力な理由のない限りは勞働者の組合をトラストと稱する事が不眞實であると同じ如くに經濟上不健全なものである。

四、競爭と組合

人類間に於ける競爭は種類に有益であるか、又は有害であるかに依つて奬勵さるゝか否認せられなければならない有益なるか有害なるかに依り合理とも不合理ともなる、或る團體間に目的を達する爲め機會の均等と同一條件の下に競爭が遂行された場合には夫れは、合理的である。生存と自己開發と過去の勞働の集積に對し公平な機會を剝奪せられて居る社會の現經濟組總の下に於て競爭は不合理である何故ならば人々は、生活の必要品を得る爲め、他の同一狀態の下にある人々と彼等の勞働力を强制的に賣らしめ競爭を餘儀なくさせしめられて居るからである、エリヲット博士は家族や、學校や、大學に見るが如き有益な競爭の說明を不公平に引用するかも知れない、そして競爭に對する彼れの議論の各場合に充當せむとするかも知れない而し彼れは經濟的爭鬪の說明は避けなければならない、此の國に於て賃銀勞働者間の無拘束の競爭は工場狀態と賃銀を低下させる、そして其の程度は社會的正義の意志に依り行動する多くの人を嫌惡させる程である、

五、理想主義と組合

一般に勞働組合は目的を宣言したプラッツホームを有し

てない、之等想像の飛躍は簡單ではあるが屢々熱情的に神經的に且つ又センチメンタルに訴ふるものである。勞働組合は賃銀勞働者のビヂネスに心を用ふる、賃銀勞働者の事務的組合である、そして解決すべき幾多の重要なる問題を有してる、彼等は現今虐げられたる者の權利を主張し虐げられたる者の害と爭はなければならない、挑戰されたる場合に決鬪に應じなければならない、吾等の若き無智な子供の生命を救ふため熱烈なる戰に從はなければならない。そして吾等の愛する者に敎育を受けしめ、獨占に依る利潤取得者より吾等を解放し、失業者を救濟すると共に選擧權を獲得して國政に關與するのみならず工場、商店、鑛山、田畑等に吾等の自由の餘地を見出さなければならない、此等の事は勞働組合が日々對立しなければならない問題の一部である。戰に勝利を得る、而して其處此處に讓歩せしむる、時には戰に失敗する、其の時でさへ決定的の勝利を得る迄は戰を繼續さして行かなければならぬ、勞働組合は抽象的綱領に對し、注意を拂はないし、殆ど注意を拂ふ餘裕も無いと云ふ事は無理ないのである、意味の宜い美はしい言葉は、希望が仲々滿たす事か出來なかつたり破壞された場合には勞働者の士氣を頽し失望させしめ、實際に於て屢々彼等の心を悲しましむものである、從て勞働組合運動は日々改善する點に於て定りたるプログラムを要しない、若しプログラムより出發するならば夫れで滿足しなければならむ、吾等は何も特別な標準を定めない、たゞ勞働者にとり直ちに獲得さるべき可及的最善の條件に對し働く丈けである。そして其等の目的が達したならば次により善き事に對し働くばかりである、一日に三弗の賃銀をとり衛生的な工場で八時間働く事が一日に二弗半の賃銀をとり危險な工場で十二時間働くよりより望ましき事であると云ふ事を知る爲めに何も卓越せる社會哲學や大なる叡智を要しないのである、勞働組合が絕えず繰返す爭鬪は言葉より行爲に、約束より仕事の成就に、理論より實際的效果を負ふ處大いは言ふ迄もない（終）

中世ギルドと勞働制度

ピイタア・クロポトキン

一

中世都市は豫め考案された計劃により、外部からの立法者の意志に從つて組織されたのではない。中世都市は何れも眞の自然的產物である。諸種の力が相鬪つて、其の各々の精力の度に從ひ、其衝突の機會の多少、其周圍のものの援助の大小に從つて、互に種々に調整されて行つた、種々の結果の產物である。だから二つの都市の其の內部組織と運命とを全く同じうしたと云ふ事はない。さうして何れの都市も別々に離して見れば、時代每に變化してゐる。然るにヨォロッパの全都市を總體的に見て見ると其何れも他と異つた狀態の下に獨立して發達したものであるけれども、その地方的または國民的差異がなくなり、何れの都市の間にも不可思議な程の類似のあることを發見するのである。諸都市の主要な組織と、其の諸都市の根本的精神とは、恰も一家族の間における樣によく似てゐるのである。また到る處小村落や小ギルドの間の連盟があり、一つの母市の周圍には同じやうな幼市（サブ・タウン）がある。同じやうな民會、同じやうな旗印があるのである。都市の守護者（デフェンソル）は都市によつて名も異ひ、旗印も異ふるのであるが何れも同じ權威と同じ利害とを代表してゐる。食物の供給と勞働と產業とは、何れの都市に於いても同じ方法によつて組織され、都市の內外における爭鬪は何處でも同じ樣な野心を以つて起され、其爭鬪に用ひらるゝ諸方式も同じである。何れの建築的記念物も、其の樣式はゴシック風、ローマ風、若しくはビザンテイン風であつても、すべて、同一の憧憬と同一の理想を表はし、同じやうに工夫され、同じやうに建てられてゐるのである。斯くて、各都市間に多少の致異はあつても其差異は多く時代の差異に過ぎないものである。

各都市の主要方針の一致と起源の一致とが氣候、地理的位置、富、言語または宗敎などの差異を償つてゐるのである。さうして此等の都市の地方的差異や各々の都市の差異

を明確にする研究も甚だ面白いものであるが、同時に吾々はその何れの都市にも共通する主要の發達經路を研究するのも面白いのである。

二

初期の野蠻時代以來特に市場を保護して來たことが中世都市を解放する上に其唯一ではないが重大な役目を勤めたのは疑ひの餘地のない所である。初期の野蠻人は其村落共產體の中では賣買と云ふことを知らなかつた。彼等は只だある一定の日に、一定の場所で他村のものと交易をした。さうして此の他村のものが市場へ來る途中で仇同志の種族のものと衝突して殺されたりすることのない樣に、その市場はすべての種族の共同の特殊の保護の下に置かれたのである。此の市場はある聖場の蔭で開かれるのであるが、この聖場と同じく神聖不可侵の場所とされたのである。

多くの者が交易をしに集まつて來る土地とその四方の幾里以內では血の復讐をすることが出來なかつた。賣手と買手との騷々しい群の間に何等かの爭ひが起これば、其爭は市場の保護者卽ちその村落の裁判所、または僧正、領主、の下で審かれなければならなかつた。さうして交易をしに來た他村の人は賓客で、その人は從つて賓客と云ふ名の下に行動したのである。

此の特殊の市場の司法權が市場の意志の如何に拘らず、遂に都市其ものに讓與されて、其處から都市の自治的司法權が發達したと云ふことは容易に理解されるのである。さうして都市の自由が此處にその起源を發してゐると云ふことは極めて多くの場合に之を見ることが出來ると同時にまた都市のその後の發達に對して、このことがある色彩を帶ばしめてゐるのである。卽ち都市の商業的部分が優勢を占めるやうになつた。最初その都市に一家屋を持つてゐて、その都市の土地の共同所有者であつた市民等は多くは商人（マーチャ）同業組合（ント・ギルド）を作つて、その都市の商業權をその掌中に握つてゐた。さうして最初は金持も貧乏人も兎に角市民は商人同業組合に加入することが出來、商業は都市全體の爲めにその委員によつて行はれてゐたやうであつたが、漸次に此の商人ギルドが特權團體のやうなものになつてしまつた。さうしてその都市の商業的利益は、解放當時に市民であつた少數者の家族によつて壟斷したのである。かくして商人の寡頭政治が組織されると云ふ危險が明かになつたのである。しかし既に十世紀にはまたその次の二世紀の間は均しくギルドを組織してゐる主なる工匠が、商人の寡頭政治的傾向を礙げるのに充分有力であつた。

三

當時のギルドはその生産物の共同販賣者であり、また原料の共同講買者でもあつた。さうしてその組合員は商人であると共に、同時に手工者でもあつた。だから自由都市生活の初から手工者の舊組合か優勢であつたので手工勞働はその後においても都市では高地位を占めることになつた。實際中世都市においては手工勞働は劣等のものと看做されてはゐなかつたのである。のみならずそれは村落共產體時代において拂はれてゐた高い尊敬の痕跡を殘してゐた。祕傳の手工勞働は、全市民に對する敬虔な一義務と看做され他のあらゆる公職と同じく名譽ある一公職とされてゐたのである。

當時の生産と交易とには共同團體たる都市に對する正義と生産者と消費者との何れもに對する權利の觀念とが浸みこんでゐた。當時の文書に據るに鞣皮工の仕事も、桶屋の仕事も、又靴屋の仕事も、公正な正直なものでなければならなかつたのである。また工匠の使ふ木や、皮や、絲は正しいものでなければならなく、パンは公正に燒かなければならなかつたのである。其他の仕事もすべて同じことである。

中世の工匠は何者とも知れない買手に賣る爲めに、もしくは何處とも知れない市場へ送る爲めに、其の生産物を造るものではない。先づそのギルドの爲に生産する。ギルドは仲間同士の集會である。さうして彼等は互ひによく知り合ひ、その職の技術も皆よく知つてゐる。さうして、此の仲間同士は、各々の生産物に値段をつけて、それに現はれてゐる、腕前と、それを造り上げるのに費した勞働の量を評價する。次にギルド自身が此の生産物を共同團體たる村なり都市なりへ提出する。さうして最後にこの共同團體が同盟團體たる仲間の他の村なり、都市なりへ、その商品の善惡についての責任を持つて賣る。こんな組織であつたので、劣惡な商品を持ち出さないと云ふことが各工匠ギルドの野心となり、また技術上の缺點のある品や不正品を出すと云ふ事が共同團體全體の問題であつた。

斯くの如く、生産はアミタス全體の監督の下にある社會的義務であつたので、從つて手工勞働も、自由都市の活躍してゐた間は、今日の如き下賤な狀態に陷ることがなかつたのである。親方と徒弟との區別、若しくは親方と職人との區別は中世都市の最初からあつた。しかし、これも、ただ年齡とか技倆とかの差違であつて、富または權力の差異ではなかつた。徒弟は七年間の徒弟奉公を濟まして、ある

技術についてその知識と才能との證明をして貰へば自分が親方になることが出來たのであつた。單に親讓りで或は金のお蔭で親方となることが出來るようになつたのは王權が都市やギルドなどを破壞してしまつた十六世紀頃からのことである。さうしてその頃は最早中世の工業や藝術の一般的墮落の時代であつたのである。

四

中世都市の最初の繁榮時代には賃銀勞働などと云ふものの餘地は殆んどなかつたのである。孤立した賃銀勞働者などと云ふものは猶ほ更のことなかつたのである。織工の仕事も、弓術師の仕事も、鍛冶屋の仕事も、パン屋の仕事も其他の何れの仕事も總て組合の爲め都市の爲に行はれたものである。ある建築工事の爲に幾人かの職人を雇へば、彼等は一時的組合を作つて働き、その賃銀も一纒めにして支拂はれる。一人の親方の爲めに勞働するなどと云ふのは餘程後になつてから出來た事である。しかしその場合にも、職人の賃銀は今日最も報酬の多い職に支拂はれてゐるものよりも多く十九世紀の前半に一般にヨオロッパで支拂はれてゐたものよりも餘程多かつたのである。

十五世紀頃でも、左官や大工や鍛冶工はアミアン市では一日四ソルつゝ貰つてゐた。四ソルは當時パン四十八片、もしくはプッヴァルと云ふ小さな牛の十八分の一に當つたものである。又サキソニアでは建築工事の職人の賃銀がファルケの言葉を借りて云ふと其の六日分の賃銀で三疋の羊と一足の靴とを買へる程であつた。

また此等の職人が教會へ寄進する金高を見ても其の比較的裕福であつた事の一つの證據になるのである。ある教會の中の祭壇と仕切りとの建築の爲めに積立金の十二圓と臨時醵金の七十五圓とを寄進した。この金額は極く精確な計算をすると今日の金の十倍に當つてゐる。要するに中世都市における事物をよく知れば知る程、此の自由都市の繁榮時代程に勞働が盛んでさうして尊敬を拂はれてゐたことは古今未曾有であることか判るのである。（つゞく）

定價

每月一回一日發行	一部	卅錢	郵稅 五厘
	半年分	一圓七十錢	稅共
	一年分	三圓卅錢	稅共

但代價は臨時特別號の時は別に申受く

▲誌代は總て前金　▲郵券代用一割增
▲送金は可成振替　▲外國行郵稅十錢

大正九年五月一日印刷納本
大正九年五月一日發行

東京市京橋區元スキヤ町三ノ一番地
編輯兼發行兼印刷人　尾崎士郎

東京市小石川區久堅町百八番地
印刷所　株式會社博文館印刷所

東京市京橋區元スキヤ町三ノ一番地
發行所　批評社
振替東京四五三四六
電話銀座一三七四番

廣告

半頁	十圓
一頁	二十圓
二等一頁	三十圓
一等一頁	五十圓

大賣捌

▲神田　東京堂　上田屋　▲京橋　東海堂　北隆館　▲日本橋　至誠堂　▲本郷　盛春堂

大正八年三月廿八日第三種郵便物認可

批評

六月號目次

モリスの藝術的社會主義（二）

――ギルド社會主義の創生（三）――

（九）

モリスは社會主義の宣傳のためにその後半生を捧げた。しかしモリスの社會主義宣傳は宣傳といふよりは創造であつた。彼れは新社會主義の創造者であつた。(1) gas and water socialism はモリスの謂ふところの社會主義でなかつた。彼れは無政府主義者でなかつたとともにまたコレクチヴヰストでもなかつた。彼れの社會主義は藝術的社會主義である。彼れの社會主義は社會主義であるとともにまた藝術である。藝術と社會主義との關係において彼れの社會主義――藝術的社會主義が生れたのである。

(1) ビリエルスはモリスを英國における最大の社會主義者であり、そしてそは彼れの創造的精神の賜であると述べてゐる。
（Villiers, Socialist Movement in Engel and, p. 108）

（十）

藝術をもつて『社會的事業（ソーシャル・ビジネス）』の一つであると信じてゐたウヰリアム・モリスは、繪畫や彫刻のやうな孤獨的な藝術において最高の藝術を見出さうとするものではなかつた。あらゆる勞働の歡喜の表現こそ彼れにとつては藝術そのものであつた。勞働者が、その物質的の必要のために强制された仕事よりもよりよくなされた勞働者のあらゆる勞働は彼れの謂ふところの藝術であつた。だから彼れにとつては藝術の最も卑しい勞働こそ崇高のしるしであつた。他の人々が高尚な仕事によつて動かされたと同じやうに彼れは卑しき仕事のうちに感激を見出した。(1) 彼れにおいては藝術とは決して社會的孤獨性を固有してゐるものでないのみならず、『彼れ自身のみを喜ばすほか何等の目的にも奉仕するこ

とのない仕事』は、彼れにとつては、詩も藝術も、ただ『盜める快樂』であるに過ぎなかつた。(1)『われ等の慾求するものは社會としてである』――モリスの藝術とはルネサンスの藝術ではなくして社會としての願望である。ルネサンスとともに、天才の人達が、藝術においての凱歌を高く唱へたであらう。そしてルネサンスとともに、社會は優越な個人を産出するために存在するものと考へられたであらう。彼等の眼には、藝術とは貴族的性質を固有してゐるものであり、或は凡てのものの間にあつて藝術こそ最も多く貴族的のものであつたであらう。しかしモリスにとつては藝術の優越な個人的天才とはただ社會の征服者であつた。ルネサンスの優越者の相續者はアメリカの百萬弗長者であつた。それは丁度ドミシアンがシーザーの相續者であるのと同じであつた。モリスはかくのごとき藝術的專制主義の主張者ではなかつた。個人の間における競爭の心、優越に對する慾望は、彼れにとつては幸福なものでもなく、賢明なものでもなく、ただ熱狂的な、盲目的な、そして不幸なものであつた。社會の願望は、永い、そして忍耐すべき願望である。個人は、その個人の力をもつて、そして彼れ自身の時代において成就することを期待してはならない。人々はただ『少量の成就』において幸福を感じなくてはならない。(2)――モリスにとつては藝術とは『人々の勞働の自然の慰藉』natural solace of men's labour であつたのである。(3)

(1) Brock, op. cit., p. 219
(2) ibid., pp. 237—240
(3) Morris, Architecture, Industry and Wealth.

（十一）

モリスは彼れ自身工匠 craftsman であつた。政治に對する彼れの批評、社會に對する彼れの批評、そして新社會に對する彼れの建設は、みなこの craftsman としての立場から流れ出でてゐるといへるであらう。craftsman としての彼れが工匠の社會としての中世の社會のうちによきものを見出したことはもとより當然のことである。モリスは今日のギルド・マンとともに、中世の社會のうちに、多くのよきものを見出さざるをえなかつた。そは中世クラフツマンの藝術的生活であつた。中世の藝術は、モリスに從へば如何なる一人の天才の凱歌をも意味するものではなくして

多くの工匠の才能と勞働との賜である。この多くの職匠の才能と勞働こそ偉大なる伽藍(カシードラル)を建設したものであり、そは決して一人の天才的藝術家の賦與ではない。中世紀における藝術は何故に繁えたか、そは工匠が『よき仕事』をなすことを目的としてゐたからである。彼れの製作しつゝあるものは單なる商品ではなかつた。工匠は『よき仕事』に志した。『よき仕事』のうちに享樂が生れた。そこに藝術が生れた。そして勞働は苦痛ではなくして享樂であつた。――この中世紀工匠の社會を破壞したものは商業主義であつた。

(十二)

モリスは彼れ自身工匠となつた。彼れの期するところは『自由なる工匠』となることであつた。しかし彼れは資本家となることなくしては自由は存在しえられないものであると考へた。工匠としての自由を享有するものは、彼れに從へば、現代においてはただ畫家と彫刻家とがあるのみであると。中世の工匠の間においての自由は、何故にわれ等の時代に與へられてゐないであらうか、モリスはその News from Nowhere のうちで次のやうに述べてゐる。

『われ等の聞き且つ讀むだ凡てのことからして、前代の(資本主義)の文明においては、貨物の生産の事件において、人々が惡德の仲間入りをしてゐたことは明白である。彼等は不思議なほどの生産の便宜にと達してゐた。そしてその便宜を最大にするために彼等は次第に世界市場と稱せられる賣買の最も精巧な方法を創造した。(或は寧ろ成長を許した)。世界市場は一度始まると、彼等がそれを必要とすると否とにかゝはらず、彼等をして益々貨物の製造を行はしめることを强制した。そこで彼等が實際の必要品を製造するの勞苦から彼等自身を解放することのできなかつたうちに、前述の世界市場の鐵則のもとに、彼れ等にとつて生活を支持する實際の必要と同等の重要さとなつた無限に連續する僞りまたは人工的の必要を造つた。かくして彼等は單に彼等の憐れな制度を運行せしめることのために巨大量の仕事を自らに負はせた』(1)

News from Nowhere の主人公ハモンドは更に話をつづけた。

『彼等がこの不必要生産の恐ろしい重荷のもとによろめくことを餘儀なくされた以上は彼等にとつては勞働とその結果とを一つの立場――卽ち貨物の製造に最小限の勞働を費し、そして同時にできるだけ多くの貨物を製造することの不斷の努力――より以外の立場から觀察することは不可能となつた。この生産の低廉化のためにはあらゆるものが犧牲にされた。勞働者がその勞働においての幸福、否な彼れの最も根本的な慰藉健康と食物と衣服と住居と閑暇と娛樂と教育と――要するに彼れの生活――はその

大部分が全く生產するに價ひしないこの事物の低廉生產の悲慘な必要に對する權衡において砂の一粒も重くなることはできない……實に全社會は世界市場によつてそのうへに强制されてゐるこの掠奪的な怪物（レープニング・モンスタア）、『低廉生產』の顎のうちに投ぜられた』(2)

モリスは『世界市場』とそしてその結果としての低廉生產とに着目した。彼れはこの點に商業主義の眞髓を發見した。そしてその商業主義のために、人々の勞働も快樂も健康も、一切の生活が犧牲に供されつゝあることの事實を見た。然らば機械についてはどう考へたか。機械は勞働を節約するの目的に奉仕したであらうか。近代工業制度のもとにおける機械の影響についてのモリスの觀察はまた大に聽くべきものがある。ハモンドは次のやうに語りつづける。

『……勞働節約の機械？然り、それは他の仕事、恐らく無用なる他の仕事に消費する――私は浪費といふであらう――ためにある仕事において勞働（もつとありていにいへば人間の生命）を節約する目的で造られた。友よ、勞働を低廉化せしめようとする彼等の凡ての計劃はたゞ勞働の負擔を重くすることの結果となつた。世界市場の食慾はそれの寄食するものとともに成長した。『文明』（卽ち組織的不幸（オルガナイズド・ミゼリー））の圈内にある諸國は市場の畸形をもつて滿たされた。そして强力と僞瞞とが、この柵外に諸國を容赦なく『開拓（オープン・アップ）』するために用ゐられた。この開拓の經路はこの時代の人々の公言するところを讀んでそして彼等の實行を了解してゐない人にとつては不思議なことである。そしてそれは恐らくその最惡の狀態において十九世紀の大害惡、獰惡の責任を免れるための僞善と僞君子的口吻を使用することを示すであらう。文明の世界市場が未だその手に摑まれてゐない國を渴望した時にある見えすいた口實が發見された――商業のそれとは異つたそしてそれほど殘酷でない奴隷制度の廢止がこれである。……次にある勇敢な、不法な、無智な冒險者が發見された。（競爭の時代には困難な仕事ではない）そして彼れはその悲運の國においてのあらゆる傳統的社會を破壞することによつて、またあらゆる閑暇と快樂とを破壞することによつて、市場を開くために買收されたのである。彼れは土民に彼等の欲せざる貨物を强い、そして彼等の自然の生產物を盜奪の別名としての『交換』において取得し、そしてそれによつて新らしい需要を開拓した……』

……………………………………

『……それゆゑに十九世紀の偉大なる功業は發明と熟練と忍耐の驚異であり、そして無價値な間に合せの限りなき分量の生產のために使用された機械の製造であつた。實に、機械の所有者等は貨物として彼等の製造する何ものについても、單に彼等自身を豐かにすることの手段として以外には考へはしなかつた。』(3)

モリスは商業主義において chattel-slavery においての奴隷制度よりも更に殘酷な奴隷制度の成立してゐるのを見た。そして勞働節約のために發明された機械が無價値な間に合せ物を製造するために、そしてこの機械の使用者を富

ましめることの目的以外に役立たなかつたことを考へたのである。

(1) William Morris, News from Nowhere, Longmans, P. 108
(2) ibid., PP. 108—9
(3) ibid., PP. 110—12

（十三）

モリスはかくして商業主義のうちに十九世紀の『一大害惡』を發見してゐたのみならず、機械の效果に對してもそれが奴隷制度を導きつゝあることの事實を見た。この事實は屢々彼れの批評家をしてモリスが機械そのものを憎惡しまたは排斥したもののごとくに考へさせるに至つてゐる。しかしモリス自身はブロックの指摘してゐるとほり機械の盲目的の憎惡者ではなかつた。(1) 彼れが機械の效果について深い反感をもつてゐたことはただ機械が正しく使用されてゐないためである。機械が正しく使用される時には、人々はこれによつて多くの閑暇と、そしてその結果としての快樂とをうることができるものであるとは彼れの堅く信じてゐたところであつた。從つて彼れの建設せんとする新社會においても機械の使用は期待されてゐたところである。即ち手によつてすることの退屈な仕事はこれを機械によつて運行されべきものであるとなしてゐるのである。(2)

(2) Brock. op. cit., p. 227
(3) Morris, News from Nowhere, p. 113

（十四）

モリスの求むるところは賃銀增加の問題でもなく貧乏の救濟の問題でもなくまた富の分配の問題でもなかつた。彼れの求むるところは自由である。自由の社會である。ブロウハム・ビリエルスはモリスの建設せんとする社會を次のやうに解說した。

『モリスの社會主義についての考へは地球並にそのうちに存する凡てのものを使用する萬人の平等の權利のうへに立てられた自

由社會のそれである。また從つて生活の手段のための凡ての競爭の廢止である』(1)

即ちモリスの建設せんとする新社會とは自由にして生存のための競爭の存在しない共産の社會であるといふのである。彼れに從へばこの新社會においては『理性とそして享樂の感じが支配する』の社會である。(2) そは『組織的不幸』Organized misery. としての文明ではなくして萬人のための幸福の保有せらるゝ社會である。しかし自由とは放埒の意味ではなく、享樂とは無勞のことではない。モリスの謂ふところの自由とは創造の自由であり、その謂ふところの享樂とは勞働においての享樂である。彼れ自身の言葉に從へば『勞働それ自身においての享樂』Conscious Sensuous pleasure in the work itself である。(3) 彼れは建設すべき新社會について次のやうに述べた『今日の文明世界の第一の義務は勞働を萬人のために幸福にすることである』と。

(1) Brougham Villiers, The Socialist Movement in England, p. 109
(2) William Morris and Belfort Bax, Socialism: Its Growth and Outcome, p. 234
(3) News from Nowhere, p. 107

（十五）

こゝに二つの問題が起されるであらう。その一つはかゝる共産の社會において人々は勞働を厭ふことはなきかといふことである。この問題は屢々社會主義の反對者によつて提起されてきたところである。彼等は大體において所有慾と生存のための競爭とによつてのみ勞働の刺戟が存在するものとなしてゐるのである。しかしモリスにとつてはこの問題は極めて簡單に解決せられてゐる。

『勞働の報酬の存在しないところにおいて如何にして貴下は人々を働かせるか？特に彼等をして熱心に働かせるか？』

『ニユース・フロム・ノーホエーア』の主人公の一人がかう尋ねた。ハモンドは嚴そかに答へていふた『勞働の報酬は生活（ライフ）である』(1) と。The reward of labour is life. ――よき仕事には、報酬は益々豐かである、『創造の快樂』がこれである。モリスは創造の快樂を說いてゐるのである。

しかしモリスにおいては勞働の報酬の問題は、來るべき新社會の構造の問題と切り離して考へらるべきことではな

い。そしてそは如何にして勞働を享樂化するかの問題でなくてはならない。

(1) News from Nowhere, p. 106

(十六)

如何にして勞働は享樂化せしめることができるであらうか。モリスは第一に商業主義の破壞――『利益のための生產』を廢止することを主張する。彼れはその建設せんとする新社會の生產組織について次のやうに述べてゐる。

『われ等の製造する貨物は必要とされてゐるために製造される。人々は彼等の知ることもなく、またその支配することもなき漠然たる市場のためにではなくして、彼等がその自身のために製造しつゝあると同じく彼等の隣人のために製造する。そこには賣買がないがゆゑに需要された場合に貨物を製造するといふことは單なる狂氣である。何となればそこには最早やそれ等の貨物を買ふことを强制されることのできるものがないからである。それゆゑに製造されるものはみな善く、そして完全にそれの目的に適してゐる。純粹の使用（ゼヌインユース）のほかには何ものも製造されることはできない。それゆゑに劣等な貨物は製造されない。特に前にもいつたとほりわれ等は今やわれ等の慾望するものを知つた。それゆゑにわれ等が要求する以上のものを製造しない。』(1)

利益のための生產が廢止せられることは彼れの謂ふところの無用のものゝ生產、世界市場のための生產の廢止せられることとである。その結果は勞働の節約とならなくてはならない。

『われ等は無用なるものの多量を製造することに驅られることなきがために、われ等は物の製造において快樂を思ふだけの充分の時間と資源とをもつ』(2)

モリスに從へば不愉快な仕事は機械によつて行はれるであらう　手によつて行ふことに享樂の存する仕事は機械を用ゐることなくして行はれるであらう。そして各人の心の變化に對して適當する仕事を見出すことは困難でないであらう　從つて『何人も他人の欲望の犧牲となる人はない』であらう。モリスは次のやうに述べる。

『偖て、貴下はかゝる狀態のもとにおいてはわれ等のなす凡ての仕事はしかすることが大なれ小なれ愉快なる、精神及び肉體の使用である。それゆゑに人々は仕事を避けることの代りにそれを求める』(3)

モリスは他の書物においても次のやうに述べてゐる。

『勞働への獎勵の固有の原因が必要であることは眞實である。しかし感覺ある世界中でこれは精力の見事なる使用における享樂によつて伴はれてゐる。……例へば馬はその自然の狀態においては走ることを喜ぶ。そして犬は獵ることを喜ぶ』(4)

モリスは人間の歴史のうちにおいても、遠い原始時代から古昔の歴史的野蠻時代へ進んだ時に勞働においての享樂が新鮮な刺戟であつたことを指摘してゐる。そして藝術の生れたのはこの必要な仕事を娯樂に轉ぜしめたことからであると。

(1) News from nowhere, pp. 112—13　(2) ibid., p. 113　(3) ibid.　(4) Morris and Bax, Socialism, p. 227

(十七)

モリスに從へば勞働の享樂は、人々の生活の自然の狀態において期待せられるところである。多くの勞働はそれ自身において享樂である。また仕事それ自身が享樂でない場合であつても他の刺戟によつて享樂化せしめることができる。更に『享樂的の習慣』となることのできるのである。(1)——モリスの期待する新社會とは實にかくのごとき社會である。彼れに從へば勞働者からその勞働においての享樂が分離されるに至つたのは極めて近世のことである。そして近代社會の根本的病弊はこの勞働においての享樂の喪失といふことである。卽ち勞働においての享樂の回復である。

モリスに從へば藝術とは勞働の享樂である。(2)また彼れに從へば享樂なくしては藝術はありえない。(3)モリスの期待するところは勞働においての享樂である。勞働の享樂とは勞働の强制された狀態ではなくして勞働の自由な狀態である。自由な勞働は人々の思想と人格との體現である。そこに創造の世界が生れるであらう。そこに勞働の藝術化が行はれるであらう。——モリスの期待するところは藝術と社會主義との一致である。然り藝術的社會主義である。そは行政的社會主義でもなく、『瓦斯と水との社會主義』でもなく、一切の非生命的な社會の建築ではなくして創造と生命との社會の創造である。ベルトランド・ラッセルはモリスについて次のやうに述べた『ウヰリアム・モリスは社會主義者であつた。そして彼れが藝術家であつたがために非常に多く社會主義者であつた』と。(4)ラッセルのこの言葉は藝術と社會主義との關係を說明するために用ゐられたものである。しかしそは同時にウヰリアム・モリスの社會主義の特質を說明してゐる雄辯な言葉である。

(1) News from Nowhere, p. 107　(2) Morris, Architecture, Industry and Wealth,　(3) Morris and Bax, op. cit., p. 230
(4) Bertrand Russell, Proposed Roads to Freedom, p. 175

(室伏高信)

室伏高信著〔第十六版〕

社會主義批判

二圓四十錢 價

送料 八錢

東京京橋區元スキヤ町三ノ一
振替東京一五三四六番
批評社

【主要目次】國家社會主義（國家社會主義の起原—社會民主黨と國家社會主義—共產黨宣言—日本の國家社會主義—社會主義と資本主義—デモクラシーと社會主義—封建主義、商業主義、社會主義—政治的社會主義と經濟的民主主義—社會民主主義—勞働者と國家—『國家は死滅する』—ブルジョアの國家—エンゲルス國家觀の宣義—『共產宣言』と國家—ベーベルの提議ゴータ會議—カウツキーの主張—マインツの會議—獨立勞働黨の決議—ゲード派の態度—ギルド社會主義—國家社會主義とデモクラシー—ソーシャル・デモクラシー）修正派社會主義（ベルンシュタイン—『マルクス主義の危機』—マルクス主義の原則—唯物觀—唯物主義と唯物史觀—マルクスと非經濟的要素—マルクス主義者の態度—餘剩價値說—マルクス價値論—エンゲルスの解說—勞働價値—マルクス抽象論—マルクス價値說と餘剩勞働—資本蓄積說—資本主義と富の分配—恐慌說—階級鬪爭說—革命說—『共產黨宣言』の批評—政治的民主主義—デモクラシー—社會主義と自由主義—勞働者と祖國—普通選擧—『共產黨宣言』—修正社會主義と理想主義—『カントに還れ』—『カントに還れ』の意義）サンヂカリズム（サンヂカリズムの起原—サンヂカリズムの特質—『國際勞働黨者協會』—ゲード派—ブルゼー派—フランス勞働運動の狀況—勞働組合の公認—『勞働紹介所聯合』—『勞働總同盟』—C・G・Tの實力—總同盟罷工—サボタージュ及びボイコット—ベルウチエーと勞働組合とサンヂカリズム—政治的社會主義の不信用—サンヂカリズムと無政府主義—實際的指導者—理論的指導者—ソーレル—マルクス—ブルードン—直接行動—サンヂカリズムと國家—バクーニン組織的無政府主義—社會主義の目的—經濟的聯立主義—サンヂカリズムと勞働組合主義—I・W・W—產業別勞働組合及職業別勞働組合—コレクチヴヰズムとサンヂカリズム—生產者專制）ギルド社會主義（ギルド社會主義の起原—英國勞働組合の歷史—『新組合主義』—勞働黨の成立—勞働黨の不信用—トム・マン—『サンヂカリズムの波』—中央勞働大學—ギルド社會主義の誕生—ギルド社會主義と國家社會主義—直接經營—國家資本主義—消費者—產業民主主義—サンヂカリズムとギルド社會主義—生產者によつての支配—ギルド社會主義の目的—賃銀制度撤廢—國家社會主義と賃銀制度—資本主義の精髓—貧乏と奴隷制度—產業自治論—サンヂカリズムの立場—生產者の自由及消費者の自由—產業統制の意味—ギルド社會主義と國家—勞働組合と國家—ギルド社會主義の特質）勞働組合主義（勞働組合の起原—ブレンタノとウエヴソ—ギルドの性質—產業革命と勞働組合—各國の實例—契約の自由—社會主義と勞働組合主義—オーウエン主義—チャーチスト—『ナイツ・オヴ・ヴオア』—勞働組合主義と社會主義との分離—一八五二年の職業別組合主義—勞働組合主義の定義—國家社會主義的勞働組合主義—職業別組合主義の性質—一八八九年新組合主義の性質—現代の新組合主義—產業別組合主義の勃興—その性質—その現勢）ボルシエヴヰキ主義（ロシア社會運動史—ボルシヴヰキの起原—プレフアーフとレーニン—三月革命と九月革命—『人民』ロッスの書物—妥協的態度—ボルシエヴヰキの本質—勞兵會憲法—トロツキーのボルシエヴヰキ論—レーニンの所論—勞働階級と執政權—『共產黨宣言』とボルシエヴヰキ—手段と本質—マルクス主義とボルシエヴヰキ—ボルシエヴヰキと無政府主義—ボルシエヴヰキとサンヂカリズム—ボルシエヴヰキと國家）無政府主義（無政府主義の起原—議會主義と無政府主義—暴動派と平和派—モスト—マルクスとバクーニン—クロポトキンの定義—個人主義的無政府主義—集產的無政府主義の性質—團體主義と權力—クロポトキンの無政府主義論—相互扶助と共產主義—自由なる共產主義—政府と所有—共產主義と無政府主義—スチルネルの無政府主義—個人主義と無政府主義

最近のベルンシタイン

□

■エヅユワード・ベルンシタインは世界大戰中に多數派社會黨を脫してハーゼやカウツキー等とともに獨立社會黨に入つた。しかし彼れの思想は矢張り多數派（マヨリチーア）とより多く一致するところがなくてはならなかつたであらう。彼れはその後獨立派を脫して多數派に舞ひ戾つた。

■ベルンシタインは今年の二月二十四日付けをもつて『新政治家』に一論文を投じてゐる。それは彼れの立場を最もよく示してゐる。

□

■この論文によると彼れは徹底的に多數派の辯護者となつてゐる。彼れに從へば今日の獨逸の經濟狀態においては、純粹に社會主義的社會としての組織を創造することは不可能である。强いて直に社會主義の社會に到達しようとする企は內亂を導き、流血と無政府と、そして最後に反動を導き出すものであると。

■又曰く、獨逸には有權者が三千萬人あつたがそのうち社會黨――多數派と獨立派の双方を合せて――の贏ちえた投票は半數に滿たない。卽ち一千三百五十萬票をえたに過ぎない。從つて有產階級の政黨と提携聯合することは止むをえないことである。從つて今日の獨逸においては社會主義的改良政策をもつてする民主的共和國を建設するのほかはないと。

□

■この立場からベルンシタインは多數派の妥協的、反動的政策を辯護する。彼れに從へば多數派の努力によつて成立した新勞働法は勞働者に對し、工場において、仕事場において、事務所において、店舖において、法定の權利を與へるものであつて、世界の何れの國においても見ることのできない――ソヴヰエツト・ロシアにおいてさへ――進步した法律であると。ベルンシタインはいふだから多數派社會主義は『建設的社會主義』である。

■この法律に對しては獨立社會黨及び共產黨から非常な反對があり、そして大示威運動が行はれて警官との大衝突があり、遂に軍隊の出動となつた。ベルンシタインは多數派のこの態度もまた止むをえないものであるとなしてゐる。但しベルンシタインに從へばこの示威運動それ自身は少しも政府によつて干涉されてゐないし、凡ての演說も無干涉で行はれたと。

□

■ベルンシタインはボルシエヴヰキの熱心なる反對者である。彼れは第二國際黨をマルクスの相續者であると主張してゐるとともに第三國際黨をもつてマルクスの衣を纏へるマルクス以前の社會革命の主張者であるとなしてゐる。

■彼れ曰く『ボルシエヴヰキの理論は無制限の强制的權力の主張である』と。又曰くマルクスもまた權力を產科醫（アカアシヤア）であるといつたことがある。しかし產科醫は自然によつて下された條件と定められた時についての用意がなくては生兒を產ませることはできないと。

■ベルンシタインはそのビスマークのために追放せられてからの國事犯人として在外生活を記錄するための一書を著した。Aus den Jahren Meines Exils がこれである。

◆編輯室と校正室

◆電車ストライキ一件から地金を暴露したものは正札付きの資本家ばかりではなかつた。平常は勞働者の味方のやうな顏付きをしてゐたもので資本家とチツトも違はない心持を暴露したものはアツチコツチに大分多かつた。

◆先づ東京市内の大新聞なるものがみなそれであつた。日日でも朝日でも萬朝でも時事でもみなそれであつた。かうなつてくると日本でもデーリー・ヘラルドのやうなものが一つ位ひほしい。

◆山田わかとかいふ御先生はなんでも亭主に書いてもらつたものを自分の名前で麗々しく出すのだといふ人がある。まさかさうでもあるまいが、あの先生が電車ストライキの時に萬朝に投書してゐたことは滑稽で腹も立てない位ひであつた。

◆といふのは、わか子御先生曰く、ストライキをした電車從業員は『市民の敵』だから軍隊を使つて鎭壓すべきだ、軍隊は外敵にばかり使用すべきものではないと。エライことを御承知な御先生だ。ブリアンの眞似でもしようといふのか。

◆車掌連が市民の敵なら、御先生は『勞働者の敵』で御座らう。そんな御先生が『社會問題の系統的研究』も聞いてアキレル、その論文に何が書いてあるかと思へば社會問題とは世の中で一番大きい問題のことをいふんだつて、大膽な大先生もあつたものだ——誰れかゞ山田バカ子だつていつたが、イヤどうしてバカ子どころか。

◆早稻田大學理工科の學生さん達のうちにも御賢明な方が多いと見えて電車ストライキの際に車掌運轉手に代つて市民のために電車運轉の義勇兵になるといひ出したとか、一層のことこんな頭の程度なら車掌になりつきりの方が身分相應だらうよ。序に山田わか孃でも賴むで『社會問題の系統的研究』でも解釋してもらうかな。

◆クロポトキンの著書は原著もみな輸入禁止になつてゐるがたゞ一つ禁止にならないものがある。大英百科全書新版がこれだ。これにはクロポトキンの無政府主義論が載せられてゐる。『經濟學研究』が發賣禁止になるなら『大英百科全書』も正に發賣禁止になるべきではないか。當局者以て如何となすか。

◆近着の米誌で見るとハラ、ケイが過激主義についての日本の態度を米國の記者に語つてゐるが、それによると何んでも過激主義はバイカルから東へは入らせないといつてゐるやうだ。ハラ、ケイは浦鹽邊を日本の領分と思つてゞもゐるのか、それとも戸水バイカル博士にでもかぶれたのか。

◆大迫大將といへばもう十年も前に他界したかと思つてゐたら、この頃何を發心してか國體擁護のために發憤して立つたとかいゝ年をしてよせばいゝではないか、どこにだつて國體を破壞しようとする人はないのに。年甲斐のない人だ。まだ英國の退役將校連のやつてゐる過激主義排斥の『自由同盟』の方が氣がきいてゐるだらう。

◆カウツキイに『勞働階級の獨裁政治』(Democratie oder Dictatur) の新著のあることは前々號で紹介したが、いよ／＼次號からその全文を連載する(高木法學士譯)

◆室伏氏『ギルド社會主義』の第一卷はいよ／＼六月五日に出來るであらう。右は全部四卷から成るものである。

◆尚ほ『フエービアン派社會主義』の一篇は「批評」に掲載するつもりであつたが右ギルド社會主義第一卷中の一節として掲載することとなつたため本誌には出ないことになりました。

レニンの國家論

（一）

ニコライ・レニンの著『國家と革命』は社會主義理論にとつて最も重要な書物の一つである。それは創造的であるといふことはできないにしても、マルクス・エンゲルスの主張を今日の世界に適用した明瞭な論述として貴重である。この書物を讀むものは何人もボルシエヴヰキの態度について不明瞭な感じを抱くことはないであらう。そして國家と革命とについてのボルシエヴヰキの態度を明瞭にすることができるであらう。『ギルヅメン』においてフツサインはかう述べてゐる。(The Guildsmen, march, 1920)

　レニンのこの書物は一九一七年九月革命の前に書かれたものである。だからもう數年前の著述である。しかしそれが世界的になつてきたのは極めて最近のことである。そしてこの書物は獨りボルシヴヰキの立場を知ることのためによき書物であるのみならず、第二國際社會黨と第三國際社會黨との爭ひにその一方を代表するものはレニンであり、そしてレニンの書物のうちにあつてこの『國家と革命』は最も重要な位置を占めてゐるものでなくてはならない。

（二）

　第二國際社會黨の立場を代表するの理論としてはカール・カウツキーを擧げなくてはならないであらう。カウツキーの社會民主主義は政治的民主主義と經濟的團體主義との結合である。彼れは純然たるデモクラットである。目的においても、手段においても、カウツキーの立場はデモクラットの立場である。大リーブクネヒトの立場もまたこれであつた。それは謂ふところの正統派社會主義であつた。第二國際社會黨はみなこの立場をとつてゐる。そしてそれは議會主義において社會主義の實現を期するものである。だから勞働階級の獨裁政治には反對である。カウツキーが勞働階級の獨裁政治に反對するもののごとくにいひなす人々はカウツキーの立場に就て何等の理解もない人達である。カウツキーのこの立場は早くから明らかにされてゐるところであつたが最近に發表した『勞働階級の獨裁政治』は一層よくこの立場を明確にしてゐるのである。（『批評』四月號參

照）彼れはボルシエヴキキの態度をもつて社會主義を進歩せしめるのでなくして却つてそれを阻害するものであると攻撃してゐるのである。

（三）

カウツキーのこの態度に對してレニンは全く正反對の立場をとる。レニンはカウツキーを罵つて『彼れは社會主義の墮落者である』となしてゐるのである。レニンにとつては、マルクスの社會主義はかくのごとき『墮落』したものではないとされる。彼れに從へば『民主的共和國』とは資本主義に最も適當した政治制度であり、また普通選擧とは『資本家によつての征服の手段』であるに過ぎないのである。彼れは勞働階級の獨裁政治においてマルクス主義の眞髓の存在するものであることを主張する。そしてレニン自らはどこまでもマルクス門下であることを主張する。『國家と革命』はマルクスと、そしてより以上にエンゲルスからの引用を中心として書かれたものである。

（四）

レニンに從へば國家とは徹頭徹尾壓迫の機關である。即ち一階級のために他の階級を壓迫するの機關であるとするのである。彼れに從へば國家の本質とは軍隊と警察と官僚政治であると。そしてブルジョアの民主主義や寡頭政治なぞは單なる飾りものであるに過ぎないと。——こゝで彼れもまた誤つてゐる。國家の本質が地理的であることに氣がついてゐないからである。

しかしレニンをもつて無政府主義者であるとなすことは大なる誤りである。彼れは無政府主義の反對者であるからである。

（五）

レニンは國家の本質を以上のごとく解するがゆゑに、勿論國家には反對である。そして社會主義の先行條件は國家の破壞であるとなすのである。この點において彼れもまた無政府主義者とその立場を同じくする。しかしレニンは決して無政府主義者ではない。彼れはこの國家に代ゆるに『勞働階級の國家』をもつて置き代えることを主張するからである。勞働階級の國家とは『支配階級として組織されたる勞働階級』である。そしてこの新國家は資本主義の國家と同樣に權力を使用するであらうと。だからレニンの立場は資本主義國家に代ゆるに勞働階級專制の國家をもつてしようといふのである。

しかしレニンに從へばこの勞働階級の國家とはたゞ手段であつて目的ではない。卽ちこの國家の成立の後において階級的區別が撤廢された後においては、この種の國家も次第に消滅するであらうと。然らば何ものがこれに代るべきか。レニンは新制度の創造を說いてゐる。しかしそは如何なる制度であらうか？

（六）

レニンの國家論は、レニンの國家論といふよりは『共產黨宣言』とそしてエンゲルスの『空想的及び科學的社會主義』の國家論である。この二つのものを讀んでレニンの『國家と革命』を讀むものは何人もレニンの說が如何に獨創に乏しいかに氣づかずにはゐられないであらう。

マルクスの國家論は、ラッセルも指摘してゐるとほり頗る曖昧である。マルクスの曖昧は、彼れの門徒をして樣々の國家へと導く。レニンとカウツキーとはともに夫々マルキストであると主張する。そして彼等の立場は正反對である。そはマルクスの曖昧からきたるものである。しかしわれ等にとつて重要なことはマルクスが如何なる國家觀の持主であるかの問題ではなくして、われ等が如何なる國家觀をもつべきかの問題である。

われ等は軍隊と警察と官僚政治とを國家の本質であるとするの說に對しては何等の共鳴をも感ずることはできない。われ等は一切の壓迫の機關を離れて尙ほ國家の存立すべき理由の存在することを主張する。ギルド・マンは國家の本質をもつて『地理的』の點であると解してゐるからである。（ギルド・マン）

次號豫告

民主制か獨裁制か　カール・カウツキイ

ボルシエヴ井キとソヴ井エット　ウキリアムス

コールとホブソン　室伏高信

米國新組合主義の成立

——I•W•W•主義の研究(二)——

一

ナイツ•オブ•レーバァに始まる米國の産業的勞働組合主義は第二十世紀の初めに當つて一大飛躍を試みるの時が來たのである。勿論千八百八十一年に設立された米國勞働聯盟か設立當時五萬に足らない會員から千九百年には五十八萬、同二年に百二萬、同四—五年に百五十萬人の會員を得るに至つた如き技工組合主義の勢力が一方に嚴然してゐた時である。(1) 米國勞働聯盟はその第一回の會議において、「吾人は高き賃銀の獲得と勞働時間の短縮とが勞働者の狀態を改善するの第一歩であると信ずる」(2) と宣言した様に極めて穩健な技工組合主義を奉ずるものであるが、この技工組合主義に飽き足らずして起つたものが以下其成立を語らんとする革命的産業組合主義卽ちI•W•W•主義である。

米國における急進的勞働組合または其指導者は、資本主義の存在を前提として、其基礎の上に高い賃銀と短い勞働時間とを獲得しやうとする米國勞働聯盟に反對の氣勢を擧げる様になつた。金屬職工聯盟 The United Metal Workers は千九百四年十二月米國勞働聯盟から脫退することになつた。當時多くの革命的色彩を持つてゐた勞働團體は今や悲境に立つに至つた。米國勞働組合 American Labor Union は其「西部坑夫聯盟」を別にしては正に瓦解に瀕してゐた。また坑夫同盟 United Mine Workers はその地方支部の分裂を來さうとしてゐた。鑛山坑夫の勞働組合も酒造勞働者同盟も其産業勞働組合の形態について非難の的とされてゐた。そして後者の如きは米國勞働聯盟から其特許狀の取消を以つて威嚇さるる形勢が見えたのである。社會主義勞働同盟も其頹勢にあつたけれども、また米國勞働聯盟に不滿足な會員を有して、革命的な組合の組織を熱望してゐた、西部坑夫聯盟はまた最も熱心に革命主義を奉じ、其勢力に匹敵する丈けの熱心をも持つてゐた。さうして西部坑夫聯盟は其組合の形式を産業勞働組合主義に採り、其

經驗から全く、戰鬪的のものであつた。彼等は數次の罷工から勞働者の關係する限りにおいては國家は何等の善も好意も彼等に示してゐないことの苦い經驗を得た。さうして勞働者の政治的目的を達するには、其背後に經濟的勢力の必要であるのを知つたのである。其の最も苦がい經驗はコロラド・ストライキの場合であつた。斯くて彼等の急務は社會主義的目的を有する產業的勞働組合主義を他の業にも普及擴張することであつた。この產業組合主義によつてのみ鑛山における熟練職工並に不熟練職工のソリダリテが完成せらるる許りでなく、すべての工場、すべての產業における勞働者のソリダリテが完成せられると考へたのである。「一人に對する損害はすべての關する所である。」彼等のモットーはこの言葉であつた。

(1) American Federation of Labor, History, Encyclopedia, Reference Book. 1919. p. 63. 米國勞働聯盟の會員數は現在の所では三百萬に登ると稱されてゐる。現在の會長はサミエル・ゴンパアスである。

(2) American Federation of Labor. p. 6.

二

I・W・W・は千九百五年シカゴにおいて開催せられた「產業的勞働組合會議」において組織されたのである。然し乍らこの第一回の會議以前にこの會議の先驅とも稱すべきものがあつた。即ち千九百四年の終りに當つて同じくシカゴ市に開催された非公式の會議である。其會議に出席した人人は當時社會主義並に勞働運動において著名の人物であつた。ウヰリアム・イ・トラウトマン(1)ヂョーヂ・エステス(2)ダヴルユー・エル・ホール(3)アイザック・コーウェン(4)クラレンス・スミス(5)トマス・ハガァティ(6)アーネスト・ウンターマン(7)がこれであつた。けれどもこの會議には出席しなかつたが、尙ほ著名の士にして、會議外で活動したものがあつた。オイゲン・デブス(8)とチャーレス・シャーマン(9)とがこれである。

これ等の人々は米國の勞働組合が勞働者の利福を確保し增進するにおいて全く無力であると云ふ信念を持つてゐた。米國勞働聯盟の如き勞働界における貴族でなくとも、例へば米國勞働組合、西部坑夫聯盟、社會主義者勞働同盟の如き急進的な團體にしても、日に增し强大な組織となつて行く、資本家の團體に對して戰鬪は愚か、商議も行ふことが出來ないのを知つてゐて、もつと强大な勞働者の結合を計劃したのである。

この計劃を充分に考察、實行する爲めに、一大會議を開催することに決定し、十一月二十九日當時急進的勞働並に

社會主義運動における著名な人々三十名に宛てて招待狀が發せられたのである。其招待狀の内には次の樣な文章を私達は見ることが出來る。

『私達はもし勞働階級が政治上においても産業上においても正しく組織されるならば、其國の諸産業を○○○○、適當に運用する能力を有することを信ずる。

政治的社會主義によつて勞働階級の政治的代表を適當ならしめんには社會主義的社會の組織として建設された勞働團體における經濟的勢力を持つてゐなければならない。而して其産業的方面においては、勞働者が其協同的國家の勞働階級的行政において定むべき團體、部門、産業の別に勞働階級を分たなければならない。…………

私達は貴君を千九百五年一月二日月曜日にシカゴ市において開催せらるべき祕密會議に御招待したいと思ふ。さうして、過去並に現在の一般の勞働團體を度外に置いて正しい○○原理に基いて、アメリカの勞働者を結合せしめる手段を論議したいと思ふ。たゞその時に當つて私達は勞働者の利益の眞の擁護者として完全を確保するが如き根本原理を念頭に置くのみである。』(10)

この招待狀は多くの人達から熱心に歡迎された。けれどもまた不同意のものもないではなかつた。ビクタア・バッガアとマックス・ヘイスとがこれであつた。バッガァは不同意に對する辯明をも與へなかつた。

(1) William E. Trautmanは聯合酒造勞働者 United Brewery Workmen の機關紙 Brauer Zeitung の主筆

(2) George Estes は鐵道從業員聯盟 United Brotherhood of Railway Employees の會長

(3) W. L. Hall. は鐵道從業員聯盟の祕書兼會計

(4) Isaac Cowen は大英機械工聯合協會 Amalgamated Society of Engineers of Great Britainのアメリカ代表者

(5) Clarence Smith は米國勞働組合 American Labor Union の祕書會計

(6) Thomas J. Hagerty は米國勞働聯合の機關紙 Voice of Labor の主筆

(7) Ernest Unterman は社會黨中の學者である。ブリッセンデンの記する所によるとI・W・W・の指導者で其歴史、組織、方法について著書を出してゐるセント・ジョンはウンタアマンを舉げてゐないが、實際は出席したのであるさうである。(Brissenden:—op. cit. p58. note 1.)

(8) Eugen V. Debs.

(9) Charles O. Shermanは聯合金屬職工國際同盟United Metal Workers International Union の祕書

(10) この招待狀はトラウトマン、クラレンス・スミス、エステス、ホール、デッブス、シャーマンによつて署名された。(Brissenden:—op. cit. pp 59—60)

三

右に掲げた招待狀にある通り、祕密會議はトラウトマン司會の下に一月二日から開會せられた。(1)出席者は二十三

人で九つの團體を代表したものであつた。勿論この外に社會主義者はあつたけれども社會主義勞働黨を公式に代表したものではなかつたのである。さうして其出席者の中にはチャーレス・モイアー[2]ヘイウッド[3]オネイル[4]シモンス[5]フランク・ボーン[6]ハガアティ、シャーマン、マリー・ジョンスを數へることが出來た。三日間に渉る會議において新提案の勞働團體について熱心に討議を行つた。さうして宣言書が委員の手によつて作製されたのである。其内の重なる項目を擧げて見ると次の三項目を數へることが出來る。

一、勞働組合界の現狀に對する非難。

二、勞働團體の新組織に對する指導的原理と試驗的計劃

三、新組合組織の爲めの會議の要求。

彼等は先づ勞働運動界における趨勢を論じた。さうして勞働者間における職業の分岐と資本家間の競爭の減少したことを見たのである。工業は主として機械によつて遂行せられるに至つた。其結果として嘗ては重要な意義を有してゐた熟練勞働と不熟練勞働者の差は不明確となり、使用する機械の種類によつて區別する技工組合主義が無力となつたのである。資本家はカルテル、トラストによつて產業的に組織されるときに其使用する機械別による技工組合は全く無力である。斯くて勞働者を雇傭する資本家は其戰鬪力を增加するに對して勞働者は其階級的自覺を缺くことによつて其ソリダリテを失ひ、其戰鬪力を亡ぼしてしまうのである。それのみならず技工組合は罷工破りの制度を寬容し其高き入會金を課することによつて、其技術の獨占を計り高き賃銀と短き勞働時間とを得ることによつて勞働貴族主義を確立し、かくして掠奪者たる雇主と被掠奪者たる勞働者の相互の利害の調和を信ずるに至り、革命的色彩は毫も見ることか出來ないと批評されるのである。

然らば、是に對する救治策は何であるか。I・W・W・主義者は直ちに產業的勞働組合主義の確立であると答へる。地方的には職業的に自治を國際的には產業的自治を許し、一般の勞働者階級の團結を促進し、さうしてすべての產業を包括する一大產業勞働組合の建設がこれであると答へるのである。大產業的勞働組合は階級鬪爭の基礎の上に樹立せられ、さうして他の政黨と何等の關係なき、勞働者階級の經濟的機關として建設せられるのである。[7]其他の事項は次の四項に要約することが出來る。

第一、すべての權力は全體の會員の有することたること

第二、すべてのラベル、會員證、會費等は何處に於ても均一なること、

第三、一般行政部は一定の期間に印刷物を發行すること

第四、中央防禦基金を設定し、之を維持すること、

これ等の四項を擧げ、更に、この主義に贊成なるすべての勞働者に、「この宣言書中に表はされた樣な方法を以つて勞働者階級の經營的團體を組織する爲に千九百五年六月二十七日シカゴにおける集會に參加せんことを」要求して其宣言書は終つてゐる。この宣言書は一月會議に出席したすべての人々によつて署名せられ、さうしてアメリカの全勞働組合とヨォロッパの產業的勞働組合とに發送されたのである。

この一月會議においては組織さるべき勞働者團體の形態について非常に急進的な思想が勝を占め、委員は勞働團體はすべての職業並に產業に對して勞働階級の直接の利益を保護し、之を增進する手段を供するのみでなく、勞働問題の最後の解決——勿論社會主義的の解決と信じられてゐたもの——を提供するものでなければならないと決したのである。斯樣な見地から見れば技工組合主義の體現としての米國勞働聯盟が激烈な非難の的となつたのは勿論である。彼等の意見に從へば米國勞働聯盟は既に其效用を終り、其消滅は正に其終りを全ふするものであるとされたのである。

乍然六月會議の委員は米國勞働聯盟を外部から破壞することを提議したのではない。彼等が米國勞働聯盟を以つて勞働者階級に損害を與ふるものと信じたのは事實である。然し彼等の意圖はこの聯盟を乘取り、さうして、其組織を換へることにあつたのである。

シモンスはこのことについて次の樣に言つてゐる。「會議において現はれた考は、一の新らしい中央團體を組織することであつた。さうして其團體の中には現存の組合の加入を許すことが出來るが、競爭的組合を組織することは許されないのである。更にデレォンは新しく組織すべき組合は現在未だ組織されない勞働者であることを指摘して次の樣に言つてゐる。

「將來において組織すべき團體は現在組織を持たないものの卽ち一國勞働者の絕對多數を構成すべき人々によるのである。」と。而して、既存の組合においては其內部より破壞運動を起し、もし、內部的破壞運動の成功せざる場合においては外部よりの戰鬪を開始すべきである。これが產業勞働組合主義者の立場であつた。

(1) この會議は通常一月會議 January Conference として知られてゐる。
(2) Charles H. Moyer は西部坑夫聯盟の會長
(3) W. D. Haywood は西部坑夫聯盟の祕書
(4) J. M. O'neill は Miners' Magazine の主筆
(5) A. M. Simons International Socialist Review の主筆

(6) Frank Bohn は社會主義勞働黨並に、社會主義勞働同盟の組織者

(7) この政黨との關係なしと言ふ點が後年 I・W・W・を二つに分裂した原因である。I・W・W・は政黨に關係がないと云つてゐるが、其罷業の場合などには社會黨に其資金を供給して貰てゐる。この點はスパルゴウが其著の中で指摘してゐる。然し、I・W・W・が社會黨を助けないのは事實である。(John Spargo:—Syndicalism, Industrial Unionism and Socialism. p 112)

四

一月會義の宣言書に記載された所に從つて千九百五年六月二十七日に會議はシカゴにおいて開催された。約二百人の人々が出席した。この會議は産業會議 Industrial Congress または産業的勞働組合會議 Industrial Union Convention として知られ、I・W・W・第一回年次會議であつた。さうしてこの會議こそ米國勞働運動史上において特筆すべき事柄であると共に、産業的勞働組合史上において記憶すべきことである。今その會議の内容を知る爲めに、會議に代表的に出席した人々の屬する團體、その主要な思想、この會議の指導者等を研究して見よう。

二百名の出席者の代表する團體並に職業の多岐なことに對して先づ私達は驚くのである。信任狀を與へ、全權を依託して、其代表を送つた團體の數は二十四に登つてゐる。さうして信任狀を與へない代表者を送つた團體は二十二を數へることが出來る。[1] 是れ等の團體の形態は次の七つに分つことが出來るのである。

一、單純産業勞働組合——この形態の組合は其技能の如何を問はず特殊産業に從事するすべての勞働者が同一の組合に加入するものである。

二、聯合産業勞働組合——この種の組合は産業的勞働組合の聯盟したもの、例へば米國勞働組合の如きもので、其中には鐵道從業員、機關士、音樂師組合を包含してゐる。

三、國際組合——名は國際であるが通常一國中の地方組合の同盟である。例へばアメリカ聯合金屬工國際組合の如きものがこれである。

四、非聯盟的産業勞働組合——アメリカ聯合坑夫組合の如きもので、一職業よりも寧ろ一産業を其組織の單位とし他の産業における同種の組合または、雇主と聯盟を締結せざるものでである。

五、普通の非聯盟的職業組合——これには二種類ある。(イ)職業併合の形によるもの、この種のものは組合の聯盟であつて、其組成團體は勿論その特殊性を保持するものであるが、その職業的自治は失はれるのである。(ロ)特殊職

業例へば鑄鐵工の如き職業の全國的組合であつて、其構成分たる組合は併合の場合よりも、全國組合への隷屬の度が烈しいのである。

六、一州聯盟――ユーター州勞働聯盟の如きものが其の代表的のものである。

七、特殊組合――産業勞働者俱樂部並に聯合勞働同盟がこれである。

これ等の種々な團體中において國際的または全國の團體を代表してゐるものは極めて少數であつて、其多くは一つもしくは二つの地方組合を代表するものに過ぎなかつた。さうして其内のあるものは米國勞働聯盟に加入してゐたものであるが、當時既に聯盟の政策に不滿を抱いてゐた所のものであつた。然しながらこの會議において中心的勢力を振つた團體はその地方支部を包含する中央團體を代表するものであつて、アメリカ勞働組合並に聯合金屬工組合がこれである　米國勞働聯盟に加入してゐた團體はその會員數の上から言へば最も多數であつたけれども、實際の會議に際しては受動的の活動を試みるに止まつてゐた。資格審査委員の承認を得た四十三の團體(2)の中で十六團體丈け米國勞働聯盟と關係のあるものであつたが、その中十一團體まではたゞ一つの地方團體を代表するに過ぎなく、その勢力としても振はざる有樣であつた。こんな有樣で米國勞働聯盟所屬の組合は産業勞働組合主義者中の五大勢力の中に入ることが出來なかつたのである。さうして第一回I・W・W・會議は主として五大勢力によつて左右される樣になつた。今其會名と會員數と代表數とを擧ぐれば次の通りである。

團體名	會員數	代表者數
西部坑夫同盟	二七・〇〇〇	五
米國勞働組合	一六・七五〇	二九
聯合金屬工組合	三・〇〇〇	二
聯合鐵道從業員組合	二・〇八七	一九
社會主義勞働同盟	一・四五〇	一四
合計	五〇・二八七	六九

この内で最も有力であるのは勿論西部坑夫同盟である。西部坑夫同盟はI・W・W・組織に要する費用の大部分を支出した。然しこの第一回I・W・W・會議に其代表者を送つた團體の中にはセント・ジョンが言つてる樣に「殆んど紙の上で存在してゐるに過ぎない」ものもあつた。社會主義勞働同盟、聯合金屬工組合、アメリカ勞働組合がセント・ジョンの所謂三つの「紙上の組合」である。彼等は實に危機に存してゐた。彼等の前途は滅亡がある許りであつた。さうして彼等の滅亡から免れ樣とする念を以つてI・W・W・會議に

驅せ參じたのである。

この會議に出席した代表者には知識的指導者の多かつたことはまたこの特色である。彼等の抱懷する思想は多岐であつた。けれどもそれは社會主義的であると言へるのである。彼等の多くのものは「社會主義」と云ふ言葉を保守主義で反動主義者であると考へてゐるものが多かつた。故に彼等を社會主義者と呼ぶには革命的社會主義者と呼ぶのが適當である。けれどもあるものには「革命的」に換へるのに「無政府主義的」と言ふのを以つて一層適當である。然し兎に角彼等は賃銀制度の廢止と資本主義の撤廢と云ふ點において一致してゐた。さうして、彼等の間には勞資間の利害の一致を信ずる樣なゴンパァスの意見は絕對に之を容れる餘地がなかつたのである。

然し乍らこの共同の目的――賃銀制度の廢止と資本主義の撤廢――に到達する手段に至つては、各々其抱懷する社會思想の如何によつて其說を異にしてゐる。セント・ジョンは其說を次の通りに分類してゐるのである。

一、政治的社會主義者、これには二通ある。マルクス正統派の非妥協派と修正派がこれである。

二、無政府主義者。

三、産業的勞働組合主義者。

四、勞働運動屋（Labor union fakir）

この分類は少しく明瞭を缺いてゐる。例へば産業的勞働組合主義者と云ふのは其出席者全部にも適用される言葉であつて、産業的勞働組合主義者の多くのものが社會主義者であり、その中のあるものは無政府主義者であるからである。この中第一回大會において最も有力な分子は政治的社會主義者であつた。勿論この政治的社會主義者の內には妥協的の社會黨と非妥協的の社會主義勞働黨があつた。後年I・W・W・の分裂の禍根は實にこゝにあつたのである。「勞働運動屋」はこの種の新運動には何時も附きものである。彼等は一定の思想を持つてゐるものではなく、たゞ利益にあり附くのが唯一の目的である。

これ等の相異つた思想は會議において勢力のあつた少數者によつて色彩を濃厚とし、またその生命が與へられたのであつた。多くの勞働團體の中でI・W・W・位に其指導者に重きを置く團體はない。けれどもまたI・W・W・は常に其宣傳用の文書においてあらゆる勞働運動者の指導者は誤つた指導者であると云ふ非難を續けてゐるのである。それにも拘らずI・W・W・は其創生時代から常に其指導者によつて正當に指導せられ、また誤まれたのである。

I・W・W・第一回の會議の主動者も數人に過ぎない。デ

レオン、ヘイウッド、ハガァティ、デッブス、シモンス、スミス、デ・シー・ユーツ、シャーマンがこれである。デッブス、ヘイウッド、シモンスは當時もまた現在も社會黨の黨員である。シモンスとデレオンとは反對側に立つてゐる社會主義政黨の指導者である。シモンスは社會黨にあつて「未來の國民」の主筆であり、デレオンは「民衆日日」の主筆で社會主義勞働黨の樞要な人物である。ハガァティはカソリック敎の僧侶であつたが彼はジームス・トムソンと共にI・W・W・宣言書前文を起した人である。

オイゲン・デッブスは最も有名である。彼はその雄辯と熱心を以つてこの運動に參加した。さうして彼はこの新運動の前途を樂觀して次の樣に言つてゐる。

「私は西部坑夫同盟の樣な團體が社會主義勞働同盟と調和ある關係に立つことが出來ることを信ずる。……さうして私はこれ等の要素がこゝに結合し勞働者の解放の爲めの鬪爭に必要な勞働階級の一大經濟的なるまた〇〇的の團體を組織する事業を成し遂げ得ることを信ずるものである。」と。

西部からはウヰリアム・ヘイウッドが參加した。彼はコロラドにおける西部坑夫聯盟の指導者としての永い經驗の持主であつた。彼は經驗ある組合の組織者であり、さうして西部坑夫聯盟における如き鬪爭的精神に充滿した人であつた。彼は絕對に妥協を排した。第一回會議に彼が西部坑夫同盟について語つた所を聞かう。「我々はどの鑛山の取締役とも、また支配人、技師とも了解を求めたことはなかつた。けれども我々は最低賃銀を獲得し、八時間勞働制を確立した。その時にあたつて我々は何等の立法部における勢力をも有しなかつたのである。」彼は今や、鑛山業のみでなく、すべての產業に對して、彼の指導するが如き組合を樹立せんとしてシカゴに來たつたのである。

ダニエル・デレオンは最も顯著な人物であつた。彼はコロンビヤ大學法學部の卒業生で千八百九十五年における社會主義勞働同盟の創立において華々しい活動をした人である。さうして其創立時代からそれがI・W・W・に加入するまで其指導者の一人であつた。彼は第一回の會議においては社會主義勞働同盟の代表として出席し、各團體間における調和の可能であるのをヘイウッドと同じく信じてゐたのである。然し彼は修正派社會主義者によつて提案された既存勞働組合の內部よりの切り崩しに明かに反對の態度を採つた。さうして、その外部に必要な經濟的團體を組織し、その團體は最後には勞働黨の砲火の援助の下に活動すべきであると主張した。之に反して、社會黨は內部よりの切り崩し政策を信じ、經濟的團體が必ずしも政治關係を有する必要のないことを主張した。

斯くの如く大勞働組合を組織すべき人々は異れる種類のものであつた。けれども彼等は共同の敵に對して皆同一の歩調を採ることが出來たのである。資本主義と、さうしてこの資本主義を援助するものと彼等の考へた技工組合、この二つのものに對する敵意は彼等をして共同の步調を採ることを可能ならしめたのである。

斯くの如き背景の下に六月二十七日にシカゴに開催されたI・W・W・創立大會は十三日間の會議を繼續して七月八日に閉會をした。最初の五日間は全權委任狀の整理、宣言書の説明及び米國勞働聯盟の攻擊に費し、六日目に創立事項の中心事項である宣言書及び規約制度の問題が委員の手から議事日程に上つた。五日間その討議と修正とに費したのである。さうしてI・W・W・の宣言書が議決されたのが七月三日のことである。だからI・W・W・の成立は七月三日と認めらるるに至つたのである。その宣言書を譯書すれば次の通りである。

「○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。○○○○○○○○○○○○、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○、○○○○○○○○○○○○○○○○○。

勞働者が政治上においても、產業上において、何等の政黨に加入することなく、…………

富の急激な集積と產業の管理とが益々少數者の掌中に置かるるの事實は勞働組合をして益々增大する資本家の勢力と頡頏することを不可能ならしめた。何となれば勞働組合(トレードユニオン)は同一種類の產業における一部の勞働者と他部の勞働者とを相鬪はさしめる樣な狀態を釀成し、之によつて相互に賃銀戰において敗北を促進さすのである。また勞働組合は資本家階級を助けて、勞働者をして、彼等が其雇主と共同利害を有するが如く誤信せしめるのである。………………」

斯くの如き根本思想によつて成立されたI・W・W・の組織教義は如何。以下そのことについて語たらう。

(1) この會議に代表者を送つた團體及び代表者を私はブリッセンデンに從つて記して置いたが「新組合主義」の著者トリッドンは團體數三十四 代表者百八十六人と計算してゐる。(Andre Tridon: New Unionism pp 96—97.)

(2) 資格審査委員の承認を得た勞働團體はブリッセンデンは四十三としておるが、ある人は四十六としておられる。この點は最初代表者を送つた團體が四十六であつたので、審査の結果三つ丈け不合格になつたのではないかと思はれる。これは勿論私の臆說に過ぎない。(Brissenden:—Op. cit. p. 71.)(甲野哲二)

秋田講演旅行

□

◆私は秋田へ短い旅行をした。四月二十二日の夜、上野から無名會の人達と一所に汽車に乘つた。秋田の數ヶ所で講演するためにであつた。

◆堀江歸一博士も一所にゆかれた。私はこの日初めて博士に會つた。如何にも若々しい、氣持のいゝ、率直な學者だ。年の頃は四十四、五歳であらう。酒も少しは飮まれるようだ。話は一切開放的だ。どこの部分にもいやだといふ感じのするところは見つからない人。

□

◆土崎といふ町で最初に講演があつた。この町では憲政會の尾崎咢堂が大分氣焔を擧げられたのださうだ。その後から政友會の小川平吉が演壇に立つて大失敗をやつたといふ。その同じ演壇で私どもの講演會もあつた。堀江博士が先きに壇に立つた。別に雄辯といふ方ではないが眞摯な態度で諄諄と說くので聽衆は誠意をもつて謹聽してゐた。

◆何んでも土地の人の話を聽くと、もう田舍でも政治屋連中の出鱈目演說は眞面目に聽くものが少くなつて眞摯な學者の講演が却つてうけるようになつたと。

◆二十三日の日は秋田市でも演壇に立つた。私は普通選擧の意義について話した。そして政友會をも憲政會をもともに攻擊して置いた。それが翌々日の新聞(憲政會系)によると私が政友會の候補者の田中隆三とかいふ人を攻擊したように出たので聊か恐縮したが、何んでも秋田縣は黨派爭ひの盛んなところらしく、新聞や政治は無論、實業も——料理屋、旅館、藝者まで、政友會と憲政會の二つに分れてゐるとか。

◆國民黨も少しは殘つてゐる。犬養が昔こゝの新聞に主筆をしてゐた關係から國民黨は中々盛んであつたのだが、何處へ行つても國民黨の運命は凋落にあると見えて、秋田市では無名會の江畑顯とも一人辯護士が殘つてゐるだけだと。

□

◆秋田で私は堀江博士并に無名會の高根淸、布川直治の兩君と別れて私は、江畑顯利部一郎の兩君と三人で能代へと向つた。

八郎潟を横に見つゝ、雨あがりの能代についてから、私はたつた一人きりの講演をやつて夜は土地の勞働組合の書記長をしてゐる淺野吉十郎君等と一所に御飯を食べた。酒屋の主人で、勞働問題の熱心家西村莊右衞門君も席に見えて非常に面白い一夕であつた。

◆次の日は五條の目といふ田舍町で一席辯じた。そして横手まで引上げた。汽車中で村山喜一郎、平澤長吉の諸君にも會ひ、また政友派の辯護士だといふ某君が汽車で今度の解散位ひ立憲的な解散はないといつて氣焔を吐いてゐるのも聽いた。この辯護士は選擧中は普通選擧尙早だが選擧後には盛んに普選宣傳をやるのだと。

□

◆横手の夜は疲れてもいたし、寒くもあつた。こゝで村田光烈君に會つた。この地方で先覺者であり、改革家であり、人物も立派な人だといふ評判が高かつた。湯澤では菊江政治郎君に會つた。矢張り政治の熱心家だ。私は二十六日夜に湯澤を出發した。

◆福島へ汽車がついたのは朝の七時、それから温泉で疲れを安めてから歸つた。途中宇都宮の古本屋で矢野文雄の『新社會』を買つた。(室伏生)

レバアハルム卿『六時間勞働』

現今反資本主義竝に反勞働組合に對する偏見と不信任は一般に且つ深刻に存在してる、「共に禍ひあれかし」と消費者は云つてる。其の消費者は不安を感じ何れでも充分に且つ眞實に役立つて居ないと莫然たる疑を抱いてる、然し此の擴充された不安は生產、利潤、造銀の經濟上の根本すら理解して居ないことに依るのである、社會主義者や勞働組合主義者の何れにせよ、夫等の人々が論ぜむとせし、產業條件、賃銀、勞働時間の著書に依り吾人は注意して詮索するが、然し經濟的生產費竝に生產額が實に重要なる要素であることや或は又生產物の九割以上恐らくは九割五分以上は資本家に依つてゞはなく勞働者自身に依り消費せられて居ると云ふ事實に關したる事を認めむとするも無益なのである。夫れ故生產額の制限や或は又カ、カンニー政策は、賃銀率の如何を問はず、衣食住の名に依り計量せらるゝ時は一層賃銀の交換價値を減じて、賃銀を有名無實のものたらしむるに過ぎない。

現在に於ける多くの著者竝に識者の精神の中には、所謂資本の利益の愛國心及び高率なる勞銀引上の要求に對する愛國心に付いて甚だ淺薄な危險極はまる謬見がある。公衆竝に勞働者に戰時中に資本家が利益を棄てた事は全く非愛國的であると――實際國家的福祉には全く相反してる――認めさす事は容易ではないのである。又公衆竝に資本家に勞働者が戰時中に高率の賃銀の要求を抛棄する事は同じく非愛國的であると認めさしむる事は困難である。經濟上の眞理に依れば、戰時は平時より資本家に合理的な、より多くの利潤を得さしめ又勞働者にも戰時は平時よりも適當な、より高率な賃銀を得さしむに非らざれば國家の產業を戰時中に相均整さす事が出來ないであらう、即ち利潤は資本家をして生產額を高め且つ戰後の事業收縮竝に損失に引當てさせしめ又賃銀の增加は勞働者をして生活費の暴騰に應じ且つより高き生活の增加したる費用に應ぜさせしむるが故である。

要するに戰時中は資本家には適當にして公平且つ充分な利潤を得せしめ、勞働者には適當、寛大且つ充分な賃銀を得せしむるは、國家の鞏固を保持し國家並に商業の衰退を防ぐ點に於て必要缺くべからざるものである。吾人が産業を如何に管理して行くか、如何に資本勞働を取扱ふべきか、簡單に云へば戰時中國家の商業を如何に進めしむるかゞ戰後の問題となるが故に戰時諸問題の一つである、現會計年度の一九一八—一九年の終りに於ける吾國債は大藏大臣の告ぐる處に依れば凡そ八十億磅に達するならむと、現會計年度に於て租税力の潰滅せし額は凡そ九億磅に及ぶと見積られて居る、數十萬の青春の人々は戰に或は病に死し或は永久に不具となつて居るであらう、實際に吾等は國家的饑餓にあり且つあらむ限りの心身を勞し食物の餓饉を防ぎ夫れが爲めには生命財産を破壞せむが爲めの軍需品、商船戰艦、潛水艇、飛行船、其他あらゆる種類の武器を備えてる、社會政策や社會改造や教育の普及のプログラムは長期に且つ期限の過ぎたものもある。

而して先づ始めに吾々は浪費を避けしむべき最も重大なる事を舉げなければならぬ、卽ち子供の生命の浪費、成人の生命の浪費、精力の浪費、時の浪費、機會の浪費等之等浪費の中に於て最も大なるは勞働者を無能ならしめ健康を破壞し、時間を空費せしめ早老夭折に終らしむる過勞の恐るべき浪費を舉げなければならぬ。

而して吾々は過去三ヶ年間の中に疲勞、過剩の勞働、特に長時間勞働等の問題に關し多く學ぶ處があつた。其の結果吾々は過度に疲勞を伴ふ勞働時間の延長は、或る點を超ゆれば疲勞、緊張、過度を伴はないより短時間の生産より量、質、並に價値の點に於て遙かに尠なく生産するものであると云ふ事を實證し得た。とは云へ幸にして此の繼續的勞働時間の長きに失する論理的結論は、非常に制限せられたる程度を除き機械並に機械利用の場合には適用する事が出來ないのである、實際機械ですら掃除、點檢、修繕、注油に對する休息の時間を得ねばならぬのである。然し乍ら之等の停止は大した事ではないし又容易に準備し得る僅かの間隙を要するに過ぎぬのである、夫れ故、內國及び輸出貿易の爲めに、流るゝ儘にしてある商品を、補給する爲めには大に增加した生産額を要すべく又最近に至る迄多くの産業に於て一週四十八時間しか働かされて居らぬ所のより多く利用し得る機械を有して居る、されば諸困難中の此の一つの解決は此等機械をより以上に運轉し男女の勞働時間を短縮する事に依り最も巧妙に且つ容易に成就し得るのである。吾等は男女の爲め六時間勞働にしなければならない

而して六時間の交替勞働に依り機械をば一日に十二時間、十八時間、或は二十四時間動かさなければならぬ。

吾が英國は人類中最も優秀な勞働者の典型を有し全世界に於て及ぶものはない。若し吾等が此の稀な人性を利用し余の暗示せし工夫を、より以上に用ふるならば、産業組織に於ける勞働時間の變化は當然なくてはならぬ。吾等は一般工場生活の不生産的效果を記憶せねばならぬ。十八歳より七十歳迄では實に長き期間である、而して諸君が日々八時間の間、同じ自働機械に勞働し、斷ゑず致命的な勞苦を伴ふ仕事に從事する狀態を考へたならば、如何に此れが男女の精神に苦痛を與へ腐蝕せしめ勝ちなる事を吾々の中、變化の有る仕事を有する人々は自覺するであらう。

其處には人生を榮えあらしむる處の變化が皆無であるロンドンを出で、平坦なスロウとウインヅアー道路を通つて行く馬車の馬は、同距離の小山を登り頂上に達し頸馬具を緩めて谷間を早足で下りるハイゲイド通ひの馬よりは遥か先に疲れきつてしまひ賣物にせねばならぬのである。されば又工場に於て疲勞し終る迄で不變に單調に働き、翌日も全く同じ物憫い日を過す爲めに單に休息と睡眠とのみに依る人々は當然早老し是等の狀態の下に虛弱になるのはまぬかれ難い。

工場の平安な總ての仕事に於て時間の適當な割宛は最も良好な結果を齎す一つであつて又最も緊急を要する問題である。此の例としてロンドンと人口過剰に關する點に付き考へて見よう、吾等はロンドンの貧民窟とロンドンの人口過多を知つてる、然かし吾等は首都が七百二十五萬の人口で四十四萬エーカーの廣大な面積を覆ふて居る事を知つてるだらうか。夫れ故若しも首府の總面積に對し一エーカー毎に理想的な狀態の下に十軒の家を建てたならば、現在の如く人口稠密に失せる貧民窟の地方を有し、且つ七百二十五萬人の人々を惡く住居せしむる事なしに、吾々は其の面積の中に二千二百五十萬卽ち三倍の人々を住まはしむるに足る理想的な氣持の好い住所を得る事が出來る。夫れは單に人家稠密の場合に過ぎない、次に余が勞働時間に付きても相似て居るとするも不公平ではあるまいと信ずる。工場に於て機械及び一般の仕事に從事する勞働が單調である場合は吾々の出來得るあらゆる仕事を一日六時間勞働に至らしむる事が出來る、六時間勞働に短縮する事に依り吾等の要求する總ゆるもののみならず疲勞する事なしに夫れを生産する事が出來る。（つゞく）（森　恪）

堺利彥論

はしがき

堺利彥氏は私が六年來師事してゐる先輩であつて今も猶私の生活は直接間接に其人格的影響を蒙てゐる。その六年の短日月の間に私が審に氏を觀察する事に依て歸納したる概念が必ずしも正しきものであるといふ事を斷言するの勇氣はない。まして私は自分が堺利彥論の筆者として絕對無二の適任者であるなどとは決して信じ無い。然し此頃ちよいちよい種々な雜誌に顯はれ、もしくは私の知れる限りに於て人の口端に上りつゝある彼についての批評なるものを聽くと私自身の批判がより正しいものであり私の觀察がより根柢深いものである事を沁々感じさせられる。私は better than の意味に於て、何れかの日更に正確なる堺論を書くの機のある事を信じて萬年筆を握る。敢て斷る迄も無く批評家としての私の態度は常に絕對、對、絕對である。

(1)

先づ社會主義者としての彼の立場から始める。――あらゆる意味に於て彼の批評は此處から始められなければならぬ。彼が日本の社會運動の渦卷の中の如何なる流に屬してゐるかといふ事は吾等の全く知る能はざる事であるが（尠くとも彼の實行運動が顯はれざる以上）彼が其思想根據を純正マルキシズムに置いてゐる事丈けは事實である。忌憚無く言へば日本の現在に於て純正マルキシストとしての立場を固持してゐるものは唯一人の堺利彥あるのみである。マルクス學者高畠素之氏は最近迄彼と同じき立場に立て進んで來た人であるが大正八年三月國家社會主義者 national socialist たる事を明にするに到て著しい相違を示して來た。然し此相違も一步退いて考ふる時決して本質的の相違に非ずして形式の相違にすぎない事が解る。高畠素之君に從へば無政府主義者はマルクス派社會主義を國家社會主義者と稱して輕蔑し、マルクス派社會主義者は社會改良主義を國家社會主義と呼んで冷笑する。マルクス主義も改良主義も共に國家にたよる點に於て之を無政府主義者から見れば同じ穴の貉である。然し乍ら同じ穴に住む貉とは言へ、彼等は決して永久に同じ穴に住む能はざる運命を持てゐる事を知らればならぬ。卽甲の貉にとつては社會主義は穴の爲であり、乙の貉にとつては穴が社會主義の爲である。而して高畠素之氏の national socialism（註―素之氏の意見は最近に到つて更に進化しつゝあるが此處に引用する者は總て彼が國家社會主義を標榜した當初の宣言に據る）の立場は經濟上にはマルクス主義を應用し政治上には社會改良主義の精神を以て行かんとする（國家社會主義第一卷第一號）のであるから當時に於る氏は國家中心であるか社會主義中心であるか不明である。此處からさきの議論は『國家論』の範圍であるから省略するが尠くとも其生產論と分配論に於て彼が最も鮮かなマルキシストである事丈けは寸分の疑を容れる事ができないほど確實である。

然るに堺利彥氏は彼自身の分類に從へば正系マルクス派であり、從て非提携派であり、非入閣派であつた。（近代思想廢刊號四頁參照）――此際吾々が考へざるべからざることは、高畠氏の思想的妥協が論理の必然的進化に據るものにあらずして官憲の壓

迫を前提としたる『猫かぶり』若しくは『保護色』――更に言換ふれば彼が日本人として日本といふ特殊な國に行はんとするマルキシズムの實際運動――と見らるべき理由を存分に有してゐるといふことである。

かくの如き見地から堺氏の立場を觀察するとき私は兩者の間に非常に微細な共通點のあることを發見するものである。嘗て彼は近代思想に其意見を發表したことがある曰く『僕が若し保護色を取るとすれば一步右隣に退却して國家社會主義に行くよりほかは無い。然し退却は厭である。そこで止むを得ず沈默してゐる次第である。』と。然し乍ら讓步をかくのごとく忌む氏が自ら普通選擧運動を主唱し、立候補を宣言する氣持の底には國家社會主義を是認せんとする要求が潜んでゐるからではあるまいか。此意味に於て高畠君の國家社會主義は一個の完全な生殖行爲たる事が立證されるけれども堺氏の普通選擧運動は尠くとも氏自身に於て一個の思想的イタズラであると言ふ事が出來る。然し實際的效果の上から言へば思想的イタズラの飛沫で姙娠することの方が多かつたと矛盾した實例を私達は多く見せつけられてゐる。然も最近に至つて高畠氏の立場が次第にボルシエヴイズムに近きつゝある（彼は最初から勞働階級のデイクテイトルシツプを主張するレニン一派を國家社會主義と呼んでゐた）に對し堺氏の立場か漸次勞働組合主義を含みつゝある事は面白き對照と言はねばならぬ。而してそれはある觀方に於ては兩者が次第に近きつゝある事を暗示するものである。（然し私は此際思想的に斯のごとく相通ずるものを有する彼等が何が故に提携しないかなどいふ愚問を發するものではない）更にこゝには高畠素之と堺利彥の比較論をするのでは無いからアウト・ライン以外には渉らないつもりである。唯堺といふ輪廓をうきあがらせるためにそれと比較すべき他の人間を持つて來たといふに過ぎない。――兩者の關係は大體以上の如くであるがもつと突込んで考察する時、高畠君は勘當されたマルクスの庶子であり、堺氏はその養子であるといふことが言へる。卽ち――高畠君の據て立つ所はマルクスの經濟學說であるが、堺氏の主たる思想的根據になつてゐるものはその唯物史觀である。而して高畠君が階級鬪爭說に主要點を置いてゐないのに對し堺氏は之を立論の基礎としてゐる。

（2）

――以上に於て堺利彥の思想的立脚地を甚だ不充分ではあるが（そして此處では其思想的立場を評論するのではないから）、大ざつぱに說明したつもりである。以上を序論として愈々本論に進む事にする。吾吾が堺氏といふ渾然たる一つの人格を考ふる時其處には明に三つの形があることを知らればならぬ。その一は社會運動家――（特別な意味の Agitator としての）堺氏、その二は文人としての堺氏 man of letters その三は敎師としての堺氏 teacher である。此ほかに學者としての堺氏があるし、賣文商人としての堺氏があるけれども大體に於て上記の三方面から眺むる事を忘れては堺利彥といふ人間を本質的に知ることは出來ない。

（A）社會運動家としての堺氏

社會運動家が必らずしも Agitator で無ければならぬといふことは無い。然し乍ら Agitator であることは優秀なる社會運動家としての重要なる要素である。然らば Agitator たるべき條件は何であるか。一に good speaker たる事である。二に good writer たる事である。三に flying spirit 所有者たる

事である。然らば堺氏は此條件に照應して煽動家たる素質を果して充分に備へてゐるか否か。(1) 彼は Teachr としては good speakerであるが Agitater における good speaker では無い。彼は潮のごとく鳴りどよめく群集を統御し支配する『善きしやべり手』では無い。彼は個人的プロパガンダにおいては實に絶妙の呼吸を心得てゐるが群集的プロパガンダにおいては殆んど煽動力を備へてゐないといつて宜い。靜かな口調を以て說かれるその演說を聞いてゐると人生の妙味を體得したるエキスタシーが津々として迫て來るが、身體中の血潮が沸えくり返る樣な强烈な刺戟は何處からも受くることが出來ない。(2) の條件は繰返して說く迄も無い。其輕妙にして要を得たる文章力は天下の何人もが認むるところである。然しそのうまさは必ずしも煽動的のうまさではない。(3) の條件は尠くとも現在の堺氏には絶無である。唯吾々は日本の社會主義運動史を繰り擴げるとき、その數年前のあらゆる頁に彼の飛躍的精神を發見することが出來る。然し乍ら苦節十數年の過程に於て官憲の壓迫と同志の爭鬪と生活の苦悶とを前後に控えて妥協もせず逃避もせず靜に其立場を守て來た彼の現在が漸く圓滿常識の境域に入るとともに數年前彼の生活を彩てゐた飛躍的精神が影を沒してしまつたことは止むを得ないことゝ言はれればならない

以上の三條件にあて嵌めて考察するとき堺氏は終に Agitator としては落第であるといふ結論に到着せざるを得ない。然らば彼をして社會運動者たらしめてゐるところの他の要素はそもそも何であるか。それは忌憚なく言へば一は不斷に彼自らの中に充張しつゝある建設力。二は彼が十數年の長き社會主義者としての生活中に自然に造り上げたアトモスフィア(ある場合には彼の人格がそのアトモスフィアの中に混融合化してゐるがごとくも見ゆるが)この二つである。その具體的なサンプルは後章に於てくわしく說明する。これを要約するに煽動家としての堺氏は本質的意味に於て明瞭に重大な要素を缺いてゐる。

此處において最後に殘されたる問題は『煽動家として落第である堺氏が社會運動者として如何なる地位を占むるか』といふことである。

(3)

煽動と彼の周圍の Atmosphere との關係——われわれはかういふことを考へなければならない。彼は演壇の上の good speaker では無いが、しかしもつと廣いもつと根柢的な意味に於て常に其生活の中に煽動的事實を完成してゐるのではないか。——もつと端的に言へば官憲の壓迫を前に控えて目ぼしい實際運動をすることができず、從て何事かあらしむごとく見せしめてることそれ自體が現在においては立派な煽動的事實となつて顯はれてゐるのではないか。これがその一つの場合、それから第二の場合はもつと本質的な意味において俗語で言へば一種の人格的潛力とも言ふべきものが彼の行爲の力强き背景となつて顯はれてゐることである。以上のごとき場合において本質以上のものであると言て差支ないほど力强き背景であるところのシューパー・ヒューマン・ピゴアが煽動的事實を構成しつゝあることは言ふまでもあるまい。如上の意味をもつて最後に造り上げられた命題は氏が『主動的 active な社會運動者にあらずして、受動的 passive な社會運動者である といふことである。(未完)(尾崎士郎)

ヂ・デ・エッチ・コールとの會見

（一）

戰爭前までは、勞働者によつての產業統制の要求は、ただ主としてギルド社會主義者によつて叫ばれてゐたに過ぎなかつた。しかし世界大戰はこの形勢に革命的の變化をもたらした。英國における勞働運動は今やこの產業統制の理想のうちに狂熱を感じつゝある。就中スマイリーとホッヂとによつて率ゐられる炭坑夫組合の國有法案はギルド・マンの思想の具現であるといふことができるであらう。

如何にしてこの變化はきたか？

若しこの變化に對する思想的指導者としての一個人を擧げるとすれば、ヂ・デ・エッチ・コールが撰まれなくてはならないであらう。

彼れはギルド思想をプロパガンヂストから救ひ、合理とそして建設的能力とをもつてそれを熱烈に主張した。それは勞働運動の若い諸分子のうちに急速に支持者をうるに至つた。

（二）

それのみではない、コールは決して單なる外部からの忠告者でもなく、批評家でもなかつた。彼れは合同機械工組合の仕事を引受けるためにオックスフォード大學の椅子を捨てゝ立つた。そして後には勞働黨の諮問委員會のセクレタリーとなつた。また數年間勞働調査局のセクレタリーであつた。

過去數年間に彼れは他の何人も及ぶことのできない仕事——幾多の書物を勞作して知識あり思慮ある若き男女を社會主義へと動かした。

『レーバー・リーダー』の一記者はある一日の午後を勞働調査局においてコールとともに費した。そして詳らかに社會主義理論の發展について論じ合つた。

勞働調査局はエクレストン・スクエアなる勞働黨の本部と隣り合つてゐる。勞働組合議會委員會は三十二番地に、勞働黨は三十三番地に、勞働黨出版局と勞働調査局とは三

十四番地に位ひしてゐるのである。そして三十三番地が嘗つて勞働黨の正面の敵としてのウヰンストン・チヤーチルの邸宅であつたのも興味深いことである。

コールはまだ極く年若い。脊の高い、蒲柳の、そして黑い毛の、鋭い、智的な顏の、かつきりとした風貌である。

（三）

『五年前には、勞働組合は產業統制については殆んど何ごとも考へてはゐなかつたが、今日では勞働組合運動のうちにおける凡ての活ける力はみなある形式においての勞働者の統制を欲求することに一致してゐる。明確にこの政策を採用するに至つてゐる部分は少ないであらう。しかし思想それ自身はあらゆる部分を捕捉した。

『この方向への進行は概して二つの原因からである。第一は戰時の經驗がこれである。凡ての產業特に機械製造業においては、工場や、仕事場や、炭坑における諸問題の解決さるべきものが甚だ多かつた。

『その結果は、勞働者が働きつゝある場所そのものが彼等の眼に益々重要となつた。そして彼等は、彼等とその仲間とが社會の一單位をなしてゐることを感得した。更に、國家が、彼等の勞働者としての仕事に、市民としての每日の生活に對してと同じく益々多く干渉するに至つたとは、彼等をして甚だしく國家を嫌惡するの念を起すに至らしめた。かくして勞働者によつての產業統制の思想を進める二つの流れがある。一つは經驗の流れである。他の一つは各派社會主義――マルクス派產業組合主義、ブレッヴス・リーグ、ギルド社會主義者、獨立勞働黨の有志、勞働組合運動の青年役員等並に一切の左翼黨の宣傳がこれである。』

（四）

コールは產業統制の思想の體現者として炭坑夫の運動とそして『マンチエスタア建築ギルド』との二つが最も注意すべきものであるとなしてゐる。

『如何にして炭坑夫の要求が起つてきたかを知ることは興味あることである。戰爭の終局において統制の理論を適用することは必要となつた。特に炭礦業においてさうであつた。炭坑夫は既に國有政策に委せられてゐた。しかしこの國有の要求において勞働者によつての統制の理論は實際に働いてゐなかつた。そして產業統制に鋭敏なマルクス派產業組合主義者は國有に反對した。戰爭の後に起つた新らしい狀態は國有と勞働者の統制とをともに必要とした。坑夫聯合は計劃を形つた。その計劃は實際にギルド社會主義

の要求であつた。卽ちそは公有と、そして炭鑛業における肉體及び精神勞働者によつての直接統制がこれである。……大産業はやがて炭坑夫の後を追ふであらう。』

（五）

この新精神に對して社會主義者は如何なる態度をとつたか、コールは次のごとくに語りつゞける。

『この新精神の發達については、社會主義者は『社會主義勞働黨』のほかは直接な働きをなしてはゐない。勿論勞働黨の平黨員の可成りの部分がこの發展を援けたにしても一團としての獨立勞働黨は新思想の發展のために殆んど何ごともなしてはゐない。私はそれが去年の年會において勞働者統制の政策についての決議を可決したことを忘れるものではないが、それは獨立勞働黨の公けの働きに殆んど影響してはゐないし、またその政策を細目に亘つて働かせようとする企てもなかつた。』

『若し獨立勞働黨がこのことをなさなかつたなら彼れは敗れるであらう。私は彼れが他の社會黨に敗れるといふのではない。重力の全中心が社會主義運動から產業運動へと轉過するであらうといふことの意味である』

（六）

コールの話は滾々として盡きない。彼れは獨立勞働黨の機關紙としての『レエバア・リーダア』の記者（S.F.B）に對して遠慮なくその獨立勞働黨の態度を批評した。そして今日のまゝであつては獨立勞働黨は存在の意義を有するや否やとさへ極論した。また彼れは國家と消費者との關係を論じ、更に將來の社會組織についても彼れ一流の明確さをもつて語りつゞけた。

彼れは議會主義者ではない。そしてソヴヰエチズムの主張者でもないことを明らかにした。彼れは新組織の生れることを信んじてゐるのであつた。(Labour Leader による)

——ギルド・マン——

ギルド・マンの失業問題觀

この一文はエス・ヂー・ホブソンの最近の著書「ナショナル・ギルツと國家」において「戰爭の勞働に及ぼしたる影響」と云ふ章の中で論じた失業問題觀である。ホブソンは人も知る如く、コール、メロアが「ギルド・マン」に立籠つてゐるのに相對して、エ・アール・オレーヂと共に「ニユー・エイヂ」に據つてゐるギルド社會主義者中の著名な人である。

一

通常の狀態においては失業とは一部分は季節的の、一部分は一時的の勞働の餘剩を言ふのである。英國當面の失業は全然一時的であつて、その數年の間軍隊の勤務に從事し今新しく他の職業を求めんとする人々の問題である。だから其解決は勞働を定着せんとする一大事業となるのである。

そこで我々に取つては失業問題の解決に摘用すべき原則ありやの問題が自然に起つて來るのである。要約すれば二つの原則がある。すべての人は失業は罪惡でないから失業者も生活維持の權利ありとする點において一致してゐる。そこで第一の論者は失業者維持の費用を社會の負擔たらしめやうとし、第二の論者は之をその産業の負擔たらしめやうとする。第一の論者は賃銀制度の正當なことを認め、さうしてもし雇主が其餘剩の勞働による商品に對する市場を發見することが出來なければ、彼は餘剩の勞働者の生活を維持する義務を持たないと主張する。かく論ずることによつて彼等は失業者の維持が當然社會の負擔でなければならないと言ふ論理を案出するのである。此論者に取ては失業は神の御意であり、社會的災禍であり、社會的責任である。第二の論者は賃銀制度の正當を否定し、失業は資本家的經濟組織における缺くべからざる現象である、故に其解決の責任は資本家にありと論ずるのである。資本家は餘剩の原料を買ふし、さうして勞働は資本家に取つて原料と同じ樣に商品であるから、資本家は其餘剩の勞働を維持して行かなければならないからである。第一の論者は之に對して、雇主か其餘剩の勞働を維持しなければならないと云ふ根本の主張を是認するとしても、それは非實際的である、何となれば失業者の大部分は一時的勞働から成り立ち、さうして失業者中の一層大部分は無職者から成り立つからである

と答へる。そこで第二の論者は一産業におけるすべての一時的勞働を定着させることが目下の急務であると第一の論者に對して反駁を加へる。さうして無職者については資本家的組織の遺傳的疾患であり、社會の負擔であると論ずる。

私達は失業問題について勞働組合の行ふべき機能を考案することなしに是等の何の原理も摘用し得ないと考へるものである。一世紀以上も失業勞働者の生活を維持して行くことが勞働組合の主要な機能であつたからである。この機能は勞働組合が賃銀の値上に關して雇主と交渉することになつた以前から認められた所のものである。然し乍ら勞働組合は其初期にあつては高給また熟練勞働者によつて充たされてゐたものであるから、失業の社會的結果は、その事業の恐慌の場合には一部の階級は其救助を組合に求め、他の一部は其意に反して救貧法の保護を受けなければならなかつたのである。眞正の失業者は自動的に公民權を剝奪され、救貧法の通常の作用によつて被救恤者となつたのがあまり古いことでないのは今日の中老の人が記憶してゐる所てある。然し、今や勞働組合は法律的に失業者の當然の保護者として認められたのである。それは勞働組合が其目的の爲に組織された許りでなく、また失業か種々な關係において賃銀率と勞働條件に關係を持つてゐるからである。故に勞働組合から失業者維持の機能を取り去るのは、其目的が産業的困難の單純化にあるのに、反つて之を複維にしてしまうからである。社會か産業的ではなく行政的機能を有する機關によつて失業者の生活を維持するのは勞働組合の範圍と機能とに相敵對するものであり、勞働組合から最も其會員を惹き附けるものの一を奪ひ、さうして一定の反社會的勢力を作用さすことになるのである。けれども不思議のことにはこんな行政的の解決を勞働組合主義者が歡迎するのである。

二

勞働の商品的評價を斥け、賃銀制度の解剖の結果賃銀の廢止はたゞ勞働者による勞働の獨占によつてのみ達することが出來ると信ずる私達はまた失業は經濟的解決のみをなし得る經濟的經過であることを明かに信ずるものである。この經濟的解決は産業的經過の中に求められ、さうして、其一は勞働の餘剩の賃銀の決定者としての、また或時は市場維持者としての作用である。故に論理上次の樣に云ふことが出來る。(イ)産業はそれ自らの勞働の餘剩を維持しなければならない。(ロ)其維持は勞働組合を通じてでなければ

ばならない。また次の様な推論も重要である。もしも失業者が其生活の維持を一の産業に要求するならば、彼れは一定の期間及び一定の規定による勤務によつて其産業に所屬してゐなければならないことである。私は他に勞働を定着させる方法を知らないからである。國家が如何なる訓練を失業者または無職者に與へるにしても、彼等がある一定の組合に所屬しない間は彼等は産業上の放浪者である。

軍隊の復員は明かに行政的責任である。何となれば兵士は市民的の勤務者であり、産業的でなく國民的の業務に從事してゐたからである。然しこの場合にもこゝに述べた原則は明かに摘用することが出來るのである。國家が兵士の雇主である以上は兵士が一定の産業に復歸するまで彼の生活を維持するのは國家の義務である。兵士は彼が産業に屬するまでは軍隊に屬してゐるものであるからである。

私が一九一二年並に一九一七年において失業の費用は社會の負擔でなく、産業の負擔でなければならぬと論じたのは、私が勞働組合が賃銀から失業費を支出すると云ふ歷史的事實によつて動かされた許りでなく、ギルド・マンは其疾病時でも、老年時代でも、失業時でも生活維持に對する權利があるとするギルド思想によつて動かされたのであつた。勿論これ等は將來においてはナショナル・ギルヅの負擔たるべきものである。其負擔は國家でなくて、産業か負擔しなければならないのである。このことは論理の明白な結果であり、事實よりの歸綱である。一九一二年において戰爭の爲に五年の間に二の原則が行はれるとは夢想だにしなかつたことである。一九一七年において綿調節局は私の理論を實行しつゝあつた。纖維業における失業の「ローダ」組織は戰爭の齎らした高貴な産物である。だから私は將來の爲に其大體を語りたいと思ふ。

三

船舶の擊波と戰爭によつて惹起せられた産業の混亂とによる原料綿の不足の爲めに綿工業の雇主並に勞働者の指導者は失業問題を新しい見地から見る樣になつた。綿調節局は工場の一日分の仕事を定め、さうして一週間每に操業紡錘の割合を持許しなければならなかつた。この割合は戰時の需要並に綿の種類によつて異つてゐた。さうしてエヂプト、シー・アイランド、スラートの綿を用ふる紡錘は一週間八十パアセント、五十五時間半までの操業を許された。もしアメリカ産其他の綿の場合には一週間五十パアセント、四十時間の操業丈けしか許されなかつた。この變化は自然的に仕事に影響した。さうして紡績工並に機織工は其事情

の下に不利益を受けることになつた。數年前においては失業者は其補助金を其組合から受取つたのである。斯樣な狀態は勿論新規に起つたもので、紡績工や機織工が其失業を順次に引受ける樣な工夫から生じた狀態である。失業者は操業紡錘並に織機に賦課された徵課金によつて其生活を維持した。さうして、其徵課金額は二百萬磅に達し、失業者の間に分配された。一九一七年九月における紡績工中失業手當の割合は次の通りである。成年男子二十五志、成年女子十五志、終日勞働の幼年十二志、半日勞働の幼年六志であつた。機織工の失業手當の割合も同樣であつた、其規定中の幼年者と云ふのは廣義解釋すべきものである。卽ち年齡の問題は之を決定する唯一の要素ではない、其取得する實際賃銀と仕事並に家族の狀態をも考量しなければならない。一九一八年において其手當は二十五志から三十志に上つた。其他も同樣の割合で增加した。一九一八年六月において交代失業制度は勞働組合の意志に反して撤回された、けれども失業手當は繼續的失業者に支拂はれたのである。

この原則の摘要は勿論價値のあるものであるが、勞働者はこの失業の產業的責任の原則に加ふるに同じく根本的な勞働者による勞働の管理の附加されない以上は滿足しないものである。この問題を論ずるに當つてコールは賢明にも失業手當が組合を通じてでなければならないことを主張した。この點は必要のことである。何となればもしも組合が失業手當支給の仲介者でないならば、それは失業組合組織における重要な要素を雇主の管理に任せることになるからである。このことはまた綿調節局の認めた所で、組合員並に非組合員に對する失業手當も組合事務所を通じて支給すべく、雇主が地方組合の存在を知らざる場合には雇主は最も近い所の共同委員會、雇主協會または勞働組合の秘書と相談しなければならないし、またもし、其仕事を司る地方組合が全然ないときには調節局か特別の取り極めを行ふことを命じたのである。かくの如く、一部分で限局されてはあるがこの產業的實驗において、二つの重要な原則を吾々は認めることが出來るのである。(一)產業はその失業者の生活に對して責任を負ふこと、(二)さうして失業手當の取扱は勞働組合の機能であることがこれである。

然し、この原則を輕々しく摘用すれば危險の存することを忘れてはならない。もしも勞働組合が以前の賃銀率を維持する丈け充分有力でないならば雇主は失業手當に相當する丈けの費用を賃銀の低下によつて得ることになる、また事實ある雇主は旣に之を行つたのである。然し乍ら私は勞働組合か不當に神經過敏になる必要はないと思ふ、何とな

れば繊維勞働組合はたゞ單に失業者が二百磅をその産業から取つたと云ふのみで、四割の賃銀の値上げの爲めに罷業することを躊躇しなかつたからである。これよりも一層大なる危險は賃銀制度を維持しながら尙ほ且つ失業者の生活維持を勞働と資本との充分なる了解の下に慈善化せんとする試みである。ナショナル・ギルヅの一批評家は云ふ。生活保證の原則の組織的摘用は産業組織に對して何等の革命的變革を齎らすものではない。それはたゞ賃銀制度中に存する社會契約の精神を實行するに過ぎないものである。賃銀勞働者が經濟的に保證ある地位を與へらるるまでは、賃銀制度として純粹なものとはならないのである。雇主は企業の危業を負擔する、其報酬として利潤を得る、勞働者は企業の危險を負擔しないと思はれるので利潤を得ることなしに一定の賃銀を支拂はれる。これが賃銀制度の根本原則である。賃銀制度を純粹にする爲に、また雇主が企業の危險と利潤とを得る爲めに、約言すれば資本主義が繁榮する爲めに、勞働は其生活の保證の代償としてこの舊制度を維持すべく要求されるのである。私はこの生活の保證が國家の負擔となるかまたは産業の負擔――多分前者であらう――となるかを知らない、けれども資本主義の指導者が新賃銀契約に向はんとしつゝあるのは明かなことである。資本家はこの賃銀契約を勞働が最も弱點を有するとき、卽ち失業者の最も高い時及び財政的に困難して時において之を承認することを求めるのである。斯樣な壓迫の下に舊時代の勞働の指導者は其掛引の巧なことを誇つたものである。然し乍ら、吾々は既に工場代表(ショップスチュアート)またはそれと同種類の若い人々が出て來て、産業管理に其基礎を置く新しい生活の保證に向いつゝあり、さうして、彼等は企業の危險を負擔する雇主によつて保證される生活保證について疑念を挿しはさむで來たことを知つてゐるのである。

◆ウエッヴ『勞働組合主義の歷史』の新版

ウエッヴ夫妻の History of Trade Unionism の舊版は山川均・荒畑寒村の兩氏によつて飜譯された。その新版は豫てからウエッヴ夫妻の着手してゐたところ、いよ／＼去る三月出版された。それには最近の勞働運動についての敍述があり、就中ギルド社會主義についての批評がある。この書物についてのニュー・エーヂの批評に曰く、そはギルド社會主義を不當に少さく書いたものであると。

定價

毎月一回一日發行	郵税
一部 廿五錢	五厘
半年分 一圓五十錢	税共
一年分 三圓	税共

但臨時特別號の代價は別に申受く

▲誌代は總て前金
▲送金は可成振替
▲郵券代用一割増
▲外國行郵税十錢

大正九年六月一日印刷納本
大正九年六月一日發行

編輯兼發行兼印刷人 東京市京橋區元スキヤ町三ノ一番地 尾崎士郎

印刷所 東京市小石川區久堅町百八番地 株式會社博文館印刷所

發行所 東京市京橋區元スキヤ町三ノ一番地 批評社
振替東京四五三四六
電話銀座一三七四番

室伏高信著

ギルド社會主義

第一巻

（四六版 参百頁）定價壹圓八拾錢 送料八錢

六月十日發賣！

マルクス派社會主義は理想を畫く力を缺いたために最早や感激の力を失つた。新社會の建設とその哲學とはギルド・マンの創造的才能に殘されてゐる――本書はこういふ立場から書かれた。

全部四巻第一巻發賣

發行所 批評社

東京市京橋區元スキヤ町三ノ一
振替東京四五三四六番

大正八年三月廿八日第三種郵便物認可
大正九年七月一日印刷納本發行

（定價三十錢）

……七月號（第十七號）……

民主政治乎獨裁政治乎

（全譯）

批評社

評

目次

民主制乎獨裁制乎（カール・カウツキイ）

こゝに掲載するはカール・カウツキーの近著 Demokratie od r Dic'atur の全譯である。社會主義と民主々義との關係については日本でも最近二、三の人々によつて論ぜられたが世界的に今日この問題の對抗的代表者はニコライ・レニンとカール・カウツキーである。レニンは獨裁政治を、カウツキーは民主々義を主張する。レニンの獨裁政治論（State and Revolution）に對して過激主義に反對する代表的のものはこのカウツキイの小册子である。（一記者）

民主々義と社會主義

人は往々、民主主義と社會主義——即ち生産手段及び生産の社會化——とを區別するに當り、社會主義は吾人の究竟目的であり、吾人の運動目標であるが、民主制は單に此目的に達する手段に過ぎないといふことを以てする。從つて民主制は事情により社會主義の爲に何等の益なきのみならず、時には寧ろ妨害をするかも知れないとする。

併し乍ら嚴密に言へば、吾々の究竟目的といふものは社會主義そのものではなく、ある階級、ある政黨、又はある門閥、ある民族に對し絞取や壓制の諸方法を廢止せしむるにある。

吾々はこの目的を達する爲に、無産者の爲す〇〇〇〇を支柱たらしめんとする。何となれば社會の最下層階級にある無産者は、あらゆる絞取、壓制の原因を除かざれば到底自由の身となることは出來ない。又工業に從事する無産者は被絞取被壓制の階級中にあつて、氣力も鬪爭能力も亦鬪爭欲も益々旺盛となり、最後の勝利は不可爭の階級だからである。故に今や絞取、壓制に對し眞の相反者は自己の何れの階級に屬するを問はず、擧げて皆無産者の爲す〇〇〇〇に參加しなければならぬ。

社會主義的生産樣式は今日存する技術的及び經濟的條件にありては、無産者階級を解放する唯一の手段なりと思惟さるゝが故に、無産者の爲す階級鬪爭に於ける目標は此の制度であらねばならない。此點でかのブルウドンが認めたるが如く、無産者階級及び人類の解放なるものは、生産手段の私有制を基礎としてのみ、或ひは最も合目的に達するを得るといふことが過てりと證明せらるゝならば、吾々は、何時にても社會主義を拋棄するに躊躇しない。吾々は毫も吾々の究竟目的を見捨てないばかりではなく、

却てその究竟目的に利益なるが爲に社會主義を抛棄したものでなければならぬ。

民主制と社會主義の區別は一方が手段であつて他方が目的であるといふことではない。兩者共に同一の目的に對する手段である。

兩者の區別點は他にあつて存する。無產者階級の解放手段としての社會主義が、民主制を伴はずとは想像しえられない。勿論社會的生產は又民主主義的以外の基礎をも必要とする。幼稚の狀態にあつては共產的經濟制も壓制政治の一基礎となることを得た。この事はエンゲルズが既に一八七五年にロシア及び西インドに於て今日も尙ほ存する村落共產主義に關して述べたところである。

更に社會化的勞働の非民主的組織の最好適例は第十八世紀にパラグワイのジエスイツト敎徒國に存して居た。上流階級なるジエスイツト敎徒は其の地で專制的權力により暴力を用ひず而も隷屬者の歸依の下に、眞に驚くべき方法でかの土着インド人の勞働を組織化した。

併し現代の人類はかゝる家長的支配には堪へられないであらう。只それは支配者が被支配者より智識が一段高く優れて居り、被支配者が絕對的に支配者と同程度に向上しえない境遇にある場合のみ可能である。固より人類解放鬪爭をなす民衆又は階級は、かくの如き後見的制度を目標としてはならぬ。否かゝるものは斷然排斥すべきである。

吾々は又民主制を伴はない社會主義といふものも想像しえられない。吾々は現代社會主義を解して單に生產の社會組織化なりとするのみならず、又社會の民主組織化なりとするものである。されば吾々にとつては社會主義と民主制とは不可離のものである。民主制なき社會主義は存しえないものである

と言つて直ちに此の命題を轉倒することは出來ぬ。民主制は社會主義なくして尙ほ存し得る。眞の民主制と雖も社會主義なくして考へ得る。例へば生產手段の私有制の基礎上に、各人の完全なる經濟的條件の平等が存立せる小農民自治團體の如きこれである。

民主制は社會主義を伴はず或ひはそれ以前に存し得るものなりとは、どんな場合にも斷言することが出來る。而してこの先社會主義的民主制は、明かに民主主義は社會主義に對して目的對手段の關係にあることを豫想するも、その實これには概ね民主制は本質上決して對目的の手段ではないと附言せざるをえないのである。此の後の命題に對しては手厳しく抗言されなければならない。若し此の命題にして一般に採納されんか、此の命題は吾々の運動を不幸な方

へ導くことゝなるだらう。

何故民主主義は社會主義の發生に役立たない手段なのか　それは政權奪取に關することである。從來の資本家的支配の一民主國に於て、萬一社會民主黨が選擧に多數を制せんとする可能性あらんか、支配階級は民主主義の支配を妨げんが爲に自己の自由になる、あらゆる强力手段を使用するだらうと言はれてゐる。故に無產者階級は民主制に依らず、只暴力革命に依つてのみ政權を奪取し得るのである。

民主國の中で無產者階級が勢力を增大せんとするところでは、この昂上階級の民主制利用を官權によつて破らんとする支配階級の誘惑あることを決して忘れてはならぬ。併しこれを以て、無產者階級にとり民主制が無價値なものだとは言へない。支配階級が前述のやうな豫想の下に、自己の權力を振はふとするならば、それこそ彼等が民主制の結果を恐れて居るか爲である。彼等の權力行使は民主制の轉覆に外ならないだらう。

而も民主制廢止を目的とする支配階級のかゝる試みは、無產者階級に對し民主制の無價値を感ぜしめず、寧ろ却つて民主制を是が非でも擁護しなければならない必要さを起さしめる。勿論、人あつて無產者階級に「民主制も結局役に立たぬ一裝飾物に過ぎない、」と說得したならば。彼等が擁護の爲めの力瘤は揚らなくなるであらう。併し乍ら一般に無產階級團は餘りに彼等の有する民主的の權利を固持するが故に、彼等が如上の權利を無意識的に放棄するといふことは望むべくもない。反對に寧ろ次の樣なことが期待される――卽ち無產者階級は、彼等の反對者が權力を行使して國民の權利を無にせんと試みるならば、それに對する決死的防衞は終に政治的崩壞を齎らさんと力說して、彼等の權利を擁護するであらう。そして無產者階級が民主制を一層强く守護せんとすればするだけ、又是に一層熱情的に固着せんとすればするだけ、如上のことは益々明かに期待されるべきである。

固より他方に於いては、上記の如き徑路の事件が一般的に必然的のものであるとは信じえられない。而も亦吾々はかく信ずるについて、さうビク／＼するにも當らない。國家が民主的であればある程、一層國家權力の强力手段及び軍事的强力手段は國民の贊否如何に懸るのである。無產者階級が未だ數に於いて少く、例へば農本國に於けるが如き場合、或は彼等が組織秩序無く、精神的にも依他的になる爲めに政治的に微力な所にては、民主國であつても亦、如上の權力機關は無產者階級の運動を强壓する爲の機關となり得るのである。併し民主的國家に於ける無產者階級が、充

分多數且つ强力となり、既得の自由を利用して政權を奪取する底の鞏固さとならば、「資本家的獨裁」も民主制を强行的に廢滅すべく、百方應急の策を講ずるに難くなり、遂には崩壞するに至る。

マルクスは實際に、英國に於いても米國と同樣に、無產者階級は平和手段によりて政權を奪取する可能性否蓋然性があると言つてゐる。一八七二年のハーグ萬國會議終了後アムステルダムのある國民大會に於て彼は演說した。その演說中に彼は次の如く述べてゐる。——

『勞働者は將來政權を掌中に占めて、新しき勞働組織を建設しなければならぬ。勞働者は、かの古の基督教徒が輕視し蔑視し去つた如く、地上天國を斷念しないものとせば、古き制度を維持する古き政治は勞働者に依つて〇〇されなければならぬ。

さりながら吾々は、此目的に到る道が何處も同じいと主張したことはない。

吾々は各々異れる地方の制度、習俗、慣行を顧慮しなければならないことを知る。而も米國や英國と相似たる國々のあること、及び予が諸君の制度を尙ほ一層良く知了するならば、恐らく和蘭をも亦勞働者が平和手段によつて其目的を達し得らるゝ國の一つに加へるべきことを、吾々は否定しないのである。さりとて總ての國に於て皆然りといふのではない。』

尙ほフリードリッヒ●エンゲルスも亦一八九一年に次の樣なことを言つてゐる。

『一般に國民議會が凡ての權力を掌握し且つ、國憲に從ひ各人好むまゝに行動し得る國では、舊社會より新社會への推移は、その後に國民の大多數を控へるに從ひ、平和に行はれると考へられる。例へば、かのフランス、アメリカの如き民主共和國、英國の如き君主國など是である。實際、英國では王家の日常品の買上すら每日報ぜらるゝ樣な次第で、王家は國民の意志に反しては無力なのである。』

これに對してエンゲルスは、ロシヤ、ドイツ、オースタリアの如き軍國主義的帝國にあつては、暴力革命は到底避くべからざるものであるとしてゐる。

マルクスとエンゲルスとは常に、民主的國家と非民主的國家との間に其の政策に就いて大なる區別をしてゐる。

一體、民主的國家にも無產者階級に對抗するに、兎角暴力を用ひたがる資本家階級の連中のあることは確かである併し乍ら同時に他の一團には無產者階級の伸長する勢力を益々顧慮し、而してそれを許容して協調を維持せんとする希望を抱く者もある、戰爭狀態はその繼續中は、概して民衆の政治的運動の自由を甚だしく制限したにも拘はらず、猶且イギリスの無產者階級には著しき選擧權の擴張を齎らした。今日でも、民主制がいろ／＼違つてゐる國家で無產者階級が政權を奪取する形式にどう影響するか、又民主主義が、其處いら此處いらで暴力手段を避け全く平和手段を

通用することに、如何なる範圍まで或功するかは全く解らないことである。しかし其際民主制の存在維持といふことは、どんな場合にも決して無關係ではない。ある民主共和國では、其國民が革命に依つて奪取し主張し擴張した國民權が、數十年も數百年も根深く培はれてゐるので、そんな國では支配階級が民衆に對して顧慮を拂ふ樣になつて居る——こんな民主國の過渡期の體樣は、武斷專制で無產者階級を壓するに從來無制限に極端な權力手段を弄し、且つこれによつて彼等を抑制し來た國家の夫れとはよほど異つたものであらう。

こは無產者階級政治に至る過渡體樣に及ぼす民主制の影響如何の問題丈では、來ん社會主義時代にある吾人にとつては其意義は盡されない。斯る時代にある吾々にとつては民主制が無產者階級の成熟に如何なる影響を與ふるかゞ最も重要となつて來るのである。

民主々義と無產者階級の熟成

社會主義は、その主義を可能及び必要ならしむるに特別な歷史的要件を必要とする。この事は一般に承認せられてゐる。併し乍ら現代社會主義を可能ならしむるには、如何なる條件が具備せられなければならないか、或は一國が社會主義を受容する迄に成熟するのは、如何なる時であるか等の問題に關すると、吾々の間にも決して一致を見出しえない。元來こんな重要な問題に不一致は珍しい事ではない兎も角も、吾々が今この問題を吟味しなければならない場合に立ちつ入たことは、實に愉快なことである。何となれば、此の必然は、社會主義とは數百年後初めて期待しえらるゝものであると、開戰當時に尙ほ多數の耳食者輩が吾々に保證した樣なことが、も早や裏切られたので起つた次第だからである。今や社會主義は現代の議事日程に最も重要なる實際問題として提起せられて居るのである。

然らば社會主義實行の豫備條件は何であるか。

人の意識的行爲は、何れもある意志を其の前提とする。社會主義に向ふの意志それ自身は主義實行の第一要件である此の意志は大企業に由て生起せられる。小企業の盛んな社會では、民衆の大部分は企業の所有者であるから無產者の數は少い。而も無產者は些少の貨財を收得することを以て其の理想とする。この希望は場合によつては、革命的形式を採つて現はれることもあるが、併し社會革命は必ずしも社會主義的革命ではない。其の革命は只各人をして有產者たらしむる樣に、現存貨財を新しく分配せんとするに過ぎない。小企業は常に勞働に要する生產手段の私有制の維持

又は獲得の意志を發生せしむるが、私有財產の社會化、卽ち社會主義を行はんとするの意志は發生せしめないものである。

此の社會主義への意志が民衆の間に起るのは、大企業が旣に非常の發達を來し、小企業に對しその優勢分明にして大企業の解體は困難否不可能であり、而も大企業從事の勞働者は只社會化の形式の他には生產手段所有の途なく、又辛うじて維持さるゝ、小企業は益々難澁に陷り、經營者は爲に其企業に依りてはも早や何等の安寧をも得られなくなる樣な所に起るのである。

けれども同時に、大企業あるが爲に主義實行上の物質的可能性も亦生ずる。一國に於て企業の數が益々殖え、其の個個の企業間の獨立が益々激しくなる程、その多數の企業を社會化的に組織することが一層困難になる。その困難は企業數が減少し、その企業間の關係が一層規則的に密接になる程減じて來る。是れ大企業發達の却て社會主義實行の可能性を生ずる所以である。併し乍ら最後に意志及び物質的基礎の外にいはゞ、社會主義の原料卽ち主義實現の力の存在することを必要とする。社會主義を欲する人々は強くなければならぬ。少くとも社會主義を欲しない人々よりも一層力強くあらねばならぬ。

此の因子も亦大企業の發達につれて生じて來る。卽ち社會主義に共鳴を持つ人々の增加を意味し、一方に於ては無產者增加、他面に於ては資本家減少を意味することは、無產者數に對し他階級の數の相對的減少を意味する。無產者でない謂ゆる中產階級――小農民小商人との關係では、資本家の數は一時は殖えて居るかもしれぬが、無產者階級の增加のみは獨り大踏步を以て進む。

如上の各因子は總て直接、經濟の發展から生ずるこれ等各因子は固より人の行動なくして自生するものではないが又必ずしも無產者階級の行動を待つに及ばない。たゞ大企業發達に關與する資本家の營爲あらば生ずるのである。この經濟の發展とは都會的工業的發達が何より第一であつて農業的發達は單に微弱な反響を示すに過ぎない。社會主義は都會から、工業から起り、農業から起らない。社會主義が實現せらるゝには前記の因子の外に尙ほ第四の因子を必要とする。詳言すれば、無產者階級が社會主義に共鳴し、且つその物質的條件を發見し之を獲得する力を有しなければならないばかりではなく。彼等無產者階級はこの諸要件を固持し且つ正當に適用するの能力をも持たなければならぬ然る後初めて社會主義は永續的の生產樣式として實現せられるのである。

工業的發達の必要な狀態、高さの成熟には無産者階級の成熟が加はらなければならない。そこで社會主義が實現可能となる筈である。此因子は、もし無産者階級の行動がなければ、經濟的發達のみにても生じなければ。又利潤の獲得に努力する資本家の營爲によつても生じない。從てこれは資本家に對して無産者階級のなす行動によつて獲得せられなければならぬ。

小企業の盛時には無産者は二つの階級に分離する――そして其一たる職人の徒弟或は若い農民にとつては無産は單に過渡的段階に過ぎない。彼等は將來有産者たらんとの希望を抱き私有財産制に共鳴してゐる。此他に尙ほ無産者として存するものに貧民無産者がある。それは修養なく自覺なく團結なく、社會にとつては、なくもがなの寄生的な嫌な民衆である。彼等はもし出來るなら有産者から强請しようと欲して居る。けれども新しき經濟組織を建設しようと欲しても居なければ、又それが出來得る人々でもない。

資本主義的生産樣式は、その初期に著しく増大したる無産者の群を我が用にした。資本主義は、あり餘る有害なる寄食者を變じて生産社會に不可缺の經濟的基礎とした。それ故に資本主義は無産者が其數を増加するに伴うて、その力を増大する。併し資本主義はこの無産者を元の儘に無智無教養、無能力のものとして置く、否、一步を進めて全勞働者階級をすら無産者と同一水平線にまで壓下せしめんと試みる。寔に過勞、勞働の單調並に無味及び婦人勞働小兒勞働に依り、資本主義は勞働者階級を、時としては初期の貧民無産者の智的標準よりも更に降下せしめることすらある。かくして無産者階級の困窮集積は恐ろしく非道くなるのである。

社會主義への最初の原動力は、これ等の困窮集積にトヾメを刺すべき努力として、無産者階級の中から發生した。而も斷る困窮狀態は、永久に無産者階級をして自己解放を不能ならしむる樣に見える。有産者の同情がそれを救はねばならなかつた。そこで無産者階級に社會主義を持ち來たされる筈だつた。

ところが間もなく左樣な同情には何ら期待されないことが判明した。社會主義を成就するに充分な力は、たゞ社會主義と利害を共にする無産者階級の人々のみから期待しえたのであつた。彼等無産者階級は果して絕望の淵に陷らなかつたらうか。否、悉くさうではなかつた。そこに尙ほ力と勇氣を擧げ竭して困窮を防戰した一隊があつた。此の一隊こそ、空想家も及ばざることを企圖し、突擊以て政權を奪取し、それに依つて無産者階級に社會主義を齎らさんと

した。是れが卽ちブランキー及びワイトリングの抱懷した見解である。餘りに無智で落ぶれて居た自分自らを組織制御するを得ない無產者達は、彼等の精粹者から成立せる政府によつて上から組織指導せらるべきである。——恰もジエスイツト敎徒がパラグワイに於て土着民を組織し支配した樣に。

この點についてワイトリングは、勝利を得る革命軍の陣頭にあつて社會主義を完成せんとする人の獨裁を望んだ。彼はその人を呼ぶに救世主を以てした。

『私は前の救世主の敎へを實現せんが爲に、新救世主が劍をかざして來るを見る。この救世主は勇氣充ち滿てるが故に、革命軍の陣頭に立てさせられ、その軍隊と共に舊社會制度の朽ちたる殿堂を打ち壞はし、涙の泉を忘却の海に流し込んで、この世を遂に樂園と化せん』

何たる崇高、靈感的の期待よ！　遮莫、この期待は革命軍が恰當の人を必ず見付けうる確かさのある場合にのみ成立つ。若し斯くの如き救世主義の信仰を抱かず、無產者階級の解放は無產者階級のみが之を解放し得るものと確信し且又無產者階級が彼等自身を强める總ゆる組織に對して、從て亦國家に對しても苟くも自治能力を獲得せざる限りは社會主義も畢竟空想鄕に過ぎないと確信せば——資本主義に基く無產者階級の困窮集積を眼前にして、果して能く社會主義の無望が宣言せられないで濟むだらうか。事實濟まない樣に思はれる。併し實際と理論とは直ぐに一つの逃場を示した。イギリスでは工業從事の無產者階級が先づ集團現象をなし、その後民主的法律の若干萠芽と組織、宣傳の若干可能性を見付け出された。そこへ有產者階級が貴族との選擧權爭ひに、無產者階級を煽揚せしめようと呼號した。

勞働者運動卽ち困窮集積及び無權利に對する無產者階級の抵抗の發端は產業組合及び劵狀黨であつて、終に同盟罷業となり選擧權及び仕事日に就いての大鬪爭か始まつた。

マルクスとエンゲルスは早くに此運動の意味を看取して居た。かの「貧困集積說」がマルクスとエンゲルスとを著名にしたのではない。之は兩人とも他の凡ての社會主義者並みに持つて居たものである。その兩人が他の人々を凌駕した所以は、兩人が困窮集積に關し資本家側の趨勢を認識せしに止まらず、一步を進めて無產者側の反對趨勢をも認識し、且この中に階級鬪爭を以て無產者階級を高め、又災果の如何を問はず兎も角も一時的に政權を奪取するばかりでなく、其權力を主張し利用し得べき能力を備はらしむる大素因を認識したからであつた。併し乍ら民衆の戰ひとしての無產者の階級鬪爭は民主制を前提とする　無條件且純粹の民主制でなくとも、苟くも民衆を組織し一律に啓蒙せ

んには兎に角民主制が必要である。この事は決して祕密主義では充分に達することを得ない。僅かばかりの張札は到底一枚の大きい新聞紙には及ばぬ。民衆は祕密裡に組織せしむることが出來ない。殊に祕密組織は民主的組織たる事を得ぬ。祕密組織は常に唯一人が少數首領の獨裁となる。從つて普通部員はたゞ手先き道具に過ぎなくなる。恁んな狀態は民主制を全然欠缺せる壓制下の民衆には、その必要を餘儀なからしめらる。實に斯る場合は民衆の自治及び獨立が要求されるのではなくて、首領の救世主的意識、獨裁的風習が要求せられて居るのである。

救世主的役割を高調したかのワイトリングは民主制を非常に侮蔑して斯く述べた——

『共産主義者は其統治形式の選擇に就いて、尙ほ可なり曖昧である。フランスに於ける共産主義者の大部分は獨裁政治に傾いて居る。何となれば共和黨員或ひは寧ろ政治家の謂ふ如く、民主政治は古き組織から新しき完全な組織への過渡期に適しないことを良く知るからである。カベーは民主政治の原則に關せず、共和黨員の謂ふところを借りて居なけれども、賢くも過渡期間は殆んど目につかぬ程の獨裁政治を加味することを知つてゐた。イギリス共産主義の唱道者たるオウエンは遂に、丁年者は各自一定の役目を果さなければならず、剩へ行政の最高指導者は亦同時に最年長の部員たることを望んだ。總ての社會相續者は——この中どんな統治形式にも無關心なるフーリエ一派は別であるが民主政治と言はれる統治形式は幼なき初めて實現せらるゝ社會原理にとつては、非常に無益なばかりか危險さへある避難制であるといふことに一致してゐる。』

ワイトリングは大天才が統治することを望んで居た。してこの大天才は科學者の會合席上で懸賞課題の解決によつて認めらるべきものだとする。予はワイトリングを援用し過ぎたが、是に由つて現今吾々に最近の智慧として現はれてゐる民主制の侮蔑は正しく古き時代のものであつて、勞働者運動の全然幼稚な狀態から生じたことが判るだらう。ワイトリングが普通選擧や出版の自由等を侮蔑して排斥してゐた其頃に、イギリスの勞働者はこれ等の權利を得んとして戰つてゐた。そしてマルクスとエンゲルスとは彼等勞働者の味方をして居たのであつた。

爾來全歐の勞働者階級は幾多の、時には流血の戰爭を經て民主制の一片又一片を奪取して來たのである。而して民主制の獲得。主張及び擴張に關する鬪爭と共に、組織、宣傳及び社會改造の勵行に就いて、既得民主制の不斷の應用を怠らず、無產者階級は年々歲々熟成の域に向つた。民衆は最下層からして最高層に入る事になつたのである。

かくて果して社會主義の要求する熟成の域に達したのであらうか。他の諸條件も亦充たされたであらうか。此問題は

現今なか〳〵論議せられて居るところであるが、或者は斷然これを肯定し、或者は斷然これを否定する惟ふに兩者共に幾分早まつてる樣に見える。社會主義への熟成とは實際的に事例で證明せざる限り、統計的に確定し計算する事は出來うるものではない。從來屢々起つたことであるが、此問題を吟味するに當り、社會主義の物質的前提條件を餘りに重要視するが爲に人は何つも過ちをする。無論大企業がある程度に達しなければ社會主義はありえないが、資本主義がも早やより以上に達し得ざる狀態となつて、初めて社會主義は實現し得る樣になると主張しても、何故にさう成るべきものなるか之については何等の論據もない。たゞ大企業が益々發達するに從ひ、社會的に組織さるべき企業が愈々減じ、社會主義の實現が容易くなるといふことは慥かである。併し如上のことはある一國家の立場から觀察した問題にのみあてはまるのである。且この範圍に於ても、大企業の發展は、その市場の發達、國際的勞働分配の增進、國際貿易の增大並に之れにつれて生產組織の社會化問題の擴大、錯綜など相伴うて進むといふことは問題の單純化と相反する。然りと雖も現代工業國では、その銀行事業及び企業家組合と共に、大部分の生產組織が社會一般の爲めに國家自治團體、消費組合等では、今日も決して出來ないものだと認むべき何等の理由もない。

決定的のものは物質的原因ではなくして人間的原因である。本來無產階級は此社會的整理を自己の掌中に納めうる程充分強く且聰明であらうか。換言せば、彼等は民主制を政治から經濟に移し換へる氣力と能力とを持つてゐるだらうか、是に就いては確定的に解答がされない。それは國の異る每に頗る異つた經路で發達して居り、又國は同じとしても時代の異る每に動搖の甚しい因子であるからである。蓋し充分なる氣力とか能力とか言ふも、全く相對的概念に他ならない。同强度の氣力も相手が强いが爲め昨日は不足したのが、若し相手が道德上か經濟上か軍事上の失敗をせば、今日は餘る事になるからである。

同樣に能力の同强度も非常な紛亂狀態で權力を得た場合には今日は斷念せざるを得ない事でも、次の日に一層頭腦明瑩なるか、單純なるか或ひは物質的順境に入つた時には凡ての要求を捗取らすことが出來る。無產者階級が眞に社會主義に向つて成熟して居るか否かは、いつも實際のみが示し居る。たゞ無產階級は間斷なく、その數その氣力その智能を增大し、熟成の時期に愈々接近しつゝある事は斷言して憚らない。何時その時が來るかは今之を豫斷することは出來ぬ。たとへ無產者階級が國民中の大多數を占め、そ

の多數者が社會主義への意志を表はすとも、その時機已に至れりとは斷言されない。之に對し、民衆の大多數が社會主義を敵視し毫も社會主義を知らんと欲せざる間は、國民は未だ社會主義的に發育してゐない事が確認出來る。

それ故茲に再び論を民主主義に歸す。これ民主主義無產階級の成熟を逸早く齎すのみならず、亦その熟成の到來時機を逸早く認めさすからである。

民主政治の效果

近世の國家は强固なる中央集權的の有機體である。この組織は現代社會の內部に、最强の力を築き、各個人の運命を强制し、殊にそれは戰爭の場合には著しい。そこで右個人は如何に甚しく自己の存在が國家權力に依つて左右せられるかと云ふことを感ずる樣になる。

昔は個人に對し初めは同族團結、次には地方團結があつたものが、今は之に代りて國家となつた、然るに此の中前二者はその基礎が民主的に組織せられしに、近世の國家權力は之に反し、官僚及軍閥が國民の頭上高く君臨し彼等は時に、社會的、經濟的支配階級をも政治的に凌駕し、專制支配をなすの勢力すら獲得して居るのである。

然し乍ら斯る狀態は決して永續すべきものではない。官僚は其の專制支配の結果として、頑迷と無用煩瑣の形式主義に墮する。丁度この時產業資本主義が發生し、その革命的生產樣式——現存してゐる——は社會的、經濟的條件に不斷の變化を與へて事業生活を急步せしめ其の卽急の歸結を要求する。

加之、官僚の專制支配は專橫と買收政治に導く。換言すれば其の社會的生產の形式は資本家主義と同じである、そこでは各生產者は他の無數の生產者と相關涉してゐるのに自分の利益發展の爲には社會的關係の安寧と秩序とを要求する有樣である。

この結果專制國家は此の生產條件と益々齟齬するに至り遂にはこの生產條件を縛りつける鎖となる。されば、國家權力を行使する機關を輿論の下に立たしめ、國家的組織と共に、國民の自由の機關組織を置き、町村州縣の地方自治を確立し、官僚閥よりその立法權を奪ひ、之を國民の選擧よりなる中央の委員たる議會の掌裡に置くことは極めて緊要である。行政の監視は議會の重要任務である。

この點は他の如何る設備を以てするも議會に代へられない。なるほど、實行的可能力は餘り無いが、官僚の立法權を其の手よりり奪ふに當り、法律の作製を先づ專門家の委員會にて脫稿せしめ、その後之れを國民の直接の裁決に任

すと云ふ方法は考へられる。但し如何に國民の直接立法を力說する人でも、國民が行政を直接に監視することは之れを主張しない。何となれば、國家組織を導く中央政府の活動は他の中央組織によりてのみ監視しうるもので、決して組織なき無形の國民と云ふが如き集團では監視され得ないからである。

上述の如く、國家權力の專制的勢力を打破せむとする努力は近世國家の全階級に通じ、たゞ例外と認むべきはこの專制的勢力によりて利益を享くる階級を見るのみである。卽ち官僚や、軍人や、貴族や、帝室敎會や、並に國家と金錢取引をして利する銀行家の輩である。此他の階級は其の地方貴族たると、下級僧侶たると、資本家たるとを問はず、總ての階級擧つてこの運動の爲に與らざるなく、爲にこの階級的一致の肉迫には流石の專制政府を讓步せざるを得ず、多少乍ら、出版、集會、團結の自由及議會制度を與へざるを得なかつた。かゝる進展が全歐に亘り勝利を得て遂行せられた。

されどこの際、各階級は如上國家の新形式を各自階級の特殊利益に最も恰好なる組成に採らんとした。この努力の著しく看取せられるのは、議會の組織謂ゆる選擧權の獲得問題である。

國民中の下層階級の時代語は「普通選擧權」と云ふ事であつた。是れ啻に、賃銀勞働者のみならず、亦小農、小賣商人も利害關係を持つたのである。從て是等の階級にして一度相合せんか、如何なる場合にも、國民の大多數を占むるものであるが、無產階級が果して國民の中にあつて優越なる地位を占むるや否やは、經濟的發達の程度如何と相關聯し、必ずしも其の數の多少にはよらない。そは絞取者たる資本家が常に國民中の少數部分を占むるに徵して明かである。

かゝる集團の襲擊は、如何なる國家も久しきに亘り之れを退治終らせるものでない。そこで今日の社會では、普通選擧權以外の選擧權は、すべて不合理なものであると云ふことになつた。資本家主義經濟組織の社會に於ては、社會事情は絕えず變轉するからして、階級はそれ自體固定的なものとは云はれない。制限選擧制は此の理由からしても、斥けられる、身分的に、組織せられない階級なるものは無形にして且つ流動する集團であつて、嚴密には其の限界を定めることが出來ないものである。階級は經濟的範疇であつて法律的範疇ではない。階級の所屬者は絕えず變動的である。多くの小工業者は自己が勝れる小規模經營には、自己を資產家と思惟し、大規模の事業の下に於ては、自己を無

産階級と觀念するが、よし統計上資産あり且つ獨立の生計を營む企業家として取扱はるゝとも、正眞正銘の所實際は無産階級なのである。また租税的制限選擧制も存しない。是れ資産家をして、議會の永續的壟斷をなさしむるものであるが、金錢價値降滅の時代に於ては、忽ち顚覆するからである。更に教育標準選擧制も國民教育の進歩によりて、漸次に無對象なるものとなつて仕舞ふ。

右の如く、種々なる因子が相合して普通、平等選擧制が今日の社會では唯一の合理制のものとして見ゆる樣に働き且つその制度を愈々押し進めてゐる。

若夫れ、國民中の最下層階級たる無産者階級の立場よりせんか、普通選擧制は殊に唯一の合理的選擧制である。寔に彼等の有效なる武器は數であつて、彼等無産階級はその數に於て、國民の大半を占め、進んで資本家主義的社會がその發達の結果、農夫も小商人も凡ては勞働階級に勝るなきの狀に至りて、初めて自由になりうるのである。

然し乍ら、無産者階級は、單に普通平等選擧制のみならず、又その制度が無差別的にして、その男女たると、賃銀勞働者及資本家たるとを問はず、異つた選擧席に依つて投票しないと云ふことに關心してゐる。然らずして、依然として以上の差別を殘すならば、その全社會的地位よりせば無産者階級に屬するも、形式上賃銀勞働者ならざる特殊階級が無産者階級と離別せられ、それ自身危險を齎すのみならず、無産者階級の心意を狹くすると云ふ一層大きな危險を齎らすからである。無産者階級の歷史的問題は、多く社會全體の利害と無産者階級の永續的利害とは一致するが、その一時的特殊利害は必ずしも全社會の其れと一致しないと云ふ事から起る。

無産者階級が社會的關係と目的とを理解してその階級意識の高頂に達すると云ふことは、彼等の成熟期に屬する。這の理解こそ實に社會主義の闡明した所であるが、その理解はひとり理論のみによらず、又もし無産階級にして自己の特殊利害關係にのみ沒頭せず、遍く全社會の利害關係をも考慮して政治に立入るならばその實行によりて更に之を促進推擴せられるのである。單に、職業的利害にのみ跼蹐するは、その心境を狹めるものであつて、所謂純產業組合主義の暗黑面は玆に原づき、社會民主黨組織の優秀なる故以て亦此に存する。加之かの型により選擧人を別つ差別選擧制に對する無差別選擧制の優秀も實に這裡に存する。かゝる分類的選擧權は、勞働者、兵士、農夫と云ふが如き範疇の中に選擧人の朋黨を作り、それから吾々が同臭味の代表者を選ぶに至るのである。

如上政治上の權利獲得鬪爭の裡から近世民主主義は生れ無産者階級は斯くて熟成する。

而も同時に新因子が起き上る。少數の保護是である。反對黨の保護是である。民主制は多數の支配を意味するもその實多分に少數保護をも意味する。

官僚の專制支配は永續に適する樣に整つてゐる。反對黨に對する暴力的壓迫は彼等の生活原則である。彼等は、どの國でゞも、たゞ彼等の暴力的に打破せられたる場合にのみ壞滅せしめられるのである。

民主制度の場合には此れと大いに違ふ。民主制は前述の如く多數の支配を意味するもたゞ多數黨常に多數黨ではなく、爲に民主制の下に於ては如何なる支配も常住のものとは決められないのである。

既に階級の勢力狀態は固定的のものではない。少くとも資本主義の時代に於ては然りである。されど更にこの階級の勢力に比して、尙變り易きは政黨の勢力である。そして斯る黨派の勢力こそ、民主制の下に支配權を相爭ふものである。

こゝで屢々起る事で忘れてはならないのは理論の抽象單純化は、眞理を明確に認識するには不可缺の事ではあるかこは最後の場合に適用されることで、實際は單純化された理論と現實との間に尙幾多の連環の橫たはつてゐることである。

階級は支配する事が出來るも、統治する事が出來ない。何となれば階級なるものは、無形の集團なるに純治の出來るものは一つの組織體に限るからである。そこで民主制の下に於て統治しうるものは政黨でなければならぬ。然るに黨派と階級とは、縱し何れも第一段では階級的利害を代表してゐるもの丶、黨派は畢竟階級ではない。同一の階級的利害も樣々の異つた政略的方法の爲に主張せられ、この方法の異なるに從ひ同一階級の利害を代表するものの間に、樣々の黨派が分裂、派生することになる。就中この場合、問題は他の階級及黨派に對する地位の如何によりて決せられる一階級が自分丈で國家を支配するの勢力を持つと云ふ樣な事は極めて少き事例に屬する。一々階級が政權を掌握するも、自分達丈で之れを主張行使し得ないから同盟者を求むることになる。斯る際に種々異つた同盟者がありうる故に支配階級の代表者の間にも種々の意見及黨派が出來る譯である。

例へばイギリスでは十八世紀に同一地主階級の利益を、ホイツグ、トーリーの兩黨に別れて主張した。蓋し前者は皇室並に其の强力手段を犧牲に供するも都會の資本家階級

と結合して、この地主の利益を主張せむとし、反之後者は王權は地主の利益の最强の保護者なりと信じたのである。同様に現今に於ても、イギリス其の他の國にありて、同一資本家の利益を保護するにも關らず、保守、自由の兩黨が對立する。これ一方は土地私有の助力をえ、勞働階級の壓迫に由て始めてよく資本家の利益を保護し得ると信じ、他方は斯る政策より生ずる惡結果を恐れ、幾何かの讓歩、特に地主を犧牲に供して勞働階級を靜めんとするからである

經濟的及社會的支配階級と其　の黨派に於けると同じことが、昂上的階級及黨派の間にも認められる。

階級と黨派とはそれ此の如く必ずしも一致するを要しない。一階級も數黨派に分れるし、又一黨派が數多の階級所有者から成立する。支配階級の多數が從來統治し來れる黨派の政策繼續を不可とし、反對黨の政策を可とせば、統治する黨派は交代することになるが、その階級は依然、支配階級として存續する。故に民主制の下では、階級の支配と云ふ事よりも、黨派の統治と云ふことの方が變化の頗る早いものである。

從つて民主制の下に於ては、政權の保持と云ふ事が安定でないから、今日の多數黨も明日の少數黨なることを覺悟して居なければならぬ。是れ固より已むを得ざる事であつて、苟も眞の民主制の國家ならば、その國家の性質上、政權や多數黨の地位を永く保持することは初めから決めておけない。

かゝる關係からして、民主制の下では、少數黨の保護と云ふことが生ずる。この少數黨の保護と云ふことは、民主制の根深いほど、且つその由來並に政治的道德の感化の永いほど一層强く働き、手段を盡して權力維持に努むる黨派の野心に對し、一層效果ある抵抗をする。

少數黨の保護と云ふことが、社會黨成立の初めに、――社會黨は何所ででも極少數黨として起るのだが――如何なる意義を持ち、又無產階級の成熟道程に對し如何に影響するかは明かである、元來少數黨の保護と云ふことは其れ自身が極めて重要なものである。總ての新しい說は、其れが學理的のものでも、政策的のものでも、その出世に際しては、必ずや少數者によりて主張せらるるものである。若し何人も彼等と討議する代りに、直に之れを壓服し去るならば數多の者はこれで多くの困難と不便とから免かれ、場合によつては、無駄骨を折らずに助かる譯である。何となればすべて說と云ふものは、それが新しいからとて、又少數の者によつて主張せられたからとて、それが生長すべきものだとは云へない。新思想だと銘打つて出る過半は、既に業

に以前に發表せられ且論議せられ實行せられて其の保持すべからざることを認められたものが多い。たゞ馬鹿な奴どもが古い小間物店を今更の様に開店する丈のことである。ほかの思想が根本的なのであるが、この際には是が全然燒直されてゐる丈である。新しい思想及び理想にして、眞に進歩し生長すべきものの極めて少きは斯の通りなるも而かも凡て眞正の進歩は唯新なる理想ありてのみ可能であつてこの新理想を主張するものは先づ少數者たるを常とする。從つて少數黨の主張する總ての思想を盡く壓服し去ると云ふことは、無產者階級戰爭に於ける一の損害であり、勞働階級の成熟行程に對する一の障碍である。世界は吾々に、今までの方法を以てしては解くことのできない、新なる未知の問題を提出する。

提出されたる新事物の混沌から、眞に價値あるものを抽出すと云ふ事は如何にも困難な仕事である。仕事は困難だが、是れは吾々の運動か凝滯することなしに、問題の高峯に絕えず進んで行くには絕對に必要なことである。そして黨派に適用できるものは、そのまゝ國家に適用できる。少數黨の保護は民主的發展にとりて缺くべからざる條件であつて、多數の統治と共に非常に主要なことであると。

尚ほ一つ民主制の特徴を視察しておきたい。それは外でもない、民主制が政治的鬪爭にどんな形式を與へたかと云ふことである。私は千八百九十三年、既に雜誌「新時代」で、「社會民主主義問答」なる題の下に此の事を論じ、又千九百九年「權力への路」の中で之れを繰り返した。從つて其の二三を此に援用して見よう。

『團結の自由、出版の自由、普通選擧權(場合に依つては普通選擧義務)なるものは、現代國家の無產者階級が、かの資本家階級の革命戰に戰つた階級に勝さつた武器たるのみならず、本制度はまた各黨派、各階級の勢力關係を擴げ、是等の黨派や階級を激勵する精神に對し專制時代には見る能はざる、ある光明を與へる。換言すれば支配階級も革命階級も俱に暗中に舞踏して居たのであつて、反對が表むきに出て來なかつた爲に、支配階級も革命階級も各々自己の勢力を知ることが出來なかつた。双方何れも自巳の勢力を過信し、敵と戈を交へて初て自己の實力を知るに止まる。爲に唯一回の打擊を被むるや、直に自己の實力を悲觀し、意氣阻喪するの危險に暴露されてゐたのである。是れ資本階級の革命當時に何故多くの暴動が唯の一擊で以て一敗地に塗れたか、何故多くの統治者が唯の一擊で轉覆の憂目に會つたか、又從つて革命と反革命とが接續して起つたかの主要因の一つである。

今日幾分でも民主制の存する國では是れと全く事情を異にする。人はこの制度を指して社會の安全辨と呼ぶ。若しこの命名によつて無產階級が、民主國では最早その革命的なることを中止するとか、その不滿足とその苦痛とをこの安全辨によりて發表するを以て滿足するとか、或は政治的及び社會的

革命を斷念するとかを意味せんとするならば、安全辨なる言葉は誤りである。民主制は決して資本家主義的社會と云ふ階級的對立を取り除くものではない。その必然の結果として、資本主義的社會の擊滅と云ふことを廢すものではない。民主制に期待しうるは寧ろ此に存せずして、寧ろ多くの未熟な、無謀な、革命的陰謀を阻止し、革命的反抗を不用にすることに存する。

民主制は各種黨派並に階級の勢力狀態を明かにする。民主制はこれ等黨派及び階級の對立を取除かない、又その終局目的をも押し遣りはしない　但だある階級が、まだ機運の熟してゐない問題を解決せむとすると、その渴望的階級を妨げ、他方又支配階級にも讓步を拒む事を止めむとする。然し一旦支配階級が拒絕し終らせば、民主制は之を如何ともする力を持たないものである。此故にその發展の方向は變ぜらるゝも、その步調は確實且つ穩健となる。若干民主的臭味ある國にありては、無產者階級の突擊は、革命時代に於ける有產者階級の樣に決定的勝利を得ることは出來ない。同時に又有產者階級の樣に大敗を受けることもない。近世社會民主的勞働運動が十七世紀に發生して以來歐の無產者階級は、千八百七十一年のパリーコンミユーンの亂に於ける大敗北を除いて一回の大敗北も受けたこともない。當時のフランスは帝政の後をうけて、國民には眞の民主制を與へず、僅少乍ら自覺せる無產者階級は勢ひ暴動を餘儀なくされたのである。

この民主的無產者階級戰爭法は、如何にも有產階級の其れに比し、退屈に見える。この戰法は確に劇的氣分を缺き、有効性に於ても劣る。それ丈また犧牲も少い。此事は社會主義者によくある、文學好きの著作家にとりて、面白い講演及び材料を探す爲には興味なきことかも知れぬが、實戰者に取りては決して爾うではない。

これ等の謂ゆる平和的階級戰鬪法即ち非軍隊的方法、議會政策、同盟罷工、示威運動、出版及び出版類似等の方法は、民主制が有效に行はれ、國民の政治、經濟的識見と自治とが行き亙つてゐるほど、何處の國でも之を保持せらるゝ望みが多いのである。

斯る理由よりして予は無產者階級の社會革命は資本家階級の其れとは全然異つた形式を取ると思惟する。無產者階級の革命は、民主制の根が下されてゐる國に於ては、經濟的、合理的、人道的、約言すれば平和的方法によりて戰はれ、此點に於て有產階級の其れと對照をなすものと豫想するのである。

（「權力への路」卅五頁）

如上の見解は今尙ほ毫も之を變ずる必要を見ない。勿論如何なる制度も光明のみを持たざる如く、民主制に於ても亦た暗黑面を持つのである。

無產者階級が權利なき國に於ては、集團組織が些の發達を齎らされず、集團戰は平時に行はれない。從つて決死的勇士の選手のみが、支配者に對する繼續的反抗の裡に獨り現はれる。

然し乍ら此の選手は日々全組織に根本的終結を與へる必要を感じて居る。否、正しく其の必要にブチつけられてゐるのである。日常の政治的小問題の爲に迷はされず、全精

神が最大の問題に向けられ、常に全社會的、政治的關係を考慮する樣に學ぶ。

戰爭に參加するものは斯くて無產者階級の一少部分なるも彼等は最高の理論的興味に充たされ、高き目的追求の感激によつて滿たされてゐる。

反之、民主制は全然異つた働を無產者階級に及ぼす。現今の生產方法を以てしては、無產者階級が一日の中、自由に使用しうる時間は僅少に過ぎない。民主制は多數の行政事務によつて其の集團組織を發達せしむる。民主制は國民に多數の日常問題、往々極く小さな種類の問題の討議と解答とを要求する。故に無產者階級の自由なる折角の時間も所謂「些事」の爲に費され、小さな一時的利害のみが彼等を煩はし狹き範圍に彼等の心境を閉じ込めんとする。從つて理論に對する無理解、否全然その誤解、大原則の代りに御都合主義が、ます／＼蔓つてくる。マルクス、エンゲルスが當時の西歐及び亞米利加の勞働者に比し、獨逸勞働者の學理的精神を稱讚しえたるが如く、彼等にして現存せば恐らく今日獨逸の勞働者に比し露西亞の勞働者の理論的興味に關する同じ優越を稱讚するだらう。

而も至る所、階級意識に目醒めたる無產者階級並にその代表者は、民主制獲得の戰ひをなし彼等の多くは流血の慘も厭はないではないか。

彼等は民主制なき所、萬事休するを熟知する。專制主義に對する戰は、その高揚的效果全集團に及ばずして、唯その選手に止まる。他方吾人は民主制が無產者階級に及ぼす俗化的作用を見積りすぎてはならない。この作用は民主制其れ自身に存せずして、無產者階級が現に惱んでゐる夫の自由時間の缺乏と云ふことに存する。自由を持つことが不自由なることよりも必然的に人を小さくし、狹くするものなりとせば實に妙なることである。民主制の效果として、ます／＼勞働時間を短縮するに從つて、勞働者の自由使用の時間增加し、是に伴れて勞働者は、已むを得ざる雜事以外に、大きな、包括的問題にも耽ることができる。

斯くて激動が必ずや來らざるを得ない。何んとなれば民主制が何を爲しうるにせよ、資本家主義的生產樣式の生める對立は、この樣式自體を克服せざる限り、民主制を以て之れを克服するを得ない。苟も資本家主義的社會なる限りこの對立は成長して、ます／＼大きな混亂を生み、無產者階級をして其精神を絕えず向上せしむる底の大問題に向はしむる。その結果民主制の下にありては、斯く如き向上は啻に國民の選手に止まらず、遍く國民の全部に及び、國中に日常自活の實地を習練せしめるからである。

獨裁政治

民主制は社會主義的生産様式の樹立に不可缺の基礎をなす。民主制が優勢にして初めて無産者階級は克く熟成を遂げ、社會主義を實現するに至らしめる。民主制は結局この熟成の最も確實な分度器に他ならない。社會主義に對する準備と實行せられたる社會主義と、この兩者は倶に民主制を必要とするものなるが、この兩段階の間に尚ほ第三の段階がある。其は無産者階級が、政治的勢力を占めたるも社會主義を未だ經濟的に實現せざる過渡期である。この中間段階に在つては民主々義は不必要なるのみならず有害である。

この見解は何等新奇なものではない。吾々はワイトリングがかく解釋して居るのを既に述べた。これ實はカール●マルクスの言葉に則つて居るのである。彼はゴタ綱領を批評して、千八百七十五年五月に書いた手紙の中に次の如く云つて居る。

資本主義的社會と共産主義的社會との間には前者から後者に移る革命的轉化の時代がある、是に對應して、亦た政治的過渡時代を現出する、その國家體制は無産者階級の革命的獨裁より他なるものではない。

惜しい哉、マルクスは這般の『獨裁政治』を如何に觀察せしか詳細の説明を敢てしなかつた事である。文字通りに解すれば、この語は民主制の廢棄を意味する。併し自由に文字を解すれば、何ら法規に束縛されない一人の獨裁政治をも意味するのである。乃ち專制主義とは異る一人の獨裁政治を意味するのであつて、前者は固定的なる國家制度であり後者は、ある一時的の必要手段である。

『無産者階級の獨裁政治』と云ふ、いひ表はしは、一人の獨裁政治ではなく、一階級の獨裁政治を意味し、從つてマルクスがそのいひ表はしの文字通りの意味で考へてゐた事を既に打消してゐる。

彼は此で政治の形式に就て云つたのではない。たゞ無産者階級が政權を奪取した場合に常に必死的に起る狀態に就て論じたのである、彼れが政治の形式を眼中に置いて居ない事は、英國や米國に於て資本主義的社會から社會主義への行程が民主制の大道に由つて坦々と行はれ得るてふ彼の意見に徴して明かである。

いかにも民主制は未だ平穏な行程を保證してゐないが、民主制なくして社會主義への平穏な行程が不可能な事は保證して宜い。

マルクスが無産者階級的獨裁を如何に考へて居たか、是

に就て吾々は頭をなやます程に議論する必要は毫もない、千八百七十五年五月にはマルクスは、もはや無產者階級的獨裁を如何に解釋するかを敢て問はなかつた、蓋し彼は之を數年前その著『フランスに於ける內亂』(一八七一年)中に發表して居たからである。その一節に曰く

このコンミユーンは、主として勞働者階級の政府であつた。何でもかでも我物とする階級に反對して生れた戰ひの結果である多年摸索の後、發見された政治の形式であつて、この形式の下に於てこそ勞働者の經濟的解放が行はるゝ事を得るのであつた

其故にパリのコンミユーンはエンゲルスがマルクスの著書第三版の緒言に於て明言する如く無產者階級の獨裁政治であつた。

獨裁政治ではあるが、之を以てコンミユーンは決して民主制の廢止ではなかつた。否民主制を出來るだけ廣く行つた。換言すれば普通選擧權を基礎として立つて居たのである、該政府は普通選擧權に服從せざるを得なかつた。

コンミーンは普通選擧に依り、パリの種々の地域で選出された市會議員から成立つたのである。普通選擧權が、コンミユーン組織の人民に役立つた事は、丁度雇主が勞働者その他の者を探し出す雇主の選擇權の様なものであつた。(四六頁四七頁)

此場合も、やはりマルクスは全人民の普通選擧權を論じて居るのであつて特別の特權階級の選擧權を論じて居るのではない。無產者階級の獨裁は彼に云はせると、優勢なる無產者階級が存在する場合、純粹なる民主制から必然生れる狀態である。

同じ意味でフリードリツヒ、エンゲルスも彼の前顯論文(一八九一年)中に、社會民主黨のプログラム草案に關して次の如く云つて居る。

民主々義的共和政體は無產者階級が專制をなす特殊の形式である、(一一頁)

故に民主制と相容れざる獨裁政治に味方せんとする人々は、マルクス又はエンゲルスを援用する事は出來ない。勿論かく言へばとてその人々が誤つて居るとは言へない。たゞその人々は他の擧證をしなければならない、と云ふのである。

この問題を考究するに當つて用心すべきは、狀態としての獨裁政治と政府の、形式としての獨裁制政治とを混同しない事である。我等の爭議の種子は後者の非望である。政府の形式たる獨裁政治は反對者の權利剝脫と同意義であつて、反對者は選擧權を奪はれ、出版の自由を奪はれ、團結の自由を奪はれる事になる。問題は優越なる無產者階級がこの方法を要求するか否か、この獨裁政治を以てするのが最もよく或は全く、これのみに由て社會主義に到達し得る

か否かである。

玆に於て第一に先づ注意すべきは政府の形式としての獨裁政治と一階級の獨裁政治との別である。如何となれば一階級は既に說明したるが如く、單に支配し得るのみにして統治する事を得ない。獨裁政治なる語を支配の狀態とせず政府の形式と解するならば一個人の獨裁政治かさもなくば組織體の獨裁政治――從て無產者階級全體の獨裁政治ではなく無產者階級のある黨派の獨裁政治――かに就て用ゐる事が出來る。但しこの問題は無產者階級が種々の異つた黨派に分れるに從て複雜になる、こゝに謂ふ、ある黨派とは、もはや無產者階級全體の獨裁政治ではなく無產者階級の一部分が他の部分に對する獨裁政治である、社會主義の黨派が非無產者階級に對する態度の爲めに分立せる時に、その一黨派が都市の無產者階級と農民との結合によつて權力を得し場合には、事情は一層複雜になる。この場合には無產者階級の獨裁政治は、單に無產者階級者に對する無產階級者の獨裁政治ではなく、無產階級者に對する無產階級者及び農民の獨裁政治である。

然らば何故に無產者階級の支配は民主制と相容れざる形式を採り且つ採らざるを得ないの乎、『無產者階級の獨裁政治』と云ふマルクスの語を引證する者は、それに由つて、特別の事情の下に發生する狀態を指せるものではなく、如何なる事情の下にも生ずべき狀態を指せるを無視してはならない。無產者階級は通例、それが民衆の多數を占むるか、若くは少くとも多數を背後に有する場合にのみ支配者となるのは自明の理である。政治上の鬪爭に於ける無產者階級の武器は經濟的に不可缺要素のそれと齊しく矢張り數である。彼等は集團であり、國民多數を背後に持つ場合にのみ支配階級の强壓手段に打勝つ望みがある。

マルクスもエンゲルスもかく考へて居た。彼等が共產者宣言中で次の樣に云つて居るのも是が爲である。

> これ迄の運動は總て少數の運動であつた、且つ少數の利益の爲であつた。無產者階級の運動は最大多數の利益とする最大多數の獨立運動である。

如上の事實はパリのコンミユーンにもあて嵌る。革命新政府第一着の事件は普通選擧權の試行であつた。頗る自由に行はれたる選擧は、パリの殆ど全區域に亘り、コンミユーン側に大多數を選出した。當選者八十六人中革命派六十五人に對し反對者は僅に廿一人、その廿一人も直接反革命派は十五人として、六人はガンベッタ派の急進共和黨員であつた。六十五人の革命派によつて當時のフランス社會主義の各方面が代表されて居た。從て是等は、その內部で互

に爭ひ、勢ひ獨裁政治は行はれなかつた。

多數に根深き政府は民主制を侵さんとする毫末の動機も持たない。但し民主制抑壓の强力行爲の加へられんか件の政府と○○○○○○○○、○○○○○○○○○以てのみ對し得るからである。

固より多數を背後にする政府は民主制を保護せんが爲に强力を用ゐるのであつて、之を撤廢せんが爲ではない。若しこの政府にしてその柱礎たる普通選擧權——權力的道德權威の淵源を除去せんと望まば、是れ恐らく自殺を圖るに伴しいと云つて宜い。

獨裁政治にして民主制撤廢が問題となるは全く除外例の場合に限る。例へば萬事好都合が副湊して、爲に多數民衆の味方がなく或は全然敵對するも尙ほ能く政權を一部無產者階級が奪取し得るが如き是である。

幾十年政治的に訓練せられ黨派の確立せる國民には、上述の如き僥倖は困難である。かゝる僥倖は正しく周圍の事情の未發達を表はす。普通選擧權者がこの場合、その社會主義的政府に次の如く叫はゞ奈何『當政府は人民の叫に從ひ、猛志を以て民主制にて國家の權力競爭を更に續けんが爲に、吾等が從來、常に各政府に待望せし事を果すべき乎抑々又自己自身を維持せんが爲に民主制を破壞すべき乎』

一體如何にして獨裁政治は多數の意志に反しても權力を掌握し得るか、案ずるに二つの方法のあるを見る。ジエスキツト流は其一にしてボナパルト流は其二である。

吾々は既にパラガイに於るジエスキツト派の國家を摘示した。ジエスキツト派がパラガイに於て獨裁制を執つたのは彼等が彼等によつて組織されたる土着住民より精神的に遙に卓越し、土着は彼等無くんば全く適歸する所を失ふ狀だつたからである。

我が歐洲の各國家内にて一社會黨派が果してかゝる卓越の地位を贏ち得られやうか。否、そは到底不可能である。なるほど無產者階級はその階級鬪爭に於て精神的には他の勞働階級、小商人又は小農民よりも卓越して居るけれども三者は相互に政治的利益並に諒解を增加しない譯ではなく、此等階級の間の距離は決して、さうかけ違つたものではない。

筋肉勞働階級と相並んで知識を以て働く一社會階級がある。その數は益々增加せんとし生產行程には益々必要ならんとするものであつて、その職務は才能の獲得知識の錬磨發達に存する。

この知識階級は無產者階級と資本家階級との中間に伍し只管に資本主義を謳歌せず、さればとて無產者階級に對し

ても、無產者階級自身がその運命を開拓するに充分なりと信認しない一團である。無產者階級解放に熱烈なる味方たる知識階級の人々――例へば空想社會主義者の一派の如き――も階級鬪爭の當初には勞働運動に對して否定的の態度を採つた。この態度は無產者階級がその鬪爭に逐次成果を現はすに至り漸く變る。社會主義に味方する知識階級が無產者階級に對して持つ信認は一九一四年八月四日以來、自由黨、並に獨逸の政府すらも同じく持つ信認と混同視してはならない。前者の信認は無產者階級が自己自身を解放する實力と能力とを取得したと云ふ確信に發し、後者のそれは當該社會黨は、もはや無產者階級の解放鬪爭を眞面目にしないだらうとの期待に發して居るのである。

要するに知識階級無くして、若くはこれに反對して社會主義的生產は所詮できない。多數國民が一無產者階級に對し不信の態度若くは排斥的態度に立つ樣では知識階級の多數も亦同樣の態度に出るであらう。すると勝者たる無產者階級も他の國民に對して、もはや知識的凌駕を望めないものである。たとひ一般の社會事件に於て彼等の理論的地位はもつと高かるべき筈でも反て退步する。

バラガイでやつたやうな遣口は、歐洲では駄目である。然らば殘る所は他の一法である。卽ち、ナポレオン第一世が一七九九年の霧月十八日十一月十一日に媾じた所の遣口及び彼の甥ナポレオン三世が千八百五十二年十二月二日に媾じた所の遣口である。他でもない、そは無秩序なる民衆に對し、中央集權の鞏固優越と强勢なる武力とを以てする所の政治であつて、これ全く政府の武裝せる力と武裝なき若くは軍に疲れたる民衆とが對峙するから起るのである。

かゝる基礎の上に社會主義的生產樣式が能く樹立されやうか。社會主義的生產樣式とは社會による生產の組織化を意味し、全人民による經濟的自治を要求するものである。官僚若くは一階級の獨裁政治による生產の國家的組織化は社會主義ではない。社會主義的生產樣式は廣く民衆に組織的の敎養を要し、無數の經濟的自由團體の存在を前提し且つ完全なる團結の自由を必要とする。勞働の社會主義的組織は兵營的組織であつてはならない。

少數の獨裁政治が人民に完全なる團結の自由を與へんと望まば之と共に自己の勢力を凋落せしむるだらう。故に之に對し自由を抑壓して自己を主張せば玆に彼等は社會主義への發達を促進せずして妨るものである。

少數の獨裁政治にとつては、從順なる軍隊に何よりも力强き支柱を發見する。斯くして彼等が民衆の代りに武器に依るほど、反對黨の秩序を投票――それは反對黨に用をな

さないのであるが――に訴ふる代りに銃劍に訴へんとして之を益々壓迫する。そこで内亂は政治的、社會的反對者の謀叛の形をとつて現はれる。政治上、社會上全く無感覺、無氣力ならざる限り少數の獨裁政治は常に猛烈なる一揆又は間斷なき小闘によつて脅かされるものである。この結果は軈て一層多數の武裝したる永續的叛亂に移り、獨裁者の有する總ての軍隊力が之と戰ふ必要に迫らる。實に獨裁政治は内亂によつて生れずして内亂によつて常に倒されんとする危險に出會ふ。

社會主義的社會の建設には内亂ほど祟るものは無い。勞働の分業が地理的に廣まる現狀にあつては、工業上の大事業は、何處も、交易並に契約の確實に大關係を持つ一般に戰爭はたとひ敵が國内に侵入せざるも、社會主義的建設に大いに祟るものである。現時ロシア革命の各方面に於るロシア社會主義者間に、社會改造の爲に平和の必要が高調力說せられつゝあるは尤もな事だ。内亂は社會的經濟に對し對外戰よりも尙ほ遙かに破壞的である。それは必然的に國内で演ぜられ國土を荒廢せしめ、衰微せしめる點は敵の侵入と選ぶ所はない。否、もつと大である。

國家間の戰爭は通例單に一國若くは他國政府の勢力得喪を目的とし、直にその生存には關しない。戰爭終了後は戰爭參加國の各政府、國民はよし厚誼でないにしても、兎に角平和に生存せんと欲し、又しなければならない。

内亂に於る黨派の相互關係は、是とは全然赴きを異にする。彼等は反對派を讓步せしめ共に平和に生存せんとして戰ふのではない。又内亂では民主制の樣には行かない。民主制にあつては少數が保護せられ、少數になつて政府組織の望みなき黨派も之が爲に、決してその政治的活動を放棄するを要しない。また制限するだけの必要すら認めない。且つ各黨派は少數となるも多數たらんと努め、それによつて政府組織權を常に保持して居るのを常とする。内亂に於ては、各黨派はその生存の爲に戰ひ爲に服從者を脅すに根柢からの破壞を以てする。この意識が内亂をわけもなく慘酷にするのである。卽ち軍隊の力によつてのみ權力を維持する少數者は、彼等の反對者を血腥き手段で抑壓し、また彼等内亂によつて脅かされ而も之を鎭壓する事が出來る場合には、反對者を野蠻なる虐殺に陷れる事も有り勝である。パリに於る千八百四十八年六月のその日及び千八百七十一年の血腥き五月のその週は、この事を最も明確に語る。

慢性内亂的組織並に獨裁者の交替、換言すれば民衆の無感覺と無氣力とは社會主義的生產體系の建立を殆ど不可能とする。それ故内亂か、然らずんば無感覺を必然的に生む

獨裁政治は、資本主義から社會主義に至る過渡期を遣るに神聖なる手段たるべきであるとは何たる奇なる論法よ、呵々。

多くは內亂と社會革命とを混同して、內亂を社會革命の形式と看做して居る。內亂に於て已むなく行ふ暴行を目して、これ無くしては革命は成就せずと辯疏する傾向がある。從來の革命は總て爾うで在つた。今後の革命も或は爾うであるかも知れん。

されど吾々社會民主黨は常に爾うであつたとて必ず爾うであらねばならぬとは思はない。吾々は革命を描くに當つて今迄の內亂による革命を實例にとつて描いた。惟ふに無產者階級の革命は、これ等とは全然異れる條件の下に行はれるであらう。

內亂による革命は如何なる國に勃發するか。之を實際に徵するに、概ね國民に緣のない軍隊に保護せらるゝ獨裁政治が、總ての刺戟を抑へ出版、集會、團結の自由もなければ、普通選權もなく、眞の國民代表が行はれて居ない國家である。政府に對する鬪爭が、この場合內亂の形を採るのは必然である。今日の無產者階級は、少なくとも、西歐諸國では、國家に於ける政治上の勢力を持つて居る。それらの國家に於ては數十年來民主制、否、よし、純なる民主制ならずとも、ある意味に於ける民主制が深く張り、且つ軍隊も今日では前の如く國民と沒交涉ではないのである。從て吾々は、もはや西歐諸國に於て、決してフランス大革命の前例が繰返されると思惟する必要はない。今日のロシアが一七九三年のフランスに克く類似せる事を示すのも、そは單に內亂的革命の狀態にどれだけ接近せるかを示すに止る。

社會的革命政治的革命と內亂とは判然區別しなければならぬ。

社會革命は社會と云ふ建物全體を根本から變化させる事であつて、新生產樣式の樹立によつて齎らされる。全く長き行程であつて、こゝ數十年は續き、その終末も分明に區切る事は出來ない。この行程は進行形式が平和なるほど益々進捗し、內亂と戰爭は不俱戴天の敵である。社會革命は通例政治的革命に由るか、又は國內に於る階級的權力關係を卒然除去する事に由て行はれ。之が爲に從來政權から除外されたる階級が政治機關を占領する、政治的革命は殺急な行動であつて、非常に迅速に行はれて、その目的を達し得るものである。政治的革命の形式は、その行はれる國狀により變つて來る、民主制が形式的のみならず事實上、多數勞働者の力の上に立てる程、政治的革命は平和に行はれ

る概然性が一層確かである。これに反して現行制度の存立が民衆の多數によらず少數者を表現し、單に軍隊力に據て權力を支持する者ほど政治的革命が內亂の形式を採る概然性は益々強い。

後の場合に於ても、社會革命の援護者は、內亂が單に一時的であつて、迅速に演ぜられた挿話として殘るに過ぎない事。單に民主制を齎らし確定するに役立つ事。社會革命は內亂の作用に委ねられる事、卽ち社會革命はその際民衆が進まんと欲するより以上に遠くは進まない事に重大な關係を持つて居る。社會革命の終局目的を現實化する事は遠識者にとつては頗る望ましき事なるも、その可能なるは民衆の期望以上に繼續せしむる必要條件が發見せられないからである。

而も、パリの無產者及小商人の恐怖政治、少數獨裁政治は、フランス大革命に於て、歷史的に最も重大なる意味を持つた偉大なる作用を引起したではないか。

然り、確に！　たが其は。どんな種類のものであつたかその獨裁政治は歐洲の諸君主國聯合軍が革命しつゝあるフランスに對して行つた戰爭の產んだ兒であつた。この攻擊を破碎して勝利を得たのは恐怖政治の史的事業である。恐怖政治は戰爭には民主制よりも獨裁政治が遙に勝るとの古き眞理を今更に明證した。かゝる眞理は明證せしも、之を以て獨裁政治が無產者階級の爲に彼等の意味に於る社會改造を導き又は政權を振はしめると云ふ事は明證しなかつた

千七百九十三年の恐怖政治は互に勢力爭ひをしなかつたそれにも拘らず彼等無產者は勢力を維持する事が出來なかつた。この獨裁政治は各部類の無產者や小商人の政策の互に爭ふ手段となり、到頭總ての無產者及び小商人の政策に終を告げしむる手段となつた。

下層階級の獨裁政治はサーベル專制の爲に道を開くものである。

內亂による革命を前例として說かうと欲するならば、革命は內亂や獨裁政治と同意義である、由て又其結果を引證して革命は必然的に、クロムエル若くはナポレオンの政治を歸結とすと云はねばならぬ。

是れ果して無產者階級の革命の必然的歸趣であらうか、否、若しも無產者階級が國民の多數を占め、その國民が民主制に據つて組織せらるゝ場合には決してさうではない。この場合には、たゞ社會主義的生產の種々なる條件が問題となる丈である。

吾々は無產者階級の獨裁政治と云ふ事を民主制を基礎とする無產者階級の政治と云ふより他に解されないだらう。

（在大學院法學士高木友三郞譯）

隷屬か貧困か

――社會問題に對する二つの觀方――

一

事實において無產者と有產者とは對立をしてゐる。有產者とは財產を持てる階級であり、無產者とはその勞働以外に財產のない階級であるのは言ふまでもない。現代社會の經濟的基礎がこの兩階級の對立に置かれてゐるとはすべての進步した社會思想家の認める所である。扨てこれ等二つの階級が斯樣に對立の狀態になり、有產者階級は無產者階級に優越して、經濟組織を左右し、社會的生產によつて產出せらるる富の大部分を其階級自身によつて占有することの原因は何であるか。或る人は之を無產者階級の有產者階級に對する『隷屬(スレーバリ)』の爲であるとし、他の論者は無產者階級の『貧困(ポバアティ)』の爲であるとする。その結果甲は社會改造の根本問題を隷屬の關係に置き、乙は之を貧困の問題に置く。從つて、一の叫びは『自由』であり、他の聲は『パン』を求むるの叫である。

二

人はパンなくして生きることが出來ない。社會問題を胃腑の問題とする人はこの前提から出發する。さうして經濟生活の實相を觀察する。第十八世紀の終りから第十九世紀の初期に當つて多くの機械は發明された。ケイ、ハアグリーブス、アークライト、クロンプトン、カアトライト、ホイツトネイ、ワツト、フルトン、スチフエンソン等の有力な發明家を數へることが出來る。この內でケイからホイツトネイまでの六人は各々有力な紡績機械を發明考案した人で、ワツトは蒸汽機關を、フルトンハ蒸汽船を、更にスチフエンソンは汽車を發明した。この生產用具の進步と交通機關の發達とは、經濟生活の大進步を齎らした。產業革命がこれである。けれども產業革命の齎らした結果は多數の人々に對しては不幸であつた。生產額は增加した。生產物の品質は均一となり、さうして向上した。廣大な工場と美事な機械は未曾有の勢力を以つて働いた。けれどもその結果は勞働者階級の幸福ではなかつたのである。當時の英國工

場監督官は六七歳の幼年工が鑛山の坑道の濕めぽい所を重いとろつこを押してゐることを報告した。婦人は家庭と夫の愛を捨てて僅かな賃銀の爲めに工場の機械に追ひつかはれた。「婦人は丸裸同様になつて炭鑛の中に働いた。……さうして勞働時間は老幼を問はず、肉體の勢力のあらん限りは繼續せられ、然も人口の增加に必要な衞生設備の如き何物をも發見することは出來なかつた。」（ウェッブ社會主義の歴史的基礎）

こんな狀態に對しても社會の權力階級は知らん顏をしてゐた。『既に占有された世界に生れた者は、もし彼がその正當な要求の權利を持つてゐる彼の親から生活資料を得ることが出來ないならば、さうしてまたもし社會が彼の勞働を必要としないならば、彼は一片の食物をも要求する權利はなく、事實彼の生存してゐる所に何の用もないのである。自然の偉大な饗宴において、彼の爲めの空席はない。自然は彼れに去れと命じ、さうして直ちに其の命令を施行するであらう。」（マルサス「人口論」第二版）これが權力階級の社會哲學であつた。貧困は自然であると彼等は觀じたのである。けれどもリカルドの經濟學から生れたリカルド派社會主義者の一派やロバアト・オーエンやチャーチスト運動の人々はかゝる社會哲學に服することは出來なかつた。「自然の偉大な饗宴」に何人をも參加せしめんとしたのは彼等であつた。彼等は貧困を以つて社會問題の根本的のことであると考へ、さうして、この貧困を除去することによつて其理想社會を建設しようとしたのである。けれども彼等の運動は失敗に終つた。

三

價値は勞働によつてのみ創造せらるると云ふ出發點から、勞働力の賣買によつて、勞働の產出した餘剩價値が資本家の占有する所となると說いのはカアル・マルクスである。マルクスは其餘剩價値論を詳說した其の「資本論」の中ではその所謂勞働者絞取制度について倫理的批判をしてゐるものではない。マルクスは生產が社會化されて行くのに富の分配が依然として社會化されないその矛盾の上に資本主義の崩壞原因を求めて、其唯物史觀的經濟學說を說いてゐる。然し乍ら同じく唯物史觀の色彩の濃厚な「共產黨宣言」では資本主義經濟組織の必然的崩壞と其際における無產者階級の革命とを力說するものであるが、マルクスはこの無產者階級の革命による生產組織の社會化によつて新社會は出現すると觀てゐる。マルクスは新社會の組織に就いて多くを語らないが、其考へてゐる所は富の分配によつて

社會問題を解決しようとするのである。こゝから出發して實際的の案を立てたのが社會民主主義である。だからマルクスの本尊を容るる社會民主主義の伽藍によつて吾々はその將來の社會組織を見ることが出來るのである。兎に角、マルクスの社會問題に對する見方が「パン」の問題であるのは「人は其の食ふ所のパンなり」と云つたホイエルバッハの唯物論にマルクスが多くの影響を受けてゐることと——勿論後に至つて、マルクスはホイエルバッハの影響を免れたと言はれてゐるが——社會組織が人間の意識を決定するとした其の唯史物觀を見ても解することが出來ると私は思ふ。
だからマルクスの實際運動であつた社會民主主義の根本的要素の一は貧困の絶滅にあると云ふことが出來るのである。

四

社會問題の根柢が貧困の問題であり、從つて社會運動の目的も貧困の絶滅であるのは既に說いた。（我國では河上肇博士がこの立場を取つてをられる）

然らば其貧富の差はどの位の程度にあるのか。こゝに之を詳論するの餘白がないから私は其の一例としてロバアトハンターの「貧困」に引用されたスパアと「社會的不安」の著者ジョン・グラハム・ブルークスの研究を揚げたいと思ふ。

スパアは富豪階級（五萬弗及それ以上）富裕階級（五千弗より五萬弗まで）中產階級（五百弗より五千弗まで）貧民階級（五百弗以下の）四階級に分つてゐる。統計は米國合衆國における一八九〇年のものであるから今日で所有財產の率が上進したものと見れば大した差問はないと思ふ。

階級別	人員 千人	合計財產 千萬弗	平均財產 弗
富豪階級	一二五・	三三〇〇・	二六四、〇〇〇
富裕階級	一三七五・	二三〇〇・	一六、〇〇〇
中產階級	五五〇〇・	八二〇・	一、五〇〇
貧民階級	五五〇〇・	八〇・	一五〇

この表からスパアは合衆國内の家族の半數は無產者であるとの結論に達し、さうして、總家族數の八分の七が全國の富の八分の一を所有し、總家族數の百分の一の家族が其殘餘の九分九厘までの富を所有せることを發見したのである。

更にプルークスの研究によると總家族數の一パアセントに當る富豪階級は國民全體の富の五四・八パアセント、を一〇・九パアセントの中等階級は三二・二パアセントを、三八・一パアセントに當る貧困階級は一三パアセントを所有し、五〇パアセントに當る極貧階級は何物をも所有しないのである。

扨て斯様な貧富の差は如何なる現象を起すのであるか。其の財によつて衣食し得る階級に屬する者は何等勞働に從事することがなくとも、其の日常の生活に困難することはない。彼等は食すべき食物を貯えることも出來る。着るべき衣服も氣候に先き立つて作ることが出來る。寢るに柔かい床と、住ふに心地よい室とを持つことが出來る。けれども其の手に衣食住に足る丈けの財産のない人々は着る爲め、食ふ爲め住ふ爲めに働かなければならない。自己の欲する所のものを得る爲めに貨幣を得なければならない。資本主義の世の中では黄金は萬能である。無產者はこの萬能の黄金の前に一日の勞働を捧げなければならない。勞働とは在外目的（貨幣獲得）の爲めにする苦しい力作である。この定義は資本主義制度の下における勞働の定義として最も巧妙なものである。

五

無產者は食ふ爲めに働かなければならない。更に働く爲めには職を得なければならない。こゝで勞働の需要と供給の問題が起つて來る。勞働の意志とこれに耐え得る丈けの體力を持ち乍ら尙ほ且つ、勞働の需要がない爲めに働くことの出來ない人々がある。所謂失業者の群れがこれである。無產の失業者は其の失業の瞬間から生活の不安を增して行く。手より口への生活の「手」が働を止めるに至つた、精神的の不安は無產有職の當時に必ず倍加するものがあるであらう。而してかゝる失業は個人的原因によるものでなくして、社會的原因によるものである。この社會的原因による生活不安は現代の無產階級が何人も感ずる所である。

よしまた幸にして、一の職にあり附いたとしても、其賃銀の頗ぶる低廉なことがある。殊に不熟練勞働にして競爭の激甚な所において然りである。一國の富の內の一部分か賃銀基金として取り除かれてあることを承認し、勞働者數の增加に從つて賃銀は低落するものであると云ふ賃銀基金說を採らない人でも現代における賃銀が生活賃銀以下あるもののあることを認めるであらう。こゝに生活賃銀と云ふのは單に人間の生存を保證し得る丈けの賃銀を意味する

のではない。それは單に人間の生存を保證するのみでなく、其の仕事に相當した勢力を回復する爲めに必要な適當な食物と住居と衣服とを得る許りでなく、その家族に對しても相當の衣食住を供給する餘力がなければならないのである。然るに斯樣な生活賃銀を得るものは相當に熟練あり、特殊性ある勞働に限るが如き觀がある。然し機械の發明はこの熟練特殊的勞働をも普通の勞働に引き下ろしてしまふ樣な傾向のあることは勿論である。だから勞働者は——機械が勞働絞取の爲めに用ひられる所では——新しい機械に對して反感を持つてゐると云ふのはウエッブの云ふ通りである。さう云ふ風に觀察して來ると勞働者階級の中で充分な賃銀を得てゐるものは極めて少數だと云ふことになる。

かくて勞働によつて生産された價値は益々富者階級に集中して、富者は益々其富を增大し、勞働階級は——比較的に言つて益々貧困に陷つて行くのである。こゝで問題が起るのである。斯樣に國民中の大多數の勞働者階級が貧困狀態に置かるゝと云ふことに對する批判である。其の批判は其の基礎を唯物史觀的論據の上に置く。人間は境遇の產物であると云ふ點を力說するのである。故に斯くの如き論者が貧困は罪惡であり、その貧困を取り除くことが社會改造の主要目的であると見るのは極めて自然である。何故に然るかと云ふと彼等の最も重要視する所は人間日常の生活で、ある。人間日常の生活を豐富にしないならば、何等の文化も、何等の進步も出來得ないと見るからである。斯樣な見方をする人は舊來の個人主義の社會學說と同じ樣に人間は何等かの强制なくしては働かないと見ることに於て一致するものであるが、彼等（國家社會主義即ち集產主義者にこの種の見解を懷く人が多い）は個人主義者の如く自由競爭による飢餓の强制を信じないで、協同的社會組織における强制を信ずるのがある。而してかゝる社會制度によつて貧困を救ふことによつて社會問題を解決せんとするのである。

この種の論者の云ふ所が「貧困」の問題であり、社會問題はパンの問題であると云ふ意味がこゝに至つて判然としたと思ふ。從つて主題は二の「パン」の問題とする說に對する批評と其の主張とに移られなければならない。（つゞく）

（甲野哲二）

訂　正

「批評」六月號五頁砂の一粒も重くなる云々は『砂の一粒ほどにもならなかつた』の誤り、また同八頁中『需要された場合に』は『需要の見込で』の誤りにつき訂正

六時間勞働論（レバーハルム）（二）

加うるに總ての者が勞働者であり、生產された富の上に租稅が廣く賦課せらるゝが故に租稅の負擔は何をも貧困に陷れ或は壓迫するが如き事は無い。聰明にして眞面目な課稅の唯一の基礎は奢侈品以外のあらゆる貨物の課稅を避け且つ專ら歲入の爲めとし主として累進所得稅竝に遺產相續稅に依り一層歲入を增加せしむる事である。あらゆる階級の人々が個人的過疲とヲーバーウォークの無き適當な時間の間一致協同して勞働するこそ富を生產する唯一の方法である、其處には怠惰な飽衣飽食の不勞働男女もまた粗衣粗食の過勞働男女もあつてはならない。吾が英國に於ける全人口の半分は眞實に富の生產者であると見積られて居る、然かし若し一國民として吾々が此の大戰の損失を償ひ、且つ光榮ある勝利と敵國の無條件降伏を得たる後世界列强中に吾が國の地位を發揚せむと欲するなれば、學校生活せる者より老年に至る者まで、あらゆる階級竝に地位の有力な肉體を有する男女は、一週六日の間六時間勞働者たる事を必要とするであらう、全英國中には怠惰な金持や怠け者や或はカカンニーの貧乏人を容るべき餘地は無い。一國民として吾々はノラクラ者の存在や、若しも存續するものとしたらば英帝國がノラクラ者の樂園となる事を認容することは出來ないのである。

然かし英帝國の總ての產業に同時に六時間勞働を施行することは絕對に不可能であり、非實行的である、六時間勞働制の發達は英國に產する樫の實の如く遲々たるものであらう、けれども夫れは確實である。而して其れは機械を長時間使用し、人間は二回又は夫れ以上の交番勞働制に依り短時間の間勞働せしめ生產費を減じ得るが如き產業にのみ適用が出來るのである。例へば六時間制は直ちに農業に適用出來ないと云ふのは現在に於ては農業には補助勞働機械が殆ど無いからである。然かし既に蒸汽や石油索引機が耕耘耕作種蒔きや收穫、運搬等に年々成功し益々多く使用せらるゝ、さうしたなら六時間勞働制と二番交代制の時が農業に於て人道上最も適當な又最も經濟的使用法であると云ふ時代が來ることは明かである。ヲーバーヘッドチャーヂの生產費の總高が賃銀の緩和と等しい、あらゆる產業に於て六時間勞働制は損失する事なく適用出來るのである、然

し多くの工場にてはヲバーヘッドチァーヂの形式に於ける生産費は賃銀の二倍若しくは夫れ以上である。之等後者の場合に於ては、若し原料品竝に勞働者の供給が有效にされ生産品に需要がありさへすれば六時間勞働制は多大の利益を齎らして直ちに適用することが出來る。六時間勞働制は婦人、少女が雇傭せられて居る總ての産業に最も緊急にして必要な勞働條件である。既婚婦人たると未婚婦人たるとを問はず、産業に從事せる婦人の大部分は父や兄弟とは異り産業上の仕事と同じく幾分かの家事をせねばならぬと云ふ事を記憶せねばならぬ。而して之等の家事の時間と夫れに依る疲勞は、工場、商店、役所に於ける彼等の仕事に影響する所を考へなければならぬ。

資本の利子、組合員及び支配人の給料、修繕竝に更新費消耗費、諸税（收入利益の課税を除き）の如きヲバーヘッドチャーヂの額が毎週の賃銀額に略々等しき織物工業や其の他の工業に於ては、一週四十八時間勞働を變じて三十六時間二交代制なる七十二時間にする時は、生産費には略々次の如き影響を及ぼすのである。一週四十八時間勞働にて一週一千磅のヲバーヘッドチャーヂと一千磅の賃銀の割合で一週一千品目を生産し得るとするときは、一品目の總生産費は原料其他生産額に密接の關係ある相當の費用を除き四十志となる。若し斯くの如き織物工場や其他の工場に於て六時間勞働制を採用したならば彼等は毎週交代の三十六時間二交代制で一週七十二時間働き且つ又時の勞働功程が增加せざるものとし、（之は必ずしも增加せざるものとする必要なし）一週三十六時間に支拂はるゝ賃銀が四十八時間と同樣なりとするも（之は必ずさうせねばならぬ）其の結果の生産額は千五百品目となる。ヲバーベッドチャーヂに對する生産費は餘りに影響する處が無い、何故ならば機械は使用し盡す迄でには殆どきまつて舊式となり、且つ建造物機械の固定資本も前同樣であればヲバーヘッドチャーヂは同じく一千磅である。然し賃銀の額は今度は二千磅である然し賃銀の額は今度は二千磅となる卽ち千五百品目に付き合計三千磅となり原料品を除けば再び元との如く一品目に付き四十志（シリング）となるのである。

而しながら人々が過去竝に現在の經驗に依り正しきを證明した如く疲勞せざる勞働者は六時間内に以前八時間に生産せしと同額を生産し得る、――此の事は後に研究すべし――を想像するならば、生産費に關する數字は次の如くなり經濟的生産に於て如何に利益あるかを示すのである。卽ち三十六時間二交代制一週七十二時間にてヲバーヘッドチャーヂ一千磅賃銀の二千磅、合計三千磅で二千品目を生産

する事が出來る之は一品目に付き三十志となり而かも一週四十八時間勞働制の生産費に比較し二割五分節減し得ることゝなつて居る。之の經濟は一方に於ては以前四十八時間に對すと同額の賃銀が三十六時間に對して支拂はれ、加ふるに賞與の方法に依り勞働者の收入を增加せしめ夫れと共に消費者には生産品の價格を引下げて均衡を取るときは巧みに運用することが出來る、かゝる故實際生産經濟の全利益は先づ第一に直接勞働者には僅少の勞働時間で賃銀と賞與としての總收入を增加せしむることゝなり第二には消費者の生産費を低下することが出來るのである。

資本家も又之の生産經濟に依り利益を受くる、と云ふのは生産額の增加と資本運轉の迅速は其の配當の割合を增加なさしむるためであるヲバーヘッドチャーチが賃銀として勞働者に支拂はるゝ生産費の割合を超過する、あらゆる産業に於ても、其の收益はヲバーヘッドチャーチの增加額の割合に比例して多くなる、と云ふ事は粗雜な容易な計算よりするも明かである。また夫れと同じくヲバーヘッドチャーチが賃銀として支拂はるゝ生産費の割合より少ない所の産業にあつては、ヲバーヘッドチャーチが僅少なれば其れだけ賃銀に對して持つ率に比例し生産費に增加を來たす事は明かな事であり、且つ遂に三十六時間二交代一週七十二時間制を直ちに適用するは不可能にして非實行的である點に達する事も明白である。

次に疲勞せざる勞働者が一週三十六時間に於て四十八時間と同一量の生産をする可能性に關しては、吾々は吾等祖先が十時間勞働法竝に其他の成案討議中に於ける議會の演說記錄を參照しやうと思ふ。而してまた現今に於ては多少自動機械に依つて居るが勞働者の每時の生産の增加は次の二個の方法に依り遂行せられて居るのだと云ふ事を記憶する必要がある。卽ち第一は疲勞せざる勞働者の能率增進に依り第二は疲勞せざる敏捷勞働者はより多くの機械に付く事が出來ると云ふことと之れである。此處に於て或る人は何故四十八時間二交代制で九十六時間働かぬのだと自問するであらう。吾々は此の答に對して一八七四年工場法修正案に關し下院にて演說せるロメイン、カレンダー氏の露國の經驗の引用を適用する事が出來る。彼れは『露國に於ける勞働時間は非常に長い、一例を引けば勞働者二交代に依り一週一三二時間働かせる、夫れにも拘はらず猶ほ一紡錘每の生産は六〇時間働く英國の工場の生産するより少し多いに過ぎない』と云つて居る。

（つゞく）（森恪）

室伏高信著〔第十七版〕

社會主義批判

【主要目次】**國家社會主義**（國家社會主義の起原―社會民主黨と國家社會主義―共産黨宣言―日本の國家社會主義―社會主義と資本主義―デモクラシーと社會主義、封建主義、商業主義、社會主義―政治的社會主義と經濟的民主主義―社會民主主義―勞働者と國家―『國家は死滅する』―ブルジョアの國家―エンゲルス國家觀の意義―『共産宣言』と國家―ベーベルの提議ゴータ會議―カウツキーの主張―マインツの會議―獨立勞働黨の決議―ゲード派の態度―ギルド社會主義―國家社會主義とデモクラシー―ソーシャル・デモクラシー）**修正派社會主義**（ベルンシュタイン―『マルクス主義の危機』―マルクス主義の原則―唯物觀―唯物主義と唯物史觀―マルクスと非經濟的要素―マルクス主義者の態度―餘剩價値説―マルクス價値論―エンゲルスの解説―勞働價値―マルクス抽象論―マルクス價値説と餘剩勞働―資本集積説―資本主義と富の分配―恐慌説―階級鬪爭説―革命説―『共産黨宣言』の批評―政治的民主主義―デモクラシー―社會主義と自由主義―勞働者と祖國―普通選擧―『共産黨宣言』―修正社會主義と理想主義―『カントに還れ』―『カントに還れ』の意義）**サンヂカリズム**（サンヂカリズムの起原―サンヂカリズムの特質―『國際勞働黨者協會』―ゲード派―ブルゼー派―フランス勞働運動の狀況―勞働組合の公認―『勞働紹介所聯合』―『勞働總同盟』―C・G・Tの實力―總同盟罷工―サボタージュ及びボイコット―ベルウチエーと勞働組合とサンヂカリズム―政治的社會主義の不信用―サンヂカリズムと無政府主義―實際的指導者―理論的指導者―ソーレル―マルクス―プルードン―直接行動―サンヂカリズムと無政府主義―サンヂカリズムと國家―バクーニン組織的無政府主義―社會主義の目的―經濟的聯立主義―サンヂカリズムと勞働組合主義―I・W・W・―産業別勞働組合及職業別勞働組合―コレクチヴヰズムとサンヂカリズム―生産者專制）**ギルド社會主義**（ギルド社會主義の起原―英國勞働組合の歷史―『新組合主義』―勞働黨の成立―勞働黨の不信用―トム・マン―『サンヂカリズムの波』―中央勞働大學―ギルド社會主義の誕生―ギルド社會主義と國家社會主義―直接經濟―國家資本主義―消費者―産業民主主義―サンヂカリズムとギルド社會主義―生産者によつての絞取―ギルド社會主義の目的―賃銀制度撤廢―國家社會主義と賃銀制度―資本主義の精髓―貧乏と奴隷制度―産業自治論―サンヂカリズムの立場―生産者の自由及消費者の自由―産業統制の意味―ギルド社會主義と國家―勞働組合と國家―ギルド社會主義の特質）**勞働組合主義**（勞働組合の起原―ブレンタノとウエヴソーギルドの性質―産業革命と勞働組合―各國の實例―契約の自由―社會主義と勞働組合主義―オーウエン主義―チャーチスト―『ナイツ・オヴ・ヴオア』勞働組合主義と社會主義との分離―一八五二年の職業別組合主義―勞働組合主義の定義―國家社會主義的勞働組合主義―職業別組合主義の性質―一八八九年新組合主義の性質―ヱ現代の新組合主義―産業別組合主義の勃興―その性質―その現勢）**ボルシエヴヰキ主義**（ロシア社會運動史―ボルシヴヰキの起原―プレフアノフとレーコン―三月革命と九月革命―『人民』ロッスの書物―妥協的態度―ボルシエヴヰキの本質―勞兵會憲法―トロツキーのボルシエヴヰキ論―レーニンの所論―勞働階級と執政權―『共産黨宣言』とボルシエヴヰキ―手段と本質―マルクス主義とボルシエヴヰキ―ボルシエヴヰキと無政府主義―ボルシエヴヰキとサンヂカリズム―ボルシエウヰキと國家）**無政府主義**（無政府主義の起原―議會主義と無政府主義―暴動派と平和派―モスト―マルクスとバクーニン―クロポトキンの定義―個人主義的無政府主義―集産的無政府主義の性質―團體主義と權力―クロポトキシの無政府主義論―相互扶助と共産主義―自由なる共産主義―政府と所有―共産主義と無政府主義―スチネルの無政府主義―個人主義と無政府主義

價二圓四十錢
送料八錢

東京京橋區元スキヤ町三ノ一
振替東京四五三四六番
批評社

定價

每月一回一日發行	郵税
一部 廿五錢	五厘
半年分 一圓五十錢	税共
一年分 三圓	税共

但臨時特別號の代價は別に申受く

▲誌代は總て前金 ▲送金は可成振替 ▲郵券代用一割增 ▲外國行郵税十錢

大正九年七月一日印刷納本
大正九年七月一日發行

東京市京橋區元スキヤ町三ノ一番地
編輯兼發行兼印刷人 尾崎士郎

東京市小石川區久堅町百八番地
印刷所 株式會社博文館印刷所

東京市京橋區元スキヤ町三ノ一番地
發行所 批評社
振替東京四五三四六 電話銀座一三七四番

大正八年三月廿八日第三種郵便物認可
大正九年八月一日印刷發行

（定價卅錢）

……八月號（第十八號）……

俸給生活者勞働組合論（研究）

クラークと勞働者……組合反對論の價値……クラークの間に於ける勞働組合主義……クラフトと産業……如何にして組織すべきか

ゴドヰンの社會思想

ナショナル・ギルド同盟の原理

批評社

八月號目次

俸給生活者勞働組合論

この一篇はギルヅマンの立場から俸給生活者の勞働組合主義について書かれたるロイド、スカウラア兩氏の新著『書記勞働組合主義』(Lloyd and Scouller, Trade unionism)の大體を譯出したものである。(室伏高信)

一　クラークと勞働者

クラーク(書記または事務員)の今日の狀態について考へる時に質問者が面する最初の問題は多くのクラークが答辯に困難を感ずるであらうと思はれる問題である。「クラークは勞働者であるかといふ時にわれ等は勞働者とは體力勞働者の意味でいふのである。經濟學者と政治理論家は一般に疑もなく輕蔑的な斷言でこれを斥けるのである。しかし賃銀制度その他についての最近の決定によつて判斷するに政府の官衙では全く彼等に一致するように見えない。そしてあらゆる種類の事務所勞働者と親密な接近に入つてゐるわれ等は少し別の考へでこの問題を取扱ふ考へである。

われ等は最初に自由教育の採用されるに至るまでは、讀み且つ書くことの能力は、社會の比較的小部分に限られてゐたことを記憶しくてはならない。その結果としてクラークは人員不足で、非常に尊敬され」そして立派な待遇をうけてゐた。過去五、六十年の間に變化は非常なものであつた。前きの一人の有力なクラークに對して今日では數十人もあるし、そして實際の事實としてこの國に殆んど百萬人のクラークが存在する。このうへに種々な實業專門學校が各週毎に、野心をもつた、速記とタイプライタァの少しできる、簿記について間違つた觀念と國語並にその使用について舊式な思想をもつてゐる數打の青年を吐き出してゐる。人々は大低これ等の志願者が、恐らく商業上の梯子——それは彼れにとつて屢々踏車であることを證據立てる!——の段梯を上るために滑稽に不適當な俸給を受取ることを承諾するがゆゑに金持ちの息子であると推測するであらう。このクラークの供給増加は現存の標準を引下げる効果

をもつた。近時の狀態は婦人の多數が產業に參加することの結果となり、そしてクラークの仕事は彼等の多數にとつてはそれの最も誘惑的な門戶であると思はれてゐる、人々はこの入來を歡迎すると嫌惡するとにかゝはらず、それが男子の多數の流入よりもクラークの狀態により以上の惡結果を及ぼしたことを承認しなくてはならない。何故であらうか？ 普通の議論は、凡ての男子は遲かれ早かれ家族を支へる事の責任あることの合理的な期待をもつに對し、女はそれをもたないといふにある。この事實を利用して多くの雇主は男子よりも以下に婦人に支拂ふ。その結果は失業の男子クラークは彼等の從屬者と彼等自身とがたゞ生存するために婦人の賃銀とされてゐるものを自暴自棄で受取ることを餘儀なくされる。かくして人々は何故に普通のクラークの生活標準が過去數十年の間にしかく決定的に引下げられてきたかの理由を了解することのできる點がある。この低落は、その標準が同一時代中にある種の場合には事實上僅小の改善に遭遇した體力勞働者と略々同一程度に明白ではない。このクラークと體力勞働者との間における關係的地位の漸次的の變化は主として後者が有力なる勞働組合に組織されてゐることの事實に負ふものであることは半盲的クラークでさへ否認はしないであらう。しかしこのことをもつてしてもクラークが、產業上の事柄における彼れの弱點とそしてそれを救治する方法とを知るに充分ではない。クラークは事物を別の方法で考へる。過去は依然として彼れの面前にそれの美しい外被を曳ひてゐる。そして彼れは、給料日にはその俸給がかゝる精神的價値に逆比例を示すことを哀れにも認めるのを餘儀なくされてゐるにもかゝはらず、も一度王樣のように濶步するロングフエロウの奴隸のように、彼れ自身を想像する傾向をもつてゐる。われ等をしてこのことを悉く吟味せしめよ――われ等の氣分が許すかぎり同情的に。

二　クラーク組合反對論について

普通のクラークは論ずる、彼れはプロフエッション(學藝的職業)であるがトレード(職業)でない、彼れは病氣または休日で休業の時でも俸給を受取るが故に彼れは他の勞働者のように單なる動產ではない、彼れは實際に重役室と工場との間における媒介者であり、そして最後に、彼れは體力勞

働者が脂だらけの穢い着物で出てくるのとは違つて殆ど『監督』のような立派な服裝で彼れの仕事にくることを許されてゐると。勞働組合主義と產業史とを學んだ體力勞働者は氣性次第で、これを冷笑するかまたは全然呪咀するであらう。しかしわれ等はもつと寛大にする覺悟である。

　クラークの仕事がトレードとは區別されたプロフエッシヨンであるとする最初の點は議論の餘地があるように見える。しかし議論する事は一層見當違ひであるがゆえにわれ等はそれを論ずる考へはない。クラークの議論が正しいものと暫らく假定しても、彼れば組織に對する反對論を述べてゐるのではない。法律家と醫師とはプロフエッショナルな人であるが尙ほ彼等はこの國において恐らく最も有力な勞働組合をもつてゐる。デモッセネスの雄辯とコークの博學とは獨立ではその持主をして辯論する事をえせしめないであらう。何となれば辯護士組合は『デイリユーション』について强硬な意見を以てゐるからである。英國醫師組合は同樣にその會員の入會と行動とについては注意深く、そしてブラックレッグ(潜り)については最も强硬な反對をする學校教師は、今や强固な組合をもち、製圖家もそうである實にこの二組合は勞働會議のごとき勞働團體に參加する支部をもつてゐる。そして製圖家は勞働組合議會に加はつてゐる。また最後に若し勞働組合被傭者の利益を求めるごとくに、雇主が彼等の利益を求めないとすればどうして雇主團體が存在するであらうか?。これ等の組織された人々ー―法律家、醫師、敎師、製圖家及び雇主――は原則としてクラークよりも高き地位であると見られてゐる。そこで確實にクラークは彼れ等の『學藝的職業主義(プロフエッショナリズム)』を組合反對論として主張することを持續することはできない。第二の議論は週給賃銀または時間給賃銀と區別された年俸がクラークを體力勞働者よりも高き階級に置くように思はれる限り多少の根據をもつてゐる。しかしそれは彼れを組織された學藝的職人以上に置くものではない。更にこのクラークの僅小の利益が、『保險條例』や『近時の立法』や、または『今日節約することの急切な必要』というような莫然たる概念を基礎とするつまらぬ口實のために雇主によつてクラークから次第に奪ひとられてゐる。われ等はクラークにその病氣缺席の時に俸給を拂はない多くの商會の存在することを知り、そしてその數の增加すべきことを恐れてゐる。また體力勞働者の間に、休日に賃銀を與へれなくては、それは休日でなくて『鎖め出し』であるという理由で、凡ての休日

にも賃銀を支拂ふべきものであるといふ要求が高まりつゝある。かゝる支拂ひに對する彼等の權利は彼等の組合の間にその採用を强制するに足るだけの强大な意見をもつに至るとともに承認せられるであらう。このことが完成された時に、そしてクラークに對する病中の支拂ひが止むだ時に、クラークと體力勞働者との間にどの點に區別があるであらうか？　現在においては普通の熟練勞働者は普通のクラークよりも少くとも十パアセント餘分に支給されてゐることを確言することができる。それからして、クラークが休日にも受取つてゐる給料は、たゞ据置支拂ひに過ぎないことが分るであらう。一度體力勞働者が休日給をうくると、彼等はクラークに比して今日よりも一層利益ある地位にあるであらう。何となれば彼等はそれが週給の低落となることを妨げるに充分なる組織をもつてゐるからである。彼れの一番に尤もらしい、この議論においてさへ、クラークは組織に反對すべき立場をもたない。第三第四の反對論は一所に取扱つてもいゝであらう。そして雇主がクラークに信用を許るしてゐるといふことはたゞ彼等の仕事の商業的方面であり、また勞働者に用命を傳へる（これが媒介の眞の意味である）といふことに關しては――これは學藝的職人の仕事ではなくしてたゞ從僕または給仕の仕事であることを指摘して片付ける事ができる。クラークは概して實業の專問的方面については殆んど知識をもつてゐない。體力勞働者は『神』の信用をうけ、そして指圖はクラークによつてゞはなしに、細工臺または機械からとられた職工長によつて行はれる。自薦の優越性は勿論クラークにだけ限られてゐるのではない。それは勞働者の各階級の差出がましい人達の間では普通のことであり、そして時々面白いことである一寸以前に、ある地方新聞にクラークの狀態についての通信が載つたことがある。その通信のうちで、他よりも性急な男がクラークは體力勞働者のクラフト・ユニオン（熟練勞働者組合）に加入すべきであることを提唱した。ところが高慢な勞働者が輕蔑してクラークは不熟練勞働者であるから彼等はたゞ『勞働者全國合同組合』のような人足即ち不熟練勞働者の組合に加入することが許されるに過ぎないのだと答へた。われ等が遭遇してゐる最後の反對論――そは主として裁縫所または洗濯所における體力勞働者のエネルギイの問題である――は眞面目に論ずるにはあまりに哀れである。そしてわれ等はそはたゞ「ギッシングによつてイグノーブリイ、デセント』（不名譽な上品）と烙印された階

級またはもつと一般に『落ぶれ』として知られてゐる階級に遭遇してゐるのだといふことを喜んで承諾する。悲哀とこれ等の潔白な衣食不充分の愚鈍との混合してゐることは、彼等の仲間か醫者のほかには誰れも知らない！　それが心の健全なる凡ての人に侮辱でないとすれば彼等の外面の衣服の狀態によつて、これ等の人々の位置は、非常に滑稽であらう。

　われ等が既に暗示したとほり、われ等はクラークを他の勞働者を見ると全然同一に考へる。そしてわれ等の冒頭の問題に對して充分の肯定によつて答へることを躊躇しないのである。更にそれがクラークまたは『熟練』勞働者にとつて不面目であるにせよ、彼等は謂ふところの『不熟練』勞働者の援助なくしては彼等は產業または勞務を運營することのできないことを承認しなくてはならない。この點において、他のものにおいては兎も角、神の眼においては凡て平等である。眞に重要な點は、彼等がみな同一標準、然りそれ自身に非人間的であり非道德的である標準によつて定められた報酬をとつてゐるといふことである。これが謂ふところの需要供給の『法則』である。この法則の假定的適用によつて、例へば綿または石炭は、供給が多い時には安價であり、供給が惡るい時には高價である、全く同樣な方法でクラークまたは體力勞働者の價格（それを賃銀または俸給と稱する）が決定される。卽ち若し一つの空職に對して二人の志望者があるとすれば二つの仕事の撰擇に對する一人の場合よりも申込まれる賃銀はより低廉である。この法則は勞働においての人間性を全然無視する。クラークは他の貨物と同樣に購買せらるべき商品である。最後に、若しもつと立入つて論ずれば、多數のクラークは體力勞働者階級の家庭から出てゝゐることが事實であり、そして何れかの大勞働組合に屬してゐる親族をもつてゐることが事實である。クラークの孤立を廢止し、そしてこれ等の家庭が最早や產業の爭議が起つた時に自ら分裂してはならないといふことを主張することが不合理なことまたは不德なことであらか？　實に戰時における經驗は凡ての思慮ある勞働者の學んだところである。これ等の敎訓の第一はたゞ古るい通り言葉、『組合は力である』といふことである。

　クラークは最近に多少光榮ある孤立の地位に分離してゐることとの愚を悟り、そして組織に對する用意の兆候を示し

つゝあることを知るだけで充分である。實に今日では多數のクラークが各種の勞働組合の會員である。われ等は既にクラークとその雇主との關係に觸れた。そして更にたゞ附け加へべきことは、如何なる勞働組合も、クラークがその雇はれてゐる商館における彼れの地位からしてもつてゐる商業上の秘密を漏洩することを期待しないであらう（われ等の知つてゐる範圍ではしない）といふことである。職業的禮儀は彼れの同僚勞働者との交際において嚴格に主張されべきである。しかし彼れが彼れの雇主に對する間諜として働くものと期待されといふことは彼れ自身の德義に歸すべきことである。この規律の遵奉に從ふ時は、如何なる雇主と雖も彼れの幕僚が組合を組織せんとする希望に反對すべき何等の理由もない。雇主階級の間におけるある改革反對者（die hards）並に未成カイゼルは疑もなく戰を希告するであらう。しかし他の勞働者は既に產業的自由の第一戰を戰ひ、そして勝つたクラークも支配人の顰め顏を見込んで恐怖するには及ばないのである。

三　クラークの間における勞働組合主義

われ等はクラーク勞働組合の會員の增加を喜ぶものであるが、しかしわれ等はそれが現在以上に出でなかつたことに大なる失望を白狀するものである。何となればわれ等はわれ等の經驗からソリダリテ及び共同的精神が他の階級におけると同じくクラーク及び管理的勞働者の間に非常に發達したことを知つてゐるからである。われ等は何故に組合員の增加が精神の擴大と一致を保たなかつたかを自問したわれ等の信ずる一つの理由は單に彼等が現存のどの組合に加はるべきか、または全く新らしい他の組合を組織すべきかを知らないといふことである。クラークは各種の產業の若しくは勞務に從事してゐる。そしてこゝに彼等の入會を許容する一層有力な組合を指名するは無用なことではないであらう、われ等はスコットランド・クラーク協會のような用心深い團體を考へる必要はない。何となれば彼等は、彼等としては充分有益であらうが、不思議なほどに制限された會員をもつてゐる單なる共濟會であるに過ぎないからである。またわれ等は全國合同勞働者組合のような、または主として半熟練或は不熟練勞働者に備へ、そしてクラークをたゞ附屬として許容する凡ての他の組合のごとき純粹な勞働組合に停滯してはゐないであらう。今日この國におけ

る組合の二つの主要な樣式はクラフト・ユニオンと產業的組合とであり、そしてクラークが考へなくてはならないのはこの種の組合である。

鐵道クラーク協會は特定產業內における古るく且つ立派に設立されてゐる職匠としてのクラークの組合である。そして今日では凡そ八萬五千の會員をもつてゐる。店員、倉庫業者及ひクラーク全國合同組合はその名の示すがごとく分配的職業に限られ、そして立派に產業的組合として見ることができるのである。

それの純粹に分配的產業に從事するクラークを組織せんとする要求は、他のクラーク勞働組合によつて承認せられそしてこれについての唯一つの解決を要する問題は等しく生產者であり、そして會計員を雇つてゐる大分配的商館における境界線であるように見える。郵便事務クラークは立派に組織され、そしてやがて彼等のために各種の團體やその他の郵便勞働者が合同されて非常に有力なる產業的組合を組織するであらう。その他の官廳吏員の部門においても團體は存在するがそれ等は殆んど眞の勞働組合ではなく、今日まで彼等は彼等の會員の待遇に何等の重要な改善をも起させることはできない。同じことが地方官吏全國協會についてもいふことができよう。そは約三萬の會員をもつてゐるが今日までは主としてその會員の老朽淘汰の計劃を遂行することに掌はつてきた。そは勞働組合ではなく、そして一九一九年のホワイトサンタイドの會議においてそは勞働組合となるべしとする動議を否決した。都市雇人協會は會員として多數の地方自治體のクラークをもつてゐる。しかし主として半熟練及び不熟練體力勞働者から成立してゐる。消費組合運動においては一八九一年消費組合雇人合同組合として知らるる團體が組織された。それには凡ての種類の勞働者が加入を許され、唯一つの制限は消費組合の雇人であるといふことである。そは產業的組合であるといふ基礎のうへに立つて消費組合運動に從事する全勞働者にそれの主張を置いてゐる。しかし消費組合運動が生產的と分配的の多數の別個の產業に、そして充分でなく、亙つてゐる限り、このことは重大に考へることはできない。同一產業において消費組合の雇人を他雇人から分離することは勞働組合運動においては受け入れらるべきことではなく、そしてこの組合の勞働組合議會からの脫退を導くに至つた。それの脫退の後に、消費組合雇人合同組合は實際にその階級を勞働者に開放し、何ものによつて雇傭されるを問はな

いこととなり、その名を消費組合及び商業雇人並に類似勞働者合同組合に變更した。しかし一九一八年十二月三十一日の報告に從へば消費組合以外の會員は僅に五千三百七十五人で而かもその全部がクラークでないからそれの最初の制限の範圍以外の點について注意を拂ふことはわれ等の目的にとつて必要なことではない。店員組合と全國倉庫勞働組合との合同の目的をもつて今日進行しつゝある交渉は消費組合雇人合同組合がそれの產業的組合として考へらるべき要求の受取りがたきものであることを承認したことを示すものである。そして交渉の結果は分配的勞務においての有力な結合となるであらう。礦業においては屢々クラークのための各種の協會が生れた。しかし彼等の常に短命な且つ不名譽な經歷は一九一七年にスコットランドで設立されたスコットランド炭坑クラーク協會の幸ひな前兆をなすには至つてゐない。それの會員は多數ではなく、また公認された組合ではない。尙ほこのほかに法律、船舶、または銀行等のごとき各種の事務における從順な協會または所謂クラーク・ギルドなるものが存在する。しかし凡てゞはないにしてもこれ等はクラーク組合として眞面目に考へるほどに强固なものは殆んどない。

これ等の部分的及び一般的勞働團體のうへに純粹のクラフト團としての全國クラーク組合があり、それは急速に發達して一九一九年六月に會員六萬を有つてゐる。この團體は鐵道及び分配的產業並に吏員の公認組合に明示的または暗默的の約定によつて指示されてゐるもの外のあらゆる種類のクラーク及び管理的勞働者に備へてゐる。反對を排してそれはその會員並にクラーク全體のために多くの正しき仕事を爲しとげた。それの主要な弱點と今日まで普通のクラークに對する訴への欠乏は、待遇の非常に相違してゐる、殆んど凡ての職業、產業及び勞務におけるクラークを包含してゐるその會員の聚合物的性質であつた。それは數年前にこの缺點を承認し、その內部に公然產業的または勞務の區別に從つてのクラークのギルドの制度をもつて救治しようと企てた。しかしこれ等の成功は二つの要因によつて非常に制限された。一つは、クラークは相當ギルドの會員である前に地方支部の會員でなければならなつたことである。第二にこのギルドのあるものは便宜といふことのほかには何等確手たる基礎をもつて組織されてゐないように見えた。例へば、われ等は全國クラーク組合が消費組合雇人組合において非難した誤りを繰返しつゝあることを示してゐると見

らるゝ消費組合クラーク・ギルドを發見する。第一の缺點は豫期されたとほりの結果をもたらした。即ち望みある會員が何故に同時に一組合の二つの部分の會員でなければならないかを問ひ合せるの勞をとる事を避けた。ギルドが實際にプロパガンダの中心としても、またはこの組合がギルドを設ける時に考へた目的であつた特定産業または勞務におけるクラークの意見の表明の媒介としてもともに實際に成功であつたといふことは正直にいふことはできない。それにもかくわらず、われ等は『部分的』組織の思想が一般的またはクラフト園のうちにあつて善き思想であると信ずるまた後にこの問題に立歸るであらう。全國クラーク組合の一層の完全な成功を妨げた第二の要因は不幸にしてその經營基金として蓄積されることを許されてゐたものの不定であつた。多くの潜力ある會員が疑惑をもつてこれを見た。そしてそは普通の實務能力の欠乏を示すものであることを恐れるように見える。われ等は更にクラークの間に全國クラーク組合が産業問題によりも政治問題により多く關與したといふ思想の存在するのを知つた。この組合が他の勞働團體の多くとともに願はしい程度以上に政治に貢獻したことは事實であるが、われ等はこの救治はその會員の掌中にあることを指摘する。若し會員が組合の如何なる意見でも好まないとすれば彼等は集會に出席し、そして彼等自身の意見を表明すべきである。そは民主的團體であり、そしてそれの事件に興味を有する人々によつて支配されてゐる。政治的基金醵出の點においては、組合によつての政治的行動に反對する會員に利用せらるべき免除をうるの全く簡單な方法が存在するのである。また男女の何人によつて爲されるを問はず同様の仕事に對しては平等の支拂をなすべしとする組合の主張に對し若干のクラークが屢々反對することがある。しかし政治的行動に對する攻撃と同じくこの攻撃もまた問題を研究するの勞をとらない人達によつて起されるのが常である。われ等は既に婦人の『浸入』によつてクラークの標準の低下することの危險に說き及んだ。そしてわれ等は組合のこれに對する唯一つの道が男女をともに組織し、そして雇主が彼れの雇人の性については園藝術またはフット・ボールについて考をもつ以上に關與しないことを主張する組合の意見と一致するものである。市民として男子は産業に對する婦人の流入に對して議論があるであらう、しかし賃銀または俸給勞働者としての彼等の唯一つ正當な不平はそれが現在の報酬の標準を脅かすといふ點であ

る。これに對しては、救治は彼等の掌中にある。

われ等は今やクラークのために用意された團體の各種の樣式を示した。勞働組合でないものについては關與しなかつた。そして消費組合雇人合同組合並に『一般的勞働組合』についてはわれ等はそれが絕望的のものであると見た。何となればクラークが若しクラークとしてまたは特定産業における勞働者として組織されることができないとすれば彼等が『一般的勞働者』として組織されることはありえられないと思はれるからである。階級的自覺に富むネオ・マルクス派は勝手にこれを嘲笑するかも知れない。しかし『無産階級の搾取者』に反對するまたは『世界の勞働者』の結合することを高調する經濟的熱語の喋舌によつて嘲弄されない事實である。

四　クラフトと産業

鐵道クラークまたは純粹官公吏を別にしては全國クラーク組合は支持するの價値ある唯一のクラフト・ユニオンであるように、思はれる。最近に、主として産業線のうへに立つ大組合――ドック勞働者、坑夫、鋼鐵勞働者のごときは――クラークを組織することの希望を表明してきた。そして前二者は全國クラーク組合の抗議の面前において實際にその試みをなした。世界大戰中數種のクラフト・ユニオンの聯合によつて成立するに至つた鐵、鋼鐵同盟は、この國における最も强大な職工等團體の一つである。それとの協約によつて全國クラーク組合はこの産業内におけるクラークに對して責任を負ふてゐる。これに對して一定の財政上の取極めがなされてゐる。それの詳細はこゝに說明する必要はないであらう。注意すべき主要な點はこの組合の最も强固なのがこの産業内においてゞあることである（一部は同盟からうくる組織的援助の結果である）。そして第二に同盟の憲法の條項のうちには一定時の滿期においてはこれ等のクラークが現存協約の繼續を希望するか否かまたは彼等が同盟の普通の會員となることを欲するか否かを自ら決定することの規定が設けられてゐる。後者の點は投票によつてクラークの間にクラフト・ユニオニズムに反對しての産業的の思想の發達してゐることが示されてゐるゆえに、非常に興味あることである。全國クラーク組合は鋼鐵勞働者の間におけるとは異つて、ドック勞働者及び坑夫の間では成功してゐない。何となれば後者の組合はその産業内におけるクラークが他の凡ての勞働者と全然同一條件で直に

加入すべきことを主張したからである。しかし今のところではクラーク自身が實際に彼等の指圖に從つてゆく傾向を示さない。そしてわれ等が組合と一致するにせよまたクラークと一致するにせよこの事實を承認しなくてはならない

この點に遡つて少し考へて見よう。凡ての種類のクラークは組合の用意をもつてゐるように見える。そして全國クラーク組合は、それの明白な弱點のあるにもかゝわらず、明らかにクラークが最も心を引かれてゐる。團體である。多數の人々が既に加入した、そして近き將來において著るしく增大すべき兆候がある。これクラークが勞働者の目的に對して今日までとつた偉大なる第一步である。彼等の第二步は如何?

彼等の第二步が何んであるべきかを決定することのできる前に、われ等は數種の點を明瞭にしておく必要がある。われ等はどの點に產業的組合がクラフト・ユニオンと相違するか、それの力、それの目的の如何について知らなくてはならない。われ等はこの目的がわれ等の戰時の經驗によつて養はれたと信んぜられる精神と偕調するか否かを發見するに努めなくてはならぬ。そして最後にクラークがそれに反應してゐるかどうかを斷定するに努めなくてはならぬ。

產業的組合は一產業の全體に亘つての組合である。またそれゆえにその團體內または直接的勢力のうちに、その產業內における凡ての勞働者——管理的及び事務的技工及び人夫——を包含する。今日までのところではこの國に完全なる產業的組合は存在しない。しかし數種の組合はかゝる組合に近づいてゐる。一例を奉げると、鐵道勞働者は數年前までは各種の部分的組合に組織されたゐた。——クラーク、信號手、線路工夫、機關師、火夫、車庫勞働者、機械工、なぞがみな別々に組織されてゐた。それが今日では全國鐵道從業者組合が凡ての從業員に備えることを目的としてゐる。今日においてもこの外に尙ほ多くの鐵道勞働者の組合の存在することは事實である。凡てのクラーク、機關師及び火夫の可なりの多數並に工場における熟練工の多數のごときはこれである。しかし鐵道勞働者の大部分は今や全國鐵道從業員組合の會員であり、そして間もなく他の勞働者もこれに參加するか若しくは彼等の組合を通して、それと非常に密接な行動協約をもつに至るであらう。それゆえに全國鐵道從業員組合は立派に產業的組合としての資格を與へることができる。これに反してクラフト・ユニオン

は各種の産業に亘つてもいゝ。例へば全國クラーク組合の會員は金屬、鑛業、農業、運輸並に殆んどあらゆる産業に亘つてゐる。産業的組合がクラフト・ユニオンよりも有力であることは明白である。それの會員はより多く集中され、もぐりの機會が非常に減小され、ソリダリテによつて釀された信頼のより强烈な感情が會員のうちに存在し、多數の行政部でなくして一つの行政部がその産業内における勞働者のために行動の方針を決定する方がその産業全體のためにより容易く決議に達することができる。（つゞく）

小泉信三君に

慶大教授小泉信三君が『改造』五月號で私に對して書かれたことは同氏が『改造』六月號で取消されてゐるから私の答辯は無用であるが尙ほ私の說が Cole, Chaos and Order in Industry. 1920(pp. 49—54)で裏書きされてゐることを附け加へて私の最初の批評の誤りでなかつたことをこゝに簡單に繰返して置きます。

（室伏生）

社會主義社會學

（高畠素之譯）

この書物はアーサー・レウヰスの『社會學への手引』を飜譯したものでコムトの人類發達說スペンサアの靜的社會學以下十五章に亘つてゐる。この書の特色はマルクスを社會學の貢献者としたことである。社會主義的社會學の知識をうるためには最も格好の書物である譯者其人を得てゐることは勿論である（芝區三田書房發行定價貳圓五拾錢）

クロポトキンの經濟學說（中山啓譯）

クロポトキンの『田園、工場、仕事場』の飜譯で、無政府主義の研究者のみならず凡ての社會問題經濟問題の研究者必讀の書であることは言ふを俟たない（三田書房發行定價參圓八拾錢）

ゴッドヰンの社會思想

一

ヰリアム・ゴッドヰン(William Godwin)の名は婦人運動の先驅し者マリイ・ウオルストンクラフト (Mary Wollstonecraft) さ詩人シエレーの名さ共に有名である。然しこゝに論じやうさするのはマリイ・ウオルストンクラフトの戀人さしてのゴッドヰンではない。また詩人シエレーに影響を及ぼした人さしてのゴッドヰンでもない。たゞ社會思想家さしてのゴッドヰンの思想を紹介批判するに止まるのである。

露國の少數派マルキストであるジヨーヂ・プレハノフが其の名著「無政府主義さ社會主義」においてゴットヰンの名を發見しないこさは甚だ意を得ないこさである。(Georg Plechanoff, Anarchism and Socialism) 無政府主義の社會的秩序の理想は人間の人間に對する支配を排し、すべての人が支配者に對する從屬から免れる時において實現される。從つて少い者に對する多數者の強制も多數に對する少數の強制の如く、之れは人格に對する壓迫である。すべての人の自由意志が社會の法則でなければならない。すべての人は其の必要さするこさを爲すの自由を有たなければならない。さうして共同の目的を遂行する爲には各個人の自由な合意によらなければならない。これが近世無政府主義の根本思想である。さうしてこの意味の無政府主義者さして其の社會組織を共產主義に置く第一人者は、ツガン・バラノフスキイによれば、ヰリアム・ゴッドキンである。(Tugan Baranowsky: Modern Socialism in its historical Development. P. 169 以下ゴッドヰンのこさに就いては大體 H. N. Brailsford; Shelley, Godwin & Their Circle により、傍ら Sir Leslee Stephem; English Thought in 18 th Century Vol II. 其の他の二三の書を參照した。)

二

英國における佛蘭西革命の影響は說敎に始まつて詩に終つたと言つていい。恰度バスティーユの陷ちた興奮の最中に行つたドクトル・リチァド・プライス(Dr Richard Price)の愛國についての說敎からシェレーの一ヘラス」の刊行までには三十二年の星霜を積ねてゐる。それは希望の誕生と其の不幸な死までを覆つてゐるのである。さうしてゴッド井ンはこの革命的の時代にあつて、佛國革命の根本精神に深い洞察を行つて、英國に一時は深甚な影響を與へた人である

ゴドキンは千七百五十六年フヰン地方のキスベッチに生れた。彼の父と祖父は牧師を業として、極めて道徳的の家庭を作つた。ヰリアムはこの周圍にあつてカルビン派の傳說に深い影響を受けたのであつた。彼は幼にして頗ぶる頴悟、早熟にして、功名心に富んでゐた。年十七にして父の業を繼ぐ爲めにホックストンの神學校に入つたが、彼の學業は顯著な進歩をした。廿七のとき彼はビーコンスフィールドに牧師となつた。其の少年時代と青年時代の初期に抱懷してゐた政治、宗敎家思想な此の時代に到つて變化した。今や彼は政治的には進歩主義を採り、宗敎上ではユニテリアンとしてドルトル・プライストレーを其の師と仰ぐこととなつた。彼はこの時代において佛蘭西の諸哲學者を研究し出した。彼は斯くて若き牧師となつたのであるが、それは成功せるものではなかつた。さうして彼は其の生活を支持して行く爲めに文筆の生活を送ることとなつた。彼の永い文筆の生活は千七百八十三年から始まるのである。ゴッド井ンは先づ政黨聯盟に關する小冊子を書いて成功し、其の爲めに進歩黨の領袖から認められた。けれども若くして文筆生活をするものの常であるごとくゴッド井ンは放浪の生活を續けたのである。けれども、世の常の文筆青年と異る所は彼が放浪生活の間にあつても常によく勉强し、節制し、組織的研究を續けたことであつた。彼は早朝に起きて、朝食以前にギリシャ、ランテの古典を讀み、かくして後の彼の論文に自由自在に其の智識を應用したのは學者の均しく羨望に耐えない所である。彼は午前中三四時間の間熱心に執筆し午後は其の友人と談論に耽り、または英、佛、伊の著書を讀むことに勉め、度々でないが芝居を訪ふたこともあつた。當時の進歩黨の文書掛りであつたシェリダンは一定の給料でゴッド井ンを定雇の文書掛りにと望んだのであつたが、彼はフォクスの崇拜家であつたにも拘らずこれを拒絕した。ゴッド井ンがまだ安下宿から安下宿へと泊りあいてゐた下つ端の賣文生活の時代に、彼は遠い親類に當るトマス・クーパアと云ふ孤兒の面倒を見なければならないことになつた。クーパアは十二歲のときにゴッド井ンの下に來て十七歲にして彼が役者になるまでの間ゴッド井ンの所に止まつてゐた。ゴッド井ンはルーソーの「エミール」を讀んだ、彼は屢々ルーソーの說に服することが出來なかつたけれども、彼の一生を通じて敎育には多くの興味を持つてゐた。さうしてゴッドキンの「研究者」「人間論」中に優秀な敎育論を提供してゐる。其の實驗に使はれたものは勿

論トマス・クーパである。クーパアは氣のむづかしい高慢な子であつて、教育も思つた程に渉らないさしかつた。ゴッド井ンの教育思想は兒童に對して多大な尊敬を拂ふことにある。彼は智的好奇心と獨立自尊の心を養ふに注意し教師と生徒との間の關係は誠意を主としなければならないと主張したのである。

ゴッドキンは倨傲で熱情家でありたけれども、友を作つて彼等と附き合つて行つた。千七百八十六年にはゴッド井ンはトマス・ホルクロフトと知り合ひになつた。ホルクロフトは確かりした精神と、獨立の思想の持主であつた。彼は自らの爲に考へさうして、また彼は他人の思想を征服することが出來たのである。彼は理性に富んでゐて學者であつたと共に、彼はまた冷靜の中に熱情をも持つてゐた。彼は人間の精神の力を無限に信じてゐた。正直、勇氣、眞理これがホルクロフトの理想であつた。彼は理性によつて導かれた意志は人間の精神を護へ得る丈けでなく、其の身體をも變更し得るものであると考へたのである。ゴッド井ンが三十歳のときに會つたホルフロフトは五十歳であつた。さうして彼等は一日も缺さず、互に會つた、其の間にある戀愛についての葛藤があつたにも拘らず其の交情は千八百九年のホルクロフトの死まで續いた。彼等二人の中、誰れが他に影響を及ぼしてゐるかを決定するのは極めて困難である。ゴッド井ンは洗練された、組織的な、學究的な精神の持主である、然るにホルクロフトは豐富な生活の經驗に加ふるに幾分かの獨創と廣汎な讀書と音樂、藝術に對する並にならぬ、趣味とをもつてゐる人である。然し、ゴッド井ンをしてユニテリアンを脱しさしたのはホルクロフトであつた。

三

佛蘭西革命の近づくに從つてゴッド井ンとホルクロフトと二人は世間一般と同じく興奮して來た。ゴッドキンは革命協會の晩餐會へ出席した。さうしてホルクロフトは其の協會の指導的會員の一人であつた。この二人の友達の間に共通の思想のあつたことは勿論である。その共通の思想がゴッド井ンの政治的正義の中に表はれ、さうして其の中のある思想は其の團體の人々に共通のものであつたし、また他の部分はエンサイリロペディストの著作中に其の萠芽を發見し得るのであつた。クロポトキンが其の「佛蘭西大革命」の中に記する所によると共産主義でさへ既にマブリーに依つて豫想されてゐ、さうして革命の指導者の多くは經

驗的に其の思想を持つてゐた。ゴッド井ンの獨創とも見るべきものは其の無政府主義的の傾向である。その思想はすべての國家の權力行爲に對する反抗である許りでなく、また市民の共同行動に對する反對である。ゴッドキンが其の「政治正義」を著はしたのは斯樣な思想的背景のあるときにおいてであつた。

ゴッド井ン一生の大事業は千七百九十一年七月に始められたのである。ゴッド井シは幸にも書店ロビンソソと有利な契約を結び、其の稿料として千ギニアの金を得ることが出來た。

ゴッド井ンの「政治的正義」は通常バァクに對する反駁の如く思はれてゐるが、ゴッド井ンの意圖は遙かに大なるものであつた。其の著述は細心の注意を以つて執筆されたので千七百九十三年一月に至るまでは出來しなかつた。さうしてこの書は革命思想を有力に主張して止まなく、其の末尾には「何ものにも恐怖せず、すべての反對論に打勝つは眞理の本質である」と結んでゐる。けれどもコッドキンのこの著作は、そが研究的の書物であり、敎養ある讀者向として出版せられ、且つ三ギニアと云ふ高價であつたので當局は處分に及ばなかつた。ブライビィコンシルではこの書にによつてゴッド井ンを處分すべことを考へたのであるか、ピットは「三ギニアの本は三シリングの余裕のない人々に多大の害惡を齎らすことが出來ない」と言つ其の提案を斥けた。けれどもこの書は三ギニアと云ふ高價にも拘らず、四千部も賣れた。そはこの書が生氣あるから許りでなく、當時の中產階級が新哲學を聞くを欲すること頗ぶる急であつたからである。千七百九十六年には再後をした。さうしてこの再版は著作全般に涉つて改訂せられ、コンドルセーの影響として見るべきものがあるのである。其の第三版は千七百九十九年に出たが、この版ほ其の內の調子をづつと下げてゐる。「政治的正義」は一時英國を風靡したものであるが、其の直接の影響はゴッド井ンの死去前既に見る影もなくなつてしまつた。今この著の內容を語るに先立つてその直接の先驅者であるトマス・ペインの思想に就いて少しく語る必要かあらうと思ふ。

四

英國における佛蘭西革命の思想的代表者はトマス・ペインであつた。勿論ペイン以前においても革命の精神を傳へたものはあつた。ドリトル・ブライス及びブライストレイが

これである。けれども私はこゝにトマス・ペインの思想を語ることによつて滿足しなければならない。トマス・ペインは佛蘭西革命の思想を大膽に主張した人であつた。さうしてゴッド井ンはこのペインによつて主張された革命の精神を哲學化しすることに努めたのである。

トマス・ペインはクエーカー宗徒であるコルセット製造業者の子としてノーアフォルクのセットフォードに千七百三十七年に生れた。彼の兩親は貧困であつた、けれども、彼は其の教育において彼等に負ふ所が頗ぶる多かつたのである。長ずに及んで彼はロンドンに移住し、こゝに暫らく止まつて天文學の研究に其の閑暇を費したのであつた。彼はまた收稅吏の資格を得て、この間において經濟財政の學を學んだ。更に彼は收稅吏から學校長に轉じたのであるが、收稅吏の賃銀增額の要求を辯護する小冊子を發行した爲めに其の職を失つた。彼は二度結婚した。其の第一の妻は結婚後一年定らずしてこの世を去り、第二の妻とはタバコ工場を起したが、失敗の後お互に夫婦別れとなつた。三十七才のペインは金もなく孤獨で舊世界に望みを斷つて新大陸の合衆國へと移住した。このとき彼は通過證として、ベンジャミン・フランクリンの手翰を携へて行つた。

機會は來た。ペインは直ちにフィラデルフィヤに「フィラデルフィヤ誌」の編輯長となつた。彼はこの雜誌によつて國際的協調を主張し、戰爭を攻擊し、結婚、離婚に關して急進的の議論を發表し、女子の爲めに正義を主張した。就中彼は奴隸制度に對して大なる反感を懷き、其の撤廢の爲めに多くの努力をした。彼の小冊子「コンモン・センス」（一七七六年）は廣く讀まれた。彼はこの書の中において合衆國の獨立すべきことを主張した。さうして當時未だ確然しなかつた革命思想を民衆の前に印象深く表はしたのである。獨立戰爭が起ると彼はワシントンの下に走せ參じ、グリーン將軍の幕僚となつた。更に彼は外交に、財政に其の手腕を振つた。戰爭が終つて千七百八十七年に彼は英國に歸つて、文筆の生活と機械の發明とに志した。斯くて幾多の著作をした後千八百九年、老齡にして其の一生を靜かに終つた。彼の文筆生活における最大の傑作はバアク「佛蘭西革命論」に答へたその「人權論」であつた。

五

ペインの思想はバアクのそれと正反對のものであつた。ペインもバアクも共に舊時の社會的秩序が其の基礎を慣習

の上に置くことを認めた。

バアクは其の社會的秩序が慣習の上に基礎を置くが故に慣習を認めたのである。然るにペインにあつては慣習は單に不合理な偏見なるが故に舊時の社會的秩は一掃してしまはなければならなかつたのである。ペインは政治の樣式を二通と考へた。代議政治と世襲政治がこれである。さうして世襲的治者は世襲的數學者または世襲的詩人と云ふが如く〇〇である。代議制は最も賢明なるものをして政治せしめることが出來るのに、世襲政治は〇〇〇なものの政治である。

バアリは其の保守的見地から民衆を以つて愚なものと見た。然るにペインは人間を以つて理性的のものと見たのである。さうして純粹な理性の原則によつて打ち建てられた組織が理性的精神を以つて行はれると思つた。一言にして言へばペインは黄金世界を信じたものである。アメリカの革命はこの黄金世界の思想の一大暴發である、さうして米國憲法の基礎は純粹な理性の原理の上に礎かれた政治の最初の一例であると彼は考へた。

ペインの政治哲學は極めて簡明である。人は神によつて自由に、平等に生れた。さうして人か生存して子と云ふ理由から彼には自然的權利即ち天賦の權利がある。政治權利はこの自然的權利の上に其の基礎を置き、さうしてこの自然的權利を確保せんとするものである。國家は斯くの如き自然的權利を確保するものでなければならない。然るにある國家は國民か其の自然的權利を確保する爲めにのみ契約によつて出來たものでなく征服によつて形成されたものがある。然し〇〇は常に人權に對する一種の制限である。そは吾等の眞の必要から生じたものではなく、たゞ罪惡を防止するの任務をのみ有するものである。「人をして幸福ならしめるものは社會であつて〇〇ではない。〇〇は單に社會各員間の中に罪惡を防止するのみである。社會は吾々の交通を釀成する、けれども〇〇は吾々の間に區別を設ける社會はそれ自體祝福すべきものである、けれども〇〇は其の最良の〇〇にあつても必要なる害惡である。」これがペインの國家觀であつた。斯樣な國家觀が實際政治に應用されるとき自由放任主義となり、之か思索的に徹底せらるるときにおいてゴッドヰンの無政府主義に至るのである。ペインは「文明か完成されればされる程〇〇の〇〇〇〇〇」と云つた程無政府主義的思想を懷いてゐた人であつた。彼はゴッドヰン程に徹底することが出來なかつた。ペインは其

の實際的見地に立つて國家の効用を認めたのである。彼は國家を社會をよりよく組織する爲めの手段として利用しやうと考へたのであつた。

六

叙述は再びゴッド井ンの「政治的正義」に歸る。この「政治的正義」の内容を語ることがゴッド井ンの社會思想を語ることになるのである。

ゴッド井ンに取つては全人類の生活は、改革によつてその完成に達しやうとする努力であることを説明する爲めに彼は過去のあらゆる偏見と傳統と束縛と戰はなければならなかつた。もし、人あつてゴッド井ンの大著を一言にして表現し得る言葉を求めるならば、それは「すべての將來の進歩に對する序説である。

ゴッド井ンは人間の進歩の可能を論ずる以前に先づ其の現狀を見た。彼は從來の歴史が罪惡の歴史であることを主張した。戰爭は其の慘憺さと其の數を減じない。專制政治は人類の大部分のものの運命である。盗みと虚僞とは絶滅されず、貧困者は裕富階級に對して暴力を以つて向つて行く。英國における人口の大部分は貧困である。かゝる狀態において貧困者が社會を以つて各人の權利を保護し、其の生活資料を保證するものと考へるであらうか。貧困者に取つては社會は單に特權ある少數者の利益を增進する爲めの陰謀と考へはしないか。奢侈は彼を襲ひ享樂は富者の獨占であり、貧困は常に彼等の伴侶である。また人は常に其のありのまゝの價値を與へられることがない。法制は常に人の自然的不平等を深めて行く。さうして、英國政治の方針は貧民の負擔たるべき消費税の增加によつて、富者の負擔たるべき地租の輕減を計るのである。さうしてすべての結社は貧民階級の間にのみ禁止されてゐる。人類は希望なきかに見える。然かもゴッド井ンは其の完成を證明しやうとしたのである。

ゴッド井ンは人間が必然の產物であることから其の解答を與へる。人間は外界の自然と同じく因果律に支配せられる。さうして人間の道德もまた因果律の產物である。吾々は吾々の境遇の產物である。この吾々の境遇の中氣候の如きは吾々の意思を以つてしては之を變更することは出來ないものであるが、教育・宗教、社會的偏見及びすべての政治等は之を人間の意志によつて改變することは可能である而して是等の社會的境遇の改變の可能であると云ふことから

して吾々は人間の完成に到る道を迹ることが出來るのである。

人は其の境遇の産物であると共に人はまた其の境遇を支配すべき力である。卽ちゴッド井ンは人間の性格が其の外的事情によつて決定せらるることを力說するのである。其の生れが貴族である子弟の地位を農夫の子弟の地位と換えたならば、その名とは其の新しい境遇に從つて發達するであらう。運動が筋肉を鍛練する如く、敎育は思想を形成し、思想の交換はその人の精神を作るのである。この點においてヘルベチウスはゴッド井ンの先驅者である。ヘルベチウスは人は生れながらにして平等であるが、たゞ其の後年の敎育によつて其の能力感情に差異が生じて來ると主張した。ゴッド井ンは敎育重視の思想から更に社會的並に政治的の制度が人間の精神を形成する上において重大な要素であることを認めてゐた。社會的並に政治的制度は吾々の性格を作る上において決して等閑に附し難いものである。この點においてゴッド井ンばロックからペインに至るまでの英國政治哲學者と其の見る所を異にしてゐる。彼等は政治の作用を甚だしく消極的のものと見た。たゞ人が其の財産の侵害されるときにおいてのみ政治と交涉を有すとした。けれどもゴッド井ンは其の影響を何處にも見たのである。政治制度が人々の性格に及ぼす影響を明確に認めたのである。この點において彼は獨自な地位を占めるものである。

七

人間完成の第一の前提は人間の性格が、外的事情によつて左右せられると云ふことである。この第二の前提は人間の自發的行爲はその起源を其の人の思想に求めることの出來ると云ふことである。彼はこの前提を知識的宣傳による如何なる改革にも必要なものとした。行爲が自發的である限りはそれは一の豫想を伴ふものである。さうして其の一定の效果に關する考か何時も其の動機となつてゐる。卽ち「これは善である」「これは望ましいものである」と云ふ樣な判斷は行爲に先き立つて存するものである。故に行爲は常に思想に發するものである。然るに罪惡は常に誤謬である。さうしてもし人が最も理由のある、最も明確な行爲の方法を示すことが出來るならば、人は其の思想に從つて行動するものであるから、彼は其の方法に從つてその侵してゐた誤謬を免れるであらう。故に實際の問題は吾々が共に吾々の動機を自覺し、常に吾々の行爲に對して正確

なる思想を提供することに存する。斯くの如くにして人間の性格を完成することによつて絶對自由の〇〇に近づくことが出來ると主張する。この目的の爲めにゴッドヰンは言論の自由と教育の自由とを要求する。さうして教育に關しては國家の干渉を否定する。何となれば教育にある權威を認めることは人間の心から其の眞純さを奪ふことであり、さうして其の結果は人間の精神に何等の獨立も、獨立から生ずる自己是認をも缺くことであるからである。

八

すべての政治は必要な害惡であるとしたのは第十八世紀の個人主義思潮の特色であつた。然しゴッドヰンの思想はこの種の自由主義的思想に滿足しなかつたのである。彼の個人主義はもつと進んでゐた。彼は政治から何等の善を期待しなかつた許りでなく、反つて積極的の害惡が齎らされると考へたのである。政治の根底は理性に對する侵害の力である。さうして其の侵害は、もしも人間が思想によつて導かれ議論に服することをするならば、それは無用な侵害である。かくて政治は其の人民の無制限な信賴の上に其の基礎を置いてゐるが、其の信賴はまた人民の無智によつて齎らされるのである。だから政治なるものは無智と意志の薄弱とが除かれるときにおいては其の基礎を失ふものである。かくて其は政治の當然な末路である。かく〇〇〇〇である、だから人類進步の任務は政治を出來る丈け早く〇〇ことにある。

然らばかく〇〇を廢するときにおいて暴力を是認すべきであるか。暴力は倫理上果たして確固たる基礎を有するか更にまた斯の種の〇〇と多數民衆との關係如何。ゴッドヰンは暴力を絶對に否定する。其の〇〇の目的が合理的であれば何にも暴力に訴つて其の〇〇を成就する必要を見ない。たゞ保證された言論思想の自由によつてすべての人に對して說けばそれでよい。すべての人かその說に服するときにおいて其の社會的變革に成就されるのである。暴力は强制であるさうして强制を行ふことは人格に對する侵害である吾々は飽くまで理性の力によつて人々を說くより外に致方がない。さうしてもし多數者にして眞に其の變革を希望しないならばその變革の事業は無意義である。多數の人々がその社會に對して變革を希望するまで吾々は俟たなければならない。かうゴッフドヰンは主張した。けれども彼は熱心に暴力を否定しながら、一定の場合においては暴力を是認

したそは其の當事者が暴力を用ひてゐるときである。斯くの如きときにおいては平和的の說服は何等の效果を齎らすことが出來ない。こゝに始めてゴッド井ンは躊躇しながらも暴力を用ゐることを肯定せざるを得なかつたのである。

九

斯樣に理性の力によつて樹立された將來の社會の形態は如何。ゴッド井ンはこの問題に對して解答を與へなければならない。

理性的動物として吾々の第一の事業は正義を實現することである。さうして社會は卽ち實現された正義に過ぎない。正義は快樂と苦痛とを感ずることの出來る人間の問題である。　だから正義の關する範圍においては吾々は苦痛と享樂とを享受し得る共同の性質を有する人間である。故に正義は人間の幸福に關してすべての人を公平に取扱ふことである。さうして正義は人類に對して最大な利益を生ぜしめる目的を以つて吾々の才能、時間、資力等を要求する。吾々の一般的幸福に對する責務は無制限である。個人は其の人格、財產をたゞ人類の爲めにのみ保持してゐる。もしも、人あつて百圓の金を必要とするならば、さうして其の金を余が所有し、更に有利に使用する事ことを證明するのでなければ、彼は余に對して其の金を要求し得るのである。すべての財產は其の人の手にあつて最も利益多く最大な幸福を生む手段となる人に屬するのである。

然しこゝに問題となるのは奢侈である。認識されんとする欲望は人間にとつて可成强烈な欲望である。其の必要とする所の所のものを自由に取得し得る理想社會においてこの問題は如何に解決されるのであるか。ゴッド井ンは答へて曰ふ。「すべての人は其の一杯の美酒を口にする每に其の美しい裝飾品を其の身に附ける每に、彼はこの種の奢侈品を彼に供給する爲めに、如何に多くの個人が常に隷屬と苦汗と斷えざる苦役と、不衞生な食物と悲しむべき無智と歡の如き無情に惱むで行くかと考へるであらう。」と。さうして彼は財產〇〇の不合性に目覺めて惱侈を欲するが如きことがなくなるであらうと主張してゐる。

然しながら吾々は絕對無一物の境涯において生活し得るものではない。だから道德は二種の財產所有を許す。卽ち其の一は個人の所有となつて始めて最大の便益を發生するもの、換言れば生活必要品卽ち食物、衣服、家具、室の如きものである。第二の問題はすべての人が其の勞働の生產

物にづいて要求權を有する其の範圍である。ゴッド井ンの理想は平等である。故に彼はある同種のものがすべての人に供給されないときにおいて、個人が特殊のものを享樂することは罪惡であり、すべての人の普通の欲望が充足せられないときにおいて奢侈品を生産するのは罪惡であるとした。然し、强制を以て平等化を計ることは無益である、たゞ理性に訴へてのみこの事業を遂行すべしとするのが彼の主張である。

一〇

ゴッド井ンは當時の社會においては隨分無駄なことにその勞働が費されてゐることを見て、其の理想社會にあつてはすべての人の一日半時間の勞働によつて充分生活の必要品を生産することが出來ると考へたのである。(彼はこの計算を其の後の論文集「研究者」の中においては二時間に增加してゐる。)ゴッド井ンは人間の利己心と怠惰とに其の基礎を置く反對論に對しては、その理想社會が人性の改善された後において實現れるのであると云つて、答へてゐる。斯樣な制度によつて個人は苦痛を感ずるであらうか。ゴッド井ンは否と答へてゐる。その勞働は强制でなくて、愉快である。現在の勞働の如く不公正ではなく、それは公正な勞働である。

ゴッド井ンは斯くの如く考へたのであるが、彼は國家社會主義の樣に劃一的の勞働と共同的生活とを考たのではない彼はすべこの共同と云ふことを惡と見た。さうして音樂において合奏することさへも彼は不可思議の眼を見張つたのである。勿論彼も航海をしたり、運河を掘つたりする樣なことに共同の必要を認めてゐる。けれども機械の發明はこの種の共同をさへ不用に歸せしめるだらうと彼は考へたのである。

ゴッド井ンの共産主義的ユートピアの敍述は家庭の〇〇を描くことによつて終つてゐる。彼は論じて曰ふ。共住は害惡である。何となれば人は共住することによつて、其の思想が單一となり、從つて個人の獨立性を失ふ虞れがあるからである。さうして眞の人格者の希望は常に相合致するものではない。斯樣な合致しない意志を以て共住を行ふときに、そこに必然の結果として妥協が生じ、其の意志の放棄か生ずるのである。さうして結婚は共住の最も代表的のものであるが故にそれは一の害惡である。

ゴッド井ンは其の理想社會において結婚を存在せしめな

いことによつて、放縱な性的生活が行はるるものとは見ないのである。彼はこゝにおいても理性の力を信じてゐる。さうして性的生活が理性の力によつて洗錬されることを期してゐるのである。彼は理性的判斷を父子の關係に下して云つてゐる。子が父を知ると否とは重大な問題ではない。何となれば、自分の子が人の子かによつて其の間に輕重の差を設ける理由がないからであると、さうして母は彼女の隣人の好意によつて其の子を養育し行けはいいのである。斯くてゴッド井ンは理性の力によつて人間の性欲が終息するときが來り、さうして社會は子供なく、經驗あり、知識ある人々のみを以つて充たされるときが來るであらうことを空想して其のユートピアを終つてゐる。

私は一通りゴッド井ンの〇〇〇〇〇〇〇理想鄉の輪廓を描がいて見た。私はそれに對して極めて平凡な、何時も無政府共產主義に對して行はれる樣な批評を懷かない譯には行かないのである。

ゴッド井ンはあまり人間の理性と云ふものを重視してゐる。吾々の行動が理性からのみ起る樣に彼は考へてゐるが私はベルトランド•ラッセルと共に人間には理性の如何ともすべからざる衝動が多く人間の行爲を支配してゐることを主張したいのである。從つてゴッド井ンの理性に訴へてのみ社會改造を行はんとするのには俄かに贊意を表し得ないのである。

次にゴッド井ンはあまり人性を樂觀し過ぎはしないだらうか。この疑問はクロポトキン等に對して當然起る問題であるが、全く彼等が人間の美しい一面（ブライターサイド）のみを見てゐる結果に外ならないだらう。

社會改造の基調が自由と平等にあることは何人も疑はない所である。さうして自由を求むることの極致か無政府主義であり、平等を求めることの窮極が共產主義である。けれども私共の疑問とする所は無政府主義と共產主義とが兩立し得るかの點である。クロポトキンの無政府共產主義から多大の暗示を得てゐる如く思はれるベルトランド•ラッセルが、其の窮極の理想として無政府共產主義を目指しながら、直ちにクロポトキンに窮かずしてギルド•マンと共に歩んでゐるのは這般の消息を語るものではないだらうか。

この疑問は無政府共產主義者が解答しなければならない重大の問題の一つである。この種の疑問が無政府共產主義に對して發せられ、然も其の平凡なのにも拘らず、吾々に數

ふる所が多いことがまた無政府共産主義か社會運動として其の勢力を増大し得ない原因ではないかと私は考ふるのである。

＊　　＊　　＊

ゴッドヰンは其の「政治的正義」の外に幾多の著書論文を公にしてゐる。彼はまた同時に創作の人でもあつた。けれども其の論文、其の創作は「政治的正義」がゴッドヰンの名を重からしめたことには到底及ばないのであつた。「政治的正義」は前にも述べた樣に一時非常の名聲をゴッドヰンに與へた。けれども革命思想に對する反動的勢力は勃然として起つて來た。さうして曾て英國本國は勿論のこと歐州大陸の到る所において其の盛名を唱はれたゴッドヰンの博學を以つてするも如何ともすることが出來なくなつた。彼は窮乏に陷つた。さうしてゴッドヰンの名を避けて變名を以つて書を書いた。けれども頽廢した勢力は遂にゴッドヰンを世の中の表面から葬つてしまつた。ゴッドヰンの娘を其の妻とし彼を心の親とした詩人シエレーでさへ其の千八百十一年の書翰においてゴッドヰンの生存せる事實を聞いて驚いた程であつた。斯くて「人間の心を其の隷屬の狀態から自由にしやう」とした革命思想家は窮乏の中にこの世を去つた。時は千八百三十六年四月のことである。

（一九二〇・七・四稿了）（甲野哲二）

吉野博士に答へて

▲『批評』の六月號に出た　中博士の剽竊云々の記事は、『批評』としてはあゝした記事はありまり望ましいこととは思はない。たゞ折角の寄稿故に掲載したものである。しかし一旦掲載した以上は無論責任を負ふ考へである。

▲これに對し吉野作造君が中央公論七月號で『批評』の該記事が誤りのように――即ち田中博士が豫め言ひ置きしてあの論文を書いたように辯護されてゐるがこの吉野君の辯護こそ何等の根據のない奇怪至極なものである。若し吉野君のいふごとき事實があつたら恐縮ながら指摘して貰いたいものだあまり無責任なお言葉は御免蒙りたい。如何。

▲序ながらあまり癪にさわるので一言するが吉野君にペテロの『十字街に立てるデモクラシイ』はツマラヌ本だが、ハアンショウの『十字路に立てるデモクラシイ』は立派な本だと許されたのを記憶する。しかしわれ〳〵の讀んだ――熟讀の値打ちはない――範圍ではこれも下らぬこと夥しい書物だ。ギルツマンとしてのコールをならづ者の如く評してゐるのに見ても分る。こんな下らぬ書物だから後藤男仲小路輩が感心するわけだ。彼等が感心すればするほどその下らなさが解るではないか。吉野君ともあらうものがその下らぬ後藤仲小路輩と感を同じうして得々たるとは聊か驚かざるをえない。

六時間勞働論（レバーバルム）（三）

ハーモン氏は同論中に次の如く述べて居る。

「六〇時間勞働法案には可なり强硬な反對があつた、然し今日に於て該法案の廢止を望むやうな製造業者は一人も無いと容易に云ふ事が出來る。委員等が職工達に夜間より多くの時間を與ふる事は放蕩を增さしめる事であらうと述べたとき彼れは極力其れに反對した、十時間勞働制からは斯くの如き結果は生れなかつた反つて夫れと反對に該法案が通過するや、職工達は社會上に精神上に敎育上に彼等の地位を改善した、そして其の事は國民産業上の最も重要な部門を向上さしたのである。

惡い仕事が一日中で最後の三十分乃至一時間に於て餘計に增加すると云ふ事は實業界では解りきつた事實である、此の間に居睡りは職工を襲擊して來るから彼等自身は機械のやうになつてしまう而して日中の間に起る爭論、不快は此の現在延引せられたる勞働時間に其の源を發して居る」

ヤンデラ氏は論の終りに當つて次のやうに述べて居る。

「ホーセツト郷は若し勞働時間が六パーセント少くなつたとするならば機械が又は其の速度が增加せざる限り仕事の結果は同じ割合を以て減退するであらうと主張して居る、然し此ばホーメーリン氏の答へた議論であつて、氏は原動力に何等の改善も施さず、勞働時間を短縮して後に其の改革を行つた同年と前年の生産品を比較した場合に、少しも其の割合を減じなかつたと公言して居る」

工場法と題するコブデン組樂部の懸賞論文に於てヴイクトリン、ジヤン孃は實際並に想像上よりして産業並に商業上の影響を述べて居る。

「若しも吾々が織物工業に於ける工場法の一般的影響を一語に盡さなければならむとするならば、吾々は該法は最も適切な選擇の原理を實行せむとすと云ふことができるのである、換言すれば該法案は資本發明人類の熟練及び精力を最も適切に運用せしむるものであり從つて夫れは生産や賃銀を減ずる事なく利潤を尠くしたり或は外國貿易に永久的損失を與ねるやうな事はしない如何なる國に於ても勞働階級が健全にして智識的ならざる限り商業上の優越を長く保持する事は出來ない。

英國紡績業の勁數は露國や印度の如き勞働時間の最も長き所では無く、マサチウセツトの如き最も勞働時間の短い所である、と云ふ事をウエツブ氏の如く現今斷定する者がある。確かに最も完全な機械大組織の生産最少限の時間の空費は此等産業竝に最少勞働時間を得て居る此等の國の最も大切な特長であ

る。

然し吾々の最も勇氣付けられ鼓舞しせしめらるゝは故シャフツベリー卿(當時のアッシュレー卿)が十時間勞働法案に關して議會で演說した種々のものを讀むだときである。當時の政府は彼れが經濟的損失なく勞働時間を減ずる事が出來ると云ふ事を示さむ爲め呈出した證據に反對したのであつた、一八四四年五月十日彼れは議會で次の如く述べて居る

「扨て此處に此の議會が解決すべき不思議な重要な問題が起つて來る――否な此の議會に依てではない、彼等は段々解決したー解決すべきは吾等の結論を否定し英帝國の三度記錄した願ひに反對して居る處の政府である、多くの人々が無智であるか、或は等閑に附してる次のやうな義務を實行し且つ引受くるとする、即ち假令卑くとも必要である家庭生活の才藝を成就し其の高尙な愛情を陶冶するに當つて次の如き場合に人々は何れを選ぶであらうか? 即ち智識を得るの手段、德を行ふの機會無くして得たる賃銀を家庭經濟に無智なるが爲めに浪費し且つ道德的又は肉體的退化の狀態に置かれ、社會、竝に家庭的な享樂を缺かしめられるやうにして得たる高い賃銀と之れに反し精神的向上と健康とを增進する事が出來るやうにして得たる低い賃銀との二者の中に於て何れが願はしいものであるか(?) 多くの事實は之れを證明して居る。即ち各派の僧侶牧師、醫者、製造業者職工は旣に確固たる證據を與ゑまたは與ゑむとして居る、而かも諸大臣にあつては耳を傾く事を拒み吾人の提出せる、救濟案を採用せず尙は又彼等自身の救濟案に依り吾々を助けむとさへしないのである」

夫れより十六年後一八六六年十月六日マンチエスター市公會堂に於てシャフツベリ卿としての演說中に、十時間勞働案の運動並に勞働者が彼等の目的を果したる成功、其の結果生じたる國家並びに勞働者に及ぼしたる影響に言及して居る彼れは該運動中に起つた勞働者の態度を回想した、そして勞働者は次の如く云つたと述た

「吾等は吾等の大なる權利として自由の特權として勞働時間の制限に相對して居る、吾等にたゞ夫れのみを與ゑよ、然からば人々はランカシャイヤーの擾亂を再び耳にする事ないであらう再び不滿の聲を聞く事はないであらう、また陛下の臣民の中最も忠實なるものとなるべくまた市民に應はしきあらゆる勞務を喜こむで負擔すると共に自ら欲して居る事實を知るに至るであらう、一度權利が承認せらるゝならば又た再び(彼等は至つた)ランカシヤイヤーに擾亂の聲を聞く事はないであらう、若しもたゞ一度吾等の正當なる權利さへ承認せらるゝならば」

と

シャスツベリー卿は尙は語を續けて進歩せる時代に付きて云つた

「余は心より諸君に感謝せざるを得ない、又諸君は斯かる有利なる保護の下に吾々が互に相會する事を得たるを祝福すると信ずるのである、吾等が互に此の一堂に會したるは不平を語る爲

めでは無い彼等を除かむ爲めの方法を講する爲では無い、卽ら吾々は何を爲なければならぬかを話す爲めでも無ければまた吾々は何を恐るかを語る爲めでも無い、唯々神の祝福に依り吾々が萬事現在の狀態に達し得たる吾々の喜悅を交換せむ爲めであり且つ又雇人は主人と主人は雇人と全國が完全な調和に働いて居ると云ふ事を交歡せむ爲めに來つたものである、彼等の內には苦しい感情も怒りも困難も存在しては居ない、さらば如何にして此れは爲し遂げられたものであらうか？此の事は暴力に依らず威嚇に依らず、ストライキに依らず如何なる種類の非常な惡辣な手段に依る事なく遂げられた事を回想して說き度い……………云々」

吾等の經驗に依れば來るべき黎明の時代には疲勞の伴はざる短時間勞働は生產を減少すべきものに非ず、殆ど例外無く生產額を增加する傾向がある。

軍需品職工の健康に關するバーノン博士の報告に依れば何人も六時間勞働制に關する疑惑を除去すべき事實を見出すのである。該報告に曰く氏が十三ケ月半歒導火線職工の生產額に對する硏究に徵するに勞働時間の減少は關係日に且つ絕對的に生產額の增加を示して居る、最初勞働時間は日曜を除き十二時間より十時間に變更せられた、アルミニユーム導火線雷製造の婦人勞働團體は次の結果を示して居る、名義上の十二時間勞働より浪費時間を除きたる正味十一時間勞働は每時百品目を產出し每週百箱を產出するものとする、而じて名義上の十時間勞働より浪費時間を除去し、正味九時間勞働として一時間に百三十四品目卽ち一週に百十一箱を產出する。名義上の八時間勞働より浪費時間を除去し正味七時間半勞働とすれば一時間百五十八品目卽ち一週に百〇九箱を產出する、斜くの如く八時間卽ち一週五十二時間勞働は每時並に每週に於ける生產額に於て十二時間卽ち一週七十二時間勞働より（時間上より又週の何れより計算するも）より多くの生產額を產出するのである、

又戰後の軍需品職工の疲勞に關する他の諸報告に徵するとき吾々は次の驚く可き事實を發見する、卽ち大なる生產額は單に每時間のみならず每週に於ても勞働時間の尠き場合に爲されると、最近一望本家の述ぶる所に依れば、戰爭の當初は彼れの工場に於ける女工の名義上の勞働時間は五十三時間であつた、然る所彼等は每週平均十四時間を浪費せる事實を知つて驚いた。各女工は一週平均十四時を浪費したるを以て實際上の平均勞働時間は各自三十九時間に減じて居たのである、資本家曰く「斯くの如きは不可である。吾等は女工も朝一時間遲く就職せしめ夜は一時間早く終業せしめなければならむ」卽ち一週に十二時間を減じた、而

して彼れは一週四十一時勞働する事に成り各女工が毎週僅かに平均一時間を消費するに過ぎざる事を發見した、即ち彼等は以前の如く三十九時間に非ずして四十時間勞働する事になつたのである。加ふるに彼れは女工等が浪費時間を除き四十時間勞働する事に成り一週四割四分の出産額に增加を來した事を發見した。

　政府が確固たる經驗に依り得たる每度の報告に依れば適當の勞働時間に於て人間は最高生產額も產出するものであると述べて居る。

　人間の一日に於ける疲勞は男女を問はず翌日の勞働に影響し、斯くて數日ならずして生產は漸次に且つ永久に低下して行くものである、若し人間として其の肉體が疲勞無く生產する事が出來るより以上に每日勞働せしめなかつたならば彼等は翌日には氣力も恢復して生產は一層增加するに到るであらう。而してまた次の如き事も發見した、即ち適當な勞働時間に依り增加したる生產額は其の產業に依りては五割より十二割に變化する、而して其の五割は上記の紀錄に示したる數字と殆ど一致する事がわかるのである、さらば一交代六時間勞働の二交代制に於ては每時其の生產額は三割三分の割合に增加し以前に一週四十八時間に得たる額と等しき生產額も一週三十六時間にて生產し得る事が出來る、（つゞく）

煽風器

▲所謂勞働物の出版物も下火となつた。雨後の筍の樣に續出した際物が出なくなつた。經濟界の不景氣の結果でもあらう。けれどもほんとのものはこれからだ。經濟界も大阪では三十萬の失業者があると報ぜられてゐる。眞險な社會問題はこれからだ。面白くなるも此からだ。出版界も眞面目なものが出る機になるだらう。

▲篤學者として令名のあつた米田博士の『革命的サンディカリズム』が最近大杉君や佐野君によつて問題にされた。博士も辯解された樣だが、レヴァインの原文と對照の面倒を取らなかつた吾々にはどつちの言ひ分が正しいかは解らない。がたゞあの本を讀んで感ずるのはその文章だ。『夫れ』『卸說』『今』と云ふ言葉が一冊の本になる程ある。甚だ文章について氣懸りだ。文章の難かしいのは勿論だが、博士のはあまりにひどすぎる少しは續々と出版される手前消費者即ち讀者の立場も考へて貰ゐたい。博士も文學博士なんだから特に注文する。

ナショナル・ギルド同盟の原理及目的

この陳述はナショナル・ギルド同盟から出版されたリーフレット A Short Statement of the Principles and Objects of the National Guilds League の全譯である（室伏生）

大英國を自由の國土と呼ぶのは物笑ひの種である。たゞに勞働者が、彼等自身の活動から流れ出る富を拒絶されてゐるのみではなしに、彼等は、法律と習慣とによつて、彼等の勞働なくしては一日も存在することのできない產業組織においての如何なる統制をも禁んぜられてゐるのである。雇主は、今や彼等の雇人から非常な距離――肉體的にも道德的にも、經濟的にも――に生活する。われ等は急速に、たゞ『奴隷國』――事實においての奴隷、またもつと危險なもの、法律においての奴隷――としてのみ言ひあらわすことのできる社會狀態へと步みつゝある。何んとなればそこには、彼等の賃銀奴隷を全くの從屬とするかそれでなければ飢餓に服せしめ、凡ての利益を收獲する、合法的特權階級の指導と統治とのもとに、人々が彼等の生活を營むことを餘儀なくされてゐるのにほかならないからである。賃銀が高い時であつてさへ、われ等は生活費がそれに伴つて高まることを知つてゐる。賃銀勞働者がもつと高く且つ安全な地位に上るのでなくしては、自由が、雇主と雇人とがともに絕望的な道德的沼池へ沈むの結果をもつて、隷屬へと墮落しなくてはならないことは、疑を容れることができない。今日まで、活動への叫びは決して强執でもなくまた熱烈でもなかつた。今や鎧をつけて正義と自由とのために戰ふのは凡ての市民の責任である。

ナショナル・ギルド同盟は、賃銀制度が、勞働者を經濟的隷屬の狀態のもとに繫いでおく資本主義の最强の武器であると信んずる凡ての人々の援助と協同とを希ふものである。賃銀制度なる言葉によつて、丁度凡ての商品が買はれてゐると同じく、公開市場における勞働の購買が意味されてゐる。卽ち雇主によつて需要供給によつて變化する價格で

買はれ、そして勞働の費用は原料の費用と同様に、仕上げ生産物の見積價格に算入されるのである。これがわれ等が勞働の商品的評價といふことの意味である。

このことは勞働者の生活にどう影響するであらうか？

雇主はいふ、若し相當な仕事に對して相當な賃銀を支拂ひさへすれば彼等は彼等の義務を行ひ、そして彼等の責任を果しつゝあると。このことは、若し彼等が勞働に對して市場價格を支拂ひさへすれば勞働者は彼れの勞働の生産物に對してそれ以上の要求權をもつものでないといふことを意味する。雇主は賃銀といふ市場税を拂つてから、仕上げ生産物、物品または勞務を經費の過剩額、そして往々非常な過剩額で賣却することにとりかゝる。最終經費と賣却價格との相違は、一般に利潤として知られてゐる。しかし餘剩價値——即ち實際の經費に對する商業的または自分勝手な附加物——としてもつつと正確に說述されてゐるものである。勞働者は賃銀のために彼れの勞働を賣ることによつて、餘剩價値についての要求をしないといふ默示的契約（それはたゞ默示されてゐるだけであつて確然と說述されてゐないにかゝわらず拘束してゐる）に入る。餘剩價値の全部は、別々の比例て地主と、眠りつゝある組合員（株主）と、そして重役によつて獲得されるのである。この國の多數の勞働が賃銀を受取ることが資本主義制度を受取ることであり、そして餘剩價値または利潤の全部を、一部は活動的重役に、一部は骨折りもしない紡ぎもない人達に分割することの默契を受取ることであることを記憶することが非常に重要である。かくしてわれ等は賃銀制度が富と贅澤とを貧困と窮乏とから隔離する壁であることを知る。この壁は勞働者がそれ自身を商品的評價即ち賃銀で賣ることを拒絕することによつてのみ倒壞することができるであらう。

それゆえに勞働者の直前の仕事は、このうへ資本家に餘剩價値を專用することの許容を拒絕することである。かゝる拒絕によつてそれが賃銀制度を破壞することを、われ等をして永久に希望せしめよ。しかし勞働者がそれ自身を商品として賣ることの拒絕（またその結果として餘剩價値の消滅）は、また生産及び分配の統制を包含する。

それは賃銀契約が資本と勞働の間における自由にして熟慮的な取引であることを主張する。そうだらうか？

公正な取引とはその取引の當事者が平等の基礎において相對し、そして双方が、平等に自由であるがために、締結された條件に對して殆んど平等に滿足してゐることを意味する。しかしこのことは賃銀取引の場合からは非常に距つてゐることである。

一つの簡單な例を擧げよう。勞働者は二週間以上飢ゑずにゐられることは滅多にない。そしてそれゆゑに資本家が主張する如何なる條件をも承諾することを餘儀なくされる。れど〻に勞働者が、資本家の條件を受取らない代りの唯一つものが組織であるがゆゑに、資本家に對立することが無能力であるのみではなしに、そのゆゑにそれは未だそれ自身の勞働力についてのみ獨占または有効な統制を所持するに至つてゐない。外觀とは違つて、このことは最も高度に組織された職業においてさへ眞理である。何となれば資本家は最後の手段として自働的の機械を持み込み、そして不熟練勞働者を、ある程度まで熟練者となるに至るまで、そして熟練且つ組織的職業に對する不斷の脅威となるに至るまで、特種の仕事に訓練する。賃銀制度が撤廢されることのできる前に、クラフト・ユニオン（熟練勞働者組合）は彼等の利害が凡ての他の階級の勞働者のそれと絕對に同一であることを認めなくてはならない、これゆゑにクラフト・ユニオンは彼等の城壁を撤去して產業的組合に發展しなくてはならない。勞働者が最後に勞働獨占を獲得することのできる唯一つの道である。

この間に資本家は賃銀勞働者を支配し、且つ全く隔離されたそして殆んど昔の奴隸階級のように墮落した階級に止めておくのである。それは政治的に權利を與へられた農奴國である。所謂賃銀契約のうちには、取引の自由もなく、また神聖な生活もなく、たゞ却つて墮落があるのみである。資本家は『承諾するか、それでなければ捨てよ』とはいはない。『承認せよ、それでなければ飢ゑよ』といふ。ナショナル・ギルド同盟の會員はこれをもつて耐ゑ忍ぶにはあまりに恐るべきことであると考へる何となれば人間の勞働、彼れの唯一つの生活手段が、原料と全く同樣に評價されることが忌はしいことであるのみではなしに、また資本主義が常に飢餓の妖怪をもつて脅威する權力を所持することは等しく忌はしいことである。實業外においては、如何なる紳士もかようなことはしないであらう。何故に實業は非紳

士的及方針で行はれなくてはならないであらうか？
資本家が勞働のうへに與へ、そして勞働のうへに强制してゐる商品的評價は、飢餓が唯一つの代替物であるといふことの知識によつて行はれてゐるのである。資本家は勞働者の住宅及び食物の費用を保障し、そしてこのうへに、將來の勞働の供給を保險するために兒童の扶養と訓練との手當を供與する、自由教育は地代の直接完全な騰貴の信號であつた。または他の言葉でいへば賃銀の購買力減退の信號であつた。彼れの兒童の教育費は最早や勞働者から生じなくなり、資本家はそれを許容することを廢止した。それは丁度以前に奴隷所有者がなした計算と同じである。しかしそれには勞働者の政治上における參政權許與を外にしても次のごとき相違がある。即ち奴隷制度は凡てが一樣な給養標準に向つてゐたのに對し、近世資本主義は遙に多くの勞働熟練の種々な等級を要求する。それゆえに、そは最初に生きてゆくといふだけの生活費を發見し、そして場合に從つて、そのうへにある特種の目的のための勞働訓練の特別費を支出する。多くの人々を混雜させるのはこの賃銀率における相違である。彼等は若し賃銀が實際に給養費だけだとすれば何故に賃銀率に多くの種別があるかの理由を解することはできない。眞實の公式は賃銀は第一に關係職業に必要な給養費によつて決定されるといふことである。この方法でわれ等は賃銀制度が高賃取りの技術家にとつても、また最も低い賃銀を拂はれてゐる勞働者にとつても、同樣に人格を墮落させるものであることを發見するのである。自由人の性質に合致しないのは制度としての賃銀制度であり、そしてそれゆえに廢止されなくてはならない。
雇主が斯樣な勞働商品の性質の改善を理解し且つそれによつて利益をうけてゐるのに、彼等にこの教訓を教え且つ教ゆることを經續してゐるものが勞働組合であることは記憶しなくてはならない。彼等はクラフト・ユニオンに組織することによつて、彼等は賃銀を引上げ、そして、かくして羸ちえたる僅かばかり高い生活標準をもつて、彼等の勞働は絕えず質において改良されてゐるのである。然り雇主によつて敏捷に絞取された改良である。クラフト・ユニオンが產業的組合に變じた時には、既に坑夫の全體に彼等の產業的組合を通して加はつたように、全體としての賃銀勞働者に同樣の結果が生ずるであらう。しかし組織はこの場合には產業自治の段取りを强制するに足るだけの力であらう。

それがギルド組織の第一歩である。産業的組合主義とともに産業的自治を正當なりとする權力と責任とが必然的に來るのである。

實際家は賃銀制度を非難するは容易であるがその代りにわれ等は何ごとを提唱するかといふであらう。われ等は次のやうに答へるていであらう、結果の如何にかゝわらず、賃銀制度は廢止しなくてはならない忌むべきものであると。しかしわれ等はもつと合理的である。われ等は答へるであらう、凡ての種類及び階級の勞働者は純粹の勞働者であり、そして怠慢者でないがゆえに、また彼等は一定職分を遂行するがゆえに、彼等自身を、彼等が產業を統制し、そして生產に對する完全な責任を擔當することのできるように組織すべきの時がきたと。彼等の組織は區域において國民的で、各產業に一つでなくてはならない。われ等はこれをナショナル•ギルヅと稱することを提議する。

ナショナル•ギルヅは現存の資本家組織にとつて代る資本家團體でないことを心得ておくことは肝要である。それはたゞ一方を驅逐する惡魔であるに過ぎないであらう。若し資本主義が根本的に害惡であり且つ不道德であるとすれば勞働者が資本家團に變ずるにしても、それを正當とするには至らないであらう。しかし資本主義は賃銀制度の消滅とともに必然的に消滅しなくてはならない。何となれば賃銀制度なくしては餘剩價値は存在することができない、從つて地代も利息も利潤も存在することができないからである。ナショナル•ギルヅは資本の所有のうへに置かれるのではなくして勞働の獨占のうへに置かれるのであらう。

それゆえに勞働の獨占は二つの結果をもつてゐる、一つは破壞的で他は建設的である。そは賃銀制度を破壞する。そはナショナル•ギルヅを創造する。

次に起つてくる問題はナショナル•ギルヅに組織された勞働が資本なくして如何にして產業を遂行するかといふことである。資本は原料から成立するものであつて貨幣から成立するものでないことは殆んだいふ必要もない。それは建物や、機械や、鑛物や、鐵道や、農場によつて代表されてゐる。これ等のものを統制するものが資本を統制する。そしてかように解された資本は勞働がその適用されるに至るまでは眠つており、且つ不生產的である。それゆえに若し

勞働者がその勞働獨占を通して生產手段を統制するとすれば、次にはそれが資本を統制することとなり、そして丁度資本家が彼等の財產の價値において銀行から信用を得ると同樣に、それの凡ての財的の働きのための信用を隨意に要求することができるのである。しかし資本が民主的に統制される――それが經濟的解放を行ひうる唯一つの方法である――時にのみ正しいことである。ナショナル・ギルヅ同盟は生產手段は國家に歸屬し、そして各種のギルドによつて管理されべきものであると信じてゐる。國家とギルドとはシヴ井ル・ギルド及び國家の官衙を維持することに一致するであらう。それが課稅についてのギルドの解決である。

政治的方法で賃銀制度を廢止し且つナショナル・ギルヅを組織することができるといふものがある。ナショナル・ギルド同盟は政治的努力を拒絕するものではない。しかし眞實の爭鬪は主として經濟的領域において鬪はれなければならない。ことを信ずる。そして更に經濟的權力が政治力の現在の源泉であることを確然と斷言するものである。それゆえにそは勞働者がクラフト　ユニオンの代りに產業的組合に組織することによつて、そしてそれの產業的組織を工場及びその他のあらゆる活動のうへに最上權を擴大するように使用することによつて、且つそれが必要な力を得た時に經濟的鬪爭のために用意することを奬勵する。しかし就中そは凡ての勞働者が、賃銀制度は人類を墮落させるものであり、そしてわれ等が自由にして自尊的人民でなくてはならないとすれば廢止されなくてはならないものであることを記憶することを熱烈に希ふものである。

コオルの『ソーシャルセオリイ』を讀む

ギルヅマンは初めから産業的または經濟的の範圍よりももつと廣大な理論を要求してきた。しかしそは今日までたゞ要求にとどまつてきた。この要求に答を與へたものはペンティによつて書かれた『歴史觀』とコオルによつい書かれた『ソーシャル、セオリイ』の二つである。ペンティの歴史觀はその一部分を『ニユー・エーヂ』で讀んだが彼れはそのうへに幾多の增補をなして可成りの大著述となした。そして彼れ自ら歴史の書き直しであるといつてゐる。マルクスの唯物史觀に對してペンティの『ギルヅマンス、インタプリテーション、オブ、ヒストリイが書かれたのである。私はニユー・エーヂのうちから既に飜譯してあるので更に附加して譯書を近く出版する考へである。

コオルの『ソーシャル、セオリイ』は私が最初に期待したほどに善き書物でなかつたことに私は稍や失望したものである。恐らく彼れの『産業の自治』『勞働の世界』等を讀むでこの書に接したものはみな私とその感を同じくするであらうと思はれる。しかし彼れのいはんとするところ、そしてギルヅマンのいはんとするところは大體においていひ盡してはゐる。彼れはこの書物の冒頭で『人間が社會を造るのではない——、彼等は社會のうちに人間となるのである』といふことを述べてゐるとほり、社會的環境が人間の生活に重要な力をもつてゐることを認めてゐるのである。しかしそは決して唯物史觀へとゆくことではない。オルソドックス、ソーシャル、セオリイが破産したと論じてゐるコオルはまた唯物史觀の反對者である。彼れは一方に社會的環境が人の意思の決定に重大な原因をなすことを認めながらも尚は人間の意思の獨立性を認めてゐるものである。フエービアン社會主義が社會は有機體であるといふの立場をとつてゐるのに對しコオルは社會有機體說に反對し、そして社會の發達の原因について次のごとく述べてゐる。

『この發達（新らたなる社會的發達）は必要がある程度まで明白に現はれてなくては行はれない——それが社會組

織の物質的または環境的基礎である。しかしこの發達は人間の意思がこの必要に應ずの道を工夫するに至るまでは行はれるものでない――それがそれの人間的または心理的基礎である』(ColeSocial Theory. p 205)

彼れは社會の目的について次のように述べてゐる『社會組織の目的は單なる物質的能率ではなくして主として凡ての人の充分なる自己表現であることと推定する。私はまた自己表現は自治を包むでゐるものである』と。この假設は彼れのソーシャル、セオリイの基礎である。この基礎のうへに立つて國家を論じ、民主主義を論じ、議會を論じ、社會を論じ、致會を論じ、自由を論じてゐるのが本書であるしかしこれ等の多くは今日まで彼れの論じてきたところと大體同じことであるからこゝに一々紹介し批評する必要はないことと思ふ、要するこの書物は彼れの理論の新らたなる部分ではなくしてたゞ今日まで繰返してきたもののうちてソーシャル、セオリイに關係あるものを一まとめにして一冊の書物としたものであるに過ぎない。(室伏生)

貨幣廢止論　(川島清治郎著)

「人類の生存競爭を防止し、貧富の差別を絕し、倶に共同生活の平和等を期待するが爲には、世界の面より斷然貨幣を絕するを必要とす」この立場から本書は書かれたもので、貨幣の廢止を前提とする一の國家社會主義の提唱である。川島氏は貨幣の廢止を前提とせずして社會改造を語るのは、古い言葉で言へば、木に緣つて魚を求むるの類であるとする。けれども私共はその說に對して、生產並に分配組織の社會化は其の內に必然に富の集積用として貨幣の廢止を主張してゐることに注意しなければならない。何となればこの事を除いて、生產並に分配の社會化を語るのは無意義であるからである。だから社會民主主義(共レクス)に對する批評はこの點において失當である。これとマに著者が絕對平等の境地に達する過程において私有財產の國有化に對して公債を發行しやうと言ふのは、勞働奪略の防止でなくて保證である。

然し、貨幣は貨幣を生む能はずとしたアリストテレースの言葉の意味を强調して、社會改造論として、殊に其の實際的方策の提供としてこの「貨幣廢止論」は正に我が國社會改造論中において特異の地位を占むべきものである。(牛込、二酉社、定價壹圓)(甲野生)

室伏高信著〔第十七版〕

東京京橋區元スキヤ町三ノ一
振替東京四五三四六番
批評社

價二圓四十錢
送料八錢

【主要目次】**國家社會主義**（國家社會主義の起原―社會民主黨と國家社會主義―共産黨宣言―日本の國家社會主義―社會主義と資本主義―デモクラシーと社會主義―封建主義、商業主義、社會主義―政治的社會主義と經濟的民主主義―社會民主主義―勞働者と國家―『國家は死滅する』―ブルジョアの國家―エンゲルス國家觀の意義―『共産宣言』と國家―ベーベルの提議ゴーダ會議―カウツキーの主張―マインツの會議―獨立勞働黨の決議―ゲード派の態度―ギルド社會主義―國家社會主義とデモクラシー―ソーシャル・デモクラジ）**修正派社會主義**（ベルンシュタイン―『マルクス主義の危機』―マルクス主義の原則―唯物論―唯物主義と唯物史觀―マルクスと非經濟的要素―マルクス主義者の態度―餘剩價値説―マルクス價値論―エンゲルスの解釋―勞働價値―マルクス抽象論―マルクス價値説と餘剩勞働―資本集積説―資本主義と富の分配―恐慌説―階級鬪爭説―革命説―『共産黨宣言』の批評―政治的民主主義―デモクラシー―社會主義と自由主義―勞働者と祖國―普通選擧―『共産黨宣言』―修正社會主義と理想主義―『カントに還れ』―『カントに還れ』の意義）**サンヂカリズム**（サンヂガリズムの起原―サンヂガリズムの特質―『國際勞働黨者協會』―ゲード派―ブルセー派―フランス勞働運動の狀況―勞働組合の公認―『勞働紹介所聯合』―『勞働總同盟』―C、G、T の實力―總同盟罷工―サボタージュ及びボイコット―ペルウチエーと勞働組合とサンヂカリズム―政治的社會主義の不信用―サンヂカリズムと無政府主義―實際的指導者理論的指導者―ソーレル―マルクス―プルードン 直接行動―サンヂカリズムと無政府主義―サンヂカリズムと國家―バクーニン組織的無政府主義―社會主義の目的―經濟的聯立主義―サンヂカリズム勞働組合主義―I・W・W―産業別勞働組合及職業別勞働組合―コレクチヴヰズムとサンヂカリズム―生産者專制）**ギルド社會主義**（ギルド社會主義の起原―英國勞働組合の歴史―『新組合主義』―勞働黨の成立―勞働黨の不信用―トム・マン―『サンヂカリズムの波』―中央勞働大學―ギルド社會主義の誕生―ギルド社會主義と國家社會主義―直接經營―國家と資本主義―消費者―産業民主主義―サンヂカリズムとギルド社會主義―生産者によつての搾取―ギルド社會主義の目的―賃銀制度撤廢―國家社會主義と賃銀制度―資本主義の精髓―貧乏と奴隷制度――産業自治論―サンヂカリズムの立場―生産者の自由及消費者の自由―産業統制の意味――ギルド社會主義と國家―ギルド社會主義の特質）**勞働組合主義**（勞働組合の起原―ブレンタノとウエヴソー―ギルドの性質―産業革命と勞働組合―各國の實例―契約の自由―社會主義と勞働組合主義―オーウエン主義―チャーチスト―『ナイツ・オヴ・ヴォア』―勞働組合主義と社會主義との分離！一八五二年の職業別組合主義―勞働組合主義の定義――國家社會主義的勞働組合主義―職業別組合主義の性質―一八八九年新組合主義の性質―現代の新組合主義―産業別組合主義の勃興―その性質―その現勢）**ボルシエヴヰキ主義**（ロシア社會運動史―ボルシヴヰキの起原―プレフアーノフとレーニン―三月革命と九月革命！『人民』ロッツスの書物―妥協的態度―ボルシエヴヰキの本質―勞兵會憲法―トロツキーのボルシエヴヰキ論―レーニンの所論―勞働階級と執政權―『共産黨宣言』とボルシエヴヰキ―手段と本質―マルクス主義とボルシエヴヰキ―ボルシエヴヰキと無政府主義―ボルシエヴヰキとサンヂカリズム―ボルシエヴヰキと國家）**無政府主義**（無政府の起原―議會主義と無政府主義―暴動派と平和派―モスト―マルクスとバクーニン―クロポトキンの定義―個人主義的無政府主義―集産的無政府主義の性質―團體主義と權力―クロポトキンの無政府主義論―相互扶助と共産主義―自由なる共産主義―政府と所有―共産主義と無政府主義―スチネルの無政府主義個人主義と無政府主義

定價

毎月一回一日發行	一部	半年分	一年分
	卅錢	一圓七十錢	三圓三十錢
郵税	五厘	税共	税共

但特別臨時號の價は別に申受く

▲誌代は總て前金
▲送金は可成振替
▲郵券代用一副増
▲外國行郵税十

大正九年八月一日印刷納本
大正九年八月一日發行

東京市京橋區元スキヤ町三ノ一番地
編輯兼發行印刷人　尾崎士郎

東京市京橋區築地二丁目三十番地
印刷所　川崎活版所

東京市京橋區元スキヤ町三ノ一番地
發行所　批評社
振替東京四五三四六
電話銀座一三七四番

廣告

	半頁	一頁	二等一頁	一等一頁
	十圓	二十圓	三十圓	五十圓

大賣捌

▲神田　東京堂　上田屋……
▲京橋　東海堂　北隆館……
▲日本橋　至誠堂　▲本郷　盛春堂

大正八年三月廿八日第三種郵便物認可
大正九年九月一日印刷發行

九月號（第十九號）

（定價卅錢）

大山郁夫君の民衆文化主義（長篇批評）

ナショナル・ギルド問答（ギルド社會主義の平易なる解説）

批評社

批評九月號目次

『文明の後』

吾れらは卿に對して威赫なり、オ、文明よ！
吾れらは卿を見たり、――吾らは卿を許容す
吾れらは少時卿を堪え忍ぶべし。
然れど記せよ！たゞ瞬時の間のみ、
かくてその時來たらば、避くること能はざるべく、
吾れらは起ちて卿を一掃すべし！

――カアペンタア――

(『民主主義の方へ』から)

大山郁夫君の民衆文化主義

一

民衆文化または民衆文化主義といふことが大山郁夫君によつて主張されてゐる。私は最初『丁酉倫理會講演集』において大山君の『民衆文化の基調に關する一考察』といふ論文を讀むだ。この論文は大山君の講演の筆記を自訂したものであるがそれは『講演の半分より少し多い位ひなところまで』書き直したものであるそうであるからこれだけでもつて大山君の民衆文化主義の全體系を窺知することはできないに決まつてゐる。この論文は二十九頁にも亘つてゐる長大なものであるが尙ほ大山君のいはんとすることの半分に少し多い位ひの程度であるに遲ぎないそうである以上苟くも『民衆文化主義』といふ新らしくして俗人には分りそうもない大提唱の學生となるためには更に大に忍耐して他の長大論文を讀まなくてはならない義務のあることは勿論である。古るきものに對すると同樣に新らしきものに對して憧憬と貪慾とを感ずる私は大本敎の信者としての善男善女が遙々東北九州の邊から綾部を指して集るような心持ちで更に大山君の他の論文を貪り讀まうとする決心を起した。そして先づ中央公論七月特別號の卷頭を飾られた二十八頁の長大論文『民衆文化の社會心理學的考察』を讀了した。この論文は用語なり、順序なり、材料なり、方面なり、要するにそのサブスタンスがそして頁數までが先きに讀んだ講演自訂と同じものであることを知つた。かくも長々しき論文を繰返して書かれることによつても大山君が如何に『民衆文化主義』といふ新提唱に熱心であるかを知ることができるであらう。私はこの熱心に引すられて雨の降る日曜に更に一大奮發を起して『我等社』へ出掛けて行つて『民衆文化主義と自分』を讀むために『我等』七月號を買ひ求めた。そして歸り道にこれを通讀することができた。この論文も大體において前二者と同一の趣旨が繰返されてゐることによつて『民衆文化主義』の使徒としての大山君の熱心さに更に新らたなる驚きを加へることができた。そしてこの論文中のサゼッションに從つて私は最後に『解放』に載せ

られた同じく大山君の論文『現代社會生活と知識階級』を一讀した。――私はこの四つの論文しか讀んでゐない。この四つしか讀まないで兎や角と苦情らしいことをいふよりはもつと〳〵多く大山君の論文を讀むだ方がよさそうに思はれないことはないが――これが批評家としても學生としても當然にとるべき眞面目な態度であるが、私がこの四つだけしか讀まないで尙ほ且つこゝにこの小さい一感想を書こうと企てたのは決して簡便に當時流行の文化主義とやらの評論の仲間入りをこようとするためではなくしてこれには少くとも三つの理由がある。その第一は私のこゝに書こうとすることが大山君の『民衆文化主義』の全建物を批評して折角堂々の論陣を張つてゐる權田教授のお株を犯そうとするのでなくしてたゞこの『民衆文化主義』の殿堂を少しばがり窺いて見たいといふに止まるものであり、それさへ批評といふよりは『民衆文化主義』なるものの新入の學生として大山君に今後の講釋の注文をしたいといふに止まるものであるから、この程度の一言をするには私の讀むだ範圍で多分充分でもあらうし、これだけしか讀まなかつたにしても後から權田教授のように『誤解』の辨を何ヶ條かに分けて長々と說明するほどの必要も出てこないだらうと思はれること。第二は大山君の『民衆文化主義』なるものは『その內容が轉々流動して決して一處に停滯しないのは當り前のことである』そうであつて、今日では最初に大山君がこの問題を提起した時に比べると『隨分著るしき程度に於て展開してきて最早當初の出發點のあたりに低徊してゐるものでないことが事實であるといふことが大山君御自身の說明である以上、考古學者は兎も角としてわれ〳〵俗人にはその『當初の出發點のあたりに低徊して居る』ような酔興な眞似をして原著者御本人のお叱りをうけるにも當るまいと思はれること。第三には大山君の四つの論文は實は一つの論文にしてもいゝほど內容が同一であつてそのうちに書かれてゐる謂ふところの『民衆文化主義』なるものの說明にヴァイタルだとされてゐる『時代精神』の說明だとか『民衆文化』の意義なぞは私立大學から出てゐる每年の法律講義錄のように內容が一字一句違つてゐないゝとほどに熟しており、從つて『民衆文化主義』なるもの內容が熟しきつており、そのうへにこの論文の肉となり說明補足となつてゐる材料までが全部同一物である。例へば中央公論に出た前述の大論文の結末を飾るソヴヰエット政府の敎育布告の譯文は同時に丁酉倫理に出た論文の結末を飾り、更

に大山君が自ら述べてゐるところによればこの材料は既に早く『我等』五月號の同じく大山君の論文の何れかの部分を飾つたといふことである。(中央公論夏季特別號二十五頁)。だから大山君の『民衆文化主義』は大山君自身がまだ發達の楷梯にあるもののやうに謙抑してゐるにもかゝわらず、その實はステロにとり紙型に造りあげてもいゝ程度に固定し、圓熟しきつたものであるからこのうへにも『轉々流動することが當然のことである』やうには思はれなくなつたのである。またたとへ『當然』であるにしてもないにしても、そう〳〵『流動』ばかりしてゐられては活動寫眞で『惡漢』の自働車を追ひ廻してゐる探偵の自働車の走るのを見てゐるような考へで見物してゐる人には面白い場面であるにしても眞面目にあとから長大論文を通讀したり、雨降りに古雜誌を買ひに行つたりするものには兎てもやりきれないからこの邊で負けて貰ふこと。即ち先づこの邊に『停滯』して貰ふことが讀者側の權利であること。

二

『民衆文化主義』とは何か太山君に從へば先づ『文化』とは『文化生活』なぞといふような意味に使はれてゐるが大山君はこうした意味においての『文化』を單なる『文明』といふことと同義であると解すべきものであつて從つてこの解釋は問題にならない通俗的な卑近なものとして排斥されてゐる。即ち『民衆文化主義』なるものを理解するためには先づこの『文化』と『文明』とを區別することが必要であると斷はつてゐるのである。この叮嚀な御注意に異論のあるものは世界廣しと雖も『森本厚吉君』位ひのものであらう。森本君の『文化』とは『澤庵の廢止』であり、世の奥樣方の讀まれる『婦人家庭雜誌』が『博士』の名によつて出版されて當代の『十五大家』とか『十博士』とかいふエラヒ人達が名を列ねる時にそれが『文化生活』となるものであることは最近にわれ等の目のあたり新聞紙の大廣告と新聞記者のお提灯記事とによつて敎えられたところである。『キルヅマン』は賃銀廢止から新イエルサレムが生れるといつてゐるがそれさへもユートピアンだといつてゐる人のある世の中に『澤庵廢止』から『文化』とやらいふ『崇高至美』なものを生み出そうといふ『ブンカマン』のことは何れ北昤吉君が米國から歸つてきて『檢討』するであらうから大山郁夫君とももあらうものがこんな點まで立入る必要もあるまいと思はれる。何れにせよ大山君の『民

衆文化主義』なるものが澤庵漬から生れてこないものであることの分つたことは森本厚吉君のために不幸に終つたにしてもわれ〳〵にとつては誠に幸ひであつた。ところが大山君の『民衆文化主義』なるものは幸にして澤庵漬から生れてこないものであることが分つたようなもののまだどこかに澤庵抜けのしないところがあるようにも思はれるといふのは大山君が民衆文化主義といふ『文化主義』の一種のような言葉――何人の目にもさう解されべき可能性を多量にもつてゐることは大山君と雖も否むことはできない――を使つておりながらその『民衆文化主義』なるものが大山君自身も說明してゐるとほり世の所謂文化主義とは『似てもつかない』といふことである。尤も大山君は世の所謂文化主義においての『文化』なるものを『人格價値』實現の過程と『文化價値』實現の過程との二つに明瞭に峻別されてゐるのである（前掲中央公論及丁酉倫參照）が『人格價値』と『文化價値』との間に大山君はどういふ區別を設けようとするのであるかはわれ〳〵『民衆文化主義』の學生が先づ第一に聽きたいところである。大山君に從へば『人格價値』の實現といふことは『平たくいへば各人の各機能の可能性を何等の障害なくして展開せしめることをもつてその極致としてゐるらしいが、若しそうだとすると、それはありきたりの自我實現と同じ範疇に屬するものだ』、と解せられるものである』と『平たく』說明してゐるにかゝわらず『文化價値』の方は『六かしく』解して當爲とか規範とかアプリオリとかいふ言葉を使つてその眞相を摑もうと（或はその弱點を探そうと）してゐるからこの二つのものに對する大山君の解釋は一方は浴衣掛けで他方には上下を着せてゐるといふことだけしか分つてこない。しかし大山君のように『文化價値』ゾルレンとかアプリオリとかノルムとかいふ上下をつけさせてゐることによつて他方（人格價値）と區別せんとするやり方が果して正しい考方であるだらうか。ゾルレンとかアプリオリとかノルムとかいふことを考へることなくして人格價値實現の過程としての文化といふことが理解されるであらうか如何。如何なる『文化主義者』か謂ふところの『人格』るものをゾルレンの對象でなくして實在的なものだと說いたであらうか。如何なる『文化主義者』か『人格價値（パーソンリッヒカイツヴェルト）』をノルムでなくして自然だと說明したであらうか。大山君に從へば『人格價値』實現の努力としての『文化主義』なるものに對してはそれが『社會的環境』と『有機的に結合』してゐるものであるとすれば大山君の

文化に對する考へ方と一致することができるとのことである（中央公論七頁丁酉倫理二頁）といふがこゝが私どもによく理解のできない點であるといふのは『人格』といふ價値觀念に對して社會的環境といふ自然現象を『有機的に結合』するといふことがわれ〳〵のような俗人には分りにくひことだといふのである。

三

大山君の謂ふところの『文化』なるものの特質はかくして一方に『澤庵漬』から離れて自ら高しとするところのあるとともに他方に『崇高主美』なる『文化主義』に對しては自ら卑しとして『自然』のうちに彼れ自らを卑めてゆこうとする觀念である。卽ち大山君は一切の超越的觀念の熱心なる反對者であつて『文化』といふ名目に憧憬することにおいてはリツケルトにもヴ井ンデルバンドにもミユンテルベルヒにも劣らないものであるにもかゝわらず、その謂ふところの『文化』とはリツケルトやヴ井ンデルバンドやミユンステルベルヒや或はその日本出張所の支配人としての左右田博士あたりのいふような『崇高至美』な超越的觀念ではなくして最も多くマルクスの唯物史觀の臭ひのするもの『澤庵漬』に近い方のもの――である。それによつて見ても大山君の謂ふところの『文化』なるものが決して西南獨乙派あたりの飜譯でなくして大山君獨自の新機軸であることを知ることができるのである。否なこの立場からして大山君は所謂『文化主義』なるものに勇敢に反對し、超越的概念としての『人格』とか『文化價値』とか當爲とか規範とか、アプリオリとかいふものの一切を否定して理想主義の哲學の大伽藍に挑戰してゐるのであつてその見識の高邁なることと立論の規模の大なることとは驚嘆に價ひするものがあるといはなくてはならない。たゞかくのごとくに勇敢なる大山君が『文化主義』の攻擊に千萬語を費しておりながら何故に理想主義の哲學の根底に斧を振はなかつたかといふことだけが日本最負のわれ〳〵の齒かゆく思はれてならない唯一點である。

四

大山君に從へば『文化』とは決して『空莫』なる規範とか當爲とかアプリオリとかいふような『すべての集團の主義主張に超越してしかもその各々に內在してゐるといつた調子のもの』ではなくして否なかくのごときものは誤謬の

因子』を含むでゐるものであつて（中央公論第十四頁）『文化』とは宜しくかくのごとき『空疎』なる超越的觀念から離れて『澤庵漬』を喰つて生きてゐる人間の實生活と『有機的に結合』しなくてはならないものである。もつと具體的にいふと『各人が置かれある集團とか、社會的地位とか、階級とかを無視若しくは超越しては』文化なるものはないのであつて『凡ての規範なり當爲なりは、ある集團なり、社會的地位なり、階級なりの立場から、いゝとか、わるいとか、正しいとか、正しくないとか、と言ふことが出來る』のであるといふことである（丁酉倫理第五頁）から『文化』は必ず何々集團の文化であるとか、何々階級の文化、何々社會階級の文化であるとかいふ『主人』附きのものでなくてはならないこととなるわけである。即ち『主義主張といふものは、ある抽象的概念であるアプリオリから飛び出してくるのでなくして、あべこべに集團なり階級なり社會的地位なりといふ澤庵漬の現實生活からアプリオリイが『飛び出して』くるものである。（丁酉倫理第五頁）然り、當爲とか規範とかアプリオリとかいふものは大山君の『民衆文化主義』においては普遍妥當性（アルゲマイングルティフヒカイト）をもつてゐるものではなくして、ある階級なり、集團なり、社會的地位なりから雇はれた『賃銀勞働者』であつて、それは決して階級なり、地位なり、各集團なりのうへにあつて、高所から睥睨するような大それた横柄なものではなくして、その各集團なり、地位なり、階級なりといふ雇主から製造され、販賣され、或は絞取されるところの見すぼらしいあわれなる當爲であり、規範であり、アプリオリである。規範なりアプリオリなり、當爲なりもこゝまで『平たく』解釋されてくると往來に曝らされた御神體のようなみじめさをしみ〴〵と感じさせられるわけであつて、何となく物の哀れを感ぜずにはゐられないのである。

五

以上に述べてきたとほり、大山君に従へば文化とは『澤庵漬』そのものでないとともに、また『崇高至美』な御神體でもなくして、その『崇高至美』なる神の殿堂から下界へ引ずり落された、『澤庵漬』を喰つて生活してゐる人間の現實生活の實相から『飛び出す』ところのバラック式の建物である。このバラック式の建物は『各集團とか階級とか社會

的地位』とかいふ『主人』持ちの當爲、規範またはアプリオリを解する人によつてのみ理解せられるところの至つて『空疎』でないところの生きた――『有機的』の――建物である。然り、各人が屬してゐる階級なり、社會的地位なり、各集團なりは規範なり、當爲なり、アプリオリなりの製造元である。否なそは各集團なり、社會的地位なり、階級なりから『不可抗的に流れ出る』ものであるといふことである（丁酉倫理第五頁）から苟くも集團あり、階級あり、社會的地位あればそこに必ず、當爲あり、規範あり。アプリオリあるわけで、そうしたものは到るところに轉ろがつてゐる。――『轉々流動』したり、『低徊』したり、『停滯』したりしてゐる安價なるものであつて、『犬も歩けば棒に當る』ようにわれ／＼のような俗人にだつて先方からぶつかつてくるものである。しかし當爲なり、規範なり、アプリオリなるものもこう續出してくると少しは吟味しなくてはゐられないことになつてくる。そこで先づ大山君の謂ふところの集團とは何をいふのであらうかといふ疑問が出てくる。これに對して大山君は何の説明もしてゐないのであるが集團といふことは單に『空疎な概念』でない限り職業的集團とか地理集團とかいふものであらうがそうなると大山君の規範なり當爲なりは勞働組合なりまたは某々國家なりの當爲、規範となるわけである。つまり法律とか命令とか勞働組合規約とかいふようなものに一致するわけである。そしてこゝに日本の文化とか獨乙の文化とか勞働組合の文化とかいふものが成立するわけのものであると察せられる。次に大山君はその謂ふところの『社會的地位』についても何の説明もしてゐないが、階級と區別された社會的地位は何のことであらうか。例へば政治的特權を喪失した貴族――獨逸新憲法において承認せられるような貴樣とか從何位勳何等とか名士とか『博士』とかいふものをいふのであらうが、こうなつてくると風袋貴族の當爲とか、名士の規範とか、博士的アプリオリとかいふものがあるわけであり、そしてまた從つて『風袋貴族文化』とか、『名士文化』とか、『博士文化』とか、『從何位勳何等文化』とかいふものが『流れ出る』わけであつて流石に文明の世は『文化』もまた複雜であつたことに氣が附くのである。しかし大山君に從へば今日及今日以後の世界はだん／＼と各集團なり、社會的地位なりが經濟的階級に統括されてくるのであるから文化についての見解もこの經濟階級の立場を基點とすればいゝことになるのであつて（中央公論第十六頁）文化はこゝに複雜か

ら單純に向ひ、われ〳〵學生には至極便利になつてくるわけである。

六

大山君に從へば社會は『だん〳〵と確定的に甲なり乙なりの社會階級（經濟的）の中へ沒入する傾向』を示してゐるものであつて、謂ふところの各『集團』なり『社會的地位』なりもこの沒入を免れないといふことであるからつまり今日までの經濟的根據なき階級とか或は國家とかいふものは滅亡して人々はみな階級意識のうちに生活するようになるものである。そしてその經濟階級とは大山君に從へばブルジョア階級とプロレタリア階級であるといふことであるから大山君の立場はこの點においてだん〳〵とマルクス說に『沒入』してきてゐることが分るのである。この階級の理論においてマルクスと一致してゐる大山君はもつと〳〵深くマルクス說と一致してゐることを知る。何となれば大山君に從へば超越的な人格とか自由とかいふものはあるものでなくして、各人が自分の意見だと自分で思つてゐることも實は自分の意見ではなくして各自が屬してゐる『各集團の規範によつて支配されてゐるか制限されてゐるもの』であつて、『各自の個人的意見は自己が屬してゐる集團の規範である』（中央公論第十六頁）またその集團なるものは經濟階級に『沒入』してしまうものであるから、規範も階級的に統括され、そして各自の個人的意見は『經濟的階級の規範』であるといふことになるのである。卽ち階級は萬能の神であつて個人はそれに『沒入』してゐる一片の木像である。嘗つて『各集團』なり『社會的地位』なりのうちに『沒入』してきた憐れなる個人はこの『沒入』から免れかゝつて解放の曙が見えたかと思つた瞬間に——然り『黎明』が最近に資本主義を代辯することとなつたがごとくに——不幸なる個人よ！　彼れはまた經濟階級といふ縛しめのうちに『沒入』しなくてはならないといふ前違の張合ひのない運命の神に飜弄される身の上となつたのである。然り大山君においては『自由』とか、『人道』とか、デモクラシーとかいつたようなものは『蠱惑的な言葉であつて』（中央公論第十三頁）甚だけしからぬものである！　あらゆるものは經濟的生活——經濟階級——それが規範の製造元である——によつて規律されるものであつて『自由』とか『人格』とかいふことは『空疎な概念』であるかまたは『階級の規範』とかいふ『澤庵臭』の紛々たる『規範の反映』で

あるに過ぎないのである。こゝに至つて大山君が何時の間にかマルキシズムの洗禮をうけてゐたことがわかつてくるのである。しかし大山君のマルキシズムは――そういひえられるにしても――丁度大山君の規範とか當爲とかアプリオリとかいふものが主人持ちの雇人であるごとくにこれまた二重にも三重にも主人を持つてゐるマルキシズムである。その譯は大山君に從へば『自由』とか『人道』とか『デモクラシー』とかいふことは『蟲惡的』な言葉であるとされて必然論への道を眞つしぐらに走つてゐる一方に、それとは打つて變つて忽ちギルド・ソーシャリズムだとかサンヂカリズムだとかいふ『社會主義の新らしき諸派』に感激して、ソレルのミース、コオルの『新イエルサレム』ペンテイの中世紀主義なぞをもつて所謂『民衆文化主義』の扱ひをするに至つてゐる（中央公論廿三頁）ことにも注意しなくては大山君の民衆文化主義とは『似てもつかない』ものとなつてしまう恐れがあるのである。しかしこの點にもわれ〳〵には窺ひ知ることのできない『ミース』がありそうにしか思はれない、といふのはわれ〳〵からいふと、ギルド社會主義とかサンヂカリズムとかいふ『社會主義の新らしい諸派』は少くとも『自由』を『蟲惡的』な言葉として排斥してきたものでなくして、あべこべに『自由』を彼れの信條として立つてゐるものであるといふことは、大山君以外何人がこれに反對するであらうか。大山君はソレルのソーシャル、ミースを口にした。そのソレルのサンヂカリズムがベルグソンの自由の哲學、直觀の哲學から生れたのでなくして『自由』を『蟲惡的』な言葉であるとして排斥する必然論から生れたものだといふのが大山君の立場である。また大山君はエッチ・コオルの『新イエルサレム』に憧憬しながら『自由』と『人格』とをその『新イエルサレム』から追放しようとする！『嗚呼、『自由』を追放してどこにコオル――ヂョーヂ・ドグラス・ホワード・コオルが殘るであらうか！　唯物吏觀が仆れる時にマルキシズムの大伽藍が仆れるといふことはベルンシタインあたりから聽いたことであつたが『自由』が仆れる時にギルデイズムの『イエルサレム』が仆れずにゐられたならばギルヅマンの『新イエルサレム』は革命後のクレムリン宮殿のようなまた獨乙新憲法後の『貴族』のような『風袋イエルサレム』となつてしまうであらう。ペンテイの中世紀主義にしても、こゝから自由を驅逐されてしまつては折角の『ギルヅマンの歴史觀』も『マルクスの歴史觀』と書き代えなくてはな

らないといふ厄介千萬なことが勃發するであらう。こうなつてきては『民衆文化主義』の骨折りもさることながら『書き代えられる』方のギルヅマンやサンヂガリズムの方の心配や恐怖も一通りや二通りではあるまいと思はれる。

七

かくして大山君の『民衆文化主義』は『心理的』に文化を押し立てる努力であつて、『崇高至美』派の『文化主義』が『當爲』をもつて『事實』に對する命令であると考へてゐるとは反對に、事實から當爲を製造しようとする魔力を發揮し、當爲や規範やアプリオリやから普遍妥當性を引つこ抜き、ギルヅマンから自由を引つこ抜いてしまつたが、その偉大なる魔力はこの邊の程度に『低徊』したり、『停滯』したりしてゐるものとは『似てもつかない別物』であつて『轉々流動』の結果はマルクスの唯物史觀から物質を半分ほど引つこ拔いて（中央公論第十八頁）こゝに『精神生活』といふ新らしい必然を建築するに至つたことは『民衆文化主義』の學生が必ず知つておかなくてはならない重要な點である。勿論大山君はマルクスの唯物史觀なぞと古るくさいことをいふほどの舊人ではなくて、『經濟階級の規範』論を主張してゐられることは前に述べてきたとほりであるが、この經濟階級――ブルジョアとプロレタリアから物質を半分ほど引つこ拔いてこゝに『精神生活』といふ『新イエルサレム』を發見したことが『民衆文化主義』への道であつたといふのである。ところでこの精神生活といふものは經濟的社會階級を通してのみ實在するものであるといふことであるからこの『精神』なるものも『ブルジョアの精神』とか『プロレタリアの精神』とかいふ階級的精神の外には存在のできないものであつて『精神』も至つて窮屈な境遇に我慢してゐなくてはならないわけである。そしてその階級精神が『時代精神』であるといふのが大山君の時代精神論であつて、階級を離れて時代なく時代を離れて精神はなく、その『時代精神』が『社會生活の外形の上に表現され』た時に『文化』が始めて呱々の聲をあげるのである。（中央公論第二十一――二十二頁）だから『文化』は時代々々即ち時代精神の變化毎に『轉々流動』すべき約束をもつてゐるのであり、また階級の異るごとに別種の文化の成立してゐるわけであつて、それが現代においては『ブルジョアの文化』と『プロレタリアの文化』の二つとなつてゐるわけなのである（中央公論第廿二頁）然り、今日においては『文

化が二つあり、從つて『時代精神』も二つある！　その二つの『時代精神』が社會生活の外形に表現されて『ブルジョア文化』と『プロレタリア文化』の二つの『文化』が成り立つてゐる。この後の文化を大山君は名づけて『民衆文化』といひ、この『民衆文化』の實現の努力が『民衆文化主義』となるわけである。こゝまで『流動』してきて大山君の『民衆文化主義』にようく追ひ付いたようにも思ふが、しかし追ひついたことは分つたことと同じことでない以上、もう少し『流動』してゆく必要がないとはいへないのである。それは先づ『時代精神』の行先きの問題である『時代精神』の行先き如何。

八

大山君の『民衆文化主義』さへ『轉々流動』するのが『當り前のこと』である以上、『時代精神』だつて『轉々流動』するは『當り前』のことであるではなからうか。否な『時代精神』の轉々流動を認めればこそ大山君は『ブルジョアの精神』だとか『プロレタリアの精神』だとかいふものを考へた次第であらうから、この先きとても『時代精神』の流動を認めるであらうといふことが直ぐに考へつかれるところである。また『時代精神』が一所に『低徊』したり、『停滯』したりしてゐたのではそれこそ『時代精神』とは似てもつかないものとなつて後から『誤解の辨』のために權田教授を煩はして何ヶ條かの辨明やら攻撃やらをしなくてはならない厄介事を惹起する必要を生ずるであらうし、『平たく』いへば『時代精神』が『萬年精神』となつて新らしく生れようとする時代精神が清浦內閣のように空しく流產の悲しみを味はなくてはならない羽目に陷つてしまはなくてはならないのである。『時代精神』をこの不幸から救ふの道はたゞ『時代精神』の流轉を豫想することである。しかし一難去つてまた一難は世の習、『時代精神』が救はれたと思ふと、その『時代精神』が例の『人間の社會生活の外形に表現』しなくては收まらないこととなる――つまり更に新らたな『時代精神』のうへに新らたなる『文化』が生れなくてはならないこととなる。そうなると『民衆文化』にとつてはお家の一大事、『民衆文化』の生みの親としての『時代精神』――然り『プロレタリアの精神』が滅亡することとなり、從つて死なば諸共の譬へのとほり、精神が死んでから『外形へ表現』もできかねてこゝに『民衆文化』も壇ノ浦に悲

しい最後を營まなくてはならないこととなるのである。こゝに至つて『民衆文化主義』も案外早死をすることとなるのであるが、しかし私には狂瀾を既倒に圍らす方法が三つある。その一つは何が何でも『時代精神』をこのうへ流動させずにおくこと。その二つは『時代精神』がどうしても『轉々流動』したいといつて大山君の思ふとほりにならないとすれば、仕方がないからその『時代精神』を發賣禁止にでもして『社會生活の外形』に出さないこと。それも時勢の進歩で如何ともしがたいとしたらその時は『民衆文化主義』を捨てること。丁度大山君が『デモクラシーといふ『蟲惡的なもの』を捨てゝ『民衆文化主義』へ『流動』したごとくに。そして私はこの第三案に札を投ずる。

九

曾つて福田徳三博士はわれ〱に教えて『社會民主主義』は『社會主義に到達するまでの『梯子段』に過ぎないものであるといつたことがあつた。その『社會主義』さへレニンは他のあるものに到達するまでの梯子段であるとわれ〱に教えてゐる。大山君の『民衆文化主義』もまた以上の解説によつてそれが次の『時代精神』に到達するまでの梯子段であることが分つた。その梯子段とはプロレタリアの梯子段である。この點において大山君の民衆文化主義もレニンの社會主義も福田博士の社會民主主義もみな同じことである。その同じものを大山君は何故に社會主義なり、社會民主主義なりといはずして、厄介千萬な『民衆文化主義』といふような、少くとも權田教授をしてその眞相を摑むに苦るしましめる『蟲惡的』な言葉を使ふ必要がどこにあるであらうかといふ疑問が、起つてもいゝような、また惡るいような、變んな心持ちになつてくる。たゞこゝに曖昧にしておかれない點は階級の始末に關するものであるといふのは大山君に從へば時代精神も階級（經濟的）精神であるし、また『文化』も階級的精神の所產であつて差當り大山君の謂ふところの『民衆文化』なるものはこの階級精神が『社會生活の外形』に表現したものであるとのことであるとすれば、その『階級』がなくなつた時――社會主義の目的としてゐる世界のような――に階級精神がなくなり時代精神もなくなり、從つてそれが『社會生活の外形』が表現されようもなく、『文化』――然り普遍妥當性なぞのあるべき筈のない』といふ大山君の『文化』が行詰まつてしまうことはないか、行詰まらないとすれば『階級』は永遠

なのであらうか。階級を永遠に繼續せしめる努力――これが『民衆文化主義』であるのであらうか。それならば『民衆』とか『文化』とかいふ蟲惡的な言葉はどうしても退却してもらはなくてはならないこととなる。それとも大山君は『デモクラシー』といふ言葉は『蟲惡的』であるが『民衆』といふ言葉は『蟲惡的』でないといふのであるが。嗚呼、『デモクラシト』を輕蔑して『民衆』に憧るゝ人よ。『自由』を一笑に附して、『文化』を高調される人よ。そして『經濟史觀』からタレルやコオルやペンテイを產み出さうとする人よ。『民衆』はあなたにデモクラシーを返してくれと叫ぶであらう。『文化』はあなたに『規範なり當爲なり、アプリオリなり』を返してくれと叫ぶであらう。ギルヅマンとサンヂカリストとはあなたから『自由』を返戻す權利があると叫ぶであらう！

（室伏高信）

▣『ギルヅマン』から

『ミス・パンカーストが共產黨を組織して第三インタナショナルに入つた。政治家が『力』を使用することがいけないといつてゐる。そして この力を轉覆するのだといつてゐる。しかしこの『力』が惡るいならこれを轉覆するためのあなたの力はどうか……ヒステリカルなパンカアストよ！ 先づペンテイ氏の『ギルヅマンの歷史觀』でも讀んだ方がどんなに爲めになるか分りはしないのだ』

▣『アナアキスト』から

『スノーデン夫人よ、お前さんはクリスチヤンだからボルシエヴヰキがいやだといふのが。それならお前の友達は澤山あるよ。ザアはクリスチヤンだよ、ザアの友のラスプウチンだつて立派なクリスチヤンだよ。……しかしスノーデン夫人よ、お前さんのいふことにも眞理があるよ。ロシアの奴等は、『神』の代りに、『カール・マルクス』を置いてゐるのだ。ア、重い〳〵、マルスクの壓迫よ』

六時間勞働論（レバアハルム）（四）

去年（一九一七年）シエフイールドのロバート、ハッド、フイルド氏と會つたときに氏は次のやうに述べた。

「私共の工場では勞働時間を短縮した爲め非常に良い結果を得ました。此の結果は當然來る樣に思はれます。此の方法は人道的であると同時に仕事の上で夫れ以上に有利であることが明かになりました。

時間の短縮は、善良な勞働者を益々良くし、普通の勞働者をも以前の平均より高めます。勞働者が例へば勞働効程を減少さす機械に對して持つ反感と同じやうに、種々な進歩した物事に對して持つ反感は當然起るものであります。然し今では、勞働者は機械が良ければ良い勞働者を改善し、亦勞働者が改善せらるれば其れに應じて賃銀が高くなる事を自覺しました。けれども勞働者は機械でない」と云ふ事實は今尙ほ完全に理解されては居りませむ。」

グラスゴウのセシル、ワルトン氏はグラスゴウでの演說に於て次の如く述べて居る。勞動時間、疲勞、生產額等の問題に關する權威であつて該博なる識見を有する點に於て氏の右に出る者は無い。『勞働時間を短縮し而かも夫れに依り生產額を增加する方法はたゞ一つある、之れに依らなくては勞働時間を短縮せむとする如何なる企畫も國民的失敗に終るのである。』と。氏は大いに生產額を增加し、且つ勞働時間を減ずることが出來ると云ふ多くの證明をした。其の中で次のやうなことを引用してる。

「一週間の間に一萬五千品目を生產する工場がある。其の工場は六組の機械に分かれ、各組が一週間に二千五百品目の生產をして居ました。一九一七年に此等の幾組かの機械を一時に一組宛他の地方の工場に移しました。そして生產額に準じて勞働者に賞與を與えることに定めました。最初の一組を移した殘りの五組が一週に同じく一萬五千品目の生產をすることを發見しました。第二第三第四の組をも同じやうに移しました。そして殘つたのは僅か二組でありますが、夫れにも拘はらず僅かに二組丈けで一週間に一萬五千品目を生產しました」と。

氏は亦述べて云ふのに

「若し私共が當局者の發表した、產業軍の一人宛の生產額に付

きまして研究しますれば、私共は次のやうな驚くべき事實を發見するのであります。夫れは獨乙米國に於ける二十六の産業に付いて見るに、勞働者は吾國の勞働者より凡そ五倍の生産をして居ると云ふことであります。之の事は實に恐るべき徴候であるが夫れは事實なのです、然し之の問題を深刻に考察するならば吾等の劣ると云ふことは必ずしも不幸で無いと云ふことが解るのであります。吾等の産業軍の能率は米獨に比較すれば劣つては居るが、彼等の能率とても當然出づべき能率より劣つて居ります。だから吾々は容易に能率を改善し、米獨の産業軍の能率を凌駕することが出來ます」と。

次に氏は吾が産業界に實行することが出來る多くの改革の中で唯一の「經濟をとる」事と「能率を増進する」方法に付いて述べて居る。之の事は「ヲールエレクトリック、スケーム」の中に述べてあるが、之れに依れば、吾人は現在尠くとも生産業者の一半に對し、無用の物を造る爲めに賃銀を支拂て居ると云ふ事が示されて居る。而して斯くの如きヲール、エレクトリック、スケーム、を行ひ、此等不用物の生産者も緊要物の生産者に繰入れることに依つて後、始めて吾々は勞働賃銀を引下げ、生産費を高めることなく勞働時間を五割減ずることが出來ると主張して居る。故に六時間勞働制に依り二割五分の勞働時間を減ずるときは、勞働者には賃銀を高め、消費者には賣價を安くならしめることが出來る。此のことは國民が當然解決しなければならぬ明白な問題であり、且つ疲勞無き熱心な、短時間勞働に依り、大いに生産額を増加することが出來るのである。斯く氏は確信して疑はぬと結むで居る、然し六時間勞働制の下では勞働者は日に六時間丈けしか働かないが、機械は一日に十二時間十四時間若しくは二十四時間も働き費用を減じで大に生産額を増加する。

吾々は遲々たる生産の經濟原則の適用を恐るには及ばないたゞ吾等の恐るゝことは原料の供給、生産額増加に要する勞働者の供給、竝に總ての増加した生産額を消化するに足る需要の増加が無い内に、之の原則が早く適用されはしないかと云ふことである。

兎に角吾等は六時間勞働法案の採用は、十時間勞働法案の運動が採用せられた程に、遲々たるものであるまいと思ふ。何しろ十時間勞働法案は一八〇二年の議會に始めて提出され、遂にアッシユレー卿に依つて採用さるに到つたのは一八五〇年の議會である。

若し増加した生産額を、消費者が消化することが出來なければ、英國の總ての工場の生産額を増加することは不必

要なことであらう。需要の增加には二つの大なる要素がある。一つは賃銀の增加であり、他は費用の節減である、此の二つのものは國內市場に於ける消費者の購買力を高め同時に低廉なる商品を輸出することが出來るので、他國と競爭することが出來る。夫れが爲め商業上の問題として考へても、生產增加の伴ふ六時間勞働制は絕對に安全なものであり、且つ亦之れを成就するに緊要な生產品の需要增加を來たすと云ふことは確かである。六時間勞働制は、吾人の必要な勞働者の生產品を總べて供給することが出來るばかりでなく附隨的に偉大な國民的利益を齎すものである。卽ち長時間勞働に對して支拂つた同じ賃銀を短時間勞働に對し支拂ふことが出來るのである。而して之戰後に於て實戰より或ひは軍需品製造業より解雇せられた男女勞働者の職業問題を、容易に解決せしむるのである。

戰後は國內竝に外國市場に於て蕩盡せられた貨物を補給する爲め、あらゆる商品の供給を增加しなければならぬやうになると、吾人は信ずるのである。此の事は戰後しばらくの間生產品の增加を必要ならしむものである。而して若しも英國が、本國竝に外國貿易を保持して行くものとすれば尠くとも戰前に於ける需要の一般生產額より五割方多く生產しなければならぬ。之れに加へて、尠くとも概算百萬の勞働者の家を適當な條件の下に建てなければならぬ。亦た吾人は海運界に數百萬噸の新造船を補給しなければならぬ。

かくて之等に依り、五割增加した需要に應ずる爲に、工場の增築や機械設備に、直ちに着手する事が出來ない程に吾人の勞働を必要とするに至るのである。然し其の結果工場に不足しても勞働には不足しないだらう、何故ならば現在戰場に在る者や戰爭を繼續するに必要な供給や戰場に軍隊を輸送する運軍事業や工場に從事して居る千百二十五萬の男女勞働者が戰爭の終結と共に解雇せらるゝからである。

吾人が要する原料品は、主として英國內で產出せらるゝものである。だから原料と勞働には直ちに困難するには到らないけれど、原料を精製するに必要な工場と機械を設備するに困難を來たすことゝ思ふ。吾等は商品に對する需要の激增を見る、そして吾々は商品を製造するに必要な原料や、男女勞働者を得るに到らうけれど、精製品に對する需要を滿たす商品を製造する事の設備は、工場機械設備の不足等の爲め出來ないのである。

然し假令吾等が戰後直ちに新工場を建てるとしても、戰前よりも七割五分の割金だけ多くの建築費を要するものと

見積らなければならぬ。そして機械設備竝に機械の代價は戰前の割合より、十割若しくは二十割方高いことも記憶しなければならぬ。戰前吾國が多量に供給して居た世界の中立諸國の需要を供給する場合に當つて、或は米國のやうな中立側竝に聯合國側と競爭する。其の時は新たに工場を建てたり機械竝に機械設備も備ふることは吾國の製造業者に重大な妨げをすることである。然し六時間勞働制を採用するときは、恰かも五割の工場仕事場機械設備を增加したるかの如く、尠くとも五割は直ちに自働的に生產を增加することが出來る。而して新たに資本も勞働をも要しないで、此等の機械的效果を齎すことが出來るのである。

故に戰後に於ては二交代制六時間勞働の時期が熟することになるであらうと信ずる。需要が生ずると其の需要に應ずる勞働力もある。而して二交代制の勞働に依つて吾等の需要に應ずるに足る機械を得ることになる。戰爭の終結と共に解雇せらるゝ、千百二十五萬の男女勞働者は寄附慈善事業等では恒久性のある仕事を見出すことは出來ない。六時間勞働制に依る生產經濟からはじめて大生產經濟竝に需要の增加を來たす。かくの如くしてのみ、彼等に對し確固たる永久的職業を見出すことが出來る。

六時間勞働制は初等敎育後の、少年少女の敎育問題をも解決し、亦彼等の肉體的鍛練の問題をも解決する。そして軍事敎育の問題をも解決するが故に吾等は軍事敎育を經た市民軍を所有することが出來る。夫れのみならず又勞働者の生活問題の未來をも解決することゞ出來るのである。何が不愉快であると云つて、現代社會狀態の壓迫の爲めに工場に入らなければならない少年少女の生活ほど不愉快なものはあるまい、彼等の祖父は恐らくは八歲の時に仕事に出掛けたかも知れないが現在に於ては、少年は十四歲で仕事に就く、而して若し生き長らゑて居るとすれば七十歲に致る迄僅か日曜日以外には工場の外何物をも見ないのである夫れが爲め彼等は殆ど自分等を組織立てたり、或は利用する方法すら知らない。而して彼等の經驗の範圍、人生の前途に對する考察が餘りにイヂケて居る爲め彼等が生活せむと望む人生を生活することが出來ない程である。創造主は吾等を決して「職人」にするが爲めに此の世に送つたのではない。神は吾等に想像力を給ふた。神は吾等に愛國心を給ふた。神は吾等に理想と先見とを給ふた。然かも現產業組織の下にあつては之等のものは壓迫せられて居るに過ぎないのである。(つゞく)(森恪)

ギルド社會主義の諸著書を一瞥して

ギルド社會主義に關する著書またはパンフレツトが近頃頻々として世に出る。賣行きは何れも面白くないとのことであるからギルド社會主義に關する一般的理解と興味とは不充分であると見るのほかはないであらうが兎に角かくのごとくにギルド社會主義に關する著書の頻發するに至つたことは注意すべき現象の一つである。邦文をもつて最初に書物の形で公けにされたのは『産業自治とギルド社會主義』であつたように思ふ。この書物はコオルの『産業自治』を全譯したもので譯文もいゝようであるしギルド社會主義の研究者が必ず一讀すべきものであると思ふ。次て森戸辰男氏もまた『ギルド社會主義』なるパンフレツトを公けにした。この小冊子は一九一八年のコオル、メロア兩氏共著『産業的自由の意義』を譯したものであつてこれまた重要な文獻の一つである。たゞこの小冊子を讀むものの注意を要する點は既に原著者の思想がこの著の後に大に變化したといふことである。またコオルには別に『ギルド社會主義』GuildSocialism. 1920）なる小冊子があり、そしてこの小冊子は彼れの最近の思想を述べてゐるのみならずギルド社會主義そのものの説明として書かれた彼れの唯一つの著であるからこれと森戸氏の譯本とを混同しないことである。また森戸氏としても既にコオルに別に『ギルド社會主義』なる小册子のあることを知られてゐる以上は「産業的自由の意義」は矢張りそのまゝの題名を用ゐた方がよかつたように思ふ（一般の注意を惹くうへに止むないと思ふが）ペンテイの『ギルドと社會的危機』もまた『ギルド社會主義の立場』（關未代策氏譯）として譯されたペンテイの書物のうちではこの書物が一番斷片的であつて『ギルド制度の復興』なり、オールド・ウオールド、フオア、ニユウ』なり、または『ギルヅマンの歴史觀』なりを譯する方が意義があるように思ふ。

ホブソンの『ナショナル・ギルド』もまた邦譯されて世に出た。『賃銀制度並にギルド組織の研究』（井箆氏譯）がこれである。この書物はギルド社會主義の文献上に最も重要な地位を占めるものの一つである。それだけに飜譯も丁寧にすべき筈であるのを何故か譯文は甚だ亂雜で誤りが多く且つ勝手に取捨したなぞは面白くなく譯者の譯註なぞにもひどい誤謬の散見するのは殘念なことである。是非譯者閑をえて再訂のうへ成るべく完全なものとして世に出したいものだと思ふ。

最後に室伏高信『ギルド社會主義』第一巻が出たがこのことはこゝで内輪のこと故に通べない。（ギルヅマン）

中澤臨川の死

□中澤臨川が死んだ、私は豫期した驚きと、そして深い哀愁とを、格別に懇意といふほどでもなかつたこの人の死に感じないではゐられなかつた。

□私が初めて臨川の思想に觸れたのは臨川が社會問題の批評家として昨年『中央公論』に復活した時であつた。臨川の文章は華やかでもあり、豐かでもなり、そして情熱にも富んでゐた。彼れの幾つかの美しい、そして情熱的な文章が如何に多くわれ〳〵に訴へたことであつたらう。

□彼れは一見して素朴な、そして如何にも商人風のある謙遜な人であつた彼れの態度、彼れの言葉使ひ、彼れの軟らかにして理智的な眼は、何ともいひしれない懐かし味を私の心のうちに植ゑつけてくれるのであつた。

□私は臨川に會つたのはたつた二度だけてあつた。一度は彼れの自宅の二階において、他の一度は小田原の藤館において。彼れの書齋には本らしい本も積むではゐなかつた。彼れの机にはたゞ一帳の原稿紙が丁寧に置かれてゐるのみであつた。彼れの室内は、彼れの態度の一切とともに、彼れを彼れ以上に見せかけようとするどのような現れも見えてはゐなかつた。

□彼れには聊かにても衒學的なところはなかつた。彼れには聊かにても僞りの分子が見えゐなかつた。彼れは素朴と謙抑と平明のうちに燃ゆるがごとき情熱と抑えがたき昂奮とがあつた。

□彼れの温かなる人間味は彼れをマルキシズムへと行かせなかつたにしても、その情熱と昂奮とは、彼れをして必然的にプロレタリヤに對する心からの同情者とならしめなくてはゐなかつた。

□彼れは最近には社會改造の主義として分産主義の主張者として知られておつた。しかし彼れの分産主義は必ずしもベロックの飜譯だといふことはできない。彼れはベロックにはあまり興味を感じないとさへいつてゐるほどであつた。彼れの分産主義は矢張り彼れの分産主義であるといふのほかはないであらう。

□彼れは自由の愛護者であつた。自由の愛護者として彼れが、マルキシズム流行の時期に、如何に多くの人々の心を開いたことであつたらう！　まこと『正義と自由』の一卷はこの努力の紀念塔であつた。

□然り、そは既に紀念塔となつた。臨川は死んだのであつた。

□彼れは『批評』の第一號からの愛讀者であつた。そして『批評』のために一文を寄せてくれる約束を果すに至らないうちに、彼れは遂に死んでしまつた。『讀者名簿』のうちから中澤臨川の名を除かなくてはならないことが如何にわれ等の傷ましいことであらう小田原の海岸に淡く霞に包まれた海を眺めながら、愉快さうな樣子のうちにどことなく寂し味をもつて語つてゐた姿を追憶するものが、どうして永へに臨川をわが心から葬り去ることができるであらうか！（室伏高信）

ナショナル・ギルド問答

(譯序)

こゝに譯出するはナショナル・ギルド同盟から出版したナショナル・ギルド・パンフレットとしての『ナショナル・ギルド問答』(A Catechism of National Guilds)の全譯である(室伏高信

一　賃銀及賃銀制度

産業不安の原因は何か?

そは主として三つである。プロレタリアートに對する賃銀制度の壓迫、この壓迫に對するプロレタリアートの反抗そしてプロレタリアートの壓迫の原因たる賃銀制度から解放されようとする願望の三つがそれである。

プロレタリアートとは何人であるか?

プロレタリアート卽ち勞働階級とは、財産を所有せざる彼等の勞働力を賃貸することによつてまたは彼等の勞働力を賃傭する人々に賴つて生活しなくてはならない全人口の五分の四に達する人々から成立する。

賃銀とは何か?

賃銀とは商品として計算された勞働に對し勞働市場において支拂はれた價格である。

賃銀はどうして決定されるか?

賃銀は商品の價格と同樣に需要供給の法則によつて決定される。

何が勞働に對する需要を決定するか?

勞働に對する需要は生活における勞働の必要卽ち資本家が利潤の目的のために利用することのできる使用(ユース)によつて決定される。

何が勞働の供給を決定するか?

勞働力を與へることのできるプロレタリアートの數によつてのみ制限される。

賃銀制度とは何か?

賃銀制度(または資本主義生產)とは資本の持主が商品として勞働力を買ひ、そしてそれを使用――卽ち原料に

するそれの適川を管理――した後に、彼等が後に賣却するそれの生産物を擁有する制度である。これ等の生産物の賣却價格とそれを生産する費用――原料、設備、賃銀の費用を含む――との差が餘剩價價であり、そして地代、利子、また利潤の形式においてそれを穫得することが資本主義生産の目的である。

プロレタリアートに對する賃銀制度の壓迫は如何にして説明されるか？

人民の多數の貧困によつて、そして工場における專制及びスピーデイング、アツプ(極度勞働)によつて。しかし賃銀は近年増加しなかつたか？

名義上の賃銀は増加したかもしれない。しかし眞實の賃銀は増加しない。

眞實の賃銀とは何か？

名義上または貨幣賃銀と區別した眞實の賃銀は名義上の賃銀によつて實際に購買しえられる商品の總計である。

スピイデイング、アツプとは何を意味するか？

スピイデイング、アツプとは資本家が勞働者から勞働力を餘計に搾取せんとするあらゆる方法に與へられる名稱である。

二　政治的行動と産業的行動

賃銀制度の壓迫を拒絶するために勞働者は如何なる手段を用ふるか？

二つの手段――普通に産業的並に政治的行動と稱せられてゐる。

産業的行動とは何か？

産業的行動とは勞働組合の方法によつて直接に彼等の雇主のうへに働く勞働者の團體的行動である。

政治的行動とは何か？

政治的行動とは議會並にその他の公共體の媒介物を通して彼等の雇主に働くプロレタリアートの行動である。

勞働者はこれ等の二つの手段によつて何をえようとするか？

勞働者は産業的及び政治的行動の二つを通して賃銀を引上げることを求める。

産業的及び政治的行動は賃銀引上げについてそれぞれ如何なる効果をもつか？

産業的及び政治的行動の何れも賃銀引上げについて極めて制限された効果以上の効果をもたない。

何故に然るか？

何となれば賃銀は需要供給によつて定まり、そしてこれ等の要因の何れも各個の勞働者の支配のもとに存在しないからである。

然らば何ものが需要を支配するか？

何人も充分に需要を支配するといふことはできない。しかし勞働需要の變動は主として資本家の支配のもとにある

資本家は如何にして勞働需要を支配するか？

資本家は種々の方法によつて勞働需要を支配する。概していへば、生産における勞働の必要を減少することによつて——それを一層經濟的に使用することによつて、それの能率を增進することによつて、それの代りに機械を用ゐることによつてのごときがこれである。

勞働組合は勞働供給を決定することはできないか？

勞働組合は勞働の全供給また一般的供給を決定することはできない。そはたゞ特定供給を決定することができるに過ぎない。

國內各產業內に勞働者を組織することによつて勞働組合主義は勞働の一般的供給を決定することができなかつたか？

國內各產業における潛り勞働者排斥の組織をもつてしても勞働組合主義は勞働の一般的供給を決定することはできない。何となれば商工業は國際的であるからである。

勞働の特定供給を決定することによつて賃銀を引上げることはできないか？

勞働組合は勞働の特定供給を支配することによつてその組合員の賃銀率をある點まで引上げることができる。しかしプロレタリアート全體の賃銀ではない。

『ある點』とは何か？

そは資本家にとつて賃銀値上げを餘儀なくした勞働者を使用することよりも彼れの資本を他の產業または他國に轉移することがより多く利益であるに至るところの點である。

若し勞働組合または產業的行動が賃銀の一般率を引上げることができないでたゞ特定部分の勞働者の賃銀率のみを引上げることができるに過ぎないとすれば、議會または政治的行動は賃銀を引上げることはできないか？

議會は一般的に賃銀を引上げることはできない。何となれば議會は雇主をしてその勞働需要を增大せしめまたはその勞働需要の減少を妨ぐることはできないからである。例

へば高度の最低賃銀は雇主をして第一に一層の勞働節約方法を適用するに至らしめ、そして第二に資本家をして外國に投資せしめ、かくして國內における勞働需要を減少するに至らしめる。

若し賃銀が產業的または政治的行動の何れによつても有効に行上げることができないとすれば、そは賃銀の低下を防止することができるか？

產業的行動は賃銀の低下の防止に何ごとかをなす、また政治的行動はスウ井ーティング（安賃銀で長時間勞働をさせること）の最も甚だしい濫用を防止するため何ごとかをなすことができる。しかし政治的行動は時に反對の結果をもち、そして實際に賃銀低下の原因をなすことがある。

どうしてこうしたことが起りうるか？

救貧のために國家が富者に課税することによつて貧者にフリー、サアヴ井スを與へる場合には資本家は賃銀を引下げまたは價格を引上げることによつて自ら囘復するであらう、そして眞實の賃銀は低下するであらう？

三　救貧及び慈善

賃銀がこれ以上に低下しないといふ下の制限はないか？

無い。

賃銀はプロレタリアートの生存水準以下に低下することができるか？

然り、そは低下することもできまた低下もする。この時にはプロレタリアートに支拂はれた實際の賃銀は、縱令彼等の間に平等に分配されたにしても、彼等を凡て健康に扶持することはできない。

然らば全體としてのプロレタリアートは如何にして生存を繼續するか？

彼等の賃銀に慈善の寄與を加へることによつて

慈善を形成するものは何か？

プロレタリアートの賃銀の慈善的、補足は一、チツプのような私的且つ個人的及恩顧的贈與　二、慈善團體（ロンドンだけでも一千もある）の方法による半公式、基督敎的のもの。三、フリー、サアヴ井スや年金や養育所なぞのような形においての國家的慈善がこれである。

これ等の補助金の効果如何？

慈善は賃銀を補助しそして取つて代るがゆえに自らの創意によつて過ごす勞働者の自由は益々減縮される。提琴演（フイツドラア）

奏者に報酬を與へる人が曲を命ずるであらう。そして若しこの傾向が繼續すれば終にはプロレタリアートは養はれてゐる奴隷以上のものではないであらう。

しかし極點に達することは不可避であらうか?

勞働者が賃銀制度を破壞するにあらざれば奴隷國は來たるにきまつてゐるのである。

四　賃銀制度廢止論の根據

賃銀制度に對する反對論を約言すればどふいふことになるか?

賃銀制度に對する反對は道德的、經濟的、社會的及び實際的である。

道德的反對論とは何か

賃銀制度に對する道德的または哲學的反對論とはそれが一つの階級を他の階級の目的のための單なる手段となすといふことである。

經濟的反對論とは何か?

賃銀制度はプロレタリアートの購買力を制限することによつて有益なる生産を制限する。それは競爭によつて、廣告賣捌人、ダブリケーション(重複)等を必要とすることによつて、また馬鹿げた贅澤品の製造を刺激することによつてそして頭腦の力及勞働を寄生的職業に轉ぜしめることによつて、生産を浪費する。それは非常に安價にして且つ如何はしい市場を創造することによつて生産を粗にするのである。

社會的反對論とは何か?

賃銀制度は社會の大部分をひどひ貧困やオーバアオーク(過度勞働)や不安によつて惡質にし、少數者を贅澤と怠惰と殘忍とによつて腐敗させる。それは生産を効用と美との代りに利潤へと指導する。

實際的反對論とは何か?

賃銀制度に對する主たる實際的反對論とは、それが永續することができないといふことである。

五　賃銀制度廢止の方法

如何にして、また如何なる手段によつて賃銀制度は廢止することができるか?

賃銀制度は二つの手段——惡しき方の手段と善き方の手段との——の何れによつても廢止することかできよう。

賃銀制度を廢止する惡しき方の手段とは何か

惡しき方の手段とは資本家の指導のもとに動産奴隷の進ん

だ形式に組み變へることによつてゞある。

如何なる手段によつてこのことをなしうるか?

動産奴隷の復興は一、無條件の終生勤勞の代りにプロレタリアートに生涯の安全を提供することを企てるの大資本家トラストの組織。二、これと同一のことを企てる國家資本主義（集産主義）の制度によつて可能である。

賃銀制度を廢止する善き方の手段とは何か?

善き方の手段とは解放と稱せられるものである。そは國民的産業ギルド National Indusrial Gilds の成立から成り立つ。

六　ギルド、ナショナルギルド及び勞働組合

ギルドとは何か?

ギルドとはその關係産業における勞働の完全なる獨占をもつところの生産者の自治團である。

ナショナル・ギルドとは何か?

ナショナル・ギルドとは國家と協同して産業を國民的に運營するようのギルドである。

如何なる方法によつてナショナル・ギルドを組織することができるか?

ナショナル・ギルドは今日の勞働組合から生ずるであらう。

今日の勞働組合はギルドとは異つて産業を運營するためにではなしに組合員に對する『雇傭條件を維持または改善する』ために組織されてゐる。そはたゞ賃銀勞働者を包含するのみであり、そして月給階級の大部分または管理的並に專問的職員を除外する。その結果そは産業の處理に必要なる勞働力の獨占をもたないのである。

七　ギルドへの道

勞働組合は如何にしてギルドとなることができるか?

勞働組合は多くの階梯を進んで「ギルドとなることができる。その第一歩は部分的、對抗的、重複的組合を産業的基礎のうへに合同することであらう。

産業的基礎とは何を意味するか?

ナショナル・ギルドの樹立に必至な産業的組合主義とはクラフトやオキユペーションによらずに産業に從つての組合に勞働者を集團することである。

産業とは何か。

產業とは一つの生產物または生產物の集合を製造するために行はれる凡ての過程を包含する。かくして產業は凡ての坑夫を一組合に、凡ての建築勞働者を一組合に、そして凡ての紡績職工を一組合に集團させるであらう。

勞働組合がギルドとなることのできる他の方法如何?

ギルドとなることのできるためには勞働組合は自らブラツク、レツグ、プルーフ(潜り防止制)とならなくてはならない。

然らば勞働組合はその次にどうしなくてはならないか?

勞働組合は高い賃銀ではなくして優越な地位を要求しなくてはならない。

優越な地位とはどういふことか?

プロレタリアートにとつての優越な地位とは彼等が彼等の勞働を市場においての商品として賣ることを止め、そして產業の指導及び統制における組合員(パートナア)となることである。

八　資本家の態度

資本家から有力な抵抗が起りはしないか?

資本家は抵抗するであらう。しかし潜りがえられないとすればその抵抗は有力なものではないであらう。

國家はその軍隊をもつてプロレタリアンが自ら解放せんとする企圖を破壞することはできないだらうか?

できない。何となれば軍隊は腕組みとローデツト、パイプ(パイプに煙草を詰め込むこと)に對しては役に立たないからである。

月給階級は資本家の側に立たないであらうか?

初めはさうだらう。しかし月給階級の利害は產業とともにあるのであるから若し勞働組合が產業を〇〇することかできるとすれば月給階級は組合と協同するほかはどうしようもないであらう。

君は總同盟罷工がいいといはうとしてゐるのであるか?

必ずしもさうではない。變化は多分漸進的にくるであらう。しかし〇〇〇〇はブラツク、レツグ、プルーフの組織における最後の手段である。

若しかゝる出來事が有望だとすれば、または若し一產業内において地位のための國民的ストライキができさうに見えるとすれば資本家はどんな行動に出でるであらうか。

組合が實際にブラツク、レツグ、プルーフとなるや否や關係產業の資本家は二つの形式で、利潤分配並に勞資共同經營の申出をもつて組合の指導者に接近するであらう。

それ等の二つの形式とは何か。

第一の形式は、集合的に組合としてゞはなしに、個別的の、勞働者との利潤分配と共同經營である。

この形式に異論があらうか？

然り、何となればかく選り出された各人は精神的に勞働者の側から資本家の側に轉ずるものであるからである。彼れの目的は最早や彼れ自身と彼れの仲間とそして汎く國民のために銀制度を撤廢することではなくしてたゞ彼れができるだけの利潤をえようとすることに止まるのである。

資本家の申出そうな第二形式如何？

第二の形式は原則として第一の形式が勞働者によつて拒絶された時にのみ申出でられるであらう。資本家は組合に對して組合としての共同經營を申出でるであらう。

この形式に異論はないか？

數個の異論がある、一、組合は賃銀勞働者の組合として殘るであらう。賃銀制度は、それに伴ふ賃料や利息や利潤とともに新らたなる形式において存續するであらう。唯一の變化は、勞働者が賃銀勞働者として殘りながら、同時にプロフ井ツテイア（金儲けをする人）となることである。二、組合と月給階級と資本家との間における關係は同一產業の事實上の管理において二人の主人が存在することができないとすれば、そして各黨派が產業管理權を常に相互に捩ぢ取らうとする以上は、不安定であらう。三、最後に彼等が結合するとすれば最も大なる反對論が起るであらう。

それは何か？

彼等が資本の獨占と勞働の獨占を包含して、彼等はトラストを形成するであらう。この手段によつて彼等は無制限に社會を絞取するであらう。

（つゞく）

英書讓る

一、コオルの「ソーシヤルセオリイ」（二圓五十錢）
二、コオルの「チエーオス、エンド、オーダア、イン、インダストリイ」（三圓七十五錢）
三、ホブソンの「ナショナルギルヅと國家」（六圓廿五錢）
四、ペンテイの『ギルヅマンの史觀』（六圓廿五錢）
以上（各一冊づゝ餘分があります、御送金は振替東京四五三四六番へ）

貧困か隷屬か（二完）

六

現在の社會問題はパンの問題ではない。パン以上の問題である。それは人間における隷屬の問題でなければならない。かう精神主義を主張するものは言ひ、さうして前者を唯物主義として斥けるのである。私はこゝにヂー・デ・エッチ・コールの文章を引用したいと思ふ。

『私は問ひたい。私達が是非とも廢止しなければならない近代社會の根本的弊害は何であるかと。

此の疑問には二つの答へが出來る。さうして多くの識者は屹度誤つた答をする。彼等は奴隷制度と答ふべき場合に貧困と答へるであらう。日々富と窮乏と、高い配當と廉い賃銀との恥づべき對照を見さうして公私の慈善事業によつて、此の平準を正さうと試みることの愚かさを知りながら彼等は直ちに、吾々は貧困の廢止を主張すると答へるであらう。…………

貧困は徴候である。奴隷制度が疾病である。貧富の懸隔は必然的に特權と束縛の懸隔となる。多くの人は貧困なるが故に奴隷にされてゐるのではない。彼等は奴隷にされてゐるが故に貧困なのである。」（「産業自治論」三四――三五頁）

「貧困は徴候である。奴隷制度が疾病である。」かくしてこの精神主義者は人間の人間に對する隷屬の關係を以つて社會問題の根本問題であるとする。さうしてパンの問題の解決よりも精神問題――隷屬の精神――を解決することを以つて根本問題であるとしてゐる。「文明の病弊は多數者の物質的貧困にあるのではなく、其の自由の精神と自信の滅失にあるのである。」だから「貧困は人間の隷屬の印であり、之を救治するのには他人の爲めに勞働することを止め、さうして自らを信じなければならない。」（コール、「産業的自由の意義四頁）

七

然らばこの精神主義者（ギルド社會主義者は唯物史觀を捨てて精神主義を採つてゐる）の所謂人の人に對する隸屬とは何を意味するのであるか。ギルド社會主義者は現代の賃銀制度であると言ふ。賃銀制度は資本主義の中樞的要素である。唯物論者が言ふ樣に資本主義は基礎を貧困に置くのではない資本主義の秘密は實に賃銀制度にある。この賃銀制度は奴隸制度である。けれども政治的にすべての人は法の前において平等である。すべての人は契約の自由を有する。この點において奴隸制度と賃銀制度とを區別しなければならないと他の論者は言ふ。けれどもギルド社會主義者はこの說を斥けて、賃銀制度も奴隸制度であると主張する奴隸は衣食住の代償として其の所有者の爲めに、其の勞働を提供し、勞働の生産物に對して何等の要求權をも持つてゐなかつたのである。然るに現代の賃銀制度は何うであるか。エス・デー・ホブソンに從へば賃銀制度は次の三個の作用をするのである。

一、人が其の勞働を賃銀に代へて貰つた時には、彼は其の生産物に對するすべての要求權を放棄する。

二、彼は其の賃銀を受けることによつて、雇主をして其の仕事の條件を命令し、斯樣な仕事を完成せしめる權利を認めるのである。

三、彼は其の賃銀を受くることによつて、更に其の勞働力を彼より奪ひ他に與ふることを承認する。（ナショナルギルヅ　八〇頁）

以上の三個の作用は個々の勞働者に對するものであるが之を更に國民的に見ると其の効果を次の樣に擧げることが出來るのである。

一、賃銀制度は産業組織における脊髓である。

二、それは全社會の五分の四を構成する賃銀勞働者の生産用具とすべての餘剩の富とより分離せしむるが如き經濟狀態に立ち至らしめる。

三、勞働を商品として買ふ力が資本に出來て來る爲めに、これに不經濟な仲介商人の多數が發生して利子なる名目の下に多くの餘剩價値を占有することになる。

四、これ等の結果として産業組織は人爲的となり、社會の經濟は不健全となるのである。

五、だから地代、利子、利潤を廢止するの唯一の道は賃銀制度を廢止するにある。（ナショナル・ギルヅ九七頁）

而して「賃銀とは商品としての勞働力に對して支拂はれた價格であり、其の價格は其の勞働力の維持と其の再生產とに必要である所の生活費を基礎とするものである。」（ナショナル•ギルヅ　七五頁）この賃銀の支拂を受けて勞働者は其の身を一定の時間丈け雇主に賣る。彼等は立派な奴隷である。だから「賃銀制度の本質は經濟的權力が勞働力と共に企業家に移るのである。」かくて「この賃銀制度の存續の爲めに勞働者の支拂ふ價は勞働者それ自身の心靈である。」（ホブソン「平時及び戰時に於けるギルドの原理」四〇•四一頁）

社會主義の要跡はこの亡びんとする心靈に對する救ひでなければならない。故に「社會主義者に取つての中心問題は貧困でなくて、隷屬である。」（產業的自由の意義」二頁）斯樣な奴隸狀態を脫せしめ、人間本來の自由を再び其の手に復歸せしめんには、其の政策が單なる「防貧策」であつたり、また『文化的生活の最小限度」の政策であつてはならない。それはもつと高い理想主義の立場になければならない。今其の經濟的方面のみを窺つて見やう。

一、人として認められ且つ支拂を受くること

一、從つて、就職時も失業時も健康時も、病時も共に支拂を受けること。

三、其の僚友との共同による生產組織の管理。

四、其の僚友との同共による生產物に對する要求の承認（產業自治論　七九頁）

彼等は現代社會問題の根底が隷屬の問題にあると言ふ見方からこの隷屬を除去する爲めに以上四つの要求をなしたのである。而して更にギルド社會主義者は其の特有の社會哲學の中から新社會の組織を研究してるのであるが、こゝにはそれを論ずる必要はない。

八

私は社會問題が其の根低を「パン」に置いてゐる說と、それは「隷屬」の問題であるとする說とを簡單に叙述した。それで以下私は少しくそれに對する自分の考へを述べなければならない所に達したのである。

簡單に自分の結論を言つてしまうと自分は社會問題の根底が貧困であるか、隷屬であるかを論議することが餘りに價値のあることではない樣に考へるのである。私は社會問題は貧困の問題であると共に隷屬の問題であると思ふからである。

私は生產機關卽ち社會の生甚力がその社會生活の基礎で

あると云ふ様に、マルクスの初期の唯物史觀を信ずるものではないが、人間の生活における經濟要素を可成に重大のものと見るものである。人間は其の內心に各々の自由意志が存在するものと見ても、其の自由意志は其環境の如何によつて影響されることが多いのである。殊に日常の生活を律して行くものは經濟生活である。食に、衣に、住に、私達はすべて經濟の影響を免れることは出來ない。こゝに社會問題の根底がパンのみの問題ではないとしても、少くとも其の根底の重要な部分がパンの問題卽ち經濟の問題であることの根據を得ることが出來るのである。

「人は貧困なるが故に奴隷にされてゐるのではない。奴隷なるが故に貧困なのである。」文章の云ひ廻はしは奇警である。けれどもそれはあまりに事物の相互的因果關係を無視するものではなからうか。高潔な志と、高尙な理想を有する人も、もし彼が貧家に生れたならば、彼はある資本家の元に走つて、そこに一つの職業を得なければならぬではないか。もし彼が獨りこの事を拒絕するならば彼は經濟生活より退く外はないのである。「自然の大なる饗宴」に一の空席を發見しやうと想ふならは、如何に精神生活の豐富な彼においても、生產用具の所有者である資本家の下に走らなければならないのは必然の運命である。また人が一度その身を僅少な賃銀に換えることになると過度の勞働とその爲めの精神的壓迫との爲めに、彼の精神はこの境遇に適應して「奴隷なるが故に貧困となるのである。」かくの如く關係は循環的である。

現代の賃銀制度は貧困によつて生じた一種の奴隷制度である樣に、また奴隷制度なるが故に人々を貧困とするものである。だから問題は貧困か奴隷かの問題ではなく「貧困」と「奴隷」との問題である。新しい理想社會への途に橫はる障害は「貧困」と「奴隷」であり、理想社會は貧困と奴隷との存在を許さない所でなければならない。（甲野哲二）

朝日新聞のロシア通信

一

朝日新聞といへば、無論大新聞で『レニン逃亡、――トロツキー殺さる！』――こういふ號外を出したことで一層有名になつたが、レニン逃亡――トロツキー殺さる！といふ世界の重大事件を逸早く號外で報導してくれたものは世界廣しと雖もわが朝日新聞だけであつてわれ〳〵讀者の側からいふと實に有りがたい仕合せである！ところでこの號外一件は素敵に手早やかつたので男を上げたが、その號外の早い割合に遲いのは中平某といふ人のロシア通信だ。今頃になつてロシアのどこを歩いたとか、旅行が苦しかつたとか、カメネフに會つたとか、ロシアには食糧が缺乏してゐるとか。そんなことなら一年前の外國新聞を見れば大抵のやつには出てゐる筈じあないか。いや新聞でなくたつてパンフレットが幾らでも出てゐる。われ〳〵のもつてゐるだけでも數十册ある）書物だけでも本箱に置きされないほどあるじあないか。この男のように、ボルシエヴ井キが憎いなら、そんな憎いところなぞへ、わざ〳〵日本の金を濫費しにゆかなくてもその金を大本敎へ九十九パアセントばかりその殘りの一パアセントで神田邊の下宿屋で外國新聞なり、パンフレットなりを飜譯して出した方が餘程正確でもあり讀者のためにもなり社のためにもなるだらうじあないか。飜譯が面倒臭いといふのなら差當り日本にも『東京日日』の布施君が二、三ケ月前に長いロシア通信を書いてゐたからあいつを失敬したらいゝじあないか、とこういふ失敬なことをいつては大新聞に對して誠に相濟まないわけだが、中平某君のロシア通信を讀むと實際こういふ失敬なことも言ひたくなるよ。

二

この男の通信を見ると、そのたんびにレニン政府が何時滅亡するとか駄目になるとか、必ず附いて廻つてゐるが、それほど急いで滅ぼしたいならうそでも何んでもいゝから一貫して滅びるなら滅びる一點張りで行けばよし、また滅びる理由はかく〳〵とこれも理由が一貫してさへゐればうそでも何んにも知らない田舍の讀者なぞや大本敎の信者や本願寺の信徒なぞは信用するだらうが、頭の惡るいといふ奴ほど始末に困まるものはないもので、『聯合

國封鎖が今二年續行せらるれば遉が頑固のレニンも遂に膝を屈するに至るべし』（東京朝日八月十三日）と三號活字でもつて聯合國が封鎖さへやつてゐれば今にもレニン政府は覆るようにいつてゐるかと思ふと今度はまた打つて變つて『勞農政府沒落は外國の干渉終息する時なり』といふ言葉にすつかり感心して『列國政府はこの點に關し思慮一番すべきに非ずや』（東京朝日八月十八日第二面）だつて。それじあいくら思慮一番すべきに非ずや』といつたところで列國政府だつて『思慮一番』のしようがないじあないか。列國政府の方よりも貴公の方がもつと『思慮一番』してもらいたいものだ。それでもまだ理由は兎に角、どつちにしてもレニン政府が轉覆するといふのならまだ〳〵田中義一君あたりも安心だらう（尤も『西のレニン』が倒れては『東の原敬』が心細いだらうが）が、この先生の『お筆先』ときたらどつちへ走るのやら、『反對派（レニンの）の有力なる人々』が外國へ逃れたから、『此意味に於てレニン政府の基礎は内政上當分堅固なり』だつて。（東朝八月十三日）内政上堅固で外政上干渉がなくなつたら一層堅固になりそうなものぢあないか。こうなつたら一大事だ、田中義一君たるもの須らく『思慮一番』すべきの秋だ。

三

しかしこの先生の通信を讀んだら田中義一君がモウ一番思慮を要することが出てくるよ、といふのはこの先生の通信によるとロシアの國民性はボルシエヴ井キに適せずして天性アナアキストであるといふから（東朝八月十四日）そうロシアの『國民性』がアナアキストであるとこたら、クロポトキンは安心するだらうが、折角レニン政府を仆すために金や兵隊を使つて一生懸命にやつてゐるどこかの陰謀團が失望するだらうじあないか。

四

この男のいふことは讀めば讀むほど面白くなつてくる。銷夏用としては講談なぞよりは餘程うそが多くて面白い。この男に言はせると『露國民は今や……政府の專制政治に對しては不平滿々にして殆んど國民擧つて政府反對』だそうでこうなつてはレニン政府も誠に氣の毒になつてくるわけだが、久米正雄の小説で主人公がコロリ〳〵死ぬような鹽梅に、場面がコロリ〳〵と變つてきて、今度はまたアンチ・ボルシエヴ井キにとつてお家の一大事だ。『ボルシエヴ井キは今やロシア青年の宗教だ！』（大阪朝日八月十七日夕

刊）つまり佛様が憎まれてゐるわけで『反對』したり、拜むだりであロシアの青年も中々骨が折れることだらうよ。マア然しそいつは青年だから若いうちは何んでも修業になるから我慢も出來るが我慢の出來ないのは一般民衆だ。といふのは、この一般民衆が、いや『國民擧つて政府に反對』であるがと思ふと、場面一つ變ると今度はどうだ『一般民衆はレニンの人格と學識に信頼し……彼れの政策に對して一般は苦痛を感ぜす』（東朝八月十五日）だといふことになつてくる。『一般民衆』たつてこう『擧つて反對』したり、『一般に信頼し』たりするじあ、始終氣に安心といふものが出來ないだらう。

五

こんなにロシアの『一般民衆は』氣苦勞の絶えないのに中平某曰く『ロシア人は今や人心滔々として墮落に傾き……品性一變せるに驚嘆せしむるに至れり』と。つまり王朝時代のラスプーチンだとか獨乙から賄賂をとつた、陸軍大臣なぞの方が『品性』が善かつたわけでこの時代こそ『人心滔々として高潔に傾き』そして賄賂で懐中が暖たかになつたのだらう。

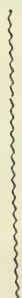
六

ところでまだ〳〵面白いことは幾らでもあるが詳しいことは紙が安くなつてからのことにしてもう一つにつお目出度いところをお目にかけよう。この男はよくレニンの專制政治々々といつてゐるが何が一體『專制政治』かと研究して見るとこうだ『勞農露國の政權は極端に晝中せられたれども……集中されたる甲斐は少しもなく……益々レニンの專制を助長し居れり』（東朝八月十五日）嗚呼、ロシアの政權ばかり奇しきものとてはなし、集中されたる甲斐は少しもなくて、『專制を助長』する怪しの專制よ！いや怪しの通信よ！。

七

『トロッキーは……元來性急の男なれば我不關焉の態度を採り居れり』（東朝八月十四日）

八

中平某曰く『之が堂々たる役人かと呆るるばがりなり』と。吾輩曰く『之が堂々たる大新聞のロシア通信かと呆るるばかりなり』（山內茂男）

室伏高信著

『ギルド社會主義』正誤表

（歐文は次號に）

頁	行	誤植	正語
五	二	古をき	古るき
一七	一三	生れた生れた	生れた
二六	三	一、體勞働	一、勞働
二九	五	組合誌	組合史
三〇	三	協同的社會	協同的組合
三一	一	彼等	彼れ
三二	七	ソリダリイ	ソリダリテ
三五	一	文學	文字
四四	八	彼た	彼れ
四五	一〇	グリムウソウプ	グリムソウプ
四七	一二	知織	知識
五四	四	彼のように	削除
五六	三	對論	討論
五八	三	事無	事實
五九	八	モンモン	コンモン
で一	三	動かさた	動かされ
同	一〇	擾超	優越
六二	七	ならなく	ならない
六三	六	生的	生活
六五	八	卸ち	即ち
六九	一一	決樂	快樂
七三	一〇	たでは	爲ては
七七	七	主義	主義者
七九	末行	未藥	末葉
八一	七	言藥	言葉
同	二	使用れる	使用される
八二	一	士地	土地
八三	一	織工	聲工
八五	七	濟學	經濟學
同	一〇	舊經濟さ	舊經濟學さ
八九	一三	チョン	ヂョン
同	六	社革改	社會改革
九三	七	ハインドマ	ハインドマン
同	一二	士地	土地
九四	一	ハイドマ	ハインドマ
同	三	ハンイド	ハインド
同	八	勞働の	勞働者の
九五	三	マルクス義	マルクス主義
九七	一〇	綱領に	綱領の
九八	八	しかし革命的社會主義の信者である	全部削除
九九	一一	社會民義、主主	社會民主主義
一〇〇	五	民的主	民主的
同	八	民主主義を	民主主義さ
一〇二	三	エワード	エドワード
一〇三	一三	ロピン	ロビンス
一〇三	五	最高進	最高道
同	一一	である	の著者である
一〇八	六	仕事な	仕事をな
同	八	フツト	フレツト
一〇九	七	無食	正餐
同	八	物	無し
同	同	食物の	正餐をもつ

（つゞく）

定價

毎月一回一日發行	郵税
一部　卅錢	五厘
半年分　一圓七十錢	税共
一年分　三圓三十錢	税共

但特別臨時號の價は別に申受く

▲誌代は總て前金　▲郵劵代用一割增
▲送金は可成振替　▲外國行郵税十

大正九年九月一日印刷納本
大正九年九月一日發行

東京市京橋區元スキヤ町三ノ一番地
編輯兼發行印刷人　尾崎士郎

東京市京橋區築地二丁目三十番地
印刷所　川崎活版所

東京市京橋區元スキヤ町三ノ一番地
發行所　批評社
振替東京四五三四六
電話銀座一三七四番

大正八年三月廿八日第三種郵便物認可
批評九月號
（定價卅錢）

大正八年三月廿八日第三種郵便物認可
大正九年十月一日印刷發行

（定價卅錢）

十月號（第二十號）

レーニン主義批評

（附＝福田博士のマルクス主義論を批評す）

ボルシェヴィズム

（クロポトキン）

批評社

批評的精神の復活

一

過去一年有余の間、私たちはあまりに多く講釋を聽いてきた。永い間壓迫されて、あらゆる新知識から隔てられてゐた私たちは、愚に退屈な講釋をも、辛抱して聽いてゐなければならない必要と好奇心とをもつてゐた。この必要と好奇心とは、大學敎授の、職業的なそしてウヰットと創造とに欠けた講釋をも、喜んで、貪るような心持ちで、迎えさせないではおかなかつた。しかし私たちは今や厭いた。私たちの頭は講釋によつて滿たされた。

二

過去一年有余の間における學者の講釋は、私たちに何ものを與へたであらうか。そは私たちに、彼等が如何に物知りであるかを敎えた。しかし私たちが彼等の物知りであることを敎えられればられるほど、私たちはただノートブックの製造者と化してゆくのであつた。毎日〱盛んな勢ひをもつて續出してきた諸雜誌は、どれも〱一種の講議錄と化した。そして私たちは最も尊い一つのものを忘れるために過去一年有余の間、學者の長々しい講釋に聽きとられてゐたのであつた。

三

私たちは今や講議錄を捨てなくてはならぬ。私たちは今や魂に欠けた學者の職業的な講釋と絶縁しなくてはならない。そしてただ一つのもの、魂を探し求めなくてはならない。こゝに「自由」が目を開く。

四

自由は一切の傳統を蹂躙することではない。アベラールの傳説を知るものが、どうして自由と傳説とを、敵對者として考へることができるであらう。しかしまた私たちは、私たちが一切のオルソドックスと、そして權威の高壓とから解放される時においてのみ、私たちの自由を思ふことができるであらう。

五

自由は批評的精神とともにある。

六

批評的精神の復活こそ、私たちと、そして私たちの論壇とが、魂を求むる時に、求むるところの唯一つのものであつた。然り、私たちは批評的精神の復活によつて、私たち自身の人格を復活しなくてはならない。

* * * *

批評十月號目次

The Day is Coming

Ah ! come, cast off fooling, for this, at

least, we Know !

That, the Dawn and the Day is

coming, and the forth

the Banners go.

——Willam Morris——

レニン主義批評（一）

ボルシェビヰズムとしてのマルキシズム

序言――福田博士の社會民主主義論に就いて

私はこゝにレニン主義批評に筆を染める前に福田博士の社會民主主義論――最近に發表された『マルキシズムとしてのボルシェヴヰズム』（『解放』大正九年九月號）――について一、二言を費すことが私の義務であると信ずるものである。何となれば福田博士のこの論文は、福田博士の言葉を引用すれば『本論文は……室伏君の言はるゝごとく、ソーシャル、デモクラシーを虚僞のデモクラシーなりとする拙論は、必ずしも諸家が異句同音に攻撃せらるゝように忘說でないことだけは明らかにする義務があるから……』書かれたものであつて、私どもの批評に對する答辯であることは明らかであり、且つこの論文において福田博士はボルシイエヴ ズムを社會民主主義と見て立論されてゐるからである。一體福田博士の社會民主主義論に對して最初に批評を加へたのは私であつた。私は既に昨年の二月にある雜誌上で簡單に批評を加へて置いた。福田博士は私のこの批評に對して同じく昨年の春『黎明會』の講演會の席上において答辯――攻擊的防禦――を與へてくれた。私はその答辯に滿足ができなかつたので更に昨年六月號の『批評』において再批評を試みた。これに對しては福田博士は私への來書において答辯を書かれることの約束をしてくれたにかゝわらず一言もそのことなくして終つた。その後十月になつて河上肇博士がその主宰す獨り雜誌『社會問題研究』において福田說に攻擊を加へた、この攻擊文は、勿論福田博士が後に冷やかしたやうに、私の『尻馬に乘つたもの』ではないであらうが、その趣旨なり材料なりが略、々私の先き發表した論文に同じものであつたことは疑のない事實であつた。私は當代日本において飛ぶ鳥を落すほど勢のひのある河上博士――而かもこの時代は、堺利彥君に從へば世の中が『福田時代から河上時代へ』と移つた時代であつた――によつて有力な

裏書きを見たために頗る意を強うしないではゐられなかつた。世間もまた漸くこの問題に注意を拂はずにはゐられなかつた。福田博士も遂に去年の歳末に、社會政策學會の講演會の席上において、この問題に對する再辯明を試みないではゐられなかつた。世の中は福田時代から河上時代へ』と移つたといふにもかゝわらず、この講演の前景氣は素晴らしいものであつた。しかしその素晴らしい前景氣の割合に、福田博士のこの講演が、新聞紙そして『改造社』の中によつて作られた速記文とによつて發表された範圍においては、如何にも貧弱極まるものであつた。矢張り『福田時代から河上時代へ』と世の中が移つたのかと思はれた、だが幸ひにして新聞紙の報導と改造社の手によつて成つた速記文とは、福田博士に從へば『支離滅裂なものであつて到底見るに堪えないものであつた』(『解放』同上第八頁)既にこの速記文が『支離滅裂で見るに堪えないものである。以上は、福田博士は何等かの方法で三度その社會民主主義論の辯明を發表するであらうといふことは私どもの密かに期待してゐたところであつた。この期待を滿たすべく、福田博士は一年間に近い沈默を破つて、こゝに『マルキシズムとしてのボルシェヴィズム』の長大篇(多分そうであらう)を發表しつゝあるわけである。そしてこの論文はレニン主義によつてマルクス主義を論じようとするものであることは福田博士が數ヶ所で述べてゐるところでもあり、且つ福田博士の、論壇への花々しい復活は、嘗つて『福田時代から河上時代へ』と移つてしまつたといふ世の中を、今度は『河上時代から福田時代へ』と逆轉させるのではないかと思はれるところであるから、苟くも今日レーニン主義を論ずるためには、一應福田博士の復活論文『マルキシズムとしてのボルシェヴィズム』を讀むで置くことが必要であると思はれる。勿論、福田博士のこの論文は、その長篇ものゝ最初の一部分しか今のところ發表されてゐないのであるから、それの全體についての批評は他の機會においてなり、または私のこの『レーニン主義批評』の進行中なりに述べてゆくのほかはないが、それにしても、今日發表された範圍についてだけでも、私は一、二言を費すことを私の義務であると信じてゐるものである。

一

私は嘗つて福田德三博士の社會民主主義論を批評して次のやうに述べたことがあつた、レニンは福田博士の贊成者であるといふことができるであらうと。私の意味は、社會民主主義の解釋についての福田博士の立場がレニンのそれと一致してゐるといふことであつた。(『改造』第一卷第九號九十二頁)私はその後に新らたにレニンの數著を讀むだために、私のこの批評にも修正を加へることの必要があると思つてゐるものであるが、福田博士自身は、私のこの批評を裏書きしようと再び努力しつゝあるやうに思はれる。福田はレニン主義を採用しきたつて、こゝに福田博士の學問上の債務としての、社會民主主義論の再辯明を試みようとしつゝあるからである。福田博士の長篇論文『マルキシズムとしてのボルシェヴヰズム』の一篇がそれである。

二

私はこの論文を讀んで福田說がいよ〳〵慘敗したといふことの確信に到著した。嘗つて福田博士は、博士の社會民主主義論の正當であることを論じて次のように述べたことがあつた。

『……室伏君が福田が獨逸の社會民主々義は全人民のクラシーでないと云つたのは明に事實の誤謬であるといふことを或雜誌に書かれました。それは私も慥に讀みました。併しそれに對して私は何等の駁論もない。何故しないかと云ふと、地球は太陽の周圍を廻るものであるのに、太陽が地球の周圍を廻ると云ふものに對してそれが誤謬であると云ふ說明を小學校の生徒にならば爲すべきでありますが、室伏君の樣な卓越な識者に向つて申上げることは如何にも愚の至りであると存するからであります。』(『黎明講演集第三輯二六六——七頁)

福田博士に從へば、福田博士の社會民主主義論の正當であることは、太陽が地球の周圍を廻るのでなくして地球が太陽の周圍を廻るものであるといふことのコペルニクスの地動說ほどに明々白々、一點の疑をも挾む餘地のないものであつた。

これほどに明々白々のものであるから『室伏君が何と言はれようが、吉野博士が如何に熱心に裏書せられようとも……室伏發行、吉野裏書、福田宛の此手形は甚だ御氣の毒をがら不渡處分をするの外はなかつたのであつた』(同上第八頁)かくのごとくにしてわれ〳〵の『天動說』はコペルニクスによつて『不渡處分』をうけるのほかはなかつたのであつた。評論壇に『不渡手形』を發行した私の責任こそ決して輕からぬものであつたのである。ところが星移り物變りてこゝに一年半になるこの一年半の間に『コペルニクスの地動說』が如何なる變化を來たしたかを思ふと、この一年半こそなか〳〵に長い一年半であつた。然り、この一年半の間に、『コペルニクスの地動說』が慥に一大動搖を來すことを免れなかつたのであつた。一年間の地點から猛然として立ち上がられた福田博士曰く

『本論文(マルキシズムとしてのボルシェヴォズムを指す)は……室伏君の言はるゝ如く、ソーシャル、デモクラシーを虛僞のデモクラシーなりとする拙論は、必ずしも諸家が一句同音に攻擊せられるような妄說でないこと丈けは明らかにする義務がある…………』(解放同上第八頁)

然り、『必ずしも……妄說ではない』――コペルニクスの地動說は『必ずしも……妄說ではない』――太陽が地球の周圍を廻るのでなくして地球が太陽の周圍を廻るのであるといふ說は、『必ずしも……妄說ではない』と。これ豈に『地動說』の一大動搖ならざらんや。

三

マルクスを反駁する最大の敵手はマルクスその人である――ベルンシタインのこうした言葉を、私は今にして思ひ出さずにはゐられないのである。何故なれば福田德三と反駁する最大の敵手は福田德三その人であると思はれてならないからである。然り、福田博士の『マルキシズムとしてのボルシェヴォズム』の一篇こそ實に福田說を轉覆すべき一大使命のもと

に生れ出でたる一大長篇である。私は今において福田說に批評を加へようとするほどの沒分曉漢ではない。私どものような微力なものが批評を加へないにじても、日本における福田博士の最大の敵手――その人は決して河上肇氏ではない――福田博士その人が有力な反駁を加へてゐるのであるから、私はたゞこの福田德三說に對する福田德三の反駁を紹介し、且つ解說すれば足りるのである。

四

福田德三を反駁する最大の敵手は福田德三その人である。――この說を立證するためには、先づ福田博士の謂ふところの社會民主主義論なるものの如何なるものであるかを知らなくてはならないが、福田博士曰く

『所で新に起つて獨逸を仆したソーシャル、デモクラシーにしても、或は又從來の英米のキャピタリスチック、デモクラシーにしても、我輩はこれを Pseudo-Democracy（假面的民主々義）と呼ぶに躊躇しない。何故なればソーシャル、デモクラシーは卽ち、プロレタリア階級のみをもつて Demos と認め全人民を Demos としないのであるから本當のデモクラシーとは云はれない。卽ち彼等自らソーシャルといふ形容詞を付けてゐる。』（中央公論大正八年一月號三頁）

卽ち福田說に從へば社會民主主義とば全體の人民をデモス（人民）となすものでなくしてたゞ無產者階級だけをデモスと認めてゐるものであるから假面的のデモクラシーであるといふのである。他の言葉をもつていへば社會民主主義とは無產者階級のクラチアを意味するものであつて、全體の人民のクラチアを意味するものでないから假面的のデモクラシーであるといふのである。そして福田博士のこの解說こそ何人にも分りきつた、太陽が地球の周圍を廻るのでなくして地球が太陽の周圍を廻るのであるといふ說ほどに明々白々一點の疑もないものであつたのである。そしてかくのごとき明白な問題を『室伏君のごとき卓越な識者に向つて申上げることは如何にも愚の至りで』あり、『私は割合に閑な人間でありますが、

併し左樣な詰らぬことに費す時間は幸ひ持つ居らない』のであつたのである。（黎明講演集第三輯第七一頁）

しかしそは既に一年半の昔語りであつた、といふのは昨年の事に社會政策學會の講演會といふ資本主義の學者の御歷々の集會の席上で大々的の鳴物入りで『勞働組合と階級鬪爭』といふ一大講演を試みたのを初めとして、その一年間の沈默から猛然として立ち上がつた時の第一の獅子吼としての『マルキシズムとしてのボルシェヴヰズム』の大論文もまた畢竟するに私どもに對する答辯地球が太陽の周圍を廻るのだといふことを説明するための千萬語であるから、かくのごとき千萬語は實に「愚の至りである』――福田德三に對して福田德三がかくのごとく批評してゐるのである。わが學界の權威者福田博士がわれ〳〵並に『愚の至り』の仲間入りをしてくれたことはわれ〳〵愚人どもから見ると同慶至極である。否過去一年半の歲月はたゞに福田博士を『愚の至り』にしたばかりではなしに、『左樣な詰らぬ事に費す暇は幸ひに持つて居られなかつた』わが多忙なる福田德三先生を『左樣な詰らぬ事に費す暇を幸にして持つてゐる』福田先生としてしまつたことこそ實に時間の力の偉大なる證據であつて、福田先生のためには『不幸』であるが、われ〳〵閑人にとつてはこれまた同慶至極な次第である。

五

福田博士の社會民主主義論は何故に太陽が地球の周圍を廻るのではなくして地球が太陽の周圍を廻るのであるといふほどに明々白々であるか。福田博士卽ち曰く

『社會民主主義と云ふものは是は決てて私が勝手に命名したものではない……獨逸に社會民主黨(Sozial Demokratische Partei)といふ立派に名を附けて世界中に認められてゐるものがあるのです。決して私が勝手に付けたのではない、而かも此頃出來たのではなくとうの昔に出來て自ら社會民主主義といふ名を附けて之を標榜してゐる世人も一樣

に之を認めてゐる。然るにそれはソーシャル、デモクラシーではない……と吉野博士が仰有るのは已れは昔から鼻のことを口と呼んでゐたと仰せられるのと同じであります。既に三十年來社會民主黨といふ看板を掲げて自らも之を稱してゐるものがある。其事實に就て私が言ふのである』黎明講演集同上二六七――八頁）

然り、福田博士の社會民主主義論は福田博士の社會民主主義論ではなくして『獨逸』に立派な『事實』がある。『三十年間』自ら社會民主主義と『立派に名を附けた』政黨が存在するのであつて、この『事實』さへ見れば地球が太陽の周圍を廻るものであることが分るわけである。コペルニクスはその地動説を證據立てるために實にこの『事實』をわれ／＼の前に與へてくれたのである。事實はデモンセンスよりも雄辯である。われ／＼は宜しく事實の前には叩頭百拜しなくてはならない。事實の前に叩頭百拜しないものは『愚の至り』である。『鼻のことを口と呼んでゐる』のは吉野博士であつて、吉野博士こそ實に愚の至り』であつた。そしてわれ／＼もまた鼻のことを口と呼んでゐる『愚の至り』であつたのである。そのわれ／＼の『愚の至り』であることを證據立てるために福田博士が法廷にもち出してきたもの――嚴肅なる宣誓のもとにもち出してきたものが、エルフルト綱領の一節であつたことは未だわれ／＼の記憶に新らたなるところである（同上二六八――九頁）しかし昔は白馬は馬でないといつた人があつたが、われ／＼愚人はこの事實を見せつけられても、矢張り太陽が地球の周圍を廻んでゐるのだと頑張つたのである。私が最先きに頑張つた（『批評』大正八年六月號參照）次で河上博士が『贅馬に乘つた』（社會問題研究大正八年十月號參照）だから福田博士がこうした『詰らぬことに費す時間』ができた時に、その時間を利用する第一の方法がこの『事實』を一層明白にしてくれること――白馬も馬であるといふことを一層明白親切詳細に説明してくれることでなくてはならないことは鼻のことを口と呼んでゐる吉野博士でも異論を挿むの餘地のないことである。この要求を滿たすために福田博士が最初に立ち上がつたのが昨年の暮、社會政策學會の講演會の席上であつたので

ある。この席上において福田博士のもち出したものがカウツキーの『エアフルテル、プログラム』であつたとはその當時の新聞紙がみな一様に報導したところであつた。そして改造社から囑托した速記者の手によつて成り、且つこの講演會に出席した某々學者が訂正を加へて出來上つた速記者もまた實にこの事實を傳へてゐたのである。この事實は今や福田博士によつて否認されてゐる當の御本人か否認する以上は勿論その否認の方が、正しいであらうが、しかしこの場合に福田博士が幾度となく中央大學の大講堂の演臺に叩きつけ『河上も室伏も何故にこの書物を引用しないのか』と絶叫された書物は正にこのカウツキーの『エアフルテア、プログラム』でなくてはならなかつた筈である。何となれば既にエモフルト綱領を引用して白馬も馬であると絶叫した福田博士が、その白馬も馬であるといふ説を證據立てるためには、エルフルト綱領の起草者であり、且つ三十年間獨逸に存在してきた社會民主黨内における最大の理論家であるカール、カウツキーが、そのエルフルトの綱領の解説書として書いた『ダス、エアフルテア、プログラム』を引用することこそ『宣傳』を排斥して『文獻的考證』に一身を委ねつゝある福田德三その人の正に第一になすべき方法であるからである。ところが福田博士のいふところによれば、福田博士が引用したものはカウツキーの『エアフルテア、プログラム』ではなくしてカウツキウーとシユウランク共著(Kautsky und Schöulank, Grundsatge und Fordeungen der Sozialdemokratie)であつた。この書物なら河上博士も私も引用しなかつたことは事實であり、また私自身はこの書物の存在は實は福田博士の説明によつて始めて承知した位ひに淺學短才であるが、しかしエルフルト綱領の解説書としてこの『珍本を奉げずして『ダス、エアフルテア、プログラム』を引用したことを、私は今において少しも後悔するほどの菩提心をもつてはゐないのである。そしてしてたゞ私の十年來先輩として密かに師事しつゝある福田先生の篤學に對して畏敬の念を一層深くしてゐるに過ぎないのである。

六

以上の事實を承知しつゝ、福田博士の『マルキシズムとしてのボルシェヴィズム』を讀むものは必ず私の說に贊成してくれるであらう――福田德三を攻擊する最大の敵手は福田德三その人であるといふことを、福田博士卽曰く

『本論文は……ソーシャル、デモクラシーを虛僞のデモクラシーなりとするとする拙論は……必ずしも妄說でないこと丈けは明らかにする義務があるから、其義務を果すべき第一の試として、玆にレニン――及トロッキー――の主張するボルシエヴキズムをマルキシズムと見ての管見を披瀝しようと思ふのである。殊にレニンの國家と革命を主題とすることは我輩に取つて甚だ會心な事業である』（解放同上八――九頁）

福田博士はボルシェヴィズムをマルキシズムと見てゐるのである。そしてレニンの小册子『國家と革命』を主題とし且つトロッキーの『ボルシェヴィキと世界平和』を參照して論ぜんとするのである。卽ちボルシェヴィズムによつて社會民主主義を說明し、レニンの『國家と革命』を主題とし且つトロッキーを參照して福田博士の學問上の債務としての社會民主主義の『必ずしも妄說でないことを』立證せんとするのである。卽ち曾つては『獨逸に三十年間存在してきた社會民主黨』といふ『事實』によつて福田博士の獨特の社會民主主義論――後に說明するとほりレニン說とも區別さるべきものである――を說明し更にこの政黨の精神を最もよく代表するものとしてこのエルフルト綱領を引用しきたつて、福田說に反對するものは皆なこれ『鼻のことを口といひ』プロレタリアのことを『第三階級』といつてゐる吉野博士の阿流であると冷笑し去られたところの福田博士が今やロシヤ、ボルシェヴィキ黨卽ち『共產黨』の立場を基礎としてこの『共產黨』の指導者としてのレニンの『國家と革命』並にトロッキーを援用しきたつてわれ／＼反對者を脅威せんとしてゐるのである。幸ひにして私もレニンの『國家と革命』は半年程前に買つており、非常な興味をもつて讀むだものであり、『批評』の六月號において少

しばかり紹介したことがあり、そしてまたこの書物について次のごとく批評したことがあつた『私はこの書物を讀むで、レニンがマルクス主義に透徹した學者であることを承認しない、ではゐられない』のであると（改造七月號八九頁）またその後においてはレニンがカウツキーの Diktatur oder Demokratie に答へた書物として『國家と革命』よりも二年または三年後に發表され『プロレタリアの革命』をも最近に讀むことの機會をもつたし、その他レニンの小册子數種（『第二インタナショナルの崩壞』、『ソヴエット論』、『ソヴエットの方へ』、『ロシアの土地革命』等）を讀むことができたし、トロツキーの著書も二、三種を讀むことができたから、福田博士の『マルキシズムとしてのボルシェヴヰズム』に刺激されてこゝに新にボルシェヴヰズム批評に筆を染めたいと考へるに至つたわけであつて、われ／＼を常にかくのごとき研究の方向に導いてくれる福田博士に對しては何時もながら感謝の意を表せざるをえない次第である。

七

私は福田德三を攻撃する最大の敵手は福田德三であるといつたが、私のいはんとすることは、ブレンタノ教授の崇拜者としての福田博士が、今日においてブレンタニズム（Brentanismus）をピイタア、スブルーヘニズムとともに嘲弄しつゝある（Lenin, Proletarian Revolution, P.7）ニコライ、レニンに感嘆しつゝあるがためではなくして、福田博士がその社會民主主義論の最大の根據——獨逸社會民主黨とそしてそのエルフルト綱領と——を博士自らの鋭利なる斧によつて破壞しつゝあるからである。何となれば、福田博士か新らた引用し、また大に引用せんとしつゝあるレニンもトロツキーも、ともに獨逸社會民主黨の猛烈なる攻撃者であつて、かくのごときものが社會民主主義の代表的のものではないと信じてゐるのみならず、レニンはエルフルト綱領そのものに對してさへ猛烈な攻撃を敢てしつゝあるからである。

福田博士嘗つて曰く『社會民主主義といふものは……獨逸に社會民主黨と云ふ立派に名を附けて、世界中に認められ

たものがあるのです……其事實について私が言ふのである』

レニン曰く、獨逸社會民主黨はたゞズウデカムを喜ばすに過ぎない政黨であり、……レギエンとズウデカムとカウツキイとハーゼとシャイデマン一派の古るい、そして腐つた一派であると（Lenin, The Collapse of the Second International,pp. 52—3）トロツキーは曰く、獨逸社會民主黨は無制限の日和見主義者であると（Trotsky, The Bolsheviki and the worldPeae, P. 207）

次ぎにエルフルト綱領について

福田博士は嘗つて曰く、エルフルト綱領は博士の社會民主主義說の裏書人である。そしてそは實に『單純明白なる一つの事實である』と（黎明講演集第三輯第二六八——九頁）

レニンはエルフルト綱領を批評して曰く、そは獨逸社會民主主黨の和見主義を體現するものであると（Lenin, State and Revolution, pp, 69—76）

かくのごとくに對比して見ると日本の最大のマルクス研究者としての福田博士とロシアのマルキストとしてのレニン、トロツキーとの間に興味津々たる對照があるわけである。福田博士が嘗つて（一年半前）その獨特の社會民主主義說を證據立てたるための『單純明白なる事實』として擔き上げた三十年の獨逸社會民主黨とそのバイブルとしてのエルフルトの綱領とは、レニンとトロツキーに從へば『無制限の日和見主義でありマルキシズムの墮落であるからである。然り、福田博士の口調を借りていへば、レニンもトロツキーも、この『明白單純なる事實』も分らないほどの分らずやであつて『鼻のことを口』といつてゐるのは獨り吉野博士があるばかりではなくしてレニンもトロツキーもたそれである。事態は實にかくのごとくに、發展してこなくてはならないのであつたのである。ところが寺内内閣不信任案の提出者としての憲政の神

犬養木堂が外交調査會に入つてから寺内内閣の辯護者となつたことのあつたがごとくに、過去一年半といふ『時間の魅力』はエルフルト綱領を擔ぎ上げて論壇に萬丈の氣を吐かれた福田博士を驅つて、今やその最大の批評者としてのレニンとトロツキーとを擔ぎ來たつて再び論壇に紅霓の氣を吐かしめるに至つた。

福田博士は今や曰く『ボルシェヴェズムをマルキシズムと見て……』と。また曰くカウツキーは學者的態度においてレニンに一籌を輸するものであると。(解放同上九頁)またレニン說に贊成して布演して曰く、ベーベルやカウツキー(エルフルト綱領の起草者)はマルキシズムの僞造者または曲說者であると(同上第十一頁)

それゆえにいふ、福田德三を反駁する最大の敵手は福田德三その人であると。嘗つてエルフルト綱領をもつてマルキシズム具現者であるとなした福田博士は今やそのエルフルト綱領の最大の攻擊者としてのウリアノフ、そしてウリアノフが特にエルフルト綱領に批評を加へたる彼れの『國家と革命』をマルキシズムと見て、ベーベル、カウツキー一派によつて『僞造されまたは曲說せられたる』マルキシズムを俎上に上せることによつて、福田博士獨特ゆ社會民主主義を辯護しようとしつゝあるからである。

八

福田博士の社會民主主義の再辯明(マルキシズムとしてのボルシェヴォズム)は、まだその最初の一部分を發表されたに過ぎないから一先ばしつて言葉を挾むことは私の義務の範圍を超えたものとなるであらう。たゞ最後に福田博士の再辯明を讀むものの豫め注意を拂つて置かなくてはならない一點がある、福田博士嘗つてその社會民主主義論を辯明して曰く、

『獨逸に於ても今色々爭つて居りますけれども畢竟は第四階級の獨裁政治にならうとするので、スパルタクス團は今直に第四階級の獨裁政治を實現となければならぬと云ふのです。之に對して今直ぐ之を認めることは不得策であるに、

不利益であるが故に漸次に其態度を執らうと云ふのがエベルト、シャイデマン派の考である。兩者の間には唯だ緩急の差があるのみで、主義に違ひがあるのではありません。主義とするところは凡てのソーシャル、デモクラチックを通じて第四階級が天下を取ると云ふことに限られて居るのであります。……過激派と言ひ穩和派と言ひますが……純粋に表面標榜した通り直ぐ端的に行はうといふのと、それは先づ時期を見て徐ろにやるべきだと云ふ漸進派の爭ひで、彼等の爭ひはプリンシプルに就ての爭ひでなく、手段に就ての爭であります。態度の問題であります。併ながら何れにしても此穩和派でも過激派でも均しく第四階級が社會を支配する事を名けてソーシャル、デモクラシーと言つてゐるのです（黎明講演集第三輯七四—五頁）

福田博士の社會民主主義論は極めて明瞭である。ボルシエヴキもメンシェヴヰキも、そしてスパルタクスもジャイデマン、エーベルト派も、みな等しくソーシャル、デモクラットであり、彼等の間には態度の相違、手段の相違はあつても、プリンシプルにおいての相違はなく、何れもみなプロレタリア階級のみをもつてデモスと認めるところの『虛僞のデモラットであると。それゆえに福田博士がその獨特の社會民主主義論を說明するためにはボルシエヴキも、カール、リーブクネヒトもカウツキーもシャイデマンも、みな等しく第四階級のみをもつてデモスと認めるところの獨裁政治の主張者であることを立證しなくてはならぬ。否、レニン、トロツキーは寧ろ說くに及ばない、カール、リーブクネヒトは說くことを須ゐない。何となればこれ等の一派が第四階級の獨裁政治を主張してゐることについて人々は福田博士の解說を必要とはしないであらう。

福田博士が學界に有する債務は主としてプレファノフも、カウツキーシャイデマンも、第四階級の獨裁政治を主張してゐるといふことを福田博士の深遠なる學問によつて天下公衆の前に證據立てることでなくてはならない。かくのごとき債

務に對してレニントロツキーを説かんとすることは、パルチザンを捕えきたつて、ボルシヴ井キとはかくのごとき狂暴のものなりと説明する軍閥のプロパガンダと何の撰むところもないのである。

第二、レニンとカウツキー

一

レニンとカウツキーとの間における論爭に觸れないでゐては今日の社會主義の問題の核心に觸れることはできないであらう。この二人の間における論爭は社會主義の歴史のうへでは、マルクスとバクーニンとの爭ひ以後の爭ひである。マルクスとバクーニンとは死するまで爭ひつゞけた。そしてマルクスは近世社會主義の理論的體系と、そして近世社會主義運動とを組織した。バクーニンはマルクスのやうに、彼れの理論的體系を完成することはできなかつたにしても、尚ほ彼れは無政府主義の父として仰がれるだけの歴史的地位を築いておつた。この二人者に比べるとレニンとカウツキとは、彼等の論爭の範圍においては、彼等がともに新社會思想の提供者でなくして、たゞ一個の祖述者であることを示してゐるのである。福田徳三博士は日本におけるマルクス學の大家として知られてゐるが、福田博士に從へばカウツキーは『報告者』の大なるものであると。この批評は慥にカツキーの眞面目を言ひ現はしておまりあることと思ふが、カウツキーの著書を讀むでゐるものにとつては、こうした批評は平凡な事實を平凡に言ひ表はしたといふまでゞある。といふのは、カウツキーは六十五歳の今日に至るまで、マルクス主義の祖述者として世界的に知られてきた代表的の學者として一貫してきてゐるからである。しかしレニンとカウツキーとの論爭をとほして、レニンとカウツキーの二人の態度を見ると、カウツキー

の態度が純乎たる學者の面目によつて蔽はれてゐるのに對しレニンの態度のうちには、流石に革命の大指導者としての眞面目が随所に溢れてゐるのであつて、その深刻な批評眼、その鋭利な解剖、その痛烈な嘲罵は、讀む人をして快哉を叫ばしめなくては止まないものがある。そは一個の學問上の議論であるといへるにしても、またそれとともに革命主義の比類なき宣傳である。『共産黨宣言』を讀むで何ごとの感激をも思はない人であつても、レニンの二、三書を讀むで何等かの感激を思はないものは恐らくはないであらう。彼れの『國家と革命』にしても『プロレタリヤの革命』にしても、言々みな血をもつて書かれたものである。若しこれ等の書物を讀むでレニンの革命的精神の興奮を思ふことなく、たゞ一個の學究としての議論であると解する人があるとすれば、そは讀む人自らが血に枯れた腐儒の類であるといはなくてはならない。しかしレニンのこれ等の著述が言々彼れの革命的精神によつて書かれてゐるにしても、そのことはこれ等の書物が一個の學問上の研究であることの事實を否認するの理由となるものではない。然り、レニンのこれ等の數著は、革命の血によつて書かれた學問上の究明である。そして少くともこの論爭の範圍においては、カウツキーと同じく、レニンもまた一個の祖述者である。福田博士の言葉を借りていへば、レニンもまた『報告者』の大なるものである。この點においてレニンとカウツキーとの間における論爭は、マルクスとバクーニンとの爭ひに比べて、創造上の價値に欠けてゐると見なくてはならないであらうが、しかしマルクス、バクーニン以後においての、歴史的意義ある爭ひであることは疑を容れないところである。そしてそは正しく世界の社會主義運動の一轉機を伏表するものとして今日以後においては、何人もこの二人の論爭に觸れることなくしては、社會主義の問題の核心に觸れることはできないであらう。

二

レニンとカウツキーとの論爭を讀むものは、その二人者の間における論爭が先づマルクス主義の内部においての分裂を

意味することを思ふであらう。カウツキーは人のよく知るとほり世界に許されたマルクス主義の代表的學者である。彼れはオーストリーの生れではあるが生涯の大部分を獨逸で送つた。『ノイエ、ツアイト』の創立者としてのカウツキーはマルクス以後においての獨逸社會主義の理論的指導者であつた。彼れは一九一八年に『ノイエ、ツアイト』から追はれたのであるか、こは獨乙社會主義の多數派が如何に墮落したかを證據立てるに過ぎないものであつた。戰時中に彼れの取つた態度には多くの非難すべきものがある。否、戰時中獨乙においては、眞正の社會主義者は二人しかなかつたといへるであらう。カール、リーブクネヒトとロオザ、ルクセンブルヒがこれである。かくのごとく、戰時中にカウツキーのとつた態度には後に述べるごとく非難すべき點があるにもかゝわらず、戰後の今日においても、彼れは依然としてマルクス主義の代表的學者と目せられてゐるほどに、彼れの地位は牢乎たるものがある。彼れは依然として獨乙社會主義の理論的指導者である。獨り獨乙においてだけではなしに、第二インタナショナルは、レニンも承認してゐるとほり、カウツキーにおいて最後の理論的指導者を見出してゐたのである。この世界的に承認されたマルクス主義者に對してカウツキーはマルクス主義の冒瀆者であると難ずるものがあつたとしたら、それは正しく正統派の根幹に石を投じたものである。ニコライ、レニンこそ正に正統派の根幹を震撼せしめた投石者であつた。カウツキーは『マルクス主義の淫賣婦である』――レニンは實にかくのごとき激語をもつてその論敵カウツキーの頭上にあびせかけてゐるのである。

三

世界大戰が始まつてからまもなくカウツキーに對するレニンの攻撃が始められた。彼れは一九一四―一六年の間に Sozial Democrat ,,Kommunist 並にのうへで幾度となく戰爭に對するカウツキーの態度に攻撃を與へた。これ等の諸論文は一九一八年になつて、ヂノヴ井エフとレニンとの名によつて、ペトログラードから出版された。またロンドンにおいても

レニンの名によつて『第二インタナショナルの崩壞』(Lenin, The Collapse of The Second International) と題する小冊子が出版された。端西においても、一九一五年レニン、ヂノヴ井エフの名によつて『社會主義と戰爭』(Zinoviev-Lenin, Sozialismus und der Krieg, 1915) が出版されてゐる。これ等の數著は戰爭に對する革命的社會主義の代表的理論であつた。このことを說くためには戰爭に對する第二インタナショナルの態度を知らなくてはならない。この點は私のレニン主義批評と直接の關係がないことであるから、そしてまたレニンとカウツキーの論爭においては、より根本的な點があるのであるから、こゝに評述することは必要でないと思ふが、第二インタナショナルは、最初は勿論戰爭に反對して立つた。スチツトガルトの決議と、バゼルの決議とがこれであつた。一九〇七年のスチユツトガルトの會議においては、社會主義者はあらゆる努力をもつて戰爭を未然に防止することそして、その努力の報いられなかつた場合には戰爭によつて生じたあらゆる政治的及經濟的危機を利用して、輿論を激勵して資本家階級の權力を廢止することに努力することが、社會主義者の第一の義務であるといふことを決議したこの決議は更に一九一二年、第一バルカン戰爭の勃發した場合にも明確に裏書きをされた。かくのごとくにして國際社會主義はその各國における異常なる發達と伴つて、やがて戰爭を防止しうるの力であらうと思はれてゐたのである。世界大戰の脅威がヨオロツパのうへに暗憺としてかゝつてゐた時に、一九一四年七月二十九日であつた。第二インタナショナルの戰士がブラッセルに集まつた。そして勿論戰爭反對の氣勢を揚げた翌日にはハーゼとヂョウレスによつての、歷史的の演說があつた。ハーゼは獨逸社會主義のために、非妥協的な戰爭反對者であることを明らかにした。ヂョウレスは彼れ一流の人道的興奮の心をもつて『われ等はたゞ一つの條約、われ等を人類に束縛する條約を知つてゐるのみである』と述べた。しかしいよ〳〵戰爭の勃發とともに形勢は一變した。ヂョウレスは早く殺されたが、ブラッセルの非戰論者としてのハーゼはライヒスタッハにおいての戰爭論者であつた。フランスではゲードが內

閣に入つた。英國ではハインドマンが戰爭論者となつた。ゲード、ハインドマン、カウツキー、そしてロシアのプレファノフ、彼等は世界における代表的の非妥協的マルキストであつた。そしてこれ等の非妥協的マルキストは、大戰とともに、相率ゐて資本主義の戰爭に加擔するに至つた。『昨日の國際社會主義の權威者は、今日の社會主義的侵略主義者である』――レニンはかくのごとくに罵しつた。ゲードも、カウツキーも、ハインドマンも、プレファーフも、みな『ジンゴウ』である、――レニンはかくのごとくに罵しつた（Collapse of The Second International, p.11）第二インタナショナルがマルキシズムを奉ずるといふのは口先きだけのことである。それは實難においての日和見主義への降伏である――レニンはかくのごとくに罵しつてゐる（Sozialismus und Krieg, S. 14）そして第二インタナショナルの理論的指導者としてのカール、カウツキーに向つて、お前はマルクス主義の淫賣婦であると激語した（Collapse, p. 39）カウツキーの戰爭中における態度は、レニンの罵倒に價ひするものであつた。一九〇七年にスチユツガルトにおいてベーベルと激論したカウツキーは、一九一四年の戰爭においては『インタナショナルの權力の限度』を說いた。彼れが『ノイエ、ツアイト』において自ら辯護したところは滔々數萬言であつた。しかしそは社會主義者としては支離滅裂聞くに堪えないものであつた。彼れの態度はレニンの批評してゐるとほり、社會主義者ではなくして、『國民自由主義者』であつた。そしてまた同時に社會主義の冒瀆者であつた。

四

世界大戰は『昨日のマルクス主義の權威者』を『今日の國民自由主義者』にと導いた。第二インタナショナルの崩壞のために最初の石を投じたものは、かくのごとくにして昨日のマルキシズムの權威者その人達であつた。第二インタナショナルの墮落ば、やがて第三インタナショナルの萠芽であつた。チムメルワルド會議か一九一五年九月に開かれだ時に、既

に第三インタナショナルの基石は世界の革命的社會主義者の前に投げられてゐたのであつた。獨逸からのレデブールとホフマン、伊太利からのラザリイとモデグリアニ、佛蘭西からのメルハイムとブヴデロン、そして露西亞からのレニンとアキセルロッドとボブロフとは、チムメルワルド會議においての非戰主義の宣言者であつた。レニンは既にこの會議において新インタナショナルの必要であることを說いた。レニンの主張は尙ほ果實を結ぶには至らなかつた。しかし『眞實にして永續すべき平和は社會主義の勝利の果家であらう』といつたチムメルワルドの決議は、單なる戰爭と平和との問題として止まつてゐることはできなかつた。そはやがてレニンの主張のとほりに新インタナショナルへの第一步であつた。戰爭においてオルソドックスに反對して立つたチムメルワルドの一派が革命においてもオルソドックスに反對することは何の不自然なこともないところである。この自然的傾向に決定的の裁斷を與へたものはロシア革命である。ロシア革命はこれを詳述するにはあまりに顯著であるが、この革命とともに――レニン、トロツキーがロシア革命の舞臺に登ることとなつてから、第二の佛蘭西革命に遭遇した。カウツキーはそのボルシエヴ井ズム批評において、述べてゐるとほり、ロシア革命は社會主義が大帝國を支配するに至つた最初の記錄であつて、そは一八七一年のパリー、コムミユーンよりも遙に有力な革命である。しかしこの革命はたゞに世界の資本主義的支配に對する革命であるばがりではなしに『オルソドックス、ソーシヤリズム』に對する勇敢なる挑戰であつた。ボルシエヴ井キ革命の成立とともに、レニン主義は獨りロシアにおいてばかりではなしに、國際社會主義の中流を震撼せしめだ。第二インタナショナルの戰士は、そのベルンの決議においてボルシェヴヰズムの原理に鐵鎚を加へようと努力した。社會主義者の側からボルシェヴヰズムに對する批評が頻々として現はれた。しかし第二インタアナショナルの戰士の死物狂ひの防戰にもかゝわらず、ボルシェヴヰズムの思想は、各國における一部の社會主義に狂熱をもつて迎えられ、そして凡ての社會主義者に一大動搖を與へた。かくのごとき空氣のうちに第

三インタアナショナルの新らしい計劃が世界の勞働者の前に提供された。一九一九年三月二―――六日の間に第三インタナショナルの第一回の會議が開かれた。『共產主義者インタナショナル』がこれであつて、この第一回の會議に參加したものはアルメリア、オウストリア、エソアニア、フ井ンランド獨逸、匈牙利、レツトランド、リスアニア、露西亞、波蘭、ウクラインの共產黨並に諾威社會民主的勞働黨、瑞典社會黨左翼派、瑞西社會民主黨、米國社會主義勞働黨、巴爾幹革命的社會主義者聯盟その他合せて十九個の團體であるが、第三インタナショナルに參加を承諾したものは三十九個團體であつて、中について最も有力な團體はロシアの共產黨を初めとして獨逸のスパルタクス團、伊太利の社會黨、米國のI・W・W並に社會主義勞働黨、英國の社會主義勞働黨、及び英國社會黨である。その後になつて英國ではマックマナスやバウルなぞの非妥協的マルキストのほかにメロアのようなギルヅマンまでが加つて有力な共產黨を組織して直に第三インタナショナルに參加した。このほかにあつて、獨逸の獨立社會黨、佛蘭西の社會黨愛蘭の勞働黨葡萄牙の社會黨、米國の社會黨、瑞西の社會民主黨、英國の獨立勞働黨は、第三インタナショナルに參加しないが、尙ほ第二インタナショナルから脫退するに至つた。そして獨逸の獨立社會黨は宣言を發して曰く『獨逸獨立社會黨はソヴ井エット制度のうへに立つ勞働階級の執政權によつて社會主義を實現するの考において第三インタナショナルに一致するものである』と。

五

第三インタナショナルの性質は彼れのマニフエストウによつて明瞭である。彼れの期するところは七十二年前のマルクス、エンゲルスへの復歸である。彼れの信ずるとは共產主義卽ち革命的社會主義である。『第三インタナショナルは公然たる群集行動による、革命的實現の、實行のインタナショナルである』と。この第三インタナショナルの理論的基礎を代表するものが主としてレニンの『國家と革命』(Lenin, Staat und Revolution. 1917)である。

六

レニンの『國家と革命』は彼れの著述のうちにおいて最も代表的のものであるばかりではなしに、マルクス主義の文獻としても、また第三インタナショナルの理論的基礎としてもともに歷史的の價値あるものである。そはロシア革命の進行中、一九一七年八月及び九月の間に書かれ、マルクス主義の政治學說としての國家觀及び革命觀を究明したものである。

レニンに從へば、マルクス主義においての國家とは、凡て階級的支配の機關である。階級的支配を離れては國家なるものはない。階級的支配といふことが國家の本質である。國家の本質は、一階級によつて、他の階級を壓迫するための强力的機關であることである。それゆゑに階級の存在するところには必ず國家が存在するのであるが、階級の消滅する時は、國家もまた消滅する時である。今日の國家は、ブルジョア階級によつてプロレタリヤ階級を壓するための强力的の機關であるから、これに對する社會革命は、プロレタリヤ階級を國家に組織することによつて、ブルジョアの國家を廢止することである。プロレタリヤの國家とは、ブルジョアの世界においての國家とは勿論同一の國家でなく、そは支配階級として組織されたプロレタリヤ階級をいふのである。從つてそはプロレタリヤのディクテータアシップを意味するものであるが、この意味においての國家も、たゞ資本主義から共產主義への過程において、存在するのみであつて、資本主義から共產主義への過程において、階級は消滅し、そして階級の消滅とともに、階級的支配の機關としての國家も不必要となつて自然に死滅するのである。そして國家の死滅とともに民主主義もまた死滅するものである。――レニンはかくのごとくに解してゐる、レニンに從へばそは疑もなくマルクス主義の精髓である。彼れは彼れのこの理論を證據立てるために、マルクス及びエンゲルスの諸書を涉獵して嚴密なる交獻的硏究を遂げ、そして彼れ一流の理論的才能を走らせて比類なき明快銳利なる論斷を下してゐるのである。しかしこの書物はレニン自らこの書物の卷末に記るしてゐるところによると、未完成のも

のであつて、尙ほ一九〇五年及一九一七年のロシア革命の經驗を基礎として更に次の一章を書くための準備ができてゐたのであるが、革命についての書物を書くよりも、革命の經驗をとほして生きることの方が遙に愉快であるといふ立場から、筆を中道に絕つた。この書物の後において、この書物に次いでの重要な價値あるものとして書かれたものは、プロレタリヤの革命』(Lenin, Thd Proletarian Revolution and Kautsky the Ren gade. London) である。この書物は『國家と革命』の原理を基礎としてカウツキーの『プロレタリヤの獨裁政治』に向つて直接の攻擊を加へ、合せてヴァンダベルトの『社會主義對國家』に對しても手傷き駁擊を加へて、かくのごとき書物は、これを『社會主義對國家』などといふ名稱を附けることを遠慮して、宜しく『ブルジユヤ折衷主義對マルキシズム、詭辨證法、阿世的改革主義對プロレタリヤ革命』と名けべきであるとまで激論してゐるのである。(ibed., p.128) そしてこの書物の特色をいふと、それが『國家と革命』において約束されたロシア革命を基礎としてのマルキシズムが論じられることである。

七

レニンの『國家と革命』に對して第二インタナショナルの理論的立場を代表するものはカウツキーのプロレタリヤの獨裁政治』(Kautsky, Diktatur des Proletariats. 1918) である。この書物は維也納で出版されたものであつてそれの一部が伯林から『民主主義か獨裁政治か』Kautsky, Demokratie oder Diktatur. 1919) といふ、名のもとに出版されてゐる。カウツキーはこの書物において直接にレニンの著書に向つて批評を加へてもゐないし、またレニンの批評に對すを辨駁をも試みてゐるのではないが、ボルシエヴ井ズムの根本原理としてのプロレタリヤの獨裁政治に峻嚴な批評を加へて少しも假借するところはない。彼れはその書物の卷末においてプロレタリヤの獨裁權に論斷を下して曰く、かくのごときものはマルキシズムではなくして、バクーニンの亞派であり。そしてバクーニン主義と同じく、プロレタリヤの獨裁政治ば斷々

乎としてこれを排斥しなければならないと。この態度は彼れのこの書物を一貫した精神であつて、レニンにとつてマルキシズムの神髓であるとされてゐるものは、かくのごとくにして、カウツキーにとつてはマルクス主義の敵である、然りそはマルクス主義ではなくしてバクーニン主義であると。この立場は同時に民主主義の原理の斷乎たる採用である。カウツキー曰く、民主主義なしには社會主義はない（Kein Sozialismus ohne Demokratie）と。（Kautsky, Demokratie oder Diktatur. S. 8）カウツキーのボルシエヴ井ズム批評は實にこの點にその基礎を置くものである。嘗つてその『社會革命』のうちにおいて、プロレタリヤにとつての民主主義は有機體にとつての光と空氣とであると論じてゐるカウツキーとしてはもとよりこうなくてはならない筈である。

八

レニンの『國家と革命』とカウツキーの『プロレタリヤの獨裁政治』とを對照すものは、レニンにおいてマルキシズムとカウツキーにおいてのマルキシズムとの間に如何に隔りのあるかを思はずにはゐられないであらう。然り、レニンにとつてマルキシズムの精髓であるもの……プロレタリアの獨裁政治――は、カウツキーにとつてはそはバクーニンの亞流であるし、またカウツキーにとつてマルキシズの礎石をなすもの――民主主義――は、レニンとつては死滅すべきものである！レニン曰く、カウツキーはマルクス主義の裏切り者である！カウツキー曰く、レニンはバクーニンの亞流である！

九

レニンとカウツキーとの論爭は、私たちに對して直に次のごとき問題に面せしめるであらう。レニン主義とカウツキー主義と何れか眞のマルキシズムであるかと。私たちはレニンとカウツキーとの論爭に立入らうとするものは、そして現代社會主義の問題の核心を把握しようとするものは、何人も先づこの問題に面しなくてはならないであらう。しがし私たち

にして若しかくのごとき考證的研究の範圍に停滯してゐるに過ぎないものでおるとしたら、私たちはただ學究者の一亞流であるに止まるであらう。それゆえに私たちはこの問題に面するとともに、更に廣汎にして且つ有意義なる第二の問題——ホルシエヴ井ズムの原理に向つて總括的な批評を加へねばならぬ。(つゞく)(室伏高信)

六時間勞働論(レバアハルム)(五)

吾等は現代の所謂勞働不安を驚く事はない。若しも男女が斯くの如き狀態を忍耐し滿足して居るものとするならば其の時こそは吾等は、彼等の未來を失望し。英國民の未來を失望して、然かる可きである。

吾等が此の世に於て、最も立派な民族だと信じてる英語民族をば——勿論、此の世に於て最も立派な種族だと云ふが夫れは公平な判斷かどうか解らぬ——利用しやうではないか。先づ當面の緊急問題である十四歳の少年少女勞働問題を取扱て見る。十四歳より十六歳迄での少年を如何に取扱ふべきかは最も重要な問題だ。吾等は此の時代の少年は何故あらゆる惡戯を悅ぶかと云ふことを知つて居る。エスアール、バッデンバウエル氏に負ふ所多い少年隊(ボイスブリゲイード)茲に少年義勇團運動に於ける少年の訓練を見る時は前述の如き狀態は大に陶治し得ることを實證して居る。若し十四歳の少年少女をして、午前中か或は午後に、二時間の課業を與ゑ、三十歳に至る迄正確に之れを繼續して行つたなら、吾等は彼等から如何なる人物をも作り上げる事が出來るのである。夜學の失敗な事は誰れでも知つてる通りだ。日中の激烈な勞働後に就學する少年少女は、心の狀態が授業を受くるやうになつて居ない。身心共に疲れ果てゝしまつて居る。從つて夜學は究極の目的を達する手段ではない。夫れは最後の一ッ手前のもの、そして最後のものではない。十四歳で教育が完成しない事は極めて簡單な理由である。卽ち教育に必要な時間が費されて居ないためであり、且つ又當然修めなければならない種類を、修

めて居ないからである。然し六時間勞働制の下にあつては、午前並に午後に於ける二時間の相互教授は、十四歳より十八歳に至る迄で繼續することが出來且つ亦た十八歳より二十四歳迄で繼續することが出來る。其の時期の間に修學者は肉體の鍛練と共に高尚な品性の指導を受け、遂に彼等の仕事を改善するに至る方法を、學ぶに至るのである。勞働時間中に手で彼等が働く事實が、彼等の精心敎育に貢献し、斯くて立派な市民を作る樣になる。

此等の敎育的訓練は十四歳から三十歳迄での者に對し强制的に行はなければならぬ、そして此の訓練は所謂兵藉に在る間は繼續されなければならない。十四歳から十八歳迄での間には肉體的訓練と共に所謂高等豫備校的の敎育を、又十八歳より二十四歳迄での間には同じく肉體的訓練と共に所謂專問學校或は大學程度の敎育を受けしむる、そして二十四歳より三十歳迄では村會又は市會議員たるの資格を備へしむる爲めに、軍事敎育を始め、國民の義務、市民たるの義務に關する訓練を爲し斯くしてデモクシーの理想なる「吾等の爲めの吾等に依つての吾等の政治」の意味を體得せしむるのである。

斯く現代を組織したならば吾等は完全に敎育された、國民を得ることが出來且つ其國民たるや一切の責任を負ひ得る國民であり且つ立法に參與し得る國民である。夫れが爲め吾等は夫れだけ改善せられなければならない。卽ち吾等は改善せられたる肉體を所有し改善されたる精心を所有するに至らなければならないのである。手と目と頭腦とを同時に用ふる所の前述の敎育は大學敎育に於てさへ殆ど比較することが出來ない。大學生は頭腦を進歩させる。然かし若し工場に働く者に課せられて居る、筋肉勞働の手の訓練をも同時に得る事が出來たなら、彼等の頭腦は夫れが爲めに、大なる好影響を受くるのである。かくて吾人は英國内に大學敎育に準じて造られた公共學校に依て、前より訓練を積むだ、より確固なる精神を有し、より實際的な國民を、作らなければならぬ。

吾人は、同時に於ける、手と頭腦と目との訓練の結合を固く信じて居る。そして亦た吾人は、六時間勞働制の下にあつて次の如き問題をも解決なし得る事を信じて居る。夫れは何かと云へば職工長支配人監督者の地位を滿たす男女に不足を告げて居る吾國の產業に於て、種々經驗せられて居る諸問題である。此の不足は現產業組織の下にあつては實に重大なるものであつて、國家が確固たる發展の爲めの一定の方針の下に、國民の適當にして且つ有効な敎育を司どるに非ざれば

農業に於ても商業に於ても運輸業に於てもまた製造業に於ても到底損失から免かれることができないのである。かくして全帝國の進歩は他國民との競爭に遲るに到るのである。

現在勞働して居る工場の管理權を或る程度迄で獲得せしむとする勞働者側の慾望は、可なり大なるものであるが夫れは決して不合理な慾望でなく、寧ろ健全な慾望である。而して其れは奬勵しなければならぬ慾望ではあるが然かし現在にあつては工場より平勞働運動者を取り去ることも出來なければ又平勞働運動者を管理部に入れることも出來ない。夫れと同時に假令管理部に入れたとしても、彼等が立派な援助を與ゑるとは到底豫期することが出來ないのである。彼等は訓練せられなければならぬ、吾等もまた總て訓練せられなければならない。此の目的に對する健全な發達と進歩か無くてはならぬと云ふのは豫備的訓練を缺いては何事も確固たる事業を爲し得る筈のものでないからである。管理局に地位を得むとする慾望、產業管理に參與せむとする慾望は健全な徵候である。然し乍ら若し吾が國の管理局が、訓練を經たる人により成立つて居なかつたならば吾國の產業を狂氣に導ぎ波滅に導かしむるのである而して唯だより優秀な教育に依つてのみ始めて吾々は勞働者をして此の適當な欲望を遂げしむる事が出來るのである。

斯くの如き組織の下に於て吾々は、兵營組織や軍國主義に附隨する不用物の皆無な大なる訓練を經た國民軍を所有しなければならない。吾人の記憶すべき事は常備軍は常に戰爭を刺戟するものであると同時に不準備と云ふ事は攻擊を受けしむると云ふことである。此の國民軍には、愛國の心と、家庭の愛を鼓吹しなければならぬ。之等は共に之の爲めには戰ふ價値ありと感じさせしむるものである、と云ふのは彼等の生活の狀態は誇る事も出來、樂しむ事も出來ると云ふ狀態にあるからである。亦た少女にも家庭經濟に必要なあらゆる知識を訓練しなければならないし又最も高尙な完全な幸福な意味に於ける生活の爲め、彼女等の本分を盡すに必要なあらゆる知識をも訓練しなければならない。

扨て此等の利益を全部享受したる人には、三十歲の時に於て餘暇を最も有用に費すの期待が出來る。

彼等は普通趣味を有してる。三十歲の人には或は園を持つて居る者もあらう。其處で已れの好む野菜を手入れすることに特別の興味を有して居るかも知れない。而して若し吾々が此のやうな組織を有し、又此のやうな今日の食物を作る人が數百萬人あつたなら、英國民を養ふに當り斯くの如き補助が

如何に有用なものであるであらうか！

吾等は六時間勞働制を實行してあらゆる方面に大なる利益を得なければならない、勞働者は娯樂、教育、より宜い社會的地位を得るの機會を得るに到るであらう。「ファクトリーハンド」の名稱は――種々な名稱の中に於て最も不快な名稱であつてあたかも「ハンド」が靈も知識も無ければまた世の中の野心も尠しも所有して居ないやうである、――無くなつてしまうであらう。其の時は工場勞働者は最早や「ハンド」ではない。彼等は就業の眞精神を持して日々六時間の間工場に通ふ事に成らふ。彼等は尠くとも現在八時間で得られて居る賃銀と同額を六時間勞働で得らるゝことにある。現在に一時間一志を得て八時間働いてる人には、未來に於ては一時間一志四片を得て六時間働き、現在八時間で生產し得ると同額の生產品を六時間で生產することになる。失れと同時に機械は六時間二交代で非常に生產額を增加する事に成る。此は戰後に於ける產業狀態に應ぜむが爲めに提言しなければならない提案の極めて粗雜な慨論に過ぎない。

余が此處に誠心誠意六時間勞働制を提唱する所以は大方の熟考を求むると共に高致を給はらむが爲めである。此の大戰の總ての破壞より、全階級に對し一層善良な、一層理想的な生活狀態が來ねばならぬ。そして改善せられたる狀態の下に於て英國民を世界の最も立派な民族たらしめ、健全な幸福な、公平なそして總てに平等な權利に基いた帝國を樹立しなければならないし唯だ一つの敵國もなく總てを友邦とする帝國を樹立しなければならない。斯くて考ふるに此の大戰も決して無益な戰では無かつた。父や兄弟や、息子は無益に生命を失つたのではない。母や妻や姉妹は無益に彼等の愛する者の喪失を痛むだのではない。永久に破れぬ平和は、再び微笑み、自然は充分に吾等の勞働に酬ひ、失命を長がめ、悅樂を深め、總ての人々に幸福を與える事であらふ。（終り）（森恪）

ナショナル・ギルド問答（二完）

かゝる反國民族トラストの形成を妨げるためにはどうしたらいゝだらうか？

勞働組合がその解放に到達しつゝある間に、若し賢明な公衆が彼等と一致するにおいては、公衆はこの點において、國家をそれの機關として使用し、自らを資本家に代らしめることができよう。

かくのごとき行動に出づる公衆の動機如何？

公衆は國民的利益が、金儲け屋とではなくして、解放のための戰を戰つて爲る勞働組合と一致することを承認するであらう。

國家はこの目的のために如何なる手段をとることができるか？

それの第一步は、資本家から、相當の金額を提供することによつて、または一層いゝ方法、ある期間内彼等に收入を保障することによつて、産業を買上げることでなくてはならない。その第二の方法はかくしてえたる資本の所有權を持續しながら、それを相互に公正なそして都合よき條件で産業を運營するために勞働組合（月給階級の包含によつてギルドとなる）に賃借することであらう。

概して、そうした條件とはどんなものであらうか？

ギルドは、それの産業の全國的獨占と、そしてそれの内部的自治とに對する報ひとして需要されて商品を、立派な品質に、必要なだけの分量ほどそして正當な價格で生産することの責任を引受けるであらう。それは未だ所有主としての國家に對して、それの純收入に應じて、租税と、准賃料とを支拂ふことによつて國民所得の正當な分前を供給することを引うけるであらう。

然らばギルドは如何なる形式をとるであらうか？

ギルドはシヴ井ルギルドと産業的ギルドとの二つの主要な部門に歸着するであらう。

シヴ井ルギルドとは何か？

シヴ井ルギルドは現在の文官や、陸軍や、海軍や、教育に從事する凡ての人や、醫者を含んでの公衆衛生吏員やその他から成立するであらう。

産業的ギルドとは何か？

國民産業ギルドは、今日の勞働組合の後を襲ふであらうところの方法によつて今日の勞働組合——または、寧ろ合同の産業的組合から生ずるであらう。

凡ての人はこの何れかのギルドに屬するのであらうか？

シヴ井ル、ギルド産業的ギルドとの組合外にギルド組織を適用しがたき多數の職業が存在するであらう。——ヂャーナリズムや、藝術や文學なぞがこれである。

これ等の職業の人達は如何にして生活を營むか？

彼等は彼等が今日なしてゐるごとくに、彼等の智慧によつて生活するであらう。

ナショナル、ギルドの契約の二つの當事者は永い間には何れかの一方がより多く有力となることはないだらうか？若しそうだとすると、どういふ結果になるだらうか？

若し國家がギルドよりも有力となるに至らば集産主義が生れるであらう。若しギルドが國家と支配するに至らばサンヂカリズムが樹立せられるであらう。

こうした結果を防止するものは何か？

一方が他方に對する必要、そして彼等の權力の關係的平等。

ギルドは何故に國家にとつて必要であるか？

各々のギルドはそれ自身の産業上の勞働とそして熟練との獨占權をもつ。

國家は何故にギルドにとつて必要であるか？

各々のギルドはたゞそれ自身の産業内における生産者を代表するに止まるがゆえに、そしてギルド議會はたゞ生産者の全體を代表するに止まるがゆえに、ギルドとギルド議會とは消費者を代表する集合體即ち國家と地方團體とにそれの補足者を發見しなくてはならない。

しかし二組の集合體の必要があるだらうか？生産者と消費者とは大體同一人ではないであらうか？

民主的社會においては、凡ての生産者が消費でなければはならないごとく、大概の消費者は生産者であらう。しかしこれ等の同一人が今日消費者として集團するかまたは生産者として集團するかの相違を立てゝゐるのである。

その相違を説明することができるか？

同一都市における消費組合と組合の聯合會議とは主として同一の人を代表するであらう。しかし消費組合の被備者の間におけるストライキについては彼等は非常に違つた見解をもつであらう。双方の見解が代表されべきことが必要である。

ギルドは爭議の場合に、彼等の主張に對して如何なる制裁

をもつであらうか？

ストライキの權利。

國家の制裁は何か？

他のギルド連盟して罪を犯したギルドに對して租稅を高めまたは最後には、供給を斷絕するの權力。

ギルドの參入する關係如何？

そは四つの種類に分れる。卽ち國家または地方官憲との關係、その組合員との關係、他のギルドとの關係、そして公衆との關係。

ギルドの國家に對する關係如何？

國家は生產手段を所有するであらう。そしてそれをギルドに貸すであらうそれにまた產業の膨脹のための必要なる資本を供給するであらう。これに對して、ギルドは國家と、その組合員と、他のギルドと、公衆とに對して責任を引うけるであらう。

ギルドの國家に對する直接の責任如何？

各々のギルドはその管理に委せられてゐる產業の管理の責任を負ふであらう。そして賃料の代りに國民豫算に年々の租稅を拂ふであらう。

ギルドのその組合員に對する責任如何？

これ等の責任は、病氣の時と健康の時とを問はず、また就職の時と失業の場合とを問はず、組合員に對する食物と、彼等の職を遂行し、そしてそこに彼等の熟練を習得し且つ使用するの條件と方法の設備有望な組合員のための訓練の用意、そして凡ての組合員のために彼れが資格を有する何れの地位をも取得するの機會を含む。

ギルドの他のギルドに對する責任如何？

ギルドは相互的生產物の製造者且つ使用者として必ず相互に屢々の關係をもつであらう。彼等はまた凡ての生產者の意思が表現せられつゝある共同體を必要とするであらう。この共同體、卽ちギルド議會は、課稅や、價格やそして生產者と消費者の双方に影響のある他の事件についてギルドのために國家と協議するであらう。それは更に凡ての構成ギルドに共同行動の方法を要求するであらう。

ギルドの公衆に對する責任如何？

就中、能率的で公正な勞務と、保障された手際幷に材料とそして公正な價。

ギルドのたづさわるこの四つの關係については、如何なる手段によつて爭ひか解決されるであらうか？

國家または公衆との爭ひは、關係ギルドとギルド議會と、

そして國家を共同に代表する機關に訴へるであらう。そして若しこの機關によつて解決されないとすれば、國家とギルド議會とを代表する共同委員會に訴へるであらう。地方的の爭ひにおいては地方官憲と地方ギルド會議とが國家とギルド議會の代りをするであらう。

他のギルドとの爭ひは如何にして解決されるであらうか？

若し爭議者が一致することができない時には、ギルド議會によつて。

賃銀制度を撤廢し、且つそれによつてプロレタリアートを一層惡しき奴隷制度から救ふことのほかに、ナショナル、ギルド制度は他にどのような利益をもつか？

第一は人間の平等と自由の樹立からくるところの精神的エネルギィの解放である。凡ての他の利益はそのうちに含まれてゐる。

何か不利益なことはないか？

多くの不利益がナショナル、ギルドに對して押しつけることができまた押しつけるであらう。しかしそはたゞ賃銀奴隷制度の恐ろしさと、そして更により惡きもの（奴隷國）またはより善きものへの變轉の不可避を感得することのできない人々によつてのである。

われ等の任務は如何？

各人ができるだけ、そして彼れ自身の最も便宜な地位において、われ等はわれ等自身と他人とをナショナル、ギルドの原理と實行とに教育すべきである。（九—八—廿七日夜—室伏高信）

ギルド參考書讓る

1. Cole, Social Theory（二圓五十錢）
2. Cole, Chaos and order in industry（三圓七十五錢）
3. Frank Hodges, Nationalization of the Mines（二圓二十五錢）
4. Brown, The meaning of Democracy（三圓）

以上各一冊宛餘分あり、全部または一冊宛にても讓ります、御希望の方は振替（東京四五三四六番）にて批評社宛御送金下さい。

日本のギルド運動

一

われ／＼がナショナル・ギルドの思想を紹介し始めてから、各方面にギルヅマンの續出してきたことは、それがわれ／＼の紹介と努力との結果であるとないとにかゝわらず、甚だ快心のことでなくてはならない。ナショナル・ギルドについて論ずる人のうちには、それについて抗議やら反對やらを唱へる人も決して少くはないが、その反對が少くとも正面からの、そして根本的の反對であるものは今日まで見當らないし、そしてこれ等の反對論や批評が多くはギルド社會主義についての研究の不充分からくるのである以上、それ等の人々がやがてギルド・マンの方向に一致するであらうといふことが想像されないことはない。特に最近にコオルの『社會論』が『丸善』その他を通じて多量に輸入され普通の讀書人にギルドの重要な著書の一つが容易に分配されたことはギルドの思想へ一層と人々を導いたかのように思はれる。

二

しかしそれ等のものは尙ほ中等階級の人々の間の研究と興味とに過ぎないものであつたが、それが次第に實際運動化の傾向を示してゐることこそ、われ等にとつて更に大なる注目を集める理由でなくてはならない。

三

數ケ月前の『ギルヅマン』は日本においてナショナル・ギルド同盟の運動の起りつゝあることを報じてゐる。それは疑もなく事實であつた。その事實は未だ實現してゐないにしても、求めらるものか、やがて生れるであらうといふことはいふまでもないことである。

四

日本のナショナル・ギルド運動に先鞭を附けたものは大阪に於ける獨立の最大の職工組合としての『大阪鐵工組合』である。この組合は最初は極めて保守的の組合であつた。彼れは勞資協調を目的とすると稱してゐたのである。それは丁度原始時代の友愛會の態度をもつて、態度としてゐたのであるところが最近になつて『大阪鐵工組合』のうへに一大轉化が生れた。この組合のナショナル・ギルド化がこれである。

五

大阪鐵工組合はこの九月四日に代議員會議を開いて左記十五ケ條を決議した。

（一）産業勞働組合主義（二）産業自治制の確立（三）最低賃銀率の確立（四）生産組合の確立（五）消費組合の確立（六）八時間勞働制の實施（七）産業會議所の設立（八）普通選擧の實施（以下略）

以上の決議のうちには明らかに矛盾がある例へば一方に産業自治を標榜する以上、賃銀制度の廢止は當然これに伴ふべきものであるにかゝわらず、尙ほ賃銀制度を前提としての最低賃銀制の確立を主張するごときはこれであつて、この決議のうへに現はれたる大阪鐵工組合が純然たるギルドの原理のうへに立つてゐないことは明白である。しかし産業的勞働組合主義のごとき、産業自治のごとき原則をもつて、この組合の原理としたことは、この組合が既にギルドの原理の大半を採し、且つその純然たるものへの道を歩みつゝあることを示すものであつてこの事實は世界的に紹介されるであらう（ギルヅマン

木曾節

翠雲

御嶽山に登つた時であつた、福島の岩屋旅舘に泊り木曾川に沿ふた二階で痛い足を延ばして居た、山の端には月が出て來た、水は淙々として月影に白い飛沫を上げて居る、不圖三味線の音が聞ゆる宿の女中に聞いて見ると對岸の旗亭で木曾節をやつて居るのだと云ふ、木曾節？何んだか好奇心がそゝられて來た、足の痛いのも忘れ知らす〳〵三味線の音に連れ込まれて附近の橋の上迄行つた、川に面し岐阜燈籠を灯した旗亭から三味線の音が流れて來るけれども謠ははつきりと聞えない、何んだか齒痒い樣だ其所迄行つて聞いて見たい樣な心持になつて來た、町の人から聞いて三河屋と云ふ旗亭に行つた、女將に其旨を話すと福島第一の木曾節の名人才三と云ふ藝者を呼んで吳れた。

才三今年三十七才色黑くして口大きく年よりも顏の方がふけて居る、何う見ても木曾の山中から出て來た女としか見えない所がそれが名古屋つ兒だと云ふから驚く、其の聲悠容として迫まらず音調粗野にしで感興深く、山に響き川に響き眞に山國氷分の横溢するものがあつた。

夏の川波枕に響く下山宿の夜
川波白きせゝらぎや旅舍の秋近し
俗謠に曳かれ行く橋上や夏の月
山に對する樓の灯や紫陽花の庭
老妓の謠に座の靜まりしを灯取虫

「木曾の御嶽山は夏でも寒い、袷やりたい足袋添へて(木曾節)御嶽山は一萬五百尺の靈峰夏でも寒い此山へ信仰深い人々が諸國から集つて來て白裝束で登るのである

登山裝束整ふ夜山の風凉し

無産者階級の文化的意義

（一）

全民衆の幸福の爲めに建設された社會は記錄された歴史の中には發見することが出來ない。記錄以前の原始的社會は、全民衆の幸福のための社會であつた。自由平等、博愛は其の指導的原理であつた。然るに彼等が呼んで文明期と稱する時代に入ると人類の社會は其の構成の目的を全民衆の幸福に置いたものではない。エンゲルス其の他の人々はかう主張してゐる。

ギリシャには奴隷があつた。あの盛大を極めたギリシア文化の間にまた武力を以て世界を統一しやうとしたローマ帝國の武勳の背後には他人の爲めに其の身の自由を束縛された。奴隷があつた。中世を支配したものは基督教會と封建諸候であつた。其の生活を維持し、其の我儘を助長する爲めには限りなく絞取の出來る隷農を必要とした。更に近代の資本家的社會を見るとこの事實は一層顯著である。人權の平等は既に佛蘭西革命の保證した所であつた。けれども近代有産者階級對無産者階級の對立の實質は革命當時の紙上の發言を以て否定するのにはあまりに顯著な事實である。近代の賃銀勞働者階級即ち無産者階級が奴隷狀態にあるのは既にギルツ、メンガが巧妙に指摘してゐる。斯樣にギリシアの古から資本主義の現代に至るまで民衆は常に被絞取階級であつた。常に指導的地位に立つ少數階級の爲めに支配せられて來たのである。

（二）

世界の歳史は英雄の歴史である。カアライルは其の「英雄及び英雄崇拜論」をこの見地から書いてゐる。其の英雄の種類は神としての英雄から段々と人間的な英雄に移て來るのではあるが、歴史の動因としては何處までも英雄を第一歩に置いてゐる。現代でも斯樣な見地に立つてゐる歴史家は勿論多い。さうして是等の歴史家の書籍に現はれた歴史は帝王と將と大臣の歴史である、是等の歴史家に社會的變遷の要因を唯だ個人にのみ求めてゐる。けれどもこんな見方は勿論誤である。少くとも非科學的であると云はなければならない。既に前代の思想家に屬してゐるハアバアト、スペサアも斯樣な英雄論に對して吊鐘を打ち鳴らしてゐる彼は云ふ一假に偉人の

發生は彼の生れた其の社會あるが爲に存する先驅者に負ふものではないと云ふ妄説を承認するとしても、尙、其の社會が過去から繼承した物質的並に精神的蓄積を缺如し、或は又其時代に共存した人々の牲情、知識、及び社會的設備を缺如てゐたならば、其の偉人と雖も無力であると云ふ充分な事實がある。例へばシエイクスピアにしても、文明生活の夥多の傳説——過去から繼承し、彼の思想を豐富にした諸種の經驗更らに幾百代の人々が使用の結果として發達せしめ豐富にした言語なしに、果して何んなドラマを創作し得たらうか。鐵を知らぬ種族が、或は手鞴の火で鎔かせるだけしかの鐵を獲得し得るに過ぎぬ種族の間に、あれ丈の發明力を持つたワットを生れたとせよ。或は又旋盤の存在する以前に彼れか生れたとせよ。其の場合、蒸汽機關發明に對して、果して如何なる機會が存したであらう。又、其の端を埃及人に發し、徐々に發達した數學の組織の助なくして、ラプラースは如何なる程度まで天體運行説を究明し得たらうか。否、英雄崇拜者の特に感佩する支配者及び將軍と云ふのが如き種族の偉人に局限するとしても、同樣の問ひに對して同樣の答をなし得るのである。古代希臘の勇將クセノフォンと雖も、彼の一萬の部下にして柔弱、怯惰、彼れに對してよく忠順でなかつたとすれば、かの眼醒しき功業は成し遂け得られなかつたであらう。シーザアとて、訓練せられた軍隊、前代の羅馬人から繼承した。其の軍隊の威名、戰爭、組織なくしては彼れの大征服は決して實現しなかつたであらう。之れを近世の例に就て見ても若し多數の兵卒を供給するに足る四千萬の國民なく是等の兵卒にして、險壯なる身體、剛毅なる氣性、從順なる性質及び命令を賢こく遂行する能力ある人々でなかつたら、モルトケ特軍の軍略的天才を以てしたとて、決して如何なる大戰爭にも勝利を得る事は出來なかつたであらう。」と、

（三）

社會は英雄によつて動かされると云の考へは最早死んだ。之はあまりに非科學的であり、感情的である。スペンサアの之に對する批評は眞は要を得てゐる。英雄崇拜に對して吊鐘が鳴つたときに社會變遷の要因として擡頭して來たものは民衆である。社會を構成するものは民衆である。其の原動力たり其の組織者たるものは民衆を措いて他にはない。さうして社會進化の要因も全體としての民衆である。

然し、かゝを觀方に對して反對論のあるのは知れてゐる。彼求は次の樣に云ふ。洵に民衆は社會の組織者であらう。さうして其の原動力であると云ふことも認めてよい。けれども

文化を創造したものは民衆ではなくて、選まれた少數者である。民衆は之の選ばれた少數者の跡について行くことによつてのみ文化の創造に參與することが出來るのである。さうして民衆の間からは斯樣な選ばれた少數者の輩出することは極めて少なく、其の社會の天才は主として特權階級の中から生れるのである。また民衆は多くの時代において被壓迫階級であるから、其の壓迫を脫しやうとする運動にこそ參加するが積極的に文化を創造したことは未だ嘗てないことである。無產階級はかゝる意味において破壞の力には富んでゐたことを證明したが、未だ文化の發達に積極的には貢獻する所がないと。

　この抗議は英雄崇拜論が新しい衣に着換えたのに過ぎない。舊き酒は新しい革袋には適さないやうにこの觀方も、社會生活の眞相に對する新しい硏究を知らないものの言である。洵に從來の記錄された歷史を讀むと民衆は極めて無能であり、英雄は萬能の神である。然し吾々は民衆のその無能の裡に偉大な創造力を見、英雄のその萬能力の中に極めて價値少き破壞性を見る。

　こゝで少しく文化の意識を定めやう。文化と云ふことは哲學的に云ふと色々八ヶ間敷議論も出やう。ソルレンだとか當爲だとか色々の難文字に出會ふ。然しこゝでは社會生活のことを論じてゐるのだから、社會的理想と云つた樣な意義に解して置きたい。さうして社會的理想とは何かと云ふと、個人の目的は其の個性の發揮にある。然し社會生活における個人をも想定しなければならない。さうしてこの場合においては個人から成立してゐる全民衆の個性を發揮さすのが社會の目的である。故に社會は各個人の自由を確保する必要が生じて來る。さうすると社會は各個人の個性發揮の最大限度を保證する爲めに平等を云ふことが必要になる。勿論こゝに平等と云つたからとて、平等さへ確得すれば自由は直ちに得らるると云ふ意味ではない。自由の自壞性即ち自由は自ら自由を破壞する作用を止むる爲めに平等が必要の條件になつて來ると云のである。之を少しく說明すると各個人の個性の自由の發揮は時として他の自由を侵害することがある。かう云ふ出來事の爲めに各人の自由が不安になり更らに少數の自由の爲めに多數者の自由が侵されることがある。かゝる事を防止するのには社會が平等と云ふ條件を持出さなければならない。即ち社會は正義を確立しなければならない。けれどもこの社會的正義は常に社會的自由に從屬するものである。さうすると私の云ふ社會的文化と云ふのは各個人の個性の自由なる發揮と其條件

として正義の存在する狀態を云ふのである。だから問題は民衆が個人の自由と其の社會の平等とを確立する爲めに如何なる意義を有してゐたかと云ふ問題になる。更らに云ひ換へて全社會の幸福增進に對する民衆の寄與如何と云つても意味は同じである。

（四）

扨て社會的理想と云ふのは自由と正義との確立である。さうして社會進化とは斯樣な狀態への推移であるとする。この社會進化の根本要因は何であるか。私は之を民衆の相互扶助に求めたいと云ふ。動物界における相互扶助は社會進化において生存競爭と共に、否生存競爭にも增して著しい作用をなすものである。この動物界における相互扶助の作用に注目したのは早くはエッケルマンとゲーテで後にはエスピナ、ラスサン及びビユヒナアであつた。けれども相互助扶を動物の社會的進化の要素として法則的に之を認めたものはケスレルとクロポトキンである。殊にクロポトキンは社會進化における相互扶助の作用を最も科學的に論究した學者である。

クロポトキンは社會化進における生存競爭がダア井ンによつて「種の起源」おにいて說かれてから、更らに其の後繼者によつて生存競爭が社會進化における唯一の要因なるかの如く、强調されたことに對して疑を懷いた。彼等の說——殊に其の代表的の論者はトマス、ハックスレである——によると人類の社會は其の原姉時代から生存競爭によつて進化して、社會における萬人の地位は、其の個人と他のすべての人との爭鬪である。だからホッブスの所謂萬人の萬人に對する爭鬪は洵に社會の實相である。さうして生存競爭と其の過程における優勝劣敗、弱肉强食、これが社會進步の要因であると主張した。クロポトキンはこの社會哲學に對して大なる疑問を起した。彼は其の自傳に書いてゐるやうに、セントペテルスブルクの近待學校を優等の成績で卒業すると殊更らにシベリアのコサック聯隊附の士官となることを志望した。さうして其の士官を辭職して再び歐露に歸るまでの數年の間にシベリアの廣原を學術的旅行をしながら步いた。その時彼は數多の動物の間に、殊に同種類の動物の中にあつては、激烈な自然の生命の破壞のに對して、生存競爭どころか、相互扶助が盛んであることに氣が附いた。然しクロポトキンがこの相互扶助を動物界の法則として認め、その根本研究にとりかゝつたのは其の後幾年かを經た後である。彼は當時のことを記して次の如く云つてゐる。「一八八〇年一月、當時セントペテルスブルク大學の總長であつた有名な動物學者ケスレル教授がロシア

博物學者大會で發表した「相互扶助の法則に就いて」と題する講演は、此の全問題の上に新しい光明を投ずるもののやうに私を感動させたのであつた。ケスレルの意見は自然界には相互鬪爭の法則の外に相互扶助の法則があつて、此の法則の方が生存競爭上の成功の爲めにも、又殊に種の進歩的進化の爲めにも、相互扶助の法則よりは遙かに重要なものであるに云ふのにあつた。此の暗示は實はダアヰン自身が其の「人類の進化」の中に述べた思想を少しく敷衍したものに過ぎないのであるが、私にはそれが非常に正鵠な、そして又非常に重大な事のやうに思はれた。そして私は一八八三年に此の講演を讀んで以來、ケスレルが其の講演の中に僅かに大體の輪廓を描いただけで遂にそれを發達さす壽命を與へられなかつた此の思想を發展させる材料の蒐集にとり掛つた。ケスレルは實に一八八一年に此の世を去つたのである。』と。（相互扶助論五―六頁）さうして、この研究は數年間續いて雜誌「第十九世記」に連載され、後に單行本として發行された「相互扶助論」は實に其の成果である。

五

然らばこの相互扶助とは何であるか。クロポトキンは其の名著の中に其の麗はしい筆でロンダ谷の坑夫が崖くづれのした坑の中から其仲間を救はふとして働いてゐる有樣を描寫してゐる。「坑の中に埋もれてゐる仲間を救ひ出す爲めに三十二米突も石炭を掘つて行つた、そしてもう三米突で屆かうとした處で坑氣に襲はれて了つた。ランプは消えた。皆んな止むを得ず戻つて來た。………しかし坑の中に埋れてゐる坑夫等の壁を叩く音が絶えず聞えて來る。………大勢の坑夫等は自ら進んで危險を冒しに行つた。そして皆んなが坑の中へ下りて行く間其の女房共は默つて涙を流して見てゐたが誰れも引止めやうとして聲を出したものはなかつた。此處に人間の心理の奥底があるのだ。人間は戰場で氣の狂つて了はない限り救を呼ぶのを聞いてそれに應じないでゐる事にはとても堪へられないのだ。勇者が飛び出す。そして此の勇者のする事は皆んなも同じやうにしなければならぬと思ふ。腦髓の屁理窟は相互扶助の感情に敵する事は出來ない。此の感情は數萬年間の人類の社會生活と數十萬年間の前人類の社會生活によつて養はれて來たつたものである」。（三七四―三七五頁）人間の本能は直に爭鬪し合ふことでなくつて、相互に助け合ひことである。人類は扶け合ふことなくして社會生活を進歩さすことが出來ないのである。

人間の相互扶助の感情が如何に根本的であるかの面白い例

をクロポトキンは、私達に提供してゐる。クロポトキンの「革命の家思出」を讀んで人はアレキサンダア二世の暗殺された場面を記憶してゐるだらう。皇帝が爆裂彈によつて傷いた兵士を見舞うとして馬車から下りて來たときにテロリストの一人である。グリネフエツキイが爆彈を皇帝に投げた。其の時從者は皆逃げ去つて、傷を負つた皇帝は數名の幼年學校の生徒に助けられてゐた。この時やはり皇帝の身を助けやうと生徒等と一緒に働いてゐたのは同じテロリストの一人であるメリアノフである。彼は手に爆彈の包を持ち身に追る危險をも顧みることなく皇帝を救助しに赴いた。クロポトキンはこの行爲を「人間の心は斯う云ふ予盾に滿ちたものだ」と評してゐる。人間の危急に對して救助しずにはゐられない人間の相互扶助の感情の如何に强烈であるかがこの一例で知ることが出來やう。

クロポトキンはこの本能的の相互扶助に其の道德の基礎を置いてゐる。クロポトキンは自分の研究を科學的の研究であると主張した。さうして彼は架空的の理想を斥けて科學的根據を持つ社會的理想を樹立しやうとした。「無政府主義者は社會を以て一の有機體の集合と見、さうして種族の幸福の爲めに個人の欲望と共同の欲望とを結合する最善の方法を發見しやうと試みた。彼は社會を研究し、過去及び現在の諸傾向、其の知的並に經濟的の必要を發見せんと試み、さうして其の理想においては彼は單に進化の方向を指示する丈けである。」（クロポトキン、無政府共產主義四頁）この態度は道德に對しても同じである。クロポトキンは在來の宗敎、哲學の立場に滿足しないで道德を一の人間自然の能力其の社會生活における經驗的事實であるとしてゐる。そは神學者や敎會の牧師が敎へる樣に神が吾々人間に附與して吳れたものではない。善行をすれば天國へ上り、惡行を行へば地獄へ墮するとする恐怖觀念によつて吾々は道德的行動を行ふのではない。また功利主義者の樣に吾々の生活は快樂を求め、苦痛に避けると云ふ人間性に置いたものでもない。そは社會生活の產物がある。「昆蟲から人間に至るまでの一般の動物界は、聖書や哲學と相談しなくとも、何が善であり、何が惡であるかを完全に知つてゐる。さうしてもしさうだとすれば其の原因は其の自然性の必要——即ち種族の保存、換言すれば各個人に對する最大可及量の幸福を得ると云ふことに存してゐる」。（無政府主義の道德十一頁）クロポトキンは其の諸著においてこの原則を證明しやうと勉めてゐる。道德は旣に民衆の社會生活における其の社會的性情の發露である。さうしてこの社會的性情を

發露せしめることが其の個性を發揮する上においても便宜である個人の目的は、其の生活における最大の個性の發揮である。さうして個性の最大の發揮は最大の社會性において見出すことが出來る。卽ち卽ち自己と他とを完全に同一視することによつて達せられる。個人の生活の自由な發揮と同樣なことを他人において承認することがある。

この個性の發揮と他人に對する其の承認、換言すれば個性の發揮と相互扶助とにおいてクロポトキンは各人の盡く自由たるべきを主張してゐる。何となれば强制と隷屬とは常に相携えてゐるからである。このことの前提となるものは彼の人性觀である。彼は「人性は遺傳的本能と敎育との結實である」としてゐる。故にすべての人性の惡は社會環境によつて發生するもので、其の敎育と境過とさへ改善すれば、すべての人の性情は善と化すであらうと主張してゐる。

（六）

民衆の社會的性質は其の相互扶助にある。相互扶助を基本とすることによつて民衆は其の最大な個性の發現をなし得たのである。さうして民衆は其の社會的進步を以て自己一人の爲めの事柄であるとはしてゐない。その事業は必ず他の同類の關與する所であるとしてゐる。この自他の間に區別を設けない所において民衆の社會的使命、其の歷史的意義を發見することが出來るのである。故に民衆の文化は平板である。けれども彼等においては何等他の犧性を要求する所がない。この犧性を要求しない所においてのみ民衆の社會進步の持徵が存在する。悠久な社會的進步に對して一英雄、一豪傑の事業の如何に僅少なるかを考へて見よ。社會を動かすものは、民衆であることを思ひ知るであらう。民衆は實に從來の歷史においてその表面に立つことがなかつた。彼等は常に少數の指導者、權力者が其の活動をなすべき基石を据てゐた。ギリシャの文化の基礎條件を形成するものはプラトノ、アリストラレースの深遠なる思索を遂行することを可能ならしめた、ギリシャ民衆であつた。中世は民衆の比較的自由の境地であつた。彼等の藝術はゴフシク建築に殘されてゐる。そこには無數の無名の藝術家がゐた。さうしてこれ等の民衆藝術家が未だ嘗て見たことのない立派な藝術を完成したのである。現代された物質的文明は第十八世紀の末葉から第十九世紀の前半までに起つた機械の發明と其の經濟的革命の成果であると云はれてゐる。然し、この經濟的革命の基礎をなすものは同じく民衆である。「森林は開拓され、沼地は排水された、幾千の道路や鐵道があらゆる方向に走つてゐる。河川は航海が出來る

やうになり、海港は碇泊し易くなつた。運河は海を連絡し、岩は深い廻轉軸によつて砕かれた。數千の製造所は土地の上に建てられた。科學は人間の欲望を充足する爲めに自然の勢力を使用する方法を敎へた。都市は數代の間に徐々として發達し、さうして科學と藝術との寶はこれ等の文明の中心地に蓄積された。されど誰がこれ等の奇蹟を爲したか。數代の努力の結晶がこれ等の結果の成就に寄與した。森林は數世記前に開拓された。數百萬の人々は沼地を排水し、道路を作り鐵道を建設するのに幾年の勞働を費しだ。他の幾百萬は都市を建設し、吾々の誇つてゐる文明を創造した。幾千の發明家は無名の内に、然も貧窮と戰ひながら、吾々が其の天才に嘆賞してゐる機械を殘して死んだ。幾千の著述家、哲學者、科學者は幾多の植字工や活版工や其の他の勞働者の助を借りて知識を廣め、誤謬を矯めさうして現代の文明の基本的要件である科學的精神を構成した。」(無政府共産主義一四―一五頁)

かくの如く民衆は從來の歷史において其の基礎的條件た形成した。社會的進歩に要する礎石はすべて彼等の力によつて置かれたのである。

七

今や民衆は其の文化的使命を果たさうとしてゐる。今日の民衆運動が一定の形態を取つて進んで來たのは第十九世記の初めからである。産業革命の偉大な生産力の發達の脊後には民衆の隷屬と貧困とがあつた。民衆は老若男女を問はず其の精力の續く限りを働いた。さうして彼等は尙ほ貧困と不自由との中に其の生活を營んだ。この貧困と不自由との裡から發達し來つたものが現代こおける民衆運動である。民衆の解放である。社會主義者の言葉で云へば無産者階級の解放かその目的である。さうして第四階級の解放は、フエルヂナンド、ラツサールの言葉に從へば、人類の解放である。この第四階級の解放の事業は第四階級のみの事である。

彼等の目的は隷屬と貧窮との間に其の生を送つてゐる無産者階級を解放し、全人類の幸福を增進するのにある。彼等はかゝる崇高な目的を持つてゐる。その實現の方法は其の社會觀やその社會的事情の如何によつて差異がある。マルクス派社會主義、サンヂカリズム、條正派社會主義、ギルド、ソーシャリズム等の諸流派によつて其の實現方法と其の來るべき社會組織の形態を異にしてゐる。けども其の根本精神においては等しく民衆の解放てふことを目的としてゐる。是等の諸種の人類解放の運動――社會的自由と社會的正義とを確保せんとする運動は全世界を通じて非常の高湖に達してゐるのは

社會黨員や勞働組合員の年々の增加によつて知ることが出來るであらう。さうして是等の運動の根幹をなすものは現代における民衆である。資本主義の極度の發達は全人民を大體において二つの階級に分つた。一方に自己の勞働を提供することなく、また其の勞働を提供するにした所で、其の勞働の對價によつて生活するのではなく、自己の所有する財產によつて他の勞働を支配し、其の勞働の成果の一部分を勞働の提供者に支拂ひ、其の殘部を自己の所有とする階級と、自己の勞働以外には何等の生活の資料なく、たゞその身體に個有の勞働を賣り、其の對價によつて自己並に其の家族の生活を支持して行く無產者階級とである。この二種の階級の對立は人類の解放運動における其の主張者と、其の反對者との對立であるものと少數特權階級の利益の犧牲に供しやうとするものとの對立である。さうして現代における民衆運動は實にこの二階級の對立に其の基礎を置いてゐる。自由と平等とを要求する民衆が隷屬と貧困との世界から免れやうとするのは當然のことでなくてはならない。さうして全民衆の爲めに自由と平等とを確立することが既に云つたやうに全社會の各員の最大の幸福を確保することであれば、之は立派な文化運動でなくてはならない。民衆は其の基礎的事業の上の醜い建築物を取り毀して、新しい理想の建築にとりかゝらうとしてゐる。その建築は榮光と理想とに充ちてゐる。その建築物が打ち建てられやうとするときに、其の基礎工事の上の醜い建築を取り毀す鐵槌が振り上げられ、さうして天を燃す樣な眞紅の火花を發するかも知れない。けれども其の天空を燃す眞紅の炎は、明日の靜穩な晴天を知らせる夕燒の美觀にも似たものである。若い無產者は階級今その生みの苦しみによつて其の文化的使命を果たさうとしてゐるである。

（甲野哲二）

クロポトキンの眼に映じた國家共産主義

一

ピクタア、クロポトキンが一九一七年の革命後にロシアへ歸つてからは、その消息が少しも外間にもれてはこなかつた。ある者はクロポトキンがボルシエヴ井キのために殺害されたことを傳へた。またある者はクロポトキンの變節を傳へるほとの大膽をさへ敢てした。しかしピイタア、クロポトキンはザーリズムにおいてのごとくにボルシエヴ井ズムにおいて虐遇せられてはゐなかつた。この偉大なる自由の使徒は、七十七歳の老生活を、レニン、トロツキイの治下に、モスコウに近きドミトリフにおいて平安のうちに送りつゝあつた。一九二〇年六月十日のことであつた。英國勞働使節の一人としてのマーガレット、ボンドフ井ールド孃は米國の一新聞記者アルスベルグとともにこの老アナアキストをドミトリフの住ひにと訪ふた。そしてボンドフ井ールド孃はクロポトキンに伴はれてドミトリフの人民集會に出席した。クロポトキンは、この集會から心からの歡迎をうけた。この集會の座長はいふた、私たちは私たちのうちに、彼れ自身ロシア人民の自由の體現として立てる人をもてることを誇りとするものであると。然りクロポトキンはロシア人民の自由の示現であつた。彼れはザーリズムのもとにおいてと同じく、ボルシエヴ井ズムの治下においても、依然たる無政府共産主義の使徒として、確信に滿てる、批評家であつた。

二

ピイタア、クロポトキンは約束のごとくマーガレット・ボンドフ井ールド孃をとほして英國の勞働者に一書簡を與へた。この書簡はデーリー、ヘラルドを始め二、三の勞働者の新聞雜誌において發表された。そしてそは聯合國の對露政策に對する忌憚なき批評であるとともにまたレニン、トロツキイのボルシエヴ井ズムに對する忌憚なき批評であつた。

三

ピイタア、クロポトキンは聯合國の對露干渉政策に對しては、それが軍事的方法によると、または援助金の方法によるとを問はず、恥づべき政策であるとして極力これが排斥を主張する。彼れに從へば、今日のロシアは一六三九―一六

四八年の英國に比すべき時期であり、また一七八九—一七九四年のフランス大革命に比すべき時期である。このロシア革命の時期に當つて嘗つて、フランス革命において、英國、普國、墺國及びロシアが行つた不名譽な行動を、各國は再び行つてはならないといふのが、クロポトキンの聯合國勞働者への警告である。彼れに從へば、今日のロシア革命は爭ひの間における單なる偶然事ではなくして、ロバアト、オーウエンや、サンシモンや、フーリエーや、これ等の幾多の社會主義者の思想と努力との一世紀から生み出された産物であり、そしてボルシエヴキズムは滅落の運命をもつてゐるものではあるにしても、それは既に勞働者の權利とそして責務との新らしい觀念をわれ等の日日の生活に織りこんでゐるものである。それのみではなしに、このボルシエヴ井キ革命は、外國の干渉によつて、益々支配者としてのボルシエヴキキの權力を鞏固にするものであつて、新らしい立場に、ロシア人の生活を改造しようとする凡ての人々の努力を痲痺せしめるものであると。クロポトキンはこうした立場から、先づロシアに對する聯合國の干渉政策を難詰してゐるのである。

四

これによつて知られるとほり、クロポトキンが聯合國の對露干渉政策に反對する理由は、ボルシエヴ井キ革命に同情するがためではなくして、寧ろ、ボルシエヴ井キ革命の滅落を早めんがためである。彼れに從へば、今日のロシアにおける獨裁政治は、彼れの對外的戰爭狀態によつて强められてゐるものであり、この戰爭狀態が獨裁政治に口實を與へてゐるものであり、彼れの言葉通りにいへば、國家共産主義の自然的害惡は、ロシアの今日の生活が外國の對露干渉によつて生じてゐるのであるとする、口實のもとに、十倍も增大してゐるのである。

五

クロポトキンに從へば、ロシア革命は英國及びフランスの二つの革命の事業の繼續である。そしてフランス革命の止まつたところが、ロシア革命の出發點である。卽ちそは眞實の平等——經濟的平等の實現を目的とするものである。しかしこの革命は、不幸にして誤れる方法によつて始められた。——一政黨の獨裁政治がこれであると。クロポトキンはボルシエヴ井ズムをもつて『勞働階級の獨裁政治』とはいはないで、『一政黨の獨裁政治』といつてゐる。この一政黨卽ち社會民主黨極左派の獨裁政治は、クロポトキンに從へば、全然バブウフ派の中央集權主義及びジャコビン主義の陰謀によつて行はれ

てゐるものである。

『六　私は卒直にいはなくてはならない、私の考へでは、一政黨の鐵血的支配のもとにおける中央集權的國家共產主義の方針のうへに共產共和國を建設せんとする企圖は失敗に終りつゝあることを。われ等はロシアにおいて、如何に共產主義がその人口にもかかわらず、舊政治の疾患にもかゝわらず、新支配者に對する有力な反對かないにもかゝわらず、採用することのできないものであるかを學ぶものである』

七

『ソビエット即ち勞働者農民會議の思想は一九〇五年の革命において最初にもちきたされたものであつて、一九一七年二月の革命においては、ザーリズムの制度の滅落とともに直に實現されたものである』。——クロポトキンは、ソビエットの制度をもつて偉大なる思想であるとなしてゐる——『しかし國家が一政黨の獨裁政治によつて支配されてゐる間は、勞働者農民會議は全くその意義を喪失するものである。………勞働者會議は、自由印刷の存在しない時には、自由にして價値ある助言者ではなくなるのである。われ等は殆んど二年間この狀態に置かれてきた。そしてこれが口實は戰時狀態といふことであつた。特に、選擧に先つて自由なる宣傳が存在することなく、そして選擧が一政黨獨裁政治の壓迫のもとに行はれる時に、勞働者農民會議はその凡ての意義を喪失するのである』。

『古るき治世と戰ふためには一政黨の獨裁政治が必要であるといふことが普通の口實である。しかしかくのごとき支配は、革命が新經濟的基礎のうへに、新社會を建設せんとする方向に進捗するとともに、明らかに恐るべき障碍となるものである。そは新改造に對する死刑の宣告となるものである』

八

『既に微弱となつた政府を轉覆し、そしてそれに取つて代るべき方法は、古代及び近代の歷史によつてよく知られてゐるところである。しかしそれが全く新らしい生活形式——特に生產及び交換の新形式——を建設する段になると、模倣すべき何の實例もない。萬事が人達によつて卽座に仕遂げられなくてはならない時には、凡ての住民に凡てのランプやそのランプに燈火すべき凡てのマッチを供給することを企圖するところの全能の中央集權的政府は、その役人によつてこの事を成就することが絕對に不可能である事が證明される。そはフランスの官僚制度——往來に仆れた一本の樹木を賣るのに四十人の役人の干涉を必要としたフランスの官僚制度のやう

な恐るべき官僚政治を發展させるのである。……今日ロシアにおいてわれ等の知るところのものはこれである」

九

クロポトキンはかくしてボルシエヴ井ズムに對する峻嚴な批評家である。しかしボルシエヴ井キに對する峻嚴なる批評家としてのクロポトキンが帝政の憧憬者でもなく、また議會政治の憧憬者でもないことは勿論である。彼れに從へば帝國的ロシアは既に死んだのである。そして復活することのない死體である。このロシア帝國を構成してゐた諸民族は一大聯合を組織するであらうといふのがクロポトキシの觀察である。そしてフ井ンランドや、バルチツク諸州や、リスアニアやウクラインや、ヂヨウルヂヤや、アルメニアや、西伯利を一つの中央集權のもとに支配せんとする企ては失敗の運命をもつてゐる。ロシアの將來は獨立したる諸單位の聯合の方向にある――クロポトキンはこう述べてゐる。否なクロポトキンの觀察は更に一歩を進めなくては止まない、近き將來において、これ等の聯合それ自身の各部が、自由なる地方的自治體及び自由都市の聯合となるであらうといふことがクロポトキンの觀測である。この立場から、クロポトキンはボルシエヴ井キの中央集權に反對するのである。クロポトキンに從へば、革命の事業は、中央集權の政府によつて成就されことはできない。それは地方的及び特種的集團の進んでの協同を必要とするものである。かくのごとき協同を排して政黨執政官の天才に委ぬることは、勞働組合のごとき、または地方的消費組合のごとき獨立の核心を破壞することであると。クロポトキンは地方的政治單位のうへに、新らしき社會生活が開始せられることを信んじてゐるからである。

十

以上はクロポトキンの書簡の大要である。今日までボルシエヴ井ズムに對する幾多の批評が發表された。そしてそれ等の批評の間にあつて、クロポトキンの批評が特種の地位を占むべきものであることはいふまでもないことである。

（K　生）

伊太利の赤化

一

伊太利に於いてボルシエヴヰキ運動が起つてミランその他に於いて、既に勞働者の工場占領が續々行はれてゐるとのことである。そして事態重大のために、ヂヨリツチ內閣は手のつけようなく、勞働大臣ニヴリオラはこれに武力的干涉を加へることが却つて革命の勢に油を注ぐものであるとして手を拱いて傍觀してゐるほかないことを告げてゐる。

事態は慥に重大である。

二

一體伊太利の勞働運動の中心は左翼社會主義及びサンヂカリズムであつて、前者を代表するものとしては伊太利社會黨があり後者を代表するものとしては勞働總同盟がある。

三

社會黨は伊太利における社會主義運動を總括するものであつて、その勢力も急激に增大し、一九一九年の總選擧では一躍して三百萬票の得票をえて百五十九名の代議士を選出したこれをその前回と比較すると得票において約四倍、議員數に於いても約四倍の激增であつて、社會黨の隆々たる勢力を知るべきである。また勞働總同盟の方も最强の勞働組合であつて百萬の會員をもつてゐる。社會黨の總理はコンスタンチノ・ラザリであり、勞働總同盟の指導者はリゴウラである。

四

ラザリはモデグリアニとともに夙に伊太利を代表して非戰主義のためにチムメルワルド會議の決議に署名してゐるが、彼れの指導のもとに、伊太利社會黨は猛烈に政府の政策に反對したためにラザリはボムバシイセラサイ等とともに牢獄に投ぜられたが政府の壓迫政策は社會黨をして益々左傾させるだけの効果しかなかつた。彼れは遂に第二インタナショナルから脫退し第三インタナショナルに參加した。彼れは一九一八年に社會主義共和國幷に勞働階級獨裁政治の樹立を宣言した。この宣言によると、伊太利社會黨は獨り生產手段の社會化をもつて滿足するものではなしに進んで勞働者の直接的經營を要求するものであつた。そして全國を通じて二百四十のソヴヰエットを組織した。勞働總同盟もまた社會黨と同じくソヴヰエット制度を要求するものであつて、彼れは一九一九年四月の會議で伊太利憲法を變更して國民議會に更ゆるに國民的ソヴヰエットをもつてすべきことを宣言したのである。

五

今回の伊太利に於ける工場占領運動は未だ詳報に接することができないがこの勞働總同盟の指導のもとに行はれてゐるものであり、社會黨ももとよりこれを援助してゐる筈であつて、伊太利今日までの社會運動の形勢をもつてすると、この工場占領運動は寧ろ豫定の行動であつて、社會黨なり勞働總同盟なりがいよ／＼その綱領の實行にとりかゝつたものと見なくてはならない。そしてこの運動の前途はどうなるか勿論不明であるがこの運動の背後に伊太利全勞働者のあることは確實である。

定價

毎月一回一日發行	一部	半年分	一年分
	卅錢	一圓七十錢	三圓三十錢
郵税	五厘	税共	税共

但特別臨時號の價は別に申受く

▲誌代は總て前金　▲郵券代用一副增
▲送金は可成振替　▲外國行郵税十

大正九年十月一日印刷納本
大正九年十月一日發行

東京市京橋區元スキヤ町三ノ一番地
編輯兼發行印刷人　尾崎士郎

東京市京橋區築地二丁目三十番地
印刷所　川崎活版所

東京市京橋區元スキヤ町三ノ一番地
發行所　批評社
振替東京四五三四六
電話銀座一三七四番

大正八年三月廿八日第三種郵便物認可　七年十月號

「室伏氏は從來ギルド社會主義を最も深く又廣く研究された一人であつて氏の主幹する月刊雜誌「批評」には歴々氏の筆になる紹介的論文が載せられて居つた。本書は從來の斷片的紹介から綜合的紹介に進み、更に單純なる紹介に止まらず、批評に入らうとする目的を以て、著作されたやうに見受けられる。第一卷は簡單な序論の外に、ギルド社會主義の創生と同主義の建設に就ての二章から成り、創生編に於ては、オーウエン、モーリス等まで遡り、集産主義や、新社會主義とギルド社會主義との關係を説明し、建設編に於てはギルドが如何にして構成されるかギルド社會主義の實際運動は如何なる狀態に居るかと云ふ問題を說明して居る……從來我國に飜譯紹介されたギルド社會主義の研究も、比較的纏まつて居るのは、コールの「産業に於ける自治」位のものであらう。其れでも如何して此新主義が起つたものであるか、他の社會主義と如何なる關係があるかと云ふやうな歴史的研究に缺けてゐる。さうすれば邦文て此新思想を徹底的に研究しやうとする人々に取つては、室伏氏の新著は缺く可からざるものと云はざるを得ない。行文は流石に專門家の手に成れることゝて、頗る流暢であつて些の澁滯を認めず、引證亦極めて博く、進んでギルド社會主義を研究しやうと志す人に大なる援助を與へる。室伏氏が新思想の紹介に努力せられる熱心は吾人の多とする所である。（三田學界雜誌九月號より）

第一卷

定價一圓九拾錢
送料八錢

東京市京橋區元スキヤ町三ノ一
振替東京四五三四六番
批評社

大正八年三月廿八日第三種郵便物認可
大正九年十一月一日印刷發行

十一月號（第廿一號）

（定價卅錢）

批評社

ゴルギーから ウエルスへ

一

□エッチ・ヂイ・ウエルスが最近にロシアへ入つたといふことが新聞電報で報導された。彼れはロシアへ入つてからラッセルがしたようにゴルキーを尋れたであらう。ラッセルは先づレニンを尋れて、それからトロッキーを尋れて、それからゴルキーをその病床に尋れたが、ウエルスは最初にゴルキーをその病床に尋れたではないかと思はれる。

□ウエルスがまだロシアへ行かない前に、ゴルキーはウエルスへ宛てゝ一書を送つた。その書簡が『コムミユニスト、インタナショナル』で發表された。

□ゴルキーの書いてゐることは、友、親しい友、ウエルスに對して、ロシア、然り、ソヴヰエット、ロシアの眞狀を告げるがためであつた。彼れは先づ『タイムス』に載せられた一英人のロシア觀を――ペトログラード下では『人間の指』がスウプの中に泳いでゐたといつたことを、彼れは虚僞だといつて排斥した。

二

□『私を信じてくれ、親しきウエルスよ、われ等ロシア人は人肉喰ひ(キヤンニバリズム)にまでは達してゐない。そして私は信ずる、高度な文明の西歐諸强がロシアを野蠻と墮落に餘儀なくせしめる條件をもちきたすために努力をなしつゝあるにもかゝわらず、私たちはその狀態には達しないであらうといふことを』

□『われ等は、現存する眞實――この虚僞と誹謗よりもより以上に恐怖すべき、且つより以上に墮落したことは、最惡最邪の想像を逞しうしても製造することのできないほどの虚僞と誹謗との時代に生活しつゝある。これ等の不快なる眞實の一つがロシア――然り、その創造の全力を全人類に對する最大の意義と重要をもつてゐる社會的經驗に入つてゐるロシアに迫りつゝある』

三

□われ等ロシア人は賢明なことをしたのかもしれない、また愚鈍な事をしたのかもしれない。何れの場合にしても他のヨオロツパの發達に私達は教訓深い見世物を與へたのでのである。しかし、英國とフランスとによつて代表されたヨオロツパはわれ等を絞め殺すべく努力しつゝある。私はヨロツパがこのことに成功するであらうとは思はない。しかし彼れの政策がロシア人を驅つて亞細亞の方向に向はしめることは正しく可能である。』

□『あなたはこの亞細亞との結合がヨオロツパの文化にとつて脅威であるとは考へないであらうか！　私だけにはこの問題は私を惡夢のように惱ませる』

四

□ゴルキーは最後にレニンの人物について一言を費した。ゴルキーに從へばレニンは決して權力を愛好するの人物ではない。『彼れの性質はピユーリタンである。』彼れはクレムリンに於いて、彼れが巴里に於けるエーミーグレーとして生活してゐた時と同じ單純な、僞りなき生活を生活しつゝある。』『彼れは偉人である。そして正直な人である。彼れの任務は不撓不屈に、障害多いそして荒廢した土壤を開拓する巨大なる鍬のそれである』と。――レニンは果して鍬であるか、果なる爆彈であるか、ウエルスは果して何と感じ、何を思ふてロシアから歸ることであらうか。

批評十一月號目次

A Free Man's Worship

To abandon the struggle for private happiness, to expel all eagerness of temporary desire, to burn with passion for eternal things ——
this is emancipation, and this is the free men's worship.

— Bertrand Russell —

プロレタリアの獨裁政治

（レニン主義批評の一）

一

ボルシエヴ井ズムの指導原理は勞働階級の獨裁政治である、といふことは寧ろあまりに分りきつたことのようである が、ボルシエヴ井ズムの眞相を捕えるためにはこの點から考究してかゝることが唯一の方法である。カウツキーの ボルシエヴ井ズム批評もまたこの點から出發してゐる。彼に從へば社會民主主義者の間にあつては、資本主義的生產 樣式の發達とともに、社會主義が民主主義のうへに立たなくてはならないといふことは、從來は自明の（Selbstverst ändlich）ことであつたのであるが、ボルシエヴ井キか立つてからその見解に對し全く他の新らしいものをもつてし た。『彼れは民主主義に反對に獨裁政治をもとめた』――カウツキーはボルシエヴ井ズムを批評するに當つてその指導 的原理をかくのごとくに解してゐるのである。（Kautsky, Demokratie oder Diktatur. S. 5）カウツキーがボルシエウ 井ズムの特質をかくのごとくに解したことについては、カウツキーをもつて『マルクス主義の淫賣婦』であるとまで 罵しつてゐるレニンにおいても異議のあるべき筈はない。レニンはカウツキーの『民主主義か獨裁政治か』に對する 批評としての小册子『プロレタリアの革命』の冒頭で次のごとく述べてゐる。

『カウツキーがその小册子で論じてゐる根本問題はプロレタリア革命の主要内容、卽ちプロレタリアの獨裁政治の 問題である。この問題は凡ての國、就中最も進步した國、就中今日戰爭をなしつゝある國、そして就中今の瞬間に

おいて、最大重要の問題である。人々は誇張の恐れなくしていふことができるであらう。この問題がプロレタアートの全階級闘爭の最重要な、首位的問題であると。それゆえにその問題に特別の注意を拂ふことが必要である。』

(Lenin: The Proletarian Revolution and Kautsky the Renegade. 1918, p. 10)

かくしてカウツキーがボルシエヴ井ズムをもつて獨裁政治の主張であるとなしたことに對してレニンにおいても異議のなかつたことを知るのである。否なレニンの『國家と革命』の一書は實にこのプロレタリアの獨裁政治の理論的體系と見るべきものであつて、彼れがこの書物において書き終らなかつた部分、即ち一九〇五年及び一九一七年のロシア革命の經驗から、勞働階級獨裁政治の合理的性質を證據立てようとして、革命の事業のために思を果すことができないで終つた部分は、彼れがその一年後に發表した『プロレタリアの革命』において大體補充されてゐるところであるこの二ツの著述は、勞働階級の獨裁政治の理論的文献として最も貴重なものであるがそは全體が勞働者獨裁政治そのもののために書かれたものであるから、これ等の書物からレニンが勞働階級の獨裁政治を主張してゐるの事實を一々指摘することは無用の贅事である。レニンは他の小册子のうちで述べて云ふ。

『凡ての革命のこの歴史的敎訓、普遍的歴史的、經濟的及び政治的敎訓は、マルクスによつて彼の簡單な、鋭い、正確な、そして活々した公式に要約された。勞働階級の獨裁政治がこれである。そしてロシア革命がこの普遍的歴史的問題に正確に接觸したことが、凡てのロシア人及びロシア語を話す人民の間におけるソヴ井エット組織の赫々たる進行によつて證據立てられた。ソヴ井エットの支配とは、プロレタリアートの獨裁政治、新民主主義……に目さめたる進歩した階級の獨裁政治……のほかの何ものでもない。』(Lenin, The Soviet at work, p. 31)

然り、レニンに從へばボルシエヴ井ズムとは勞働階級の獨裁政治のほかの何ものでもない。それは社會主義である。そ

はマルキシズムである。それゆゑにそは勞働階級の獨裁政治を要求するのである。レニンはかくのごとくに考へてゐるである。否、レニンが考へてゐるだけではない。カウツキーが批評してゐるだけではない。勞働階級の獨裁政治は今や單なる公式ではなくして私達の現前における最肅なる事實である。然り、ロシアにおいては、既に過去三ケ年に亘つて謂ふところの勞働階級の獨裁政治が實現されつゝあるからである。

二

ボルシエヴヰキ黨が勞働階級の獨裁政治の避くべからざるものであることを信じてゐたのは、トロツキーに從へば遠く一九〇五年の革命以前のことであると。(Trotsky, The History of the Russian Revolution to BrsetLitovsk p. 7) シユミアツキーがロシア共産黨の綱領の附錄として書いてゐるものによると、ボルシエヴヰキの歷史的基礎は既に一九〇〇年におけるロシア社會民主主義同盟の分裂にその端を發してゐるのであつて、脫退派（Stariki）の革命的社會主義が今日のボルシエヴヰズムの理論的基礎をなしてゐるものである(B. Shumiatzki, The Aims of The Bolsheviki, p. 5) しかしシユミアツキーの記るしてゐるところに見るも、スターリキの主張するところは單なる經濟運動に對する勞働者の政治的解放の要求であるに止まつてゐるものであるから、ボルシエヴヰズムがこの時において既に勞働階級の獨裁政治の形において存在してゐたものといふことのできないのは勿論である。またシユミアツキーの記るしてゐるところによれば、一九〇三年のロシア社會民主主義勞働黨のブルツセル―ロンドン會議はスターリキと非スターリキとの衝突が明瞭の形において現はれたものであるとのことであるが、しかしこの會議においての爭點は、機關紙の編輯監督等に關するものであつたから (Lenin, Soviet at work, p. 4) これまた勞働階級の獨裁政治としてのボル

シエヴ井ズムの明瞭な發現であると見ることはできない。ロシアの勞働運動の歴史上で勞働階級の獨裁政治が最初の記録を殘したのは一九〇五年の革命である。『一九〇五年の秋において既にパルフスとトロツキーとによつて、ソヴ井エツトに組織されたプロレタリアートの獨裁政治が存在してゐたのである』(Paul Miliukov, Bolshevism, An International Danger, p. 21) この革命の指導者としてのトロツキーは既にこの革命の失敗に終つた後、一九〇八年にクルスタルロフ・ノザールとともにペトログラードにおいて『勞働代表者會議の歴史』といふ一書を表はした。この書物によるとソヴ井エツトは一九〇五年の革命においての『勞働者の政府』であつた。そしてこの『勞働者の政府』といふたとによつても知らるるとほりソヴ井エツトは實に革命政府の胎兒であつた。『ソヴ井エツトはプロレタリアートの組織であつた。その目的とするところは革命的權力のために戰ふことである。それと同時に、ソヴ井エツトは階級としてのプロレタリアートの意思の組織的表現であつた。』と(ibid. pp. 151—2)實にトロツキーのいつてゐるところによれば、一九〇五年の革命においてソヴ井エツトは階級としてのプロレタリアートの組織であつた。そしてそはトロツキーに從へば實にこの革命においての政權奪取のための革命の機關であつた(Trotzki, Our Revolution, p. 158)かくして一九〇五年の革命においてのソヴ井エツトが勞働階級の獨裁政治の原理のもとに組織され、そしてそは勞働階級の獨裁政治の目的に向つてその役割を演じた歴史的の組織であつた。この勞働階級の獨裁政治の要求こそ實に一九〇五年の革命がそのうちに多くのブルジョアの分子を含むでゐるにもかゝわらず、尙ほ一九一七年の革命の先驅者として、勞働者革命の記録として歴史的意義を附與されてゐるの理由でなくてはならぬ。(註1)この革命の指導者——この革命をしてかくのごとき勞働階級の獨裁政治へと指導したものは、トロツキーとパルフスとノザールとであつた。トロツキーは一九〇六年『吾等の革命』と題する小冊子を著してこの革命の精神を明らかにした。勞働階級の獨裁政治の主

張がこれである。トロツキー曰く『社會民主黨は、プロレタリアートの政黨として、自然に勞働階級の政治的優越に努力する（Trotsky; Our Revoluton, P. 84)……われ等が勞働運動といふ時はわれ等は政權が勞働階級に屬することを意味する(ifid., p. 96)……かくしてわれ等は經濟的進化……が既に勞働階級の政權のための鬪爭に對してのみではなしに、その權力の征服のための鬪爭の土俵を準備してゐるといふの結論に到達する。こゝにわれ等は社會主義の第三の先決要件、プロレタリアートの獨裁政治に面接するのである(ibid., p. 124)

トロツキーがこの論文を書いたのは、一九〇五年の革命の失敗の後の、彼れの獄中生活においてでいあつた。彼れがこの論文を發表した時には、ブルジョア階級からの非難があつたばかりではなしに、またメンシエヴ井キからの攻擊があつたばかりではなしに、實にボルシエヴ井キの指導者からも非難をもつて酬ゐられたのであつた。(ibid., p. 65)しかしトロツキーのこの小册子の精神は一九一七年の革命においても再び革命の指導的精神となつた。一九一七年の革命もまた一九〇五年の革命と共に最初はブルジョア革命の性質をもつてゐたのであるが、そはまた一九〇五年の革命と同じく謂ふところの勞働階級の獨裁政治に終つたのである。この年の八月から九月にかけて、レニンはボルシエヴ井ズムの理論的體系としての彼れの『國家と革命』を書きつゝあつた。この間にマキシム・ゴルキーは彼れの機關紙(Novaya Zhizn)において『文化の終焉』――勞働階級の獨裁政治が近づきつゝあると豫言しつつあつた。ボルシンエヴ井キは實にこの間に立つて『平和と土地とパンと自由』とを掲げて勞働階級に訴へた。そしてこの『平和と土地とパンと自由』との政策を掲げて彼れの勞働階級の獨裁政治を主張した。レニンはロシアへ歸つてから一九一七年四月三日のプラウダ紙で彼れの有名な『論題』をし發表た。この論題はソヴ井エットを通しての勞働階級の獨裁政治の要求に歸着するものであるが、彼れはこの目的のためにボルシエヴ井キ黨の綱領の大改造を主張した。就中『コムミユーン國』の建設

とそしてプロレタリアート並に下層農民への權力の奪取を要求した。(Lenin. Towards Soviets, pp. 4—7)この論題はボルシエヴ井キの內部においても反對の聲が頻りに起つた。しかしレニンは翌日ボルシエヴ井キ黨の會議において極力彼れの『論題』を辨護し、そしてカメネフの反對論を論破しようと試みた。彼れはこの席上において次のように述べた。

『革命の後に、權力は別の新階級、卽ら資本家階級の手に移つた。權力を一階級から他の階級へ移すことは、嚴格なる科學的信仰からいつても、また實際政治的の意義からいつても、革命の、第一の、主位な、基本的な徵侯である。この範圍において、ロシアにおける資本家卽ちブルジョアの民主的革命は終焉を告げてゐるのである。』(Lenin, Towards Soviets, P. 8)

『ブルジョア革命は既に終つた』――レニンは一九一七年四月、ロシア革命がまだその爭鬪の眞最中において既にかくのごとくに主張した。そしてロシア革命の狀態をかくのごとくに論斷することが、彼れの謂ふところの勞働階級獨裁政治への唯一の實際的指導であつた。かくしてロシア革命はマキシム・ゴルキーの豫言のごとく、日一日と勞働階級の獨裁政治へと近いた。そして十一月七日こそ實にロシアの勞働運動にとつて決定的の日であつた。(Trotsky, History of The Russian Revolution, p. 82) ボルシエヴ井キが全ロシアの權力を掌握するに至つたのは實にこの日、十一月七日であつた。爾來既に三年に垂んとする。この間にボルシエヴ井キの覆滅說は幾度となく傳へられてゐるにもかかわらず、レニン政府は尙は全ロシアの權力をその掌中に收めつゝある。このボルシエヴ井キの立場を最もよく代表するものはいふまでもなくロシア・ソヴ井ット共和國黨法とそして第三インタナショナルの宣言とである。『ロシア社會主義聯合ソヴ井エット共和國憲法』はその原則を宣言して曰く『第九條、ロシア聯合ソヴ井エット共和國憲法、今日の

過渡期の憲法の、第一の目的は、資本主義の完全なる破壞、人によつての人の絞取の終息、そして階級的區別と並にそれから成る國家の强制が最早や存在することなき社會主義の獲得のために、貧困なる農民と結合したる都會及び地方勞働者の獨裁政治（强大なるソヴヰエット政府を通しての）の樹立に存する』と。第三インタナショナルもまたその一九一九年三月二十六日の宣言の終りにおいて次のごとく叫んでゐる。『勞働者會議、プロレタリアートの權力と獨裁政治のための革命的鬪爭の旗下に、第三インタナショナルの旗下に、凡ての國の無產者よ、結合せよ！』と。かくのごとくにしてボルシエヴヰズムの指導的原理は、ボルシエヴヰキの實行上の立場からしても明瞭である、『勞働階級の獨裁政治の立場がこれである。

（註1）レニンは一九〇五年の革命を批評してその年に著した小冊子『二つの作戰』のうちで次のごとく述べてゐる。『ロシアに於ける經濟的發達の低級さ勞働者の意識的階級組織の低級、卽ち客觀的及主觀的作因の二つながら、どうしても勞働階級の直接にして且つ完全なる解放を許さない。われ等の眼前に於いて成就されてゐる民主的轉覆がブルジョアの性質を現はしてゐることを見ないでゐるためにに人々全然無知でなくてはならない。また勞働階級が社會主義の目的と方法とについて如何に教えられてゐることの少きかを忘れるためには人々は最も天眞爛漫な樂天主義をもたなくてはならない。それゆえに、勞働階級が意識的階級組織を缺いてゐる限りは、またそれが所有階級に對する階級鬪爭をなすための必要な敎育をもたない限りは、社會主義革命の問題はありえない』と（Miliukov, op. cit., pp. 20–1）レニンのこの言葉がスプルウへの態度――スプルウへは一九〇五年一月七にOsvobshdenieに於いて『ロシアにはまだ革命的人民は存在しない』と主張した――と相似てゐることは興味あることである。

三

プロレタリアの獨裁政治（Diktatur des Proletariats）の意義如何、私の次の問題はこの點に集中されなくてはなら

ない。この點を明からにすることがボルシエヴキズムの本質を明らかにすることである。重ねていふ、プロレタリアの獨裁政治――ボルシエヴキズムにおいてのプロレタリアの獨裁政治の意義如何。

四

プロレタリアの獨裁政治を主張するものに從へば、プロレタリアの獨裁政治とは、マルクス主義の眞髓であつて、そは疑もなくマルクスの教示に出づるものであると。これ實にレニンがその『國家と革命』並に『プロレタリアの革命』のうちに力說してゐるところであつてこの二つの著書は、マルクス、そしてエンゲルスがプロレタリアの獨裁政治の主張者であつたことを證據立てるために書かれたものといつても差支ないのである。そしてレニンがその所說を證據立てるために第一に引用してゐるのはマルクスの次に一句である。そはプロレタリアの獨裁政治の意義を究明するうへにとつて最も重要な點であるから原文のまゝに引用する。

Zwischen der Kapitalischen und der Kommunsichen Gesellschaft liegt die Periode der revolutionären Umwandlung der einen in die andere. Der entspricht auch eine Politische Ubergangsperiode deren Staat nichts anderes sein kann als dje revolutionäre Diktatur desProletariats 『資本主義社會と共產主義社會との間には前者から後者に移る革命的過渡時代がある。政治的過渡の舞臺がこれに對應する。そしてそはプロレタリアートの革命的獨裁政治のはかの何ものでもない』

このマルクスの有名な言葉は彼れが一八七五年五月ゴータ綱領を批評した彼れの書簡において述べたところであり、その後十六年を經て『ノイエ・ツァイト』(一八九一年)に揭載されたものであつて、それによつて見てもマルクスが勞働

階級の獨裁政治(die revolution äre Diktatur des Proletariats)を主張したものであることは疑のないのところである。この事實はカウツキーと雖も非認してゐないのである。否なカウツキーの所論もまた實にこの點から出發してゐるのであつて、この一句はレニンに從へばボルシエヴ井ズムにおいての獨裁政治の思想的源泉であり、カウツキーに從へばそはボルシエヴ井ズムにおいての獨裁政治とは全然別個の意義をもつてゐるとされてゐるのである。私は先づカウツキーの所說所を一瞥し、次ぎにレニン等一派のボルシエヴ井キの解說を硏究し、進んでボルシエヴ井ズムにおいての獨裁政治の眞意義を究明して見たいと思ふ。

五

カウツキーに從へば一口に獨裁政治(ディクタトゥル)といつても少くともそれには二つの種類を區利しなくてはならない。その一つは政治形式としての獨裁政治(Diktatur als Regierungsform)であり、他の一つは狀態としての獨裁政治(Diktatur als Zustand)である。そしてマルクスの謂ふところの獨裁政治といふのはこの後者の意味、卽ちズスタンドとしての獨裁政治であつて、レギエルングスフオルムとしての獨裁政治ではない。といふのはカウツキーに從へばレギエルングスフオルムとしての獨裁政治は獨裁者の反對者の權利を剝奪することであつて、出版の自由、團結の自由を禁示することを意味するのである。そして結局するに、階級はたゞ支配する(herrschen)ことができるだけであつて統治する(regieren)ことはできないものであるから、この意味、卽ちレギエルングスフオルムとしての獨裁政治は一階級としてのプロレタリアートの獨裁政治ではなくして、一人の獨裁政治、一組織體の獨裁政治——一政黨の獨裁政治——プロレタリアの一政黨の獨裁政治(Diktatur einer Proletarischen Partei)となるものであつて、この場合においての獨裁

政治はプロレタリアの一政黨が他の政黨に對する獨裁政治――プロレタリアの一部分がプロレタリアの他の部分に對する獨裁政治（Diktatur eines Teils des Proletariats über einen andern Teil）に歸着するものである。特に社會主義の一政黨が都市プロレタリアンと農民との合同によつて權力を掌握した場合には事情は一層複雜になつて、その獨裁政治は單にプロレタリアンに對するプロレタリアンの獨裁政であるに止まらず、更にプロレタリアンに對するプロレタリアン並に農民の獨裁政治(Diktatur von Proletarien und Bauern über Proletarier)となるのである。――カウツキーはレギエルングスフオルムとしての獨裁政治をかくのごとくに解してゐるのである（Kautsky, Demokratie oder Diktatur, S. 31)從つてこの種の獨裁政治は民主主義の原則に反對するものであつてロシア・ボルシエヴ井キの獨裁政治とはこの種の獨裁政治である。『ロシアにおける政治の形式としての獨裁政治はバクーニンの古るき無政府主義ともに解すべからざるものである。……われ等は前者を、後者とともに排斥しなくてはならない』――カウツキーはかくのごとくに述べてゐる。(Kautsky, The Dictatorship of the Proletariat, p. 148) そしてまたこの種の獨裁政治は斷じてマルクス主義においての獨裁政治ではなく、マルクスが一八七五年五月の書簡において使用したところの『プロレタリアートの革命的獨裁政治』といつた言葉はボルシエヴ井ズムにおいての獨裁政治と同意義のものではない。それゆえに民主主義に代ゆるに獨裁政治をもつてするものはマルクス・エンゲルスの名を引用することはできない。その人達はマルクス・エンゲルス以外に根據を發見しなくてはならないと。(Dmokratie oder Diktatur, S. 30)何故に然るかカウツキーに從へはマルクス・エンゲルスにおいての獨裁政治とはレギエルングスフオルムとしての獨裁政治ではなくして、ズスタンドとしての獨裁政治であるからである。(a. a. O., S. 29)即ちカウツキーに從へば、マルクスが一八七五年にゴータ綱領の批評のうちでいつたこと――プロシタリリアートの革命的獨裁政治といふことの意味は、マルク

ス自身の說明が甚だ不充分であるために誤解を招き易い言葉であるが、それが政治の形式としての獨裁政治でなくして政治の狀態としての獨裁政治であつたことはマルクスがその前年に書いた『フランスに於る內亂』(Burgerkrieg in Frankeich, 1871)によつても明瞭である。即ちこの著書によればマルクスは一八七一年のパリー・コムミユーンをもつて主として勞働階級の政府であることを信じてゐたのである。またエンゲルスもこの書物の序文において述べてゐるとほり、パリー・コムミユーンをもつて無產者階級の獨裁政治であるとなした。ところがこのパリー・コムミユーンはマルクスの指摘してゐるとほり、普通選擧の方法によつたものであるから これをもつて民主主義の政治に對抗するものであると見ることはできない。繰返していへば、パリー・コムミユーンはマルクスの謂ふところのプロレタリアの獨裁政治であるが、このコムミユトンは民主主義を排斥したものでなくして、民主的政治の形式のもとにおいてプロレタリアの獨裁政治を行つたものであつた、從つてこの意味においての獨裁政治とは民主主義以外の政治の形式ではなくして、民主主義の政治形式の內部においての政治の狀態であるといふのである。このことを立證するために彼れは更にエンゲルスの言葉を援用するエンゲルス曰く、

『民主主義的共和國はプロレタリア獨裁政治にとつての特種の形式である。』(Die demokratische Republik ist die spezifische Form für die Diktatur des Proletariats. —Marx, Burgerkrieg in Frankreich, S. 11)

またこのことを立證するために彼れは『共產黨宣言』においてマルクス・エンゲルスがプロレタリアの運動は多數の利益のための非常なる多數者の獨立の運動』であるといつた言葉をも引用し、特にマルクスが英米のごとき民主的の國家において社會革命が平和のうちに行はれるといつた言葉に重きを置ひてゐる。そして彼に從へば政治における無產者階級の武器は數である。彼等はその背後に多數の群集をもつ場合においてのみ支配階級に打ち勝つことができるので

ある。バリー•コムミユーンはこの種の實例の一つである。(Demokratie oder Diktatur, S. 31) だからマルクスにおいての獨裁政治といふことは政治の形式としての獨裁政治ではなくして政治の狀態としての獨裁政治であつて、『われ等はプロレタリアの獨裁政治といふことは民主主義の基礎のうへにおけるそれの支配としてといふことのほかには解することができないのである。』と。(a. a. O., S. 58) 即ちカウツキーに從へばマルクス主義においての獨裁政治とは民主主義の基礎のうへにおける支配』(Herrschaft auf der Grundlage der Demokratie)であつて、民主主義と衝突するものではなく、民主主義を排斥するものではなく、從つてボルシエヴ井ズムにおいての獨裁政治――レギエルングスフオルムとしての獨裁政治とは全然別種のものであると。

以上によつてプロレタリアの獨裁政治に對するカウツキーの意見の大體を盡したと思ふから、詳細の點に亘つては後にそれ〲の場合に述べることとして直にレニンの所說に移りたいと思ふ。

六

私はレニンがプロレタリアの獨裁政治について如何に考へてゐるかを研究する前に、レニンがカウツキーの解釋に對して如何なる考をもつてゐるかについて一應紹介することが必要でもあり、且つ興味のあることであると考へる。カウツキーの解釋――プロレタリアの革命的獨裁政治についての――に對するレニンの批評は彼れの『プロレタリアの革命』の最初の第一章に詳述されてゐるところであるが、レニン曰く、

『カウツキーの小册子の名は「プロレタリアの獨裁政治」である。誰れも知つてゐるとほり、それは全くマルクスの敎儀の要素である、そしてカウツキーは……この問題についてマルクスの言葉を引用しないではゐられなかつた。

しかし彼れ、謂ふところのマルキストのやつた仕方はたゞ茶番だ……カウツキーはマルクスを暗記し、そして彼れの書いたものによつて判斷するに、彼れは彼れの机の中に桝組柵をもつて、その柵の中にマルクスの書いた凡てものが最も科學的に且つ最も引用に便利のように配列してあるといふことを人々は忘れてはならない。しかしカウツキーはマルクスとエンゲルスとが、コムミユートンの前においても後においても、その私簡において、その公刊した記述において繰返してプロレタリアの獨裁政治について述べたことを知ることができないのである……カウツキーのようなマルキシズムの學究によつてのこうしたマルキシズムの奇怪なる牽强附會をどうしたら説明ができようか?哲學の言葉でいふと、この牽强附會は辯證法の代りに折衷主義と詭辯法とを置換えたのだ。カウツキーは置換法の老練家だ。實際政治の言葉でいふと、この牽强附會は日和見主義者、即ち要するにブルヂヨアヂイに對する從僕流の阿諛なんである。……(Lenin, Proletarian Revolution, pp, 11—12)

カウツキーの所論は何故に牽强附會なのであらうか。このことを説明することは、レニンがデイクタトウルをどう考へてゐるかの問題の全體を説明することである。

七

レニンに從へば勞働階級がその解放に到達せんとすれば勞働階級は資本家階級を轉覆し、政權を獲得し、そしてその勞働級階の革命的獨裁政治を樹立しなくてはならないといつてゐるのであるが(Lenin, State andRevolution, p.89)この謂ふところの勞働階級の獨裁政治とは如何なる意味においで使用されてゐるのであらうか。彼れは先づその『國家と革命』のうちで次のごとく觀念してゐる。即ちプロレタリアの革命的獨裁政治とは『壓迫者を壓潰するの目的の

ために被壓迫者の前衛の支配階階級としての組織』であると。(ibid., p. 91)また他の機會においては次のごとく述べてゐる。

『プロレタリアの獨裁政治（ディクテートルシップ）とは、ラテン語の、科學的且つ歷史的、哲學的、衣裝を脫ぎとつて平たい言葉でいふとたゞ一階級、そして工業勞働者、就中大工場における勞働者が資本家の絞取を終息せしめるための彼等の戰ひにおいて被絞取者の全體を指導することのできる方法である』(Lenin, The Great Initiative, 1919)

以上のレニンの定義によつて知られるとほり、プロレタリアの獨裁政治とは、レニンに從へばそは先づプロレタリア階級によつてのものである。卽ちそはブルヂョア階級に對するプロレタリア階級の獨裁政治であるといふことであるこの點は『プロレタリアの獨裁政治』といふ文字上の解釋によつても分りきつたことである。就中、それの實際組織としてのソヴヰエット組織によつて見ても、ボルシエヴヰズムが『プロレタリアによつて』といふ場合にプロレタリアの全階級を指すものであることが分るのである。たゞこの種の獨裁政治が結局するにカウツキーのいつてゐるとほり實際において一黨派の獨裁政治に歸するものであることは最後に述べるであらう。レニンの定義においてのプロレタリアの獨裁政治の第二の要素はそれが獨裁政治であることである。獨裁政治 (dictatorship, Diktatur, dictature, dictatura) の意義についてレニンは次のごとく解してゐる。

『獨裁政治とは偉大なる言葉である。そして偉大なる言葉は空しく使用されてはならない。そは絞取者とそして惡漢を征服するための革命的勇敢と迅速と殘酷とをもてる鐵血的支配である』(Lenin,Soviet at work, p. 31)

レニンはまたその社會革命の『論題』の第十において曰く、

『……共產黨の暴力を云々する凡ての人達が獨裁政治の何を意味するかを知らないといふことは明瞭である。革命

それ自身は純然たる强力の行動である。獨裁政治の語は各國語において强力といふこと以外に何ものをも意味しない。こゝに强力と階級的意義が重要である。何となればそれが革命的强力の歴史的認容を附與するものであるからだ。革命の地位が困難となればなるほど獨裁政治が益々辣烈とならなくてはならないことも誠に明白である』

即ちレニンは獨裁政治をもつて强力政治と解してゐるのであつてこの定義による時はレニン主義においてのプロレタリアの獨裁政治とはプロレタリア階級によつての强力政治といふことに歸着する。しかしこれだけではこの獨裁政治なるものが如何なる性質、如何なる形態、如何なる目的をもつのであるか、如何なる場合に何の必要があつて行はれるものであるかまたこの思想が何處から淵源してゐるかゞ明らかでない。先づこの獨裁政治とは如何なる性質をいふのであるか。そは一言にしていへば『プロレタリアの國家』である。レニンはその『プロレタリアの革命』のうちでこの點を最も明白な言葉でいひ現はしてゐる。曰く『獨裁政治は他階級に對する一階級の革命的暴力の國家である』と。(Lenin, Proletarian Revolution, p. 16) レニンはその『國家と革命』のうちにおいてもまた次のごとく述べてゐる。曰く『……そしてこの時代(資本主義から共産主義への過度時代に)おいての國家はたゞプロレタリアートの革命的獨裁政治である』と。(Lenin, State and Revolution, p. 89) これによつても明らかであるとほり、レニンにおいてのプロレタリアートの獨裁政治とはプロンタリアートの國家である。然らばレニンにおいての國家とは何か、この問題については別に項を設けて述べる考へであるが、一言にしていへば、國家とは、レニンに從へば、凡ての國家は被壓迫階級を征服するの特種の權力である』(State and Revolution, p. 23) 從つて國家は如何なる場合においても自由と一致するものではなく、「自由なる國家」なるものゝ存在する筈なく、國家はエンゲルスがその『家族、財産及び國家の起原』において論じてゐるとほり、常に强力の組織であつて、この强力の組織——國家の存在は階級利害相反が調和す

べからざるものであることを證據立てゝゐるものであり、從つて國家とは『マルクスのいつてゐるとほり、』一つの階級が他の階級を壓迫するための機關であり、階級的征服の機關であるといふのである。(ibid., p. 11) そしてブルヂョア國家はプロレタリアート征服の强力的組織であり、プロレタリアートの國家とはブルヂョア階級壓迫のためのプロレタリアート階級の强力的組織である。卽ちレニンに從へばブルヂョア國家がブルヂョア階級の獨裁政治そのものであるごとく。(Proletarian Revolution, p 17)プロレタリアートの國家はプロレタリアートの獨裁政治であるのである次に問題となつてくるのはこのプロレタリア國家が如何なる形態をとるかといふことである。レニンの『論題』の第九に曰く

『今日までプロレタリアートの獨裁政治の必要は、それの採るべき形式を吟味することなくして敎へられた。ロシアの社會主義革命がこの形式を發見した。それはプロレタリアート並に(ロシアにおいては)下層農民の永久的獨裁政治の典型としてのソヴ井エット共和制がこれである。』

レニンはその『國家と革命』のうちにおいてもこの點に論及し、プロレタリアの國家は單なる『武裝せる群集の組織』であるとなし、そしてこの武裝せる群集の組織の例として勞働者兵卒代表者會議』を奉げてゐるのである。(State and Revolution, p.93) レニンのこの考はロシア・ソヴ井エット憲法に具體化されてゐるのである。また第三インタルナショナルが一九一九年七月一日チノヴ井エフの名によつて發した宣言において最も卒直な言葉でいひ表はしてゐる。曰く、プロレタリアの獨裁政治の形式如何?われ等は答へる、ソヴ井エットがこれである』と。この思想はトロッキーが一九〇五年の革命の經驗によつて夙に確信したところであつて、彼れはこの一九〇五年の革命史としての『勞働代表者會議の歷史』(一九〇八年)のうちにおいて次のように述べてゐる。

『ソヴ井エットはプロレタリアートの組織である。それの目的は革命的權力のために戰ふことである。これとともにソヴ井エットは階級としてのプロレタリアートの意思の組織的表現である』(Trotyky, Our Revolution, p. 152)

このソヴ井エットの組織については後に詳述することであるが、そはレニンのいつてゐるところによれば凡ての賃銀勞働者を包含するものであつて、(Proletarian Revolution, p. 42) ロシアにおいては下層農民をも包含するものである。この原則は憲法第十條において規定され、そして憲法第六十四條及第六十五條において具體的に規定されてゐる。從つてソヴ井エット制度は一切のブルヂョア階級の選奉權の剝奪においての勞働者の機關であつて、この機關にロシアの主權が存在するのであるから（憲法第一條）ソヴ井エット制度はプロレタリナートの主權を運用すべき機關である。そしてそはレニンに從へば『高度の民主主義』である。(ibid., p. 51) 次に問題となることはプロレタリアート獨裁政治の目的如何といふことである。プロレタリアートの獨裁政治は既に述べてきたとほり强力的組織であり、そしてブルジョアに對するプロレタリア階級の强力的組織であるが、それによつても分るとほりたゞ漫然たる强力組織ではなくしてプロレタリア階級の歷史的使命――ブルヂョア階級の征服の目的に奉仕するものであるといふの結論に到着しなくてはならないであらう。レニンのいつてゐるところによればプロレタリアの獨裁政治は資本主義社會から共産主義社會への過渡期において存在するものである。即ちレニンに從つて資本主義社會――『共產主義の方面に發展しつゝある。資本家社會から共産社會への變轉』の場合には、その二つの社會の間に『政治的過渡時代』が存在する。否、この二つの社會の間過渡時代においては政治的にも過渡時代であつて、プロレタリアの獨裁政治は實にこの時代の政治組織、レニンの言葉でいふと國家の形體である。(State and Revolution, pp. 88—9) レニンの立場はマルクスが一八七五年そのゴータ宣言の批評として書いてゐる。資本家社會と共產社會との間には前者から後者への革命

的過渡時代が存在する』といつたことに相當するのである。即ちレニンにおいての『プロレタリアの獨裁政治』なるものはマルクスの『プロレタリアの革命的獨裁政治』と同じく資本家社會から共産社會への過渡時代に存在するものであつて、それは正しくこの過渡時代に應ずべき政治組織であるのである。次に問題となることはこの政治形式が何故に必要かといふことになつてくる。即ち共産社會への過渡時代における政治形式は何故にプロレタリアの獨裁政治でなくてはならないかといふことになるのである。も一度いふと、平和的方法または民主的方法によつても共産社會への過渡時代の政治形式の任務を果すことができはしないかといふ問題が殘されてゐるのである。この點も後に詳述することであるが簡單に説明すると、今日のブルヂョア社會の政治機關としての議會政治と階級鬪爭の思想は兩立しないものであつて、それはブルヂョア階級がプロレタリア階級を征服するための機關である。(State and Revolution, pp. 47—53) 從つてレニンに從へばかくのごときブルヂョアによつての壓迫の機關は破壞しなくてはならないものであつて、これに代るのがソヴ井エット制度であるが、この場合に何故にプロレタリアートを『武裝した群集』としなければならないか、何故にブルヂョア階級から武裝を奪つてプロレタリア階級を武裝しなくてはならないかといふのに、レニンに從へば、それは主として『廿世紀における』『軍國主義の發達』に基くものであつて (Proletarian Revolution, p. 19) それはマルクス、エンゲルスが革命的暴力の必要を主として軍隊及び官僚政治の存在に歸したと同一の根據であることを述べてゐる。(ibid., p.18) そこで最後に問題となることはこのプロレタリアの獨裁政治の思想がどこに思想的淵源をもつてゐるかといふ點であるが、この點は更めていふまでもなく、マルクス、エンゲルスの思想にあるといふのである。就中、マルクス、エングルスの『共産黨宣言』(Kommunischen Manifest. 1848) マルクスの『フランスにおける内亂』(Marx, Burgerkrieg in Frankreich. 1871) 及びエンゲルスの『家族、財産及び國家の起原』(Engels, Ursp-

rung der Familie, des Privateigenthusund des Staats, 1891) の三書及びマルクスのゴータ綱領の批評である。以上の說明を綜合するに、レニンにおいてのプロレタリアの獨裁政治とは、レニンに從へばマルキシズムの思想であり、プロレタリアの國家としてのソヴ井エット制度に體現する階級的强力の使用であつて、資本家社會から共產社會への過渡時代において、資本家社會の機關としてのブルヂョア國家の(主として)軍隊及び官僚組織のために必然的に生ずるものである。そしてそはレニンに從へば『高級民主主義』であると。

八

以上によつてレニンにおいてのプロレタリアの獨裁政治の大體を說明し終つたのであるから、これから更にこのプロレタリアの裁獨政治においての各要素並にその相互の關係を詳述し、そしてこゝに私のレニン主義批評にと入ることゝなる順序であるが、こゝにこの批評に入るに先つて私の順序を一言すると、私は先づボルシエヴズムとマルキシズムとの關係を論じ、次にボルシエヴ井ズムにおいての國家觀　民主主義觀共產社會觀及ソヴ井エット制度を批評しそして最後にボルシエヴ井ズムに對して忌憚なき批評を加へる考であるが私はボルシエヴ井ズムは低級文明から必然的に生れたところの新低級文明であると解するものであつて、それは現代の腐爛した資本主義文明の間にあつて創造的のあるものを與へてゐることは見逃す事はできないが、それが何より先きに勞働者に資本主義的及貴族主義文明の通弊としての權力の愛好を敎えたことにおいてまた見逃すことのできない害惡をもつてゐるといふことである。私は深刻なる民主主義の精神から資本主義は自らを民主主義と稱し、ボルシエヴ井ズムもまた自らを民主主義と名けてゐるにかゝはらず、銳敏にして高度に發達した民主主義が、ともに堪ゆることのできない低調な思想であることを、ボルシエヴ井ズムの思想が無理解のまゝに大に流行せんとしてゐる時に、また無理解のまゝに排擊されつゝある時に、徹底的の批評を加へる考へである。(つゞく)(室伏高信)

ボリシェヰーズム發達の經路

尾瀬敬止

はしがき

昨年初夏のことである。私は西伯利視察の目的で浦潮からハルビンへ出た。そして、市中のノーウイ・ゴロッドを歩いてゐると、自分が或る小さな古本屋の前へ出てゐるのに氣がついた。で、何か掘らないものを十二三冊買つて新聞紙見たやうなものに包んでもらつた。が、宿へ歸ると、今買つたばかりのものをモウ一度ひつくり返してみたくなり、紐などを解いてゐると、フト眼にとまつたものがある。外でもない。それは本を包んだ包紙に過ぎなかつたが、このパンフレツトものを中途から引きさいたやうな紙のはしからに、(ボリシエヰーズム)とゴヂツク活字で刷つた見出しがちら〳〵と覗かれた。で、その一枚をはいでみると、今度は(ボリシエヰーズム發達史)とある次ぎの見出しが眼にはいつた。これだけなら何んのこともないが、同じやうなパンフレットを引きさいたものが、しかも、同じゴヂツク活字で(ボリシエヰーズム)と刷つた見出しのあるのが、そこには三篇ばかり重なつてゐたので驚いた。それでといふ譯ではないが、この妙に人を動かした印刷物は、彼是れ一箇年自分の貧しい書架に押し込められてゐた。それを近頃譯出したものが本篇である。しかし斷つておく。これは、全然例のプロパガンダとか何とかいふものではない。その證據は讀んでみれば直ぐ判る。序でにもう一つ斷つておく。原本には書名も著者も發見されなかつた。

一

前世紀の九十年代であつた。ロシヤの青年達は、たゞマルクシズムの思想を吸收したばかりに、が、同思想に對しては少しの鑑賞力もなしに、それを勞働者仲間に宣傳しはじめた。やがて、社會民主黨の支部が各地に組織された。これらの支部は敎化と政治的宣傳と、黨派の樹立と、黨派的戰鬪への參

加とを、要するに、社會主義者の鼓吹した爭鬪の態度と方法とを勞働者の實生活内に導くことをもつて使命とした。そして、一八九八年、今言つた各支部を綜合する第一計劃に或功し、總會をミンスクに開いた。

この會合は、集る者も少く又た實際上の成績もなくて不首尾に終りピヨトル・ストールウェの起草にかゝる『ロシヤ社會民主勞働黨宣言書』なるものをアトに殘しただけであつた。該宣言書には、同黨の事業の最大目的が示されてゐる。卽ち獨裁政治の崩壞、社會主義が完全な勝利を得るまでの資本とブルヂョアに對する鬪爭、それらの目的を遂行する方法としては〇〇を用ゐることが夫れである。

といふのは、その直接的利益をもつてすれば勞働階級を動かすに容易である、これは遠き將來に勝利を占むる作戰でなければならぬ――と、彼等社會民主黨は信じてゐた。言葉を換へていへば、勞働者をして先づ勞銀の値上げから勞働條件改善への戰ひに導き、その間政府に對する復讐心を募らせれば、同派の政治的並びに社會的理想を追ひ〳〵宣傳することになると考へたからである。そして、この企ては、勞働運動開發の(漸進的修練)――といふ學理に基いたものであつたが今言つた(漸進)主義の學理はいつか(エコノミズム)と呼はれるやうになつた。

しかし、これらの(エコノミズム)を信奉する人々の間から極左黨が出た。そして、味方通しで戰ふことになり、その爭鬪は事の最初から烈らしいものだつた。

一九〇〇年、革命を謳歌する著名なマルクス主義者により『イスクラー』といふ新聞が海外で發行された。この新聞の同人には、エヌ・レーニン、マルトーフ(チェデルバウム)、トロツキイ(ブロンシュテイン)、ダン(ゲレー井チ)、アクセリロード其他の人々がまぢつてゐた。そして、前後二箇年、同新聞の原論は(エコノミズム)を信奉する人々を全く說服させたが、遂に新聞社を閉鎖することになり、彼等關係者は、本國においても海外においても再び起つことが出來ないやうになつた『イスクラー』は、單に批評ばかりでなく、綱顏の研究、新しい總會の準備等にも努力した。この總會は一九〇三年海外(ロンドンを指す)で開かれ、席上『ロシヤ社會民主黨綱領』を編んだ。綱領といつても、それは土地問題を除いただけで、他の基礎的條項には少しも變化がなく、これを革命勃發の日まで實施するといふのであつた。

しかるに、右の綱領を制定しやうとした時、同派は端なくも全然別箇の二派に分離された。組織の上でも、政策の上で

も、また主義の上でも、この兩派は自說を固持して動かなかつたからである。

そして、レーニンを戴き、多數の黨員を占めたものが『ボリシエー井キイ』と命名され、他の少數黨員を擁したものが『メニシェー井キー』と命名された。(なほ、ア・エス・イヅゴーエフは、この黨派的分裂についでかういふ見方をしてゐる。『わが政黨』といふ著述の中で。「ボリシンストウォ(多數)とメニシンストウオ(少數)との主張の相違は、主として彼等二派の(テムペラメント)の相違に基いてゐたのである。といふのは、ボリシー井キイが、綱領と同派の支出を認める以外に二派の一つに(個人的參加)を黨員から要求したのに反し、メニシェーキキイは、その一つの派の總理に從つて正規の協同動作を示さうとする者を黨員として認むることに贊或した」と)。

が、最初のほどは、革命後に示されたやうな兩派の烈しい相違はどうしても認められなかつた。たゞ、强ひて認むるならば、ボリシェー井キイは同派の政權集中に重きをおき、メニシェー井キイは、△△に對しては無謀の擧に出ることなく、同派の事業を滿足して認めてゐることだけであつた。

それは兎に角、兩派は革命の準備にとりかゝつた。彼等黨員の信念では、その革命が社會主義的のものではなく、ブルヂョア的色彩を帶びたものでなければならなかつた。即ち社會主義的ではなくて立憲民主的組織を制定すると共に、自由なる議會をして獨裁政治に代らしむるためのものであつた。但し、その際、ボリシェー井キイは政變後組織さるゝ臨時政府に自派の黨員が加はることを認容し、メニシェー井キイは その黨員の參加を全然默認しなかつた。

かう言つた譯であるから、今言つた參加不參加といふ點だけでは、ボリシェー井キイが寧ろメニシェー井キイよりも右化してゐるやうに見えたのは無理もない。

黨派的分裂は兩派の間に烈した鬪爭を導いた。彼等の各黨員は日に〳〵他の諸政黨から超越し、社會民主黨の中央機關や、『イスクラー』新聞の印刷所や、同會計課や其他を奪ひ合つた。そして、臨時政府に加入する時のやうな暴擧を互に敢てするやうになつた。

で、この兩派の來るべき綱領政變について述べないならば次ぎのやうなことが言へると思ふ。即ち、兩派の綱領は、自分達の合言葉を都會無產階級の希望に適應せしせると共に到底不可能の契約により多數の住民を味方におびき寄せ自分達ばかりではしば〳〵失敗した社會主義化の社會をいつか實現し得るであらう――といふ目的を持つてゐた。

これと同じやうなことが社會革命黨の場合にも言はれる。

二

上に示したやうに、そして、その名稱からいつても判るやうに——社會民主勞働黨は主として勞働問題の研究に沒頭した。しかし、同時に、ロシヤ國民の大部分が農民であるといふ關係から、同派は土地問題に對しても閑却することはなかつた。

が、右の土地問題に對しては、時に兒戲に等しい策略を暴露した。たとへば、(前世紀九十年代の上期であつたか)ボリシェー井キイは所謂(切斷《オトレーツカ》)の方法で土地を農民に分てば充分であるなどゝ考へてゐた。といふのは、アレクサンドル二世の農奴解放後地主の手にあつた、土地をもつて之に充てるといふ譯だつた。しかし、土地均分問題の專攻家ゲルツェンシテインの計算によつて、その(切斷)の土地が僅々七八百萬デシヤチーナ(一デシャチーナは我が一町一反四畝餘)に過ぎないと判ると、ボリシェー井キイは少からず途迷ひし、以上の外に官有若くは寺院若くは修道院の所有地と侯地をと分配することにした。が、彼等は、さういふ土地均分計劃に對しては少しも討究せず、單に自己の都合のよい土地を獲得すべしといつて農民を迎へた。(註——ミハイル・ゲルツェンシュテインはモスクワの專門學校教授で、その經濟學者として、また土地問題の識者としての研究は國家をして利するところが多かつたが、第一議會解散後密偵のために暗殺された。一九〇六年七月のことである。)

かうして、但し土地均分問題だけでは、社會民主黨が、同問題を特に熱心に研究してゐた社會革命黨よりも優越を示してゐるやうに見えた。しかるに、社會革命黨の方では、いろ〳〵調査の結果同問題では到底國民を誘惑することが出來ないと知ると、自派の根本的綱領攻變を加へることになり、また、そこに盛られてなかつた他の諸問題をも研究しはじめた。

しかし、勞働日數の問題からいふと、社會革命黨の方が社民主會黨よりも優越を示してゐるやうに見えた。何故なら後者が一日八時間の勞働を勞働者に約束したに反し、前者はかう指摘した。八時間の勞働はマキシマムを言つたに過ぎない。であるから、わが革命黨は、醫學又は其他の理由に從へる方則に準じ勞働然間の大々的短縮を力說するであらうと。

そして、兩派は、彼等によつて誘惑された、兵卒、勞働者農民各團體の現狀に鑑み、敢て誓約することなしに、たゞ味方の一人でも殖えることを努めて止まなかつた。

また、最初は少しづゝ、最後には全部の綱領を改變した後ボリシェー井キイは、國家の外交方面には注目もせず計劃も樹てず、しかも遂に自派の綱領を斷乎として實生活上に行ふやうになつた。メニシェー井キイは、時局に必要のものゝみを成就するに努めたゞけであつた。

しかし、いづれの政黨も、たとへば社會革命黨も社會民主黨も、經濟的改造事業が捗々しく進行しない上に至難のものであること、並びに、この事業に對して掠奪方法を採用するとも決して効果がない——といふ主要事項を教へはしなかつた。また、彼等諸政黨は、彼等自身の中に祖國を愛する清廉の士があつたこと、政變は革命的旋風によつてのみ達成せらるゝこと、卽ち、その政變とは、或る黨派の一人によつて椎力を握られるか讓り渡すことを、たとへば臨時政府が名稱ばかりでなく事實上の主權者であつたと認める場合には、それが好適例であるが——さういふものを凡て忘れてゐた。

今言つた兩派の創造的事業は、一九〇六年より先頃の革命に至るまでの間に殆んど新しいものを生み出さなかつた。殊に、ボリシェー井キイは、一九〇五、六年時代と同じ綱領をもつて初陣に出たのである。

三

新しい不和は、當時繼續中の歐洲戰爭に對する見方の上にも現はれた。

ボリシェー井キイは（敗北）の旗を飜へして陣頭に立つた。敗北によつてのみ自派の綱領目的を速に達成し得るものと考へたからである。彼等の味方として社會革命黨の一部と無政府主義者が加はつた。しかるに、メニシェー井キイは無償無併合を標榜する（國防）の旗を靡かしたのである。が、祖國に異常な變革を叫ぶ前者の合言葉は、後者の甚だ曖昧な合言葉よりもヨリ明瞭でヨリ判り易かつた。しかも、國防と結びつけた無償無併合の叫ばれた時、ロシヤ帝國の一部は敵軍に占領されてゐた。

ボリシェー井キイが政權を握つて以來、社會革命黨も、メニシェー井キイも、ボリシェー井キイを社會主義者以外のものとして排斥して來た。しかし、彼等社會革命黨もメニシェー井キイも、政黨はその定められた綱領の下に聚いた人々ばかりの集合では社會の礦滓によつて養はるゝ特種な社會組織を自ら編み出すものであることを忘れてゐる。夫れゆゑ、若し上記の革命黨の主張を具さに點檢すると、かういふことを認めなければならぬ。彼等革命黨の間には本元的な相違がない。何故なら、彼等のすべては、革命的政變を捲き起さうとはして

も、彼等によつて誘惑された兵卒、勞働者、農民等諸團體の要求をも、指示をも、はた、社會主義の學理をも、その創造的事業の上に行はなかつた。たゞ、無學文盲な俗衆の卑拙な本能を満足せしめやうと努めた。そして、ボリシエーヰキイは、その本能をより迅速に満足せしむることを約束し、遂に政權を奪つてしまつた。

これら諸政黨の差違は、國家の健全生活に對し無條件に死の宣告を與ふるところの彼等によつて定められた綱領を、急速的に若くは漸進的に實生活へ導くか否かに歸せられる。

そして、人間に肺結核菌を吸收せしめ、國家の死をして他の結核的疫病から幾らか遠ざけてゐるに過ぎない。それ以外の治療法は何んにもない。

あらゆる社會黨は、わが歴史的過去に顧みての健全な生活的原理を國民開發のために求めやうとはしない。却つて到底不可能な空想の實現に努力し、同時に、數世紀に亘つて建設された國家組織を、俗衆の血に渇いた本能を刺戟することによつて破壞してゐるのである。(完)

新聞職工再びストライキ

新聞職工のストライキが一年目でまた起つた。最初は「報知」で火の手を擧げて大分手嚴しい所まで行き、後に「讀賣」に行つて少くとも同紙を一日間は四頁しか出しえないようにした。その後でも同紙は社內で印刷が出來ずに不體裁な大小新舊交り活字の新聞を出してゐた。それから「萬朝」へ押しかけた。「萬朝」で涙香の死やら何やらで狼狽して兎に角八時間勞働の要求を容れた。次が「朝日」の番であつたが「朝日」は頑强の態度に出でた。そして八時間勞働の要求を容れたために「萬朝」は新聞協會——資本家協會から除名されたそうだ。嗚呼、平常は八時間勞働に贊成だと書き立てた新聞紙？　何といふ利己的な、何といふ見苦るしい腐つた根性の暴露であらう。

國際勞働標準（ヘンダーソン）

序論

戰前不平等な現經濟組織は繼續さる可きものである、と多くの人々は思つて居た。然かるに國家の最高な努力が重大な災を防ぐ爲めに必要とせられたときに、斯く考へて居た多くの人々は幻滅の悲哀を感じたのである。舊經濟組織が試練を受くるに到つた其の時に産業上の個人的企業は緊急の際には其だ不適當であるのが明白になつた。蓋し個人的企業は浪費非能率的、混亂、煩鎖にして危險な遲滯等を包含すると共に最惡にして不合理な利潤や絞取の方法を許容するからである從つて國家は工場、鑛山、鐵道、原料品、食料品、貨幣を統制し、之等を改造して國民需要に應ぜさせしめなければならなく成つた。此等の根本的改造は吾人を助けて勝利を得さしめた計りでなく、一部の人にとつては啓示（レベレーション）となり、或る人にとつては、平和の新時代に於て社會の經濟組織の高遠な變革も早晩出來るだらうとの信念を深めさせしめた。

休戰條約調印後に次のやうな顯著な徴候が現はれて居る。夫れは大部の失產業者を永久に舊社會並に經濟狀態に拘束せむとする如何な計畫も、當然不名譽の失敗に終るべき運命を有して居る。單に夫ればかりでなく全國を擧げて非常な危險に曝露するかも知れないと云ふことである。之等の問題に當面し、時代趨勢を理解し得る人はまた必ずや次の事實をも理解する。卽ち吾等は一方に於て平和で確固な社會竝に經濟的自由を基礎とした秩序立つた進步を選ぶか或は又深き思慮に依らず恐慌の際に一時的に遂行された不秩序な變革の時代、之は往々にして諸國を暴力革命の巷に暴露するかも知れない――を選ぶか、二ツの中何れか體擇せねばならぬと云ふことである。社會の經濟組織の弊害は一國に限られてるものでない。夫等の弊害は一般的なものであつて、殆ど各國に同樣な奏え立つ不滿や、焦燥は存在するが夫れは必ずしも同一形態をとつて現はれて居ない。巴里講和會議に於ける聯合國最高會議は勞働委員を選出した、そして雇傭條件に關し協同的行動をするに必要な國際的手段を考究せしめ且つ審査を繼續する爲め國際聯盟と共に永久的な代表機關を設定した。之は云ふ迄も無く該問題が一般的性質を有して居るが爲めである。

該委員の任命は、單に新思想が實行の踏に付くかを示す爲め計りでなく、今や多くの經濟問題は本質的に其の範圍は國際的であり、從つて各國間に於ける勞働條件の完全な接近を保證する爲め、共動行動の問題としなければならぬ事が、完全に理解せられた。亦た此れは講和全權委員が經濟問題の重要なると、其の世界平和に及ぼす影響の大なるを注視するに到つた事を示して居る。國際聯盟は、現社會制度毀損の原因なる産業的弊害や不正が、匡正さるゝに非ざれば、國際的爭鬪の種子を除去することが出來ないと云ふ事を立派に認容して居る。此の點は、巴里會議に依り國際勞働條件規約を助長せむため、承認された委員會決議の緒言を引用すれば最も明日になる。

「委員會決議はかく宣言する、國際聯盟は一般平和を目的としてる。而して斯くの如き平和は社會的正義に依り始めて獲得せられると。然るに現在勞働條件は、多數を不安に導く如き不公平、殘忍、略奪を多分に含むが故に、世界の平和や調和の基礎を危くするものである。此等勞働條件は至急に改善を要する。之れを詳言するならば、最大勞働日や週の確立を含む勞働時間の規定、勞働供給の規定、失業の防止、充分な生活費の確保、雇傭中の仕事から生ずる病氣疾患、負傷の保護、幼年、青年男女工の保護、養老、負傷の保護、他國に使用せられてゐる勞働者の保護等の規定、團結自由の確認專問的職業的敎育並に他の方法に依る組織等を改善することである。而して一國が人道的勞働條件の採用の失敗は自國の條件を改善せむとする他國の防害と成る、………………云々、」

國際勞働標準を設定せむとする努力は決して新らしいものでない。勞働規約に關する國際的會議は既に二十年前より一定の勞働條件を確立せむため努力して居たのである。其の本部は瑞西であつた。此處で國際會議は數度規約を設定せむ爲め開催せられた。一九一〇年來英國政府は代表者を送りブリテイツシユ、セクシヨシの財政に貢獻して居る。一九〇六年に該會議は各國をして二つの條約を締結せしむるに成功した。卽ち一は燐寸製造に於ける白燐の使用禁止であり一は婦人の夜業禁止であつて此等規定の制定を各國に誓言せしめたのである白燐使用禁止の條約は當初僅かに七ヶ國に依り調印せらるゝに過なかつたけれども、該會議の活動に依り其の範圍は擴張せられ今や四十四の國や殖民地や保護國に有効となるに到つた。そして夜業禁止は二十五の國や殖民地や保護國に行はれ

て居る。該會議が目的とする中には、女子竝に十八歳以下の男子に對する一日十時間勞働の要求、幼年工の夜業禁止、繼續的にして酷烈な勞働時間の短縮、(第一着手として鋼鐵業者に於て八時間交代制を採用する事)產業に依る疾病の根絶、陶器製造業に於ける鉛の使用禁止等が含まれて居る。

現在勞働時間に關する唯一の國際的條約は、一九〇六年ベルン會議に於て調印せられた。卽ち婦人に對し十一時間の夜休を最少限度としたる法令である。

當時七ヶ國は最少限度を十二時間にしやうと欲した。然し該會議は滿場一致を望むが故に最少限度十一時間案が採用せらるゝに到つた。ヂエネバに於ける國際勞働會議の勞働規約制定第四回委員會に於て次のやうな決議をした。

一、一日に於ける最長勞働時間の法則に依る決定は勞働者竝に被傭人の肉體的智的幸福を保持し或は又增進する爲め最も重要なる事、

二、一般日々の勞働時間に制限を附する爲めには、勞働組合の努力に依り實現せられた勞働時間の制限に加ふるに立法に依る干涉を必要とする事、

此等の決議はルセルン及びルウガノ會議に於て、女工竝に青年工の勞働時間を規定せむ爲め國際會議に提出された決議に依り敷衍せられたのである。そして委員は當該各國の法制狀態に關する報告を集蒐する事を命ぜられたが、國際的協約は今に到るも尙ほ締結さるゝに到らない。

然し乍ら數ヶ國は、總ての勞働者、或は特殊な產業に從事する勞働者の爲め最長勞働時間を定め且つ多くの國は婦人勞働者の爲め適法な勞働時間を規定したのである。

勞働雇傭契約

勞働組合の要求する範圍は、次の雇傭契約(レーバーチャーター)に依り幾分明かにせらるゝことが出來やう。之は一月ベルンに開催された國際政治、勞働組合會議に依り採用せられた。而してベルン會議は次の最少限度の要求を(之は旣に數ヶ國に實施されて居る)國際聯盟に依り國際法中に挿入せむ事を要求して居る。

一、總ての國に於て初等敎育は義務敎育たらしむべく技術的敎育の組織を確立すべき事、高等敎育は總ての國に施行さる可く各人に開放せらる可き事、才能及願望は青年が生活し居れる物質的條件に依り阻害さる可きものに非ざる事、十五歳以下の幼年者は產業上の職業に使役す可からざる事、

二、十五歳より十八歳迄での青年は四時間の服務時間後一時間半の休息時間を伴ふ一日の勞働時間を六時間以上

とせざる事、青年男女に對し日々午前八時より午後六時迄での間に尠くとも二時間宛の技術竝に附隨的教育を附與せざる可からざる事、青年に對しては仕事を離れて學問を受くる爲めの時間を許容せざる可からざる事、次の場合は青年の使用を禁ずる事、イ、午後八時より午前六時迄での間、ロ、月曜及び祭日、ハ、不健全な產業に使役すること、ニ、鑛山の地下勞働に使役する事、

三、土曜日に於ける婦人勞働者の勞働時間は、四時間を超ゑざる事、婦人は土曜日の午後使用せざる事、例外を必要とする種類の職業にありては當該婦人勞働者に對し同週間に於ける他の日に半休を與ふ可き事、婦人は夜間使用す可からず。婦人の制規勞働後家庭に於て爲すべき仕事を雇主は附與すべからず、健康を保持し難き危險な產業竝に地上にせよ地下にせよ鑛山に於て婦人を使用すべからざる事、出產前後全十週間の婦人使用を禁ず、其の中六週間は分娩後に遣さゞる可からず各國共出產保險の組織を採用し尠くとも當該各國に於て支拂ひ得べき疾病保險利益に等しき代償を規定せざる可からざる事。婦人は同職業に從事する男子と同額の賃銀を受くる事、

四、勞働時間は一日八時間以上一週四十八時間を超ゑざる事、午後八時より午前六時迄での夜業は法令に依り禁止せざる可からず但し技術的理由或は職業の性質上避け難き場合は此の限りに非ず、若し夜業を許されたる場合は日中より高率の賃銀を支拂ふ可き事、土曜日半休制は各國に實施すべき事、

五、勞働者に對し尠くとも土曜より月曜の朝に到る三十六時間繼續の週休を與ゑざる可からざる事、日曜勞働禁止に例外を與ゑざる可からざる如き職業にありては當該週間中に於て三十六時間の週休を與ふべき事、繼續的產業に於ける交代制は勞働者か隔週日曜に自由なるべき時に制定せざる可からざる事、此等の規定は他曜日の休息を習慣とする國竝に團體に對し適用すべき事夜業並に日曜勞働を許されたる場合には勞働者に對し高率な賃銀を支拂ふべき事、

六、危險なる職業にありては、健康を保持し、災害を豫防する爲め勞働時間を八時間以下に減ぜざる可からず、有毒原料は代用物の使用可能なる場合は禁止すべき事當然禁止さる可き製造毒素に付いての國際的條約を固守せざる可からず、燐寸製造業に於ける白燐の使用ペイント並に裝飾業(一家の內外を問はず)に於ける鉛の使用は直ちに禁止せざる可からず、各國の鐵道貨車は五年以內に各貨車に適用し得べき自働ガップラーを備ふる事。(つゞく)(森恪譯述)

ソリダリテ（一）　レオン・ブルジョア

ソリダリテといふ言葉が政治的術語の中に這入つてからまだ數年にしかならぬ。十九世紀の中葉、バスチアとプルードンは總ての人類社會に於て「自然に成長する所の」連帶の現象をよく認めて之を特筆した。けれども何等全體の理論が此等の觀察から引き出されなかつた。（一）常に此の語は幸運ではなかつた。さうしてリットレは一八七七年に、此の語に就いて法律的及び生理學的意義の外には、「通用語の」卽ち正確と重要を缺く定義しか尙ほ與へてをらぬ。彼は云ふ「これは單に二人或は二人以上の個人の間に設定された相互責任である」と。

今日、ソリダリテといふ語は絕へず、演說や政治的文書の中に現はれてゐる。初め人はそれを共和政治の標語の第三番目の文句卽ち博愛の單なる變化として取る樣に見えた。處がだんだん其の意味が變つて來た。で著述家や雄辯家や輿論が變るがはるそこに結び付けた意味は、日每により空虛でないより深い、より擴充されたものとなつて來た樣に見える。

果して是は唯言語の出來心としての新語に過ぎないだらうか？それとも此の語は眞に新らしい觀念を說明しないであらうか、さうして此の語は一般的思想の進化の表徵ではないだらうか？

（一）併し乍らピエール・ルルウの「人性論」（一八三九年）を參照せねばならぬ。然し此の書は、その時代には有名であつたが、次の時代には餘り影響を與へなかつたやうに思はれる。一八四九年の選擧の爲めに民主黨に依つて組織された委員會は自らソリダリテ・レピユブリケエヌと稱した而してジャン・マアセが其の幹事であつた。

第一章　政治的及び社會的觀念の進化

（一）

個人と社會との關係の總念は此の四半世紀以來大いに變つて來た。

皮相的に觀れば何一つ變つたものはない。論議は相變らず經濟科學と社會主義學派との間に同じ言葉を以て續いてゐる個人主義と團體主義とは、政治的事變が平常より明かに、著しくする對句に於て、何時も相互に對立してゐる。

佛蘭西内に於ても佛蘭西外に於ても、純粹の政治問題はその歩を社會問題に讓つてゐる。而して獨逸に於ける、ベルジィクに於ける、佛蘭西に於ける、尙其他の地に於け各種の社會黨の選擧上の成功は竟に國會に於て、多數派と小數派とが專ら經濟戰の地域の上に團結して、而して唯一の合言葉として富の分配問題に就いて「自由主義的」或は「社會主義的」解決策を取るであらう時が近づきつゝあることを知らせてゐる。

けれども、何時も其通りであるが、政黨の狀態は人心の狀態を不完全にしか反映せぬ。政黨は常に思想より後れてゐる一つの觀念が團體的行動の公式卽ち選擧上の題目の根本的箇條と成る爲に充分に擴まる前に、長い宣傳運動を要する。政黨がその政綱を中心として終に組織される時に、多くの人々は旣に不完全乍ら、不正確乍ら、だうしても相對的たるを免れないが、その政綱が何を含意するかを認識してゐる。而してもつと槪括的なもつと高尙な新天地が業に開かれれば、其處から新しい戰場の原因となり賭金となる明日の思想がその順番で生れるだらう。

斯くして古典經濟學と社會主義體系の間に妥協的でない優れた意見が徐ろに形成される。より高い立場から考へられた意見そこから光明がより平等により遠くまで分配される。勿論團體と政黨との間の和解の試みや、政治的戰術の運用などは問題にならない。一致が設立されるに至るのは、人間の間ではなく、思想の間である。これは準備される契約ではなく一つの綜合である。

此の綜合は達成せられるものでない。業に、その目的とその手段の主人公たる、探究と推理の方法を持つてゐる一つの學說がある。一切に關して結論を與へる所の、確定された體系といふものは存在しない。

だうして其の他のもので有り得やう?此は特に何人の制作でもなく、全世界の創作である。そこに普遍的の考へ方がある。人は其の痕跡を殆んど至る所政畧家に於けるが如く文學者に於て、政治家の生きた功業に於けるが如く哲學者の書いた仕事に於て、私的制度に於て又法律に於て羅典人に於てアングロサクソン人に於て、並びに獨逸人に於て、共和民主國に於けると等しく王政の國家に於て見出すのである。

此の學說はその綴字そのものすら問題の解決を含んでゐるかの如く、最告に揭げられる樣な赫々たる名聲をば一擧にして受けなかつた。

此の學說は、所有る方面から承認される名稱を持つ爲に哲學的並に政治的範圍から非常に隔つた諸點から來た、大い

に異れる主義者に依つて同時に請求されてゐる。銘々が自家引水でそれを彼の前の學說の全體へ結び付けやうとする。人は此の學說が基督敎社會主義者に依つて說かれるのを見出す。さうして彼等にとつては此は福音的訓戒の適用である。或る經濟學者にとつては、さうしては彼等に取つては此は經濟的調和の實現である。或る哲學者に取つては是は世界の「生命(ビオソシオ)社會學的(ロジイク)」理法である。他の者にとつては此は「協調」の或は「生存の爲の結合の」(一)法則である。實證論者にとつては是は一語を以て盡せば「他愛主義」に外ならぬ。

併し要するに、様々の名稱にも拘らず、總べてにとつて學說は同一であつて、明白に次の基本的思想に歸着する。――各個人と其他一切のものの間にはソリダリテの必然的關係がある。各人の全人に對する又全人の各人に對する權利義務の尺度を與へることが出來る唯一のものは、さうして社會問題の科學的並びに道德的歸結を保證するものは、此の連帶性の原因、條件及び限界の確實なる研究である。

何處から斯くも相異せる人心の一致が、同じ思想の方へ來得るか？人は非常に狹い組織の障碍物に反對して、一般的壓迫の陰謀を云ふたらう。

之は此の社會的連帶の總念は、永い間互に敵視してゐたが今日は高等な進化の程度に到達した總ての國民の間に再び接近して結合した二つの力の合成力であるといふことである。此の二力とは科學的方法と道德的觀念である。

此の總念は十九世紀の出來事の奥深い經緯を形作る所の精神並びに道念の二運動の成果であつて、それは一方に於ては精神をアプリオリの體制から、吟味なしに承認された信仰から解放して、さうして傳統と權威に依つて課せられた心的結合に代ふるに自由な探求に基き絕間なき批判に從つた結合を以てすることを目的とし、他方に於ては道念が實在せぬ概念や驗證すべからざる制裁の外に、その責務的性質が單に感情の一致――善の尺度――理性の尺度――眞理の標準から生ずる様な行爲の規則を要求することを、益々嚴格に制限する。

故に人が既にソリダリストの運動と呼び始めたものが其の起原と其の生長力を負ふのは甚だ普遍的な甚だ深邃な原因に對してである。今やそれを順序を立てゝ研究して奈何にしてそれが業に經濟的及び社會的研究の方面を一新するに至つたかを證示するの時が來たやうに見える。

(一) 特にフイイエの「社會的所有と民主主義(ラプロプリエテソシアールエデモクラシー)」、イヅレエの「近代の都市(ラシテモデルヌ)」、フンク・ブレンタアノの「人間と其運命(ロムエサデスチネ)」、「田園民主主義(ラデモクラシーリユラール)」紙等を見よ。(つゞく)

ギルド社會主義

本篇はヂ・デ・エッチ・コールが千九百十九年十一月、フェビヤン協會の講演會に於いてなした講演 Guild Socialism に、コール自身が訂正を施したもので、コールの最新の立場を最も簡潔に表はしたものとして貴重なギルド社會主義文獻である。ギルド社會主義の手輕な紹介の多い時に、コール自身の言葉でギルド社會主義を語らすのは極めて有益な事であると思ふ。

序論

最近數年間において一大變化が社會主義運動の上に齎らされた。ギルド社會主義の宣傳が始めて開始されたときには、社會主義團體の關する限りでは吾々は一般風潮に反して活動してゐたのである。社會主義は一定の教義を形成して、社會主義を消費者團體の表現であると觀じ、消費者團體以上のものと民主主義を見ることが出來なつた。吾々が生產者團體と云ふ反對概念を社會主義に入れやうとしたときに、人々は吾々は社會主義者でも何でもないと云ふのが常であつた。當時吾々は一般の社會主義者にギルドの觀念を說くよりも勞働組合主義者にこの觀念を說く方が一層容易であつた。なぜと云へば千九百十年――十一年頃には勞働組合運動に一大覺醒の齎された時代で、其の社會觀の上に一大變化を生じたからである。然し社會主義の間における空氣も、勞働組合の間における樣に段々と變つて來てギルド社會主義の宣傳は一層容易になつた。吾々が生產者團體の重要なことを主張しても、最早民衆の偏見や先入主で反對されることはなかつた。ギルドの思想は、それが全體の教義として容れてると否とに拘らず、今は普通のものになつてしまつて、勞働組合主義者からもまた獨立勞働黨その他の社會主義者の人々からも反對されるとは先づ極めて稀である。勞働組合主義における變化は社會主義運動におけるよりも、ずつと大きいものである。勞働組合の運動の平勞働者の會合では、その會合に參加する勞働者の一割か二割かの自覺したものは、勞働者の多數が、まだ確然とした形ちにはなつてゐないが、勞働者による產業管理を要求してゐるのを窺取するのである。彼等の多數はギルド社會主義については何事も知らないらしい、さうして彼等の少數丈けがギルド社會主義者と呼んでゐる。然し彼等は勞

組合主義者としての目的が產業管理權の掌握またはそれに對する充分の參加にあると云ふ思想を懐いてゐる。勞働組合運動における現在の傾向を知らんとする人、勞働組合主義の强大な勢力を認め將來の社會の形成に對して及ぼすべき其の大影響を認める人、これ等のすべての人はこの產業管理の要求とは何を意味するか、さうして新社會の組織においてこの要求に對する正當な表現を發見するやうに勉めなければならない。勞働組合主義者の多數は眞に產業の管理を要求してゐるさうしてそのことは理論ではなくて、事實であるから、この事實を社會狀態に關する諸君の思想に取り入れなければならない。この產業管理の思想などは意とするに足りないと云ふのは適當ではない。何となれば今日の勞働組合運動に滲透してゐるのはこの思想であり、今日の勞働組合主義における最大の生命力はこの思想であるからである。

社會主義の新解釋

今自分が話してゐるギルド社會主義は社會主義の一形態であつて、社會主義に變るべきものではない。社會主義運動に挑戰するものとして新たに起つた新學說でなくて、社會主義の新解釋である。卽ち社會主義を一層完全に、一層平衡のとれた敎義、一層よく民主主義を體現する學說たらしめやうとする試みである。言葉を換へて云へば民主主義を經濟的にも政治的にも眞に有効のものたらしめやうとする學說である――と云ふことを私は明かにしたい。ギルド社會主義は社會主義思想の新解釋の試みである。ギルド社會主義者の願望は新學派または新團體を創設しやうと云ふのではない。社會主義運動と共に勞働組合運動をギルド主義の見解に改宗させやうと云ふのにある。ギルヅ・メンが懐いてゐる新思想を社會主義運動に屬してゐる思想の中に取り入れ、勞働組合思想の中に變化を生ぜしめやうと云ふにあつて、決してそれを破壞しやうと云ふのではない。これがギルド社會主義者に常に取る政策である。彼等は新しい競爭的の團體を組織しやうとするのではなく、宣傳の目的の爲めに小團體を組織して、既存の團體の中に存し、さうしてこの團體を通じて活動しやうとするにある。

產業の管理

私は英國でギルド社會主義運動を起した諸要素はまた他國において同樣な運動を起さしめた要素と同じものであると深く信じてゐる。諸君が單に歐洲のみでなく、全世界の工業國

を通觀して見ると、この產業管理の思想が現在の社會における指導的思想の一であり、この思想が何處でも工業勞働者に滲透しさうしてこの思想によつて彼等は現在の組織を變更する企てに生命を與へてゐる。諸君はこの思想が獨逸においては委員會制度と政府との間の爭において、露西亞においては其の工場制度における實驗においてこの思想の表はれを見るまた諸君は米國においては鐵道勞働者のプラム・プランの提案と云つたやうな新說において現はれてゐるのを見ることか出來る。全世界を通じて勞働組合運動は徐々として建設的傾向を表はし、產業管理における充分なる參與權の要求を明白にしてゐる。この要求は種々の形態を採つてゐる。世界の國の異るに從つて色々の形を取つてゐるが、其の中心思想、其の脊後にある指導的勢力は常に同一であり、且つ健全なものである。諸君は是れ等の諸國に對して、全然同一な運動並に教義を尋求しないだらう。諸君は全世界の勞働者運動を指導するある中心思想を要求する。けれども諸君は其の思想が諸國の經濟社會の形態と諸國民の民族性とに從つて、異れる表現と異れる形態において現はされることを要求するだらう。諸君は勞働者階級がよく協働し得るやうに組織されるやうな種々な民主主義、種々な無產者階級を要求し、國民的差異を無視した頑固な機械的組織によつて全世界を組織しやうなどとは要求しないだらう。

ユートピアと現實

私は——またギルヅメンのすべてがギルド社會主義を以て全世界の民衆が其の經濟問題を解決するのに最も正しい方法であると主張するものではない。吾々は現時の英國においてギルド社會主義はその眞正の形態であると信ずるのみであるさうして吾々はその內に英國にとつて許りではなく、世界の全產業國に對して最も有力な思想が存在すると信ずる。けれどもこの思想は種々の經濟的文明と民族性に從て適用されなければならないと思ふ。吾々はどんな社會にでも適用の出來る嚴密な組織を持つてゐると信じてゐる獨斷家ではない。吾々は眞理の追究者である。吾々は吾々が一の中心思想を持つており、さうしてこの思想を適用するのに必要な直接な方法についてある考へを持つてゐると考へてゐる。けれども吾々は、吾々がその著書の中で書き、疑問に答へる爲めに敍述するギルド社會主義がそのましの形態において永久に存在するものとは信じてゐない。吾々は社會がそのやうに作用しないのを知てゐる。また吾々は、諸君が一の組織を豫言し、その

豫言のやうに社會を作て行かうとしたならば、それは必然的に悪制度なのを知つてゐる。何となれば諸君がその組織を實現した時には、社會の狀態は變化して、この組織は適切のものでなくなるからである。然し吾々は諸君が出來る丈明かに事物を豫見し、出來る丈け明確に將來の社會組織の形態について豫言するのは價値のあることと信ずる。それは諸君が其の組織を實現し得るからではなく、諸君の豫言が諸君の當面問題を解決することに助となるからである。吾々は諸君がたゞ是等の問題が生起するがまゝに取扱つてゐたのでは、當面の問題に對して有効な對策を施し得ないと信ずるからである諸君は出來る丈け諸君の目的としてゐるところを確かり心の裏に懐いて、問題に對さなければならない。さうするとその諸君の思想がその直接の問題に面するときに諸君の助けとなるのである。こんな理由から吾々はユートピアンになつてゐる。吾々がユートピアンであることは、吾々が將來の社會の實際の形態として吾々のユートピアを信ずるが故ではなく、吾々はそのユートピアが今日の問題に對する上において、有効だからである。

私はまたギルド社會主義が純然たる産業的の理論ではないことを明かにしたい。私の關する限りにおいてはギルド社會主義が主として産業的形態を採つたのは偶然である。吾々が主として産業組織について語つた理由は、産業が極度に混亂してゐるので、その混亂を矯正しない限りは、他のことについて語るのは、無用の事であると考へたからである。この理由によつて吾々のナショナル・ギルドの學說が主として産業組織の學說として表はれたのである。その思想の根底には特殊の民主主義の觀念がある。その觀念は第十九世記において一般に認められた民主主義の觀念とは異つてゐる。吾々の民主主義の觀念とは次のやうなものである。一人が他人または數人の他人を代表することは無意味である。一人が他人を代表すると云ふやうなことはあり得ない。何となれば、人はその性質上代表され得ないものであるからである。然しこのことは本來の意義における代議政治の形態を否認することではない。吾々の言はふとする所は代議政治がある一定の法則に從はないならば、それは僞代議政治だと云ふのである。もしも代議政治をして眞の代議政治たらしめやうとならば、代議政治の遵奉する法則がなければならない。故に吾々の直接の手段はその法則を作ることでなければならない。眞の代表を

爲し得る唯一の方法は一人が他人を代表することでなく、人々が共同の利害を有するある目的を持つてゐるときである。だから諸君は、スミス、ジョンス、ブラウンの代表としてロビンソンを選ぶべきではない。けれどもスミス、ジョンス、ブラウンが生産者としてフットボールの選手として、またはその他のことで、ある種の共同利害を持つてゐるときに、この共同目的の爲め、また之を遂行する爲めにロビンソンを彼等の代表として選ぶのは正當である。即ちすべての眞の代表は人の代表ではなくて、たゞ共同目的の代表である、換言すれば眞の代表は必然的に機能的代表である。もしこのことが眞實であり、このことを社會組織に應用して、民主的たらしめやうとするには、諸君はこの機能の原則に從はなければならない。もし諸君が民主的社會を建設しやうとするならば、諸君はその社會において遂行さるべき種々な機能に關係あるすべての社會の部分を民主的にすることによつてのみ、社會を民主的たらしめることが出來る。故に諸君は産業の問題を一の問題として取扱はなければならない、さうして産業を民主的基礎の上に組織しなければならない。また諸君は政治の問題を採つて、政治を民主的基礎の上に組織しなければならない。諸君はすべての社會における問題を採つて、そがすべての社會的部分において民主的基礎の上に組織されるやうにしなければならない。さうしてこれ等の社會的目的の特殊のものの表現として存在する諸種の民主的制度の綜合によつて諸君は眞の民主的社會を建設することが出來る。諸君がある一種の形態における代表制度に其の表現を見出し得るものと社會を考へてゐる間は、諸君は迷宮に陷り、僞代表制度を建設するに過ぎない。けれども諸君が社會を全體として觀察しそのすべての部分を民主化しやうとするときにおいてのみ、諸君は全社會を民主化する唯一の且つ最善の機會に遭遇するさうして吾々が社會の組織即ち産業界に關する學說を主として論じ、その方面にのみ吾々の精力を集中するのは、産業組織を矯正せずしては、他の何ものをも矯正し得る最小の機會もないからである。産業における現在の混亂のある間は、さうして男女が現在の産業下において營むやうな生活をし、生産事業において協働すべき筈である、諸々の黨派の間に現在の爭鬪狀態が續いてゐる限りは、諸君の社會が全體として適當に作用し、其の社會のすべての各部分において眞の民主主義が行はれてゐると期するのは無用である。何となれば産業組織における無秩序は他のすべての社會的部分の秩序に對して致命的のことだからである。故に吾々が第一に其の注意を

集中して、其の弊を矯正し、眞の民主主義の原理と調和せしめなければならないのは産業制度である。然る後にこの新しい健全なる狀態を他の社會的部分に輸入すべきである。

原理と應用

かうして書いて來たことはギルド社會主義の叙述を完成するのに大變廻り道のやうである。けれども私はかうすることが結局最も近道と考へたので、かゝる方法を取つたのであるなんとなれば、もしも私が自分達か活動してゐる根本原則を諸君の前に明かにしないならば、それは組織の背後にある思想が何故に有用なものであるかを說明することなしに、組織の形骸のみを示すことになるからである。ギルド社會主義の脊後にある原理はギルド社會主義者が考へてゐる組織形態よりも偉大なものである。實際に價値のあるものは運動の脊後にある原理である。さうして諸君はギルツメンが考案した方法以外に諸君の考へを以て其の原理を表現すべき方法を發見するだらう。兎に角、私はこの社會組織觀が依て立つ原理を明かにしたあとで、その組織の如何を更に明かにすることを試みることが出來るのである。

そこで次のやうな問題が起る。ギルドとは何であるかと、ギルドとは勞働組合主義に基礎を置くあるものを意味する。然し、それは其の根本において二つの點で現時の勞働組合主義と異つてゐる。この第一は勞働組合は一特殊産業における勞働者全體を包含する産業的勞働組合と稱せられるものでもそれは根本的に不完全な團體である。何となれば、それは一産業における筋肉勞働者全體を包含し、もしくは、しやうとするものであつても、その産業に從事してゐる俸給勞働者また專門的勞働者を包接する企てがないからである、ある場合では勞働組合は專門的技術的勞働者を他の勞働者と共に入れるものがある。鐵道書記組合並に範圍は狹いが鐵道從業員國民同盟がこの例である。他の場合では俸給勞働者並に專問技術者はそれ自分の組合を持つてゐる、筋肉勞働者を代表する組合と密接な關係を持つて活動する。然し現在の勞働組合には一産業を有効に且つ完全に代表し、其の任務の遂行に缺くべからざる從業員全體を包含してゐるものはない。もしも諸君が一産業を有効に經營しやうと云ふならば、諸君は先づ第一に筋肉勞働者の協同を得なければならない。現在の産業が混亂してゐるのは、筋肉勞働者間に協同がないからである。だから現在の産業組織の下では産業が益々非能率的となつて來

るのである。筋肉勞働者は彼等が現在の狀態に眼覺めて來れは來る程、益々產業が現制の下に行はれてゐる限りに協働することを拒み、從つて勞働者の敎育が進み、階級意識の明かとなると共に產業は非能率的となる。

手と頭腦との勞働者

產業を經營するのには第一に筋肉勞働を必要とする。然し產業を能率的に經營しやうと云ふのには產業の有する特殊な機能に有用な技術的または商業的才幹を有してゐる多くの人々を必要とする。その一例として鑛業は年々益々一の技術的の問題となつて行く。さうして鑛山技師は益々必要な人となり、鑛業の科學的問題は年々其の重要を增加す。このことは鑛山に關係のある熟練技術者並に鑛山技師が他の勞働者階級に對して比較的重要の度を增して行くことを意味してゐる。吾々の考へてゐるギルドと勞働組合との差異の一はギルドが頭腦と手との勞働者、詳言すればすべての種類の熟練勞働者情神勞働者、筋肉勞働者——卽ち公共事業として能率的に產業を行ふのに必要なすべての勞働者を包含することである。勞働組合運動に對する吾々の態度の中には、吾々はその目的を目指してゐる。吾々は常に資本主義を〇〇せしめるやうな種類の組織を作る許りでなく、資本主義に代るべき組織を作らうとしてゐる。さうして資本主義の倒壞は難事ではないが資本主義に代るべき組織を作ることは難事である。故に吾々は筋肉勞働者の部分的組合を產業別に合同を策するのでなく是等の組合をして精神勞働者並に技術家の組合と出來る丈け密接な關係を保たせやうとするのである。かくて吾々はすべての產業の勞働者全體を一の組織中に包含せしめやうと云ふ窮極の目的を持つてゐる。この一大合同は各種の勞働者間における機能と能力との差異を無視するものではなく、反つて筋肉勞働者は精神勞働者及び技術家の特殊機能を承認し、精神勞働者は筋肉勞働者の權利を承認する所にその基礎を置くものである。それは技術者と他の勞働者との機能の相違を沒却する試みではなく、この差異に備へ、兩者の側においてこれを充分に承認せしめやうとするのである。現在では兩方の側で偉がりを云つて、爭つてゐる精神勞働者は筋肉勞働者がゐなくつてもやつて行けると思つてゐるし、筋肉勞働者は精神勞働者は企業家の家來だから、彼等の協働を不必要と考へてゐる。諸君はこの兩者の强がりを除かなければならない。さうして、諸君がギルドを作る前に、筋肉勞働者と技術家との間に最大の有効な協同を得なければならない。

ギルドが現今の勞働組合と異る第二の點はギルドの會員の經濟的利益を保護する事とでなくて、産業を經營してゆくことである。ギルドの主要事業は保護ではない、團體取引でもその會員の生活標準の支持することでもない。そは産業を實際に運用する事によつて産業が最も能率的に遂行されると云ふことを豫期して財を生産することとである。これは現時の勞働組合主義とは隨分大きな差異である。現在の勞働組合にこのことを取り入れるのは、大きな變化である。けれども、この變化ほその爲めに準備のないものではない。何となれば勞働組合が權力を得た時は直ちに産業管理に對して其の手を延ばすからである。それは新しい事象ではなくつて、古くからゐることとである。それは自然と勞働者に最も容易な方法で始められる。組合は雇主的の産業の組織權に對して制限を加へ始める。彼等は次のやうに云ふ。「君はこのことをしてはいけない。君は斯く、斯くの條件に適應しない限りは、この産業に人を雇つてはならない。」と。かうして彼等は雇主に消極的制限を加へるが、この消極的制限は多くの點において産業の能率を妨げることになる。私はこのことをすべての點において云ふのではない。勞働組合の加へる制限は實際において産業の能率を增進さすことがあるけれども多くの場合においてそれは必然的に能率を低下せしめるからである。彼等はそのことを彼樣な單純な動機からやつてゐる。現在では勞働組合は實際の産業管理に携つてゐない。現在の勞働組合は命令を出すことは出來ない、それは「君は之をしなければならない」と云ふことは出來ない。たゞ「君は之をなしてはいけない」と云ふことが出來るのみである。このことは勞働組合が他に妨害を與へる地位、卽ち他人が自由に行動しやうとするのを妨ける地位にあることを意味してゐる。それは現在の産業における階級的反目の一例である。この階級反目は産業を凝滯せしめ、現時の制度の下においては必然的に産業を非能率的たらしめるのである。扨て勞働組合が權力を得て行くに從つて彼等は益々その産業に加へた制限を積極的の形態に變じやうとする。彼等は「曹……すべからず」を「曹……すべし」の形に變へやうとする。雇主が業を行ふ方法を制限し、之を批評し、之を阻止する許りでなく、實際に命令を發し、事業を經營するやうになる。

ショプ・スチュアート

近年この力向における最も著しい傾向は、ショプ・スチュアート運動の勃興である。それは主として機械並にこの關係諸產業においてであつた。その運動は產業に對する消極的制限を一種の積極的產業理たらしめやうとした。諸君はその運動が意識的にさうでなかつたと云ふことが出來やう。さうして多くのショプ・スチュアート運動においはまた意識的でなかつた。然し自分はこゝで論じてゐるのはすべてのショプ・スチュアートの心の中に意識的にあつたものが何かを論じてゐるのではない、たゞ全體としてのショプ・スチエアート運動の背後における政策の一般的傾向について論じてゐるのである。この意義においては自分の云つたことは疑もなく眞實である。今年の鐵道從業員並に鑛山勞働者の管理權要求の大運動は私のいつた傾向の明かな表現である。鐵道從業員も鑛山勞働者も共に產業の經營の方法について制限を設けやうと云ふのではない、彼等の要求する所は產業の管理に參與し、將來において產業の組織さるべき條件を定むるに一定の權利を獲得し、產業組織の積極的事業に參加せんとするのにあるこゝに過去にをいて存在した勞働組合主義と將來のギルドとの間における第二の大きな差異があるのである。

勞働組合よりギルドへ

これ等の差異の間の渡橋は今掛けられてゐる。この橋によつて勞働組合主義は一の階段から他の階段へと移つて行くであらう。既に筋肉勞働者と專問家の團體との間には了解があり、互に密接な關係を作る傾向がある。既に勞働組合の間には、彼等が最も强力な最善の團體である場合には、是等の產業の管理權を要求するのみでなく、その要求を强行する地位に立つてゐるものである。これ等の兩者の場合において勞働組合からギルドへの橋は今掛けられてゐる、さうして、この經過は、現在における建築業並に鑛山業におけるこの運動の結果が成功するものならば、來るべき數年の中に著しい速度で進むだらう。もしも坑夫が現に要求してゐる大部分が容れられたとしたならば、他の產業における勞働者の要求に甚大な刺激を與へるだらう。吾々が坑夫が提出した要求に近い條件で炭坑國有を斷行すると、他の產業はまた坑夫が出發した點に一歩を踏み入れるだらう。さうして國有と民主的管理に關する危機がある產業において發達し、同じやうな戰が繰り返さるだらう。たゞ其の戰が前の戰と異る所は斑今では國有

と民主的管理とが經驗されない試驗の風を帶びてゐるが、その時に到ると次に要求する勞働者はこの背後に坑夫の作つた前例を持つてゐることになるのである。此ことによつて坑夫達の戰がすべての勞働者の戰であると云ふのである。この戰は產業の民主的組織を望んでゐるすべての人の戰である。さうして全勞働運動がその國有の要求においてのみでなく、民主的管理に對する要求において、坑夫を後援しなければならない理由である。

理想と現實

私は自分達のギルド思想が現今の勞働組合の中にある明確なものを作つてゐることを明かにすることに勉めた。學說を作ることは容易である。然しもしも諸君がその學說を實現するある手段を持つてゐないなら。それは無用のことである。私は自分の頭の中でギルド社會主義よりは、よい組織の理想を考へることが出來る。けれどもそれは何の役にも立たないのだ。それは私達に對して實現する手段がないからである。諸君がギルド社會主義を取扱つてゐるときには、それに到達すべき手段がある。何となればギルド社會主義は現在の團體の上に建設せられ、その團體が其の敎ふる機能の遂行に對して適應すべき方法を示し、その指示する方向には著しい傾向の有することを示すことが出來るからである。諸君は「こゝに自分はその目的を遂行すべき團體を持つてゐる」と云ふのでなければ、どんな思想運動でも注意する必要はない。少くともそれは經濟的方面丈けにおいては眞實である。純粹な思想運動は意とするに足りない。官權の眼に危險と見られる運動はその脊後に一定の團體を持つた運動である。ギルド社會主義はこの脊後に、第一には勞働組合主義の機能的組織を持つてゐる。第二には非常に重要な意義において消費組合運動の機能的組織を持つてゐる。（つゞく）（甲野哲二譯）

民主主義と直接行動

政治的民主主義のための戰は戰利を得た。白人は到るところに議會政治の制度のもとに生活することになつてゐる。ロシアは、今日は憲法の新らしい形式を試みつゝあるが恐らくは内部的及び外部的の壓迫によつて西ヨォロッパで支持されてゐる制度を採用しなければならないようになるのである。

しかしてこの爭ひが決定されない前においてさへ、新らしい制度が開始しつゝさるように見えた。合衆國、英國、及びフランスの政體は資本主義的卽ち金權的民主主義である。その民主主義は政治的の領域にばかり存在して經濟界には對應物をもつてゐない民主主義である。經濟的民主主義のための戰ひは來るべき多くの歳月において政治を支配するもののように見える。政治的民主主義の形式には無頓着なロシア政府は經濟的民主主義の極左的形體を支持してゐる。獨逸において強大にして且つ明らかに發達しつゝある政黨は類似の目的をもつてゐる。フランスにおける意見については私は何ことも知るところがないが、しかし英國においては、勞働者が國家の所有權のもとに、產業統制權を獲得せんとする欲求は、議會内における全員に多くの權力を與へるほどに數的に强大ではないにしても、主要產業を通じて、政府に有力な壓迫を行ひ、そして中等及上級階級に產業的混亂の恐怖を彌漫せしめるに至らしめることができる。われ等はかくして新らたに民主的に選擧された議會と、そして彼等自身を最も民主的であると考へてゐる國民の部分との間に對抗の奇觀をもつてゐる。かゝる狀態のもとにおいては、多くの民主主義の友は彼等が追求すべき目的についてもまたは彼等が同情すべき黨派についても迷つてをりまた益々迷ひを加へつゝある。

議會政治の思想が狂熱的感激をもつた時代があつた、しかしその時代は過ぎた。旣に戰爭前に、立法が直接に政府に壓迫を加へることのために、益々立法部に於ける利害の爭ひによつて支配されるようになつてゐた。この傾向は非常に增

大してきた組織的勞働者の仲間——そしてそこにだけではない——の間に勢力を得てゐる意見は、議會はたゞ政府の決定を實施するためにのみ存在するものであつて、しかもそれ等の決定それ自身が殆んど何等の確定した政策を代表するのではなく、瞬間的の權力均衡とそして一番よく一時的の平和のえられそうな妥協のほかには何ものをもつてはゐないといふことである。これ等の爭ひにおいての武器は最早や投票ではなくしてストライキ——直接行動の脅威である。この勞働者にとつての戰術の理論を最初に一般的にしたのは戰前二十年間におけるコンフエデラシヨン・ジエネラール・ヂユ・トラバアイユの指導者達であつた。しかしそれを廣く採用させるに至らしめたのは理論よりは寧ろ經驗——主として議會的社會主義指導者の不信用とそして反動的な社會的勢力の經驗とであつた。

民主主義の傳統的教義にとつてはこの全方法のうちに好ましからぬ何ものかが存在する。ありのまゝに飾らずにいへば主要産業における組織的勞働者がストライキによつて、全社會が力の脅威がなくては決して承諾することのないことで彼等の要求に降伏するといふ困厄を全社會に加へることができるといふことである。このことは多數の意思の體現としての法律の代りに少數者の私的勢力の置換として代表されるであらう。この基礎のうへに直接行動の非常に強い非難を築きあげることができる。

直接行動が重要な危險を包含してゐることは拒みがたたいことであり、そして若し誤用されると、理論的に非常な惡結果を來たすであらう。この國において、一九一七年勞働團體がストツクホルムに代表者を送らうとした時に、海員火夫組合が資本家諸新聞の狂熱的稱讃のもとにそれを妨げた。かくのごとき多數者の行動の自由に對する少數者の干渉は可能である。また多數者にとつても少數者の合法的自由に干渉することは可能である。法律內幷に法律外における凡ての强力の使用のごとく、直接行動は專制をして可能ならしめる。そして若し人々が前路に凄惨な恐怖の畫を畫きたいなら、人々はある立派に組織された重要産業——例へば坑夫、鐵道從業員及び運輸夫の三角同盟のごとき——が雇主に對してばかりではなくして全體としての社會に反對して結合することのあるのを豫言することができるであらう。私達は今日において確乎たる抵抗がなされなくてはかのごときことが起るであらう

といふことを告げられるであらう。若しこのことか起つたなら憤激した公衆が、遲かれ早かれ、市民の騷動と產業的混亂との危險にもかゝわらず、自らブラックレッグの組織に努力しなくてはないことであらうと告げられるであらう。疑もなく若しも勞働團體が全然常識と公共的精神に缺けてゐるといふことか推測されたとしたら、それは現實となるであらう。しかしかゝる推測は財產所有者の恐怖に媚びることの場合を除いては決して行はれないであらう。われ等をして一方に惡夢を脫せしめよ、そして政府を動かすの手段として直接行動に對する增大しつゝある信賴から事實上起ると思はれるところの善と害とについて考量せしめよ。（つゞく）（ベルトランド・ラッセル）

○ラッセル來る

ベルトランド・ラッセルがいよ〳〵支那へ來た。來年の夏は日本へも來るそうだ。何にしてもいゝことだ。世界の大思想家が續々來るようにしたいものだ。特にラッセルの思想は「批評」が率先して紹介したものでそれが日本に於ける最大の流行兒となつたことはわれ〳〵も紹介しばえのあつたことを喜ぶものである。實はラッセルのロシア觀を出したかつたがあれは九月初旬の「國民新聞」に連載されたものを二度の御勤にも及ぶまいと思つて出さなかつた。その代り今月、彼れの最近の小冊子「民主主義と直接行動」を譯出することにしました。以てラッセル支那來の紀念にする考へです。ところでラッセルがいよ〳〵日本に來たら、そして講演でもすることになつたら古るい先生達はどうするか、フランスのミルランが英國の勞働使節を追拂つたように追跡してしまうか、それとも例の通り「傍聽禁止」かそれとも上杉、筧とか、日蓮の本多日生、大本教の王仁三郎、貴族院の江木千之でも出して對抗講演をやらせるか、或はまた例の手で壯士で脅かすか。何れにしてもラッセルが日本へきた時は思想的に可なりのショックが起るかも知れない。否、ラッセルが未だ日本に來ない前に、私たちは支那文からラッセルの思想を飜譯なくてはなるまい。日本から西洋思想を支那に再輸出したのが最近までの現象であつたが、今日のように思想的大逆政の行はれてゐる日本は、支那から文明を輸入しなくてはならない日が益々接近しつゝあるように思はれる。

定價

毎月一回一日發行	一部	半年分	一年分
	卅錢	一圓七十錢	三圓三十錢
郵税	五厘	税共	税共

但特別臨時號の價は別に申受く

▲誌代は總て前金 ▲郵劵代用一割增
▲送金は可成振替 ▲外國行郵税十

大正九年十一月一日印刷納本
大正九年十一月一日發行

編輯兼發行印刷人 東京市京橋區元スキヤ町三ノ一番地 尾崎士郎

印刷所 東京市京橋區築地二丁目三十番地 川崎活版所

發行所 東京市京橋區元スキヤ町三ノ一番地 批評社
振替東京四五三四六 電話銀座一三七四番

廣告

半頁	十圓
一頁	二十圓
二等一頁	三十圓
一等一頁	五十圓

大賣捌

▲神田 東京堂 上田屋……
▲京橋 東海堂 北隆館……
▲日本橋 至誠堂 ▲本鄉 盛春堂

大正八年三月廿八日第三種郵便物認可

大正八年三月廿八日第三種郵便物認可
大正九年十二月一日印刷發行

（定價卅錢）

……（第廿二號）十二月號……

批評社

□讀者諸君に

□「批評」の創刊されたのは昨年の三月のことでした。民主主義の思想が政治的から社會的へと、漸く囘轉を始めようとしつゝあつた時でした。

□この機運に在んで言論は盛んに興りました。恐らくこの頃から約一年ばかりの間位ひ、言論の勃興したことは、私たちの日本で見ることができなかつたことと存じます。またこの時代に於いてのごとく、私たち日本人の政治思想が發達もされ、革新もされたことは前例のないことだと思ひます。さうしてこれ等言論の興隆と政治思想の發達とはもとより時勢の力に負ふところの甚だ大なるものであることは否みえないことであるにしても、この機運に乘じこの機運を指導するうへに、最も多く貢獻したものは、新聞紙でもない、宗敎でもない、敎育でもない、政治でもない、否なこれ等のものは常に新思想の敵でありました。

□この間にあつて「批評」は聊か新機運の指導に對して寄與するところがあつたかのように思ひます。創刊後こゝに第廿二號を出すに至るまで、二ヶ年に近い間、「批評」は終始一貫しての立場を維持することができました。そは決して非常に多數の讀者をもつには至らなかつたので、一號は僅に一千部を印刷したに過ぎませんでした。第二號は二千部に過ぎませんでした。第三號から三千部に、ある時は二千部にある時は四千五百部をそして大部分は三千部を印刷しました。そして本年四、五月頃の不景氣時代の襲來とともに「批評」もまたその影響をうけずには居られなかつたのであるが、幸ひにして、九月頃から讀者を囘復して、こゝに漸く堅實な基礎ができかゝつてきたのでした。しかしこゝに「批評」はこの多望なる前途を望みつゝ一と先づ休刊しなければならない事情ができてきました。

□私はあまり外遊の希望のあつた方ではありませんでしたが「改造社」の親切なおすゝめによつていよ／\今年中に横濱を出發して一年ばかり歐米を歩いてくることとなりました。まだ旅券はもらつてゐませんが無論これも數日のうちには私の手に入ることと思ひます。

□「批評」は從來主として私が執筆もし編輯もしてきました關係上、この際遺憾ながら休刊するのほかはなくなりました。この機會において、私は從來「批評」のために御援助下さつた方々に御禮を申上げるとともに、讀者諸君に對して厚く御禮を申上げます。

大正九年十一月廿日　大森不入斗四七一

室伏高信

モリス評傳

ウ井リアム・モリスは詩人であり、畫家であり建築家でありさうして社會主義者である。社會主義者としてのモリスは英國の社會主義が其の理想社會にありて中央集權的に、其の實現方法にありて議會主義的に傾いてゐたときに當つて、中央集權的國家社會主義さ議會主義とに反對し、其の豐かな藝術的天分からコムミユンを中心さする理想社會を描いて特殊の地位を占めてゐる。一言にして云へばモリスは藝術的社會主義者として顯はれてゐる。且つモリスは最近の英國の社會主義運動で最も潑溂たる活動を見せてゐるギルヅ・メンがロバアト・オーエンさともに抑いて其の師さしてゐる人である。だから私達はモリスその人に對する絶大な興味さ云ふこさ以外にも、現在の社會主義思想を研究する上においても是非モリスの性行思想の一般を知つて置く必要がある。

「ウ井リアム・モリス」はギルヅメンの立場にあるタウンシエンド夫人の「ウ井リアム・モリスさ共産主義の理想」（William Morris and Communist Ideal. by Mrs. Townshend）を譯出したものである。この書はフエビアン協會の傳記叢書の第二篇さして千九百十二年の末に發行され、モリスの生涯さ其の思想の大要殊に社會主義者さしての彼を僅少な頁數の内に要約したもので、モリスを知るには極めて手頃の書である。

千九百二十年八月　甲野哲二識

少年時代

ウ井リアム・モリスは千八百三十四年に生れて、千八百九十六年に死んだ。だから彼の活動した時は第十九世記の後半恰度商業主義が跳梁してゐた時代である。それは平和と繁榮との時期であつた。製造業者は世記初葉の大發見から利潤を求めてゐた。鐵道と滊船とは商業に新しい刺激を與へた。有德にして狹量な君主の長い治世は卑俗な自己滿足の發達を助長し

た。そは形式的な時代、富は急激に増加しながら、其の分配の宜しきを得ず、其の消費の誤つてゐた時代であつた。

モリスは裕富な中流階級の家族の一員であつた。彼はその幼年時代をエッピング・フォレストの傍にあつて、沼地をテイムス河が縫つてゐるエセックスの廣々とした牧場を一目に眺める廣大な家に送つた。彼は其の少年時代を平和な、古風な英國流の家庭の中に過した。彼は十四歳のときマールボローに送られ、少さかつたが學校生活に入つた。けれども彼は學校の競爭などには携はらず彼の學友からは獨りで散歩するのと、武士と仙女の澤山出て來る永い物語を語るのが好きな少年として記憶されてゐた。彼は「頑丈で丈夫らしく、高いカラアと黑い縮れてゐる髮の、よい氣質で親切ではあるが、大膽な氣質であつた。」彼は長い散歩を好み、鳥の卵を集めることを好いてゐた。さうして彼は何時も何か手でやつており、何にもないときには編物をしてゐた。

三つ子の魂百までもと云ふ樣に、この偉人の異樣な諸々の性質は既にこのときにおいて見ることが出來た。詩人的氣質のない詩人、忍耐強く、勤勉で、親切で柔和ではあるが、性急で短氣であつた。彼は孤獨を愛するものであつた。けれども彼はまた人類に對して多大な同情の持主であつた。彼が愉快な周圍を發見したのは家庭であつて、學校でゞはなかつた。彼は其の妹に書いてゐる。「お前はきつと私のことを何時も家のこと許り考へてゐる大馬鹿だと思ふだらう。けれども私はさうせずにはゐられないのだ。私は私の云ひ且つ行ひたいと欲してゐる運命があるからと云つて、私はそれを自分の缺點だとは考へない。」

オックスフォード生活と其の交友　中世の崇

森林と平野との間にあつたその平和な家庭の、モリスの後年に及ぼした影響を迹るのは容易のことである。けれども彼の天才が發見せられ其の向ふべき方面が我められたのはオックスフォードにおいてである。その在學してゐたエクゼタア大學において、さうして同年輩の大學生の間に、彼は幸運にも、其の心の友を發見した。モリスとバアン＝ジョンスとの關係は普通の大學友達ではなかつた。それは其の死に至るまで繼續せられ、二人の生活に影響を與へた。けれどもモリスの方が偉大

な人物であつたので、二人の交友はジョンスの生涯よりも、モリスの生涯に大なる影響を與へた。

生命に充ち種々な特質を持つてゐた二十歳のモリスは確かに出世の出來る人とせられたらう。けれども彼の前途の仕事は俄に斯う云ふことを許さなかつた。彼は其の友の樣に牧師になるのであつた。二人共英國國教主義の基督教を風靡してゐた神祕的神學の影響を受け、共にオックスフォードの第一年において激しい幻滅の悲哀に襲はれた。神學上の讀書は二人をして段々に其の宗教的熱情の災を消して行つた。その代り、珍奇な古代の、さうして異國情調の理想的美に對する熱情を燃した。そは中世記、並に其の時代に榮えた特種形態の藝術に對する憧憬と、產業上の進化の渾沌たる現代生活に對する非難とを伴つた。宗教詩と中世史と教會史との研究に費されたこの靜かなオックスフォードの生活において是等の青年が狹い眼界から世の中を眺めたのは不思議ではない。然し、その一人が其の永い努力の藝術的製作の生涯を通じて其の眼界が一向擴大されなかつたのが不思議である。モリスは斯樣に拘束された社會觀を持つにはあまりに偉大であつた。けれども、其の初期の製作においてさうして特に其の全生涯の藝術的製作――文學的のものでも塑造的のものでも――において、私達は彼の初期の思想と感情の狹量な影響と、其の一生に涉るバアン＝ジョンス及び其の屬する一派との交友の影響を見ることが出來るのである。

モリスは生れながらにして藝術家であつた。モリスは熱情と生命力に充ち、敏感で觀察に鋭く、創造力に充ちてゐた。美の崇拜と珍奇と古代的の氣風を持つてゐた前ラファエル派の運動は、彼を藝術家とすることによつてゞはなく、生々した藝術の眞の淵源である彼の時代の生活から隔絕せしむることによつて彼に影響した。モリスの生涯は陰影のある暗い世界から、その同胞が共に日光を受けてゐる世界への巡禮である。不幸にもモリスの友は陰の世界に續いて住んでゐた。さうして時々彼等はモリスを其の內に引き入れたのである。

自己表現の衝動は初め詩となつて表はれ、後に――モリスの天才は文學的のものであつたが――畫家及び工匠として表はれたのである。彼の天才は其の大學時代に卒然として發見せられた。カノン・ディクソンは彼とプライスとがある夜、エクゼターに二人の友人を訪問したことを面白く語つてゐる。『私達が室に入るとバアン＝ジョーンスは大聲に叫んだ。「彼は大詩人だ」「誰が？」と私達は問いた。「トップシーさ」――これはジョーンスがモリスに附けた名前である。私達は腰を下ろした、さうしてモリスがその處女詩――彼の生涯における最初の詩を朗讀したことを聞いた。それは "The Willow and the Red Cliff" と云ふのであつた。彼が讀んで行くと、私は甞て聞いたことのない程のものであると感じた。………私は皆がした樣に稱賛の意を表した。私はモリスが次の樣に云つた樣に記憶してゐる。「これが詩なら、詩を作るのはやさしいさ」と。この時から殆んど毎日の樣に新しい詩を持つて私の所へやつて來た。』（マツケイル著　ウ井リアム・モリス傳　第一卷　五十一、五十二頁）

彼は早筆で多産であつた。從つて彼の詩は數卷に溢れてゐる。その最も有名なものは長編の物語を詩にした "Earthly Paradise" である。「要するに英國の幾多の詩人の内でチョーサー以來この一卷の出現までチョーサーに及ぶ物語作者はなかつた」とス井ンバアンは云つてゐる。あるときは韻文で、またあるとき流麗な散文で、モリスは其の臨終まで、七年の間の苦しい仕事に努力した間を除いては、其の豐富な頭腦から詩想を發表した。

職業の撰擇

スモリスの最も強い、さうして持續的な衝動は其の詩想に任せて筆を採ることであつたが、彼が吾々に對して最も光輝を放つのは作者としてゞはない。もしも彼がこの方面にのみ其の溢るゝ許りの創造的生命力を集中したならば、英國は其の大詩人の名に新しい一つを加へたであらう。然し現代の英國は詩以上のものを要求してゐる。彼等は下劣の勞働が之を行ふ人を墮落せしめる許りでなく、其の果實を收める人をも墮落せしむるものであることを知るのを必要とした。安價な機械製の奢侈品を享樂するのは、之を生産するのと同じく墮落であり、野鄙な勞働階級は其の支配者として洗錬されない、非文明な

金權主義を持つと云ふことを知る必要がある。モリスはこれ等のことを觀察し、且つ傾聽する人に明かにした　モリスは、もしも彼が勉强の餘暇を詩作のみ費してゐたならば、これ等のことを學ぶことも出來なかつたし、また彼等に敎へることも出來なかつたらう。彼の活動は多方面であつた。さうして彼はそのことに情と理とのすべてを打ち込んだのであつた。モリスの一生涯の眞意義は私達のすべてが經驗する日常の行事から見事な閲歷と立派な人格を作つたことである。彼は神と人間との勞作であるこの世を、私達の大部の樣に中途半端に、さうして無關心にではなく、强烈な好奇心と驚きとを持つて見張つた友情と戀愛、家庭を作る衝動と四海同胞の感情が、すべての正し人いに起る樣に、モリスにも起つた。然し彼は是等のものを敏速に、何等の頑冥な抵抗なく受け容れた許りでなく、滿腔の熱心を以つて之に對した。新しい經驗は何時でも活動の出發點となつた。さうして新しい試みが舊いものに取つて代ることがなかつたのは其の最大の特徵であつた。モリスがオックスフォード時代の作である散文の物語に、彼は自叙傳めいたことを書いてゐる。其の主人公は云ふ。「私はあることが自分に出來るか出來ないかを直ちに發見することが出來る。さうしてそれが出來ないならば自分は永久にそれを捨てゝ、再び其の事を考へず、何の遺憾も、憧憬をも感じない。それは過去のことであり、自分に取つては終つてしまつたことなのだ。だがもしそれが出來るとなつて、私がそれをしやうと決心すれば、その時に、そのことを始め、それが成し遂げられるまでは側目も振らずにゐて、適當な時にそれを終るのだ。私は私の手をつけたすべてのことをこんな風にして爲したのだ。」（"Frank's Sealed Letter." フツオスフオート●ケンブリツヂ雜誌第一號 Oxford and Cambridge Magazine,"I.)

建築

これがモリスの理想であり、且つ其の實行であつた。其の初期時代のことを露はに語ると隨分異つた風に考へられるか、これがモリスの全生涯の眞意と彼の性行の傾向とを語るものである。私達は彼の僧侶となると云ふ意志がオックスフォードの第一期の研究と討論の終るまでは續かなかつたことゝ、諸種の藝術、殊に中世記の藝術が彼の心の水平を充たして來たのを知つてゐる。モリスが其の二度の愉快な休暇を送つた北部佛蘭西の大伽藍によつて起された熱心が嵩しだので、彼が其の

將來の職業――それによつて其の生活費を得る仕事を牧師に代へるのに建築師を撰んだのは極めて自然である、彼のストリートにおける年期は長いものではない、また彼は建築師にはならなかつたけれども其の職業を換へた根本の目的は變らなかつた。彼の生涯を通じての仕事、――充分な世間的成功を博した不斷の勤勉を以つて遂行して行つた仕事は現代の家屋を住むに足る樣にすることであつた。モリスが手を附けた仕事――繪畫、家具製造、染色、紡織、これ等すべてはこの目的の爲めに從屬してゐた。すべてこれ等のものは、本の印刷を除いては彼の勤勉の愛兒であり、一生美しい家を愛した情からではなく、人間の思想と言葉である文學に對する熱情から起つたものである。

繪畫

其の不思議な魅力が多くの人の生活を變へたロセッチの影響によつて、モリスは繪畫へと入つた。初めはたゞの娯樂として、後には建築を止めて彼の常職となつた。モリスの二十四歳のときオックスフォートからロンドンに移ると間もなく彼は書いてゐる。「ロセッチは私に繪を畫くべきだと云つた。彼は私は出來ると云つた。彼は非常に偉大な人で權威を以つて語り學者の樣でないので、私は試みなければならなかつた、私は多くを望まなかつた…………建築を捨てないで自分の仕事の外に、一日六時間繪を畫く時間が得らるゝならば試みやうと私は自分の最善を盡した。この程度の生活からは多くの享樂を得ることをが出來ない。私もそれを充分に知つてゐる。然しそんな事はどうでもいゝことであつた。私はどうしてもそれを求める權利はない。愛と仕事――自分の求めるものはこの二つである。…………私は政治や社會的の問題に興味を持つことが出來ない。私はそれ等のことが混濁の中にあることを知つてゐる。さうして私はそれ等のことを少しでも正しい所へやらうと云ふ樣な力もなければ天職もない。私の仕事はある形態において夢を實現することである。」(マッケィル、モリス傳第一卷一〇七頁)モリスはこの夢の國に其の友であつたこれ等の因習的な夢想家と交友しながら一二年を送つた。然し彼の眞に屬してゐたのは斯樣な世界ではなかつた。彼は不安で不滿足であつた。「彼は近頃人間的なものに强い趣味を持ち出した。」かう其の時代の交友の一人が書いてゐる。さうして間もなく、モリスの二十六歳のとき結婚と家庭を作る必要とによつて、モ

リスは再び世の中の生活に接觸することになつた。

裝飾

家を持つと云ふことはモリスに取つて新しい出發點であつた。さうして家庭を作り、之を裝飾することは一の神聖なることである。彼は下品な周圍に耐えることが出來なかつた。よく整つた庭園、うまく設計されて、丈夫に建築された家と使ふものにも作るものにも愉快である椅子と家具――これ等のものはモリスにとつては高尚な生活の必要な背景であつた。彼の友人のフイリップ・ウエップは彼の爲めに家を建てることが出來た。さうして若い建築師の中には眞に忠實な人がゐた。けれども其の家具と其の壁の裝飾品を何處に求めたらよかつたらうか。家内技藝は亡んだ。そは工場制度により、機械により蒸氣と企業とによつて滅亡された。「布と寶石と其の他あらゆる家屋裝飾品は使用の爲めではなく、利潤の爲めに作られた。それ等のものは最早之を製作する人にも之を使用する人にも快樂を與ふることなく、たゞ一所から他の所へ持つて行つて利益を得る商人にのみ快樂であつた。さうしてこれ等の人々の利益は、之が安價であり、外觀が立派であり、脆弱なことであつた。これ等のことは彼が建築師にも畫家にもならないと感じ始めたときに其の心に懐いたことである。さうして、モリスをして彼に適する仕事――それによつて生計の資を得る仕事、即ち實行することを必要とする仕事を發見せしめたのである。

商人及び製造者としてのモリス

ラスキンは十年前に次の樣に書いてゐる『人が爲さなければならない第一の事は、彼が何に適してゐるかを發見することである。このことを考へるときに、人はもしも其の自負心を持つて導かれないならば、其の嗜好によつて確實に決定することが出來るだらう。人々は通常次の樣にこのことを硏究する。「自分は何々會社の重役には適してゐない樣だから、大藏大臣に適する。」と。然し人々は斯う考へなければならない。「私は何々會社の重役には適してゐないが、小さい八百屋商賣なら

自分は豆の見分けがうまいので、何かやれるだらう」と。卽ち其の底を發見し得るまでは高いものを試みずに低い所を目指すのである。………私はこの問題に對する民衆の考への變化このことより、大なる善事が國家の爲めになし遂げられるとは考へることは出來ない。さうしてこのことは原則として最も普通の仕事に從事し、之を榮光あらしめる紳士階級の少數の善良な人々によつてなし遂げられるだらう。』

モリスと其の友人が「モリス、マアシャル、フォルクナア商會」として裝飾會社を起したのは斯樣な善良な動機からではない。然し、其の相互の了解は藝術の爲めと云ふよりも、社會的進步の原因たらしめ樣とする重大なことに向つてゐた。それは見すぼらしく、驚くべき程の小額な資本で始められた、然しモリスはこの事に其の全心を傾倒した。彼はこの仕事に非常によく適してゐたのである。「初めから商會は裝飾材料で必要なものは何でも製作した。建築上の補助材料、家具、毛氈、刺繡、ステインド・グラス、壁紙等がこれである。品物は一流のもので、技術と製作はすぐれており、價格は高かつた。………諸君は商會の理想通り作られたものを買ふか、さもなければ之を買はずに濟ますより外に致方がない。…… ……そこには何の妥協もなかつた。モリスは先輩組合員として、規定を作り、そのすべての顧客は之に服從しなければならなかつた。」（デ・ヂイ・ロセッチ＝其の家庭的書翰」第一卷二一九頁）

私達はこゝで其の初期の努力によつて遂に財政的の成功に達するまでの、初めはクイン・スケアで後にはマアトンで行はれた多くの仕事の面白い物語を迹つてゐる譯には行かない。その仕事においてモリスは管理者であつた許りでなく、職工長であつた。さうしてすべての人に藝術家の識見と、工匠の熟練とを與へた。彼特有の忍耐と努力――これ等のものが彼の子供らしい熱情と結合したのである。モリスの爲した仕事の記述だけでも面白い。壁紙と光澤附更紗とに圖案をつけ、其の印刷を工夫し、染色桶を見守り、織機で働き、今は失はれた毛氈織の技術を復興したことに時日を費したことを私達は知つてゐる。然かも其の餘暇のあるときには詩想が湧然として起つて來る。こんな狀態でも彼の友人はモリスが談笑のときと小宴と祝日との暇があつたことを認めてゐる。彼の家庭生活の多くの新しい、さうして愉快な有樣は今發行されつゝある其の全集に對するモリス孃の序文と脚註において見ることが出來る。其の小さな家庭的の饗宴には彼は其の中心であり主動者であ

つた。さうして彼にとつて重要である民衆の幸福に對しては彼は常に時間と精力とを費した。彼の諧謔を好むことは其の仕事を好むことの様に著しかつた。彼の普通のものに對する智識とそれに對する興味とを缺いたことがなかつた。彼はまた賢明な料理人であつて、常に其の熟練を證する機會を樂んだ。「私はあらゆるものを葱の様に強烈に作つたことを常に神に感謝してゐる」と彼は嘗て云つたことがある。

「親方工匠（マスタア・アーチザン）」

もし私達がモリスを、殊に彼が社會主義に導かれた經路を知らうとするならば、私達は彼が如何に仕事場殊にその工場と同化したかを認めなければならない。このことは彼が世間に對した仕事である。彼の言葉を借りて云へば「生活の仕事（ブレッド・エンド・チーズ・ウォーク）」であつた。ある親しい人に與へた書翰において彼は自ら「親方工匠（マスタア・アーチザン）――もしこの稱號を使ふことが出來れば」と云つてゐる。このことは彼の書翰から集めることの出來る許りの空な要求ではない。『私は染色についてのすべてのこと、極めて簡單な手工でさへも習得しやうとしてゐる。然し他の多くの簡單な事と同じ様に、この中には人から聞かなければ思ひも寄らないことがある。私は木綿印刷の業の外に木靴をはいて、職工服を着てワアドル氏の染色場で一日の大部分を費してゐる。』

またモリスは云つてゐる。

『今朝私は緞子にする二十ポンドの絹を藍の桶の中で染めるのを手傳つた。この方法は今は用ゐられてゐないので非常に興味のあるものであつた。さうして私達は絹を損傷してしまう危險があつた。そこには四人の染色職人とワアドル氏が働き私は職人の仲間になつた。人々はビールでもつて元氣附けられて、この仕事に從つた。さうして絹が桶から綠色となつて出て來て、段々藍色に變つて行くのを見るのは奇麗であつた。私達は今語つてゐる以上に成功した。最も年寄の職工の七十になる男が絹が昔はこんな風に染められたのを記憶してゐた。桶は隨分大きなものだ。深さが九尺あつて六尺四方のものである。さうして、その上の方までは地中に埋められてゐる。明日私はノッチンハムに行つて大青桶と云はれる桶の中で羊の染色されるのを見に行く筈だ。』

モリスの染色桶での仕事は効果のないものではなかつた。彼が熟練した染色者になつたと云ふ證據は極めて多い。『彼が自分の手で染色することを止めると、直ちに私はそれが違つたやうに感じた。色は全く標準的となり、さうして單調な趣味のない外觀を呈した。絹の色彩は以前より美しくはなかつた。あるとき私が不平を云つたときに彼は云つた。「彼等は餘りに賢明過ぎます。それは勿論彼等が色彩を愛さないと云ふ意味です。もし愛してゐたら元通り出來る筈です」と。』かうモリス商會の爲めに優秀な刺繍を提供した一婦人が書いてゐる。

モリスの社會主義の起源

人は其の全心を其の仕事に打ち込ふなければならない、さうして其の仕事は彼の愛する樣なものでなければならない。これがモリスの信條であり、彼の社會主義の根底に横つてゐるものである。彼について云へば、「其のすべての仕事に對してこのことは眞實であつた。彼がいやな手紙を數本書いて疲れたときに彼は叫んだ。「あゝハムマアスミスの小さい鑄型や、染色や、織物に再び歸ることが出來たならどんなに好いだらう。」と。彼の仕事はそれに對する愛から行はれた、けれどもそこには少しの素人臭い所もなく、非實際的のこともなかつた。彼は書いてゐる。「私は仕事を成功させるのが好きである。然し私自身が仕事をしない以上は出來ないことだ。私は金儲屋ではないが、自分で仕事をやらぬことは恐るべき障害である。私は多くの困難と快樂と希望と恐怖とを持つてゐたので、自分が失敗したり、貧乏になると云ふ樣な暇がなかつた。たゞそれは自分に對して快樂である仕事の自由を亡ぼしてしまつた。」こゝに彼が考へてゐる仕事と云ふのは「生活の仕事」でなくつて、「本を作る樂しみある仕事」である。この樂しみある仕事は終るときがなかつた。彼は暫らくは獨創のことをしてゐないことを嘆き、さうして彼が老いるに從つて、「想像と熱情とを失はない」ことを希望した。(一八七三年二月十一日附書翰、マッケイル第一卷　二九一頁)。彼は恐れる必要がなかつた。何とならば、彼の最善の勞作を靈感した北歐の物語と傳説との研究に入つたのは其の後年においてゞある。それは不思議な同質の發見であつた。さうして彼の現代文明に對する嫌惡は初期の北歐の物語に對する熱情の原因であり、また其の結果であつた。モリスは其の中に何れの時代におけるよりも多く

彼の望んでゐた人類同胞の繪畫を見た。彼は不思議にも現代の人工的社會と折合はなかつた。是れ等の古い物語りにある友愛と冒險と自由とは彼にとつては生命の呼吸の樣であつた。さうして何人も勞働者の下劣な奴隷狀態に對して公然と反抗した其の革命の精神を形成するに是等の古話が與つて力のあつたことを疑ふことが出來ない。「私がこゝに來る前に Nojalaを原文で讀んだ。それは私の記憶してゐるよりもよいものである。其の文章は最も壯嚴で北歐の最善の物語に常にある樣にすべての人の子は、お互に神々しく尊敬された。すべてのその英雄的行動の中にあつて Gunner の非常によい氣質、Njal の冷靜。私はすべての文學の内で、月光と飛雲の下のその家で Gunner の歌つてゐる所程慰安に富み、壯嚴なものを知らない。これ等の物語は何と云ふ勇氣の崇拜の產物であらう！」（マッケイル第一卷 三二五頁）

既に "Earthly Paradise" において私達は彼が心に懷いてゐた主張を知ることが出來る。さうして "The Lover of Gudrun の中には他の物語の中で見出し得ない妙味と榮光とがある。然しこの北歐の物語の影響が最も著しく表はれてゐるのは、彼の最大の文學的貢獻である "Sigurd the Volrung" である、この偉大なる叙事詩が書かれたのは千八百七十六年、モリスが四十二歲のときであつた。その時は恰度彼の匠工としての仕事に其の寸暇をも惜んでゐた時である。このことを考へると其の中年期における異常な情力と其の多方面とを知ることが出來る。然しこのことがすべてではなかつた。彼は詩人と工匠として偉大であるより以上に、人間として偉大である。さうして彼は研究と工場に閉ぢ込められてゐるには餘りに偉大であつた。勇氣と精力と忍耐との權化であるやうな彼は時機が熟したときは、世に出でて大事業に携はるのは確かである。然し其の時機は彼の中年まで來なかつた。然し遂に二つの原因が彼を要求した。其の一つ場合においてはモリスにおける反響は其の人類連帶の深い思想から來た。さうして他の場合には、そは過去と其の藝術が其の死と共に亡びた偉人に對する尊敬から起つてゐる。

古代建築物保護協會

崇高な中世の建築の遺跡を滅亡さしてしまふ復舊事業の亂暴な時流に對する憤怒はマッケイル氏によつて韓寫された書

翰の中に度々表はれてゐる。遂にモリスの故郷の附近にあつて彼が非常に賞玩してゐた舊い教區の教會の一が脅かされた時にさうして美しいトウクスリベーの寺院が破壞された恰度其のあとに、モリスの憤怒は遂に行動となつて表はれた。彼は一書を“Atheuaeum”に送つて緊急の必要を說明し、思慮ある人々が其の必要に應ずる爲めに彼に加はらんことを希望した。『私の希ふ所は古代の記念物に對して監視をする爲めに一の協會を設立することである。さうして、風雨を凌ぐと云ふ以上の「修復」に對して抗議し、文書其の他のあらゆる方に法よつて吾々の古代の建築は常に教會の玩具ではなく、實に國民の發達と希望との神聖なる記念物であると云ふ感情を湧起せしめることである。』この訴へは無功ではなかつた。一ヶ月の內に「古代建築物保護協會」が設立され、モリスは其の秘書になつた。(The Society for the Protection of Ancient Building と稱し、俗稱をモリスは Anti-Scrape と呼んだ。)

彼の死に至るまでこの目的に對する熱心は決して消えなかつた。彼はこの協會の爲めに其の趣旨書を書した。それは簡潔な英文の模範で、佛文、獨逸文、伊太利文、デンマアク文に飜譯せられた。彼は惜しみなく時間と金とを費した。モリスはこの利益の爲めに立派ではあるが自分には眞に心持のよい仕事でなかつた講演を初めてやつた。

ブルガリア虐殺事件

このことは千八百七十七年の春のことであつた。モリスがブルガリアにおける殘虐の恐るべき記事と英國がトルコを助けてロシアに對して戟を取つて起つだらうと云ふ恐れによつて初めて其の政治的言論を行つた數ヶ月前のことである。彼は“Daily News”に與へた書翰の中に云つてゐる。「このことを書いてゐる私は常には其の業を守つて靜かな生活を送り、公共的問題には多く注意を拂はないで、さうして、何んなに其のことを感じても英國國民と云ふ樣な大群集に向つて語ることを恐れてゐるが、今英國民が密接に接觸してゐる公共的事件において彼等が何等の希望もないのを考へて苦悶してゐる多くの人々の一人である。……… ………私は勞働者諸君に訴へる。諸君の上にこの恥辱が來る樣なことがあれば諸君は思ひ浮ぶことがあり、さうして時日が經過してすべてのことが明かとなり、諸君が今得んとしてゐるすべてのものと其れ以上のものを得た

ときには、それが諸君の負擔になると云ふことを注意せんことを願ふものである。」(一八七六年十月二十六日附 Daily News に與へた書翰。この書翰は "The Earthly Paradire," の著者ウヰリアム・モリスと署名された。)

私がこの書翰を引用したのは戰爭が差し迫まつて來た數ヶ月後に發表された「英國勞働者に對する宣言書」と共にモリスが初めて其の社會主義の宣言をしたものであるからである。その中には既に中央代議政府に對する不信用が表はれてゐるのが面白い。然し彼があの非常の元氣を持つて加はつた運動の起源は自由主義者であつて、社會主義者ではなかつた。數人の社會主義の領袖、例へばハインドマンは其の一人であるが、其の反對に立つてゐた。後になつて、ハインドマンは千八百七十九年初めてモリスに會つた驚きを記してゐる。「私がモリス其の人に會つたのは自分が其の詩を樂しみ、其の美的な安樂椅子により、壁紙などを作つてゐるんだと、若い無智な人のするに樣に少し馬鹿にしてゐた、その後の數年のことであつた。……私は彼を氣品のあるデリケートな紳士で其の感情に動かされ易い人であると想像してゐた。私達が皆な知つてゐる樣にこれは初めて見た彼の姿ではなかつた。其の鼻のあたりの纖細な線、其の前額の美しい形にはたしかに氣品があつた。然し彼の心の籠つた聲、彼の愉快さうな頑丈な體格、その樂くな水夫風の服、其の全體の姿これ等のことがあの「虐殺事件で騷いだ連中」に對して嘗てない、いい感じを自分に與へた。」(一八九六年十月六日の「正義(ジヤスティス)」)

東方問題は彼をして一時自由黨と共同の活働を行はしめたが、このことは自由黨が勞働者の幸福を託するに足りないものであることを彼に敎へた。彼は英國勞働者に對する宣言書の中に云つてゐる。「英國勞働者諸君！　もう一言注意することがある。私は諸君が此の國の有產階級のある部分の心中にある、自由と進步とに對する激烈な憎惡を知つてゐるかを疑ふ。……………是等の人々は嘲笑と攻擊となくして、諸君の秩序と、諸君の目的と、諸君の指導者とに就いて語ることは出來ない。もしも、是等の人々が權力を持つてゐたら、(英國は滅亡した方がいい。)諸君の正當な志望を抑壓し、諸君を沈默せしめ、諸君の手足を縛つて、無責任な資本家に諸君を永久に送るであらう。」と。

宣言書の全文はモリスが其の氣質によつて社會主義者であつた樣に、其の確信によつて社會主義者となつたことを證明してゐる。私達は私達の階級から出た英國の最大な偉人に吾々が負つてゐる負債を計へる爲めに、その生涯の物語りを少しく

止めやう。

モリスの社會主義に對する貢獻

私達の子孫がビクトリア時代の偉大の名を囘想するときに、ウ井リアム・モリスのそれよりも温かい興味を與へるものはないだらう。彼等はモリスを其の物語と詩と手工の復興において先驅者として記憶する許りでなく、彼の人格の强烈と其の魅力とによつて記憶するだらう。彼は其の友に深い印象を與へるので、其の印象が殘る樣な人であつた。さうして彼はすべての活動において通常の人より優れ、其の民族と其の國との代表物人物の樣な人であつた。彼は文學と製作に熟練してゐた許りでなく、人生にも熟練してゐた。旺盛な享樂力は彼の最大の特色であつた。彼は物を享樂することを主張した。彼の家にあるすべての家具は彼に對して享樂を與へなければならない。さもなければ彼は是を使用しないのだ。享樂のない勞働は奴隷にのみ適してゐる。モリスは指導者としては短見で、私達の當面の問題を捕捉することは出來なかつたが、其の社會主義に對する貢獻が絕大の價値を持つてゐるのは、この豐富な生命力の爲であり、生命と世の中とを愛したが爲めであり、彼は見る眼を持ち、聽く耳を持ち、感ずる心を持つてゐると云ふ事實にある。要するにモリスが藝術家で天才であつたと云ふことにある。經濟理論は其の得意とする所ではなかつた。また行政上の纎細のことも駄目であつた。然し彼は吾々の住んでゐる世の中のことをよく知つてゐて、さうしてそれを最も利益のある樣に用ゆることを知つてゐた。彼は同胞の觀念が深かつた。さうしてそれは洞察と同情とでもつて光つてゐた。だから私達はモリスの嘗てなしたその敎義に關する形式的論述からよりも、唯一の希望として社會主義を採用した其の經過卽ち社會主義へ近いた其の經路から多くを學ぶことが出來るのである。

社會主義への道

社會主義への接近は千八百七十七年に始められた藝術に關する通俗講演を其の最初とする。この講演においてモリスの同

情は工匠の上にあつた。彼は藝術家と工匠との間に本質的の差異を認めなかつた。二十志または三十志の最低賃銀の穩健な理想に對比して、彼の要求にはもつと人を感激せしめるものがあつた。工匠の雇傭は「彼と其の家族に對して缺望の恐怖と墮落とから救ふに足る丈けの金を必要とし、其の生活の爲めの仕事(それが彼に對して快樂であつても、)から充分な閑暇を與へて讀書し、思索する餘裕を與へなければならない。さうして大世界の生活と彼の生活とを密接ならしめなければならない。彼の仕事は前に云つた樣な性質で、之に對して稱賛あり、且つ其の僚友に好感を感ぜしめる樣な充分な奬勵を與へ、其の藝術の適當な部分を與へなければならない。(このことが其の主たる目的である)其の藝術の主たる部分と云ふのは、もしも、私共の我儘が自然を避ける樣なことさへしなければ、自然が自由に許して呉れる美にこと缺かない住居にあるだらう。」

モリスはまた彼が「單なる藝術」問題以上の所にさまよつてゐると云ふ非難に答へて云つてゐる。「私は民衆藝術の問題が社會の大部分の幸福または不幸と云ふことを包含してゐる社會問題であることを指摘したいと特に思つてゐる。現代から民衆藝術を除くと云ふことは次の樣な理由から不安であり悲しむべきことである。卽ち競爭のある商業が涵養しつゝある有識階級と墮落階級に人を絕對的に分つてしまうことを示すからである。

「吾々が富者と貧者との間の大きな恐るべき溝渠を埋めるまでは民衆藝術は其の健全な發達、否何等の發達をも遂げることが出來ない。………希望によつて慰められず、稱賛によつて鼓舞されないで、勞役に使はれてゐる無數の人々のことを考へるのは人間らしい生活をしてゐる正直な人の良心に對しては一の苦痛である。人々は其の勞働によつて其の隣人に對してなしてゐるすべての善の代りに、無報酬で其の一端にあつて施盤の短かい柄を廻してゐる。……………幾度も幾度も私は何故私の運命が普通の人の運命でなかつたかと自問した。私の仕事は簡單な仕事である。相應の智議のある人ならば、その仕事と其の結果とを注意することさへ出來れば、其の大部分を快樂を持つて成し遂げられる仕事である。私は自分の幸福な勞働の時間と多くの人々の運命である稱賛も報酬もない單調な賤役とを比較して眞實に恥かしいと思つた。さうして斯樣な勞働が文明の爲めに善でも必要でもあると云ふことを自分に知らせることは出來なかつた。」(とマンチエスタア・エキザミナーへの書翰、一八八三年三月)經驗と性格との熟するに從つて重くなつて來た「この良心の苛責」がモリスをして社會主義に到ら

しめたのである。人間生活の事件に對する洞察、彼の物語を靈感せしめた喜悦と苦痛と慾望とに對する洞察は彼をして社會の眞相を觀察することを得せしめた。

モリスに取つては富者の下品な奢侈は貧者の見苦しさよりも嫌はしいものであつた、『美しいものを生産すると云ふ慾望以外に私の生涯の主な感情は現代文明に對する憎惡であつた。…………機械力の勝利と其の浪費、其の社會の貧困と社會の敵の富裕、—其の洪大な組織、その愚劣さへなければ、すべての人が享樂し得る單純な快樂に對する非難、勞働の一つの慰藉である藝術を滅亡さす盲目的な野卑(ブルガリティ)——これ等のことに對して私は何と云ふか。』と彼は云つてゐる。彼は之に續いて、彼の改宗の物語を語りながら次の樣に云つてゐる。『過去の希望は過ぎ去つた。さうして多年に渉る人間の鬪爭はこの下品の目的のない、見にくい混亂を生じた。近き將來においても見苦しい文明が世界から取り除かれる以前に、過ぎし日の遺物を掃蕩して現在の害惡を助長する樣に私には思はれる。私の樣な性質の男、卽ち哲學と宗教とさうして科學的分析とに無頓着で、土地と其の上に生きてゐるものに對する深い愛を持ち、人類の過去の歷史に對して熱情を持つてゐる自分に對してはこのことはいやな有樣である。其の一生を會計室や應接室で送るのが、またすべて人が滿足する樣な便宜な割合で貧乏人には人工乳酪を富者にはシャンペンを與へ樣とする自由黨の委員會で送るのがその目的だらうが、然も美觀の快樂はこの世から消え、ホーマアの地位はハックスレイによつて代られてゐるのだ！　私が將來に對して心の中で自分の眼を向けなければならないときに、自分は眞に自分が其の内に見たものを描いたのである。私は何人も斯樣な文明の完成に對して努力する價値はないと考へるだらうと思ふ。だから私は文明の不淨の中に、私達が社會革命と稱する大變化の種子が發芽し始めてゐるのを知らながつたら、自分は立派な人生の悲論者になつたのだ。私に對しては、其の發見によつて全體の事態が變つて來た。だから社會主義者になる爲めに私の爲すべきすべてのことは自分を實際運動に適合させることであつた。」（「私は如何にして社會主義者となつたか」「正義」からの再刷）

社會主義の是認　社會民主主義聯盟

この實際運動に對する「適合」は、千八百八十二年の秋、モリスが四十八歳のとき「民主主義聯盟」に加入することによつて起つた。民主主義聯盟は間もなく「社會民主主義聯盟」となり、後「英國社會黨」の名稱に變へられた。)モリスは此の頃彼を諫めた一人の友に書き送つてゐる。『自分は普通の中產階級の急進主義(ラヂカリズム)が出來ることを成し遂げることによつて眞の社會主義的進歩を助長し得ると考へてゐた。然し自分は近頃になつて自分が誤つてゐたと云ふ結論に達した。急進主義は誤つており、急進主義は幾等發達しても急進主義に過ぎないのだ。眞にそは中產階級によつて、中產階級の爲めに作られたもので、常に富裕な資本家の統制の下にある。彼等は其を止めることが出來ると考へれば其の政治的發達に對して妨害はしないだらうけれども眞の社會的變革に對しては、彼等は之を助長することが出來ても、之を許さないであらう。』(シー・イー・モオリスへの書翰　一八八三年六月二十二日、モリス傳　第二卷一〇三頁)

モリスは數日後に同じ友人に書き送つた。『貧富の對立は耐えることが出來ない。そは貧富兩階級において共に耐ゆべきことではない。このことを感じて自分は自分にはたゞ壓迫と障碍に過ぎないこの制度の〇〇の爲めに活働しなければならない樣に思つてゐる。斯樣な制度はたゞ多數者の結合的不平によつてのみ〇〇することが出來る。中流並に上流階級の少數者の孤立的活働は自分が前に云つた樣に、これに對して全く無力である。云ひ換へればこの制度が孕くんだ階級鬪爭は其の破壞に對して自然な、必然的な方法である。』(同書)

モリスが社會主義を承認したのは眞面目である。彼の樣な稀な精神力と感情とに對する程の仕事ではなかつたが、彼は其のすべての精力とすべての熱心とを其の宣傳に投じた。如何に彼がマルクスを研究しやうと準備し、經濟問題を捕捉しやうと試みたかを聞くとき、私達は哀感を催ふす。何となれば彼が觀察者としての天分を用ゐたのは時々であるからである。彼の社會主義的文書は深く生活の中に食ひ入つてゐるので、永久の價値がある。彼の友人がモリスが特に辯舌の才がなかつたので、彼が詩人をやめて講演者となること悲んだのは自然である。然し彼はこの世に對する損失は取るに足らないものとした。彼はある親友に語つてゐる。『詩は手工と伴つて行くと思ふ。さうしてその如くそは今や眞實でなくなつた。藝術はそが再生し得る前にそのすべてを滅亡させなければならない。君はその問題に關する自分の見解を知つてゐる。私は其の見解を

自分に適用すると共に他人にも適用する。このことが自分が詩を書くことを妨げないのは、それが私の鑄型の仕事を妨げないのと同じである。何となれば個人的の快樂が仕事に自分を赴かしめるからである。然し、それは其の仕事を神聖な義務として見ることを許さない。…………宣傳は私に仕事を與へてゐる。それは重要でない樣に思へるが、捨てることの出來ない大なる全體の一部である。だから私にはそれで充分であるべき筈である。』(シー・イー・モオリス・への書翰　モリス傳 第二巻一〇六、一〇七頁)

社會主義者同盟

モリスの新しい義務を趣味のないものにしてしまつのは經濟理論の難解ばかりではなかつた。初めから其の一派の中には軋轢があつた。『私は自分の傾向に反してゐる仲裁者と妥協者の地位にあつた。』と彼は云つてゐる。猶ほ悪いことは續いた。妥協は不成功に終つて千八百八十五年の初め、モリスは脱退者の小團體の指導者であつた。其の團體は「社會主義同盟」The Socialist League と云ふ名を附けた。

六年の間モリスは團體の内部的行政と其の目的である革命の宣傳に多くの時と金とを費した。宣傳は主として「コムモンウ井ール」で行はれた。「コムモンウ井ール」は初め月刊で、後に週刊となり主としてモリスが執筆し、且つその編輯をした(イー・ベルフォート・バックスもその編輯に加はつた。) 社會主義の定期刊行物でこれ程光輝ある記錄を示すことは出來ない。"The Dream of john Ball" と "News from Nowhere" とは續きものとして其の紙上に發表された。さうしてある部分例へば "Mother and Son" 及び "The Half of Life Gone" そのある部分は彼の作品中の最大傑作に數ふべき "The Pilgrims of Hope" も其の中に現はれた。

是等の重要な作品に加ふるに、彼の筆になつた記事のない號は極めて少ないと云つてよい。すべてが簡潔な親しみのある言葉で書かれてあるので、私達は直ちに彼の人生觀と時事觀とに觸れることが出來た。

例へば千八百八十六年五月一日「コムモンウ井ール」が週刊になつた初めた「社會主義者同盟」の革命的態度を説明した

ところを見やう。

『吾々は殊に我國(英國)における進歩せる資本家階級が恐怖と不安の念とを持ちながら、最も淺薄な國家社會主義に向ひつゝありと信ずる。さうしてある一派の社會主義者はこの傾向を指摘して欣喜雀躍としてゐる。……………然し時流の方向を示す國家社會主義への有產階級の傾向の外にあるものがある。そは彼等をしてこの道へ行かしめた本能的の革命的企圖である。これ等に對する批評は如何。彼は屢々指導者なく、さうして半ば盲目的である。彼等は勞働者を苦めるより外の結果を持ち來さないだらうか。吾々はさうは考へない。何となれば彼等は有產階級をして、以上の樣にせしめる直接の利益がある許りでなく、そは勞働者自身に對して嚴格な敎育であるからである。…………吾々が恐れる最惡のことは壓迫せられた民衆が其の狀態に卑しい滿足を學ぶことである。……………最も淺薄な、最も不成功な革命でも、そのことには優つてゐる。』

モリスはまた他の號に書いてゐる。『社會主義者の眞の事業は勞働者に對して、彼等が全社會でなければならないのに、彼等が一の階級であることを敎へるのにある。もしも吾々自身を議會と混同すれば、吾々は之を民衆の心の中に明確にし、强調せしむる代りに、之を混亂せしめ、鈍らしてしまう。』(「社會主義と政治」「コムモンウ井ール」の附錄、一八八五年六月)

また彼は「興味なき勞働」と云ふ題下に書いてゐる。『今や世界の呪詛となつてゐる勞働の不興味が、世界の希望となると云ふのは眞の矛盾ではない。勞働者が其の家庭にあつて氣樂に、靜かに勞働の出來る間は、勞働時間の長いことなどは問題ではない、さうして他の害惡も忍ぶことが出來る。…………然し今や勞働は單なる重荷、一階級の疾患となつた。だから階級はあらゆる手段を以つて勞働を避けやうと企てゝゐる。其の重さを輕減しやうと企てゝゐる。其の努力において彼等は必然的に勞働の負擔を忍ぶことに其の基礎を置いてゐる社會を破壞する。……… 其の權力者は恐怖によつて、其の利害得失を考ふべきことを敎へた。彼等は勞働者をしてこの負擔を忍ばすべく幾多の手段を用ゐ、また用ゐるだらう。然し、次から次へとそれ等は觀破されて、さうして不信用になつた。慈善の榮えた時代があつた。けれども其の時代は最早過去のことゝなつた。節儉と自助とも正に滅亡しやうとしてゐる。利潤分配、議會主義、普通選擧、國家社會主義も同じ道を辿るだらう。さうして勞働者は最後に階級組織と嚴酷な訓練を持つてゐる現代文明は彼等の許すべからざる負擔の上に其の基礎を置くが

故に、雇主に利潤を與へる程度の如何なる勞働日の短縮も　其の勞働時間を充分に短縮したものでないと云ふ事實に打つかるだらう。彼等は現代社會がが彼等がその負擔を耐ゆる間のみ存續することが出來るのを知るだらう。彼等の忍耐は破れ、さうして現代社會は土崩瓦解するだらう。』

リードとブラッドフォードを訪問した後に彼は書いてゐる。『斯樣に極度に組織された産業における不斷の壓迫的訓練は必然的に人の智識を限界し、其の個性を滅亡する。而して組織は有力で寸分の隙もないので、彼等は彼等が勞働の機械でなくて濟む樣な組織を考へることが困難となるのである。』(「コムモンウ井ール」一八八六年五月八日)私達はまた他の場所で同一の思想が警句の中に包まれてゐるのを發見する。『個人的營利業者は勞働に對する必要ではなく、反つて勞働にする障碍である。』(同一八八七年七月二日)

「資本主義下における敎育」を論じて彼は云ふ。『自分の心はマック・コアカムチャイルド氏と其の方法を聞いて落膽した。さうして自分は思つた。私の敎へられた學校——私はそこでウ井ルトシャア・ダウン河の考古學と傳說とだけしか學ばなかつた。——へ送られた丈け富裕な家に生れたのは何と云ふ幸福だつたらう』と。(ゴムモンウ井ール一八八三年六月三十日)

『私がベエスウオーター其の他の所に金持が建てた下品な馬鹿馬鹿しい兎飼場見た樣なものゝ拙劣さに失望したときには、自分は材料を惜なく、價値ある裝飾の多い現代の最も高尙な思想に充ち、自由な多く人が製作し得る最良の藝術に體現された過去を持つた崇高な公會堂の光景を描いて自ら慰めてゐる。斯樣な私人の企ではない人間の住家のみ美と快適に近づくことが出來る。何となれば共同の思想と共同の生活とのみが、美を生むべき熱望を懷くことが出來、それを實現する熟練と餘暇とを持つてゐるからである。』(同、一八八七年七月二日)

かうモリスは「吾々は如何に生活し、さうして如何に生活し得るか」の題下に書いてゐる。

行政の民衆管理

「コムモンウ井ール」からの是等の拔萃は「社會主義者同盟」の見地が判きりと革命的なことを示してゐる。さうしてこのこ

とは其の宣言の中に明かに記されてゐる。そこには妥協もなければ曖昧もない。社會の基礎は變革されなければならない。『勞働者がすべての政治的權力を握らないまでは、どんな行政的變化も眞に社會主義へ近づくことは出來ない。』『私達が政治的權力と云ふのは特權の行使、または代議制度の充分な發達を意味するものではない。吾々は行政の窮極の目的か何であらうとも、全社會の行政を民衆が管理することを意味する。』(社會主義者同盟宣言書　モリスとバツクの註釋附新版　一八八五年)かうモリスは說明してゐる。

共產主義

この「直接管理」の方法についてゐる考へを宣言の中に求めるならそれは失敗である。然しモリスの講演は彼の形成した社會組織の理想にある光を投ずる。彼は云ふ。『新社會のこの見解を知る人々はその社會において分權が完全のものであることを信ずる。政治的單位は一の民族ではなくつて一の地方自治體(コムミュン)である。合理的社會の全體は是等の地方自治體の大聯盟である。…………民族は他の同樣な團體との競爭と戰爭との目的を以つて結合した民衆の團體である。さうして競爭か機能の結合に代ると民族は滅亡する。』彼は續けて云つてゐる。『將來の社會について社會主義が採つてゐる二つの見解を要約しやう。第一の見解に從へば國家——無駄のない生產と交換との爲めに組織された民族——は國民的企業と其の資源との唯一の所有者であり、勞働の唯一の雇主である。國家は勞働を一般的利益の下に規定するので、何人も職業の缺乏と其の相應な所得とを缺く恐れがないだらう。…………　第二の見解に從へば、中央集權的國民は地方自治體の聯盟となる。地方自治體は富を共有し、其の富を各人の必要を充足する爲めに用ゐ、たゞ各個人に對しては共同の富の生產に對して其の能力に從つて其の最善を盡すことを要求する丈けである。…………

「將來の社會に關する是等の二つの見解は、社會主義と共產主義として相反してゐる。然し、私は共產主義は社會主義の必然的發展に過ぎないと思ふ。社會主義は永い間の專制政治と競爭的商業によつて養はれた精神狀態とすべての人が努力しなければならないのは其の人の利益であると云ふ敎とから民衆を救ふ過渡期を包含してゐる。人々が人工的の飢餓の制度で

その恐怖を深くせらるゝことがないならば、勞働の浪費を避ける最善の方法はすべての人をして其の慾する所のものを共同貯藏所から取らせることだと考へるだらう。何となれば人々は彼の眞の必要以上のものを取つて何事かを爲す機會も誘惑も持たないからである。かくて、社會が官僚主義に墮する危險を最小ならしめることが出來る。多數の役所官廳の附屬物は之が民衆の代表者によつて、民衆の意志に從つて運用されても結局は厄介物に過ぎないのである。』(「社會主義者の見地より見たる勞働問題」「勞働の要求」と云ふ講演の一節　一八八六年)

國家社會主義の詳細な計畫はモリスの内に忿怒と嫌惡とを生ぜしめた。モリスの後年に當つて、穩和化された其の精神からフエビヤン主義の支配の下に叩頭したことを否定し得ない。然し彼の屈服は其の臨終の後悔によつて眞實のものでないことが知れた　實に、フエビヤン主義の信條はモリスの性質と背馳してゐた。將來の社會に對する彼の希望は自由なる人間の活働と、精神と肉體とにおける勞働の喜悅と誇りとの榮光ある光景に支配されてゐた。さうしてモリスは是等のことを、過去と結び附けた。彼が嫌惡したのは資本主義許りではない。現代の機械的生産の無味と精巧とも、もしも其の企業が國有で其の管理が官吏の手にあるならば、共に厭はしいものである。彼の美しい田園叙景文である「無何有郷だより」"News form Nowhere" は、ベラミーが其の「回顧」"Looking Backward" の中で社會的理想として中央集權と都市生活と賛美してゐるのに對する抗議として書かれたものだとマツケイルは云つてゐる。モリスの豫見した社會は消費者よりも生産者に對するユートピアであることが其の特色である。モリスは富の享樂よりも、其の生産に多くの興味を持つた。消費の喜びよりも、製作の喜悅に多くの興味を持つてゐた。

モリスは千八百八十九年六月の「コムモンウ井ール」に書いてゐる。『ベラミー氏は現在では唯一の勞働の刺激である飢餓の恐怖に代るべき刺激を求めるのに不必要に苦心をしてゐる。それでゐてそれは明かに失敗である。有用な、さうして幸福な勞働に對する眞の刺激が勞働の快樂であり、またあらねばならぬことは屢々繰り返して云ふ必要はない。』と。其の刺激を維持、寧ろ回復することがモリスに取つては問題である。街頭の人々は、多く見下げられてゐる批評家であるが、彼等がこのことに氣がづいてゐるにも拘らず、正統派社會主義者にとつてはこれは觀過し勝ちな問題である。經濟人と云ふ神話的人

物によつて述はされたのは今は昔話である。社會改良家は、この基礎を缺いた爲めに建設されると直ちに破壞される様な産業組織を考案した。然しこのことは經濟學者には觀過し得る小問題と思へ樣が、その意義はこの詩人の眼には明かであつた。其の時代に對するウヰリアム・モリスの眞の使命はこゝにあつた。社會主義運動における彼の特殊の活動はこゝにあつた。

自分自身工匠であるモリスは勞働者を抽象的に考へないで、多少彼自身と同じ動機を持つた僚友として考へた。この同情に溢れてゐる觀察は時々彼を誤謬に導いて行つた。殊に個人を論ずるときにおいて然りである。けれどもそはまた重大な然も普通な誤謬から彼を救つたのである。彼の將來の社會に對する見解、私達のすべてが努力してゐる新社會組織に對する見解は偏してゐるだらう。けれども彼の見たこの一面は行政的改革に通じ、階級闘爭を形成するのに熟達してゐる人々によつて見られなかつた一面である。フエビヤン協會の人々や社會民主主義者は其の中にあつた。彼等はその計畫から其勞働を通し其勞動において勞働者を人間化し、社會經濟における其の地位を實現せしめることを忘れ勝ちである。勞働者に對する高尙な生活、其の仕事の權威を認めることがモリスに取つては、吾々が努力してゐる目的である許りでなく、之を達する唯一な手段であつた。彼は書いてゐる。『生活と必要な勞働の組織の問題が、誰れも責任を感じない一種の魔術の様な作用で。巨大な國民的中央集權によつて行ふことが出來ると考へてゐる社會主義者のあることを指摘して置く必要がある。之に反して行政の單位は其の精細なことにも各人が責任を感じ、この事に興味が持てる位小さなことが必要である。各個人は國家と云ふ様な抽象的のものに其の人生の行事を任かすことは出來ない、彼等は各々其のことを取扱はなければならない。生活の多様と云ふことは、條件の均等云とふことゝ共に眞の共産主義の目的である。さうして、この二つのことの結合のみが眞の由自を持ち來すことが出來る。現代の〇〇は私達が終息せしめ樣とし、その終滅を共に亡ぶる商業戰の爲めに人工的に考案されたものである。さうして藝術は、其の言葉を最も廣い、また適當な意味において、自由な、幸福な人がなくて濟む樣な單なる人生の附隨物ではなく、人間幸福の必要な表現であり缺くべからざる用具である。かう主張する社會主義者のあることも指摘する必要がある。』（「コムモンウヰール」一八八年六月、ベラミー「囘顧」の批評）

モリスの時代にあつて、彼は「一種の魔術によつて行はれる巨大な國民的中央集權」の政治的行動を信じなかつた唯一人であつた。その頃英國において二種の相反する社會主義のあつたことは事實である。けれども其の反對は目的の相異でなくなつて、手段方法の相異であつた。一方は革命的方法によつて、他方はもつと狡猾な方法によつてその國の政府を乘取らうとしてゐた。之に反してモリスは一國の政府を輕視し、議會によつて行はる產業の民主的管理を非難した。自分の知つてゐる範圍では、モリスが、「有用な階級」によつてどんな種類の統制が行はるべきかの實際的手段を示したことがない、然し現在にモリスが生きてゐたとすれば、私達は彼がサンディカリストの中にゐるのを發見するのは疑問のない所だらう。議會によつての救濟に對する深い不信用と勞働階級における革命行動は、議會を構成するものとしてよりも、勞働者としての社會的責務の觀念によつて、より有效に湧起され、且つ涵養することが出來ると云ふ深い信念とは、彼をしてサンディカリストたらしめたであらう。議會主義による場合には其の利益は常に最も淺薄な政黨政治の上に集中せられ、勞働者の得る敎訓は從順の敎訓である。さうして彼は政黨の機關において一の分子として溫順に働らくことを致へられる。然るに、他の場合には勞働者は直接產業的生產と組織との實際問題に面する。彼の學ぶ所は物事に堪能であり、自信深く、人類の必要に供へる大企業において、良心と勤勉とを持つて其の地位につくことである。私はモリスがこの產業組織と勞働者との關係が實行される方法を明かにしたことがないと云つた。けれども千八百八十八年に書かれた私信には將來〇〇の廢止された後において代つて起るべき產業社會の飾りのない、さうして明確な叙述がある。彼は書いてゐる。「現在の代議制度は現代の階級的社會の反影である。現代のすべての政府の根底に橫はるものは階級の反目である。さうしてこのことが政黨を起すのである。……政治家の事業は所有階級の貪慾とその恐怖とを勞働者階級の必要と要求とに均衡せしめることである。それは悲しむべき業務である。そはすべての奸策と過辭とを用しめる。だから政治家が正直の人間であるかどうかは今更ら疑ふにも及ばない。さうして階級の支配が撤廢されゝば、それ等すべては破滅に陷る。人間相互の關係は個人的となり、富は人生の道具

だと考へられ、最早之は生活の理由として、人生よりも優越だとは考へられない。法律が存在するにしても、それは非常に少なく、簡單で皆なに容易に解することが出來、さうして之は主として人格の保護に關するものである。財産に關しては其の魔術性は消え去つて、其の使用のみが考へられる。私はこの炭山を採掘しやうが閉塞しやうが、この公園に變えるかまたは運動場として保存して置くか。この靴製造機は改良した方がいゝか、または、もとのまゝでいゝか。あの沼澤地を開拓するのに特別な人々を募集する必要があるか、其の耕作に對して賠償法が刺激になるだらうか。私共はかう考へるのである「次に將來の政治のことを考へやう之は人に對する政治と云ふよりは寧ろ物に對する政治である。さうして政治的單位としての民族は存在しない。この文明は大小種々な地方自治體の聯盟である。其の一方には都市と地方ギルドとかあり、他方には其の機能がたゞ社會の原則を保護すべき、中央團體がある。……この兩極の間に地位、氣候、國語等の便宜に從つて離合する多數の聯盟がある。その聯盟は必要のあるときには平和に解體する。この聯盟間における公の交際は代表の手段によつて行はれる。然し其の代表は何人をもまたは何事をも代表するものではなくつて彼等が代表に選ばれたことのみを代表する。「私達は主として靴製造の社會です、あなた方は紡績業者です。私達は靴を造り過ぎますか。私達のある者を一二ケ月耕作の方へ廻しませうか、それともこのまゝで續けて行きませうか。」と云の樣に云ふ。この見解の本質は一都市、區、區または地方ギルドは區域が狹いので、直接其の事項を取扱ふのに充分であると云ふのにある。私は公共事業が段々に單純になつて行つて、一の通信に過ぎなくなるのを信ずるものである。「私の方の事實は斯うです。あなた方の方の事實にお較べ下さい。さうすれば何うしていゝかが判るでせう。」と云ふ風になる。だから私達はすべての〇〇を廢止する樣にしなければならないし、また、私達に眞に用のないすべての規則をも廢さなければならない。さうして自由な結合が必然の慣習となり社會の唯一の結合となるだらう。」（ベイントンに與へたるモリスの社會主義に關する書翰、一八九四年　私刷　三十四部）

モリスがクロポトキンの「團體」とも、また、現代サンディカリストの産業的ギルドとも其の社會的基礎を形成する自治體を地方化することにおいて異つてゐたのは注意を要する所である。人は生産者として組織されなければならないと云ふが彼の信念であつたにも拘らず、彼の家庭を愛するの情は近隣の關係と同じ土地に生れたと云ふその關係を輕視する社會觀には

反對した。國民としての英國ではなしに國土としての英國は彼に取て懷しいものであつた。けれども其の生れてから成長して來た英國の一部は一層懷しいものであつた。もしも私達がモリス並に其の將來に對する態度を了解することが出來るならば、私達はモリスの社會主義が、彼が其の感情において保守的であつた樣に、革命的であり、非妥協的であるのを知ることが出來る。彼が呼んで國家社會主義の過渡期と云つた時代は、過去の精細と變化とに變へるのに、無趣味の統一を以つてするので、彼にとつては厭はしいものであつた。彼は結局國家社會主義は必然的に到來るのであることを認めた。彼は之が平凡な行政に續いて起つた平凡な煽動によつて來たものであることを知つた。然し彼はこれに何等の熱心も感ずることが出來なかつた。

革命への敎育

社會民主主義同盟との分離が、個人的誤解でない限りは、其の進歩の迂回的な間接的な方法に對する抗議であつたことは既に知つた。彼の願望は敎養ある人々を説明することでなく、また議會に代表を得ることによつてゞもなく被壓迫階級を糾合し得る革命の標準を高めることによつて活働する社會黨を組織することであつた。其の新しい企を試みる一の刺激は民衆の中にあつた不滿の印であつた。この不滿を一に集中し、之を明かならしめることが、其の社會主義者同盟を形成するについての彼の目的であつた。彼の心の内には、彼にとつては「單に殘虐に過ぎないで」「腐敗し、僞善に深侵み込んでゐるので、人々は絶望的な嫌惡を以つて、諸々に彷徨つてゐる」社會に對する激しい嫌惡が生じた。彼はたゞ一途にのみ其の希望を見た。革命への道が是である。然し、その道は、彼も知つてゐる樣に、除々であり、峻嶮であつた。社會主義を其の目的とする勞働者の黨派を敎育して、民衆の不安の沸騰する樣な勢力が最早抑へることが出來ないと見たときに、指導者は民衆の内に躍り出でゝ、彼等が何を目的とするか、其の要求する所は何かを告げなければならない。目的のない反抗は反革命を起すことによつて彼にとつては恐るべき災禍であると考へられた。二十五年前のその時代を回顧すると、私達はモリスがまだ時期でない烽起の危險を過大視したのを知る。社會はこれに熟してゐなかつた。敎育は指導の爲め許りではなく、斯

様な烽起の原動力である壓迫と不正義とに對する忿怒を生ぜさせる爲めに必要であつた。彼は新社會の誕生が近く、さうして社會主義者の任務は、この爲めに來る混亂と苦痛とを少なくする樣に之を導くことであると信じた。『革命への教育は、私達の政策か何であるかと云ふ言葉を以つて云ひ表はすことが出來るやうに思ふ。』と云つた。その政策は一方においては彼を議會主義者と妥協主義者とから分離せしめ、他方において、直接革命の危險のある無政府主義者から分離せしめた。だから社會主義者同盟の發達は頗ぶる除々であつた。そはシルラと渦巻の間を舵を取つて行つた。モリスは出來る丈け其の舵を取つた。けれども彼の見た革命の道はその多くの僚友に何等の興味もないものであつた。數年後奪掠、爆彈、市街戰等の政策が口達者な社會主義同盟の會員によつて公然と主張された。さうして千八百八十九年にはこの意見が頗ぶる盛になつたので、モリスは事實上、「コムモンウ井ール」を支配することから斥けられた。けれども「コムモンウ井ール」の事務とそれに要する金とはモリスが負擔してゐた。彼は千八百九十年十一月、「吾等は何處にありや」と云ふ題で其の最後の論述を發表するまで、「コムモンウ井ール」に寄稿した。社會主義が「復活」してから過ぎ去つた七年間を評論しながら、モリスは「反抗の方法」が行はさるべき二つの傾向即ち、「穩和派」と「部分的な不合理な革命派」とを叙述し、さうして、兩者と異る彼自身の政策を説明してゐる。彼は結論にかう云つてゐる。『私達の任務は、民衆に、社會主義はよきものであり、且つ可能のものであることを知らせて、社會主義者を作ることである。こんな風に考へる人々が多くなると、彼等は其の原理を實行するに必要な行動を發見するであらう』と。

この權威ある抗議は同同盟の多數の會員によつて惡感を以つて受けとられた。さうしてモリスは彼の是認しない政策を持つてゐる團體とは其の關係を斷たざるを得なかつたのである。

ハンマアスミス社會主義者協會

モリスの脱退後社會主義者同盟は十八ケ月の間騷擾があつた。さうしてそは「コムモンウ井ール」の印刷者と出版者との捕縛によつて劇的な最後に終つた。然るにモリス並に彼と其の見解を同じくした人々は「ハンマアスミス社會主義者協會」を

組織した。さうして社會主義同盟の地方支部へ、モリスによつて起稿され、彼等の行動を説明した同文の回狀を送つた。會員は初め非常に少なくまた決して多くはならなかつた。エメリー・ウオルカアが其の秘書で、モリスが會計であつた。さうして會合はケルムスコットの家で催された。

モリスは其の死に至るまで、一般幸福に對する熱心を決してなくしはしなかつた。さうして彼の無政府主義に對する反對は弱くなると云ふよりは寧ろ强烈になつて行つた。千八百九十年十二月に彼は書いてゐる。『私達の努力するのは社會の解體ではなくして、其の再完成である。現代の社會を攻擊してゐるある人々の抱懷してゐる各個人の完全な獨立即ち社會なき自由の思想は單に、其の實現か不可能な許りでなく、深く研究するときは考へ得ざる所である。』(ハンマアスミス社會主義者協會宣言書)

七年の平和なる勞作

社會主義に對する彼の信仰は元の樣に强烈であつたが、時の經過するに從つて、直接に必要な活動が彼の趣味と其の力とに反してゐることを彼は知つた。

『あのいやな議會政治のことでは自分は絕對に役に立たない、直接達せられる目的、實現の曉には無趣味のものである國家社會主義への少し許りの前進——これ等すべてのことが自分を少からず煩悶させる。私はまた他に多くの理想主義者(自分に對してこの言葉を使つても好いだらう。)が自分と同じ樣な地位にゐることを自分は知つてゐる。さうして私は、もし必要であるならば、何故彼等が結合して、そのいやな業務から遠ざからないかを解することが出來ない。この考を說くのは常に必要である。けれども私は、他面において自分が一片の「貴重」なものの爲めに自分の最善を盡してゐないのだらうと考へて苦しむことがある。』(バアン・ジヨンス夫人への書翰　一八八八年七月二十九日　マッケイル第二卷二〇六頁)

モリスを會合を作る爲めや、街頭で演說する爲めに利用するのは、金銀で象眼した刀劍で土地を掘る樣なものであつた。十九世紀においても生活が多樣であり、快樂に充ちてゐることを彼が示さなければならなかつたのはこゝである。滅亡した

印刷術の復興、其の晩年の一心不亂の製作こそ彼の生涯の眞の事業であつた。彼の前に横つてゐた理想の爲めに健氣にも戰つた七年間の悪戰苦鬪は、更に七年間の靜穩な幸福な勞作によつて繼續されたことを思ふのは私達の愉快である。さうしてその勞作は、すべての工作において世界を豐富にし、其のことに就いて幾卷の書籍を書くに値するものであつた。

然し彼は最後まで時々社會主義の講演に出掛けた。彼の死去する恰度一年前千八百九十五年十月三十日にオックスフォード社會主義者同盟の爲めに一場の講演をした。さうして半ケ月後には社會民主主義聯盟の新年會へ出席して、そこで結束に關する簡單な、然も氣高く肯綮に當つてゐる演說をした。二日後彼はケルムスコットの家で其の最後の日曜講演をやつた。その演題は同樣の問題であつて、「一社會黨」と云ふのであつた。

最後の一年間は健康は減退して行つたが、斷えざる勤勉を以つて其の最大な文學的貢獻に費された。このケルムスコットのチョウサーは其の長篇の物語 "The Sundering Flood" を執筆した。

彼は千八百九十六年十月三日六十二歳を以つて死んだ。さうしてケルムスコットの小寺院に葬られた。彼の屍體は色々な草花で飾られた車に乘せられ、其の土地の人々に引かれて其の墓場に向つた。(終)

ソリダリテ

レオン・ブルジョア

（二）

經濟學者は富の生產分配、及び消費の現象の所作に於ける國家の一切の干涉を非難する。彼等はいふ、此等の現象を規定する理法は自然法であつて、人間の立法者は之を決して變更してはならぬし加之之を變更することは出來ぬと。

哲學的に謂ふと、人間は自由である。國家は生存競爭に於ける此の自由の行使を人間に保證することを以て自ら足れりとせねばならぬ。何となれば此は更に總ての進步の源泉であり條件であるからだ。

個人的財產は自由そのものの如く、人間的個人に固有なる權利である。個人的財產は啻に自由の結果たるのみならずその保證である。故に此の所有權の特質は絕對である。こは「利用し濫用し得る權利」jus utendi et abutendi, である。或る人の所有權は他の人の所有權に依つてのみ制限せられ得る。課税の先取除をけば、個人的財產の中には何等社會的部分なるものが存しない。縱し慈善が義務、止むを得ざる義務であるにせよ、こは純粹に道德的義務である。

國家が暴行と竊食とに對して各個の自由と財產とを擁護する爲に必要なる手段を取つた時に、國家は一切のその權利よ義務とを盡し終つたのである。此の限度を超過する一切の干涉は今度は國家の方面から、人間的個人に加へる暴行と竊食とに變ずるだらう。

之に反して、社會主義者は經濟的生活の現象に於ける國家の干涉を要求する。科學の驚くべき征服にも拘らず、大多數の人類の幸福が著しく增加しなかつたのは、富の生產及び分配に關する立法の缺如に基くのである。それ處でなく、科學に依る世界の改造は或る人々の貧困をして他の人々の財富の違常なる增大に比較し競爭すればする程益々慘澹たるものにしたのである。

經濟學者の無干涉の論題は、要するに、溫度の暴力の辯護に過ぎない。自由なる生存競爭に於ては、强者は弱者を破滅

する。此は冷淡なる自然が吾々に提供する光景である。人間が社會に於て生存するのは、其處に斯かく住まる島であるか？若し人間の自由が一の論理であるならば、生存權も亦必然に所有る他の權利に先立つ一の原理であつて、國家は一切の他の權利の前に之を保護せねばならぬ。

更に所有權に關して、社會主義者は歷史が吾々にそがその性質に於て又その限界に於て變化し得べきものなることを教示すると云ふ。所有權はそが眞に自由の成果である時のみ自由の延長である。然るに之に反して、そは殆んど常に直接に暴力的征服に依るにせよ、間接に資本の高利的行動に依るにせよ、不公正から生じたものである。人間の活動と自由の表現たる勞働が、資本を占有する人々の特權と成つた財產に基礎を與へる力が無くなつたことは、今日より甚しきはない。

故に國家は――その存在の理由は人と人との間に正義を立てるといふことである――平衡を建てる爲に干渉するの權利と、從つて義務とを持つのである。人間の利己心は强權に依つてのみ征服され得るから、國家は必要に於ては權力に據つて正義の規律を課するであらうし而して斯くして各人に勞働に於て又所產に於て彼の正當なる分前を保證するであらう。

（三）

以上述べた二個の論題に就いては、其の論爭が日毎に益々偕調し得ざる特質を暴露するかの如く思はれる。併し乍ら如何にして調和が此の「矛盾者」の間に可能になるやうに見えるか？此の二論の銘々が有つてゐる科學的眞理の部分と道德的眞理の部分とを如何にして少しづゝ偕和せしめて、漸次に世論、道德、法律に加へるのであるか？

科學的眞理と道德的眞理。吾人が既に云つたやうに、社會的概念の更新が準備され成就されるのは、實に科學的方法と道德的觀念との親密なる一致に因るのである。而も不思議なことには是は或る著述家が得意になつて道德と科學との決定的乖離と並びに後者の社會的破產を宣言する其の時に於てゞある。

科學的方法は今日所有る認識の秩序に滲透してゐる。最も背反する人心が抗議することに於て、次第に其處へ集つて來る。

社會學の範圍に於ても、其他の範圍に於けるが如く、眞理は事實の公平無私なる確證に依つてのみ得られることが出來るものとして現はれる。

經濟的並びに社會的現象は、人が爾後知つた樣に、物理的化學的及び生理的現象の如く、避くべからざる理法に從ふの

である。孰れも皆必然的因果の關係に從はざるを得ない。而して方法的歸納のみが此の因果の關係を認識し測定することを理性に許すのである。

扨て現象が複雜であればある程その觀測は愈々困難であるから、實驗は稀にしか試みられ得るに過ぎない。けれども現象の複雜とその研究の困難とはその關係に就いて正確に何一つ變へはしない。人は一切の主觀的理論と一切の哲學的敍述の概括とが現象を說明し規律する力がないことを痛感してゐる。

生活し思惟する存在は物理的、生理的及び心理的法則に從つて發展するものであるが、自然なる社會法は此の法則の最高級に於ける表現に外ならない。

幸運や非運を命令する前に充分に力ある政治的權力といふものは更に無い。何となれば、健康或は疾病、理智或は非理、懶惰或は勤勉、秩序心或は浪費心、先見の明或は無頓着、利己心或は無私心を命令し得る何物もないからだ。

故に自然法の範圍を超へて又自然法に反對して試みられる所のものは總て徒勞であつて豫め虛無に鎖されてゐる。改良家の體系は彼等の夢――是は天才の夢であつたにせよ――の影像の中に社會的世界を建て直したので、當にプトレメエの體系と同じ丈の實在性と持續の運命とを有してゐる。

併し一科學が成立するためにその方法とその道程とを發見した丈けでは充分でない。その目的とその性質とその固有性とが明瞭に認識せられ決定せられねばならぬ。然るに、人間と社會との關係の問題は特殊性に就いてである。是は單なる知識的好奇心でない。そを吾人の前に提出するのは、道德的必然である。そが目的として解放せねばならぬのは。啻に知識的秩序の眞理たるのみならず、道德的秩序の眞理である。

物理學の發見は啻に人間にとつて彼に世界に就いてより眞なる見方を與へる單なる景狀であつた許りでなく、そは此の世界の表面を變形して而して自然力、それ迄隱蔽されてゐた形象神秘的な恐怖された女神をして、彼の意志に服從する奴隸たらしむることを彼に許したのである。

物理的世界の法則の發見が物質生活の變態の爲に爲さしめた所のものを、道德的及び社會的世界の法則の發見は社會生活そのものの變態の爲に許さねばならぬ。

人間は單に科學に依つて自然を說明する所の、知識であるのみならず、同時に良心である。

理性的存在として彼は眞を追求する。良心的存在として彼は善を追求する。彼は此の善を實現するの本務があると自ら

感ずる。若し彼自身に於て斯かく感ずるならば、それは個人的道德である。若し彼と相似なる其他の理性的並びに良心的存在の間に斯かく感ずるならば、之は社會的道德である。

人間は社會的演劇の前に無關心に留ることは出來ない。それは彼は其の見物人であるのみならず、其の役者でもあるからだ。若し演劇が涕涙に於て、暴行に於て及び憎惡に於て終はるならば、彼は共犯人たるか犧牲者たるかである。若し大團圓が平和の中に、正義の中に及び愛恕の中に終はるならば彼は英雄である。彼の種族と存在の理法そのものである處の衷なる力は常に彼を告戒して彼を行動のうちに投ずるのである。

洵に、幾百年の間といふもの、彼は演劇が現生以外の他の場所で、卽ち其處に一切の悲痛は癒やされ、一切の貧窮は慰められ、一切の罪過は罰せられ、一切の功績は讃美されるだらう世界に於て。終るだらうといふことを信じてゐた。而して彼は長い日の間、彼の兩眼が永遠に閉される時に初めて其の眼を輝かすことが出來るだらう所の此の黎明を待ち望むことに自ら委ねて居た。けれども此の忍從は忿怒と疑惑に場所を讓つた。若し此の死後の審判が果して迷想に過ぎなかつたならば、科學が追い掃つた其他の色々の夢想に等しいものではないか？……而して此の同じ憤怒が忍從する人にも又物を得たいと思ふ人にも同時に、此の人生から、彼等の幸福の分前を得させたのである。――而して考へたり求めたりする人彼等の理性と彼等の心情とが目標とする理想が彼等の目前で實現されるのを目擊し度いと思ふ人にも、等しく彼等の幸福の分前を與へたのである。

以後、問題が提出されるのは叙上の通りである。社會は經濟的現象の宿命的所作に對して冷淡に留ることは出來ぬ。偕かに、社會は世界を改造することは出來ない。社會は何等此の秩序に於ても他の秩序に於ても等しく必然的である原因結果を夫等の關係に於て修正しやうとは思はない。人間の智惠は心理的、歷史的、經濟的の諸力の原動力を注意を籠めた觀察に依つて發見したのであるが、社會は其他の自然力を征服した如く、以上の諸力を征服してそを道德的觀念の秩序に從へることを望んで居る。

而して、此の道德的觀念が意味し要請するものが何であるかを確實に規定する爲に、社會科學は總ての科學に共通なる方法に依つて、此の個人と人間社會との關係の問題を解くことに努力せんとする。社會學は全く出來上つた體系と云ふものを考へないであらう。社會學は法律の、歷史の又政治の結

合を相關的な何時も訂正し得る外觀として考察するであらう。社會學は最も古代の最も尊敬すべき制度をも、自由なる理性の徵證に、經驗の驗證に附するであらう。社會學は定式の下に傳統的實體の下に、自然なる唯一實在性、卽ち物理的實在知識的實在、倫理的實在、人間的存在並び人間的種族の次望、能力、感情を覓めるであらう。社會學は、一言を以て謂へば、欲情的 理性的、良心的存在を、人間的個人の分析に委ねるであらう。此の欲情の、理性の、良心の存在は一擧にして抽象され創造されたものでなく、祖先の經承から生れ祖先の遺傳に從ふもので、彼がそれと絕間なき交換の關係に於てある環境の內に生活して、終に物理的、知識的及び道德的人格の一屑高尙なる典型の方への絕へざる進化に於て生存するであらう。

以上に依り、人間的個人の各個と相似なる存在の全體との間に建つ可き最善の平衡の客觀的實在的條件が決定されるであらう。又人間的典型と人間的社會の完全なる發展の方への各人及び全人の平和な絕間なき進化が保證されるであらう。

（四）

斯くして問題の二個の條件が結合されたことが了る。

理性は、科學に依つて指導されて、行動の避くべからざる法則を決定する。意志は、道德的情操に依つて指導されて、此の行動を掣肘する。

社會主義者が――人を惡み暴行を說く社會主義者でなく、平和を欲し人を愛する社會主義者が――無干涉を非難して惡の全滅を追求することには道理がある。經濟學者が總ての改善の試みを事實の學の規則に從屬させることには道理がある。

歷史學、心理學、統計學、實驗政治學、經濟學及び社會經濟學に對して、理性は手段を要求する。良心は目的を指示して吾人を其處に推進する。

善は眞に依つてのみ實現されることが出來る。然し眞は善の實現の爲めでなければ何の價値も持たない。眞の條件に於ける善の實現――換言すれば、理性の承認ある道德的情操の滿足――とは何ぞや？斯くして玆に方程式が決定的に立てられたのである。

ソリダリテの學說は果して其の解答を與へるであらうか？

（第一章終り） 百瀨二郎譯

ギルド社會主義（二）

ギルドと社會全體

こゝで吾々はギルド社會主義の原理において、簡單に說明するのには最も困難な點に達してゐる。諸君が、私の述べたやうな種類の團體卽ちナショナル・ギルドによつての產業管理の思想を進めて行くと、諸君は次のやうな問題に遭遇する卽ち是等のギルドは全體としての社會の爲めに活動する代りに、彼等自身の利益の爲めにのみしか働らきはしないか。また彼等は消費者の利益に奉仕することなく、彼等自身の利益をのみ追究しないだらうか。諸君はギルド社會主義の下において鑛夫が罷業をしないと云ふ保證を與へ得るかどうか。私は直ちに云ふ。私は諸君に、諸君は私にこの世において鑛夫が罷業しないやうな組織を案出すると云ふ保證を與へることが出來ない。何となれは、もしも、鑛夫が鑛坑を下つて、石炭を採掘することを欲しないならば、この世には坑夫を鑛坑に下らしめ、石炭を採掘せしめることの出來る權力はないからである。諸君が援助を借り得る所のものは坑夫が喜んで鑛坑に下り石炭を採掘するやうな制度を工夫する企てゞある。この點が吾々のやうな理論家に反對する多くの人々の誤りに陷る點である。何となれば彼等は常に現在の組織の下においても坑夫は喜んで鑛坑を下り、石炭を採掘すると假定してゐるからである。その假定こそ段々と根據の薄弱な眞實でないものとなりつゝあるのだ。もしも吾々が坑夫をして鑛坑へ下らせるやうな新工夫を發見しないならば、吾々は遠からず、吾々の家が現在よりも寒くなり、吾々の工場は石炭の缺乏の爲めに、その活動を停止し、吾々の全產業制度は解體することを發見するであらう。斯やうなことを吾々に對して行ふのは單に坑夫の欲するところでないのみならず、すべての產業において、かゝることの起るのは忌はしいことであるだから諸君にとつては、ギルド社會主義者は、坑夫が社會全體の爲めに生產するので彼等自身の爲めに生產するのではないと云ふ保證を與へないと云ふ丈けでは充分ではない。

奉仕の動機

諸君がもしギルド社會主義に反對するならば、諸君は、ギルド社會主義の下において彼等か活働するよりも、以上に活働するやうな制度を示さなければならない。私は人がその勞働生活の條件に對する合理的な管理と、さうして市民として彼の政治的生活の條件に對する合理的な管理とを有する制度は最善の保證を與へるものと信ずる。何となれば、之は人に對して社會全體に對する自由なる奉仕の機會を與へると同時に市民としてまた消費者として、さうして生産者としての彼の能力をよく表現すべき機會を與へるからである。然し私は種々なるギルドが、これ自身の利益の爲めではなく、公共目的の爲めに活働することを保證する爲めには、主として産業における新しい精神と自由なる條件の下における公共奉仕の精神とを盛にすることによらなければならないと信ずる。私もまた他のギルド社會主義者も共に坑夫その他の勞働者團體が、その關係する産業を所有することを欲するものではない。現在の狀態では産業の國有を主張する事において集産主義者と其の要求を同じくしてゐる。吾々は産業が公衆によつて占有せられ、所有せられなければならないと信ずる。たゞ吾々の主張する原理と集産主義の原理との異る點は産業の國有後における産業管理の問題にある。吾々の考へる所では單に一産業を國有にすると云ふことでは。公衆がその管理權を受け取つたと云ふことにはならない、寧ろ之は公衆が、彼等の爲めに産業を管理するやうに官僚を任命したことに過ぎないのである。吾々は最も能率的に仕事をすることを知つてゐる民衆によつて産業が經營されるやうに彼等にその産業を引き渡すことが、産業經營の最普の方法であることを知つてゐる。即ち一方においては産業が、その科學的並に商業的方面において如何に能率的たることが出來るかを知つてゐる技術者によつて他方においては、その協動がなくては財の生産が不可能である筋肉勞働者、この兩者に對して産業を引き渡すことである。

公衆の所有

吾々は次のやうな理由から産業の公有を欲する。もしもある産業が一の餘剩を主産したならば、吾々はその餘剩がその産業の所有に歸さないで、國庫に歸屬しさうして全國の收入の一部分たるべきことを欲する。これと同樣に吾々は生産された貨物の價格並に提供された勤勞の價格が、是等の貨物を生産し、是等の勤勞を提供する人々によつて決めこれることを欲しない。吾々は貨物並に勤勞の價格は社會全體に

よつて定めらるべきものであると信ずる。さうして、是等の事柄は單に勞働する生產者の關する事のみでなく、全民衆の決定すべき事項である。何となれば、貨物の價格は生產者に影響するのみではなく、消費者をも影響することだからである。吾々の筋肉並に精神勞働者に對して要求した事は生產から消費に至るまでの全經濟的過程の全體的の管理でなく、生產過程と生產に關連した分配とに對する管理である。吾々は勞働者は財を生產し、勤勞を提供する方法に關係する產業的部分を管理しなければならないと云ふにある。けれども生產者か消費者と接觸して來ると、卽ち消費者が直接に影響される場合、例へば、價格に關し、また產業における餘剩の分配に關しては、吾々は消費者の發言權を承認する。加之、吾々は生產者によつて行はるる生產の過程について、充分に批評する權利を消費者に認める。さうして、石炭委員會への坑夫の勸告は、ギルド政策の一表現であるか、その中には鑛山ギルドに對する特別消費者委員會の提案において、以上の見解が明かに表はれてゐる。さうして、そは社會を消費者の側から代表するものである。故に吾々は產業の公共的管理と民主的管理とを要求する。是等のものは不可分なる吾々の綱領中の二つの方面で、さうして共にギルド社會主義の社會の建設に必要なものである。

協同經營

私は產業組織のギルド社會主義的解決において組合運動（コオペラチブムーヴメン）の占むべき地位について一言を費さう。諸君が大產業や大施設例へば鑛山や鐵道や、船舶についてのみではなく、他の大生產的產業について云ふときには、私は是等のものが徐々に大體において坑夫の計畫のやうな。國有と民主的管理と結合してゐる階段に達し。さうしてそれが直接の、實際的の政策になることを信じてゐる。けれども諸君が小賣的の分配事業並に直接個人的消費者と接觸する小規模の產業、卽ち家庭において個人的に消費せられる貨物を生產してゐる產業の場合を云ふときには、私は家內生產と關係のある多くの產業や事業は普通に吾々の云の意味の國有の階段に達するか、どうかは確實ではないと思ふ。私は諸君が一國の諸產業並に事業を大體三種に分類しなければならないことと思ふ。卽ち第一は國民的範回のすべての大產業並に事業を包含し、それを國有化し得る集團、第二は、市有たり得べきものの集團、卽ち吾々が通常公共事業と云ふのもの。例へば瓦斯水道地方運輸等のやうな地方的權威によつて所有せらるるもの、第三は諸君

が家內工業と稱するもので、私はこれが共同所有になり、さうして國家、都市その他の公權的所有の形態には移らないことと信ずる。私はこの第三の集團において、卽ち家內工業において協同經營が社會主義の社會において殘存することと信ずる。

私は今農業における消費組合について語つてゐるのではない。農業においては消費組合の將來發展すべき餘地が多いのであるが、農業以外の產業にあつては、消費組合が中心的地位を占める所は家內工業においてである。さうして消費組合は、是等の產業における勞働者の組織者としてのギルドに關連してゐることは、國家または國家に代るべきものが、大公共產業並に施設を組織するものとしてのギルドに關連し、都市その他の地方的公權が地方的に公共的事業を組織するものとしてのギルドと關連せしめるのと同樣である。

民主主義の觀察

勞働組合主義以外の勞働階級運動は消費組合である。消費組合を閑却し、または消費組合を不必要に排するやうな學說は必然的に失敗に終るのである。ロシヤにおいては過激派が彼等の原理に消費組合を從屬せしめやうとした。さうして彼等は失敗した。彼等に對して消費組合は强大であり過ぎた。何となれば、そは社會の生產してゐる人々の間にその根柢を持つてゐる運動だからである。彼等と同樣に私はこの消費組合の問題に對さなければならない。さうして將來の社會において消費組合の眞の領域を發見し、是等二つの勞働階級運動を共に盛にし、是等の運動に對して調和的協調を發見することによつて、吾々の社會革命を成就しなければならない。私はこのことがなし得ると信じてゐる。私が近い將來の社會において見やうとしてゐるものの一は、單なる消費組合の研究ではない、また單なる勞働組合主義の研究ではない。そは勞働組合主義と消費組合主義との共同研究であつて、さうして是等の二つの勞働階級運動を、其の實際において急速に行はれてゐるやうに、理論上においても一致せしめやうと云ふのにある。もしも諸君が是等の二つの勞働階級運動を合併することが出來れば、そか社會において有する權力には限りが無くなるのである。

四つの問題

この講演の終りに、私は四大問題を擧げる。それは私が是等の問題を別々に論じやうと思ふからではない。私は是等の

問題を、諸君の前に提出することによつて、自分の講演を通じて論述してゐた所から推論し得るところのものを安固たらしめやうとするからである。もしもギルド社會主義が生々した學說であるならば、それは是等の四つの問題について答へなければならない。ギルド社會主義は國民所得を分配する方法を示さなければならない。自分は個人として平等の原則を信ずるものであるが、必ずしも絕對的平等の規準の下でなくつて、大體において經濟的に平等であり、公正であれは足りると思ふ。と同時にギルド社會主義は常に新しい資本を作つてゐて年々の國民的生産を二部分に分つことが出來ることを示さなければならない。即ち其の一は人々の直接の必要を充足するものであり、その二は産業資本を補償し、將來の生産を助長する資料を供さなければならないものである。他の形態の社會主義におけるが如く、ギルド社會主義の下においては貯蓄は全體としての社會の事業である。さうして集産的社會主義の下におけるやうに、ギルド社會主義の下においては將來に對する準備は全體としての社會の事業である。吾々はギルドの會員へ所得の形態において若干を分配することが出來る。さうして、若干を將來の發展の爲めに取つて置かなければならない。かう云ふのはその社會において年々豫算を編成する人々の任務である。これは他の種類の社會主義に起ると同樣な問題をギルド社會主義に對しても提供するのである。

ギルド租税

加之ギルド社會主義は、その財政的方面において、私の知る限りにおいて、最も容易なる基礎を租税に對して提供するギルド社會主義下における租税の基礎は種々なる産業におけ る資源に對する租税である。私達はギルド社會主義の下において收入を求める主要なる方法――唯一なものではないが――は種々なるギルドに賦課されるこの資源に對する租税であると信じてゐる。この方法は社會がギルドの生産物の價格を決定した後において、諸種のギルドの間に殘つてゐる不平等を矯正する甚だ有用な方法である。

小規模生産人の復歸

次にギルドの構造にいて論ずる。諸君の面前に資本主義の存する間は、資本主義の鬪ふ爲めに諸君の勢力を集中するより外のことはない。然し私は勞働者が經濟的自由を獲得することが出來ると直ちに、爲さなければならないことは、吾々の作つたこの巨大な集中的な經濟制度を打破することであ

る。私は彼等が機械を破壊するだらうと云ふのではない。私は地方主義(ローカリズム)の徐々たる變政が行はれるだらうと信ずるのである。高級な貨物に對する消費者の需要を充足する爲めに小規規生産への變政が行はれるだらう。それは急激なことではないだらう。もしもそれが急激なことであつたならば、之は災禍である。それは勞働者の教育から、彼等の仕事における。より大なる自由から、また彼等がよりよい仕事を行ふとする願望から起る徐々なる過程であるだらう。然しこの小規模生産への復歸は諸君がある種の經濟的自由を獲得し、現在の資本家的制度を打破しない限りは、之を實現することが出來ない。故に諸君が終極において、地方的または、國民的または國際的ギルドを信じてゐても、諸君は現在の組織を打破し、之に代つて經營し得る一の組織――それは諸君の欲する終極の形態の組織でないにしても――を作ると云ふ問題に諸君の注意を集中しなければならない。

「人性(ヒユーマン・ネーチユア)」

最後に私の言ひたいことは「人性」に關する問題である。さうして諸君が人性が變化すると云ふことを信ずか否かを問ふことなしに、ある重要な問題について講演を續けることは不可能である。さうしてある興味ある問題を論ずる爲めには、明白な問題について豫め論ずるのは常に賢明である。然らば、普通の人の性質は何うであるか。この問題は今論ずるのにはあまりに大問題である。多くの人々は、普通の人は自由たることを欲しないで、たゞ多くのことをなすにあまりに干渉されないこと卽ち放任されて置くことを望むのみだと云ふだらう。然し私はこれを眞實であるとは信じない。私は普通の人が彼等が欲することは放任されることであると云ふだらうことを信じてゐる。然し、もしも諸君が彼を放任したならば彼が適當な仕事をなし、自分の享樂を進めて行くとは信じない。彼は直ちに非常な困惑に陷るであらう。普通の人が眞に欲するところは、彼が望むならば、自己を表現する機會を持ち、多方面に自己を表する多くの機會を持つと云ふことである。それは彼が是等の機會をすべての時、すべての場所において利用し得るからではなく、彼が欲するときに、之を使用し得るからである。諸君がすべての講演に出席しなくてもこの連續講演の聽講券を持つてゐるのは心持の悪いことではない。また、諸君がすべての形態において自由を享けると云ふことに特に關係がないにしても、すべての自由を確保されてゐるのはよい心持である。私は立候補した誰かに投票する以

前に死ぬにしてその選擧權を持つことを喜ぶ。さうして私はこの感情が一般の感情であることを信じてゐる。

街頭の人

この點が多くの人の誤謬に陷る非常に重要な點であると信じる。彼等は、普通の人は産業を眞に管理することを欲しない。だから彼がこの機會を持つも。持たないも。敢えて關する所ではないと云ふ。然し是は重大な誤謬である。吾々は何人も 産業を管理する機會を持ち得ると云ふ基礎の上に産業を組織しなければならない。それは吾々がすべての人が、その機會を平等に利用すると信ずるからではない。そはすべての産業の空氣が、その機會が與へられれば、變ずると信ずるからである。さうして、それは眞に産業を管理する人々が他の承認を作て管理することを意味するからである。すべての人が眞に協動してゐると感じ、産業を管理してゐるすべての人が彼の指導の下にその仕事をしてゐると感ずるからである、もしも、吾々が産業に、承認の感のみならず、協働の感情を採り入れることが出來れば、その協働が最も活働的のものでないにしても、仕事の行はれる精神を大いに變更することが出來るであらう。私はその變化が非常に大なるものであることを信じてゐる。さうしてもしも吾々が、その適當な條件を提供し得たならば、現在よりも多數の人々が、眞の産業の管理を實行するのに活動的であり、敏速であると信ずる。同時に、諸君が産業を適當に組織したならば、産業か現在の人心の上に占めてゐるやうな不當な地位を占めるやうなことはなくなつて、そは現在吾々の精神において占めて地位から吾々が心を腦ます必要のないやうな小問題になつてしまうと信じてゐるのは勿論である。さうして私は、吾々がその感情を得たときには、産業について、私が講演し、心を腦す必要のなくなることを希望してゐる。私は産業はそれ自ら經營し、自分は他の問題に向つて行くことを信ずるものである。然し現在の所では私は尙ほ數年産業につい語らなければならないと思ふ。

民衆を信ずること

人情に關する最後の問題は諸君が民衆を信用するか、否かの問題である。私は舊派の社會主義の問題としたところは、産業自治の狀態の下において民衆を信用することが出來ないと云ふにあつた。集産主義は少しも民衆を信用することがなかつた。私は今彼等が變つたかどうかを知らない。然し少く

とも數年前までは、彼等は民衆を信じなかつたにしても、彼等は尙ほ官僚的社會主義によつて、ある種の社會を建設することを望んでゐた。然しこの望みは消え去つた。例へ、何人かがそれが存在することを欲したにしても、官僚的社會における希望はない、さうしてそれが活動する望はない。さうしてまた資本主義がこれ以上存續すると云ふ望みもない。だから吾々は産業組織の問題を研究する新生面に對さなければならない。舊い消費者本位の社會主義もまた資本主義も、最早財を生産することが出來ない。だから諸君は私の言つてゐる方法か、または諸君がある方法を案出して人をして生産に向はしめなければならない。第十九世紀の全體を通じて行はれた方法即ち飢餓と恐怖との方法以外の方法によつて、過去において民衆が勞働した唯一の理由、民衆が斯様な憐れな斯様な不公正な條件の下に勞働することを承認した理由は彼等が恐迫され、彼等が飢に迫まられてゐたからである。もしもこの狀態が打破されるならば――現に到る所において打破されつつあるが――すべての人は勞働しないか、また勞働するにしても、他の全然異つた由から勞働するであらう。私の唯一の理由、さうして諸君が人々をして勞働につかせ得る唯一の訴へは、その勞働において彼等が眞に社會の爲めに奉仕してゐると云ふ信念である。もしこの信念にして活動しないならば、何ものも彼等を活動さすことか出來ないし。また世界は終滅に至るであらう。それは急激にではない。けれども、それは徐ろに云ふすべてに對して不愉快のことである。産業は年々にその能率を減じ、すべてのものはエッチ・デー・ウエルスが描いたやうな隱慘、不潔、希望なき狀態に達するであらう。もしも吾々がそのことを避けやうするとならば、もしも吾々が舊社會の破壞される以前に、新社會を建設しやうと欲するならば、吾々は早く之の實驗を行はなければならない。さうしてそれを信任の上に行はなければならない。吾々がなさなければ ならな いことは、レスリー・スコット氏が其炭鑛委員會の以前に、炭鑛所有者側に立つて云つた所の「暴擧」と全然同一である。(終り)(甲野哲二譯)

國際勞働標準 (ヘンダーソン)

七、勞働者保護の法律命令は、原則として家內工業にも適用すべき事。社會保險の適用範圍を家內工業にも及ぼすべき事次の場合は內職を禁ずべき事。
イ、建康を害し或は有毒に成り易き仕事の場合
ロ、食料品を包裝するに必要な袋や紙凾の製造を始め、一切の食料品製造家の內工業に於てほ、傳染病の通告は强制的たらしむる事。傳染病のある場合は、住宅內の仕事を禁じ且つ適當の代價を支拂ふべき事。家內工業に於ける總ての勞働者竝に仲立人の强制的名簿は、常に保存し調査すべきことを契約すべき事。總ての勞働者は賃銀帳の所有を契約すべき事。家內工業に使役する青年の醫學的審査竝に住宅の審査を準備すべき事。家內工業のある各地方にては、使用人と勞働者の代議制を組織し、合法的賃銀率を決定せざる可からざる事竝賃銀率は勞働の場所に掲示すべき事。
八、勞働者は總ての國に於て自由な團結と組合の權利を有すべき事。法律竝に法令の內に於て、或る階級の勞働者を他の勞働者との關係上特殊な地位に立たしむる如きもの、或は勞働者の經濟的利益を代表する權利、竝に團結や組合の權利を剝奪するが如きものは廢業すべきものなる事。移民勞働者は、彼等が移住したる處の勞働者と等しき權利を有し勞働組合に加入し、仕事に携り、同盟罷工に付きても同樣な權利を有すべき事。團結、組合權等の行使を防ぐ干涉は如何なるものたるを問はず罰せらる可き事。
各產業に於て、他國の勞働者は、一樣に雇主と勞働組合とに依り提結せられたる賃銀、竝に勞働條件に均霑すべき權利を有する事斯くの如き契約の存せざる場所にありては、他國勞働者は當設地方の彼等の產業に於て習慣となれる賃銀を、獲得すべき權利を有すべき事。
九、移民は禁止すべからず。一般に移住は禁ず可きものに非ず。上記の原則は次の諸權利に影響を及ばさず、
イ、經濟上の恐慌期に際し、當設各勞働者竝に外國移民勞働者を保護する爲め、一時的に移民を制限し得る國家の權利
ロ、公安を保持せむ爲め移住を管理し或は、一時的に移住を阻止し得る國家の權利。

八、移民が其の母國語に於て讀書し得る最底標準に達することを、要求し得る國家の權利。斯は當設國家の普通教育の標準を保持し、移民の從事する産業の諸分派に於て、勞働規約を有効に適用爲さむ爲めなり。

但し此等の例外は、第十五條に規定せる委員會の同意を要するものとす。

締盟各國は遲滯なく、國外勞働契約に依る勞働者雇傭禁止の法律も採用し且つ該問題に關する個人的雇傭代表機關の活動を阻止し、自由契約に依る勞働者の雇入を禁止すべき事。

締盟各國は公立職業紹介所の報告に基き、勞働市場の統計を編纂し、且つ國際中心市場を通じて該統計を速かに發表し勞働者をして勞働の需要なき國に赴かしむ可からず。此等の報告は特に勞働組合に通牒せざる可からず。勞働組合の行動に依りたる場合は、如何なる勞働者も、國外に追放する事を得ず。斯くの如き追放に對する控訴は普通裁判所之れを受理するものとす。

一〇、男女を問はず勞働者の平均賃銀が、適當の生活標準に滿たざる場合、或は勞働組合と資本家との間に於ける團體的交渉不能なる場合は、政府當局者は賃銀委員會を組織し資本家竝に勞働者を等しく代表せしめて、法定最低賃銀を設定すべき事。加之に締盟各國は出來得る限り迅かに國際會議を召集し、賃銀の價値減少に對する有効な豫防手段を定め、價値に於て減少せざる金錢上の支拂を、勞働者に確得すべき事。

一一、失業者を減少する爲め、各國に於ける現存職業紹介所は完全に且つ迅速に勞働者の需給報告を備へ、相互に聯合すべき事。失業保險の組織は、各國共に設定すべき事。

一二、産業上の事變に對しては、勞働者は國家より保證せらるべき事勞働者竝に其の扶養者の要求は、該勞働者を使用せる事業所在地の、國家の法律に依り決定せらるゝものとす。孤兒、寡婦、養老、竝に障害保險、法は內國人たると外國人たるとも問はず等しく適用せらるべきものとす。就業者も走る外國勞働者は、年金の代りに一時に相當金額も受取ることも得、但し此の問題に關する條約が泣勞働者も使用したる國家、竝に彼れの本國との間に實施せられたる場合に限る。

一三、海員保護に關する特殊の國際法典と設定すべき事。竝法典は各國海員勞働組合の協力に依り編纂せられざる可からず。

一四、此等條項の實施は始めに各國勞働省竝に各國の產業檢閲官の手に委ねられざる可からず。竝檢閲官は、專門的衛生的竝に經濟的老練家より選出せらるべきものにして、且つ其の中に勞働者竝に被傭人（男女も問はず）をも含まるべきものとす。勞働組合は勞働法實施を有効ならしむべく援助すべき事。

他國人も尠くとも五人以上使用する資本家にありては、法の命ずる處に從ひ、竝勞働者に關する勞働規約竝に其他重要な掲示書きも母國語にて掲示すべき事。又自費を以て尙該國の國語にて注意をする事が出來るやうに設備すること。

後進國の困難

吾が英國の如き、改善された經濟狀態に對する要求が如何であらうと――而して私は其の要求が甚大である事を認める。――次の事實は承認しなければならない。卽ち後運國の勞働者の生產品が吾勞働者の生產品と競爭する樣な地位に立入る結果、吾等の努力が防げらるゝと云ふ事だ。此の點こそ闘稅論者が最も合理的な主張も見出す處であり且つ國際商業戰の影響を受けた資本家が、賃銀を引下げる爲めの理由として、勞働組合役員に主張する點である。夫れ故此の障害を除去するには、他國の標準を高めることが必要であり亦た、總てを總括する國際協約に依つてこそ始めて有効に實現し得るのである。新產業界に於ける最大な害惡は、疑なく長時間勞働と、小兒竝に婦人勞働の絞取とである。總て此等の諸問題は後に示す如しワシントン會議の會議事稅に上てる。而して印度の工場では、法律に依り定められた成年勞働者の勞働時間は、十二時間であり、日本は十四時間であるから其の間大に改全すべき余地があるわけである。下記の諸事項は讀者に對し亞細亞竝に米國の勞働問題を滿足に解決する爲めには、如何に爲すべき事が多くあるかを知らしむることであらうと思ふ。

印度――一九〇八年の勞働狀態に關して工場勞働委員會衞生委員のテイ、エイ、ネイエイアー博士がミノリチー報告に記述してある。纖維工場に於ける勞働時間は十三時間から十五間の間である。緊急の日には紡績、印刷、製粉所等にあつては、十七時間より二十二時間が普通である。成年の職工は一ヶ月に十五留比、乃至二十留比（一磅乃至一磅六志八片）迄での賃銀を得、一日平均凡そ十片、女工は七片である。そして九歳から十四歳迄での子供は一日に二片半を得る。孟買に於ける職工の呪ふべき生活狀態は、ネエヴィンソン著「印度の新精神」の中の二百八十六頁に記載してある。一九一一年の印度工場法は、纖維工業に於ける男女工の勞働

時間は十二時間で少兒勞働者は六時間である。纖維工業にあつても夜業は交代制で許されて居るが日曜休日は規定せられて居る。通風、給水、衛生、光線に對する規定は完全の樣に見えるが最高罰金は僅に十二磅に過ぎないのである。

日本――公民權は財産資格に基いて居り、勞働組合も無ければ又勞働新聞も無いやうな行政狀態にある。同盟罷工は暴動的陰謀として取扱はれて居るが、夫れに拘はらず行はれて居る。農業の平均賃銀は一九一四年に於て、男子は一日七片半から十片、女子は五片から六片迄で、織物工場に於ては男工は十片、女工は六片半である。

絹織物業に於ける勞働時間は、(主として少女に依り行はれる)十三時間乃至十四時間で機織工十四時間乃至十六時間である。他の工業に於ては一日十時間から十二時間が普通である。纖維工場は普通年期契約に依る女工を使用する。其の契約期間は普通三ヶ年であつて女工等は使用人所有の合宿所に住はされて居る、そして大體十二時間晝夜交代で勞働して居る。

アール、ポーター氏は此等合宿所を次の如く記載してる。食堂は小舍で、夜は漏り、土の床の上には水溜りがある。合宿所では女工は筵の上に眠り、人數は一室五十人乃至百人である。然し他に模範的なものが無いではない。工場に働く子供は義務教育を免れてるやうに思はれる。ポーター氏は「稀には女工は休日を與へられ合宿所外に出る事が出來る」と云つて居る。

日本最初の工場法は、一九一一年に通過したが一九一五年に至つて始めて實施せられた。此は單なる概要に過ぎない。何故と云ふに契約の規定、注意條項、災害に對する賠償等は、總て行政命令の定むる儘にされて居る。如何なる重要の箇條も例外規定があつて 地方當局者が自宅に例外規定を作る事を許されてる。小兒の勞働は十二歳以下は禁ぜられて居たが、地方の法規に依り十歳以上は許される樣になつた。十五歳以下の男女に對する勞働時間は最初十二時間であつたが、地方當局者は之等の規定を、十四歳の者にまで擴大することを許された。最初女工、並に少年の夜業は禁止されて居たにも拘はらず、交代制で許さるゝこと、なつた。紙上に於てさへ該法は習慣的狀態に對し、何等の變革も與へて居ないことは明白であらう。

支那――狀態は非常に異つ居て規定なるものはない。上海に於ては勞働は比較的高率である。絹織物業の女工は一九一〇年に於ては四片から六片で、一日十一時間勞働である。Upper Yangtse 炭山の工夫は一日二片半の賃銀と二片半に價する肉、と米とを得て居る。Sianfu に於ける不熟練勞働者の一日の普通賃銀は一片半である。イー、エー、ロッス教授は「概説するならば、支那帝國内の如何なる場所に於ても、相當に智識あり、且つ熱心な勞働者を一日八仙から十五仙(四片から七片半で 幾人でも雇傭することが出來る」と云つてる。(森恪記)

ギルド社會主義正誤（二）

頁	行	誤	正
四	一一	徹廢	撤廢
七	六	觀察しだ	觀察した
一一	四	堅くない	難くない
一一	七	政策	政策
一九	三	伴り	作り
二〇	三	願みて	顧みて
二一		キルド	ギルド
二四	五	ことがきる	ことができる
二六	一	いつこと	いつたこと
二九	四	獨逸に輸入	獨逸にも輸入
四二	二	比べゐ	比べる
四三	一三	機威	權威
四四	三	繪畫	繪畵
四四	一三	そば	そは
四六	四	薔薇	薔薇
四六	一一	家貝	家具
四九	一一	特種	特殊
五〇	五	めつだ	あつた
五二	六	士耳古	土耳古
五二	七	憤瞞	憤懣
五二	一一	睹博者	賭博者
五四	八	初ゆ	初め
五五	一三	まづて	もつて
五七	一	そにには	そこには

頁	行	誤	正
五七	三	うちちに	うちに
五八	八	同志ともに	同志とともに
六二	八	慰籍	慰藉
六六	五	快樂	快樂
六六	七	奉任	奉仕
六七	八	末だ	未だ
六七	一三	欲ぜさ	欲せざ
六八	一	強い	強ひ
六九	一〇	堅く	確く
七三	一一	そこにに	そこに
七六	一二	從れに	彼れに
七六	一三	亭樂	享樂
七九	二	けおる	おける
七九	五	革的命的	革命的
八二	一	士地	土地
八五	七	侵透	滲透
九〇	終	ゐる	ある
一〇〇	二	藥輔	藥舗
一〇〇	三	銃制	統制
一〇七	九	だある	である
一一一	一	次のたうな	次のような
一一五	一	政策	政策
一一五	一〇	利盆	利益

頁	行	誤	正
一一六	二	土壞	土壤
一一六	二	消減	消滅
一一六	一三	平等のの	平等の
一一七	二	一航的	一般的
一一七	四	輪鄭	輪廓
一一八	一二	社會主者	社會主義者
一一九	一	特制	特別
一二一	八	奉ぐ	擧ぐ
一二四	九	七地	土地
一二五	一二	經濟上の（エコノミックレンド）	經濟上の地代（エコノミックレント）
一二六	一	士地	土地
一二六	三	特種	特殊
一三〇	五	言藥	言葉
一三二	一一	撰擇、及び	選擇、及び
一三三	一一	第段楷	第一段楷
一三四		創性	創生
一三四	一	撰擇	選擇
一三五	九	特別	特別
一三八	八	三田學界雜誌	三田學會雜誌
一三九	一	押ゆ	抑ゆ
一四一	二	それで條件あつた	それが條件であつた
一四三	七	でゝめり	であり
一四四	一〇	幼果	功果

（つゞく）

社會主義文學――勞働文學に對する抗議

□

數年前人道主義藝術に對して民衆藝術が起つたと同じ意味で、資本主義藝術といふ概念の下に勞働者の生活、革命的心理若しくは煽動、昂奮といつたものを扱はざる一切の藝術――それはイズムの何たるかを問はず、現代に於ける文壇の中心勢力のすべて――に對して企てられる反抗――が謂ふところの革命文學、勞働文學となつて顯はれてゐる。そしてこれ等の革命文學の中には明に二つの相異なれるカテゴリーがある。即ち一つは文壇のブルジョア的占有に對する反抗運動の顯はれであり、他の一つは文壇的雰圍氣から沒交渉に、民衆の實際生活の上に力強き根柢的要求を有する。革命的昂奮の顯はれである。故にブルヂョア組織破壞運動の要具として前者のエフエリトは消的極であり、後者のエフエクトは積極的である。――しかし乍ら彼等が共に等しく革命運動の要點であり手段である意味において彼等の立脚地は本質的に同一である。

□

既に社會主義藝術、勞働藝術が本質的に革命運動の要具としては存在するかぎり、其價値を決定する標準は客觀的効果を離れてあり得ない。客觀的効果を第一の標目とする時藝術に於て動機は僅に其附帶條件に過ぎなくなる。誰れがミリタリズムの藝術（若して人なものがあるとすれば）然んして乃木希典を推すであらうか誰れが。資本主義の藝術家として大倉喜八郎に傾倒するであうか。

□

社會主義的倫理を有せざるもの、革命的感激や前提とせざるもの――プロレタリアの悲慘痛苦を體驗せざるものそのすべては革命藝術に非ずといふ觀方は夫自身階級的偏見の上に立つものである。大米龍雲に非ずんば張盜の心理を描く能はずとなすものである。齒の浮くやうな安價な中學生的感激の中に涵てヒロイズムの奴隸になつてゐるやうな藝術が、僅にその中に階級鬪爭の事を認識し、金持に對して氣持の宜い啖呵を切てゐるから革命藝術だと言ふならば村上浪六などゝいふ人は眞先きに革命藝術の大本尊にならなければならない。

□

若しそういふ意味の革命藝術があるとすればそ命革藝術とはある偶然のエフエクトによつて決するといふより外に定義のしやうがない。ツルゲネフのバアデイン・ツイルがロシアの青年の民衆運動を刺戟したといふことも、ユーゴーのレ・ミゼラブルが過去幾十年の間若きヨーロッパの昂奮劑となつたといふことも唯偶然のエフエクトの問題である。何となれば革命は一つの事件（アフエイア）であつて理想（イデエア）ではないからである。若し最初から革命藝術といふ概念に主觀價値があるといふならばそれは最早藝術ではない。――プロパガンダである。（尾崎士郎）

定價

毎月一回一日發行	郵税
一部 卅錢	五厘
半年分 一圓七十錢	税共
一年分 三圓三十錢	税共

但特別臨時號の價は別に申受く

▲誌代は總て前金　▲郵劵代用一割増

▲送金は可成振替　▲外國行郵税十

大正九年十二月一日印刷納本

大正九年十二月一日發行

東京市京橋區元スキヤ町三ノ一番地
編輯兼發行印刷人　尾崎士郎

東京市京橋區築地二丁目三十番地
印刷所　川崎活版所

東京市京橋區元スキヤ町三ノ一番地
發行所　批評社
振替東京四五三四六
電話銀座一三七四番

廣告

頁	料金
半頁	十圓
一頁	二十圓
二等一頁	三十圓
一等一頁	五十圓

大賣捌

▲神田　東京堂　上田屋……

▲京橋　東海堂　北隆館……

▲日本橋　至誠堂

▲本郷　盛春堂

堀江歸一博士曰く

『室伏氏は從來ギルド社會主義を最も深く又廣く研究された一人であつて氏の主幹する月刊雜誌「批評」には屢々氏の筆になる紹介的論文が載せられて居つた。本書は從來の斷片的紹介から綜合的紹介に進み、更に單純なる紹介に止まらず、批評に入らうとする目的を以て、著作されたやうに見受けられる。第一卷は簡單な序論の外に、ギルド社會主義の創生と同主義の建設に就ての二章から成り、創生編に於ては、オーウエン、モーリス等まで遡り、集産主義や、新社會主義とギルド社會主義との關係を説明し、建設編に於てはギルドが如何にして構成されるかギルド社會主義の實際運動は如何なる狀態に居るかと云ふ問題を説明して居る……………從來我國に飜譯紹介されたギルド社會主義の研究で、比較的纏まつて居るのは、コールの「産業に於ける自治」位のものであらう。其れでも如何して此新主義が起つたものであるか、他の社會主義と如何なる關係があるかと云ふやうな歷史的研究に缺けてゐる。さうすれば邦文で此新思想を徹底的に研究しやうとする人々に取つては、室伏氏の新著は缺く可からざるものと云はざるを得ない。行文は流石に專門家の手に成れることゝて、頗る流暢であつて些の澁滯を認めず、引證亦極めて博く、進んでギルド社會主義を研究しやうと志す人に大なる援助を與へる。室伏氏が新思想の紹介に努力せられる熱心は吾人の多とする所である。(三田學界雜誌九月號より)

大正八年三月廿八日第三種郵便物認可
大正九年十二月一日印刷納本發行
批評 十二月號 (定價卅錢)

編者

飯田　泰三（いいだ たいぞう）

1943年生れ。法政大学法学部教授。東京大学法学部卒、同大学大学院博士課程修了。

専攻　日本政治思想史。

主要著書・論文

「長谷川如是閑評論集」（岩波文庫・共編著）岩波書店1989年

「吉野作造――ナショナル・デモクラットと『社会の発見』」（小松茂夫・田中浩編『日本の国家思想(下)』青木書店1980年）

「明治末年の或る精神風景――『現代国家批判』以前の長谷川如是閑」（『みすず』1980年11～12月）

「批判の航跡――長谷川如是閑」（日本政治学会年報1982年『近代日本の国家像』岩波書店1983年）

「アイロニーの銃眼――如是閑のラディカリズム」（『長谷川如是閑集 第2巻』岩波書店1989年）

「如是閑における小説の成立――異化と喪失の経験からの」（『如是閑文芸選集 第1巻』解説 岩波書店1990年）

編集協力者

山領　健二（やまりょう けんじ）

1933年生れ。神田外語大学教授。東京大学文学部卒。

専攻　日本近代思想史。

主要著書・論文

思想の科学研究会編『共同研究 転向(上)』（共著）平凡社1959年

『転向の時代と知識人』三一書房 1978年

『人物書誌大系 6 長谷川如是閑』日外アソシエーツ 1984年

『長谷川如是閑評論集』（岩波文庫・共編著）岩波書店 1989年

「『改造社文学月報』とその読者」（『ブックエンド通信』1979年12月）

「黎明会」（『思想の科学』1980年5月）

「日本のプラグマティズム」（鈴木正・古田光編『近代日本の哲学』北樹出版 1983年）

「長谷川如是閑」（三谷太一郎編『言論は日本を動かす 第1巻 近代を考える』講談社 1986年）

「『我等』の時代」『長谷川如是閑集 第8巻』岩波書店 1990年

復刻版 批　評　第2巻

1992年4月復刻版第1刷　発行

揃定価 60,000円
本体価格

編　　者　飯田泰三
発行者　北村正光
発行所　㍿龍溪書舎

〒173 東京都板橋区南町43－4－103
電話03(3554)8045・振替 東京3－76123
FAX03(3554)8444

落丁、乱丁本はおとりかえします。
ISBN4-8447-3347-8

印刷：武内印刷
製本：岸田製本紙工